

FUJITSU Software

Systemwalker Centric Manager/ Systemwalker Event Agent

トラブルシューティングガイド 監視編

UNIX/Windows(R)共通

J2X1-2061-15Z0(00)
2019年12月

まえがき

本書の目的

本書は、以下のバージョンで監視機能使用時に発生したトラブルの対処方法について説明しています。

- SystemWalker/CentricMGR 5.0以降のSystemwalker Centric Manager
- Systemwalker Event Agent 10.1以降

なお、本文中は、すべてSystemwalker Centric Managerで表記しています。旧名称(Systemwalker CentricMGR、またはSystemWalker/CentricMGR)の製品を使用している場合は、それぞれ読み替えてください。

同様に、すべてSystemwalker Operation Managerで表記しています。旧名称(Systemwalker OperationMGR、またはSystemWalker/OperationMGR)の製品を使用している場合は、それぞれ読み替えてください。

本書の読者

本書は、Systemwalker Centric Managerの基本的な操作、機能を理解し、Systemwalker Centric Managerを使用して、システムを運用管理する方を対象にしています。

注意事項

エディションについて

Systemwalker Centric Manager V11.0L10/11.0以降では、Systemwalker Centric Managerのエディションの、Standard Editionを“SE”、Enterprise Editionを“EE”、およびGlobal Enterprise Editionを“GEE”と省略していますので、各エディションで読み替えてください。

スタートメニューについて

Systemwalker Centric Manager V11.0L10/11.0以降では、Systemwalker Centric Managerのスタートメニュー [Systemwalker_CentricMGR]を、[Systemwalker Centric Manager]と読み替えてください。

メッセージについて

本文中のエラーメッセージは、最新版を記載しています。

また、説明上特に必要がない場合、イベントログの“AP:”、シスログの“UX:”の文字列は省略しています。

本書の表記について

固有記事の表記、使用している記号、および略称表記については、“[E.1 本書の表記について](#)”を参照してください。

登録商標について

登録商標については、“[E.2 登録商標について](#)”を参照してください。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

改版履歷

2001年 6月 4.0版
2005年 3月 5.0版
2005年 12月 6.0版
2006年 8月 7.0版
2007年 3月 8.0版
2008年 3月 9.0版
2009年 3月 10.0版
2009年 7月 10.1版
2013年 10月 11.0版
2014年 1月 12.0版
2014年 4月 13.0版
2014年 10月 14.0版
2014年 12月 15.0版
2015年 5月 16.0版
2015年 10月 17.0版
2017年 2月 18.0版
2017年 2月 18.1版
2017年 12月 18.2版
2018年 6月 18.3版
2019年 4月 18.4版
2019年 12月 19.0版

Copyright 1995-2019 FUJITSU LIMITED

Copyright PFU Limited 1995-2019

目次

第1章 トラブル対処の流れ.....	1
第2章 Systemwalker Centric Managerのインストールに関するトラブルシューティング.....	2
2.1 Systemwalker Centric Managerのインストールができない.....	2
2.2 NetLogonサービス、ComputerBrowserサービスを停止した状態で、Systemwalker Centric Managerをインストールすると、メッセージが出力され、インストールできない.....	5
2.3 Systemwalker Centric Managerのインストールで、運用管理クライアントが選択できない.....	5
2.4 Systemwalker Centric Managerのアンインストールで、共通パッケージがアンインストールされない.....	6
2.5 Systemwalker Centric Managerの再インストールができない.....	7
2.6 Systemwalker Centric Managerの再インストール、またはアンインストールができない.....	8
2.7 Systemwalker Centric Manager のアンインストール後にディレクトリやファイルが残る.....	9
2.8 運用管理サーバのアップグレードインストールが失敗します.....	9
2.9 「アンインストールに失敗しました」と出力される.....	11
2.10 システムのコード系を正しく認識できない.....	11
2.11 上書きインストール、バージョンアップ、再インストールで「ファイルの展開処理に失敗しました」または「ファイル展開操作に失敗しました」と出力される.....	13
2.12 インストールの起動時に「InstallShieldエンジン(iKernel.exe)を起動できませんでした。アクセスが拒否されました。」と出力され、インストールが異常終了する.....	14
2.13 Active DirectoryのBackup Domain Controllerとして構成している環境にインストールすると、スタートアップアカウントの認証処理に失敗する.....	15
2.14 インストール中に「インストールサポートファイルが削除できませんでした。」と出力される.....	16
2.15 Systemwalker Event Agentのインストール中にキャンセルボタンを押した場合、再度インストールしようとするインストールできない.....	17
2.16 インストール中に「セットアップ初期化エラー」と出力される.....	17
2.17 インストールの実施時において、スタートアップアカウント名に空白文字を入力した場合、99%進んだところで「00872: インストール処理が失敗しました。」のエラーが発生する.....	18
2.18 インストール中に、「この種別ではWeb連携機能がインストールされますが、IISがインストールされていないため設定処理は行ないません」の警告メッセージが表示された.....	18
2.19 システムのコード系が日本語にも関わらず、英語(ASCII)でインストールされる.....	19
2.20 ドメインコントローラ上へインストール中に、「10215:初期データの作成に失敗しました。」のエラーが表示され、インストールに失敗する.....	20
2.21 運用管理サーバのインストール中に「Symfowareのインストールスクリプトが異常終了しました」のエラーが発生しインストールに失敗する.....	21
2.22 アンインストール時に、「5323:コンポーネントアンインストーラの起動に失敗しました」のエラーが表示され、アンインストールに失敗する.....	22
2.23 運用管理クライアントのインストール中に、「定義ファイル(mpatmdef.dat)の設定でエラーが発生しました。」と出力されて、インストールが失敗する.....	25
2.24 Systemwalker Centric Managerのアンインストール後に再インストールが失敗する.....	25
2.25 Windows 8/Windows Server 2012にインストールができない.....	25
2.26 Solaris環境において、インストールがハングしたように見える.....	26
2.27 Windows Server 2016以降にインストール直後、スタートメニューに登録されたSystemwalker Centric Managerフォルダをクリックしてもショートカットメニューが表示されない.....	27
第3章 Systemwalkerの起動停止・OSの起動停止 関連.....	28
3.1 起動に関するトラブルシューティング.....	28
3.1.1 システムの起動でエラーメッセージが出力される.....	28
3.1.2 Systemwalker Centric Managerの起動で、エラーメッセージが出力される.....	29
3.1.3 運用管理サーバでSystemwalker Centric Managerの起動が失敗する.....	30
3.1.4 運用管理サーバでサービス起動コマンド(scentricmgr)を使用したSystemwalker Centric Manager の起動が失敗する.....	33
3.1.5 サービス起動停止コマンド(scentricmgr/pcentricmgr)を実行すると、一つのサービスを起動/停止するのに3分以上がかかる.....	34
3.1.6 運用管理サーバでのリストア後にSystemwalker Centric Managerの起動が失敗する.....	35
3.1.7 Systemwalker Centric Manager の起動で、nwnmp-trapdの起動に失敗する.....	36
3.1.8 システムの起動で、Systemwalker Centric Managerの一部のサービス(デーモン)起動に失敗する.....	36
3.1.9 Systemwalker Centric Manager のサービスが起動できない.....	39
3.1.10 Systemwalker Centric Managerの起動で「ホスト名の取得に失敗した」と出力される.....	40
3.1.11 Systemwalker Centric Manager の起動時に、MpFwbsサービスの起動が失敗する.....	41

3.1.12 IPC資源を使用する製品をインストールしている環境で、Systemwalker Centric Managerの起動に失敗する	47
3.1.13 Volume Manager、SafeDISK、PRIMECLUSTER GDSなどのディスク管理製品を使用している環境で、Systemwalker Centric Managerの起動に失敗する	49
3.1.14 DBスペースの一部がアクセス禁止状態もしくは初期化が完了していない状態になり、Systemwalker Centric Managerの起動に失敗する	52
3.1.15 Systemwalker Centric Managerの起動で「通信部との接続処理でエラーが発生した」とsyslogに出力され、アプリケーション管理が起動できない	54
3.1.16 「MPHD0105: ヘルプデスクのサーバ設定に従い、ヘルプデスク機能は使用できません」と出力される	55
3.1.17 「MPHD0105(またはMPHD0106): ヘルプデスクのオプション設定に従い、担当者通知機能/エスカレーション機能は使用できません。」と出力される	56
3.1.18 KERNEL32.DLLの初期化エラーが発生し、SystemWalker/CentricMGRのプロセスが起動できない	56
3.1.19 運用管理サーバでSystemwalker Centric Manager起動時にCPU使用率が高くなっている	58
3.1.20 Windowsのシャットダウン後の次回起動時にフレームワークの起動が失敗する	60
3.1.21 Windows版運用管理サーバで運用環境が構築済みのまま追加インストールを実施すると、MpFwbsサービスが起動できなくなる	62
3.1.22 fllevsvc.exeのアプリケーションエラーが発生し、Mppcguiサービスが起動できない	63
3.1.23 共通振り分けサーバの起動に失敗する	64
3.1.24 システムの起動またはsyslog連携の起動で「opagtd: 警告: 8405:」のメッセージが出力される	65
3.1.25 システム起動時にネットワーク管理のサービスが使用するプロセスが起動しない	66
3.1.26 性能監視拡張エージェント(MpTrfExAgt)の起動に失敗する	66
3.1.27 システムの起動で、「MpTrfExA:エラー:302:WaitForFinish(No.1)の終了に失敗しました。原因コード=0」と出力される	69
3.1.28 F3CVSERVサービスが手動起動になっていて起動されない	69
3.1.29 Systemwalker Centric Manager起動時に通信基盤(OD_Start)またはフレームワーク(MpFwbs)のサービス起動が失敗する	69
3.1.30 Systemwalker Centric Managerの起動に失敗する	70
3.1.31 「od16216」が出力される	72
3.1.32 Systemwalker Centric Managerの起動時に「Failed to start Network Trap Converter.」と出力される	72
3.1.33 システムの起動で、「qdg03405u:ダウンリカバリが不可能なため データベースをアクセス禁止状態にしました」と出力される	73
3.1.34 クラスタ環境のSystemwalker Centric Manager の起動時に、クラスタソフトのTimeoutのメッセージが出力される	74
3.1.35 クラスタ環境で、エラーが発生してネットワーク管理のサービスが起動しません	74
3.1.36 「MpNmsv: ERROR: The system error occurred. (Policy: CMpNMPOManager,X,YY,ZZZ)」と出力され、ネットワーク管理が起動しない	76
3.1.37 ファイル転送基盤のサービスが起動しない	77
3.1.38 ファイル転送基盤のサービス起動に失敗する	77
3.1.39 ファイル転送基盤のサービスが停止する	78
3.1.40 mpsetsrv(サービスのスタートアップ反映コマンド)で、運用管理クライアント/クライアントのサービスの起動・停止を制御できない	79
3.1.41 cron で起動コマンドを実行すると以降の起動コマンドの実行が失敗する	79
3.1.42 インベントリ管理エージェント(MpDTPAgent/cmagdmm)のサービスが起動しない	80
3.2 停止に関するトラブルシューティング	81
3.2.1 運用管理サーバで、Systemwalker Centric Managerを停止したときにエラーメッセージが出力される	81
3.2.2 シャットダウン時にアプリケーションエラーが発生する	82
3.2.3 シャットダウン時にエラーメッセージが表示される	83
3.2.4 シャットダウン時に、mpgetprc.exeがアプリケーションエラーとなる	83
3.2.5 Systemwalker Centric Managerの停止時やOSのシャットダウン時に、「MpBcmmt: エラー: 2301」と出力される	84
3.2.6 Systemwalker Centric Managerがインストールされたコンピュータをシャットダウンするときに、APA_RE.EXEがアプリケーションエラーとなる	84
3.2.7 シャットダウン時、または、Systemwalker Centric Manager停止時にシグナルを受信したエラーメッセージがsyslogに出力される	85
3.2.8 シャットダウン時、または、Systemwalker Centric Manager停止時に、「Mp_SysAutoTOAol_sendでエラーが発生しました」と出力される	86
3.2.9 Systemwalker Centric Manager停止コマンド(pcentricmgr)を実行すると、数分後にプロセスの異常が表示された	87
3.2.10 「od11102」という情報メッセージが出力される	87
3.2.11 クラスタ環境のSystemwalker Centric Manager の停止時に、クラスタソフトのTimeoutのメッセージが出力される	88
3.2.12 Systemwalker Centric Manager の停止に失敗する(Systemwalker Service Quality Coordinator導入環境)	89
3.2.13 シャットダウン時にmpscdsがcoreファイルを出力する	89
3.2.14 フェールオーバー クラスタをシャットダウンすると、クォーラムを失ってサービスが停止することがある	90

第4章 環境構築に関するトラブルシューティング	92
4.1 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「MpFwSetup:マウントポイントの作成およびマウントに失敗しました。」を出力して失敗する.....	92
4.2 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「MpFwSetup:処理が失敗しました」を出力して失敗する.....	93
4.3 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「データベース共用部の構築に失敗しました」を出力して失敗する.....	93
4.4 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「MpFwSetup:ファイルシステムの作成に失敗しました。」を出力して失敗する.....	96
4.5 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「RDBテンポラリログファイルの生成に失敗しました。」を出力して失敗する.....	98
4.6 Microsoft Cluster Server上でクラスタ(アン)セットアップ時に、「リソースのプロパティを読み取ろうとしたときにエラーが発生しました」と表示される.....	99
4.7 CentricMGR RDA サービスが停止状態である(クラスタ環境でCentricMGR RDA サービスがオフラインのままになっている).....	100
4.8 フレームワークデータベース作成のセットアップメニューで表示する文字列で文字化けが発生する.....	100
4.9 フレームワークのデータベース環境を削除してしまい、ヘルプデスクのデータベース環境を削除できない.....	101
4.10 運用管理サーバ二重化環境の従系サーバ構築に失敗する.....	102
4.11 運用管理サーバ二重化環境のポリシーの同期に失敗する.....	103
4.12 Windowsのターミナルサービス経由のリモート操作からのSystemWalker/CentricMGRの環境作成(運用環境の構築)が失敗する.....	104
4.13 クラスタのセットアップでSystemwalker Centric Manager環境作成が失敗する.....	105
4.14 RAIDボリューム上でのフレームワークデータベースの作成処理が失敗する.....	105
4.15 フレームワークのデータベース領域の作成がObjectDirector環境の構築で失敗し、「od10937」というメッセージが出力される.....	106
4.16 フレームワークのデータベース領域の作成がObjectDirector環境の構築で失敗し、「od10725」というメッセージが出力される.....	107
4.17 運用管理サーバ二重化環境の主系サーバの構築に失敗する.....	108
4.18 運用環境の構築がエラーメッセージ「サービスの起動に失敗しました。サービス名=MpCNappl,エラーコード=1」を出力して失敗する.....	109
4.19 運用環境の構築がエラーメッセージ「サービスの起動に失敗しました。サービス名=MpFwbs,エラーコード=1」を出力して失敗する.....	109
4.20 運用管理サーバで二重化環境のポリシーの同期を実行するとメッセージが出力される.....	110
4.21 Windows Server 2012において運用環境保守ウィザードが起動に失敗する.....	111
第5章 バックアップ/リストア/移行に関するトラブルシューティング	112
5.1 「qdg02273u:データベース'HD_DATABASE'は存在しません」または「qdg02267u:指定したデータベース'HD_DATABASE'は存在しません」と出力される.....	112
5.2 運用管理サーバで、運用環境の復元がフレームワーク基盤で失敗する.....	113
5.3 運用環境の復元に失敗する.....	114
5.4 Systemwalker Centric Manager の移行作業(バージョンアップ)時に、基本フレームワークの退避に失敗する.....	115
5.5 Systemwalker Centric Managerの移行作業(バージョンアップ)時に、性能監視の資源の退避に失敗する.....	118
5.6 Systemwalker Centric Manager の移入(バージョンアップ)、またはリストア時に「premprs command is not excuted yet.」と出力され異常終了する.....	119
5.7 ヘルプデスクの運用環境の復元に失敗する.....	120
5.8 イベント監視の定義がリストアされない.....	121
5.9 移行時のバックアップする前にノード構成情報のポリシーがバックアップされない.....	123
5.10 Windowsのターミナルサービス経由のリモート操作からのバックアップ(運用環境の退避)が失敗する.....	124
5.11 Windowsのターミナルサービス経由のリモート操作からの運用環境保守ウィザードの起動が失敗する.....	124
5.12 バックアップソフト等を使用して環境バックアップを行う場合、運用環境のバックアップ中にネーミングサービス機能のエラーが発生する.....	125
5.13 バージョンアップ後の移入時に「指定されたデータは、バージョン/レベルが異なるためリストアできません。」と出力され、失敗する.....	126
5.14 運用環境保守ウィザードからの運用環境の復元に失敗する.....	126
5.15 バックアップリストア系コマンドをシェルスクリプトで実行すると正常に動作しない.....	127
5.16 バックアップリストアコマンドで警告メッセージが出力される.....	127
5.17 サイレントモードのバックアップに失敗する.....	128
5.18 Systemwalker Centric Manager の移入(バージョンアップ)、またはリストア時に、警告メッセージが出力される.....	129
5.19 Systemwalker Centric Manager のリストア時に、「InstallType is different from backup data」と出力され異常終了する.....	129
5.20 poout コマンドでイベント監視の条件定義のポリシーの移入ができない.....	130
5.21 「MpAosfB: エラー: 1030: イベント監視の条件定義の設定に誤りがあります。」と出力される.....	131
5.22 バックアップ時に「MPOPAGTのバックアップ中にエラーが発生しました。」と出力される.....	132

5.23 運用管理サーバのバージョンアップ後にポリシー配付が失敗する.....	133
5.24 Systemwalker Centric Manager のクラスタ環境で移行作業(バージョンアップ)時に共有ディスクがアンマウントされる.....	133
5.25 Systemwalker Centric Managerの移行作業(バージョンアップ)後にデーモンが停止している.....	133
5.26 Systemwalker Centric Manager の移行作業(バージョンアップ)時に、基本フレームワークの退避に失敗する.....	134
5.27 MSCS環境において、バックアップ実行中に、フェールオーバーが発生する.....	134
5.28 稼働状態の監視やMIB監視のメッセージが出力される.....	135
第6章 Systemwalkerコンソールに関するトラブルシューティング.....	136
6.1 運用管理クライアントで、Systemwalkerコンソールを停止したときにエラーメッセージが出力される.....	136
6.2 Windows 98/Windows MeでSystemwalkerコンソールが起動できない.....	136
6.3 イベント一覧の文字色/背景色が、設定した色で表示されない.....	137
6.4 pcAnywhereが動作している環境で[Systemwalkerコンソール システム監視]が起動できない.....	137
6.5 ドメインの取得、または運用管理サーバとの通信に失敗してSystemwalkerコンソールが起動できない.....	138
6.6 「[Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)が動作中」と表示されて、Systemwalkerコンソールが表示されない.....	140
6.7 Systemwalkerコンソールが無応答状態になる.....	141
6.8 Systemwalkerコンソールが最大接続数に達して起動できない.....	142
6.9 Systemwalkerコンソールの[編集]機能が使用できない.....	143
6.10 運用中に通信エラーが発生しSystemwalkerコンソールが終了した.....	143
6.11 Systemwalkerコンソールの起動で、「Connection failed or server process is down.」と出力される.....	151
6.12 Systemwalkerコンソールの操作中に、「MpBcmmn: ERROR: 2008: サーバ側で異常が発生しました。(詳細情報:このオペレーション(%1)はサポートしていません。)」と運用管理サーバに出力される.....	152
6.13 Systemwalkerコンソールで、[イベント]、[イベント監視の動作環境]の[ノード]がグレイアウトされている.....	152
6.14 Systemwalkerコンソールで、[ノードプロパティ]のインストール情報が有効にならない.....	154
6.15 システム監視(ActiveX版)が起動できない.....	157
6.16 non-global zoneに導入した業務サーバのノードプロパティのCPU数が異常な値となる.....	158
6.17 SystemwalkerコンソールとSystemwalker Webコンソールの画面でノードラベル表示に違いがある.....	158
6.18 SystemwalkerコンソールでSVPMの稼働状態が表示されない.....	159
6.19 ノード(オブジェクト)アイコンに表示される異常を示すアイコン(初期値は「×」アイコン)がすべての端末で同じように表示されない.....	159
6.20 Systemwalkerコンソールでノード検出で更新する[ノードプロパティ]の情報が正しく表示されない.....	159
6.21 Windows2000以降でSystemwalkerコンソールが最大接続数に達して起動できない.....	160
6.22 ドメインユーザの場合Systemwalkerコンソールが起動できない.....	161
6.23 クラスタ環境で[Systemwalkerコンソール 業務監視]、[Systemwalkerコンソール システム監視]が起動できない.....	162
6.24 Systemwalkerコンソール(システム監視画面)で「サーバとの通信が切断されました。再起動してください」のエラーが発生する.....	162
6.25 フォルダを選択しても削除ボタンが表示されない.....	163
6.26 [利用者のアクセス権設定]で、ユーザをロールに登録できない.....	163
6.27 Systemwalkerコンソール起動時に「監視機能の開始に失敗しました」と出力される.....	164
6.28 Systemwalkerコンソールの起動で、「MpFWQS 1025 システムエラーが発生しました。EXCEPTION : ORG.OMG.CORBA.DATA_CONBERSION」と出力される.....	165
6.29 ヘルプが表示されない.....	170
6.30 Systemwalker Web コンソールの操作中に、画面更新中の状態から復帰しない.....	171
6.31 監視イベントの一括対処に時間がかかる.....	171
6.32 Systemwalker Web コンソールの[ポータル]画面に[資産管理]および[資産状況]のリンクが表示されない.....	172
6.33 リモートコマンド検索]画面で検索が完了しない.....	173
第7章 アプリケーション管理に関するトラブルシューティング.....	174
7.1 アプリケーション管理が起動しない.....	174
7.2 「アプリケーション管理通信制御がソケットの初期化に失敗した」と出力され、アプリケーション管理が起動できない.....	175
7.3 アプリケーション管理起動時に通信部との接続処理でエラーが発生する.....	176
7.4 アプリケーション管理で、「アプリケーション管理メインがソケットの接続に失敗した」と出力される.....	178
7.5 アプリケーション管理画面の配付先にノードが表示されない.....	179
7.6 シェルスクリプト、バッチファイルのアプリケーション監視ができない.....	181
7.7 [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)でアプリケーションが稼働中にならない.....	181
7.8 IISを稼働監視してもプロセスダウンが表示されない.....	185
7.9 Inerstageワークユニットの稼働監視を行っていないのに、MpBcmIsEv.sh (Windowsの場合はMpBcmIsEv.exe)プロセスが多数起動している.....	185

7.10 アプリケーションの稼働状態は正しく表示されるが、稼働違反イベントがイベント一覧に表示されない	186
7.11 ノードがダウンした場合にアプリケーションの稼働違反イベントが出力されない、または、アプリケーション、ワークユニットの稼働状態が変更されない	189
7.12 アプリケーション管理ポリシー配付時にエラーダイアログボックスが出力される	189
7.13 「編集結果の反映処理に失敗しました」のポップアップメッセージが出力されアプリケーション管理のポリシーが配付できない	190
7.14 Windowsでアプリケーション管理の内部エラーが発生する	192
7.15 監視しているアプリケーションが起動しているのに稼働ポリシー違反イベントが出力される	193
7.16 アプリケーション管理のイベントが、メッセージ送信先システムの先頭に定義してあるサーバのイベントしか通知されない	194
7.17 アプリケーション管理機能が使用できない	194
7.18 「アプリケーションの取得に失敗した」と出力される	195
7.19 「アプリケーションは検出されませんでした」と出力される	197
7.20 Webコンソールに、「アプリケーション性能の取得に失敗した」と出力される	199
7.21 ワークユニットの稼働状況を正しく監視できない	200
7.22 アプリケーション検出、アプリケーション操作ができるまでに時間がかかる	202
7.23 クラスタリソースの稼働状態が正しく表示されない	203
7.24 クラスタ環境の運用管理サーバ上で動作するアプリケーションが監視できない	203
7.25 「依頼先ノードのアプリケーション管理機能と接続されていない」と出力され、アプリケーション管理の操作ができない	204
7.26 「通信で内部エラーを検出した」と定期的にsyslogへ出力され、アプリケーション管理機能が使用できない	206
7.27 「コマンドを実行できませんでした」とsyslogに出力される	207
7.28 「アプリケーション管理共通関数でエラーを検出しました」と出力される	207
7.29 「アプリケーション管理通信制御がデータ送信に失敗した」と出力される	208
7.30 アプリケーション管理の内部エラーが発生する	209
7.31 アプリケーション管理資源採取でメモリ情報、CPU情報が採取できないというエラーが発生する	210
7.32 アプリケーション管理資源採取の実行エラーが発生する	211
7.33 文字化けしたアプリケーションがアプリケーション一覧に存在する	212
7.34 イベント出力変更コマンド(apl_event_change)がエラーメッセージを出力し終了する	214
7.35 CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)がエラーメッセージを出力し終了する	214
7.36 アプリケーションの稼働状態が「非監視状態」(白色)である	217
7.37 稼働ポリシー違反イベントが自動対処されない	219
7.38 「コード変換ライブラリのローディングができないため、コード変換はできません」と出力される	220
7.39 アプリケーション監視の設定を行うと「指定したノードにはアプリケーション管理サーバのインストールが確認できませんでした」と表示される	220
7.40 稼働ポリシー監視間隔ごとに違反メッセージが通知される	221
7.41 APA_process_list(プロセス一覧確認コマンド)の結果に出力されないアプリケーションがある	222
第8章 自動アクション関連	223
8.1 「アクションが実行されない」に関するトラブルシューティング	223
8.1.1 アクションが実行されない	223
8.1.2 アクションが実行されない(ポケットベル、メール、ポップアップメッセージ、音声通知)	227
8.1.3 アクションが実行されない(アプリケーション起動)	229
8.1.4 アクションが実行されない(アプリケーション起動)(Windows)	231
8.1.5 アクションが実行されない(リモートコマンド)	232
8.1.6 アクションが実行されない(ポケットベル)	235
8.1.7 アクションが実行されない(ポップアップメッセージ)	236
8.1.8 アクションが実行されない(メール)	238
8.1.9 アクションが実行されない(音声通知)	243
8.1.10 アクションが実行されない(メッセージ監視)	245
8.1.11 アクションが実行されない(SNMPトラップ)	247
8.1.12 監視対象のアプリケーションログファイルのメッセージに対するアクションが実行されない	248
8.2 その他の自動アクションに関するトラブルシューティング	249
8.2.1 意図しないアクションが実行される	249
8.2.2 アクションが大量に実行される	251
8.2.3 音声通知のアクションが止まらない	252
8.2.4 ポップアップメッセージが遅延する	253
8.2.5 アクション環境設定、監視ログファイル設定、メール連携環境設定が意図しないうちに更新される、または、初期状態にもどる	254
8.2.6 大量に溜まっているアクションを一括削除したい	255
8.2.7 メール送信時に半角カナ文字および記号が全角文字に変換される	256

8.2.8 イベントが発生してからアクションの実行までに時間がかかる.....	256
8.2.9 アクション管理画面が起動できない.....	257
8.2.10 アクション管理画面から、実行中のメールアクションが削除できない.....	258
8.2.11 %HOSTなどの置き換え文字が置換されない.....	258
8.2.12 メール送信者欄の日本語が文字化けする.....	259
8.2.13 メール送信時、メールの表題(件名)に空白が入ってしまう.....	259
第9章 イベント監視関連.....	261
9.1 [システム監視設定]画面に関するトラブルシューティング.....	261
9.1.1 [システム監視設定]画面で、運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバへの接続に失敗する.....	261
9.1.2 [システム監視設定]画面でのボタン押下時に、「接続先の定義サーバが終了した可能性があります」と表示される.....	263
9.1.3 [システム監視設定]画面でのボタン押下時に、「ソケット接続に失敗しました。詳細コード:10104」とポップアップメッセージが表示される.....	264
9.1.4 [システム監視設定]画面でのボタン押下時に、「XXXXXは二重起動できません。他クライアントからの起動を確認してください。」とポップアップメッセージが表示される.....	266
9.1.5 [システム監視設定]画面でのボタン押下時に、「XXXXX画面はクライアント(YYYYY)により使用中のため、起動できません。」とポップアップメッセージが表示される.....	269
9.2 「イベントが表示されない」に関するトラブルシューティング.....	270
9.2.1 監視イベントが表示されない(設定を確認する).....	270
9.2.2 監視イベントが表示されない(イベントトレース機能を使用した対処方法).....	278
9.2.3 ネットワーク関連のイベントが表示されない.....	285
9.2.4 ノード状態の監視、稼働状態の監視イベントが表示されない.....	286
9.2.5 ネットワーク性能のしきい値超えイベントが表示されない.....	288
9.2.6 監視イベント一覧画面に特定ホストのメッセージが表示されない.....	290
9.2.7 監視イベント一覧画面にメッセージが表示されたり、表示されなかったりする.....	300
9.2.8 監視イベント一覧画面に特定のメッセージが表示されない.....	302
9.2.9 syslogに出力するメッセージが表示されない(または遅れて表示される).....	309
9.2.10 クラスタシステムのメッセージが監視できない(メッセージ発生元がSafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合).....	317
9.2.11 クラスタシステムのメッセージが監視できない(メッセージ発生元がOracle Solaris Clusterの場合).....	322
9.2.12 メール連携により通知したメッセージが運用管理サーバのSystemwalkerコンソールに表示されない.....	324
9.2.13 opfmtコマンドのメッセージが監視できない(その1).....	326
9.2.14 opfmtコマンドのメッセージが監視できない(その2).....	326
9.2.15 主系サーバのメッセージが従系サーバに通知されない.....	327
9.2.16 正規表現を使用してイベント監視の条件定義を設定したが、想定した動作をしない.....	328
9.2.17 正規表現を使用してイベント監視の条件定義を設定したが、想定した動作をしない("¥"を付加した場合).....	328
9.2.18 Windowsのイベントログ(セキュリティ)に出力されたメッセージが表示されない.....	329
9.3 「イベント監視の条件定義」に関するトラブルシューティング.....	329
9.3.1 イベント監視の条件定義の内容が意図するものではない.....	329
9.3.2 イベント監視の条件定義画面が起動できない.....	331
9.3.3 イベント監視の条件定義画面の起動時にエラーが発生する.....	336
9.3.4 イベント監視のテスト支援ログが出力されない.....	338
9.3.5 イベント監視条件のCSVファイルを読み込むことができない.....	338
9.4 リモートコマンドに関するトラブルシューティング.....	339
9.4.1 リモートコマンドのコマンド応答がエラーとなる、またはリモートコマンドウィンドウが表示できない.....	339
9.4.2 リモートコマンドが投入できない.....	345
9.4.3 大規模同報リモートコマンドが実行できない.....	346
9.4.4 リモートコマンドのコマンド応答が意図しない結果になる.....	347
9.4.5 クライアントや運用管理クライアントに対してリモートコマンドを発行できない.....	348
9.5 イベント対処に関するトラブルシューティング.....	349
9.5.1 イベントの自動対処が正しく行えない.....	349
9.5.2 サーバ間連携でイベントが対処されない.....	350
9.5.3 「MPHD0002:JYP7210 データベース"HD_DATABASE"が存在しません」と出力される.....	353
9.5.4 [監視イベント対処]画面のメッセージ説明に「メッセージ説明は定義されていません」、または「検索条件に一致する帳票は見つかりませんでした」と出力される.....	354
9.5.5 「未送信データの個数が指定した数を超えた為、データ(監視イベント番号=%1)は破棄されました(%2)」と出力される.....	355
9.6 イベントに関するトラブルシューティング.....	357
9.6.1 イベントの状態が調査中のままになっている.....	357

9.6.2 イベントログの読み込み情報のバックアップファイル作成処理が失敗した	358
9.6.3 出力されたメッセージと、監視イベント一覧に表示されるメッセージが違う	359
9.6.4 発生していないメッセージが通知された	364
9.6.5 1つのメッセージ発生で2つのメッセージが表示される	365
9.6.6 過去に発生したイベントが再度表示された	366
9.6.7 Systemwalkerコンソールでの表示、操作に時間がかかる(遅延している)、各サーバでCPU使用率が高くなっている	368
9.6.8 監視対象のログファイルが意図したとおりに監視できない	373
9.6.9 情報レベルのメッセージが監視イベント一覧に表示される	380
9.6.10 正規表現の使用方法がわからない	381
9.6.11 同じメッセージが大量に表示される	381
9.6.12 上位ノードへのメッセージが破棄される	382
9.6.13 監視対象のメッセージが破棄される	384
9.6.14 監視イベント一覧に文字化けしたメッセージが表示される	385
9.6.15 同一メッセージ抑止時間内に発生した同一メッセージが抑止されない	386
9.6.16 監視したメッセージが時間順にならない	387
9.6.17 関数の実行に失敗したことを示すメッセージが出力される	387
9.6.18 opamsgrep(メッセージ検索コマンド)にて、コマンド結果が正しく表示されない	394
9.6.19 Systemwalkerコンソールからイベントを対処したときに、監視イベント対処の開始に失敗する	395
9.6.20 監視イベント一覧のメッセージの一部が“_”で表示される	396
9.6.21 メール連携により監視しているメッセージの通知が遅延する	397
9.6.22 クラスタ待機系監視で、運用系ノードと通信不可状態のときに待機系ノードで発生したメッセージが100件しか通知されない	398
9.6.23 監視イベント履歴CSV出力コマンド opmtrcsv が「ERROR: 00014: It failed to get domain name from registry.」で失敗する	399
9.6.24 監視イベントログDB情報表示コマンド opmtrinff、メッセージログ情報表示コマンド opaloginf、ログ強制切替えコマンド opalogchg が「エラー: 000x: データベースのオープンに失敗しました」で失敗する	399
9.6.25 アプリケーション管理の稼働ポリシー違反イベントが、自動アクションの実行抑止コマンド(mpaosment)で抑止されない	400
9.6.26 Systemwalkerコンソールに表示されたイベントに対するアクション定義ができない	401
9.6.27 syslogに出力されたメッセージが遅延して通知される	401
9.6.28 アプリケーションが監視ログファイル設定に登録されているログへの書き込みに失敗する	401
9.6.29 opfmtコマンドまたはopfmt()関数を使用するアプリケーションがコア・ダンプする	402
9.6.30 イベントに対して、表示する色の変更が有効にならない	405
9.6.31 Systemwalker Centric Managerのメッセージログに「system (XXX) connected [YYY]」または「system (XXX) changed to [YYY]」といったログが出力される	405
9.6.32 被監視サーバをネットワークに接続したときに、過去に発生した大量のメッセージが運用管理サーバに通知される	406
9.6.33 「監視イベントログをCSV形式で保存」機能が異常終了する	406
9.6.34 「メッセージログファイルを切り替えました。」というメッセージが短時間に連続して出力される	408
9.6.35 opaconstatコマンドを実行するとエラーメッセージが出力される	409
9.6.36 イベント監視のポリシー設定時に「配付先ノードにイベント監視機能サービスがインストールされていません」と表示される	409
第10章 監査ログ管理に関するトラブルシューティング	411
10.1 ログが収集できない	411
10.2 収集したログファイルがログ収集日の当日のみ作成される	413
10.3 ログ収集が失敗する	414
10.4 ログ収集をやり直したい	417
10.5 ログ収集が途中で終了する	417
10.6 Linuxの二重化環境においてログ収集が失敗する	418
10.7 ポリシーの登録に失敗する	419
10.8 ログ収集が完了しない	420
10.9 コマンドが実行できない	423
10.10 共有ディスク上のログを収集するための設定が複数設定できない	424
10.11 ログが重複収集される	425
第11章 監査ログ分析に関するトラブルシューティング	426
11.1 監査ログ正規化コマンド(mpatalogcnvt)に関するトラブルシューティング	426
11.1.1 監査ログの正規化に時間がかかる	426
11.1.2 監査ログ正規化コマンド(mpatalogcnvt)が失敗する	427
第12章 ネットワーク管理関連	429
12.1 ノード検出に関するトラブルシューティング	429

12.1.1	ノード検出で、ノードが検出されない	429
12.1.2	セグメントに対するノード検出でノードが検出されない(モード=高速、対象=運用管理サーバが属するセグメント)	433
12.1.3	セグメントに対するノード検出でノードが検出されない(モード=高速、対象=運用管理サーバが属さないセグメント)	433
12.1.4	セグメントに対するノード検出でノードが検出されない(モード=確実、対象=運用管理サーバが属するセグメント)	435
12.1.5	セグメントに対するノード検出でノードが検出されない(モード=確実、対象=運用管理サーバが属さないセグメント)	436
12.1.6	ネットワーク全体に対するノード検出で、運用管理サーバが属するネットワーク配下のノードしか検出されない	437
12.1.7	WANに対してノード検出したとき、対象ネットワーク側のルータのルーティング能力が低下する、または無応答状態になる	439
12.1.8	ノード検出時に、複数インタフェースを持つノードの代表インタフェースが変更される	439
12.1.9	クラスタノード検出時、系間アドレスが代表インタフェースとして検出される	440
12.1.10	ノード検出後、ネットワークタブのMIB2 SysDescの文字列が16進数表記となったり、一部文字化けする	440
12.1.11	MIB取得はできるが、ノード検出でインタフェース情報が採取されない	441
12.1.12	ノード検出を行うと、仮想メモリ不足が発生する	441
12.1.13	ノード検出実行時に自ネットワーク情報の取得に失敗した	443
12.1.14	負荷分散装置の先にあるサブネットのノード検出が、[検出モード]-[高速]では検出できない	443
12.1.15	ノード検出(AUTOMAP)で、Windows NT 3.51 Server、Windows NT 3.51 Workstationの判断ができない	444
12.1.16	ノード検出実行時に、「運用管理サーバにおいて完了待ち要求が存在します」とエラーダイアログが表示される	444
12.1.17	運用管理サーバのノードプロパティのホスト名がフルドメイン名(FQDN)からホスト名に変更される	444
12.1.18	ノード検出を行うと、Systemwalkerコンソールのノード一覧画面にセグメントフォルダが作成される	445
12.1.19	ノードの自動検出を設定していないにもかかわらず、ノードが自動検出される	446
12.1.20	ノード検出を行った後、Systemwalker Centric Managerがインストールされている同じシステムのノードのアイコンが複数に増える	447
12.1.21	ノード検出を行った後、ノード一覧上に新規に追加されたノードの表示名がホスト名ではなく、IPアドレスになる	448
12.1.22	ノード検出を行った後、ネットワークタブのホスト名が意図しないホスト名となる	448
12.1.23	Systemwalkerのインストールされているノードを検出したが、ノードのプロパティにSystemwalker Centric Managerや、Systemwalker Operation Managerのインストール状態が取得されない	449
12.1.24	ノード一覧上の新ノードフォルダにノードが追加される	449
12.1.25	ノード検出を行ったが、サブネットマスクが正しく検出されない	450
12.1.26	ノード検出時に、「ノードのインタフェースが複数存在する。」と出力される	450
12.1.27	ルータなどのネットワーク機器の検出時に、ホスト名が変更される	451
12.1.28	ノード検出で、非活性のインタフェースが代表インタフェースとして検出される	451
12.1.29	ノード検出を行うと、既存ノードの代表インタフェース以外の情報が消える	452
12.1.30	ポリシー定義によるノード検出を行った場合、既存ノードのホスト名が変更されない	452
12.1.31	クラスタシステムを監視した場合、両ノードに論理インタフェースが検出される	453
12.1.32	ノード検出時に運用管理サーバがクラスタとして認識されません	453
12.1.33	ホスト名がイベント発生時と、ノード検出時で異なる名前で表示される	453
12.1.34	ノード検出時に、代表インタフェース以外のインタフェースが検出されない	454
12.1.35	ノード検出を行うと複数のサブネットフォルダにノードが追加される	454
12.1.36	ノードが消える、または移動する	455
12.1.37	ノード検出を行うと、同一ノードが2つのアイコンに分かれて、コンソール上に登録される	455
12.1.38	「既存ノードの更新」でインタフェース情報が正しく更新されない	456
12.2	ノード状態の表示、稼働状態の監視に関するトラブルシューティング	456
12.2.1	SNMPエージェントが動作していないときの色(デフォルト:水色)でノードカラーが表示される	456
12.2.2	ノードカラーが青色(一部インタフェースが異常)になる	459
12.2.3	クラスタシステムを監視した場合、一部インタフェースダウンで表示される	459
12.2.4	部門管理サーバ配下のノードカラーが正しくない	460
12.2.5	ノード状態表示が行われない	461
12.2.6	バックアップ資源のリストア後にノード状態の表示、稼働状態の監視が動作しなくなる	462
12.2.7	部門管理サーバで実施しているノード状態の表示、稼働状態の監視の結果が正しくない	462
12.2.8	ノードカラーが変わらない	463
12.2.9	Systemwalker Webコンソールにおいて、ノードラベルにノード状態色が表示されない	465
12.2.10	運用管理サーバの環境移設を行うと、ノードとして2つ登録される場合がある	466
12.2.11	ノードカラーが意図したものにならない	467
12.2.12	無効のポリシーを配付後にノードのラベルカラーが変更されない	470
12.2.13	ノードプロパティの「稼働状態」の列が全て「-」のまま更新されない	470
12.2.14	ノード状態の表示において、ノードプロパティの「稼働状態」の列がすべて「-」のまま更新されない	471
12.2.15	稼働状態の監視で、メッセージ一覧に監視結果のメッセージが頻繁に出力される	471
12.3	ノード状態の監視、稼働状態の監視に関するトラブルシューティング	472

12.3.1	ノード状態の監視、稼働状態の監視で自動対処されない	472
12.3.2	ノード状態の監視、稼働状態の監視が行われない	473
12.3.3	部門管理サーバで実施しているノード状態の監視、稼働状態の監視の結果が通知されない	476
12.3.4	意図したノードのアドレスでメッセージが通知されない	476
12.3.5	SNMPマネージャで意図しないSNMPトラップを受信する	477
12.4	仮想ノードの監視に関するトラブルシューティング	477
12.4.1	仮想ノードの監視で、実ノードに対する「ノードとの通信が不可となりました」のイベントが二重に通知される	477
12.5	MIB拡張に関するトラブルシューティング	478
12.5.1	MIB拡張操作で障害が発生した場合に最初に確認する	478
12.5.2	MIB拡張操作を行うとコンパイルに失敗する	482
12.5.3	拡張したMIBが参照できない	492
12.5.4	MIB拡張登録に失敗するが、エラーコードが表示されない	492
12.5.5	エラーメッセージが表示されるがMIB拡張に成功する	493
12.6	環境に関するトラブルシューティング	493
12.6.1	Systemwalker Centric Managerが起動していないというポップアップメッセージが表示されて操作が行えない	493
12.6.2	セットアップが実行されていないか、または通信エラーが発生して操作できない	494
12.6.3	システムエラーのポップアップメッセージが出力される	494
12.6.4	システムエラーのエラーメッセージが出力される	495
12.6.5	SNMPコミュニティ名が自動的に変更されてしまう	496
12.6.6	指定したログファイルのヘッダが異常のため、ログファイルが初期化される	496
12.6.7	特定の機器、セグメントに対して定期的にSNMPパケットが送信される	497
12.6.8	特定の機器、セグメントに対して定期的にICMPパケットが送信される	498
12.6.9	エラーメッセージが出力され、ネットワーク管理の監視や、ノードの検出を行うことができない	499
12.6.10	意図した時間にネットワーク管理の監視を行うことができない	499
12.6.11	部門フォルダを新規に作成したが、部門管理サーバ配下のノードをSystemwalkerコンソールのノード一覧上に表示することができない	500
12.6.12	Systemwalker Centric ManagerとSOFTEK Storage Cruiserを共存させた場合、SOFTEK Storage CruiserのSNMPトラップデーモン(nwsnmp-trapd)が動作しない	500
12.6.13	ネットワーク管理の監視プロセスが起動せず、フェールオーバーしてしまう	501
12.6.14	携帯型の運用管理サーバ二重化環境にて、主系と従系でネットワーク管理の監視の結果が異なる	501
12.6.15	コミュニティ名や代表インタフェース、ホスト名を修正したのに、変更内容がネットワーク管理の監視機能で有効になりません	502
12.7	ポリシー設定に関するトラブルシューティング	502
12.7.1	ネットワーク管理に関する動作設定が行われていて、ポリシー設定画面が表示されない	502
12.7.2	続行不可能なエラーが発生してポリシー設定ができない	503
12.7.3	監視できるノードとできないノードが存在する	503
12.7.4	ネットワーク管理のポリシー設定を行っても、ポリシー配付状況画面にて、ネットワーク管理のポリシーが配付待ちの状態にならない	504
12.7.5	運用管理サーバが二重化(独立型)だが、特定のフォルダについて一方の運用管理サーバでしか監視をすることができない	505
12.7.6	指定した監視間隔より遅れて結果が表示される	505
12.7.7	バージョンアップした場合、ポリシー配付状況一覧画面において、稼働状態の監視ポリシーが未配付の状態に残る	506
12.7.8	Databaseを監視方法とした稼働状態の監視ができない	507
12.8	MIB情報に関するトラブルシューティング	507
12.8.1	タイムアウトが発生してMIB情報が取得できない	507
12.8.2	MIB取得/設定を行うとエラーダイアログボックスが表示される	509
12.8.3	MIB情報の取得を行うとエラーダイアログボックスが表示される	511
12.8.4	SNMPエージェントが動作している機器に対してMIB取得操作を行うと、「タイムアウト」のメッセージが出力され、MIB取得ができない	512
12.8.5	Linux版のSNMPエージェントに対し、MIB情報が正しく取得できない	513
12.8.6	Solaris 2.6のSNMPエージェントに対し、MIB情報が正しく取得できない	513
12.8.7	リレーモード運用時にMIB情報の取得に失敗する	514
12.9	MIBログ変換に関するトラブルシューティング	514
12.9.1	MIBログのCSV出力ができない	514
12.9.2	MIBログファイルの表示ができない	515
12.10	調査資料の採取方法	515
12.10.1	ネットワーク管理のトラブルが解決しない場合の調査資料の採取方法	515
12.11	MIB監視に関するトラブルシューティング	517

12.11.1 MIB監視のしきい値超えのイベントが通知されない	517
12.11.2 MIB監視が行われない	518
12.11.3 MIB監視ログファイルの表示を行うと「表示可能なデータが存在しません」と表示され、参照できない	520
12.11.4 MIB監視のポリシー設定画面で参照ボタンを押下すると「ファイル(xxxx.mib)、読込に失敗しました。読み込み可能であるか確認してください。」と警告メッセージが出力される	521
第13章 SNMPトラップに関するトラブルシューティング	522
13.1 SNMPトラップが通知されない	522
13.2 Systemwalker Centric ManagerがインストールされたノードからのSNMPトラップが出力されない	523
13.3 Systemwalker Centric ManagerがインストールされていないノードからのSNMPトラップが出力されない	528
13.4 管理サーバの起動時に、管理サーバのSNMPエージェントからColdStartが通知される場合がある	531
13.5 SNMPトラップ受信時に「受信したトラップPDUのデコードに失敗しました」と出力される	531
13.6 Centric ManagerのSNMPトラップデーモンが停止する	533
13.7 TRAPのポートが競合しているため、TRAPが受信されない	534
13.8 Systemwalker Centric Managerをインストールしたら、SNMP Trapを受信できなくなる	536
13.9 「ネットワークでAuthenticationFailureが発生しました」と出力される	537
13.10 SNMPトラップが受信できない	538
13.11 「トラップデーモンが停止したため、TRAPの受信は行いません」と出力される	539
13.12 ホスト名を変更したが、SNMPトラップに対するイベントのホスト名が変更前のものとなる	540
13.13 Systemwalkerコンソール画面で、SNMPトラップのvarbind情報がバイナリで表示される	540
13.14 Microsoft SNMPサービスが通知するSNMPトラップがイベント一覧に表示されない	540
13.15 SNMPトラップのvarbindが文字化けして表示される	541
13.16 「nwnsnmp-trapd: process:Signal catch(SIGALRM)」と出力される	541
第14章 インターネットサーバ監視に関するトラブルシューティング	543
14.1 操作メニューに「インターネットサーバ」が表示されないため、WWWサーバの利用状況の表示操作ができない	543
14.2 WWWサーバ(IIS)の監視開始までに非常に時間がかかる	544
14.3 WWWサーバの監視ができない	545
14.4 WWW利用状況の表示でグラフが表示されない	549
14.5 WWW利用状況が表示できない	549
14.6 WWW利用状況の表示で、インターネットサーバ管理マネージャと通信できない	552
14.7 WWW利用状況の表示で、インターネットサーバ管理エージェントと通信できない	553
14.8 「読み込み中-Javaアプレット」が表示されたまま画面表示が停止する	554
14.9 インターネットサーバ管理エージェントが正しく動作しない	556
14.10 インターネットサーバの稼働状況が表示されない	557
14.11 WWW/Firewallセキュリティ監視のイベントがSystemwalkerコンソールに通知されない	558
14.12 部門管理サーバがクラスタの場合、Firewallセキュリティ監視ができない	560
14.13 WWWセキュリティ監視の設定ができない	560
14.14 WWW/Firewallセキュリティ監視のポリシー配付でエラーになる	563
14.15 インターネットサーバ監視のトラブルが解決しない場合の調査資料の採取方法	563
14.16 WWWサーバがHTTPSプロトコルで動作している場合、インターネットサーバ管理の監視が行えない	564
14.17 監視設定をしていないのに、「WWWサービスが停止しました」というイベントが通知される	565
14.18 インターネットサーバ管理の停止に失敗する	566
第15章 ポリシー配付に関するトラブルシューティング	568
15.1 「いくつかのポリシー配付に失敗しました」と表示される	568
15.2 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「実行エラー」と表示される	569
15.3 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「適用エラー」と表示される	570
15.4 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「接続エラー」と表示される	572
15.5 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「アクセスエラー」と表示される	575
15.6 ネットワーク管理のポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「依存ポリシーエラー」と表示される	577
15.7 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「送信エラー」と表示される	578
15.8 運用管理クライアントで[ポリシー配付]ダイアログボックス、[ポリシー配付状況]ウィンドウが表示できない	580
15.9 運用管理サーバがクラスタの場合、運用系から待機系へポリシー配付ができない	580
15.10 運用管理サーバが二重化されている場合、主系サーバから従系サーバへポリシー配付ができない	581
15.11 運用管理クライアントで[ポリシー配付]ダイアログボックス、[ポリシー配付状況]ウィンドウの起動で、エラーメッセージが出力される	582
15.12 [ポリシー配付状況]ウィンドウで「配付待ち」にあるポリシーの送信日時や適用コマンド結果に値が入っている	582

15.13	ポリシー配付が準備中のまま、配付が完了しない	583
15.14	業務サーバ/部門管理サーバでエラーメッセージが表示され、起動に失敗する	583
15.15	ポリシー配付に失敗し、syslogにエラーメッセージが出力される	584
15.16	ポリシー配付要求直後に配付中の画面に、「配付中のポリシーはありません」と表示される	585
15.17	ポリシー配付中の画面が表示されたまま配付が終わらない	585
15.18	ポリシー配付を実行してください。または、Please execute policy distribution.というメッセージが出力された	587
15.19	ポリシー配付に成功したが、ポリシーが反映されない	588
15.20	イベント監視の条件定義のポリシー定義が意図したものではない	589
15.21	V4.0以前の運用管理サーバ、または部門管理サーバからポリシー配付が行えない	591
15.22	全体監視サーバでのポリシー配付に時間がかかる	592
15.23	全体監視サーバが所属する自部門配下のノードに対してイベント監視の条件定義のポリシー定義画面が起動できない	593
15.24	ポリシーの配付対象にならない	593
15.25	ポートスキャンを行うとポリシー基盤のプロセスが停止してしまう	594
15.26	ポリシーの配付に時間がかかる	595
15.27	V10.0以前からV11.0以降への移行を行った後に、ポリシー配付を行うと失敗する	595
15.28	運用管理サーバからLinux版の部門管理サーバ/業務サーバに対してポリシーの配付ができない	596
15.29	運用管理サーバ自身にポリシー配付を行なうと、「コマンド応答の獲得に失敗しました」というメッセージが出力される	596
15.30	「XXXXXXXX:警告:149:構成情報に存在しないポリシーがあります。ポリシー配付を実行してください。[Mp_GetSegment, 0x40012,0x4,0x12]」または「XXXXXXXX:WARNING: 149: Policy of invalid configuration information existed. Please execute policy distribution. [:XXXXXXXX]」が表示される	597
15.31	バージョンアップを行うと、ネットワーク管理の配付済みのポリシーが配付待ちになる場合がある	598
15.32	「イベント監視の条件」のポリシー配付が失敗する	598
15.33	mppolcollectコマンドで移出されないポリシーが存在する	599
15.34	ポリシーの配付を行っても、ポリシーが配付待ちの状態のまま配付されない	599
15.35	Pentium4 搭載機種で、ポリシー配付を行ってもポリシー配付画面が起動しない	600
15.36	ポリシー配付を行うと、ローカルで設定した定義が消えてしまう	601
15.37	監視ポリシーが通常モードから互換モードへ切り替わらない、または互換モードから通常モードへ切り替わらない	601
第16章 Systemwalkerスクリプト関連		603
16.1	メッセージ監視アクション型スクリプトの実行時間に関するトラブルシューティング	603
16.1.1	メッセージ監視アクションスクリプトで実行タイムアウト、または処理時間の規定値超えが発生する	603
16.2	サービス稼働監視に関するトラブルシューティング	604
16.2.1	HTTPサービスの稼働監視中に、HTTPサービスが起動中でも“HTTPサービスが停止しました”のイベントが通知される	604
16.2.2	HTTPSサービスの稼働監視中に、HTTPSサービスが起動中でも“HTTPSサービスが停止しました”のイベントが通知される	605
16.2.3	サービス稼働監視を行うと、新ノードフォルダにノードが追加されてしまう	606
16.2.4	サービス稼働監視スクリプトでHTTPSサービスを監視しようとしたが、スクリプトの起動とともにエラーメッセージが出力され、監視できない	606
16.2.5	サービスの稼働監視が正しくできない	607
16.2.6	FTPサービスのログに"QUIT"のログが出力される	608
16.2.7	二重化環境の主系において、通知されたイベントを対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない	609
16.2.8	HTTPSのサービス稼働監視でチューニングパラメタが有効にならない	609
16.2.9	サービス稼働監視で監視に使用するスクリプト名が表示されない	610
16.2.10	サービス稼働監視で通信不可状態から通信可能状態に遷移した場合に、イベントが通知されない	611
16.3	Systemwalkerセルフチェックに関するトラブルシューティング	611
16.3.1	Systemwalkerセルフチェックが正しくできない	611
16.3.2	二重化環境の主系において、通知されたイベントを対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない	613
16.3.3	mppolcollect(ポリシー情報移出コマンド)実行中に停止イベントが通知される場合がある	613
16.3.4	監視のたびに毎回停止イベントが通知されない	613
16.4	Webサービス稼働監視に関するトラブルシューティング	614
16.4.1	WEBサービスの稼働監視が正しくできない	614
16.4.2	二重化環境の主系において、通知されたイベントを対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない	615
16.5	IPv6インタフェースの稼働監視に関するトラブルシューティング	616
16.5.1	IPv6インタフェースの稼働監視で正しく監視が行えない	616
16.5.2	二重化環境の主系において、通知されたイベントを対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない	616
16.6	MIBしきい値の監視に関するトラブルシューティング	617
16.6.1	二重化環境の主系において、通知されたイベントを対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない	617
16.6.2	10個以上のMIBが監視できない	617

第17章 プロセス監視に関するトラブルシューティング	619
17.1 プロセスの異常が表示された.....	619
17.2 ネットワークで事象が発生しましたと表示された.....	623
17.3 「上位サーバへの異常通知が正常に行われませんでした」と表示された.....	623
17.4 プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された.....	625
17.5 プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示されたークラスタ環境の場合.....	630
17.6 「エージェント機能が停止しました」と表示された.....	631
17.7 「監視対象の取得に失敗しました」と出力される.....	633
17.8 「システムリソース不足のため監視をスキップします」と出力される.....	634
17.9 運用管理サーバで「Connection failed or server process is down.」と出力される.....	635
17.10 プロセス監視のユーザカスタマイズ機能のシェル(mppmonsnd.sh)内で標準出力、標準エラーが使用できない.....	636
17.11 「プロセス監視を開始できませんでした」と表示される.....	636
17.12 監視エラーの上位通知が正しく行われない.....	638
17.13 プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された(クラスタ環境の場合).....	638
17.14 プロセス動作状況の確認で、異なったプロセスIDが表示される.....	639
第18章 セルフチェックに関するトラブルシューティング	641
18.1 セルフチェック監視中に、「監視メッセージ・監視イベント通知に遅延が発生しています」と出力される.....	641
18.2 処理待ち件数が多い(システム監視).....	643
18.3 処理待ち件数が多い(ネットワーク管理).....	644
18.4 処理待ち件数が多い(アプリケーション管理).....	646
18.5 処理待ち件数が多い(アプリケーション配付).....	647
18.6 処理待ち件数が多い(対処イベント).....	648
18.7 スクリプト実行時にエラーメッセージが出力される.....	648
第19章 ネットワーク性能/サーバ性能監視に関するトラブルシューティング	650
19.1 ネットワーク性能情報の監視・収集ができない.....	650
19.2 サーバ性能情報の監視・収集ができない.....	653
19.3 クラスタ運用の運用管理サーバでサーバ性能監視が正しくできない.....	656
19.4 Hub/Switch Hubのネットワーク性能監視ができない.....	657
19.5 サーバ性能監視のディスク関連のしきい値監視ができない.....	657
19.6 ネットワーク性能監視/サーバ性能監視のしきい値超えアラームが通知される.....	658
19.7 サーバ性能監視のHD使用率/HD空き容量のしきい値超えアラームが通知される.....	661
19.8 性能情報出力/F3crTrfBcsvコマンドを実行するとエラーとなる.....	662
19.9 ネットワーク性能監視の回線使用率のしきい値超えアラームが通知される.....	665
19.10 F3crTrfEpdvコマンドを実行するとエラーとなる.....	666
19.11 コミュニティ名を変更したらサーバ性能情報の監視・収集ができない.....	667
19.12 性能監視[ノード詳細表示(サーバ性能)]ウィンドウが表示できない.....	670
19.13 [性能監視-ポリシー設定(サーバ性能)]ウィンドウが表示できない.....	672
19.14 ネットワーク性能監視のポリシー設定でエラーとなる.....	674
19.15 ネットワーク性能監視/サーバ性能監視のしきい値超えアラームが通知されない.....	674
19.16 サーバ性能監視の抑止(性能監視拡張エージェントの起動抑止)ができない.....	675
19.17 ノード/インタフェースがネットワーク性能監視の監視対象にできない.....	677
19.18 ネットワーク性能監視の監視対象から外れる.....	678
19.19 サーバ性能監視のメモリ使用率のしきい値超えアラームが通知される.....	679
19.20 「mpcrvtrp.exe」というプロセスのCPU使用率が高くなり、メモリ使用量が増える.....	679
19.21 「MpTrfAgt:205」のメッセージが出力される.....	680
19.22 性能情報出力/F3crTrfBcsvコマンドで出力する性能情報ファイルに対象ノードの情報が存在しない.....	685
第20章 ノード情報に関するトラブルシューティング	687
20.1 ノード情報を登録するときにエラーメッセージが出力される.....	687
20.2 ノード情報を登録するときに「ノードがロックされている」と出力される.....	687
20.3 運用管理サーバの運用形態名が表示されない.....	688
20.4 被監視サーバが意図していないホスト名で監視マップに登録される.....	688
20.5 被監視サーバが意図していないIPアドレスで監視マップに登録される.....	690
20.6 運用管理サーバが意図していないIPアドレスが監視マップに表示される.....	691
20.7 被監視システムのホスト名が自動的に変更されてしまう.....	692
20.8 運用管理サーバのIPアドレスが"127.0.0.1"に自動更新されてしまう.....	693

20.9 運用管理サーバが新しいノードとして追加される.....	694
20.10 メッセージ“データベーススペースの容量が不足しました。”を含むメッセージが出力される.....	694
20.11 バージョンアップを行うと、ノード構成情報の自動配付間隔が初期値になる.....	695
20.12 サブネットマスクの変更を伴う場合、サーバおよびクライアントのIPアドレスが変更できない.....	696
20.13 意図しないノードが監視マップに追加される.....	701
20.14 ノードが意図していないサブネットに登録される.....	703
20.15 構成情報配付コマンドが何もメッセージを出力せずに終了する.....	704
20.16 新ノードフォルダにIPアドレスが“0.0.0.0”であるノードが表示される.....	705
20.17 被監視サーバの運用形態名が意図しない表示内容になる.....	707
20.18 ホスト名/IPを変更したにもかかわらずノード情報のホスト名/IPが古い内容に自動更新される.....	708
20.19 インベントリ管理機能によりノード情報が追加/変更された場合、ネットワーク管理や性能監視の一部の機能による監視ができなくなる場合がある.....	709
20.20 ポリシー関連コマンドが指定したノード名を認識できずに失敗する.....	710
20.21 部門管理サーバのノードを削除しようとすると、エラーメッセージが表示され削除できない.....	712
20.22 削除したはずのノードが自動で作成される.....	712
20.23 クラスタ構成のサーバのノードアイコンを一旦削除してからノード検出を行なうと、削除前と異なるノードアイコンが表示される.....	713
20.24 構成情報配付コマンドがエラー終了する.....	714
第21章 ソフトウェア修正管理機能に関するトラブルシューティング.....	715
21.1 [ソフトウェア修正管理]画面を起動できない.....	715
21.2 [ソフトウェア修正管理]画面で管理対象サーバの表示ができない.....	716
21.3 [ソフトウェア修正管理]画面で、アプリケーションエラーが発生する場合がある.....	717
21.4 [資源配付]画面で新規にノードを追加してインベントリ収集を行っても、[ソフトウェア修正管理]画面から[修正適用状況の更新]やインベントリ情報の表示を行うことができない場合がある.....	717
第22章 リモート操作に関するトラブルシューティング.....	719
22.1 [Systemwalkerコンソール システム監視]が、リモート操作で表示できない.....	719
22.2 Windowsのターミナルサービス経由のリモート操作で、Systemwalker Centric Managerの操作がエラーとなる.....	719
22.3 リモート操作エキスパートまたはモニターの画面に「画面転送一時停止中」のダイアログが表示され操作ができなくなる.....	720
22.4 Windows Vista以降のOSでリモート操作を接続すると動作が遅くなる場合がある.....	721
22.5 ログオフするとリモート操作の接続が切断される.....	721
22.6 Matrox G200e Display Driverを使用している環境でリモート操作機能を起動すると画面の描画が遅くなる場合がある.....	722
22.7 イベントログに以下のメッセージが出力されLive Helpでの接続ができなくなるLHCTLSVC:エラー:3012:Live Help Control Service failed to complete a process triggered by a Windows Terminal Services (WTS) Session Event. [Function:0x0001001e Error:0x00000000].....	722
22.8 リモート操作機能で接続中にログオフしたあと、リモート操作で接続できなくなる.....	723
22.9 拡張ファイル転送機能の各種操作や録画データの保存に失敗する.....	724
第23章 ヘルプデスクに関するトラブルシューティング.....	725
23.1 「RDA0002: 入力待ち時間監視の値が7200秒を超えました」または「RDA2030: Connection time out error has occurred」と出力される.....	725
23.2 「MPHD0202:帳票:xxxxxを担当者:xxxxxに送付に失敗しました」と出力される.....	725
23.3 ヘルプデスククライアント設定がクリアされ、初期状態に戻った.....	726
23.4 ヘルプデスククライアント起動時に、「JYP1021E システムコールにおいてエラーが発生しました. function = “getspnam_r” errno = “2”」と出力される.....	726
23.5 帳票・担当者・部署が使用中と表示され、更新できない.....	727
第24章 IDカードに関するトラブルシューティング.....	730
24.1 カードセキュリティウィンドウに「マネージャ未起動」が表示されたままとなる.....	730
24.2 IDカードセキュリティを運用している環境で、画面の操作を行う時に“サーバとの通信が切断されました。再起動してください”が表示される.....	730
24.3 「MpidCard: 警告: 2」のメッセージがイベントログに出力される.....	730
第25章 メータリングに関するトラブルシューティング.....	732
25.1 メータリング・サーバが起動できない.....	732
25.2 メータリング・クライアントが動作しない.....	732
25.3 メータリングクライアントサービスが停止中にWindows(クライアント)にログオンすると、イベントログにエラーが出力される.....	734
第26章 運用中にメッセージが出力されるトラブルシューティング.....	735

26.1 イベントログに、「電源を中断する要求が取り消されました。」と出力される.....	735
26.2 イベントログに「異常(OpenEventLog()-1723)が発生しました」と出力される.....	735
26.3 Systemwalker Centric Managerを構成するプロセス間の通信パスが切断される.....	736
26.4 自動容量拡張に失敗する.....	737
26.5 「SQL文の実行で重症エラーを検出しました」と出力される.....	737
26.6 「qdg02261u」と出力される.....	738
26.7 IPC資源を回収できない.....	738
26.8 「DSIの容量が不足しました」と出力される.....	740
26.9 「Invalid character code. Text is deleted」または、「xxx "Cannot encode the rest of the messages. Check their contents on the sender system. <yyy>」が表示される.....	741
26.10 運用管理サーバで「od10301」という情報メッセージが出力される.....	743
26.11 「od10937」という情報メッセージが出力される.....	744
26.12 「od10918」または「od11112」という情報メッセージが出力される.....	745
26.13 「MPFWQS(%1):HALT:20104002:CANNOT WRITE TO COMMON TRACE.」とログファイル(/var/adm/messages)に出力される.....	747
26.14 「MpFwEms[xxxx]:50000011:内部エラーが発生しました。(操作名=SetConsumerEventID()理由=50008133)」がログに出力される.....	748
26.15 「OD: ERROR: od10915:Internal error in ObjectDirector.」が出力される.....	748
26.16 「SystemWalker/CentricMGRのセットアップが実行されていないか通信エラーが発生しています。(詳細コード= CORBA::StExcep::COMM_FAILURE,0x464a0101)」と出力される.....	749
26.17 「異常(FlushViewOfFile()-19)が発生しました」と出力される.....	750
26.18 イベントログに続けて「内部動作異常が発生しました (_commit)」「メッセージのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません」と表示される.....	750
26.19 「MpTrfMgr: ERROR: 329: システムエラーが発生しました。(詳細コード = 000007d400125369)」と出力される.....	751
26.20 「MpTrfAgt: エラー: 325: システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FctSocketServer 使用関数名=recv 原因コード =10054」と出力される.....	751
26.21 「od10300」を含むメッセージが出力される.....	752
26.22 「od10925」を含むエラーメッセージが出力される.....	753
26.23 「od10302」を含むエラーメッセージが出力される.....	754
26.24 運用管理サーバにMpFwcmプロセスから「30000001」「30000002」の警告メッセージが出力される.....	755
26.25 「OD: INFO: od10924:Information message of ObjectDirector.」が出力される.....	756
26.26 「OD: ERROR: od10605:%s1: send_reply failed.」が出力される.....	756
26.27 「recvでエラーが発生しました」、または「readでエラーが発生しました」と出力された直後に「データの受信に失敗しました」と出力される.....	757
26.28 イベントログに「異常(OpenEventLog()-1314)が発生しました」と出力される.....	758
26.29 「AP:F3CVSERV: 警告: 3001」と出力される.....	759
26.30 イベントログに続けて「内部動作異常が発生しました (_open)」「メッセージのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません」と出力される.....	760
26.31 イベントログに続けて「内部動作異常が発生しました (_open)」「コマンドのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません」と出力される.....	761
26.32 messagesに続けて「通信環境定義(ログファイル定義シート:メッセージログ:格納ディレクトリ)の指定が不当です」「openでエラーが発生しました:ファイルもディレクトリもありません。(opalogmsg)」と出力される.....	761
26.33 messagesに続けて「通信環境定義(ログファイル定義シート:コマンドログ:格納ディレクトリ)の指定が不当です」「openでエラーが発生しました:ファイルもディレクトリもありません。(opalogcmd)」と出力される.....	762
26.34 「Systemwalker Centric Manager」のプロセス('opagtd')が正常に動作しているか確認してください。」と出力される.....	763
26.35 「pipeでエラーが発生しました:オープンされたファイルが多すぎます。(opacmdc)」と「opacmdcの起動に失敗しました (opacmdc)」というメッセージが大量に出力される.....	764
26.36 「XXXへの接続処理に失敗しました。再接続処理を行います。」というメッセージが出力される.....	764
26.37 「od10965」というエラーメッセージが出力される.....	766
26.38 「od10606」という情報メッセージが出力される.....	766
第27章 GEEの監視に関するトラブルシューティング.....	768
27.1 ハード監視制御ウィンドウでフレームが正しく表示されない.....	768
27.2 ハードウェア情報定義ファイルの作成 (hardctlset) ができない.....	769
27.3 「/opt/FJVSshrd/FTOPS2/lm/solaris/initialが異常終了しました」と出力される.....	770
27.4 ハード監視制御ウィンドウで“操作権チェック機能(READ)でエラーが発生しました。ERR=32”が表示される.....	771

27.5 監視対象のGS側でMC/F SOCKETの通信開始のメッセージ(KKV100I)と通信終了のメッセージ(KKV101I)が交互に連続して出力される.....	771
27.6 被監視システム(GS)から通知されたメッセージの日付が"--/--"と表示される.....	772
第28章 他製品に関するトラブルシューティング.....	773
28.1 Symfoware製品のパッケージがインストールされているコンピュータで、運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバをインストールすると失敗する.....	773
28.2 Symfoware製品のパッケージがインストールされているコンピュータで、運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバの環境を構築すると失敗する.....	774
28.3 PRIMECLUSTERのアンインストールに失敗する.....	776
28.4 NetWorker等との共存環境でSystemwalker Centric Managerのエラーメッセージが表示される.....	777
28.5 Systemwalker Resource Coordinatorのプロビジョニングで、Systemwalker Centric Managerのプロビジョニングが失敗する.....	787
28.6 Systemwalker Centric Managerと他製品の混在環境の場合、他製品のSNMPトラップ機能が停止する.....	789
28.7 Systemwalker Operation Managerがsyslogに出力するジョブネットの正常終了メッセージを、Systemwalker Centric Managerで監視できない.....	790
28.8 Systemwalker Resource Coordinatorでノード削除すると、Systemwalkerコンソールの業務管理画面からノードが削除される.....	791
28.9 パスワード変更コマンド(pwchange.exe)実行後、「パスワード情報の変更に失敗しました。」のエラーが表示され、Systemwalker Operation Managerのサービスの起動に失敗する.....	791
第29章 その他.....	793
29.1 システム監視APIのMp_ReadMsg()関数(Solaris版)およびMp_GetMsgMap()関数(Windows版)の復帰時に、出力パラメータmsgtext(メッセージテキスト)に空文字列が設定されている場合がある.....	793
29.2 MpWalker/DM V3との連携時に発生するエラーメッセージについて.....	793
29.3 ポート番号9294がアクセスされる.....	794
29.4 「MpFwdrp: ERROR: 20416: mdrpspm Mp_PolUnset error 18(0)」と表示される.....	794
29.5 「0x464a0015」含むメッセージが出力される.....	795
29.6 Systemwalker Centric Managerのプロセスが多くのメモリを使用している.....	796
29.7 保守情報収集ツール実行時にシステムログ(messagesファイル、アプリケーションログ)に"qdg13315u"と出力される.....	797
29.8 運用環境保守ウィザードを起動した場合、運用環境保守ウィザードの起動に3分の待ち時間が発生します.....	797
29.9 Systemwalker Centric ManagerのプロセスのCPU使用率が上昇する.....	798
29.10 ジョブスケジューラから保守情報収集ツールを起動した場合、MsInfo32のアプリケーションエラーが発生しジョブがエラーになる.....	799
29.11 Systemwalker Centric Managerのプロセスのメモリ使用量が増加し続ける.....	800
29.12 ノードに対して電源切断の操作をしても、切断までに時間がかかる.....	800
29.13 保守情報収集ツールが終了しない.....	801
29.14 Solaris 10でnon-global zoneを作成しようとする、non-global zoneの作成が中断される場合がある.....	802
29.15 「InterfaceRep_s_Obf」および「InterfaceRep_Cash_s_Obf」プロセスが存在しない場合がある.....	802
29.16 「error while loading shared libraries: libstdc++.so.6: cannot open shared object file: No such file or directory」と表示される.....	803
付録A 調査資料の採取方法.....	804
A.1 使用方法.....	804
A.1.1 Windows版 V10.0L20/V10.0L21の場合.....	804
A.1.2 Solaris版 10.1の場合.....	809
A.1.3 Windows版 V11.0L10以降からV13.5.0まで/Windows for Itanium版 V12.0L11以降からV13.4.0までの場合.....	811
A.1.4 Solaris版 11.0以降/Linux版 V11.0L10以降/HP-UX版 11.0以降/AIX版 11.0以降の場合.....	819
A.1.5 Windows版V13.6.0以降の場合.....	821
A.2 保守情報を収集できなかった場合.....	825
A.2.1 Windows版 V10.0L20/V10.0L21の場合.....	825
A.2.2 Solaris版 10.1の場合.....	827
A.2.3 Windows版 V11.0L10以降からV13.5.0まで/Windows for Itanium版 V12.0L11以降からV13.4.0までの場合.....	828
A.2.4 Solaris版 11.0以降/Linux版 V11.0L10以降/HP-UX版 11.0以降/AIX版 11.0以降の場合.....	829
A.2.5 Windows版 V13.6.0以降の場合.....	830
付録B ネットワーク関連のトラブル対処.....	833
B.1 トラップログ参照コマンドの使用方法(イベント変換履歴出力).....	833
B.2 トラップログ参照コマンドの使用方法(トラップ受信ログ).....	836
B.3 監視対象外として破棄した場合の確認手順.....	838
B.3.1 被監視ノードは監視マップ上に存在しているか.....	838

B.3.2 被監視ノードは、トラップの送信先を所属する管理サーバとしているか.....	839
B.3.3 監視マップの編集後、構成情報の同期がとれているか.....	839
B.4 被監視ノードからSNMPトラップを送信する.....	840
B.4.1 SNMPエージェントを再起動するときの注意事項.....	840
B.4.2 SNMPエージェントからトラップを送信する.....	840
B.4.3 ネットワーク機器からトラップを送信する.....	841
B.5 各運用形態の場合.....	841
付録C プロセス動作状況の確認方法.....	843
C.1 プロセス動作状況の確認.....	843
C.2 機能区分/プロセス名対応一覧.....	845
C.2.1 Windows版 V10.0L20/V10.0L21の機能区分/プロセス名対応一覧.....	845
C.2.2 Solaris版 10.1/Linux版 V10.0L20の機能区分/プロセス名対応一覧.....	848
C.2.3 Windows版 V11.0L10の機能区分/プロセス名対応一覧.....	852
C.2.4 Solaris版 11.0/Linux版 V11.0L10の機能区分/プロセス名対応一覧.....	855
C.2.5 Windows版 V12.0L10の機能区分/プロセス名対応一覧.....	858
C.2.6 Solaris版 12.0/12.1、Linux版 V12.0L10の機能区分/プロセス名対応一覧.....	861
C.2.7 Windows版 V13.0.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	864
C.2.8 Solaris版 V13.0.0、Linux版 V13.0.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	867
C.2.9 Windows版 V13.1.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	870
C.2.10 Solaris版 V13.1.0、Linux版 V13.1.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	873
C.2.11 Windows版 V13.2.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	875
C.2.12 Solaris版/Linux版/HP-UX版/AIX版 V13.2.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	879
C.2.13 Windows版 V13.3.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	881
C.2.14 Solaris版/Linux版 V13.3.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	885
C.2.15 Windows版 V13.4.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	888
C.2.16 Solaris/Linux版 V13.4.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	891
C.2.17 Windows版 V13.5.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	894
C.2.18 Solaris/Linux版 V13.5.0/Solaris版 V13.5.1の機能区分/プロセス名対応一覧.....	897
C.2.19 Windows版 V13.6.0/V13.6.1の機能区分/プロセス名対応一覧.....	900
C.2.20 Solaris/Linux版 V13.6.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	903
C.2.21 Windows版 V15.0.0/V15.0.1の機能区分/プロセス名対応一覧.....	906
C.2.22 Solaris/Linux版 V15.0.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	909
C.2.23 Windows版 V15.1.0/V15.2.1の機能区分/プロセス名対応一覧.....	914
C.2.24 Solaris版 V15.1.0/V15.1.1、Linux版 V15.1.0/V15.2.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	917
C.2.25 Windows版 V15.3.0の機能区分/プロセス名対応一覧.....	917
付録D ノードプロパティ項目.....	921
付録E 本書の表記、登録商標について.....	923
E.1 本書の表記について.....	923
E.2 登録商標について.....	929

第1章 トラブル対処の流れ

V10.0L20/10.1以降では、本章で紹介する対処方法を実施する前に、Systemwalker Centric Manager、およびSystemwalker Event Agentのトラブルに対して、原因を追求するために、保守情報を収集することを推奨しています。

トラブル直後の保守情報を収集することにより、本章の対処方法で対処できなかった場合のトラブルに対して、調査、および原因追及ができます。

トラブルが発生したと思ったら、まず保守情報を収集します。

なお、調査資料の採取方法は、FJQSS(資料採取ツール)を利用する方法と、Systemwalker Centric Managerの保守情報収集ツールを利用する方法の2とおりがあります。どちらの採取方法も採取できる資料は同じです。

FJQSS(資料採取ツール)を利用する場合

【Windows版の場合】

[スタート]/[アプリ]-[FJQSS(資料採取ツール)]-[資料採取 (Systemwalker Centric Manager)]を選択し、表示される画面から保守情報を収集します。

【UNIX版の場合】

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVqstl/fjqss_collect OutPath
```

Systemwalker Centric Managerの保守情報収集ツールを利用する場合

収集方法の詳細は、“[調査資料の採取方法](#)”を参照してください。



注意

インストールに失敗したときは、以下ディレクトリに保守情報を収集しています。技術員に調査を依頼してください。

【Windows】

```
システムドライブ:\temp\CentricManager
```

【UNIX】

```
/tmp/CentricManager
```

第2章 Systemwalker Centric Managerのインストールに関する トラブルシューティング

2.1 Systemwalker Centric Managerのインストールができない

対処1

システムに搭載されている物理メモリが、2GBを超えているシステムで、システムの起動パラメタ (Boot.ini) にオプション“/3GB”を指定すると、エラーメッセージが出力され、インストールができません。

エラーメッセージ

セットアップ初期化エラー セットアップ実行に使用できるメモリが不足しています。他のすべてのアプリケーションを閉じて使用できるメモリを増しセットアップを再度実行してください エラー 111。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

原因

2GBを超える物理メモリが搭載されているシステムの場合、インストーラが、システムの物理メモリ容量を正しく認識できずに誤動作するため、発生しています。

対処方法

以下の手順でインストールを行ってください。

1. ルートディレクトリから“Boot.ini”をバックアップします。
“Boot.ini”が表示されない場合、[フォルダオプション]から以下の項目を設定してください。
 - [すべてのファイルとフォルダを表示する]を選択します。
 - [登録されているファイルの拡張子は表示しない]、
[保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない(推奨)]の選択を外します。
2. “Boot.ini”をエディタで編集し、オプション“/3GB”を削除します。
3. コンピュータを再起動します。
4. Systemwalker Centric Managerをインストールします。
5. 2.で削除したオプション“/3GB”を追加します。
6. コンピュータを再起動します。

対処2

Windows NT系のOSに、Serverサービスを停止した状態で、Systemwalker Centric Managerをインストールすると、メッセージが出力され、インストールできない。

エラーメッセージ

10214 セキュリティ情報の変換に失敗しました。

00550 コンポーネント情報登録処理に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

対処方法

Serverサービスを起動してから、再度インストールを行ってください。

インストール前に、“Systemwalker Centric Manager導入手引書”の“インストール前の確認”を参照してください。

対処3

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降

確認ポイント

以下の条件を満たしている場合は、対処方法に従って回避してください。

- 「Symfoware マニュアルをインストールしています インストール中」と表示されたまま、1時間以上インストーラ画面に進捗がない。かつ
- 運用管理サーバのインストール中に発生する。かつ
- 1回以上インストールに失敗している環境へのインストールである。

対処方法

以下の手順を実施し、再度インストールを行ってください。

1. 以下のアプリケーションをタスクマネージャより強制終了する。
Symfoware Install
2. ポップアップメッセージが表示された場合は、OKボタンを押下してインストーラを終了させる。
3. システムを再起動する。
4. 以下のフォルダ(配下のファイルを含む)を手動で削除する。
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mpsfwsv¥NAVI

対処4

エラーメッセージ

予想時間内にインストールが完了できなかったためインストールを中断しました。

インストールが完了できなかった原因として下記要因が考えられます。

各要因について確認後、再度インストールを行ってください。

- CPUの高負荷状態が続いた場合。
- インストール中にスクリーンセーバ、ウイルスチェックプログラム等の常駐プログラムが実行された場合。
- システム環境変数のTEMPおよびTMPディレクトリに指定されているディレクトリに、不要なディレクトリがある場合。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows32版: V15.0.0以降
 - Windows64-EM64T版: V15.0.0以降

確認ポイント

インストール時に以下の状況になっていなかったか確認してください。

- CPUの高負荷状態が続いていた
- インストール中にスクリーンセーバ、ウイルスチェックプログラム等の常駐プログラムが実行された
- システム環境変数のTEMPおよびTMPディレクトリに指定されているディレクトリに、不要なディレクトリが多数ある

原因

確認ポイントに記載した状態となっている場合、インストール処理が完了できない場合があります。

対処方法

以下のように対処してください。

1. 確認ポイントに記載されている状態を解消する。
2. Systemwalker Centric Managerを上書きインストールする。

対処5

OSのライブラリに不整合が生じている場合、セットアップ用DLLのロードができず、インストールに失敗する場合があります。

エラーメッセージ

00650:セットアップ用DLLのロードに失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降

原因

[OSの修正適用]、[Windowsの機能の有効化または無効化]、または[ソフトウェアのインストール]後にOSを再起動していないことが原因でOSのライブラリに不整合が生じ、セットアップ用DLLがロードできず、インストールに失敗する場合があります。

また、複数回のOS再起動が必要な場合に、必要な回数のOSを再起動していない場合にも本事象に当てはまります。

対処方法

以下のように対処してください。

1. OSを再起動する。
2. Systemwalker Centric Managerを上書きインストールする。

補足:

一部の資材がインストールされていますが、そのまま上書きインストールを実施してください。

2.2 NetLogonサービス、ComputerBrowserサービスを停止した状態で、Systemwalker Centric Managerをインストールすると、メッセージが出力され、インストールできない

エラーメッセージ

10203 サービスの登録に失敗しました。 00550 コンポートネット情報登録処理に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

確認ポイント

以下に示すサービスが起動していますか。

- NetLogon サービス
- ComputerBrowser サービス

対処方法

NetLogonサービス、ComputerBrowserサービスを起動してから、再度インストールを行ってください。

インストール前に、“Systemwalker Centric Manager導入手引書”の“インストール前の確認”を参照してください。

2.3 Systemwalker Centric Managerのインストールで、運用管理クライアントが選択できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.0以降

確認ポイント

運用管理クライアントが動作しないOSで、インストールしようとしていませんか。

対処方法

- V10.0L21/10.1以前
運用管理クライアントが動作するOSにインストールしてください。
動作するOSについては、“Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集”の“第1章 環境に関するQ & A”-“Q1 Systemwalker Centric ManagerのサポートOS”を確認してください。
- V11.0L10/11.0以降
運用管理クライアントが動作するOSにインストールしてください。

動作するOSについては、“Systemwalker Centric Manager 解説書”-“3.2.1 動作OS”を参照してください。

2.4 Systemwalker Centric Managerのアンインストールで、共通パッケージがアンインストールされない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Managerでは、ほかの製品と共通で使用可能な共通パッケージを含んでいます。これらの共通パッケージは、ほかの製品が使用している場合があるため、Systemwalker Centric Managerのアンインストール時には、削除されないために発生しています。

対処方法

Symfoware、ObjectDirector、暗号ライブラリを使用している製品が同一サーバ内に存在しない場合は、以下のパッケージを手動で削除してください。Windows版の場合は、[アプリケーションの追加と削除]から削除してください。

運用管理サーバ、ヘルプデスクサーバ(ヘルプデスクサーバは、Windows版V12.0L10、およびSolaris版12.1までインストール可能です。)

- Windows版の場合
 - ObjectDirector Server(運用管理サーバの場合)
 - Symfoware Server
(ヘルプデスクサーバでは、ヘルプデスクデータベースをインストールした場合)
 - Symfoware Client
(ヘルプデスククライアント(ODBC)をインストールした場合)
- Solaris版の場合(10.1以前)
 - FSUNrdb2b(Symfowareのパッケージ)
 - FSUNrdasv(Symfowareのパッケージ)
 - FSUNiconv(Symfowareのパッケージ)
 - FSUNod(ObjectDirectorのパッケージ)(運用管理サーバの場合)
 - FSUNssl(SSLのパッケージ)(運用管理サーバの場合)
 - FJSVsmee(SMEEのパッケージ)(運用管理サーバの場合)
- Solaris版の場合(11.0以降)
 - FSUNrdb2b(Symfowareのパッケージ)
 - FSUNrdasv(Symfowareのパッケージ)
 - FSUNiconv(Symfowareのパッケージ)

- FJSVrdbdb (Symfowareのパッケージ)
- FJSVrdbap (Symfowareのパッケージ)
- FJSVsymee (Symfowareのパッケージ)
- FSUNod (ObjectDirectorのパッケージ) (運用管理サーバの場合)
- FSUNssl (SSLのパッケージ) (運用管理サーバの場合)
- FJSVsmee (SMEEのパッケージ) (運用管理サーバの場合)
- FJSVsclr (SCLRのパッケージ) (運用管理サーバの場合)
- Linux版の場合 (11.0以降) (運用管理サーバのみ)
 - FJSVrdb2b (Symfowareのパッケージ)
 - FSUNiconv (Symfowareのパッケージ)
 - FJSVrdbdb (Symfowareのパッケージ)
 - FJSVrdbap (Symfowareのパッケージ)
 - FJSVsymee (Symfowareのパッケージ)
 - FJSVod (ObjectDirectorのパッケージ)
 - FJSVsmee (SMEEのパッケージ)
 - FJSVsclr (SCLRのパッケージ)

部門管理サーバ、業務サーバ

- Windows版の場合 (V12.0L10以前)
 - Symfoware Client
(ヘルプデスククライアント(ODBC)をインストールした場合)
- Solaris版の場合 (10.1以前)
 - FSUNssl (SSLのパッケージ)
 - FJSVsmee (SMEEのパッケージ)
- Solaris版の場合 (11.0以降)
 - FSUNssl (SSLのパッケージ)
 - FJSVsmee (SMEEのパッケージ)
 - FJSVsclr (SCLRのパッケージ)
- Linux版の場合 (V10.0L20以降)
 - FJSVsmee (SMEEのパッケージ)
 - FJSVsclr (SCLRのパッケージ)

運用管理クライアント、クライアント

- ObjectDirector Client
- Symfoware Client
(ヘルプデスククライアントを(ODBC)インストールした場合)

詳細は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“アンインストール後の注意事項”を参照してください。

2.5 Systemwalker Centric Managerの再インストールができない

エラーメッセージ

初期化ファイルの削除に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

原因

エクスプローラなどでSymfowareの製品格納ディレクトリが削除されてしまうと、Symfowareのアンインストーラが正常に動作できないために発生しています。

対処方法

ポップアップメッセージダイアログを確認し、Symfoware Serverと表示されている場合はSymfoware Server、Symfoware Clientと表示されている場合はSymfoware Clientの対処を実施してください。

以下の処理を実施してから、Systemwalker Centric Managerを再インストールしてください。

- Symfoware Serverの場合

Systemwalker Centric ManagerのCD-ROM(Systemwalker Centric Manager V13.4.1以前)、またはDVD(Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降)に格納されている以下のファイルを実行し、Symfoware Serverをアンインストールしてください。

【Systemwalker Centric Manager V13.4.1以前】

CD-ROMドライブ名 : %win32%\mpsfwsv\%funinst.exe

【Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降】

DVDドライブ %swsetup.exe

- Symfoware Clientの場合

レジストリエディタを使用し、以下のレジストリを削除してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\FUJITSU\SYMFOWARE

2.6 Systemwalker Centric Managerの再インストール、またはアンインストールができない

Systemwalker Centric Managerの再インストール、またはアンインストール時に、エラーメッセージが出力され、再インストール、またはアンインストールができない場合があります。

エラーメッセージ

致命的エラー。インストールサポートファイルをインストールできませんでした。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降 (PCクライアント)
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V11.0L10以降

確認ポイント

ログ情報ファイル(setup.ilg)が壊れていませんか。

原因

インストーラで使用しているInstall Shieldの不具合により、Install Shieldの機能で自動採取されるログ情報ファイル(setup.ilg)が壊れてしまうために発生しています。

対処方法

以下のフォルダにある壊れたログ情報ファイルを、別フォルダに移動または削除してから、再インストールをしてください。

[ログ情報ファイル(setup.ilg) 格納フォルダ]

```
Windowsインストールドライブ¥Program Files¥InstallShield Installation Information¥{AD684DDE-  
A0DC-49D8-844C-0195AC48ED76}
```

2.7 Systemwalker Centric Manager のアンインストール後にディレクトリやファイルが残る

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L10

確認ポイント

以下のディレクトリが残っていませんか。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.DM¥MpNsmgr¥var
```

原因

アンインストール時に、インターネットサーバ管理マネージャーが運用中に作成した資材を削除していないため、本現象が発生します。

対処方法

以下のディレクトリを手動で削除してください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.DM¥MpNsmgr¥var
```

手動で削除しても問題ありません。

2.8 運用管理サーバのアップグレードインストールが失敗します

エラーメッセージ

```
00778:  
組み合わせが不可能なSymfowareサーバ、またはSymfoware Programmer's Kitがすでにインストール  
されています。  
このため、現在の設定のまま指定された種別をこのコンピュータにインストールすることができません。オ  
プション機能の選択画面で「ヘルプデスククライアント(ODBC)」の選択を外せばインストールを続行す  
ることができます。  
この場合、ヘルプデスククライアントのODBCドライバとして既存のSymfowareクライアントが使用されます。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10～V13.1.0

確認ポイント

以下を実施してください。

1. インストール時の[オプション機能の選択]画面にて、[ヘルプデスク]を選択後、[詳細]ボタンをクリックしてください。
2. [ヘルプデスク クライアント(ODBC)]のチェックが設定されていることを確認してください。
3. 上記チェックを外す操作をします。

- チェックが外れた場合、このままインストール処理を継続してください。

- チェックが外れない場合、
下記の確認を実施してください。

以下の条件に当てはまる場合、対処方法を実施してください。

1. 下記の【対象製品】に示す製品間で、運用管理サーバのアップグレードインストール(エディションアップも含む)をする。かつ、

【対象製品】

SystemWalker/CentricMGR V5.0L10 ～ Systemwalker Centric Manager V13.1.0

2. 下記の【Symfoware Server を使用している製品】のいずれかの製品がインストールされている。

【Symfoware Serverを使用している製品】

- Softek AdvancedCopy Manager
- Systemwalker Desktop Patrol
- Systemwalker Desktop Keeper
- Systemwalker Desktop Rights Master
- Systemwalker Desktop Log Analyzer
- Interstage List Manager / ListWorks
- Interstage CollaborationRing
- Interstage Business Application Server
- Migration Suite

原因

既にシステムにインストールされているSymfoware Serverと共存不可能なSymfoware Clientのインストールを防止するために、本現象が発生します。

対処方法

下記の1.または2.の手順で対処してください。

1. Systemwalker Centric Managerの環境を別の端末環境に構築してください。
2. Symfoware Serverを使用している製品をすべてアンインストールしてからSystemwalker Centric Managerをアップグレードインストールしてください。

※アンインストールする製品の環境バックアップ(移行)が必要な場合は、該当製品のマニュアルを参照してください。

※アンインストールする製品は、上記「確認ポイント」の【Symfoware Server を使用している製品】を参照してください。

備考

Systemwalker Centric Managerインストール時に、Symfoware Clientもインストールされますが、システムに既存のSymfoware Serverと組み合わせが不可能なため、本現象が発生します。【Symfoware Serverを使用している製品】をアンインストールすることによって、Symfoware Serverも同時にアップグレードされるようになり、本現象を回避できます。

2.9 「アンインストールに失敗しました」と出力される

エラーメッセージ

コンポーネント(xxxxxx)のアンインストールに失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

IISが動作中ではありませんか。

原因

IISを起動した状態で、アンインストールを行ったため発生します。

対処方法

IISを停止し、アンインストールを実行します。

2.10 システムのコード系を正しく認識できない

エラーメッセージ

- 運用管理サーバ、部門管理サーバの場合

本製品は日本語版ですが、現在のシステムのコード系を日本語コードとして認識できません。このため、このままセットアップを続行することはできません。
本製品がサポートしている日本語コードでシステムが正しく動作していることを確認してからインストールをおこなってください。

- 業務サーバ、ヘルプデスクサーバの場合

本製品は日本語版ですが、現在のシステムのコード系を日本語コードとして認識できません。このままセットアップを続行するとASCIIコードとして動作する設定でインストールされます。
本製品を日本語コードで動作させたい場合は、セットアップを中断し、システムが日本語コードで正しく動作していることを確認してからインストールをおこなってください。
このままセットアップを続行してもよろしいですか？ [y,n,?]

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.0以降
 - HP-UX版:10.0以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降

- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

以下の項目について確認した結果、すべてに該当した場合、対処方法を実施してください。

- システムの文字コードが日本語コードとして正しく設定されている
- 上記エラーメッセージが出力される
- 以下のファイルを参照し、LANG変数の値がxxxLANG (例:NLS_LANG)より前(上の行)に記述されている

<p>【Solaris の場合】 /etc/default/init</p> <p>【Red Hat Enterprise Linux 6以前の場合】 /etc/sysconfig/i18n</p> <p>【Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合】 /etc/locale.conf</p> <p>【HP-UXの場合】 /etc/rc.config.d/LANG</p> <p>【AIXの場合】 /etc/environment</p>
--

原因

ほかのアプリケーションが設定する環境変数を誤ってシステムのコードとして認識してしまうため発生します。

対処方法

- Solaris の場合

“/etc/default/init”ファイルをvi等のエディタで開き、LANGの値をxxxLANG (例:NLS_LANG)よりも、後(下の行)に設定してください。
- Linuxの場合

【Red Hat Enterprise Linux 6以前】

“/etc/sysconfig/i18n”ファイルをvi等のエディタで開き、LANGの値をxxxLANG (例:NLS_LANG)よりも、後(下の行)に設定してください。

【Red Hat Enterprise Linux 7以降】

“/etc/locale.conf”ファイルをvi等のエディタで開き、LANGの値をxxxLANG (例:NLS_LANG)よりも、後(下の行)に設定してください。
- HP-UXの場合

“/etc/rc.config.d/LANG”ファイルをvi等のエディタで開き、LANGの値をxxxLANG (例:NLS_LANG)よりも、後(下の行)に設定してください。
- AIXの場合

“/etc/environment”ファイルをvi等のエディタで開き、LANGの値をxxxLANG (例:NLS_LANG)よりも、後(下の行)に設定してください。

(例)

<pre>NLS_LANG=japanese_japan.ja16sjis LANG=Ja_JP</pre>
--

2.11 上書きインストール、バージョンアップ、再インストールで「ファイルの展開処理に失敗しました」または「ファイル展開操作に失敗しました」と出力される

対処1

関連するサービス、またはプログラムが起動されている場合、インストールに失敗することがあります。

エラーメッセージ

<MSG ID>: ファイルの展開処理に失敗しました。

※ <MSG ID> : メッセージID

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

- メッセージIDが29203の場合
IISが動作中ですか。
- メッセージIDが12200の場合
以下のサービスまたはプログラムが動作中ですか。
 - SNMPサービス
 - Windows Management Instrumentation(WMI)サービス
 - イベントビューアー
 - Systemwalker Operation Managerの各種画面
 - Systemwalker Centric Managerの各種画面
- メッセージIDが上記以外の場合
ウイルス対策ソフトが動作中ですか。

原因

確認ポイントに記したサービスまたはプログラムを起動した状態で、上書きインストール、バージョンアップ、再インストールを行ったため発生します。

対処方法

確認ポイントに記したサービスまたはプログラムを停止し、再度上書きインストール、バージョンアップ、再インストールを行います。

対処2

Systemwalker Centric Managerが提供するプログラムが起動されている場合、インストールに失敗することがあります。

エラーメッセージ

<MSG ID>:ファイル展開操作に失敗しました

※ <MSG ID> : メッセージID

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

- Systemwalker Centric Managerのプログラムは動作中ではありませんか
- コマンドプロンプトなどから起動していませんか
- タスクスケジューラから定期的に起動されているプログラムがありませんか

原因

Systemwalker Centric Managerのインストール時に更新されるプログラムファイルが実行中のために発生します。

対処方法

確認ポイントに記載した方法により起動されているプログラムを停止し、再度上書きインストール、バージョンアップ、再インストールを行います。

また、タスクマネージャから、APA_Process_list.exeなどのプロセスが起動していた場合は、タスクマネージャから対象のプロセスを停止し、再度上書きインストール、バージョンアップ、再インストールを行います。

2.12 インストールの起動時に「InstallShieldエンジン(iKernel.exe)を起動できませんでした。アクセスが拒否されました。」と出力され、インストールが異常終了する

エラーメッセージ

InstallShieldエンジン(iKernel.exe)を起動できませんでした。
アクセスが拒否されました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.0以降 (PCクライアント)
 - Linux版:V10.0L10以降 (PCクライアント)
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

確認ポイント

以下の手順で確認をしてください。(OSがWindows XPまたは、Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEだけで発生します。)

1. Windowsの[ファイル名を指定して実行]→DCOMcnfgコマンドを実行します。
[コンポーネント サービス]画面が起動されます。
2. ツリービューから、[コンポーネント サービス]→[コンピュータ]→[マイコンピュータ]を選択し、右クリックより、[マイコンピュータのプロパティ]画面を表示します。
3. [COMセキュリティ]タブを選択します。

4. [アクセス許可]グループボックスの[既定値の編集]ボタンをクリックします。
[アクセス許可]ダイアログボックスが起動されます。
5. [アクセス許可]ダイアログボックスの[グループ名またはユーザ名]にSYSTEM、SELF以外が登録されているか確認します。

原因

InstallShieldの不具合のために発生します。

対処方法

確認ポイントで確認した結果で以下の対処を実施してください。

- ・ 登録されている場合

1. Windowsの[ファイル名を指定して実行]→DCOMcnfgコマンドを実行します。
[コンポーネント サービス]画面が起動されます。
2. ツールバーの[マイコンピュータの構成]をクリックします。
[マイコンピュータ]のダイアログが表示されます。
3. [COMセキュリティ]タブを選択します。
4. [アクセス許可]グループボックスの[既定値の編集]ボタンをクリックします。
[アクセス許可]ダイアログボックスが起動されます。
5. [グループ名またはユーザ名]に設定されているグループ名またはユーザ名をすべて削除して、何も設定されていない状態にします。
グループ名またはユーザ名をすべて削除する前に設定されているグループ名またはユーザ名をメモしておいてください。
6. [OK]ボタンをクリックします。
7. [適用]ボタンをクリックします。
8. [OK]ボタンをクリックします。
9. インストールを実施します。
10. 手順 5.を実施することにより、デフォルトの値SELF、SYSTEMの2つが指定されます。SELF、SYSTEM以外のグループ名またはユーザ名を設定する必要がある場合は、インストール完了後に設定してください。

- ・ 登録されていない場合

ほかの原因が考えられます。保守情報収集ツールで資料を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

2.13 Active DirectoryのBackup Domain Controllerとして構成している環境にインストールすると、スタートアップアカウントの認証処理に失敗する

エラーメッセージ

00195:パスワードが誤っています。試みられたログオンは無効です。
アカウント名か認証情報のいずれかが正しくありません。またはPDCとの同期がとれていない可能性があります。正常に同期がとれているか確認して下さい。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10～V11.0L10

- Solaris版:10.0～11.0(PCクライアント)
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20～V11.0L10
 - Solaris版:10.1～11.0(PCクライアント)

確認ポイント

以下のすべての条件の場合、「エラーメッセージ」に示す内容のメッセージボックスが出力され、スタートアップアカウントの認証に失敗します。

- OSがWindows XP、Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEのどちらかである。
- Active Directoryがインストールされている。
- Backup Domain Controllerとして構成されている。
- [スタートアップアカウントの登録]画面で、既にドメインに存在しているアカウントを指定して、インストールを行う。

原因

インストーラが内部的に使用しているLookupAccountSid関数の使用方法に誤りがあったため発生します。

対処方法

Backup Domain Controllerとして構成されているマシンにインストールするときに表示される[スタートアップアカウントの登録]画面で、ドメインに存在していないアカウントを指定してください。その後に表示される[ファイルコピーの開始]画面で、指定したアカウントがPrimary Domain Controllerと同期がとれていることを確認できてから、インストールを実施してください。

「確認ポイント」に示す条件に合致しない場合は、別の原因が考えられるため、本対処方法を実施せず、保守情報収集ツールで資料を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

2.14 インストール中に「インストールサポートファイルが削除できませんでした。」と出力される

エラーメッセージ

インストールサポートファイル %1を削除できませんでした。パラメータが間違っています。

- %1: ファイル名

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降 (PCクライアント)
 - Linux版:V11.0L10以降 (PCクライアント)
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降 (PCクライアント)
 - Linux版:V11.0L10以降 (PCクライアント)

原因

インストールを強制終了した場合等に、内部ファイルが異常な状態になり、内部ファイルの置き換えに失敗するために発生します。

対処方法

以下の手順を実施してください。

1. 以下のディレクトリをエクスプローラなどで削除します。

<システムドライブ>:\Documents and Settings<ユーザー名>\Local Settings\Temp\{製品ID}
※製品ID:AD684DDE-A0DC-49D8-844C-0195AC48ED76

2. コンピュータを再起動します。

2.15 Systemwalker Event Agentのインストール中にキャンセルボタンを押した場合、再度インストールしようとするとうインストールできない

エラーメッセージ

Systemwalker Centric Manager またはMpWalker/DMがインストールされています。混在がサポートされていないため、本製品をアンインストールすることはできません。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20～V12.0L10
 - Solaris版:10.1～12.1 (PCクライアント)
 - Linux版:V11.0L10～V12.0L10 (PCクライアント)

原因

Systemwalker Event Agentのインストール処理が中断されるとSystemwalker Event Agent固有のレジストリキーが削除されてしまい、再度インストールを実施するとSystemwalker Centric Managerがインストールされていると間違った判定をしてしまいます。

対処方法

以下の手順を実施してください。

1. Systemwalkerインストールディレクトリ\MPWALKER.DM\dmunins\swuset.exeを実行します。
2. システムを再起動します。
3. Systemwalker Event Agentのインストールを実施します。

2.16 インストール中に「セットアップ初期化エラー」と出力される

エラーメッセージ

セットアップ初期化エラー:105

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30

原因

マイクロソフトのホットフィックスパッチ「KB840987」、または「Windows 2000 SP4 対応の更新プログラム ロールアップ1」が適用されているために発生します。

このエラーは、CD-ROM内のデータをローカルディスク上のフォルダにコピーし、インストール作業を実施すると発生することがあります。また、インストール時のパスが長くなると、InstallShieldの不具合が発生します。

対処方法

以下の手順を実施してください。

1. ホットフィックスパッチ「KB840987」、または「Windows 2000 SP4 対応の更新プログラム ロールアップ1」をアンインストールします。
2. Systemwalker Centric Managerをインストールします。
3. ホットフィックスパッチ「KB840987」、または「Windows 2000 SP4 対応の更新プログラム ロールアップ1」をインストールします。

上記の各手順で、再起動の指示があった場合は、再起動を実施してください。

2.17 インストールの実施時において、スタートアップアカウント名に空白文字を入力した場合、99%進んだところで「00872: インストール処理が失敗しました。」のエラーが発生する

エラーメッセージ

00872: インストール処理が失敗しました。エラーを対処し、もう一度インストールを実施してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10～V13.2.0
 - Solaris版: 5.0～V13.2.0 (PCクライアント)
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20～V13.2.0
 - Solaris版: 10.1～V13.2.0 (PCクライアント)

確認ポイント

スタートアップアカウント名の指定時に、使用禁止文字である空白文字が含まれていないかどうか確認してください。

原因

スタートアップアカウント名に使用禁止文字である空白文字が含まれているために発生します。

対処方法

スタートアップアカウント指定時に、空白文字を含まないアカウント名とパスワードでインストールを実施してください。

備考

インストール前に「Systemwalker Centric Manager 導入手引書」の「CD-ROMからのインストール」の「Windowsサーバへのインストール」にある注意事項「スタートアップアカウントについて」を参照してください。

2.18 インストール中に、「この種別ではWeb連携機能がインストールされませんが、IISがインストールされていないため設定処理は行ないません」の警告メッセージが表示された

エラーメッセージ

<IISがインストールされていません。>

この種別ではWeb連携機能がインストールされますが、IISがインストールされていないため設定処理は行ないません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Windows for Itanium版:V13.2.0以降

原因

IISがインストールされていないため、本現象が発生します。

対処方法

Web連携機能を利用しない場合は、メッセージを無視してそのままインストールを継続してください。製品のインストールは正常に完了します。

Web連携機能を利用する場合は、IISをインストールしてください。

製品導入後にIISをインストールする場合は、導入手引書の「Web連携機能を利用する場合の環境設定」を実施してください。

2.19 システムのコード系が日本語にも関わらず、英語(ASCII)でインストールされる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.2～V13.3.0
 - Linux版:5.2～V13.3.0
 - Linux for Itanium版:V13.0.0～V13.3.0
 - HP-UX版:5.2～V13.2.0
 - AIX版: 5.1～V13.2.0
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1～V13.2.0
 - Linux版:V11.0L10～V13.2.0

確認ポイント

LANG変数への代入式とexportコマンドを次のとおり1行で定義していませんか。

```
export LANG=ja
```

以下のファイルを確認してください。

【Solaris の場合】

/etc/default/init

【Linuxの場合】

/etc/sysconfig/i18n

【Linux for Itaniumの場合】

/etc/sysconfig/i18n

【HP-UXの場合】

/etc/rc.config.d/LANG

【AIXの場合】

/etc/environment

原因

Systemwalker Centric Managerのインストーラは、LANG変数への代入式とexportコマンドを1行で定義した形式には対応していません。

対処方法

LANG変数への代入式とexportコマンドを分けて定義してください。

```
LANG=ja
```

```
export LANG
```

なお、すでに製品をインストールしている場合は、一度アンインストールした後に定義を修正し、再度インストールする必要があります。

2.20 ドメインコントローラ上へインストール中に、「10215:初期データの作成に失敗しました。」のエラーが表示され、インストールに失敗する

エラーメッセージ

```
10215:
```

```
初期データの作成に失敗しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L21以降
 - Windows for Itanium版:V13.0.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L21以降

確認ポイント

ドメインコントローラ上で、Systemwalker Centric Managerで使用する以下のグループのスコープを「グローバル」または「ユニバーサル」で事前に作成していませんか。

- DmAdmin
- DmOperation
- DmReference
- DistributionAdmin
- DistributionOperation
- DistributionReference
- SystemwalkerSecurityAdmin (V13.1.0以降)
- SystemwalkerSecurityAuditor (V13.1.0以降)

原因

Systemwalker Centric Managerではグループのスコープが「グローバル」および「ユニバーサル」には対応していません。

対処方法

作成済みのグループを削除した後に、インストールを実施してください。

一部の資材がインストールされていますが、そのまま書きインストールを実施してください。

なお、Systemwalker Centric Managerのインストール前にグループの作成が必要な場合は、グループのスコープとして「ドメインローカル」を選択し作成してください。

2.21 運用管理サーバのインストール中に「Symfowareのインストールスクリプトが異常終了しました」のエラーが発生しインストールに失敗する

エラーメッセージ

Symfowareのインストールスクリプトが異常終了しました

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Solaris版:5.2以降

対処1

確認ポイント

ETERNUS SF AdvancedCopy Managerと共存させる場合は、インストール順番を意識する必要があります。

原因

ETERNUS SF AdvancedCopy ManagerがインストールするSymfoware Serverの環境が、Systemwalker Centric Managerの動作条件と一致しないためです。

対処方法

インストール処理は行われていませんのでファイル等の削除は不要です。

Systemwalker Centric Managerのバージョンに合わせて以下の対処を実施してください。

【Systemwalker Centric ManagerがV13.2.0以降の場合】

Systemwalker Centric ManagerがV13.2.0以降の場合は、Systemwalker Centric Managerを先にインストールする必要があります。インストール手順は以下のとおりです。

1. Systemwalker Centric Managerをインストールします。
2. ETERNUS SF AdvancedCopy Managerをインストールします。

【Systemwalker Centric ManagerがV13.1.0以前の場合】

Systemwalker Centric ManagerがV13.1.0以前の場合は、ETERNUS SF AdvancedCopy Managerに内蔵されているSymfoware Serverをインストールした後に、Systemwalker Centric Manager、ETERNUS SF AdvancedCopy Managerの順にインストールする必要があります。インストール手順は以下のとおりです。

1. ETERNUS SF AdvancedCopy Managerに内蔵されているSymfoware Serverをインストールします。インストールコマンドは以下のとおりです。

```
<CD-ROM マウント先>/mgr-sol/symfo/symfo_install -S -f standard -d /opt -c euc_u90 -vi -B ACM
```

-d オプションはインストール先です。任意のディレクトリに変更可能ですが通常は/optとしてください。

2. Systemwalker Centric Managerをインストールします。
3. ETERNUS SF AdvancedCopy Managerをインストールします。

対処2

確認ポイント

Symfoware Serverのプロセスが起動中ではないですか。

原因

Symfoware Serverがインストールされている環境では、Symfoware/RDB、WebDBtools、RDA-SVのプロセスが起動中の場合、インストールを継続することができません。

対処方法

Symfoware/RDB、WebDBtools、RDA-SVのプロセスを停止した後に再度インストール操作を行ってください。

停止方法はSymfoware Serverのマニュアルを参照してください。

2.22 アンインストール時に、「5323:コンポーネントアンインストーラの起動に失敗しました」のエラーが表示され、アンインストールに失敗する

エラーメッセージ

```
5323:コンポーネントアンインストーラの起動に失敗しました
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V13.2.0以降
 - － Windows for Itanium版:V13.2.0以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerをアンインストールした後、システムの再起動を行わずに再インストールを行っていませんか。

また、「5323:コンポーネントアンインストーラの起動に失敗しました」と一緒に出力されるパスが以下のいずれかではないですか。

【Windows版の場合】

```
C:\Program Files\InstallShield Installation Information  
¥[A6BDCB02-C439-4EF2-A1F6-5952F5FEE6EA]¥Setup.exe
```

```
C:\Program Files\InstallShield Installation Information  
¥[5C5B0D9B-D328-11D3-BF14-00000E7CD035]¥Setup.exe
```

【Windows for Itanium版の場合】

```
C:\Program Files (x86)\InstallShield Installation Information  
¥{EB4D8278-AF70-4552-8602-320B8833C5C5}¥Setup.exe
```

C:\Program Files (x86)\InstallShield Installation Information
\{EB4D8278-AF70-4552-8602-320B8833C5C5\Setup.exe

原因

Systemwalker Centric Managerでバンドルしている機能が、アンインストール時にアンインストーラ自体が削除されない場合があることを考慮し、システム再起動時に削除するファイルとしてアンインストーラのパスを登録しています。

アンインストール後に再起動せずにインストールを実施すると、インストール後のシステム再起動によりアンインストーラが削除されてしまい、その後のアンインストール時にアンインストーラが削除されてしまっているため、エラーとなります。

対処方法

以下の復旧手順で強制アンインストールを実施してください。なお、手順の中にレジストリの編集、system32フォルダ配下のファイルの削除作業が必要なため、十分注意して作業を実施してください。レジストリの編集やsystem32配下の削除するファイルを誤った場合、Windowsが起動しなくなるなど、再セットアップを余儀なくされるような事態が発生する恐れがありますので、システムのバックアップを行うなど十分に注意して変更してください。

1. 以下のレジストリキーの中の値を削除します。

キー名:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu\MpWalker\CurrentVersion
\InstallComponents
値名:"mpsme" および "mpseccrypto"

2. 「プログラムの追加と削除」からSystemwalker Centric Managerをアンインストールします。
3. SMEE/Securecryptoの資材を手動で削除します。

1. 以下のレジストリ情報を削除します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu\Install\F3FSSMEE
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu\F3FSSMEE
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu\Install\Securecrypto Library R
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu\SecurecryptoLibraryCommon
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu\Securecrypto Library R (注)
注: 本キーは存在しない場合もあります。

2. 以下のフォルダを削除します。

【Windows版、Windows for Itanium版共通】
C:\Program Files\Common Files\Fujitsu Shared\F3FSSMEE
C:\Program Files\SecurecryptoLibraryR
C:\Program Files\F3FSSMEE
【Windows版の場合】
C:\Program Files\InstallShield Installation Information
\{A6BDCB02-C439-4EF2-A1F6-5952F5FEE6EA}
C:\Program Files\InstallShield Installation Information
\{5C5B0D9B-D328-11D3-BF14-00000E7CD035}
【Windows for Itanium版の場合】
C:\Program Files (x86)\InstallShield Installation Information
\{EB4D8278-AF70-4552-8602-320B8833C5C5\Setup.exe
C:\Program Files (x86)\InstallShield Installation Information
\{76EF74A2-F450-4A80-A013-46438A7A9ED1}\Setup.exe

3. C:\WINDOWS\system32配下の以下のdllを削除します。なお、Systemwalker Centric Managerを再度インストールする場合は、削除不要です。

f3eztdat.dll
F3FGssl4.dll
F3FGssl6.dll
F3FPSASN.dll
F3FPSP07.dll
F3FPSP11.dll
F3FSBCER.DLL
F3FSBCMN.DLL
F3FSBKEY.DLL
F3FSCRTM.DLL
F3FSCRTM2.dll
F3FSCRTM3.dll
f3fsscmi.dll
f3fssmime.dll
F3FSTP12.dll
F5eubcer.dll
F5EUBCEX.dll
F5EUbcmn.dll
F5eubkey.dll
F5EUJSCM.dll
F5EUscmi.dll
F5EUsmime.dll
F5EUsp07.dll
F5EUsp11.dll
F5EUssl4.dll
F5EUssl6.dll
F5eutp12.dll
F3EZsclcmd.dll
F3EZcmn.dll
F3EZdat.dll
F3ZEex.dll
F3EZmain.dll
F3EZscl.dll
F3EZscl2.dll

2.23 運用管理クライアントのインストール中に、「定義ファイル (mpatmdef.dat) の設定でエラーが発生しました。」と出力されて、インストールが失敗する

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版 : V13.0.0～V13.2.0

確認ポイント

インストールを実行するアカウントは、日本語ですか。

原因

インストールを実行するアカウント(ログインアカウント)が日本語の場合、環境変数"TEMP"のデフォルト値に日本語を含んだディレクトリが設定されるため、発生しています。

対処方法

以下の対処を実行してください。

- ・ 英数字のユーザ名でログインしてインストールします。
- ・ 環境変数TEMPを英数字のディレクトリに変更してインストールします。

2.24 Systemwalker Centric Managerのアンインストール後に再インストールが失敗する

エラーメッセージ

インストールが失敗しました。:リモート操作クライアント 詳細コード=46

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V13.0.0～V13.2.0

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerのアンインストール後にOSの再起動を行いましたか？

原因

Systemwalker Centric Managerのアンインストール後に、OSが再起動されていないことが原因です。

対処方法

Systemwalker Centric Managerをアンインストールした後、OSを再起動してから、再インストールを行ってください。

2.25 Windows 8/Windows Server 2012にインストールができない

エラーメッセージ

エラーメッセージ:00650:セットアップ用DLLのロードに失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.6.1以降
 - UNIX版:V15.0.0以降

原因

Windowsの更新プログラムKB2770917を含む修正が適用されていないことが原因です。

対処方法

[コントロールパネル]-[プログラムと機能]より、KB2770917が適用されていないことを確認してください。

修正が適用されていない場合、以下を実施してください。

1. インストールされたファイルの確認

Systemwalker Centric ManagerがV15.0.0以降の場合に必要な作業です。

以下のファイルがインストールされていることを確認してください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥dmunins¥silentUninstallCMGR.bat
```

インストールされていない場合は、インストールDVDの以下のフォルダから、インストール環境に複製してください。

複製元

Windows32bit版:

```
Server¥win32¥cmgrcir¥bin¥silentUninstallCMGR.bat
```

Windows64-EM64T版:

```
MAIN¥win32¥cmgrcir¥bin¥silentUninstallCMGR.bat
```

複製先

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥dmunins  
¥silentUninstallCMGR.bat
```

2. Systemwalker Centric Managerのアンインストール

a. コマンドプロンプトを起動

Windowsの[コマンドプロンプト]を右クリックし、[管理者として実行]を選択して起動します。

b. アンインストールの実行

手順aで起動したコマンドプロンプトから、以下のコマンドを実行します。

```
C:¥Systemwalker¥MPWALKER.DM¥dmunins¥swuset.exe
```

3. 更新プログラムKB2770917を含む修正の適用

4. Systemwalker Centric Managerの再インストール

2.26 Solaris環境において、インストールがハングしたように見える

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

インストール先のディレクトリ名が、256バイトを超えているためです。

対処方法

インストール先のディレクトリ名が、オペレーティングシステムの上限である256バイトを超えないよう、プログラムの配置先を指定してください。

2.27 Windows Server 2016以降にインストール直後、スタートメニューに登録されたSystemwalker Centric Managerフォルダをクリックしてもショートカットメニューが表示されない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V15.2.1以降

原因

OSの障害または不具合が原因の可能性があります。

対処方法

一度ログオフし、再度ログオンしてください。

第3章 Systemwalkerの起動停止・OSの起動停止 関連

3.1 起動に関するトラブルシューティング

3.1.1 システムの起動でエラーメッセージが出力される

対処1

エラーメッセージ

OD: ERROR: od10411:Failed to find entry in /etc/services.
OD: ERROR: od10921:ObjectDirector initialization time out

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

/etc/services ファイルに通信基盤のサービス名、ポート番号、プロトコルが登録されていない状態で、システム起動時により通信基盤が起動されたため出力されます。

通信基盤のサービス名、ポート番号、プロトコルは、フレームワークのデータベース領域の作成時に登録されます。フレームワークのデータベース領域の作成後、メッセージは出力されなくなります。

対処

運用には問題ありません。対処不要です。

対処2

エラーメッセージ

Service Control Manager: 警告: 7039: OD_Startサービスを開始するときに、サービスコントロール マネージャによって、起動された以外のサービスプロセスが接続されました。サービスコントロールマネージャはプロセスmmmmを起動しましたが、代わりにプロセスnnnnが接続されました。 このサービスがデバッグを起動した状態で開始するように構成されている場合はこれは予期された動作です。

[メッセージの意味]

OD_startサービスは、サービスコントロールマネージャから起動されるプロセスとしてodloader.exeを登録していますが、OD_startサービスが起動された場合、odloader.exeからodstart.exeを起動し、odstart.exeがサービスコントロールマネージャに接続されます。

Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEでは、サービスがこのような動作をした場合に警告メッセージを出力します。

これらの動作はOD_startサービスの仕様であり、上記のような動作をした場合でも問題は発生しません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L21以降

確認ポイント

メッセージ中の"mmmm"、"nnnn"はプロセスIDです。それぞれのイメージ名は以下のとおりです。

"mmmm" : odloader.exe

"nnnn" : odstart.exe

原因

Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合、OD_startサービス起動時にシステムログに警告メッセージを出力します。

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。

対処3

エラーメッセージ

MpNmsv:エラー:145:システムエラーが発生しました(詳細=CMpNMPOManager, 5, 10, 706)
--

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

システム起動時の高負荷な状態でSystemwalker Centric Managerを起動した場合、ODの処理に時間がかかり、ポリシー基盤のサービス起動が完了する前にネットワーク管理のサービスが起動してしまうことがあります。このような場合にエラーメッセージが出力されます。

対処方法

Systemwalker Centric Managerの再起動を行ってください。

3.1.2 Systemwalker Centric Managerの起動で、エラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

Windows版の場合

MpOpagt: 警告: 3001: イベント監視機能サービス(MpAosfB)が起動されていません
--

MpAosfB: 警告: 1011: システム監視エージェントと接続でエラーが発生しました

UNIX版の場合

opagtd: 警告: 3001: イベント監視機能サービス(MpAosfB)が起動されていません

MpAosfB: WARNING: 1011: システム監視エージェントと接続でエラーが発生しました
--

Solaris版/Linux版の場合

MpFwems: エラー: 50200007:ソケットのオープンに失敗しました

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降

- AIX版:10.0以降
- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

システムが高負荷であった場合などに、Systemwalker Centric Managerのプロセスが、規定順序どおりに起動完了できない場合があります。このような場合にエラーメッセージが出力されます。

対処

起動完了後、イベント監視が正常に行われている場合は、運用には問題ありません。対処不要です。

起動完了後もエラーメッセージが繰り返し出力され、イベント監視が正常に行われない場合は、保守情報を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

3.1.3 運用管理サーバでSystemwalker Centric Managerの起動が失敗する

対処1

確認ポイント

“/var/tmp/CENTRIC”が存在しますか。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1～11.0
 - Linux版:V11.0L10

原因

フレームワークのデータベースのソート作業ファイル作成先ディレクトリである“/var/tmp/CENTRIC”が削除された場合に起動処理に失敗します。

対処方法

“/var/tmp/CENTRIC”が存在しない場合は以下の手順で対処してください。

1. rootアカウントでログインしてください。
2. Systemwalker Centric Manager を停止してください。
3. /var/tmp/CENTRIC ディレクトリを作成してください。
(ディレクトリのアクセス権限755、オーナーroot、グループother で作成してください。)
4. Systemwalker Centric Manager を起動してください。

対処2

確認ポイント

- 運用管理サーバのハードウェア・スペック(CPU/メモリ)が、インストールされているソフトウェア(Systemwalker Centric Managerを含む)の動作条件を満たしているか確認してください。

※ハードウェア・スペック(CPU/メモリ)について

Systemwalker Centric Managerを運用するために必要なメモリ使用量は、運用方法によって異なります。“Systemwalker Centric Manager 解説書”の“ディスク容量”および“メモリ容量”を参照の上、確認を行ってください。

- アプリケーション ログに以下の通知がされていないか確認してください。

```
ソース: MpFwbs
種類: エラー
イベントID: 3
説明: MpFwbs[xxxx]:1000003: SystemWalker基本フレームワークの起動時にタイムアウトが発生しました(MpFwls,xxxx)。起動処理を中止します。
```

xxxx: プロセスID

- システム ログに以下の通知がされていないか確認してください。

```
ソース: Service Control Manager
種類: エラー
イベントID: 7023
説明: SystemWalker MpFwbs は次のエラーで終了しました: サービスは開始後に開始待ち状態でハングしました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows 版: V5.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Manager の起動時(特にOSの起動時)に多数のサービスやプロセスが同時に起動処理することで、CPU負荷およびメモリ負荷が高くなり、起動処理内のタイムアウト時間を超過しても起動が完了できないプロセスが発生しているためです。

対処方法

- ハードウェア・スペックが動作条件を満たしていない場合は、動作条件を満たすようにハードウェア構成を変更してください。
- ハードウェア・スペックが動作条件を満たしている場合は、以下の手順にてタイムアウト値を変更して、回避できないかご確認ください。

注意

タイムアウト値の変更を行うには、以下の修正の適用が必要です。

- V5.0L10: タイムアウト値の変更による対処はできません。Windowsのサービスの画面で、起動に失敗したサービスを手動で起動してください。
- V5.0L20: TP05534
- V5.0L30: TP05535
- V10.0L10: TP05536
- V10.0L20: TP05840
- V10.0L21以降: 修正適用の必要はありません。

- pcentricmgr コマンドで Systemwalker Centric Manager を停止してください。

2. タスクマネージャで以下のプロセスが存在しないことを確認してください。存在する場合は、タスクマネージャからプロセスの停止を行ってください。

```
MpFwems.exe  
MpFwemsd.exe  
MpFwls.exe  
MpFwlsd.exe
```

3. Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥etc(またはetc.local)¥MpFwbsStart.scr を別名でコピーしてください。
4. MpFwbsStart.scr を Notepad 等で開いて、“MpFwls”項目の“End_time”を 300 から 720 に変更して保存してください。

```
{  
  CompName="MpFwls"  
  ComPath="MpFwls.exe"  
  ComOption=""  
  heap_list=1  
  Stay_flag=MPFWBSCL_ON  
  End_time=720  
}
```

5. sentricmgr コマンドで Systemwalker Centric Manager を起動してください。または、OSを再起動してください。

対処3

確認ポイント

「データベースのアクセスに失敗しました」というメッセージが出力されていますか。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric ManagerとSymfoware Serverのインストール時のコード系が異なっている可能性があります。

Systemwalker Centric Manager は、Symfoware Serverをインストールしたときのコード系と同じコード系でインストールする必要があります。

※Symfoware Serverは、Systemwalker Centric Manager、もしくはそのほかの製品でバンドルしているものを使用している場合があります。

対処方法

Systemwalker Centric ManagerとSymfoware Serverのインストール時のコード系が異なっていた場合、保守情報収集ツールでフレームワークの資料の採取をして技術員に連絡してください。

[コード系確認方法]

以下のパッケージの情報を"pkgparam -v パッケージ名"でCentric Manager、Symfoware Serverそれぞれ確認し、キー名"LANG"に設定されている内容を比較します。

- Centric Manager
 - FJSVfwbs
- Symfoware Server
 - <Solaris>
 - FSUNrdb2b
 - <Linux>

対処4

確認ポイント

以下のディレクトリが削除されていませんか。

```
"RDB管理情報作成先/core"
```

RDB管理情報作成先は、フレームワークのデータベース作成時に"RDB管理情報デバイス"(注)に設定した値により決定されます。

- ・ ブロック型デバイスを指定した場合
"RDB管理情報作成先"は、"/SWFWDB"となります。
- ・ 任意のディレクトリを指定した場合
"RDB管理情報作成先"は、"任意のディレクトリ/SWFWDB"となります。

(注)例としては、ブロック型デバイスの場合"/dev/dsk/c?t?d?s?"、任意のディレクトリの場合"/work"といった値になります。

エラーメッセージ

```
component did not start: /opt/systemwalker/bin/MpFwBase
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Symfoware RDB 動作時のログファイル格納先である"RDB管理情報作成先/core"が、削除されたことが原因です。

対処方法

以下の手順に従って対処してください。

1. rootアカウントでログインしてください。
2. Systemwalker Centric Managerを停止してください。
3. "RDB管理情報作成先/core"ディレクトリを作成してください。
ディレクトリのアクセス権限755、オーナーroot、グループother で作成してください。
4. Systemwalker Centric Manager を起動してください。

3.1.4 運用管理サーバでサービス起動コマンド(scentricmgr)を使用した Systemwalker Centric Manager の起動が失敗する

運用管理サーバでscentricmgr コマンドを使用したSystemwalker Centric Manager の起動時に以下のような現象が発生します。

- ・ Systemwalker Centric Manager の起動が失敗する。
- ・ アプリケーションログに「50000011:内部エラーが発生しました。(操作名=remove 理由=13)」が通知される。

本現象はOS起動時のタイミングでは発生しません。

エラーメッセージ

ソース: MpFwbs
種類: エラー
イベントID: 3
説明: MpFwEms[xxxx]:5000011:内部エラーが発生しました。(操作名=remove 理由=13)

xxxx: プロセスID

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10～V10.0L10

確認ポイント

アプリケーション ログに上記のエラーメッセージが通知されていないか確認してください。

原因

scentricmgr コマンドを実行する前に、以下のプロセスが起動していたために、起動処理に不整合が発生しました。

MpFwems.exe
MpFwemsd.exe
MpFwls.exe
MpFwlsd.exe

対処方法

- 発生時の対処
 1. pcentricmgrコマンドを実行してください。
 2. タスクマネージャの[プロセス]を確認し、以下のプロセスが存在する場合は、[プロセスの終了]で終了させてください。

MpFwems.exe
MpFwemsd.exe
MpFwls.exe
MpFwlsd.exe

3. 再度 scentricmgr コマンドを実行してください。
- 修正による対処

V10.0L10の場合のみ、アップデートパック U003にて起動処理が改善されています。このため、アップデートパック U003を適用することで、本現象を回避することができます。

3.1.5 サービス起動停止コマンド(scentricmgr/pcentricmgr)を実行すると、一つのサービスを起動/停止するのに3分以上がかかる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V10.0L20～V13.0.0
 - Windows for Itanium版: V12.0L11～V13.0.0

確認ポイント

以下の条件に当てはまる場合、対処方法を実施してください。

- Microsoft(R) Cluster Server、またはMicrosoft(R) Cluster Service (以下、MSCSと略します。)をインストールしている、かつ、

- MSCSの環境を構築している、かつ、
- MSCSのサービス(Cluster Service)を停止している、かつ
- 以下のどれかのOSを使用している。
 - Windows NT Server Enterprise Edition Version 4.0
 - Windows 2000 Advanced Server
 - Windows Server 2003 Enterprise Edition

原因

MSCSのサービスが起動していない場合は、起動するまで3分待ち合わせする処理が存在しているためです。

対処方法

MSCSのサービス起動後に、サービス起動停止コマンド(scentricmgr/pcentricmgr)を実行してください。

MSCSのサービス起動方法は以下のとおりです。

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003 EEの場合
 1. [コントロールパネル]で[管理ツール]を起動します。
 2. [管理ツール]で[サービス]を起動します。
 3. [サービス]画面で、以下のサービスを起動します。
 - Cluster Service
- Windows NT Version 4.0の場合
 1. [コントロールパネル]で[サービス]を起動します。
 2. [サービス]画面で、以下のサービスを起動します。
 - Cluster Service

備考

本現象が発生しても、ユーザ資産に影響がないため、復旧作業は必要ありません。

3.1.6 運用管理サーバでのリストア後にSystemwalker Centric Managerの起動が失敗する

エラーメッセージ

FJSVfwguije failed to set the aprition data ERROR failed to start daemon

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

バックアップした環境のコード系と、リストアする環境のコード系が異なっていませんか。

原因

リストア先と異なるコード系の環境でバックアップした資産をリストアした場合に、コード系の不整合が発生し起動処理に失敗します。コード系の異なる環境へのリストアはサポートしていません。

対処方法

バックアップデータを使用して対処することはできませんので、以下の手順で環境を作成してください。

1. rootアカウントでログインしてください。
2. Systemwalker Centric Manager を停止してください。
3. Systemwalker Centric Manager の運用環境を削除してください。
4. Systemwalker Centric Manager の運用環境を作成してください。
5. Systemwalker Centric Manager を起動し、構成情報や定義情報を作成してください。

3.1.7 Systemwalker Centric Manager の起動で、nwsnmp-trapdの起動に失敗する

エラーメッセージ

```
nwsnmp-trapd is could not start in 180 seconds, giveup to start
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

nwsnmp-trapdが使用する162ポートを、ほかのアプリケーションが使用していたため、nwsnmp-trapd(CentricMGRのトラップ受信サービス)が起動できませんでした。

対処方法

トラップポート(162)の競合が発生しないように、いずれかのアプリケーションを停止して運用してください。

3.1.8 システムの起動で、Systemwalker Centric Managerの一部のサービス(デーモン)起動に失敗する

対処1

エラーメッセージ

```
ソース:Service Control Manager  
イベントID:7000  
説明:Systemwalker XXXXXX サービスは次のエラーのため開始できませんでした: ログオンに失敗したため、サービスを開始できませんでした。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降

- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:V10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1-1

原因

Windows版で、システムの起動時に高負荷な状態が発生したことにより、OSのサービスコントロールマネージャがサービスの起動に失敗する場合があります。

対処方法

以下の手順で起動に失敗したサービスを再起動してください。

- OSが WindowsNT 4.0 の場合
 1. スタートメニューから[設定]-[コントロールパネル]を実行します。
 2. コントロールパネルの画面でサービスを実行します。
 3. サービスの画面で起動に失敗したサービスを選択し、再起動ボタンを押下します。
- OSが Windows2000/Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE/WindowsXP の場合
 1. スタートメニューから[設定]-[コントロールパネル]を実行します。
 2. コントロールパネルの画面で管理ツールを実行します。
 3. 管理ツールの画面でサービスを実行します。
 4. サービスの画面で起動に失敗したサービスを選択し、再起動ボタンを押下します。

対処1-2

原因

サービス(デーモン)起動・停止制御ファイルのカスタマイズを行っていないか確認してください。

対処方法

以下のファイルのサービス起動・停止制御ファイルの定義内容と“[機能区分/プロセス名対応一覧](#)”を確認し、定義ファイルの内容に誤りがないか確認してください。

[Windows版の場合]

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpcmtool¥service¥ini¥USERCMGR.INI

[UNIX版の場合]

- V13.1.0以降の場合

/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc2.ini

- 10.1からV13.0.0の場合

/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc3.ini

- 10.0の場合

/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/start_fw.ini

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/start_drms.ini
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/start_fwsec.ini
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/start_help.ini
```

誤りがない場合は、保守情報収集ツールを使用して共通ツールの情報を採取し、技術員に問い合わせてください。

対処1-3

確認ポイント

前回のシステム起動日時に、イベントログ(システム)に以下のエラーメッセージが出力されていませんか。

```
ソース:Service Control Manager
イベントID:7009
説明:Systemwalker XXXXXX サービスへの接続中にタイムアウト(30000 ミリ秒)になりました。

ソース:Service Control Manager
イベントID:7000
説明:Systemwalker XXXXXX サービスは次のエラーのため開始できませんでした:そのサービスは指定時間内に開始要求または制御要求に応答しませんでした。
```

XXXXXX:起動に失敗したコンポーネント名

原因

Windows版で、システムの起動時に高負荷な状態が発生したことにより、OSのサービスコントロールマネージャがサービス「Systemwalker XXXXXX」の起動に失敗する場合があります。

対処方法

起動に失敗したサービス「Systemwalker XXXXXX」を手動で起動してください。

対処1-4

確認ポイント

前回のシステム起動日時に、イベントログ(システム)に以下のエラーメッセージが続けて出力されていませんか。

【メッセージ1】

```
ソース:Service Control Manager
イベントID:7000
説明:Systemwalker XXXXXX サービスは次のエラーのため開始できませんでした:
ログオンに失敗したため、サービスを開始できませんでした。
```

【メッセージ2】

```
ソース:Service Control Manager
イベントID:7001
説明:Systemwalker YYYYYY サービスが依存しているSystemwalker XXXXXX サービスは次のエラー
のため開始できませんでした:
ログオンに失敗したため、サービスを開始できませんでした。
```

【メッセージ3】

```
ソース:Service Control Manager
イベントID:7001
説明:Systemwalker ZZZZZ サービスが依存しているSystemwalker YYYYYY サービスは次のエラー
のため開始できませんでした:
依存関係サービスまたはグループを起動できませんでした。
```

※【メッセージ1】→【メッセージ2】→【メッセージ3】の順に出力されます

※【メッセージ2】および【メッセージ3】は出力されないこともあります。

原因

Windows版で、システムの起動時に高負荷な状態が発生したことにより、OSのサービスコントロールマネージャがサービスの起動に失敗する場合があります。

対処方法

「対処1-3」の対処方法を参照して対処してください。

対処2

エラーメッセージ

MpAofsB ID:1005 説明: DLL(f1egopag.dll)のオープンに失敗しました。理由: 指定されたプロシージャが見つかりません

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降

確認ポイント

環境変数pathが最大長を超えていませんか。

原因

環境変数pathが最大長を超えているため、Systemwalkerに必要なモジュールが参照できなくなったために発生します。

対処方法

環境変数pathの不要な定義を削除してください。

3.1.9 Systemwalker Centric Manager のサービスが起動できない

対処1

エラーメッセージ

参照されたアカウントはロックアウトされたため現在ログオンできません。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Manager 個々のサービスのログオンアカウントを変更したために発生します。

対処方法

Systemwalker Centric Managerの各サービスで設定したログオンアカウントを、正常動作していた際に設定していたアカウント、パスワードに戻してください。

対象アカウントのパスワードを変更した場合、サービスのログオンアカウントのパスワードも変更してください。V10.0L20/10.1以降の場合は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“アカウントの変更(Windows(R))”または“アカウントの変更【Windows】”を参照して、スタートアップアカウントを変更してください。

対処2

エラーメッセージ

xxxサービスは次のエラーのため開始できませんでした:
ログオンに失敗したため、サービスを開始できませんでした。

xxx: 起動に失敗したSystemwalker Centric Managerのサービス名

なお、OSによりメッセージが異なることがあります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Windows for Itanium版:V13.0.0以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerのスタートアップアカウントに指定したアカウントのパスワードを変更していませんか。Systemwalker Centric Manager 個々のサービスのログオンアカウントを変更したために発生します。

原因

スタートアップアカウントに指定したアカウントのパスワードのみを変更した場合、Systemwalker Centric Managerのサービスのログオン情報として設定しているパスワードやSystemwalker Centric Managerが保持しているパスワード情報が一致しないため、起動に失敗します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- パスワードを変更する前のパスワードに戻す。
- スタートアップアカウントのパスワード変更手順に従い、パスワードの変更作業を実施する。

V10.0L20/10.1以降でのスタートアップアカウントのパスワード変更手順に関しては、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“アカウントの変更(Windows(R))”または“アカウントの変更【Windows】”を参照してください。

3.1.10 Systemwalker Centric Managerの起動で「ホスト名の取得に失敗した」と出力される

Systemwalker Centric Manager起動時に、ホスト名の取得に失敗した場合、エラーメッセージが出力されます。

エラーメッセージ

apaagt:ERROR:0525:アプリケーション管理通信制御がホスト名の取得に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30

確認ポイント

[システム監視設定]-[通信環境定義]の[メッセージ送信先システム]に指定されたホスト名が名前解決されていますか(IPアドレスを求めることができますか)。

対処方法

[メッセージ送信先システム]に指定しているホスト名をhostsファイルに登録するか、または名前解決できるホスト名を指定してください。

3.1.11 Systemwalker Centric Manager の起動時に、MpFwbsサービスの起動が失敗する

対処1

エラーメッセージ

Systemwalker Centric Manager の起動時に、MpFwbsサービスの起動が失敗し、イベントログにエラーメッセージが出力される。

```
MpFwbs[426]:65000003:起動が失敗しました。  
OD: エラー: od30102:ネーミングサービスの起動に失敗しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

- Systemwalker Centric Managerのインストールドライブに、十分な空き容量があることを確認してください。
- 以下のファイルサイズが"0"になっていないかどうかを確認してください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpobjdsv¥etc¥CosNaming  
¥ObjectRepository
```

原因

インストールドライブの容量不足の状態、Systemwalker Centric Manager 起動を行ったため、起動時の"ObjectRepositoryファイル"更新処理が正常に行われなかった場合に、本現象が発生します。

対処方法

対処前に、空き容量を増やす必要があります。必要容量については、“Systemwalker Centric Manager 解説書”の“ディスク容量”および“メモリ容量”を参照し、該当する環境に合わせて準備してください。

以下の手順で復旧してください。

1. 以下のコマンドで、Systemwalker Centric Manager を停止します。

```
pcentricmgr
```

2. コントロールパネルの[サービス]ダイアログでOD_startサービスを停止します。
Naming Service も停止されます。問合せのダイアログで「はい」を選択してください。
3. 以下のファイルを削除します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpobjdsv¥etc¥config
```

4. 対象ファイルを別名でコピーします。

ー コピー元ファイル名

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpobjdsv¥etc¥config.default
```

ー コピー作成ファイル名

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpobjdsv¥etc¥config
```

5. 以下のファイルを編集します。

ー ファイル名

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥var  
¥MpFwsetup_param.prm
```

ー 編集内容

```
OD_SETUP_FLAG=ON ← OFF に変更
```

6. 以下のコマンドを実行し、セットアップを実施します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥bin¥MpFwSetup.exe
```

→ポップアップメニューより[Systemwalker Centric Manager環境作成]を選択し、環境構築を実施してください。

7. 以下のコマンドで、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

2.で停止させたサービスは、scentricmgrコマンドの実行により起動されるため、個別に起動させる必要はありません。



注意

- ・ Interstageと共存する環境の場合は、当対処を行うことはできません。
- ・ 手順は、データベースや各種設定は変更せず、通信基盤部の設定を再定義する方法となります。

対処2

エラーメッセージ

```
MpFwbs[xxx]:1000003:SystemWalker基本フレームワークの起動時にタイムアウトが発生しました  
(xxx.xxx)。起動処理を中止します。
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - ー Windows版:V5.0L30～V10.0L10
 - ー Solaris版:5.2以降
 - ー Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

MpFwSetupInfo (SystemWalkerセットアップ情報表示コマンド)を使用してそれぞれのDBの設定値を表示し、ログデータベースが上限値を超えた値で作成されていないか確認してください。

1. 上限値の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“データベース領域の詳細見積もり式”を参照してください。

2. 現在の設定値は以下のコマンドを使用して確認してください。

ー Windows

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥bin  
¥MpFwSetupInfo
```

ー Solaris/Linux

```
/opt/systemwalker/bin/MpFwSetupInfo
```

原因

フレームワークのデータベースを作成する際、ログデータベーススペースを上限を超えた値で作成していた場合、Systemwalker Centric Manager起動時に最新のイベント情報の検索処理に時間がかかり、フレームワークの起動のタイムアウト時間を超過して、起動に失敗する場合があります。

ただし、ログデータベーススペースの上限サイズは、処理性能を考慮して設定している値であり、おおよその目安です。現象発生はマシン性能や、ログデータベーススペースの使用量にも左右されます。

対処方法

- ・ クラスタ運用していない環境の場合



本対処手順には監視イベント/監視メッセージの初期化が含まれるため、ログデータベース内の情報(イベント情報等)は削除されますので注意してください。なお、リポジトリ(※)領域は削除されません。

※リポジトリ: Systemwalkerで管理する情報(ノード情報、セグメント情報、アプリケーション情報、各機能のポリシー情報)を格納するデータベースです。

[Windows]

1. 環境作成を行ったユーザでログオンします。
2. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Manager を停止します。

```
pcentricmgr
```

3. タスクマネージャで以下のプロセスが存在しないことを確認します。

```
MpFwems.exe  
MpFwemsd.exe  
MpFwls.exe  
MpFwlsd.exe
```

存在している場合は、タスクマネージャからプロセスを停止してください。

4. 監視イベント/監視メッセージを初期化します。
 1. 以下のコマンドを実行し、セットアップメニューを起動します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥bin  
¥MpFwSetup.exe
```

[V5.0L30～V10.0L10]の場合は、以下の方法でも起動できます。

[スタートメニュー]-[SystemWalker_CentricMGR]-[環境設定]-[SystemWalker_CentricMGR セットアップ]を起動します。

2. セットアップメニュー(初期メニュー)において、「保守」を選択します。
3. 保守メニューにおいて、「DB 保守」を選択します。

- DB 保守メニューにおいて、「監視イベント/監視メッセージ初期化」を選択します。
 - 「監視イベント/監視メッセージ初期化」ダイアログにおいて、「開始」を選択します。
5. ログデータベースのサイズを縮小します。
- DB 保守メニューから「DB 再作成 (Step1 データ退避)」を選択し、データの退避を行います。
退避先に必要な容量はDBの情報量により異なりますが、作成時に各DBに指定しているサイズの合計値程度の空きが確保できるドライブに実施してください。
 - データベーススペースのサイズを見積もり、DB作成先を準備します。
「監視メッセージログ」、「監視イベントログ」、「オブジェクトログ」のデータベースについて、上限値を意識した値を見積もってください。
 - DB 保守メニューから「DB 再作成 (Step2 データ域再作成)」を選択し、データベースの再作成を行います。

注意

この場合、「リポジトリ(※)領域」のサイズは縮小しないでください。

※リポジトリ: Systemwalkerで管理する情報(ノード情報、セグメント情報、アプリケーション情報、各機能のポリシー情報)を格納するデータベースです。

- DB 保守メニューから「DB 再作成 (Step3 データ復元)」を選択し、退避したデータでデータベースをリストアします。
上記“1.”で退避したデータ退避場所を指定し、データベースをリストアしてください。
6. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Manager を起動します。

```
scentricmgr
```

[Solaris/Linux]

- スーパーユーザになります。
- 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

- 監視イベント/監視メッセージを初期化します。
 - 以下のコマンドを実行し、セットアップメニューを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/MpFwSetup
```
 - セットアップメニュー(初期メニュー)において、「保守」を選択します。
 - 保守メニューにおいて、「DB 保守」を選択します。
 - DB 保守メニューにおいて、「監視イベント/監視メッセージ初期化」を選択します。
 - 確認メッセージが表示されるので、問題なければ“y”を入力し、処理を実行します。
- ログデータベースのサイズを縮小します。

[Solaris]

- 以下のコマンドを実行し、セットアップメニューを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/MpFwSetup
```

- セットアップメニュー(初期メニュー)において、「保守」を選択します。
- 保守メニューにおいて、「DB 保守」を選択します。
- DB 保守メニューから「DB 再作成 (Step1 データ退避)」を選択し、データの退避を行います。

注意

退避先に必要な容量はDBの情報量により異なりますが、作成時に各DBに指定しているサイズの合計値程度の空きが確保できるドライブに実施してください。

5. データベーススペースのサイズを見積もり、DB作成先を準備します。
6. DB 保守メニューから「DB 再作成 (Step2 データ域再作成)」を選択し、データベースの再作成を行います。
データベースサイズ指定時、最大値を意識した値を設定してください。
7. DB 保守メニューから「DB 再作成 (Step3 データ復元)」を選択し、退避したデータでデータベースをリストアします。
上記“4.”で退避したデータ退避場所を指定し、データベースをリストアしてください。

[Linux]

1. “Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“バックアップ”を参照し、運用環境の退避を実施します。
2. “Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“アンインストール前の作業”を参照し、運用環境の削除を実施します。
その際、アンインストールは行わないでください。
3. データベーススペースのサイズを見積もり、DB作成先パーティションを準備します。
4. “Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“Systemwalker Centric Managerの環境を復元する”を参照し、運用環境を復元してください。
データベースサイズ指定時、最大値を意識した値を設定してください。
5. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

- クラスタ運用している環境の場合

実行手順について詳細な調査が必要なため、技術員に連絡してください。

対処3

エラーメッセージ

Systemwalker Centric Managerの起動時に以下のメッセージがログ(messages)へ出力されます。

```
MpFwems[xxxx]: エラー: 50000014: アドオンの起動に失敗しました。(アドオンライブラリ名=libMpUpdateaddon.so 理由=-1)
MpFwems[xxxx]: エラー: 50000014: アドオンの起動に失敗しました。(アドオンライブラリ名=libMpAoladdon.so 理由=-7)
MpFwems[xxxx]: エラー: 50000014: アドオンの起動に失敗しました。(アドオンライブラリ名=libMpOpaddMgr.so 理由=-7)
MpFwls[xxxx]: エラー: 65000005: 内部エラーにより停止しました。(-1)
MpFwems[xxxx]: エラー: 50000011: 内部エラーが発生しました。(操作名=MpFwemsd 理由=-7)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

以下のファイルが存在することを確認してください。Systemwalker Centric Manager では、当OS保有ファイルを変更する操作は一切行っておりません。何らかの契機で、削除または変更等の操作が行われている場合は、その原因を取り除く必要があります。

```
•Solaris 7 以前
/var/adm/utmp
```

```
/var/adm/utmpx
/var/adm/wtmp
/var/adm/wtmpx
•Solaris 8 以降
/var/adm/utmpx
/var/adm/wtmpx
```

原因

Systemwalker Centric ManagerのRDBを利用しているアプリケーション(MpFwamslほか多数)が、getutid関数を使用してシステム起動時間を取得する際に、システム起動時間保有ファイルが存在しない、または該当ファイルからシステム起動時間が取得できなかった場合に、本現象が発生します。

getutid関数は以下のOS保有ファイルより、システム起動時間を取得します。

```
•Solaris 7 以前
/var/adm/utmp
/var/adm/utmpx
/var/adm/wtmp
/var/adm/wtmpx
•Solaris 8 以降
/var/adm/utmpx
/var/adm/wtmpx
```

対処方法

システムを再起動してください。システム再起動により、該当ファイルにシステム起動時間が出力されるため、現象が回避されます。

Systemwalker Centric Managerのサービスが動作している間は、以下のログイン記録ファイルの削除を行わないでください。

```
•Solaris 7 以前
/var/adm/utmp
/var/adm/utmpx
/var/adm/wtmp
/var/adm/wtmpx
•Solaris 8 以降
/var/adm/utmpx
/var/adm/wtmpx
```

なお、上記ファイルの操作は、本現象に限らず、getutid関数を使用するアプリケーションすべての動作に影響を与えるものです。

対処4

エラーメッセージ

```
qdg02812u:RDBIIシステムが運用中または起動/停止途中です (システム名=CENTRIC)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V13.1.0～V13.5.0B

確認ポイント

以下の3つの条件を満たしていますか

- バージョンV9.1.0以前のSymfoware Serverがインストールされている。
バンドル版のSymfoware Serverの場合、V13.2以前のSymfoware Serverがインストールされている。
- Windows ターミナルサービスクライアントまたはリモートデスクトップ接続をリモートセッションで利用して、以下のどちらかの操作を実施する。
 - バックアップ
 - 保守情報収集ツール
 リモートで上記対象の機能を直接操作する、もしくはリモートで接続後にログオフしない状態(Xボタンで接続終了した場合など)で、タスクスケジューラ等を利用して上記対象の機能を操作する。
- Systemwalker Centric Managerを再起動した。

原因

対象のSymfoware Serverは、Windows ターミナルサービスクライアントまたはリモートデスクトップ接続をリモートセッションで利用した場合の操作をサポートしていません。

対処方法

Systemwalker Centric Managerの再起動では復旧できないため、OSを再起動してください。

また、Windows ターミナルサービスクライアントまたはリモートデスクトップを利用する場合は、コンソールセッションを利用してください。

3.1.12 IPC資源を使用する製品をインストールしている環境で、Systemwalker Centric Managerの起動に失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

カーネルパラメタが正しく設定されていない可能性があります。

IPC資源を利用する複数の製品が同一のサーバに共存する場合、Systemwalker Centric ManagerのIPC使用量と、ほかの製品のIPC使用量両方を考慮したパラメタ設定が必要です。

対処方法

Solaris版の場合

カーネルパラメタに誤りがあった場合、設定しなおしてください。

両製品の使用量を加算した値を設定すべきパラメタか、最大値を設定すべきパラメタかは、以下の情報を参照してください。

SVR4 IPC資源のパラメタ

[共有メモリ]

パラメタ	説明	値	種別
shmsys:shminfo_shmmax	共有メモリセグメントの最大サイズ	62075699 2	最大値
shmsys:shminfo_shmmni	システム全体で作成できる共有メモリセグメントの最大数	512	加算
shmsys:shminfo_shmseg	プロセスごとの共有メモリセグメント数(注1)	512	最大値

[メッセージキュー]

パラメタ	説明	値	種別
msgsys:msginfo_msgmap	message マップ内のエントリ数(注2)	式1	加算
msgsys:msginfo_msgmax	メッセージの最大サイズ	16384	最大値
msgsys:msginfo_msgmnb	待ち行列上の最大byte数	32768	最大値
msgsys:msginfo_msgmni	メッセージ待ち識別子の数	1024	加算
msgsys:msginfo_msgtql	メッセージのヘッダ数(注3)	式2	加算
msgsys:msginfo_msgseg	メッセージセグメント数(注4)	32767	加算

[セマフォ]

パラメタ	説明	値	種別
semsys:seminfo_semmap	セマフォマップ内のエントリ数(注4)	2050	加算
semsys:seminfo_semmni	セマフォ識別子の数	2048	加算
semsys:seminfo_semmns	システム内のセマフォ数	2048	加算
semsys:seminfo_semmnu	システム内のundo構造体の数	2048	加算
semsys:seminfo_semmsl	セマフォ識別子ごとの最大セマフォ数	256	最大値
semsys:seminfo_semopm	セマフォコールごとの最大操作数	100	最大値
semsys:seminfo_semume	プロセスごとの最大undoエントリ数	2048	最大値

ファイルディスクリプタの設定パラメタ

[入出力]

パラメタ	説明	値	種別
Rlim_fd_max	ファイル記述子数限度	1024	最大値
rlim_fd_cur	ファイル記述子数	1024	最大値

注1)Solaris 9 以降では設定不要です。

注2)Solaris 8 以降では設定不要です。式1の詳細は、以下のとおりです。

式1 = msgtqlのチューニング値+2

注3)式2の詳細は、以下のとおりです。

式2 = 資源配付の通信宛先数 + 20 + msgmnbのチューニング値/100

注4)Solaris 8 以降では設定不要です。

Linux版の場合

システムパラメタのチューニング値(運用管理サーバ)

運用管理サーバでは、システムパラメタのチューニングを行う必要があります。チューニングが必要なシステムパラメタとその値については、以下の表を参照してください。パラメタにより、既に設定されている値(デフォルト値)に加算する場合と、既に設定されている値と比較し大きい方の値(最大)を設定する場合があります。(加算の場合、設定のシステム上限値も確認してください。)

詳細についてはOSのマニュアル等を参照してください。

[セマフォ]

セマフォの設定値は、各パラメタ値を以下の形式で指定します。

kernel.sem = para1 para2 para3 para4

パラメタ	説明	値	種別
para1	セマフォ識別子あたりの最大セマフォ数	113	最大
para2	システム全体のセマフォ数	2745	加算
para3	セマフォコールあたりの最大演算子数	50	最大
para4	システム全体のセマフォ識別子数	2509	加算

[メッセージキュー]

パラメタ	説明	値	種別
kernel.msgmnb	1つのメッセージキューに保持できるメッセージの最大値	32768	最大
kernel.msgmni	メッセージキューIDの最大値	545	加算
kernel.msgmax	メッセージの最大サイズ	16384	最大

[共有メモリ]

パラメタ	説明	値	種別
kernel.shmmni	共有メモリセグメントの最大サイズ	21197	加算
kernel.shmmax	共有メモリの最大セグメントサイズ	15117192	最大

3.1.13 Volume Manager、SafeDISK、PRIMECLUSTER GDSなどのディスク管理製品を使用している環境で、Systemwalker Centric Managerの起動に失敗する

エラーメッセージ

MpFwSetup: SystemwalkerCentricMGR起動は異常終了しました。
 MpPmonC: WARNING: 10023: Systemwalker Centric Managerのプロセス監視(Cluster)において、監視対象のプロセス[MpFwams]が失われたためフェイルオーバーします。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版: 5.0以降
 - Linux版: V11.0L10以降

原因

自動マウントの設定がされていない可能性があります。

Volume Manager、SafeDISKなどのディスク管理製品を使用している環境では、デバイス名が製品ごとに異なるため、環境構築の処理の中で、RDB管理情報パーティション(/SWFWDB)の自動マウント設定は行われません。

対処方法

Solaris版

運用管理サーバを起動する前に、“/etc/vfstab”に正しいデバイス名を設定し、RDB管理情報パーティション(/SWFWDB)をマウントしてください。PRIMECLUSTER 4.2A00以前の場合は、/etc/vfstabを修正してください。PRIMECLUSTER 4.3A10以降の場合は、“/etc/vfstab”と“/etc/vfstab.pcl”を修正してください。

詳細は、Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド(UNIX編)を参照してください。

“/etc/vfstab”の設定方法は以下のとおりです。

- [例:PRIMECLUSTER GDS]

以下の行を、“/etc/vfstab”の最後に追加します。

```
/dev/sfdsk/class01(※)/dsk/vol01(※) /dev/sfdsk/class01(※)/rdsk/vol01(※) /SWFWDB ufs 2 yes -
```

※PRIMECLUSTER GDSにより定義した値を設定してください。

/dev/sfdsk/class01/dsk/vol01:

ファイルシステム用のブロックデバイス名

PRIMECLUSTER GDSで定義したデバイス名を、ブロック型(dsk)で指定します。

/dev/sfdsk/class01/rdsk/vol01:

ファイルシステムに対するraw(キャラクタ型)デバイス名

PRIMECLUSTER GDSで定義したデバイス名を、キャラクタ型(rdsk)で指定します。

/SWFWDB:

デフォルトのマウントポイントディレクトリ(固定)

ufs:

ファイルシステムタイプ(固定)

2:

“fsck”がファイルシステムをチェックするために使用するパス番号(固定)

yes:

システムの起動時に、ファイルシステムが“mountall”によって自動的にマウントするか指定します。

— 通常運用の場合“yes”(固定)

— SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER運用の場合“no”

-:

ファイルシステムのマウントに使用されるオプションを“,”で区切ったリスト(固定)

- [例:Solaris VolumeManager]

以下の行を、“/etc/vfstab”の最後に追加します。

```
/dev/md/dsk/d0(※) /dev/md/rdsk/d0(※) /SWFWDB ufs 2 yes -
```

※Solaris VolumeManagerにより定義した値を設定してください。

/dev/md/dsk/d0:

ファイルシステム用のブロックデバイス名

Solaris VolumeManagerで定義したデバイス名を、ブロック型(dsk)で指定します。

/dev/md/rdsk/d0 /SWFWDB:

ファイルシステムに対するraw(キャラクタ型)デバイス名

Solaris VolumeManagerで定義したデバイス名を、キャラクタ型(rdsk)で指定します。

/SWFWDB:

デフォルトのマウントポイントディレクトリ(固定)

ufs:

ファイルシステムタイプ(固定)

2:

“fsck”がファイルシステムをチェックするために使用するパス番号(固定)

yes:

システムの起動時に、ファイルシステムが“mountall”によって自動的にマウントするか指定します。

- 通常運用の場合“yes” (固定)
- SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER運用の場合“no”

:-:

ファイルシステムのマウントに使用されるオプションを“,”で区切ったリスト (固定)

• [例: SafeFILE]

“RDB管理情報デバイス名” (SystemwalkerDBファイルシステムのデバイス名)を、“sfxnews”コマンドで作成したファイルシステム“/FUJITSU1”に自動マウントするように設定します。設定方法は、“/etc/vfstab”ファイルに、“/FUJITSU1”のエントリを追加します。

以下の行を、“/etc/vfstab”の最後に追加します。

```
/dev/sfdsk/gfs/dsk/vol01(※) /dev/sfdsk/gfs/rdsk/vol01(※) /FUJITSU1 sfxfs 2 yes -
```

※PRIMECLUSTER GDSにより定義した値を設定してください。

/dev/sfdsk/gfs/dsk/vol01:

ファイルシステム用のブロックデバイス名

PRIMECLUSTER GDSで定義したデバイス名を、ブロック型(dsk)で指定します。

/dev/sfdsk/gfs/rdsk/vol01:

ファイルシステムに対するraw (キャラクタ型) デバイス名

PRIMECLUSTER GDSで定義したデバイス名を、キャラクタ型(rdsk)で指定します。

/FUJITSU1:

デフォルトのマウントポイントディレクトリで作成した任意のマウントポイント名

sfxfs:

ファイルシステムタイプ (固定)

2:

“fsck”がファイルシステムをチェックするために使用するパス番号 (固定)

yes:

システムの起動時に、ファイルシステムが“mountall”によって自動的にマウントするか指定します。

- 通常運用の場合“yes” (固定)
- SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER運用の場合“no”

:-:

ファイルシステムのマウントに使用されるオプションを“,”で区切ったリスト (固定)

Linux版

運用管理サーバを起動する前に、“/etc/fstab”に正しいデバイス名を設定し、RDB 管理情報パーティション(/SWFWDB)をマウントしてください。“/etc/fstab”の設定方法は以下のとおりです。PRIMECLUSTER 4.2A00以前の場合は、/etc/vfstabを修正してください。PRIMECLUSTER 4.2A30以降の場合は、“/etc/vfstab”と“/etc/fstab.pcl”を修正してください。

詳細は、Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド(UNIX編)を参照してください。

• [例: Linux Logical Volume Manager]

以下の行を、“/etc/fstab”の最後に追加します。

```
/dev/dm/SWDB1(※) /SWFWDB ext3 defaults 0 0
```

※Linux Logical Volume Manager により定義した値を設定してください。

- /dev/dm/SWDB1
ファイルシステム用のブロックデバイス名
- /SWFWDB
デフォルトのマウントポイントディレクトリ(固定)
- ext3
ファイルシステムタイプ(固定)
- defaults
システムの起動時に、ファイルシステムが“mount -a”によって自動的にマウントするか指定します。
 - 通常運用の場合“defaults”(固定)
 - SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER 運用の場合“noauto”(固定)
- 0
5番目のフィールドはこのファイルシステムを dumpコマンドがダンプする必要があるかを決定するために用いられる。(固定)
 - 存在しない、または値が0であった場合のdumpコマンドはそのファイルシステムのダンプを行わない。
- 0
6番目のフィールドはブート時にfsckプログラムが、ファイルシステムのチェックを実行する順序を決定するためのもの。(固定)
 - 存在しない、または値が0であった場合はfsckはチェックを行わない。

注意

クラスタ運用の場合、クラスタセットアップコマンド(mpsupclt)実行前に、RDB管理情報専用パーティションをマウントし、クラスタセットアップ(各機能のデータベース作成を含む)の完了後にアンマウントする必要があります。

3.1.14 DBスペースの一部がアクセス禁止状態もしくは初期化が完了していない状態になり、Systemwalker Centric Managerの起動に失敗する

エラーメッセージ

以下のどちらかのメッセージが表示されます。

```
qdg12148e:SQL文の実行で重症エラーを検出しました: "JYP5011E スキーマ“XXXXXX”の表
“DATATBL”内に定義されている
DSI“MPXXXXXXXXXX”がアクセス禁止状態です。
```

```
qdg12148e:SQL文の実行で重症エラーを検出しました:JYP5002E スキーマ“xxxxxx”の表“DATATBL”
内に定義されているDSI“xxxxxyyyyyy”の初期化が完了していません. '(システム名=CENTRIC)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

確認ポイント

- Windows版の場合
イベントログを調査し、上記のエラーメッセージが出力されていませんか。
- Solaris版の場合
以下のファイルを開いて該当するエラーメッセージが出力されていませんか。

```
/SWFWDB/core/rdbreport
```

原因

DSIの切り替え中に、コンピュータまたはディスク装置の電源が切断されたため発生します。

対処方法

- Windows版の場合

[V10.0L20以前]

- 環境作成を行ったユーザでログオンしてください。
- 以下のコマンドを実行して、Systemwalker Centric Managerを停止してください。

```
pcentricmgr
```

- スタートメニューから[Systemwalker_CentricMGR] - [環境設定] - [Systemwalker_CentricMGR セットアップ]を起動してください。
- 以下の項目を選択します。
 - 初期メニュー:[保守]
 - 保守メニュー:[DB 保守]
 - DB 保守メニュー:[監視イベント/監視メッセージ初期化]
- [監視イベント/監視メッセージ初期化]ダイアログボックスで、[開始]を選択してください。

注意

[監視イベント/監視メッセージ初期化]によりログデータベース内の情報(イベント情報など)が削除されますので注意してください。リポジトリ領域(構成情報など)は削除されません。

- コントロールパネルから[サービス]ダイアログボックスを開きサービス[SymfoWARE RDB]を停止してください。
- 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動してください。

```
scentricmgr
```

[V10.0L21以降]

- 環境作成を行ったユーザでログオンしてください。

環境作成を行ったユーザを忘れてしまった場合、SystemWalker セットアップ情報表示コマンド(MpFwSetupInfo)で確認してください。Systemwalker セットアップ情報表示コマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。
- サービス停止コマンド(pcentricmgr)を実行し、Systemwalker Centric Managerを停止してください。

サービス停止コマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。
- 以下の手順により、監視イベント/監視メッセージを初期化してください。

- 以下のコマンドを実行して[セットアップメニュー]を表示します。

```
%install%\MPWALKER.DM\MpFwbs\bin\MpFwSetup.exe
```

%install%は Systemwalker Centric Manager のインストール先です。

- セットアップメニューにおいて、[DB 保守]を選択してください。
- DB 保守メニューにおいて、[監視イベント/監視メッセージ初期化]を選択してください。
- [監視イベント/監視メッセージ初期化]ダイアログにおいて、[開始]を選択してください。

注意

[監視イベント/監視メッセージ初期化]によりログデータベース内の情報(イベント情報など)が削除されますので注意してください。リポジトリ領域(構成情報など)は削除されません。

5. Systemwalker Centric Manager セットアップを終了してください。

4. コントロールパネルから[サービス]ダイアログボックスを開きサービス"SymfoWARE RDB"を停止してください。

5. サービス起動コマンド(scentricmgr)を実行し、Systemwalker Centric Managerを起動してください。

サービス起動コマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

• Solaris版の場合

— rootでログインしてください。

— 以下のコマンドを実行し Systemwalker Centric Manager を停止してください。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

— 以下のコマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/MpFwSetup
```

— 以下の項目を選択します。

- 初期メニュー:[保守]
- 保守メニュー:[DB 保守]
- DB 保守メニュー:[監視イベント/監視メッセージ初期化]

注意

[監視イベント/監視メッセージ初期化]によりログデータベース内の情報(イベント情報など)が削除されますので注意してください。リポジトリ領域(構成情報など)は削除されません。

— 以下のコマンドを実行し Systemwalker Centric Manager を起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

• 上記手順を実施しても回復しない場合

— バックアップが存在する場合は、バックアップデータをリストアしてください。

— バックアップがない場合は、環境の再構築をしてください。

3.1.15 Systemwalker Centric Managerの起動で「通信部との接続処理でエラーが発生した」とsyslogに出力され、アプリケーション管理が起動できない

対象バージョンレベル

• Systemwalker Centric Manager

— Windows版:V5.0L10以降

— Solaris版:5.0以降

— Linux版:V11.0L10以降

エラーメッセージ

```
apamc: エラー: 107:通信部との接続処理でエラーが発生しました。APA_Mcconnect_agent SocketDsc = 0
apamc: エラー: 107:MC not connect to communication process.APA_Mcconnect_agent SocketDsc = 0
```

確認ポイント

- Windows版

運用管理サーバにおいて、以下のサービスが起動していますか。

```
SystemWalker Mpapagt
```

- Solaris版

運用管理サーバにおいて、以下のデーモンが起動していますか。

```
ps -ef | grep APA_CO
```

原因

アプリケーション管理サービス起動時に、ネットワークの高負荷等で通信できない状態になったためです。

対処方法

確認ポイントで確認した、サービス、または、デーモンが起動していない場合は、以下の方法にて、手動で起動してください。

※通常リトライ処理によりアプリケーション管理サービスの復旧を行います。ネットワーク高負荷の状態が継続した場合は起動できない場合があります。その場合はネットワークの負荷が軽減したときに起動してください。

- Windows版

以下のサービスを起動します。

```
SystemWalker Mpapagt
```

- Solaris版

スーパーユーザ権限で、以下のコマンドを起動します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

3.1.16 「MPHD0105: ヘルプデスクのサーバ設定に従い、ヘルプデスク機能は使用できません」と出力される

Systemwalker Centric Manager起動時に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～V13.2.0
 - Linux版:V11.0L10以降～V13.2.0

エラーメッセージ

```
MpHlpmn: INFO: MPHD0105: ヘルプデスクのサーバ設定に従い、ヘルプデスク機能は使用できません。
```

原因

[ヘルプデスクサーバ設定]の“ヘルプデスク機能の使用”のチェックがOFFになっています。

対処方法

- ヘルプデスクを使用する場合
[ヘルプデスクサーバ設定]で、“ヘルプデスク機能の使用”をチェックします。
- ヘルプデスクを使用しない場合（過去にヘルプデスク環境を構築していたが削除した場合）
以下のファイルが存在する場合、削除してください。
 - /opt/FJSVshlps/SFW/ossetupd または
 - /opt/FJSVshlps/SFW/ossetup
- ヘルプデスクを使用しない場合
特に作業する必要はありません。なお、当メッセージを抑止する方法はありません。

3.1.17 「MPHD0105(またはMPHD0106): ヘルプデスクのオプション設定に従い、担当者通知機能/エスカレーション機能は使用できません。」と出力される

Systemwalker Centric Manager起動時に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～V13.2.0
 - Linux版:V11.0L10～V13.2.0

エラーメッセージ

- Solaris版 5.0～10.1

MpHlpdmn: INFO: MPHD0105: ヘルプデスクのオプション設定に従い、担当者通知機能/エスカレーション機能は使用できません。

- Solaris版 11.0 および Linux版 V11.0L10以降

MpHlpdmn: INFO: MPHD0106: ヘルプデスクのオプション設定に従い、担当者通知機能/エスカレーション機能は使用できません。

原因

[オプション定義]ダイアログボックス-[エスカレーション]タブの“担当者通知機能/エスカレーション機能を使用する”のチェックがOFFになっています。

対処方法

- 担当者通知機能/エスカレーション機能を使用する場合
[オプション定義]ダイアログボックス-[エスカレーション]タブの“担当者通知機能/エスカレーション機能を使用する”をチェックします。
- 担当者通知機能/エスカレーション機能を使用しない場合
特に作業する必要はありません。なお、当メッセージを抑止する方法はありません。

3.1.18 KERNEL32.DLLの初期化エラーが発生し、SystemWalker/CentricMGRのプロセスが起動できない

エラーメッセージ

ダイナミックリンクライブラリ C:\WINNT\system32\KERNEL32.dllの初期化に失敗しました。プロセスは異常終了します。

なお、ダイナミックライブラリ名が、COMCTL32.DLLまたは、USER32.DLLで表示される場合もあります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

SystemWalker/CentricMGRなどのサービスから起動されるコンソールアプリケーションのリソースはデフォルトのDesktop heap域に確保されるので、多量にプロセスを起動するとDesktop heapの領域が枯渇し、「Kernel32.dllの初期化エラー」が発生と同時にプロセス作成に失敗します。

【参考情報】

Microsoft社のサポート技術情報に、User32.dll、Kernel32.dllの初期化失敗に関する情報が掲載されております。下記URLをご参照ください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;184802>

対処方法

システムのパラメタを変更してください。

IISにて以下の機能を使わない場合は、レジストリの変更(注)をご検討ください。

- CGI アプリケーション
- ISAPI アプリケーション
- COM オブジェクト

修正前

```
ハイブ:HKEY_LOCAL_MACHINE
キー: System\CurrentControlSet\Control\Session Manager\SubSystems
値名: Windows
パラメタ: SystemRoot\system32\csrss.exe ~
          ~ SharedSection=1024,3072,512
```

修正後

```
パラメタ: SystemRoot\system32\csrss.exe ~
          ~ SharedSection=1024,3072
```

注)

レジストリは Windows NT システムの非常に重要なファイルです。レジストリの編集を誤ると、Windows NTが起動しなくなる等、再セットアップを余儀なくされるような事態が発生する恐れがありますので、システムのバックアップを行うなど十分に注意して変更してください。

上記の対処の採用が困難な場合は、資源の配付/インベントリ情報の収集について、運用形態/要件を配慮の上、以下に示す配付多重度または受信多重度のチューニング(絞り込み)による対処を実施願います。

[配付多重度](資源の配付)

- 同時実行させるdrmsndコマンド数の削減と実行方式の変更(非同期型→同期型)
- drmsnd コマンドで指定する配付宛て先数の削減
- drms編集ファイルに指定するservmax オプション(同時接続サーバ数)の指定値削減

[受信多重度](配付結果の受信/インベントリ情報の受信)

- ー 同時通知される配下サーバ台数の削減
(スケジュール文における通知時間の指定を考慮し、通知の集中を回避)
- ー drms編集ファイルに指定するservnum オプション(同時受信処理サーバ数)の指定値削減

3.1.19 運用管理サーバでSystemwalker Centric Manager起動時にCPU使用率が高くなっている

対処1

運用管理サーバのSystemwalker Centric Manager起動時に以下のような現象が発生します。

- ・ 運用管理サーバのCPU使用率が高い状態にある
- ・ サーバ性能監視時には、「監視項目(Percentage of CPU usage)の値が上方異常レベルを上回りました。」という警告メッセージが表示されることがある

エラーメッセージ

監視項目(Percentage of CPU usage)の値が上方異常レベルを上回りました。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - ー Windows版:V5.0L10以降
 - ー Solaris版:5.0以降
 - ー Linux版:5.2、V10.0L10以降

確認ポイント

- ・ アプリケーション管理で監視しているアプリケーション数の総数が2000個を大幅に超えていないか確認してください。
- ・ rdb2baseプロセスのCPU使用率が高い状態にないか確認してください。

原因

運用管理サーバのSystemwalker Centric Manager起動時にアプリケーション管理で監視しているアプリケーション数に比例して、内部利用しているSymfoWARE(rdb2base)へのアクセス処理が増加します。このため、監視しているアプリケーション数が推奨上限値である2000個を大幅に超えている場合、SymfoWARE(rdb2base)への多数のアクセス処理が発生し、SymfoWARE(rdb2base)のCPU使用率が高い状態になります。

対処方法

- ・ 監視サーバが、V5.0L30/5.2以降の場合に、総数2000個を超えるアプリケーションを監視したい場合は、以下のように稼働状況取得間隔を0分にして、稼働状態通知を、随時通知しないように設定してください。そして必要な場合だけ、Systemwalkerコンソールから、最新稼働状態の表示を操作するようにすると、パフォーマンスを下げることなく運用することができます。
 - ー 稼働ポリシー監視間隔:任意
 - ー 稼働状況取得間隔:0分
- ・ 監視するアプリケーション数の総数が2000個以下になるように減らしてください。

Systemwalker Centric Manager起動後、しばらく経過するとCPU使用率は下がります。詳細は、「Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集」の“パフォーマンスを保てるアプリケーションの監視数”を参照してください。

対処2

運用管理サーバのSystemwalker Centric Manager起動時に以下のような現象が発生します。

- ・ 運用管理サーバのCPU使用率が高い状態が続く

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V15.1.0以降
 - Linux版:V15.2.0以降

確認ポイント

以下のプロセスのCPU使用率が高い状態にないか確認してください。

【Windows版】

- rdb2base.exe
- MpFwls.exe
- MpFwwas.exe

【Linux版】

- rdb2base
- MpFwls
- MpFwwas

原因

運用管理サーバのSystemwalker Centric Manager起動時に、Systemwalker Webコンソール実行基盤が起動されます。Systemwalker Webコンソール実行基盤は、Systemwalker Webコンソールへの初回ログイン後に動作を開始し、その後はSystemwalker Webコンソール実行基盤の動作設定(interval)に従って一定間隔でポータル画面の表示データを自動取得します。このintervalの設定よりも1回の処理時間が長い場合、次の処理が連続して実行されるため、以下のプロセスのCPU使用率が高い状態が続きます。

【Windows版】

- rdb2base.exe
- MpFwls.exe
- MpFwwas.exe

【Linux版】

- rdb2base
- MpFwls
- MpFwwas

対処方法

- Systemwalker Webコンソールを利用している場合
 - Systemwalker Webコンソール実行基盤の動作設定を変更し、処理間隔を環境に合わせて延ばしてください。
設定方法の詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“Systemwalker Webコンソール実行基盤の動作設定ファイル【Windows版/Linux版】”を参照してください。
- Systemwalker Webコンソールを利用していない場合
 - Systemwalker Centric Manager を停止してから、以下のファイルを削除してください。

Windows	Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER¥mportal¥var¥repos¥config¥initialized
Linux	/var/opt/FJSVswabl/repos/config/initialized

なお、Systemwalker Operation Managerが同一マシンにインストールされている環境では、必ず“a”オプションを指定して、Systemwalker Operation Managerのサービスも同時に再起動してください。

【停止】

- Windows版

```
pcentricmgr /a(注)
```

- Linux版

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -a (注)
```

注)

Systemwalker Operation Managerと一緒にインストールされている環境の場合に指定するオプションです。本オプションを指定した場合、Systemwalker Operation Managerも同時に停止します。

【起動】

- Windows版

```
scentricmgr /a(注)
```

- Linux版

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr -a (注)
```

注)

Systemwalker Operation Managerと一緒にインストールされている環境の場合に指定するオプションです。本オプションを指定した場合、Systemwalker Operation Managerも同時に起動します。

3.1.20 Windowsのシャットダウン後の次回起動時にフレームワークの起動が失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

現象発生時に、以下のメッセージが出力され、メッセージ内の“yyyy”と“z”が両メッセージとも同じである場合、対処方法の手順で復旧する可能性があります。

- アプリケーションログを確認して、現象発生前のシャットダウン時に以下のメッセージが出力されている。

```
MpFwls[xxxx]:65000012:データベースのフォーマットに失敗しました。  
(SCHNAME=MPLSyyyy,DSINO=z)
```

- アプリケーションログを確認して、起動失敗時に以下のエラーメッセージが出力されている。

- V5.0L10～V13.6.1の場合

```
SymfoWARE RDB: エラー: xxxx:qdg03650u:入出力障害のためデータベースをアクセス禁止状態にしました DB名='SYSTEMWALKER_DB' DSI名='#MPLSyyyy#DATATBLz' ページ番号='xxxx' DBS名='SYSTEMWALKER_SP' 物理ブロック番号='xxxx'
```

xxxx : 任意の数値

- V15.0.0以降の場合

```
SWCENT RDB: エラー: xxxx:qdg03650u:入出力障害のためデータベースをアクセス禁止状態にしました DB名='SYSTEMWALKER_DB' DSI名='#MPLSyyyy#DATATBLz' ページ番号='xxxx' DBS名='SYSTEMWALKER_SP' 物理ブロック番号='xxxx'
```

xxxx : 任意の数値

原因

Windowsのシャットダウン処理では、アプリケーションの停止処理の同期を取らずに終了するため、データベースのフォーマット中に強制的にシャットダウンを行った場合、フォーマット処理が不完全な状態で終了してしまいます。

次回の起動時にデータベースが不完全なため、Symfowareが不完全な領域をアクセス禁止状態にしてしまい、参照および格納が不可能になります。

対処方法

対処方法として、以下の2つの方法があります。

- ログデータベースを初期化する

注意

ログデータベース内の情報(イベント情報等)が削除されますので注意してください。リポジトリ(※)領域(構成情報等)は削除されません。

※リポジトリ: Systemwalkerで管理する情報(ノード情報、セグメント情報、アプリケーション情報、各機能のポリシー情報)を格納するデータベースです。

1. 環境作成を行ったユーザでログオンします。
2. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr
```

3. タスクマネージャで以下のプロセスが存在しないことを確認します。

```
MpFwems.exe  
MpFwemsd.exe  
MpFwls.exe  
MpFwlsd.exe
```

存在している場合は、タスクマネージャからプロセスを停止してください。

4. 監視イベント/監視メッセージを初期化します。以下のコマンドを実行し、セットアップメニューを起動します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥bin  
¥MpFwSetup.exe
```

[V5.0L30~V10.0L10]の場合は、以下の方法でも起動できます。

1. [スタートメニュー]-[SystemWalker_CentricMGR]-[環境設定]-[SystemWalker_CentricMGR セットアップ]を起動します。
 2. セットアップメニュー(初期メニュー)において、「保守」を選択します。
 3. 保守メニューにおいて、「DB 保守」を選択します。
 4. DB 保守メニューにおいて、「監視イベント/監視メッセージ初期化」を選択します。
 5. 「監視イベント/監視メッセージ初期化」ダイアログにおいて、「開始」を選択します。
5. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

- フォーマットが失敗したデータベース領域をクリアする

1. 現象発生時には、Windowsの場合はアプリケーションログに、Solarisの場合はコンソールに以下のエラーが出力されるので、そのメッセージを確認します。

```
qdg12148e:SQL文の実行で重症エラーを検出しました:"JYP5011E スキーマ
"xxxxxxx"の表"DATATBL"内に定義されているDSI"#xxxxxxx#DATATBLy"がア
クセス禁止状態です."
```

xxxxxxx:"MPLSALM3"、"MPLSALM4"、"MPLSOBJ0" のいずれかの文字列が入ります。

y:1 ~ 8 の数字が入ります。

2. 上記の xxxxxxx と y の情報を記録します。
3. Systemwalker Centric Managerを停止します。
4. タスクマネージャで以下のプロセスが存在しないことを確認します。存在した場合は、タスクマネージャでプロセスを停止します。

```
MpFwems.exe
MpFwemsd.exe
MpFwls.exe
MpFwlsd.exe
```

5. 以下のコマンドを実行します。

```
> cd Systemwalkerインストールディレクトリ¥¥MpWalker.dm¥MpFwbs¥bin
> ¥_MpFwLsfmt xxxxxxx y 0 SYSTEMWALKER_DB
```

xxxxxxx および y は、1) で確認したエラーメッセージから取得した情報を指定します。

6. Systemwalker Centric Managerが正常に起動できることを確認します。

注意

エラー情報を参照して、コマンドの引数を設定してクリアを行うため、パラメタの設定ミスによる、誤った領域のクリアを行う可能性があります。パラメタの設定ミスにより誤った領域をクリアすると、正常なデータベース領域をクリアしてしまい、格納されているメッセージの一部が消失してしまいます。

なお、本手順では異常が発生している場所を特定してクリアするため、必要最小限のログデータのみのクリアとなります。

注意

ほかにデータベースがアクセス禁止状態になる可能性として、HDD異常等のハード障害の可能性も考えられます。

ハード障害の場合は対処手順では復旧できませんので、現象発生時はシステムログを確認してハード関連の異常の有無を確認してください。ハード異常が出力されている場合は、本対処を行う前にCEコールを行って、ハードに問題がないかどうかの調査を推奨します。

3.1.21 Windows版運用管理サーバで運用環境が構築済みのまま追加インストールを実施すると、MpFwbsサービスが起動できなくなる

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V11.0L10

確認ポイント

追加インストールを、「バックアップ」→「運用環境の削除」→「追加インストール」→「リストア」の手順で行いましたか。

原因

環境作成された状態で追加インストールを行うと、MpFwbsサービスとSymfoWARE RDBサービスの依存関係が初期化されてしまい、MpFwbsサービスが起動できなくなります。

Centric Manager V12.0L10以降で対処済みですが、V5.0L10～V11.0L10で発生する可能性があります。

対処方法

- V5.0L10～V10.0L10の場合

1. [スタート]－[設定]－[コントロール パネル]－[管理ツール] で[サービス]画面を表示し、以下のサービスを起動します。

V5.0L10～V5.0L30 : SymfoWARE RDB V10.0L10 の場合 : SymfoWARE RDB CENTRIC

2. SystemWalker/CentricMGRの資源の退避処理を実行します。
3. 運用環境を削除します。
4. 2)のバックアップを使用して運用管理サーバをリストアします。

- V10.0L20～V11.0L10の場合

1. [スタート]－[設定]－[コントロール パネル]－[管理ツール] で[サービス]画面を表示し、以下のサービスを起動します。

SymfoWARE RDB CENTRIC

2. 運用環境保守ウィザードで[運用環境の退避]を実行します。
3. 運用環境保守ウィザードで[運用環境の削除]を実行します。
4. 2)で退避したデータを使用して運用環境保守ウィザードで[運用環境の復元]を実行します。

3.1.22 flevsvc.exeのアプリケーションエラーが発生し、Mppcguiサービスが起動できない

デスクトップヒープが枯渇すると、flevsvc.exeのアプリケーションエラーが発生し、Mppcguiサービスが起動できない場合があります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降

原因

OSの設定(デスクトップヒープのサイズ)を不当な値に変更しているために発生しました。

対処方法

レジストリを修正してデスクトップヒープを拡大してください。適正値を見積もる方法はありませんので、徐々に拡大してください。

手順は以下の通りです。

1. レジストリエディタを起動します。

Windowsの[ファイル名を指定して実行]で“regedt32”と入力して[OK]ボタンを押してください。

2. SubSystemsキーに移動します。

HKEY_LOCAL_MACHINEサブツリーから次のキーに移動します。

¥System¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥SubSystems
--

3. [Windows] の値を選択します。
4. [編集] メニューで [修正] を選択します。
5. SharedSectionパラメタの値を変更し、デスクトップヒープを増加させます。
3番目の値“zzzz”を増加(256KB、または512KBずつ)させてください。

```
SharedSection=xxxx,yyyy,zzzz
```

注1) 1番目の値“xxxx”と2番目の値“yyyy”は変更する必要はありません。

注2) “zzzz”が省略されている場合、省略値は“yyyy”と同じ値になります。“yyyy”よりも大きな値を“zzzz”に設定してください。(パラメタに指定する数値の単位は“KB”です。)

— 例) 変更前

```
SharedSection=1024,3072,512
```

— 例) 変更後

```
SharedSection=1024,3072,1024
```

6. システムを再起動します。

参考

レジストリを修正して、デスクトップヒープを拡大する方法についての詳細は、「マイクロソフト サポート技術情報 - 126962」を参照してください。また、デスクトップヒープについては「マイクロソフト サポート技術情報 - 184802」を参照してください。

Windows Server 2003以降の場合、OS起動後、最初のデスクトップヒープ不足発生時点で、イベントログに「警告 243 Win32k デスクトップヒープの割り当てに失敗しました。」が出力されている場合があります。

3.1.23 共通振り分けサーバの起動に失敗する

エラーメッセージ

```
MpShrsv:エラー: 1002: bindでエラーが発生しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - HP-UX版:10.0以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降

対処1

原因

共通振り分けサーバが使用するポート番号(1261/tcp)をほかのアプリケーションによって既に使用されている場合に発生します。

対処方法

Systemwalker Centric Manager以外で導入しているほかのアプリケーションのマニュアルを参照して、ポート番号(1261/tcp)を使用しているアプリケーションが存在しないかを確認してください。重複している場合、そのアプリケーションを別のポート番号を使用するように変更してください。

実際にポートが使用されているかどうかは、netstatコマンドを使用して確認を行うことができます。

netstatコマンドを-anオプションで実行した場合、使用されているポート番号が数値化されて表示されます。1261番ポートの使用状況を確認してください。netstatコマンドを-aオプションで実行した場合、使用されているポート番号がservicesファイルに記述されている名称で表示されます。1261番ポートは、servicesファイルにmpshrsvと登録されていますのでmpshrsvの使用状況を確認してください。

[netstatコマンド使用例]

```
netstat -an
```

対処2

確認ポイント

Windowsの場合、レジストリに記述されているservicesファイルのディレクトリ名が正しくない可能性があります。

以下のレジストリキーに存在する"DataBasePath"について、レジストリ値と種類を確認してください。

```
¥HKEY_LOCAL_MACHINES¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters
```

レジストリ値の示すファイルパスにservicesファイルが存在することを確認してください。種類がREG_EXPAND_SZであることを確認してください。

対処方法

servicesファイルが存在しない場合は、ファイルを作成してください。種類が正しくない場合は、OSのインストールを実施してください。

3.1.24 システムの起動またはsyslog連携の起動で「opagtd: 警告: 8405:」のメッセージが出力される

クラスタ待機系監視環境定義ファイル(opaclskonf)のパラメタ(SAVMSGNUM)に501～5000を指定した場合に発生します。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

システムログ(messagesファイル)に、システム起動またはsyslog連携の起動タイミングで「opagtd: 警告: 8405:」のメッセージが出ていませんか。

原因

以下のマニュアルに記載されたSAVMSGNUMの指定可能範囲が間違っています。

- Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
- 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド PRIMECLUSTER編
- 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド SafeCLUSTER

対処方法

運用系ノードおよび待機系ノードで以下の手順で対処してください。

1. クラスタ待機系監視環境定義ファイル(/etc/opt/FJSV/sagt/opaclskonf)において、パラメタ(SAVMSGNUM)の設定値を100～500に変更後、保存してください。
2. システムの再起動、またはsyslog連携の停止／起動を行ってください。

syslog連携の停止／起動は以下の手順で実施してください。

1. syslog連携停止コマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/stpopasyslog
```

2. syslog連携起動コマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog
```

3. syslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP 上記で求めたプロセスID
```

3.1.25 システム起動時にネットワーク管理のサービスが使用するプロセスが起動しない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ネットワーク管理のポリシーが設定されていますか。ネットワーク管理のポリシーを設定した場合、以下の監視プロセスが起動します。

ポリシー	Windows版	UNIX版
ノード検出	MpNmdisc.exe	MpNmdisc
ノード状態の表示、稼働状態の監視	MpNmnode.exe	MpNmnode
ノード状態の監視、稼働状態の監視	MpNmhost.exe	MpNmhost
MIBの監視	MpNmmib.exe	MpNmmib

原因

ネットワーク管理のポリシー(ノードの検出、ノード状態の表示、ノード状態の監視、MIBの監視、仮想ノードの監視※、DHCPクライアントの監視、稼働状態の監視)が設定されていないと、システム起動時または、Systemwalker起動時にネットワーク管理の各監視プロセスが終了します。

※仮想ノードの監視は、V15.2.1以前のみ

対処方法

監視に必要なポリシーを設定しているか確認し、設定されていない場合は、ポリシーの設定・配付を実施してください。

3.1.26 性能監視拡張エージェント(MpTrfExAgt)の起動に失敗する

対処1

エラーメッセージ1

```
MpTrfExA:ERROR: 330:拡張エージェントの起動に失敗しました。Process = NWestOpen
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以前
 - HP-UX版:5.1以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

性能監視拡張エージェントが使用するポートが、ほかの製品と競合しています。性能監視エージェントのプロセス名と使用しているポートは以下のとおりです。

- プロセス名: MpTrfExA
- 使用ポート: 161/udp

性能監視拡張エージェントがリレーモード(注)で動作している場合に発生します。

性能監視拡張エージェントは、SNMPエージェントが通常使用する161/udpポートを使用し、SNMPエージェントは任意の空きポートを使用します。そのため、当該ノード環境に161/udpポートを使用している製品が存在している場合、性能監視拡張エージェントはポートの競合を起こし、起動に失敗します。

注)psコマンドを実行した結果、プロセス情報がポート番号つきで表示されていなければ、性能監視拡張エージェントはリレーモードで動作していると判断できます。

例)Linuxで実行した例

```
# ps -aef | grep MpTrfExAgt
```

- 通常モード

```
root 28240 1 0 14:30 00:00:00 /opt/FJSVspmex/lib/MpTrfExAgt -p 2749
```

- リレーモード

```
root 28240 1 0 14:30 00:00:00 /opt/FJSVspmex/lib/MpTrfExAgt
```

対処方法

netstat などのOSコマンドにて、競合ポートを使用している製品を特定し、使用するポートを変更してください。

対処2

エラーメッセージ2

```
MpPmonC: [ID 944881 daemon.error] ERROR: 10002: Systemwalker Centric Manager のプロセス (MpTrfExAgt)が正常に動作しているか確認してください。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降(Solaris 9以前の場合)
 - HP-UX版:5.1以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

確認ポイント

1. SNMPエージェントの起動スクリプト(/etc/rc3.d/S76snmpdx)が存在しない、または、リネームされていないか確認します。
2. SNMPエージェントの起動が遅れていないか確認します。

原因

1. SNMPエージェントが起動抑止されている、または、インストールされていない場合、サブエージェントである性能監視拡張エージェントは起動されません。
2. 性能監視拡張エージェントはSNMPエージェントから起動されるため、SNMPエージェントの起動に依存します。

対処方法

1. SNMPエージェントの起動抑止の解除、またはインストールを行ったあと、以下のコマンドを実行し、性能監視拡張エージェントの再設定を行ってください。

```
/opt/FJSVspmex/etc/rc/setupsea.sh
```

2. プロセス監視の動作環境定義ファイルの設定をカスタマイズすることで、プロセス監視の監視開始までの時刻を遅らせます。設定する値に関しては、SNMPエージェントおよび性能監視拡張エージェントが起動に要する時間に合わせ値を設定してください。プロセス監視の動作環境定義ファイルの詳細に関しては、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

```
[Common]
```

```
StartWait=60 ← 設定値を60～3600(秒)の間で設定を調整する
```

対処3

エラーメッセージ3

```
MpTrfExA: WARNING: 330: 拡張エージェントの起動に失敗しました。Process = /opt/FJSVspmex/script/disk/disk.sh
```

```
MpTrfExA: WARNING: 330: 拡張エージェントの起動に失敗しました。Process = /usr/bin/df -k
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:V13.0.0以前
 - Linux版:V13.0.0以前
 - HP-UX版:11.0以前
 - Linux版:11.0以前

確認ポイント

エラーが発生したサーバ上でdfコマンドを実行し、正常復帰するか確認し、結果に応じて対処方法を実施します。

原因

一時的なシステムの負荷または、NFSのタイムアウト等により、性能情報を取得するオペレーティングシステムのコマンド(df)が異常復帰しました。

対処方法

エラーが発生したサーバ上でdfコマンドを実行し、復帰値を確認します。

```
> df -k  
> echo $?
```

復帰値(「echo \$?」の表示内容)が0でない場合は、システムに高負荷がかかっているか、NFSのタイムアウトが発生していないか、ファイルシステムのマウント状態に異常はないかなど確認し、dfコマンドが異常復帰する原因を取り除きます。

dfコマンドが正常復帰することを確認後、以下の手順で性能監視拡張エージェントを再起動します。

Solaris版、Linux版、HP-UX版の場合

```
/opt/FJSVspmex/etc/rc/K00swpmexa stop  
/opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa start
```

AIX版の場合

```
/opt/FJSPVspmex/etc/rc/swpmexa stop
/opt/FJSPVspmex/etc/rc/swpmexa start
```

3.1.27 システムの起動で、「MpTrfExA:エラー:302:WaitForFinish(No.1)の終了に失敗しました。原因コード=0」と出力される

エラーメッセージ

```
MpTrfExA:エラー:302:WaitForFinish(No.1)の終了に失敗しました。原因コード=0
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降

確認ポイント

Windows タスクマネージャのプロセス一覧よりMpTrfExAgt.exeが起動していることを確認してください。

原因

サーバの再起動時に高負荷がかかっていたことにより、性能監視拡張エージェントサービス(MpTrfExA) 起動処理のポリシーファイルのコピー処理でタイムアウトが発生した場合に、本メッセージを出力します。

対処方法

本メッセージの出力後も性能監視拡張エージェントサービス(MpTrfExA)は起動処理を継続します。

メッセージ出力後、プロセスMpTrfExAgt.exeが起動している場合は、起動処理は正常に終了しており対処は不要です。

プロセスMpTrfExAgt.exeが起動していない場合、コマンドプロンプトより以下のコマンドを実行し、サービス(SystemWalker MpTrfExA)を起動してください。

```
net start MpTrfExA
```

3.1.28 F3CVSERVサービスが手動起動になっていて起動されない

共通トレースのサービス「F3CVSERV」の起動設定が手動起動になっていて、製品の起動時に起動していないことがあります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

F3CVSERVサービスはV4.0以前の製品の環境で共通トレースを採取するために使用します。V5.0以降の環境の場合、手動起動に設定され、使用されません。

V4.0以前の製品との混在環境においての互換用に存在するモジュールです。

対処方法

V5.0以降の環境では、F3CVSERVが使用されることはないため、対処の必要はありません。

3.1.29 Systemwalker Centric Manager起動時に通信基盤(OD_Start)またはフレームワーク(MpFwbs)のサービス起動が失敗する

エラーメッセージ

OD_start サービスは不正に終了しました。これは 1 回発生しています。
次の修正動作が 0 ミリ秒以内に行われます: 何もしない

または、

Mpfwbs サービスは不正に終了しました。これは 1 回発生しています。
次の修正動作が 0 ミリ秒以内に行われます: 何もしない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows 版:V10.0L20～V11.0L10

確認ポイント

運用管理クライアントにおいて、Systemwalkerコンソールセットアップの自動再接続の設定を確認してください。

原因

自動再接続機能が有効の状態、通信基盤サービス(OD_start)の起動を行った場合、Systemwalker Centric Managerの起動時に本現象が発生します。

対処方法

以下の手順で復旧してください。

1. 自動再接続機能を終了します。自動再接続機能の終了は、タスクトレイの「自動再接続」を右クリックし、「自動再接続ウィンドウの表示」を選択し、表示された画面で「自動再接続の終了」をクリックしてください。
2. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr
```

コマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

3. 通信基盤サービス(OD_start)を停止します。
4. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

コマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

5. Systemwalkerコンソールを起動します。



注意

自動再接続機能はSystemwalker Centric Managerの再起動や一時的な回線異常等で監視画面が切断された場合に、自動的に監視画面の再接続を行う機能です。しかし、この機能が動作していると通信基盤の資源を保持したままとなり、この状態で通信基盤サービスの起動(OD_start)を行うと、通信基盤が既に使用されていると判断され、サービスの起動に失敗します。

再接続実行中での通信基盤サービスの停止・起動は実施しないようにしてください。

3.1.30 Systemwalker Centric Managerの起動に失敗する

対処1

エラーメッセージ

- Windowsの場合

システムログに以下のメッセージが出力されます。

```
Systemwalker MpFwbs サービスは次の存在しないサービスに依存しています: SymfoWARE RDB CENTRIC
```

- Solaris/Linuxの場合

"/var/opt/FJSVfwbs/common/MpFwStart.log"に以下のメッセージが出力されます。

```
MpFwStart:SymfoWARE is not installed or cannot be used.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker にバンドルされているSymfoware Serverのアンインストールを行っていませんか。

原因

Systemwalker にバンドルされているSymfoware Serverのアンインストールを行った場合、SymfoWARE RDB に依存しているFWBSサービスが起動できないためにSystemwalkerの起動に失敗します。

対処方法

“Systemwalker Centric Manager の移行作業(バージョンアップ)時に、基本フレームワークの退避に失敗する”の対処を行ってください。

対処2

エラーメッセージ

```
アボートしました (core dumped) $MPPOL_HOME/bin/MpPolRecv -mon 1800
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V11.0L10以降

対処2-1

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager にバンドルされているJREが実行可能か次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVfsjvc/jre/(1.4.1または1.4.2)/bin/java -version
```

※java version "1.4.1_xxx" と表示された場合

原因

JREには問題はありません。

対処方法

保守情報収集ツールでフレームワークの資料の採取をして技術員に連絡してください。

対処2-2

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager にバンドルされているJREが実行可能か次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVfsjvc/jre/(1.4.1または1.4.2)/bin/java -version
```

※アボートした場合

原因

NX機能有効(ON)時はjavaが正常に動作しないため、Systemwalkerを含め富士通のMW製品は動作保証していません。

対処方法

ハードのNX機能を無効(OFF)にしてください。ハードのNX機能を無効にする方法は、OS側に確認してください。

3.1.31 「od16216」が出力される

エラーメッセージ

```
F3FMod:エラー:16216:OD:エラー:od16216:正しい自ホスト名、自ホストIPアドレスを指定してください。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

システムのホスト名/IPアドレスが正しく設定されていますか。

原因

システムからホスト名/IPアドレスが正しく取得できません。ネットワーク設定で正しくホスト名/IPアドレスが設定されていない可能性が考えられます。

対処方法

システムのネットワーク設定を見直し、ネットワークに接続可能な状態で再実行してください。

3.1.32 Systemwalker Centric Managerの起動時に「Failed to start Network Trap Converter.」と出力される

エラーメッセージ

コンソール上に以下のメッセージが出力されます。

```
Failed to start Network Trap Converter.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

NTCの起動スクリプトの起動同期処理がタイムアウトしました。

対処方法

起動同期処理がタイムアウトした場合でも、NTCは起動処理を続行します。5分程度時間を置いてから以下のNTCプロセスの存在を確認し、起動されている場合は、対処は不要です。

プロセス名:mprcvtrp.exe

NTCプロセスが存在しない場合は、保守情報収集ツールを使用して資料の採取をして技術員に問い合わせてください。

3.1.33 システムの起動で、「qdg03405u:ダウンリカバリが不可能なため データベースをアクセス禁止状態にしました」と出力される

エラーメッセージ

```
qdg03405u:ダウンリカバリが不可能なため データベースをアクセス禁止状態にしました DB名
='SYSTEMWALKER_DB' DSI名='MPLSxxxxxxxxxxxx' (システム名=CENTRIC)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～

確認ポイント

該当メッセージ出力後の基本フレームワーク起動処理は正常終了していますか。

正常終了時は、アプリケーションログに以下の終了メッセージが出力されます。

```
MpFwbs[xxxx]:XXXXXXXX:Systemwalker基本フレームワークの起動が完了しました。
```

原因

Windowsのシャットダウン処理では、アプリケーションの停止処理の同期を取らずに終了するため、データベースのフォーマット中に強制的にシャットダウンを行った場合、フォーマット処理が不完全な状態で終了してしまいます。

次回の起動時にデータベースが不完全なため、Symfowareが不完全な領域をアクセス禁止状態にしてしまい、参照および格納が不可能になります。

フレームワークの起動処理において、アクセス禁止領域が自動修復された場合、フレームワークの起動処理は正常終了します。自動修復不可であった場合は、フレームワークの起動処理は異常終了します。異常終了した場合は、出力メッセージに従った対処が必要となります。

対処方法

フレームワークの起動処理が正常終了している場合、該当データベースは復旧済であるため、対処不要です。

異常終了時は、「[Windowsのシャットダウン後の次回起動時にフレームワークの起動が失敗する](#)」に従って対処してください。

3.1.34 クラスタ環境のSystemwalker Centric Manager の起動時に、クラスタソフトのTimeoutのメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
(WLT, 1) FAULT REASON: Resource XXXX.yyyy's OnlineScript (hvexec -F command '/etc/opt/FJSVcluster/sys/clexecproc -k XXXX -c Application') has exceeded the ScriptTimeout of zzzz seconds.
```

XXXXは、Systemwalker Centric Managerのリソース"CMGRPROC"または"CMGRPMON"のどちらかです。

yyyy: Systemwalker Centric ManagerのリソースのリソースID

zzzz: クラスタソフトに設定されているタイムアウト時間

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerのリソース(CMGRPROC/CMGRPMON)の優先度が設定されていますか。

リソースのScriptTimeout属性に指定された値が正しく設定されていますか。

原因

Systemwalker Centric Managerの起動処理が終了する前にクラスタソフトに設定されているタイムアウト時間が経過してしまいました。

対処方法

Systemwalker Centric Managerのリソース(CMGRPROC/CMGRPMON)の優先度を正しく設定しているかどうか、ScriptTimeout属性に指定された値を正しく設定しているかどうか確認してください。

正しく設定していない場合、優先度を設定してください。また、リソースの ScriptTimeout属性に指定された値を調整してください。

詳細手順は、クラスタ適用ガイドおよびクラスタソフトウェアのマニュアルを参照してください。

正しく設定している場合、保守情報収集ツールを使用して共通ツールの情報を採取し、技術員に問い合わせてください。

3.1.35 クラスタ環境で、エラーが発生してネットワーク管理のサービスが起動しません

エラーメッセージ

```
MpFwdrp: ERROR: 10021: mdrpdfs file lock failure (No such file or directory)  
MpNmsv: ERROR: Internal error(CMpNMPOTable,X,Y,ZZZ)
```

X,Y,ZZZ … 任意の数

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

クラスタセットアップコマンドを繰り返し実施していませんか。

原因

mpsupuncコマンドを使用してクラスタ環境設定の解除を実施していない状態で、再度、mpsupcltコマンドを実施してクラスタの環境を設定するとエラーになります。このため、クラスタセットアップコマンドを繰り返し実行すると、ネットワーク管理が動作する上で必要な資源が正常に共有ディスクにセットアップされません。

対処方法

以下に復旧手順を示します。

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
#/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. ローカルディスクの以下のシンボリックリンクを削除します。

(存在しない場合は不要です)

```
/var/opt/FJSVfwnm/cmdr  
/var/opt/FJSVfwnm/cmtmp  
/var/opt/FJSVfwnm/mib  
/var/opt/FJSVfwnm/mibtmp  
/var/opt/FJSVfwnm/po  
/var/opt/FJSVsnm/miblog
```

3. ローカルディスクに以下のディレクトリを作成します。

(Owner/Groupは"root/sys"、権限は"0754")

```
/var/opt/FJSVfwnm/cmdr  
/var/opt/FJSVfwnm/cmtmp  
/var/opt/FJSVfwnm/mib  
/var/opt/FJSVfwnm/mibtmp  
/var/opt/FJSVfwnm/mibtmp/tmp  
/var/opt/FJSVfwnm/po  
/var/opt/FJSVfwnm/po/sv  
/var/opt/FJSVfwnm/po/pm  
/var/opt/FJSVsnm/miblog
```

4. 共有ディスクのディレクトリをローカルディスクにコピーします。

(このディレクトリが存在しない場合は、復旧ができません)

(例: 共有ディスクが/SWFWDB/swの場合)

```
# cp -pr /SWFWDB/sw/var/opt/FJSVfwnm/mib/* /var/opt/FJSVfwnm/mib  
# cp -pr /SWFWDB/sw/var/opt/FJSVfwnm/mibtmp/* /var/opt/FJSVfwnm/mibtmp  
# cp -pr /SWFWDB/sw/var/opt/FJSVsnm/miblog/* /var/opt/FJSVsnm/miblog
```

5. 共有ディスクのディレクトリを削除します。

(例: 共有ディスクが/SWFWDB/swの場合)

```
# rm -fr /SWFWDB/sw/var/opt/FJSVfwnm/*  
# rm -fr /SWFWDB/sw/var/opt/FJSVsnm/*
```

6. Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
# /opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

3.1.36 「MpNmsv: ERROR: The system error occurred. (Policy: CMpNMPOManager,X,YY,ZZZ)」と出力され、ネットワーク管理が起動しない

エラーメッセージ

```
MpNmsv: ERROR: The system error occurred. (Policy: CMpNMPOManager,X,YY,ZZZ)
```

X,YY,ZZZは、それぞれ任意の数値

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

以下のコマンドを実行して、ポリシー基盤が起動しているか確認してください。

```
# /opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolCheck  
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolSendMgr is running...
```

上記メッセージがコンソールに表示されれば、ポリシー基盤が起動しています。

表示されなければ、起動していません。

原因

ポリシー基盤が起動していません。ネットワーク管理は、ポリシー基盤が起動していることを前提に動作するため、ネットワーク管理の起動に失敗しました。

対処方法

ポリシー基盤を起動抑止している場合、以下の手順で起動抑止を解除してください。

1. 以下のファイルをviなどで開きます。

- V13.1.0以降の場合

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc2.ini
```

- 10.1からV13.0.0の場合

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc3.ini
```

- 10.0の場合

```
/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/start_fw.ini
```

2. ポリシー基盤の起動抑止を解除します。

【修正前】

```
#DAEMONXX="/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolStart"
```

【修正後】

```
DAEMONXX="/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolStart"
```

(XXは、ご利用の版またはインストール種別により異なります。)

3. 修正内容を保存して、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

```
# pcentricmgr  
# scentricmgr
```

3.1.37 ファイル転送基盤のサービスが起動しない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降

確認ポイント

1. "Systemwalker MpTrans"サービスがサービスに登録されていますか。
2. "Systemwalker MpTrans"サービスのスタートアップの種類が「手動」になっていませんか。

原因

Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agentをアンインストール後、システムの再起動を行わずに再インストールすると、"Systemwalker MpTrans"サービスがサービス登録されない、または、"Systemwalker MpTrans"サービスが自動起動されません。

対処方法

1. "Systemwalker MpTrans"サービスがサービスに登録されていない場合は、Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agentの再インストールを行ってください。
2. "Systemwalker MpTrans"サービスがサービス登録されているが、スタートアップの種類が「手動」になっている場合は、以下の2つのコマンドを実行し、システムを再起動してください。

```
Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agentインストールディレクトリ  
¥mpwalker.dm¥mptrans¥bin¥ftranstup.exe -a install -A mpatmftranf -m -I Systemwalker Centric  
Manager/Systemwalker Event Agentインストールディレクトリ
```

```
Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agentインストールディレクトリ  
¥mpwalker.dm¥mptrans¥bin¥ftranstup.exe -a install -A mpatmftranv -m -I Systemwalker Centric  
Manager/Systemwalker Event Agentインストールディレクトリ
```

3.1.38 ファイル転送基盤のサービス起動に失敗する

エラーメッセージ

```
MpTrans: エラー: 803:クライアントからのサービス要求受付中にエラーが発生しました。エラーコード  
(ERROR 0), 詳細情報 (accept).  
MpTrans: エラー: 501:システム内部の異常です。詳細情報 (ftranwc.exe was stopped).
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降

原因

ファイル転送基盤が使用する1105ポート番号が重複し、ファイル転送基盤のサービス起動に失敗しています。ポート番号重複には、以下の2つのケースが考えられます。実際にポートが使用されているかどうかは、netstatコマンドを使用して確認を行うことができます。netstatコマンドを-anオプションで実行すると、使用されているポート番号が数値化されて表示されます。

- ほかのプログラムが待ち受けポートに1105ポートを使用している場合
"netstat -an"コマンドにて1105ポートが使用されていると確認できた場合は、ほかのプログラムが1105ポートを使用しています。
- OSが一時ポートとしてほかのプログラムに1105ポートを割り当てている場合
"netstat -an"コマンドにて1105ポートが使用されていることが確認できなかった場合、OSが一時ポートとしてほかのプログラムでのコネクション接続時の自ポート番号に、1105ポートを割り当てられている可能性があります。Windows Server 2003では、TCPポート"1024-5000"を一時ポートとして割り当てます。そのため、ファイル転送基盤で使用する1105ポートがほかのプログラムで、一時ポートに使用されている可能性があります。

対処方法

以下のいずれかの対処を行ってください。

- ほかのプログラムが待ち受けポートに1105ポートを使用している場合
ほかのプログラム待ち受けポートに1105ポートを使用している場合は、そのプログラムにおいて別のTCPポートを利用するようにするか、ファイル転送基盤のポート番号を、OSが一時ポートとして割り当てる範囲(1024-5000)以外のポート番号の内、空いているポート番号に変更してください。
- OSが一時ポートとしてほかのプログラムに1105ポートを割り当てている場合
ファイル転送基盤のポート番号を、OSが一時ポートとして割り当てる範囲(1024-5000)以外のポート番号の内、空いているポート番号に変更するか、OSが一時ポートとして割り当てるポート番号の範囲を変更してください。変更方法は、以下のurlを参考に行ってください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;813122>

なお、ファイル転送基盤のポート番号を変更した場合は、接続先システムのすべてのポート番号を変更する必要があります。

3.1.39 ファイル転送基盤のサービスが停止する

エラーメッセージ

MpTrans: エラー: 803:クライアントからのサービス要求受付中にエラーが発生しました。エラーコード (ERROR 0), 詳細情報 (accept).
MpTrans: エラー: 501:システム内部の異常です。詳細情報 (franc.exe was stopped).

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降

確認ポイント

名前解決の失敗によるサービス停止の切り分けは、以下のオペレーションで可能です。

1. 要求元(ファイルの転送失敗が発生した実行元のサーバ)にて、以下のコマンドを投入し要求元のIPアドレスの一覧を出力します。
 - 要求元サーバがWindowsの場合

ipconfig /all

- 一 要求元サーバがUNIXの場合

```
ifconfig -a
```

2. 要求先サーバ(サービスが停止したサーバ)にて、以下のコマンドを要求元のIPアドレス数分投入します。

```
ping -a IPアドレス
Pinging XX.XX.XX.XX with 32 bytes of data: *1
Reply from XX.XX.XX.XX: bytes=32 time=20ms TTL=247
:
```

*1:この行にホスト名が表示されない場合は、名前解決ができない状況と特定できます。

エラーメッセージが「運用管理サーバ」で出力された場合は、要求元は「被管理サーバ」になります。「被管理サーバ」で出力された場合は、要求元は「運用管理サーバ」になります。運用管理サーバから被管理サーバに対してログ収集で失敗すると、監査ログ管理のエラーメッセージに被管理サーバが出力されますので、これにより要求元サーバを特定してください。

原因

サービスの停止に至った原因は、Windowsサーバ上で要求元サーバのIPアドレスの名前解決に失敗したためです。

対処方法

以下のどちらかの対処を行ってください。

- ・ Windowsサーバ(サービスが停止したサーバ)のhostsファイルに、要求元サーバのIPアドレスをすべて追加してください。
- ・ DNS運用を行っている場合は、DNSサーバで要求元サーバのIPアドレスがすべてホスト名解決する定義をしてください。

3.1.40 mpsetsrv(サービスのスタートアップ反映コマンド)で、運用管理クライアント/クライアントのサービスの起動・停止を制御できない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - 一 Windows版:V5.0L20～V13.2.0
 - 一 Windows for Itanium版:V12.0L11～V13.2.0

確認ポイント

運用管理クライアント/クライアントのサービスの起動・停止を制御しますか。

原因

mpsetsrv(サービスのスタートアップ反映コマンド)では、運用管理クライアント/クライアントのすべてのサービスに対応していないため、サービスの起動・停止を制御することができません。

対処方法

運用管理クライアント/クライアントのサービスの起動・停止を制御する場合は、OSの機能(※)を使用して「スタートアップの種類」を変更してください。

- ・ 抑止する場合:“自動”から“手動”に変更
- ・ 抑止を解除する場合:“手動”から“自動”に変更

※Windows 2000、Windows XP、Windows Vista の場合、[コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]メニューから起動される「サービス」画面にて設定できます。

3.1.41 cronで起動コマンドを実行すると以降の起動コマンドの実行が失敗する

エラーメッセージ

```
Command scentricmgr rejected. already running : プロセス名.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.2以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V10.0L20以降

確認ポイント

cronから起動コマンドを実行していませんか？

原因

cronから起動コマンドを実行する場合、標準出力／標準エラー出力を指定して実行する必要があります。標準出力／標準エラー出力を指定しなかった場合、起動コマンドのプロセス情報が残り、次回起動時に上記エラーメッセージが出力されて起動に失敗します。

対処方法

以下のように、標準出力／標準エラー出力を指定して起動コマンドを実行してください。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr > /var/opt/FJSVftlc/daemon/StdOutErr.Log 2>&1
```

3.1.42 インベントリ管理エージェント(MpDTPAgent/cmagdmmn)のサービスが起動しない

エラーメッセージ

```
UX:MpPmonC: ERROR: 10002: Systemwalker Centric Manager のプロセス(cmagdmmn)が正常に動作しているか確認してください。
```

対象バージョンレベル

- Centric Manager
 - Windows版: V13.3.0～V13.3.1
 - Windows for Itanium版: V13.3.0～V13.3.1
 - Solaris版: V13.3.0～V13.3.1
 - Linux版: V13.3.0～V13.3.1
 - Linux for Itanium版: V13.3.0～V13.3.1

確認ポイント

自ホスト名が正しく名前解決できますか？

原因

現象が発生したサーバにおいて、自ホスト名の名前解決が行われていないと、インベントリ管理エージェント(MpDTPAgent/cmagdmm)の起動に失敗します。

対処方法1

現象が発生したサーバにおいて、以下を実施した後、再度インベントリ管理エージェントを起動してください。

- DNSサーバおよび、hosts ファイルの設定内容を見直し、自ホスト名の名前解決が行われることを確認する。
- [通信環境定義詳細]ダイアログボックスの[自ホスト名]タブで、「ユーザ指定」を選択している場合は、名前解決できるホスト名を指定する。

対処方法2

以下のどちらかに該当する場合、ほかの機能への影響はないため、インベントリ管理エージェントの起動を抑止し、プロセス監視対象から外すことができます。

- 現象が発生したサーバが業務サーバである。
- インストールレス型エージェント監視機能を使用した運用を行っていない。

インベントリ管理エージェントの起動を抑止し、プロセス監視対象から外す方法については、以下のマニュアルを参照してください。

- Windows、およびWindows for Itanium の場合
“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の以下の説明を参照してください。
 - “サービス起動・停止制御ファイル”
 - “プロセス監視の監視対象定義ファイル”
- Solaris、Linux、およびLinux for Itanium の場合
“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の以下の説明を参照してください。
 - “デーモン起動・停止制御ファイル【UNIX版】”
 - “プロセス監視の監視対象定義ファイル”

3.2 停止に関するトラブルシューティング

3.2.1 運用管理サーバで、Systemwalker Centric Managerを停止したときにエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

OD: エラー: od10915: ObjectDirectorで内部エラーが発生しました。(%1, %2): no requests outstanding, 0 / No error, pid = %3, thrid = %4
OD: エラー: od10915: ObjectDirectorで内部エラーが発生しました。(%1, %2): Broken initiator, 0 / No error, pid = %3, thrid = %4
OD: エラー: od10915: ObjectDirectorで内部エラーが発生しました。(%1, %2): OD_NET_FirstRead, 0 / エラー 0, pid = %3, thrid = %4
MpOpaddRep: エラー: 6: The Systemwalker CentricMGR is not being started. Please restart the Systemwalker CentricMGR on ther Operation Management Server.(Detailed code=%5,%6) MpOpaddRep: エラー: 6: The Systemwalker CentricMGR is not being started. Please restart the Systemwalker CentricMGR on ther Operation Management Server.(Detailed code=%5,%6)

可変情報

- %1: ファイル名

- %2: 行番号
- %3: プロセス番号
- %4: スレッド番号
- %5: エラー詳細情報(メジャー情報)
- %6: エラー詳細情報(マイナー情報)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

OSの仕様により、システム停止時のサービス(デーモン)停止順序が保証されません。そのため、Systemwalker Centric Managerのサービスの停止順序が規定通りに行われず、エラーメッセージが出力されることがあります。

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。

3.2.2 シャットダウン時にアプリケーションエラーが発生する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L21以降
 - Solaris版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合、OSのシャットダウン時にいくつかのプログラムでアプリケーションエラーが発生する場合があります。

シャットダウンの途中にアプリケーションエラーの発生を示すポップアップメッセージが表示されます。アプリケーションエラーが発生するプロセスはタイミングにより異なりますが、多くの場合、以下のプロセスで発生します。

- MpBcmで始まるプロセス
- MpGuiで始まるプロセス
- MpFwで始まるプロセス
- Fl1evで始まるプロセス

出力されるアプリケーションエラーのメッセージ例を以下に示します。

MpBcmv.exe - アプリケーションエラー
 0x004b9303 の命令が
 0x01145b2c を参照しました。
 メモリが"read"になることはありませんでした。

注) 下線の付加されている箇所は可変部分です。

対処方法

対処は不要です。このアプリケーションエラーによるSystemwalker Centric Managerの運用への影響はありません。

3.2.3 シャットダウン時にエラーメッセージが表示される

エラーメッセージ

MpCNAppI: 警告: 16:トラップデーモンとの接続が切断されました. (Errno:-21 Detail:0 in mprcvtrp.exe)
F3FMod: エラー: 10919:OD: エラー: od10919:1つの接続で処理できるリクエスト数が設定値を超えました。
apamc: エラー: 1126:SystemWalker/CentricMGR セットアップが実行されていないか、通信エラーが発生しています。(詳細コード=301005)
MpFwbs: エラー: 3:MpFwArs[708]:40301005:SystemWalker/CentricMGRのセットアップが実行されていないか、通信エラーが発生しています。(詳細コード=CORBA::StExcep::COMMFAILURE)
MpFwdrp: ERROR: 10202: mpdrpdfs closeConsumer CORBA error: IDL:CORBA/StExcep/COMM_FAILURE:1.0 (XXXXXXXX)
MpAosfB: 警告: 1078:インテリジェントサービスとの接続に失敗しました。理由:-4

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降

原因

これらのメッセージは、システムのシャットダウン時のシステムによるサービス停止処理で、サービスが依存関係どおりに停止されなかった場合に出力されます。システムの停止時は、サービスが依存関係どおりに停止されなくても運用に影響を与える問題は発生しません。また、クローズやシステム資源の解放等が実行されなかった場合も、システムが停止されるため問題はありません。

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。

3.2.4 シャットダウン時に、mpgetprc.exeがアプリケーションエラーとなる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

mpgetprc.exeの実行とOSのシャットダウン処理が重なったことによりDLL[kernel32.dll]の初期化に失敗したことが原因です。出力されるアプリケーションエラーのメッセージ例を以下に示します。

Application Error: Error: 1000:障害が発生しているアプリケーション mpgetprc.exe、バージョン *****、タイムスタンプ *****、障害が発生しているモジュール kernel32.dll、バージョン *****、タイムスタンプ *****、例外コード 0xc0000142、障害オフセット *****、プロセス ID *****、アプリケーションの開始時刻 *****。

対処方法

タイミングにより発生した一時的な問題であるため、対処は不要です。

また、次の方法で回避することができます。

- pcentricmgrコマンドでSystemwalker Centric Managerのサービス停止後にOSをシャットダウンする。

3.2.5 Systemwalker Centric Managerの停止時やOSのシャットダウン時に、「MpBcmmt: エラー: 2301」と出力される

Systemwalker Centric Managerの停止時やシャットダウン時に、“MpBcmmt: エラー: 2301: SystemWalker/CentricMGRが起動されていません。運用管理サーバ上で SystemWalker/CentricMGRを再起動してください。(詳細コード = IDL:CORBA/StExcept/NO_IMPLEMENT:1.0,0x464a0880)”というメッセージが出力される場合があります。

エラーメッセージ

```
MpBcmmt: エラー: 2301: SystemWalker/CentricMGRが起動されていません。運用管理サーバ上で SystemWalker/CentricMGRを再起動してください。(詳細コード = IDL:CORBA/StExcept/NO_IMPLEMENT:1.0,0x464a0880)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
 - Solaris版: 5.0以降
 - Linux版: V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerの停止中やOSのシャットダウン中にエラーメッセージが出力されましたか。

原因

OSの高負荷状態時等、Systemwalker Centric Managerの各サービスの停止処理に時間がかかったとき、一部のサービスの停止処理でタイムアウトが発生し、サービスのプロセスが一時的に残り、このサービスのプロセスがほかの停止しているサービスに対して通信を行う際に、通信エラーが発生し、本エラーメッセージが出力される場合があります。

対処方法

本エラーメッセージを出力後、残ったサービスのプロセスも自動的に停止しますので、Systemwalker Centric Managerの停止中やOSのシャットダウン中に出力されたものであれば、特に対処の必要はありません。

なお、Systemwalker Centric Managerの運用中に出力された場合には、何らかのトラブルにより、サービスの一部が異常停止した可能性があります。保守情報収集ツールによって資料を採取後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

3.2.6 Systemwalker Centric Managerがインストールされたコンピュータをシャットダウンするときに、APA_RE.EXEがアプリケーションエラーとなる

エラーメッセージ

```
アプリケーションを正しく初期化しませんでした。(0xc0000142)。  
kernel32.dllの初期化が失敗しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

OSの問題で、OSがシャットダウンのフェーズによって、プロセスの起動をリジェクト(DLLのローディングができない)するために発生しています。

対処方法

本メッセージは、OSのシャットダウン時に出力されるメッセージで、動作に問題があるメッセージではないため、対処は必要ありません。しかし、以下の対処で、現象は発生しなくなります。

1. 以下のサービスの[プロパティ]を選択します。

Systemwalker Mpagat

2. [ログオン]タブの[ローカルシステムアカウント]ラジオボタンをチェックし、[デスクトップとの対話をサービスに許可]チェックボックスのチェックを外します。

なお、この場合、Systemwalker Centric Managerのアプリケーション管理の運用に制限ができます。Notepad.exeなど画面を持っているアプリケーション(WinMain()関数を使用したアプリケーション)に対して、[Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10以降)の[操作]メニューから、アプリケーション起動しても起動できない場合があります。

3.2.7 シャットダウン時、または、Systemwalker Centric Manager停止時にシグナルを受信したエラーメッセージがsyslogに出力される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～5.1

エラーメッセージ

```
apaagt: ERROR: 0312: アプリケーション管理メインがソフトウェアシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 0312: Application Management main Received a software signal.
apaagt: ERROR: 0704: アプリケーション管理情報管理がソフトウェアシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 0704: Application Management information management Received a software signal.
apaagt: ERROR: 0810: アプリケーション管理稼働管理がシグナルを受信しました。 [SIGTERM]
apaagt: ERROR: 0810: Application Management operation management Received a signal. [SIGTERM]
apaagt: ERROR: 1019: アプリケーション管理資源採取(ノード)はシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 1019: Application Management resource collection(node) Received a signal.
apaagt: ERROR: 1115: アプリケーション管理資源採取(アプリケーション)はシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 1115: Application Management resource collection(application) Received a signal.
apaagt: ERROR: 1216: アプリケーション管理資源採取(CPU)はシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 1216: Application Management resource collection(CPU) Received a signal.
apaagt: ERROR: 1316: アプリケーション管理資源採取(LD)はシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 1316: Application Management resource collection(LD) Received a signal.
apaagt: ERROR: 1416: アプリケーション管理資源採取(メモリ)はシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 1416: Application Management resource collection(memory) Received a signal.
apaagt: ERROR: 1516: アプリケーション管理資源採取(ディスク)はシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 1516: Application Management resource collection(disk) Received a signal.
apaagt: ERROR: 1620: アプリケーション管理資源採取(プロセス)はシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 1620: Application Management resource collection(process) Received a signal.
apaagt: ERROR: 1716: アプリケーション管理資源採取(マシン)はシグナルを受信しました。
apaagt: ERROR: 1716: Application Management resource collection(machine) Received a signal.
```

原因

シャットダウン、または、Systemwalker Centric Manager停止によるアプリケーション管理デーモンの停止に時間がかかり、シグナルにより、強制停止したためです。

対処方法

以下のコマンドにてアプリケーション管理のプロセスが起動しているか確認します。

```
ps -ef | grep APA
```

アプリケーション管理のプロセスがすべて停止している場合は対処の必要ありません。

アプリケーション管理のプロセスが停止していない場合は、該当のプロセスを手動で強制的に停止させてください。

例)

```
# kill -9 [プロセスID]
```

3.2.8 シャットダウン時、または、Systemwalker Centric Manager停止時に、「Mp_SysAutoTOAol_sendでエラーが発生しました」と出力される

シャットダウン時、または、Systemwalker Centric Manager停止時に、Systemwalker Centric Managerを構成するプロセス間の通信パスが切断されたことを示すメッセージが出力される場合があります。

エラーメッセージ

- [Windows版の場合]

```
MpOpagt: エラー: 52:Mp_SysAutoTOAol_sendでエラーが発生しました。
```

- [UNIX版の場合]

```
opagtd: エラー: 52: Mp_SysAutoTOAol_sendでエラーが発生しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

シャットダウン時、またはSystemwalker Centric Manager停止時に、Systemwalker Centric Managerを構成するプロセス間の通信パスが切断されたことを示すメッセージが出力される場合があります。

対処方法

サービス停止時に発生したメッセージです。そのまま使用を続けても問題ありません。

3.2.9 Systemwalker Centric Manager停止コマンド(pcentricmgr)を実行すると、数分後にプロセスの異常が表示された

Systemwalker Centric Manager、およびSystemwalker Operation Managerの両製品が同じコンピュータにインストールされている環境で、デーモン停止コマンド(pcentricmgr)に[-s]オプションを指定して実行すると、プロセス監視でエラーメッセージが出力されます。

エラーメッセージ

Systemwalker Operation Manager のプロセス(MpFwsec)が正常に動作しているか確認してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

セキュリティ機能をSystemwalker Centric Managerで停止した場合、Systemwalker Centric Manager、およびSystemwalker Operation Managerの両製品の共通機能であるセキュリティ機能のデーモンプロセス(MpFwsec)も停止します。このため、Systemwalker Operation Managerのプロセス監視でイベントが通知されます。

対処方法

Systemwalker Operation Managerのセキュリティ機能のデーモンプロセスが停止したために出力されたイベントです。対処は不要です。

3.2.10 「od11102」という情報メッセージが出力される

Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバを停止時、および運用管理クライアントでSystemwalkerコンソールを終了したときに、運用管理サーバで「od11102」という情報メッセージが出力されます。

エラーメッセージ

OD: INFO: od11102:ObjectDirector accepted stop request of application. Queue: %s1 Mode: %s2
OD: 情報: od11102:アプリケーションの終了処理を受け付けました。キュー名: %s1 モード: %s2

[可変情報]

%s1: アプリケーション機能名

%s2: 終了モード

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

通信基盤を使用するアプリケーションが終了する場合には、通信基盤での終了処理を要求します。本メッセージは通信基盤がアプリケーションの終了処理を受け付けた場合に出力されます。

Systemwalker Centric Manager運用管理サーバの停止、および運用管理クライアントでSystemwalkerコンソールを終了した場合に通信基盤を使用するアプリケーションが終了するため本メッセージが出力されます。

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。

3.2.11 クラスタ環境のSystemwalker Centric Manager の停止時に、クラスタソフトのTimeoutのメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
(WLT, 1) FAULT REASON: Resource XXXX.yyyy's OfflineScript (hvexec -F command '/etc/opt/FJSVcluster/sys/clexecproc -k XXXX -c Application') has exceeded the ScriptTimeout of zzzz seconds.
```

XXXXは、Systemwalker Centric Managerのリソース"CMGRPROC"または"CMGRPMON"のどちらかです。

yyyyは、Systemwalker Centric ManagerのリソースのリソースID

zzzzはクラスタソフトに設定されているタイムアウト時間

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerのリソース(CMGRPROC/CMGRPMON)の優先度が設定されていますか。

リソースの ScriptTimeout 属性に指定された値が正しく設定されていますか。

原因

Systemwalker Centric Managerの停止処理が終了する前にクラスタソフトに設定されているタイムアウト時間が経過してしまいました。

対処方法

Systemwalker Centric Managerのリソース(CMGRPROC/CMGRPMON)の優先度を正しく設定しているかどうか、ScriptTimeout 属性に指定された値を正しく設定しているかどうか確認してください。

正しく設定していない場合、優先度を設定してください。また、リソースの ScriptTimeout属性に指定された値を調整してください。

詳細手順は、クラスタ適用ガイドおよびクラスタソフトのマニュアルを参照してください。

正しく設定している場合、保守情報収集ツールを使用して共通ツールの情報を採取し、技術員に問い合わせてください。

3.2.12 Systemwalker Centric Manager の停止に失敗する (Systemwalker Service Quality Coordinator 導入環境)

エラーメッセージ

UX:MpFwSetup:Systemwalker Centric Manager停止は異常終了しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Service Quality CoordinatorのManager、またはAgentを導入し、Systemwalker Centric ManagerのRDBシステム(RDBシステム名:CENTRIC)を性能監視していませんか？

Systemwalker Service Quality CoordinatorのManager、またはAgentを導入した場合、Systemwalker Centric ManagerのRDBシステム(RDBシステム名:CENTRIC)の性能監視はデフォルトで有効になります。

原因

Systemwalker Service Quality CoordinatorのManager、またはAgentを導入し、Systemwalker Centric ManagerのRDBシステム(RDBシステム名:CENTRIC)を性能監視している場合、Systemwalker Centric Manager RDB システムが使用中のため、内部で行っているSymfowareの停止処理に失敗するためです。

対処方法

Systemwalker Service Quality Coordinatorを停止後、再度運用環境の構築を実行してください。

備考

Systemwalker Centric Manager RDB システムの性能情報収集処理を停止しないことが原因で発生する現象としては、以下があります。

- 環境構築
- 環境削除
- 環境退避
- 保守情報収集

3.2.13 シャットダウン時にmpscdsがcoreファイルを出力する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - AIX版: 11.0以降

確認ポイント

- a. /etc/rc.shutdownが存在していますか。
- b. /etc/rc.shutdownに“/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -s”の記述がありますか。
- c. /etc/rc.shutdownが実行できるようにアクセス権が設定されていますか。

原因

シャットダウン時にSystemwalker Centric Managerの停止処理が行われず、mpscdsがOSからのシグナルによって停止することになり異常動作したことが原因です。

対処方法

- a. /etc/rc.shutdownが存在しない場合は、下記の内容で新規に作成してください。

```
#!/bin/sh
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -s
```

- b. /etc/rc.shutdownに“/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -s”の行がなければ追加してください。
c. /etc/rc.shutdownが実行可能になるように、適切なアクセス権 (例えば0755) を設定してください。

3.2.14 フェールオーバー クラスタをシャットダウンすると、クォーラムを失ってサービスが停止することがある

エラーメッセージ

```
FailoverClustering: 重大: 1177: クォーラムが失われたためにクラスタ サービスがシャットダウンしています。クラスタ内の一部またはすべてのノードとのネットワーク接続が失われたか、監視ディスクのフェールオーバーが原因となっている可能性があります。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows32版:V13.3.1以降
 - Windows64-IPF版:V13.3.1～V13.4.0
 - Windows64-EM64T版:V13.4.0以降

確認ポイント

エラーメッセージ発生後にSystemwalker Centric Managerのサービス停止時のイベントが発生している場合、対処方法に従って回避してください。

原因

OSがSystemwalker Centric Managerのリソース停止 (オフライン処理) を要求後、何らかの原因でオフライン処理に時間がかかってタイムアウトした場合、共有ディスクリソースのオフライン処理が先に行われます。また、タイムアウトしたリソースは強制停止されます。

対処方法

Systemwalker Centric Managerのグループ (デフォルト: CentricMGR Group) をオフラインにしてから、フェールオーバークラスタのシャットダウン (システムのシャットダウンや再起動を含む) を行ってください。

以下の記事は、Microsoft社の情報 KB2536102 からの抜粋です。

ポイント

この問題を回避するには、次のいずれかの方法を実行してください。

方法 1 : QuorumArbitrationTimeMax の値を大きくする

QuorumArbitrationTimeMax の値を設定するには、コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力し、Enter キーを押します。

注 : QuorumArbitrationTimeMax に指定する数値は秒単位で、既定値は 20 (0x14) 秒です。

ここでは例として 60 秒を設定します。

cluster /prop quorumarbitrationtimemax=60

現在の設定値は、以下のコマンドを実行することで確認できます。

cluster /prop:quorumarbitrationtimemax

コマンド実行後の出力例：

```
'<クラスタ名>'のプロパティの一覧を作成しています：
T クラスタ      名前              値
-----
D <クラスタ名> QuorumArbitrationTimeMax 60 (0x3c)
```

注：適正值は環境によって異なります。強制終了（ターミネート）してしまうリソースがオフラインに必要な時間に併せて、設定値を決定します。問題が何度も発生する場合には、環境に合わせて少しずつ大きくして確認することを推奨します。

QuorumArbitrationTimeMax の値はクラスタ内でクォーラムが失われた状態を障害として検知するまでの時間となります。この値を大きくすることにより、障害が発生したときの検知が遅くなります。

QuorumArbitrationTimeMax の値を大きくしても問題が改善されない場合には、次の「**方法 2**」を検討してください。

方法 2：クラスタ全体のシャットダウンの前に時間の掛かるリソースを事前にオフラインにする

注：クラスタサービスは前回終了時のリソース状態を保持します。次にクラスタサービスを起動した際にはオフライン状態となりますので別途、オンラインの操作を実行してください。



第4章 環境構築に関するトラブルシューティング

4.1 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「MpFwSetup:マウントポイントの作成およびマウントに失敗しました。」を出力して失敗する

エラーメッセージ

```
MpFwSetup:マウントポイントの作成およびマウントに失敗しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

- /SWFWDBが存在しませんか。
- RDB管理情報用デバイスが/SWFWDBにマウントされていませんか。
- /etc/vfstab (Solaris版)、または/etc/fstab (Linux 版)に/SWFWDBの自動マウントが設定されていませんか。

原因

データベース共用部の構築に失敗、またはフレームワークデータベース領域が正常に削除されないことにより、RDB管理情報用デバイスのマウントポイントである/SWFWDBが残る場合があります。この状態でフレームワークデータベース領域の作成を実行すると、既にマウントポイント/SWFWDBが存在するため処理が失敗します。

対処方法

/SWFWDBが使用されていないことを確認し、以下の手順で対処してください。

1. /SWFWDBがRDB管理情報用デバイスにマウントされている場合は/SWFWDBをアンマウントしてください。
2. マウントポイント/SWFWDBを削除してください。
3. /etc/vfstab (Solaris版)、または/etc/fstab (Linux 版)から/SWFWDBの設定を削除してください。

RDB管理情報用デバイスに、通常のデバイス形式(/dev/dsk/c?t?d?s?)以外のデバイスを指定した場合は、3.の手順は不要です。

対処2

確認ポイント

RDB管理情報の領域に任意ディレクトリを指定している場合、指定ディレクトリ配下に"/SWFWDB"ディレクトリが存在していませんか。

原因

データベース共用部の構築に失敗、またはフレームワークデータベース領域が正常に削除されないことにより、RDB管理情報の領域(指定ディレクトリ配下/SWFWDB)が残る場合があります。

この状態で、配下に"/SWFWDB"が存在するディレクトリをRDB管理情報の領域として指定してフレームワークデータベース領域の作成を実行すると、既に"/SWFWDB"が存在するため処理が失敗します。

対処方法

“指定ディレクトリ/SWFWDB”が使用されていないことを確認し、“指定ディレクトリ/SWFWDB”を削除してください。

4.2 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「MpFwSetup:処理が失敗しました」を出力して失敗する

エラーメッセージ

```
MpFwSetup:処理が失敗しました
MpFwSetup:Systemwalker Centric Manager環境作成は異常終了しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

- “root”ユーザが“sys”グループに登録されていることを確認してください。
- 他製品のインストール時にグループ設定が変更されていないか確認してください。

原因

“root”ユーザが“sys”グループに登録されていない場合に、本現象が発生します。

フレームワークのデータベース領域の作成で実行する通信基盤の初期化処理では“root”ユーザが“sys”グループに登録されている必要があります。

デフォルトでは“root”ユーザは以下のグループに登録されています。

```
groups=0(root),1(bin),2(daemon),3(sys),4(adm),6(disk),10(wheel)
```

対処方法

“root”ユーザを“sys”グループに登録後、環境構築を再実行してください。

4.3 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「データベース共用部の構築に失敗しました」を出力して失敗する

Windows版Centric Managerの運用管理サーバが、Symfoware Server EEのV5.0L30以降と共存する場合、またはSymfoware Server EE V5.0L30以降をバンドルする他製品 (Softtek Advanced Copy Manager等) が先にインストールされていた場合に発生します。

エラーメッセージ

```
データベース共用部の構築に失敗しました
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

対処1

確認ポイント

Symfoware Server EE V5.0L30以降、もしくはSymfoware Server EE V5.0L30以降をバンドルする製品が共存していませんか。

Windows 版Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバが、Symfoware Server EEのV5.0L30以降と共存する場合、またはSymfoware Server EE V5.0L30以降をバンドルする他製品 (Softek Advanced Copy Manager等) と共存していませんか。

Desktop Monitor V10.0L20と Desktop Keeper V13.0L10、Desktop Patrol V13.0L10は共存していませんか。

原因

Systemwalker Centric Managerは環境作成の際にRDB サービスの登録処理を実行しますが、このときRDB用の共用メモリの使用値を設定しています。Systemwalker Centric Managerでは共用メモリの使用値にデフォルト値 (初期表示値) を使用しており、Symfoware Server EE V5.0L30 から共用メモリの使用値が変更されているため、共存環境では共用メモリが不足して環境作成が失敗します。

Systemwalker Centric Manager V11.0L10からは発生しません。

対処方法

以下の手順で現象を回避してください。

1. レジストリエディタを起動し以下の設定 (値) を確認してください。

— キー名

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Fujitsu¥SYMFOWARE¥SETUP¥Server
```

— 値の名前

```
DataPath
```

— 値のデータ

```
%DataPath%
```

2. 以下のファイルを削除してください。

```
%DataPath%¥RDB¥ETC¥CENTRIC.cfg
```

3. 以下のファイルを編集してください。

— ファイル名

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥DB¥CENTRIC.cfg
```

— 編集内容

```
RDBEXTMEM=2048 ← 13208 に変更
```

4. 運用環境の構築を行ってください。

対処2

確認ポイント

Windows 版Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバをインストールする環境にSymfoware Server、およびSymfoware Clientがインストールされていない場合に以下を確認してください。

Windows 版Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバをインストールする前に、インストールしたSystemwalker Centric Managerより新しいバージョンレベルのSystemwalker Centric Manager、またはSymfoware Server やSymfoware Server をバンドルする製品がインストールされていなかったか。

原因

Symfoware Server、およびSymfoware Clientのアンインストールが正常な手順で行われなかった場合、システムディレクトリ配下にSymfowareのライブラリが残ってしまいます。

この環境にSystemwalker Centric Manager運用管理サーバをインストールした場合、Systemwalker Centric ManagerがバンドルするSymfowareのバージョンレベルが、残ったライブラリのバージョンレベルより古いとライブラリは上書きインストールされません。

このような状態になった場合、インストールされたSymfowareと、システムディレクトリ配下のSymfowareライブラリでバージョンレベルが異なるため、正常な動作ができずに環境作成が失敗します。

対処方法

Symfoware Server、およびSymfoware Clientが、Systemwalker Centric Managerによりインストールされている場合にのみ以下の対処方法を実施してください。

1. 以下のファイルを参照してください。

`%SystemRoot%\ESQL\bin\ESQLVERSION`

2. ファイルに記述されている文字列(バージョンレベル)とSystemwalker Centric Managerのバージョンレベルが以下の組合せ以外の場合は3.以降の対処を実施してください。

Systemwalker Centric Manager	ESQLVERSION
V5.0L10	V21L30
V5.0L20	V23L11
V5.0L20A	V23L11
V5.0L30	V24L10
V10.0L10	V24L10
V10.0L20	V24L10
V10.0L20A	V24L10
V10.0L21	V24L10
V11.0L10	V50L30
V11.0L10A	V50L30
V12.0L10	V50L30
V13.0.0	V70L10
V13.1.0	V70L10

3. Systemwalker Centric Managerをアンインストールしてください。
4. Symfoware Server、およびSymfoware Clientをアンインストールしてください。
5. システム再起動後に以下のディレクトリが存在する場合は、配下のファイルを含めて削除してください。
`%SystemRoot%\ESQL`
6. Systemwalker Centric Managerをインストールしてください。

対処3

確認ポイント

システム環境変数「TMP」および「TEMP」に空白を含む文字列が設定されていませんか。

(通常、本設定値は空白ではなくチルダ(~)で設定されます)

原因

データベース作成処理では、システム環境変数TMPおよびTEMPを取得します。本変数に空白が含まれている場合、空白以降の文字列が認識できないために正しい設定値が取得できず、本エラーが発生します。

対処方法

1. コマンドプロンプトよりsetコマンドを実行し、システム環境変数「TMP」「TEMP」の設定値に空白が含まれていないか確認してください。

悪い設定例)

```
TEMP=C:\DOCUME~1¥InstallAdmin¥Local Settings¥Temp
```

```
TMP=C:\DOCUME~1¥InstallAdmin¥Local Settings¥Temp
```

上記は“Local Settings”に空白が含まれているため問題があります。

良い設定例)

```
TEMP=C:\DOCUME~1¥ADMINI~1¥LOCALS~1¥Temp
```

```
TMP=C:\DOCUME~1¥ADMINI~1¥LOCALS~1¥Temp
```

上記は空白が含まれていないため問題ありません。

2. 空白が含まれている場合は、システムプロパティの設定よりシステム環境変数「TMP」「TEMP」の設定値を空白のない設定値に変更してください。
3. OSを再起動して、設定を有効にしてください。
4. 運用環境の構築を行ってください。

対処4

確認ポイント

リモートデスクトップ(ターミナルサービス)から操作されていませんか。

原因

リモートデスクトップ(ターミナルサービス)からの操作については、製品版数によりサポート範囲が異なります。サポートされない製品版数において、リモートデスクトップ(ターミナルサービス)操作により環境作成を実施されている場合に本現象が発生します。

リモートデスクトップ(ターミナルサービス)を使用する場合は、各製品マニュアル記載の以下の項目を確認した上で使用してください。

- ・「リモートデスクトップ(ターミナルサービス)を使用する場合の注意事項」

対処方法

リモートデスクトップ(ターミナルサービス)を使用せず、環境作成を実施してください。

リモートから操作を行う場合は、Systemwalker Centric Manager リモート操作を使用してください。

4.4 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「MpFwSetup:ファイルシステムの作成に失敗しました。」を出力して失敗する

エラーメッセージ

```
MpFwSetup:ファイルシステムの作成に失敗しました。[error=??]  
MpFwSetup:Systemwalker Centric Manager環境作成は異常終了しました。
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

以下の項目に該当することが原因である可能性があります。

エラーが発生したコンピュータで、以下の確認を行い、該当する場合はそれぞれの対処を行ってください。

- 指定したデバイスを確認してください。

“/var/opt/FJSVfwbs/setup/MpFwsetup_param”ファイルの中を参照し、環境作成時に指定したデバイスを確認します。

例:

```
SWSFW="/dev/dsk/c0t1d0s3" ←RDB管理情報デバイス名
SWDIC="/dev/rdisk/0t1d0s4" ←RDBディクショナリ用ローデバイス名
SWLOG="/dev/rdisk/c0t1d0s5" ←RDBログファイル用ローデバイス名
SWDB="/dev/rdisk/c0t1d0s6" ←データベーススペース用ローデバイス名
```

- 同じデバイスが指定されていないことを確認してください。

同じデバイスが指定されていれば、異なるデバイスを指定してください。各デバイスには専用デバイスを指定する必要があります。

- 正しい型のデバイスが指定されていることを確認してください。

指定可能なデバイスについては、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.3.0～V13.0.0

“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“フレームワークのデータベース作成【Solaris版/Linux版】”

- 12.1～12.0

“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“フレームワークのデータベース作成”

- 11.0～5.2

“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“フレームワークのデータベース領域の作成”

- 5.1～5.0

“Systemwalker/CentricMGR 導入手引書”の“SystemWalker/CentricMGRの環境作成”

- “ls -l /”コマンドを実行し、“/SWFWDB”が使用されていないことを確認してください。

RDB管理情報デバイス名にデバイスを指定している場合、“/SWFWDB”が存在していると環境作成が失敗します。“/SWFWDB”が存在し、使用していない場合は削除してください。

- formatコマンドなどで、指定したパーティションの作成内容を確認してください。

論理ボリュームを指定している場合は、使用しているボリューム管理ソフトの機能を使用してパーティションの作成内容を確認してください。

- フレームワークデータベース用の各パーティションが、必要なサイズで作成されているか確認してください。詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.3.0～11.0

“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“フレームワークのデータベース領域の見積もり”

- 10.1～5.2

“Systemwalker CentricMGR 導入手引書”の“フレームワークのデータベース領域を見積もる”

- 5.1～5.0

“Systemwalker/CentricMGR 導入手引書”の“:データベース用に必要な資源”

不足している場合はパーティションを再作成してください。

- フレームワークデータベース用の各パーティションの、開始シリンダ、終了シリンダが正しいか(複数のパーティションで同一のシリンダを使用していないか)確認してください。

正しくない場合はパーティションを再作成してください。

- “df -k”コマンドを実行してください。

環境作成時に指定したデバイスが、既にファイルシステムとして使用されていないか確認してください。使用されているデバイスは環境作成時に指定できません。使用されていないほかのデバイスを指定してください。

対処方法

上記に該当する場合は、それぞれの対処を行ってください。

該当しない場合、または対処後も問題が発生する場合は、保守情報収集ツールですべての機能の資料を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

備考

- RDB管理情報デバイスに通常のデバイス名以外のデバイスを使用して環境構築を行う場合の注意事項
/etc/vfstab(Linuxの場合/etc/fstab)に"/SWFWDB"をマウントするための設定を別途行う必要がありますが、この設定は環境構築完了後に行ってください。

4.5 フレームワークのデータベース領域の作成がエラーメッセージ「RDBテンポラリログファイルの生成に失敗しました。」を出力して失敗する

エラーメッセージ

MpFwSetup: RDBテンポラリログファイルの生成に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

以下の項目に該当することが原因である可能性があります。

エラーが発生したコンピュータで、以下の確認を行い、該当する場合はそれぞれの対処を行ってください。

- 指定したデバイスを確認してください。

“/var/opt/FJSVfwbs/setup/MpFwsetup_param”ファイルの中を参照し、環境作成時に指定したデバイスを確認します。

例:

```
SWSFW="/dev/dsk/c0t1d0s3" ←RDB管理情報デバイス名
SWDIC="/dev/rdisk/0t1d0s4" ←RDBディクショナリ用ローデバイス名
SWLOG="/dev/rdisk/c0t1d0s5" ←RDBログファイル用ローデバイス名
SWDB="/dev/rdisk/c0t1d0s6" ←データベーススペース用ローデバイス名
```

- 同じデバイスが指定されていないことを確認してください。
同じデバイスが指定されていれば、異なるデバイスを指定してください。各デバイスには専用デバイスを指定する必要があります。
- 正しい型のデバイスが指定されていることを確認してください。
指定可能なデバイスについては、以下のマニュアルを参照してください。
 - V13.3.0～V13.0.0
“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“フレームワークのデータベース作成【Solaris版/Linux版】”
 - 12.1～12.0
“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“フレームワークのデータベース作成”

— 11.0～5.2

“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“フレームワークのデータベース領域の作成”

— 5.1～5.0

“Systemwalker/CentricMGR 導入手引書”の“SystemWalker/CentricMGRの環境作成”

- formatコマンド等で、指定したパーティションの作成内容を確認してください。

論理ボリュームを指定している場合は、使用しているボリューム管理ソフトの機能を使用してパーティションの作成内容を確認してください。

- フレームワークデータベース用の各パーティションが、必要なサイズで作成されているか確認してください。詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

— V13.3.0～11.0

“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“フレームワークのデータベース領域の見積もり”

— 10.1～5.2

“Systemwalker CentricMGR 導入手引書”の“フレームワークのデータベース領域を見積もる”

— 5.1～5.0

“Systemwalker/CentricMGR 導入手引書”の“:データベース用に必要な資源”

不足している場合はパーティションを再作成してください。

- フレームワークデータベース用の各パーティションの、開始シリンダ、終了シリンダが正しいか(複数のパーティションで同一のシリンダを使用していないか)確認してください。

正しくない場合はパーティションを再作成してください。

- “df -k”コマンドを実行してください。

環境作成時に指定したデバイスが、既にファイルシステムとして使用されていないか確認してください。使用されているデバイスは環境作成時に指定できません。使用されていないほかのデバイスを指定してください。

- PRIMECLUSTER GDSで管理しているボリュームがルートクラスの場合、ローデバイスにはデータベースを作成できません。PRIMECLUSTER GDS のディスククラスでデータベースを作成できるデバイスの種類を以下に記載します。

製品バージョン	デバイスの種類	PRIMECLUSTER GDS のディスククラス		
		ルートクラス	ローカルクラス	共用クラス
V13.1.0以前	ローデバイス	×	○	○
V13.2.0以降	ローデバイス	×	○	○
	レギュラーファイル	○	○	○

○:可能

×:不可能

対処方法

上記に該当する場合は、それぞれの対処を行ってください。

該当しない場合、または対処後も問題が発生する場合は、保守情報収集ツールですべての機能の資料を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

4.6 Microsoft Cluster Server上でクラスタ(アン)セットアップ時に、「リソースのプロパティを読み取ろうとしたときにエラーが発生しました」と表示される

エラーメッセージ

'XXXX' リソースのプロパティを読み取ろうとしたときにエラーが発生しました

XXXX: クラスタアドミニストレータのCentric Manager用のグループに登録されているリソースの名前が入ります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V4.0L10以降

確認ポイント

以下の点を確認してください。

- クラスタソフトウェアがMicrosoft Cluster Serverであること。
- セットアップ時に発生した場合、セカンダリのセットアップ完了後にクラスタアドミニストレータにてエラーとなったリソースのプロパティが参照できること。

原因

クラスタアドミニストレータを起動したまま、Systemwalker Centric Managerのセットアップ／アンセットアップを実施した場合に、発生することがあります。

対処方法

運用には問題ありません。

対処不要ですが、クラスタアドミニストレータを終了してからクラスタ(アン)セットアップを実施することにより回避可能です。

4.7 CentricMGR RDAサービスが停止状態である(クラスタ環境でCentricMGR RDAサービスがオフラインのままになっている)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

クラスタ環境の運用管理サーバで、フレームワークの環境構築後に発生します。

CentricMGR RDAサービスは、V5.0L20までヘルプデスク機能で使用していました。V5.0L30以降では、旧版との互換のために、運用管理サーバインストール時にデフォルトでインストールされます。フレームワークの環境構築後にサービスとして登録され、スタートアップの種類は「手動」となります。

対処方法

ヘルプデスクを使用しない場合、およびV5.0L30以降のヘルプデスククライアントを使用する場合は、対処は不要です。

V5.0L20以前のヘルプデスククライアントから接続する場合は、CentricMGR RDAサービスのスタートアップの種類を「自動」に変更し、サービスを「開始」してください。

4.8 フレームワークデータベース作成のセットアップメニューで表示する文字列で文字化けが発生する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

セットアップメニューで表示する文字には半角カタカナが含まれています。

OSをテキストモードで起動し端末コンソールでセットアップメニューを表示した場合、コンソール画面上で漢字、および半角カタカナの表示が可能な状態に設定する必要があります。

対処方法

コンソール画面上で漢字、および半角カタカナの表示ができるように設定してください。

4.9 フレームワークのデータベース環境を削除してしまい、ヘルプデスクのデータベース環境を削除できない

エラーメッセージ

```
rdb:ERROR:qdg12148e:SQL文の実行で重症エラーを検出しました
:jyp4784e データベース“HD_DATABASE”は定義されていません
rdb:ERROR:qdg1226e:データベース削除文の実行で重症エラーを検出しました
:詳細メッセージ=jpy4784e データベース“HD_DATABASE”は定義されていません
エラーが発生した文の先頭位置=1
rdb:ERROR:qdg02201u:rdbddlexが異常終了しました。復帰コード01
運用管理サーバ上に作成したヘルプデスク環境の削除に失敗しました
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30、V10.0L10
 - Solaris版:5.0～5.2、10.0

原因

ヘルプデスクのデータベース環境を削除する前に、フレームワークのデータベース環境を削除したため発生します。

対処方法

[Windows (V5.0L10、V5.0L20)版の場合]

- ヘルプデスクデータベース作成時に、ヘルプデスクセットアップメニューで指定したヘルプデスク用データベースファイルを削除します。初期値は以下のとおりです。

```
C:¥DATABASE¥HDSFW.DAT
```

[Windows (V5.0L30)版の場合]

- ヘルプデスクデータベース作成時に、ヘルプデスクセットアップメニューで指定したヘルプデスク用データベースファイルを削除します。初期値は以下のとおりです。

```
C:¥DATABASE¥HDSFW.DAT
```

- 以下のファイルを削除します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mphlpdsv¥SFW¥ossetupd
```

- servicesファイルからヘルプデスクのエントリを削除します。

```
Windowsインストールディレクトリ¥system32¥drivers¥etc¥services
```

- 削除するエントリ(該当の行を削除します。)

```
RDB-SV      2002/tcp
```

[Windows (V10.0L10)版の場合]

- ヘルプデスクデータベース作成時に、ヘルプデスクセットアップメニューで指定したヘルプデスク用データベースファイルを削除します。初期値は以下のとおりです。

```
C:¥DATABASE¥HDSFW.DAT
```

- 以下のファイルを削除します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mphlpdsv¥SFW¥ossetupd
```

- servicesファイルからヘルプデスクのエントリを削除します。

```
Windowsインストールディレクトリ¥system32¥drivers¥etc¥services
```

- 削除するエントリ(該当の行を削除します。)

```
fj-hdrda    2039/tcp
```

[Solaris版の場合]

- 以下のファイルを削除します。

```
/opt/FJSVshlps/SFW/ossetupd
```

【備考】

Systemwalker/CentricMGRをアンインストールする場合は、上記の作業後アンインストールを実行してください。

環境を再構築しヘルプデスクを使用する場合は、上記の作業後、フレームワークのデータベース環境の構築を行い、ヘルプデスクのデータベース環境を構築してください。

4.10 運用管理サーバ二重化環境の従系サーバ構築に失敗する

エラーメッセージ

```
mpcmtoolc: エラー: 1100: リストアに失敗しました。( %1)
```

%1: リストアが失敗した原因となるエラーメッセージ

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L30以降

原因

Systemwalker Centric Managerインストール時に、主系サーバおよび従系サーバのインストール先のドライブ名およびディレクトリ名が異なっている可能性があります。

主系サーバおよび従系サーバに登録されているSystemwalker Centric Manager用のアカウント情報(ユーザ、グループ)が異なっている可能性があります。

対処方法

1. 従系サーバのインストール先のドライブ名、ディレクトリ名、およびSystemwalker Centric Manager用のアカウント情報が同一かどうかを確認してください。異なる場合、以降の手順2、および3を実施してください。
2. 従系サーバで運用環境の削除を行います。
削除方法については、以下のマニュアルを参照してください。
 - V5.0L30～V12.0L10
V10.0L10以降の“運用管理サーバ二重化ガイド(連携型)”、“Windows版の場合”の“従系サーバでの設定”
 - V13.0.0以降
“運用管理サーバ二重化ガイド(連携型)”、“従系サーバでの作業”の“Windows版の場合”
3. 従系サーバでSystemwalker Centric Managerをアンインストールします。
アンインストール方法については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。
4. 従系サーバでSystemwalker Centric Managerをインストールします。
インストール先のドライブ名、ディレクトリ名、およびSystemwalker Centric Manager用のアカウント情報が主系サーバと同一になるようインストールしてください。インストール方法については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。
5. 従系サーバを再構築します。
構築方法については、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド(連携型)”の“従系サーバでの設定”、または“従系サーバの構築”を参照してください。

4.11 運用管理サーバ二重化環境のポリシーの同期に失敗する

対処1

エラーメッセージ

```
component start : /opt/FJSVftlc/backup/bin/rsfwsec -b 退避先ディレクトリ/FJSVfwsec -p
Failed to restore.

Server error occured in component : rsfwsec
Continue backing up ? [ y or n /n/ ]
```

運用管理サーバ二重化の導入時に、従系サーバでポリシー情報の復元(mppolcopyコマンド)を行うと、エラーメッセージが出力される場合がある。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.0

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerのセキュリティロールに所属しているユーザと同名のユーザが、従系サーバのOSにログインしていませんか。

原因

主系サーバでSystemwalker Centric Managerのセキュリティロールに所属しているユーザと同名のユーザが、従系サーバのOSにログイン中の場合、従系サーバでのポリシー情報の復元に失敗します。

対処方法

従系サーバで使用中被ることが確認されたユーザはログアウトしてから、ポリシー情報の復元を実施してください。

対処2

エラーメッセージ2

Security (ACL Manager) の復元に失敗しました。詳細:Failed to restore.

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L21

確認ポイント

主系サーバと従系サーバで、以下のアカウント情報を同一にしていますか。

- Systemwalker Centric Manager用のユーザ
- Systemwalker Centric Managerのインストールを実施したユーザ
- ポリシー情報の退避を実施したユーザ

原因

主系サーバと従系サーバでアカウントの情報が同一でない場合、従系サーバでのポリシー情報の復元に失敗することがあります。

対処方法

従系サーバに以下のユーザを登録し、ポリシー情報の復元を実施してください。

- 主系サーバでSystemwalker Centric Manager用に登録されているユーザと同名のユーザ
- 主系サーバでSystemwalker Centric Managerのインストールを実施したユーザと同名のユーザ
- 主系サーバでポリシー情報の退避を実施したユーザと同名のユーザ

4.12 Windowsのターミナルサービス経由のリモート操作からのSystemWalker/CentricMGRの環境作成(運用環境の構築)が失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V13.5.0B

確認ポイント

Windowsターミナルサービス経由でリモートから操作を行っていませんか。

原因

以下の場合、Windowsターミナルサービス経由でのリモート操作はサポートしていません。

- Systemwalker Centric Manager V13.2.0以前の場合

または、

- Systemwalker Centric Manager V13.3.0～V13.5.0Bの運用管理サーバ、かつV9.1.0以前のSymfoware Serverと共存している場合

対処方法

運用管理サーバのコンソール上で再度環境作成(運用環境の構築)を行ってください。リモートから操作を行う場合は、SystemWalker/CentricMGR リモート操作を使用してください。

4.13 クラスタのセットアップでSystemwalker Centric Manager環境作成が失敗する

エラーメッセージ

MpFwSetup:マウントポイントの作成およびマウントに失敗しました。
MpFwSetup:Systemwalker Centric Manager環境作成は異常終了しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

以下の条件をすべて満たすことを確認してください。

- mpsupcltコマンドを実行時に“-m”で指定する共有資源用パーティションのマウントポイントに“/SWFWDB”を指定している。
- “Systemwalker Centric Manager環境作成”でRDB管理情報の作成先指定時にデバイス名を指定している(共有ディスク上の任意のディレクトリは指定していない)。

原因

クラスタセットアップコマンド(mpsupcltコマンド)実行時、“-m”で指定する共有資源用パーティションのマウントポイントに“/SWFWDB”を使用する場合、“Systemwalker Centric Manager環境作成”ではRDB管理情報の作成先にデバイス名を指定する事ができません。

RDB管理情報の作成先指定時に、ディレクトリではなくデバイス名を設定した場合、マウントポイントとして“/SWFWDB”を固定で使用します。そのため共有資源用パーティションのマウントポイントに“/SWFWDB”を使用する場合、使用するマウントポイントが同じになることでマウント処理が失敗し、コマンドが異常終了となります。

対処方法

以下のどちらかの対処を行ってください。

- 共有資源用パーティションのマウントポイント“/SWFWDB”の名前が変更可能な場合
“/SWFWDB”アンマウント後、共有資源用パーティションのマウントポイントを“/SWFWDB”以外に変更し、再度クラスタのセットアップ手順を実施してください。その際“/SWFWDB”ディレクトリは削除してください。
- 共有資源用パーティションのマウントポイント“/SWFWDB”の名前が変更不可能な場合
再度クラスタのセットアップ手順を実施し、mpsupcltコマンドを実行時の指定は変えずに、“Systemwalker Centric Manager環境作成”でRDB管理情報の作成先に“/SWFWDB”を指定します(デバイス名入力時に一度リターンを押下しパスを入力します)。ただし、この場合「RDB管理情報デバイスにRDB管理情報専用パーティション上の任意のディレクトリを指定している場合」となり、手順に影響が出ますので注意してください。詳細は、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバクラスタ適用ガイド”を参照してください。

上記対処後も同様の問題が発生する場合は、保守情報収集ツールですべての機能の資料を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

4.14 RAIDボリューム上でのフレームワークデータベースの作成処理が失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

データベースの作成先にSafeDISK/PRIMECLUSTER GDS以外のRAIDボリュームを指定していないか確認してください。(例えば、Solstice Disk Suite および SVM(Solaris Volume Manager)のRAIDボリュームなど。)

原因

データベースの作成先にSafeDISK/PRIMECLUSTER GDS以外のRAIDボリュームは指定できません。

対処方法

以下のデータベース作成可能条件に合うボリュームを指定して、再度作成してください。

- SafeDISK/PRIMECLUSTER GDS で管理しているボリュームをデータベース作成先に指定することができます。
- Solstice Disk Suite および SVM(Solaris Volume Manager)で管理されているボリュームについては、ソフトパーティション機能を使用したボリュームについてのみ、指定することができます。(RAID機能を使用したボリュームはデータベース作成先に指定できません。)
- Systemwalker Centric Managerの処理性能を重視する場合には、Solstice Disk Suite および SVM(Solaris Volume Manager)で管理されているボリュームを“RDB管理情報専用パーティション”として指定しないでください。

上記以外のボリューム管理ソフトで管理されているボリュームについては、データベース作成先として使用することはできません。

4.15 フレームワークのデータベース領域の作成がObjectDirector環境の構築で失敗し、「od10937」というメッセージが出力される

エラーメッセージ

- 操作画面上

```
ObjectDirector環境の構築を開始します。しばらくお待ち下さい。
MpFwSetup:処理が失敗しました。ログファイルを参照し原因を取り除いた後再度実行して下さい。
MpFwSetup:Systemwalker Centric Manager環境作成は異常終了しました。
```

- シスログ/イベントログ上

```
OD: ERROR: od10937:Failed to connect to host(%1),port(%2). (%3)
OD: エラー: od10937:ホスト(%1),ポート(%2)への接続に失敗しました。(%3)
```

%1: 接続先マシン名またはIPアドレス

%2: 接続先ポート

%3: OSから通知されたエラー情報

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

od10937は接続先のCORBAサービスが未起動である、またはネットワーク異常により接続に失敗したことを意味しています。

上記メッセージ中に表示されるホスト名が自ホスト名である場合、ネットワークの設定に問題がある可能性があります。

対処方法

以下の確認/対処を行い、再度フレームワークのDB環境作成を行ってください。対処後も同様の問題が発生する場合は保守情報収集ツールでフレームワーク機能の情報を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

- %1がマシン名である場合は、hostsファイルの内容やDNSの設定に誤りがないかを確認してください。
- 誤ったIPアドレスに変換されていないかを確認してください。
- 接続先マシン名、またはIPアドレス%1へのネットワークに異常がないかを確認してください。
- 接続先がLinuxの場合、ファイアウォールの設定がされていないか確認してください。
- 接続先マシン名、またはIPアドレスでCORBAサービスが起動されているかを確認してください。

4.16 フレームワークのデータベース領域の作成がObjectDirector環境の構築で失敗し、「od10725」というメッセージが出力される

エラーメッセージ

- 操作画面上

```
ObjectDirector環境の構築を開始します。しばらくお待ち下さい。
MpFwSetup:処理が失敗しました。ログファイルを参照し原因を取り除いた後再度実行して下さい。
MpFwSetup:Systemwalker Centric Manager環境作成は異常終了しました。
```

- シスログ/イベントログ上

```
OD: ERROR: od10725:Could not get IPC resource.(resource=%s1 key=%s2 path=%s3 err=%s4)
OD: ERROR: od10922:Failed to get a semaphore.
OD: ERROR: od10921:ObjectDirector initialization time out
```

[可変情報]

%s1:資源名

%s2:キー値

%s3:パス名

%s4:エラー詳細

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

以下に該当しないか確認してください。

- システムパラメタの設定に問題はありませんか。
“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照し、システムパラメタの見積りに問題がないかを確認してください。
- ObjectDirectorの動作環境定義ファイル(configファイル)の“max_IIOp_resp_con”の内容が“133以上”になっていませんか。
ファイル名
 - [Solarisの場合]

```
/opt/FSUNod/etc/config
```

- [Linuxの場合]

```
/opt/FJSVod/etc/config
```

原因

以下の原因が考えられます。

- システムパラメタの設定に問題があった。
- ObjectDirector環境の構築処理に失敗した経緯がある、またはObjectDirector環境の構築処理時にCtrl+C等で強制終了した経緯がある。

対処方法

- システムパラメタの設定に問題があった場合。
“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照し、システムパラメタを正しく見積り直し、再設定を行ってください。
- ObjectDirector環境の構築処理に失敗した経緯がある、またはObjectDirector環境の構築処理時にCtrl+Cなどで強制終了した経緯があり、ObjectDirectorの動作環境定義ファイル(configファイル)の"max_IOP_resp_con"の設定が"133"以上であった場合。

- [Interstageの機能を使用する他製品と共存しない場合]

以下の対処を行ってください。

※ Interstageの機能を使用する他製品と共存して使用している場合、この手順は実施しないでください。

1. 以下のコマンドを実行します。

[Solarisの場合]

```
# cd /opt/FSUNod/etc  
# cp -p config.default config
```

[Linuxの場合]

```
# cd /opt/FJSVod/etc  
# cp -p config.default config
```

再度環境構築を行います。

- [Interstageの機能を使用する他製品と共存する場合]
保守情報収集ツールでフレームワーク機能の情報を収集し、技術員に調査依頼をしてください。
その際、共存する製品の情報も通知してください。
- 上記に該当しない場合
保守情報収集ツールでフレームワーク機能の情報を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

4.17 運用管理サーバ二重化環境の主系サーバの構築に失敗する

エラーメッセージ

```
ポリシー情報のクローニングが異常終了しました。 ErrorCode=1
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.1.0以降

確認ポイント

運用環境保守ウィザードへ入力した値に誤りはありませんか。

原因

主系サーバのホスト名を誤って入力した場合、本現象が発生します。

対処方法

1. 運用環境保守ウィザードを使用して「運用環境の削除」を実行します。
2. 「運用環境の削除」が正常終了した後、手順に従って再度主系サーバの構築を実施します。

主系サーバのホスト名を誤って入力していない場合、保守情報収集ツールですべての情報を採取し、技術員に連絡してください。

4.18 運用環境の構築がエラーメッセージ「サービスの起動に失敗しました。サービス名=MpCNappl,エラーコード=1」を出力して失敗する

エラーメッセージ

```
サービスの起動に失敗しました。サービス名=MpCNappl,エラーコード=1
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L21以降

確認ポイント

Microsoft SNMP Trap Serviceがインストールされていませんか。または、ServerViewが導入されていませんか。

原因

Systemwalker Centric Managerの環境構築・環境削除をしている、かつMicrosoft SNMP Trap Serviceがインストールされている場合、運用環境の構築を行う前に、mpmsts(SNMP Trap Service連携コマンド)を実行しておく必要があります。

ServerViewが導入された環境の場合、ServerViewからのSNMPトラップの受信にはMicrosoft SNMP Trap Serviceを使用するため、mpmsts(SNMP Trap Service連携コマンド)を実行する必要があります。

対処方法

1. "MPMSTS ON"を実行してください。
2. システムをリブートしてください。
3. 再度運用環境の構築を実行してください。

4.19 運用環境の構築がエラーメッセージ「サービスの起動に失敗しました。サービス名=MpFwbs,エラーコード=1」を出力して失敗する

エラーメッセージ

```
サービスの起動に失敗しました。サービス名=MpFwbs,エラーコード=1
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L21以降

確認ポイント

Systemwalker Service Quality Coordinatorの、Manager、またはAgentを導入し、Systemwalker Centric ManagerのRDBシステム(RDBシステム名:CENTRIC)を性能監視していませんか。

原因

Systemwalker Centric Managerの環境構築・環境削除をしている、かつSystemwalker Service Quality Coordinatorの、Manager、またはAgentを導入し、Systemwalker Centric ManagerのRDBシステム(RDBシステム名:CENTRIC)を性能監視している場合、運用環境の構築を行う前に、Systemwalker Centric Manager RDB システムの性能情報収集処理を停止しておく必要があります。

Systemwalker Service Quality Coordinatorの、Manager、またはAgentを導入した場合、Systemwalker Centric ManagerのRDBシステム(RDBシステム名:CENTRIC)の性能監視はデフォルトで有効になります。

対処方法

1. システムをリブートしてください。
2. Systemwalker Service Quality Coordinatorを停止するなどして、Systemwalker Centric Manager RDB システムの性能情報収集処理を停止してください。
3. 再度運用環境の構築を実行してください。
4. Systemwalker Service Quality Coordinatorを起動するなどして、Systemwalker Centric Manager RDB システムの性能情報収集処理を開始してください。

4.20 運用管理サーバで二重化環境のポリシーの同期を実行するとメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
ERROR: 20023: Node Configuration command error. /opt/FJSVfwnm/bin/_mpdrpspa.sh(exit_code = 254)
(MpPolSend)
ERROR: 20010: Fail to initialize connection to framework base.(MpFwams or MpFwqs) (MpPolSend)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
 - Solaris版: 5.0以降
 - Linux版: V11.0L10以降

確認ポイント

二重化環境でポリシー同期を行った時間とメッセージが出力された時間が同じですか。

原因

運用管理サーバで二重化環境のポリシーの同期を行うと、内部的にSystemwalker Centric Managerの再起動が行われます。そのため、構成情報の自動配付が行われ、該当のメッセージが出力される場合があります。

対処方法

Systemwalker Centric Managerを起動することにより、構成情報の自動配付が行われるため、対処の必要はありません。

4.21 Windows Server 2012において運用環境保守ウィザードが起動に失敗する

エラーメッセージ

```
レジストリのオープンに失敗しました。  
Key=SOFTWARE\Fujitsu\OD_Parent
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.6.1以降

原因

Windowsの更新プログラムKB2770917を含む修正が適用されていないことが原因です。

対処方法

[コントロールパネル]-[プログラムと機能]より、KB2770917が適用されていないことを確認してください。

修正が適用されていない場合、以下を実施してください。

1. インストールされたファイルの確認

Systemwalker Centric ManagerがV15.0.0以降の場合に必要な作業です。

以下のファイルがインストールされていることを確認してください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ\MPWALKER.DM\dmunins\silentUninstallCMGR.bat
```

インストールされていない場合は、インストールDVDの以下のフォルダから、インストール環境に複製してください。

複製元

Windows32bit版:

```
Server\win32\cmgrcir\bin\silentUninstallCMGR.bat
```

Windows64-EM64T版:

```
MAIN\win32\cmgrcir\bin\silentUninstallCMGR.bat
```

複製先

```
Systemwalkerインストールディレクトリ\MPWALKER.DM\dmunins  
\silentUninstallCMGR.bat
```

2. Systemwalker Centric Managerのアンインストール

a. コマンドプロンプトを起動

Windowsの[コマンドプロンプト]を右クリックし、[管理者として実行]を選択して起動します。

b. アンインストールの実行

手順aで起動したコマンドプロンプトから、以下のコマンドを実行します。

```
C:\Systemwalker\MPWALKER.DM\dmunins\swuset.exe
```

3. 更新プログラムKB2770917を含む修正の適用

4. Systemwalker Centric Managerの再インストール

第5章 バックアップ/リストア/移行に関するトラブルシューティング

5.1 「qdg02273u:データベース'HD_DATABASE'は存在しません」または「qdg02267u:指定したデータベース'HD_DATABASE'は存在しません」と出力される

SystemWalker/CentricMGRのバックアップ/リストア時に出力されます。

エラーメッセージ

```
rdb: ERROR: qdg02273u:データベース'HD_DATABASE'は存在しません  
rdb: ERROR: qdg02267u:指定したデータベース'HD_DATABASE'は存在しません
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30
 - Solaris版:5.0以降

対処1

確認ポイント

以下のファイル(一時ファイル)があることを確認してください。

- Windows版の場合
 - 運用管理サーバ(クラスタ運用であれば主系・従系両方)

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mphlpdsv¥SFW¥ossetupd  
または  
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mphlpdsv¥SFW¥ossetup
```

- ヘルプデスクサーバ

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mphlpdsv¥SFW¥svsetup
```

- Solaris版の場合
 - 運用管理サーバ(クラスタ運用であれば主系・従系両方)

```
/opt/FJSVshlps/SFW/ossetupd  
または  
/opt/FJSVshlps/SFW/ossetup
```

- ヘルプデスクサーバ

```
/opt/FJSVshlps/SFW/svsetup
```

原因

ヘルプデスクデータベースの環境削除後に、不要な一時ファイルが残っています。

対処方法

- ヘルプデスクを使用する場合
 - 一時ファイルを削除します。
上記、確認ポイントで確認した一時ファイルを削除します。
 - ヘルプデスクの環境を構築します。
- ヘルプデスクを使用しない場合
 - 一時ファイルを削除します。
上記、確認ポイントで確認した一時ファイルを削除します。

対処2

確認ポイント

以下のファイルがないことを確認してください。

- Windows版の場合
 - 運用管理サーバ(クラスタ運用であれば主系・従系両方)

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mphlpdsv¥SFW¥ossetupd  
または  
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mphlpdsv¥SFW¥ossetup
```

- ヘルプデスクサーバ

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mphlpdsv¥SFW¥svsetup
```

- Solaris版の場合
 - 運用管理サーバ(クラスタ運用であれば主系・従系両方)

```
/opt/FJSVshlps/SFW/ossetupd  
または  
/opt/FJSVshlps/SFW/ossetup
```

- ヘルプデスクサーバ

```
/opt/FJSVshlps/SFW/svsetup
```

原因

ヘルプデスクがインストールされているが、ヘルプデスクデータベースが作成されていません。

対処方法

- ヘルプデスクを使用する場合
“Systemwalker Centric Manager導入手引書”を参照し、ヘルプデスクデータベースを構築してください。
- ヘルプデスクを使用しない場合
メッセージの対処は不要です。

5.2 運用管理サーバで、運用環境の復元がフレームワーク基盤で失敗する

運用管理サーバでのリストア、およびバージョンアップで運用環境の復元が以下のどちらかのエラーメッセージを出力して失敗します。

エラーメッセージ

```
rsMpFwams: qdg02866u:DSI'OBJxxx_xxx_0000'の'DATA'に対する自動容量拡張において必要な空き領域を全く確保できませんでした 割付け量='192'キロバイト (システム名=CENTRIC)qdg12075u:rdbloaderが異常終了しました 復帰コード -2 (システム名=CENTRIC)
※ xxx はDSI名であり可変です。
```

Failed to restore LSDB

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

バックアップデータから以下のファイルを検索してください。

- UNIX: "MpFwsetup_param"
- Windows: "MpFwsetup_param.prm"

上記のファイルを参照しバックアップしたデータベースのサイズ(DB_MODEL="設定値")を確認してください。

設定値:意味

- | | |
|---|-------------|
| 1 | :300ノードモデル |
| 2 | :1000ノードモデル |
| 3 | :3000ノードモデル |

上記以外の値:以下の値を参照して各データベースのサイズを確認してください。

- AMSDB_SZ リポジトリ(※) (Windowsのみ設定可能)

※ リポジトリ: Systemwalkerで管理する情報(ノード情報、セグメント情報、アプリケーション情報、各機能のポリシー情報)を格納するデータベースです。

- LSDB_OBJ_SZ オブジェクトログ
- LSDB_MSG_SZ 監視メッセージログ
- LSDB_TBL_SZ 監視イベントログ

原因

運用環境の復元時に作成したデータベースのサイズが、バックアップしたデータベースのサイズよりも小さい場合に発生します。

対処方法

運用環境を削除し、リストア準備またはリストア用運用環境の構築から手順を実行してください。運用環境を構築する際は、バックアップしたデータベースのサイズと同じか、それ以上のサイズを指定してください。

5.3 運用環境の復元に失敗する

エラーメッセージ

```
XXXXの復元に失敗しました。
```

XXXX: 失敗した機能名

対処1

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

運用環境の復元で指定したバックアップデータが壊れている可能性があります。

Systemwalker Centric Managerの機能をすべてインストールしていない環境では、インストールしない機能の情報として空のディレクトリを作成しています。リストアするホストにバックアップデータを移動する際に圧縮ツールを使用した場合、圧縮ツールによっては空のディレクトリを圧縮対象から外される場合があります。そのようなバックアップデータを使用した場合、運用環境の復元が正しく行われません。

対処方法

1. 運用環境の退避で退避したバックアップデータ(圧縮されていない)が残っている場合、バックアップデータを圧縮せずにリストア先のホストに移動してください(もしくは空のディレクトリを圧縮対象から外さないように圧縮して移動してください)。
2. 運用環境の退避で退避したバックアップデータが存在しない場合、再度運用環境の退避を実行し、リストアするホストにバックアップデータを移動してください。
3. 移動したバックアップデータを使用し、再度運用環境の復元を行います。

対処2

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20 以降

確認ポイント

運用環境を退避する際、異なるバージョンのCD-ROM(Systemwalker Centric Manager V13.4.1以前の場合(以降、CD-ROMと略す))、またはDVD(Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降の場合(以降、DVDと略す))を使用して退避していないか確認してください。

原因

異なるバージョンのCD-ROM、またはDVDを使用して運用環境を退避している可能性があります。

対処方法

移行先のバージョンのCD-ROM、またはDVDを使用して、移行用の[運用環境保守ウィザード]から運用環境を退避してください。

5.4 Systemwalker Centric Manager の移行作業(バージョンアップ)時に、基本フレームワークの退避に失敗する

エラーメッセージ

基本フレームワークの退避に失敗しました。 [詳細] BKMPFWAMS SystemWalkerのレジストリ情報にアクセスできません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Manager の移行作業実施前に、バンドルされているSymfoware Serverのアンインストールを行ったため、発生しました。

対処方法

- Windows版 (V5.0L10～V11.0L10) の場合

1. 以下のファイルを編集します。

- 編集対象ファイル

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.DM¥MpFwbs¥var
¥MpFwsetup_param.prm
```

- 編集内容

```
DB_SETUP_FLAG="ON" ← OFFに変更
DB_SETUP_STATE="3" ← 0に変更
```

2. 通常の方法で環境削除を行います。
3. 削除した製品を再インストールし、再度環境を構築してください。バックアップデータが存在する場合は、リストア処理を実行して復旧してください。

- Windows版 (V12.0L10以降) の場合

1. 以下のレジストリキーの値を修正します。

- 編集キー

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Fujitsu¥MpWalker
¥CurrentVirsion
```

- 編集内容

```
SW_SETUP_HD "" ← **を0に変更(**が0の場合は対処不要)
SW_SETUP_COMPOSIT "" ← **をOFFに変更(**がOFFの場合、
SW_SETUP_COMPOSITが存在しない場合は、対処不要)
SW_SETUP_RFM "" ← **をOFFに変更(**がOFFの場合、
SW_SETUP_RFMが存在しない場合は、対処不要)
```

2. 以下のコマンドを実行して運用環境を削除します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥bin
¥MpFwSetup -unsetup
```

3. 削除した製品を再インストールし、再度環境を構築してください。バックアップデータが存在する場合は、リストア処理を実行して復旧してください。

- Solaris版 (5.0～5.1) の場合

1. 以下のファイルを編集します。

- 編集対象ファイル

```
/var/opt/FJSVfwbs/setup/MpFwsetup_param
```

- 編集内容

```
DB_SETUP_FLAG="ON" ← OFFに変更  
DB_SETUP_STATE="3" ← 0に変更
```

2. 通常の方法で環境削除を行います。
3. 以下のコマンドを実行し、マウントの解除、および/etc/vfstabの修正を実施してください。

```
# cd /  
# umount /SWFWDB  
# rmdir /SWFWDB  
# vi /etc/vfstab  
/etc/vfstabの/SWFWDBの設定行を削除してください。
```

4. 削除した製品を再インストールし、再度環境を構築してください。バックアップデータが存在する場合は、リストア処理を実行して復旧してください。

• Solaris版(5.2~10.1)の場合

1. 以下のファイルを編集します。

- 編集対象ファイル

```
/var/opt/FJSVfwbs/setup/MpFwsetup_param
```

- 編集内容

```
DB_SETUP_FLAG="ON" ← OFFに変更  
DB_SETUP_STATE="3" ← 0に変更
```

2. 通常の方法で環境削除を行います。
3. 削除した製品を再インストールし、再度環境を構築してください。バックアップデータが存在する場合は、リストア処理を実行して復旧してください。

• Solaris版(11.0)Linux版(V11.0L10)の場合

1. 以下のファイルを編集します。

- 編集対象ファイル

```
/var/opt/FJSVfwbs/setup/MpFwsetup_param
```

- 編集内容

```
DB_SETUP_FLAG="ON" ← OFFに変更  
DB_SETUP_STATE="3" ← 0に変更
```

2. 通常の方法で環境削除を行います。
3. 以下のファイルを編集します。

- 編集対象ファイル

```
レジストリ情報ファイル:/opt/systemwalker/etc/systemwalker.reg
```

- 編集内容

```
SW_SETUP_HD=** ← **を0に変更(**が1または2の場合)
```

4. 削除した製品を再インストールし、再度環境を構築してください。バックアップデータが存在する場合は、リストア処理を実行して復旧してください。

- Solaris版(12.0以降)Linux版(V12.0L10以降)の場合

1. 以下のファイルを編集します。

- 編集対象ファイル

```
レジストリ情報ファイル:/opt/systemwalker/etc/systemwalker.reg
```

- 編集内容

```
SW_SETUP_HD=** ← **を0に変更(**が0の場合は対処不要)  
SW_SETUP_COMPOSIT=** ← **をOFFに変更(**がOFFの場合、  
SW_SETUP_COMPOSITが存在しない場合は、対処不要)  
SW_SETUP_RFM=** ← **をOFFに変更(**がOFFの場合、  
SW_SETUP_RFMが存在しない場合は、対処不要)
```

2. フレームワークのデータベース削除を実行します。ほかの機能のデータベース(ヘルプデスクのデータベース、リカバリフローのデータベース、インベントリ管理のデータベース)の削除は不要です。
3. 削除した製品を再インストールし、再度環境を構築してください。バックアップデータが存在する場合は、リストア処理を実行して復旧してください。

※当対処方法は、各製品マニュアル“導入手引書 ObjectDirector、SymfoWARE環境削除時の対処方法”で記載しています。



注意

以下のパターンでバージョンアップを行う場合、SystemWalker/CentricMGR 5.2/V5.0L30で見積もり値を変更しているため、監視メッセージログの見積もりを1.4倍以上に設定する必要があります。

- Windows版 SystemWalker/CentricMGR V5.0L20以前からV5.0L30以降へのバージョンアップ
- Solaris版 SystemWalker/CentricMGR 5.1以前から5.2以降へのバージョンアップ

5.5 Systemwalker Centric Managerの移行作業(バージョンアップ)時に、性能監視の資源の退避に失敗する

エラーメッセージ

```
Error!! mvspmx was unsuccessful
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:V13.0.0以前
 - Linux版:V13.0.0以前
 - Linux for Itanium版:V13.0.0以前

確認ポイント

以下のファイルが存在するか確認します。

/opt/FJSVspmx/etc/rc/swpmexa

ファイルが存在しない場合は、以下の対処方法で対処してください。

原因

性能監視拡張エージェントの起動抑止により、セットアップが解除されているため、性能監視の資源の退避に失敗しました。

対処方法

性能監視拡張エージェントをセットアップした上で、資源の退避を行います。

なお、セットアップの方法は以下のとおりです。

【Solaris 9以前の場合】

```
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/setupsea.sh
```

【Solaris 10の場合】

```
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/setupProxy.sh
```

【Linux(V12.0L10以前の場合)】

```
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/setupRelay.sh
```

【Linux版(V13.0.0以降の場合)/Linux for Itanium】

```
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/setupProxy.sh
```

5.6 Systemwalker Centric Manager の移入(バージョンアップ)、またはリストア時に「premprs command is not excuted yet.」と出力され異常終了する

エラーメッセージ

```
premprs command is not excuted yet
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1(Solaris版10.0~10.1の場合)

確認ポイント

リストア、バージョンアップで運用環境の復元を行う際、フレームワークのデータベース領域の作成を行う前に“premprs”コマンド(リストアの準備)を実行していますか。

原因

リストア、バージョンアップで運用環境の復元を行う際、フレームワークのデータベース領域の作成を行う前に“premprs”コマンド(リストアの準備)を実行していない場合に発生します。

対処方法

フレームワークのデータベース削除を実行後、“Systemwalker CentricMGR導入手引書”の“リストアの準備をする”を必ず実行し、“フレームワークのデータベース領域の作成”、復元を行ってください。

対処2(Solaris版11.0以降、Linux版V11.0L10以降の場合)

確認ポイント

リストア、バージョンアップで運用環境の復元を行う際、フレームワークのデータベース領域の作成時、“Systemwalker Centric Managerリストア用環境作成”を実行していますか。

原因

リストア、バージョンアップで運用環境の復元を行う際、フレームワークのデータベース領域の作成時、“Systemwalker Centric Managerリストア用環境作成”を実行していない場合に発生します。

対処方法

フレームワークのデータベース削除を行い、下記マニュアル手順に従って復元を行ってください。

- ・ リストアを行う場合

“Systemwalker Centric Manager導入手引書”の“Systemwalker Centric Managerの環境を復元する”の手順に従って復元を行ってください。その際、“リストア用にSystemwalker Centric Managerの環境を構築する”で、“Systemwalker Centric Managerリストア用環境作成”を必ず実行するようにしてください。

- ・ バージョンアップを行う場合

“Systemwalker Centric Managerバージョンアップガイド”の“バージョンアップ”を参照し、“運用環境の作成”以降の作業を行ってください。その際、必ずリストア用のフレームワークデータベース作成を実行するようにしてください。



注意

以下のパターンでバージョンアップを行う場合、SystemWalker/CentricMGR 5.2/V5.0L30で見積もり値を変更しているため、監視メッセージログの見積もりを1.4倍以上に設定する必要があります。

- ・ Solaris版 SystemWalker/CentricMGR 5.1以前から5.2以降へのバージョンアップ

5.7 ヘルプデスクの運用環境の復元に失敗する

Windows版の各サーバ、Windows版およびUNIX版の各クライアントで、運用環境保守ウィザードまたはコマンドで退避データの復元を行うと、エラーメッセージがポップアップされます。

エラーメッセージ

ヘルプデスククライアントの復元に失敗しました。

[詳細]

指定されたパラメタに誤りがあります。

MPHLPDCLのリストア中にエラーが発生しました。

[詳細]

指定されたパラメタに誤りがあります。

ヘルプデスクサーバの復元に失敗しました。

[詳細]

指定されたパラメタに誤りがあります。

MPHLPDSVのリストア中にエラーが発生しました。

[詳細]

指定されたパラメタに誤りがあります。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

- Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

退避データ中のCMGRディレクトリ配下に、MPHLPDSVディレクトリ(運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバの場合)、またはMPHLPDCLディレクトリがありますか。

原因

ヘルプデスクの運用環境の復元時に指定した退避データ中に、ヘルプデスクのディレクトリがありません。

対処方法

- ヘルプデスク機能を使用していない場合
退避データ中のCMGRディレクトリ配下にMPHLPDSVディレクトリ(運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバの場合)、またはMPHLPDCLディレクトリを作成し(空ディレクトリ)、再度復元を行ってください。
- ヘルプデスク機能を使用している場合
ヘルプデスクの運用環境を、再度退避し、その後再度復元を行ってください。

上記の対処を行っても再現する場合は、該当のサーバまたはクライアント上の保守情報収集ツールでヘルプデスクおよびツールの情報を採取し、また、退避データ配下のファイル一覧(例)dir /S 復元時に指定した退避データ格納先)を採取し、技術員に連絡してください。

データの圧縮・解凍を行うツールには、空ディレクトリを削除するものがあります。退避データは加工しないでください。

5.8 イベント監視の定義がリストアされない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

バックアップ・リストア時に、IPアドレスやホスト名の変更はありませんか。

原因

バックアップ・リストア時に、IPアドレスやホスト名の変更があった場合、以下の定義はリストアされません。

- Windows版の場合

	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サー バ	運用管理 クライアント	クライア ント	ヘルプデスク サーバ (V12.0L10以 前)
サーバ間連携定義	○	—	—	—	—	—

	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サー バ	運用管理 クライア ント	クライア ント	ヘルプデスク サーバ (V12.0L10以 前)
クラスタノード定義ファイル(注2)	○	—	—	—	—	—
メッセージログ格納ディレクトリ	—	○	○	○(注1)	○(注1)	○(注1)
コマンドログ格納ディレクトリ	○	○	○	○(注1)	○(注1)	○(注1)
自ホスト名	○	○	○	○(注1)	○(注1)	○(注1)
メッセージ送信先システム RAS接続定義	○	○	○	○(注1)	○(注1)	○(注1)
監視ログファイル設定	○	○	○	○(注1)	○(注1)	○(注1)
共有ディスクのログファイル監視の設定(共有ディスクファイル監視定義ファイル(注3))	—	○	○	—	—	—

○:定義が必要な場合、定義をする

—:定義が存在しない

注1)インストール時に“イベント監視”を選択した場合

注2)V10.0L20 以降

注3)V10.0L10 以降

• UNIX版の場合

	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サー バ	運用管理 クライア ント	クライア ント
サーバ間連携定義	○	—	—	—	—
クラスタノード定義ファイル (注3)	○	—	—	—	—
クラスタ待機系監視環境定義 ファイル(注3)	○	—	—	—	—
メッセージログ格納ディレクトリ	—	○	○	○ (注1)	○ (注1)
コマンドログ格納ディレクトリ	○	○	○	○ (注1)	○ (注1)
自ホスト名	○	○	○	○ (注1)	○ (注1)
メッセージ送信先システム	○	○	○	○ (注1)	○ (注1)
監視ログファイル設定	○	○	○	○ (注1)	○ (注1)
共有ディスクのログファイル 監視の設定(共有ディスク	—	○	○	—	—

	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サー バ	運用管理 クライアント	クライア ント
ファイル監視定義ファイル(注4)					
通信用IPアドレス定義(注5)	○	○	○	—	—
SVPMコンソール番号の定義	○ (注2)	—	—	—	—
ハードウェア情報定義ファイル	○ (注2)	—	—	—	—

○:定義が必要な場合、定義をする

—:定義が存在しない

注1)インストール時に“イベント監視”を選択した場合

注2)Global Enterprise Editionの場合

注3)10.1以降

注4)10.0以降

注5)

- 5.2/5.2.1の場合

/var/opt/FJSVsagt/tmp2/XXX.snd に定義します。詳細は“[クラスタシステムのメッセージが監視できない\(メッセージ発生元がSafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合\)](#)”のポイントを参照してください。

- 10.0以降の場合

opasetipコマンドにより定義します。

対処方法

定義が必要な場合は再定義を行ってください。

5.9 移行時のバックアップする前にノード構成情報のポリシーがバックアップされない

運用管理サーバを移行後にポリシー作成後、配付しようとする、ポリシー配付に失敗します。Windows版V11.0L10/Solaris版11.0以降に移行した場合に発生します。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L21以前
 - Solaris版:10.0以前

原因

移行元のバックアップ時にノード構成情報のポリシーが配付待ちになっていた可能性があります。

対処方法

1. ポリシーの配付状況画面を開き、配付済み、配付待ち、配付失敗となっているノード構成情報のポリシーをすべて削除します。
2. ノード構成情報一括配付コマンドを実行します。
 - Windows版

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm.exe -a
```

- Solaris版

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

5.10 Windowsのターミナルサービス経由のリモート操作からのバックアップ（運用環境の退避）が失敗する

エラーメッセージ

```
XXXXの退避に失敗しました
```

XXXX: 失敗した機能名

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10～V13.5.0B

確認ポイント

Windowsターミナルサービス経由でリモートから操作を行っていませんか。

原因

以下の場合、Windowsターミナルサービス経由でのリモート操作はサポートしていません。

- Systemwalker Centric Manager V13.2.0以前の場合
- または、
- Systemwalker Centric Manager V13.3.0～V13.5.0Bの運用管理サーバ、かつV9.1.0以前のSymfoware Serverと共存している場合

対処方法

運用管理サーバのコンソール上で再度バックアップ（運用環境の退避）を行ってください。リモートから操作を行う場合は、SystemWalker/CentricMGR リモート操作を使用してください。

5.11 Windowsのターミナルサービス経由のリモート操作からの運用環境保守ウィザードの起動が失敗する

エラーメッセージ

```
情報の取得に失敗しました。(関数名=MpFwDBSpaceInfo,Code=?,LastError=?)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10～V13.5.0B

確認ポイント

運用環境構築済みの環境に、Windowsターミナルサービス経由でリモートから操作を行っていませんか。

原因

以下の場合、Windowsターミナルサービス経由でのリモート操作はサポートしていません。

- Systemwalker Centric Manager V13.2.0以前の場合

または、

- Systemwalker Centric Manager V13.3.0～V13.5.0Bの運用管理サーバ、かつV9.1.0以前のSymfoware Serverと共存している場合

対処方法

運用管理サーバのコンソール上から再度運用環境保守ウィザードの起動を行ってください。リモートから操作を行う場合は、Systemwalker Centric Manager リモート操作を使用してください。

5.12 バックアップソフト等を使用して環境バックアップを行う場合、運用環境のバックアップ中にネーミングサービス機能のエラーが発生する

運用環境のバックアップを実施する際、事前にNaming Service サービスの停止を行わなかったために、バックアップ取得中にファイルアクセス排他が生じ、ネーミングサービス機能のエラーが発生する。

エラーメッセージ

```
F3Mod:エラー:19101:OD:od19101:索引ファイルのアクセスでエラーが発生しました。  
F3Mod:エラー:30105:OD:エラー:od30105:ネーミングサービスで内部エラーが発生しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

OD_start サービス、およびNaming Service サービスが停止されていることを確認してください。

原因

Naming Service サービスが起動中の状態で、バックアップ処理を行ったため、バックアップソフトによるファイルアクセス排他が生じた影響で、Naming Service サービスのエラーが発生しました。

対処方法

バックアップ中に現象が発生した場合は、Systemwalker Centric Manager の停止以外に、以下のサービスを停止後、再度実行してください。

- OD_start サービス
- Naming Service サービス:OD_start サービスの停止を行うことで、自動的に停止されます。



注意

Systemwalker Centric Manager の停止 (pcentricmgr) を行っても、通信基盤機能 (OD) のサービスは自動的に停止されません。環境バックアップ等を目的とした作業を実施される際には、Systemwalker Centric Manager の停止後に、OD_start サービスを別途停止させる必要があります。

※Naming Service サービス は通信基盤機能 (OD) の一部であり、OD_start サービスを停止させることで自動的に停止されます。

5.13 バージョンアップ後の移入時に「指定されたデータは、バージョン／レベルが異なるためリストアできません。」と出力され、失敗する

エラーメッセージ

指定されたデータは、バージョン／レベルが異なるためリストアできません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降

原因

バージョンアップに伴う移入時には、新しいバージョンのCD-ROM(Systemwalker Centric Manager V13.4.1以前の場合(以降、CD-ROMと略す))、またはDVD(Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降の場合(以降、DVDと略す))から起動される移行ツールにて運用環境の退避を実行しますが、誤って古いバージョンの運用環境保守ウィザードから運用環境の退避を行ったために発生します。

対処方法

以下の手順で運用環境を復元してください。

1. Systemwalker Centric Manager をアンインストールします。
2. 古いバージョンのSystemwalker Centric Manager をインストールします。
3. 運用環境の復元を行います。
4. 新しいバージョンのCD-ROM、またはDVDから移行ツールを起動して運用環境の退避を行います。
5. 新しいバージョンのSystemwalker Centric Manager をインストールします。
6. 運用環境の復元を行います。

5.14 運用環境保守ウィザードからの運用環境の復元に失敗する

エラーメッセージ

mpcmtoolc エラー 1100 リストアに失敗しました。
(復元準備が異常終了しました。ErrorCode=1)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20～V10.0L21

確認ポイント

運用環境保守ウィザードの退避データ格納先に指定したディレクトリパスに、空白が含まれていませんか。

原因

運用環境の復元時、退避データ格納先のディレクトリパスに空白が含まれていると発生します。

対処方法

退避したバックアップデータを空白の含まれないディレクトリに移動し、運用環境の復元を実行してください。

5.15 バックアップ/リストア系コマンドをシェルスクリプトで実行すると正常に動作しない

エラーメッセージ

```
Command %1 rejected. already running : %2.
```

%1: 実行したコマンド

%2: 実行されているコマンド

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降
 - Linux for Itanium版:V12.0L10以降
 - HP版:10.0以降
 - AIX版:10.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント1

%2(実行されているコマンド)のプロセスが存在しているか、psコマンド等で確認してください。

原因

%2(実行されているコマンド)のプロセスが存在している場合、発生します。

対処方法

%2(実行されているコマンド)のプロセスが終了後、%1(実行したコマンド)を再実行してください。

確認ポイント2

作成したシェルスクリプトのファイル名が、%2(実行されているコマンド)を含むファイル名であるか確認してください。

原因

作成したシェルスクリプトのファイル名が、%2(実行されているコマンド)を含んでいる場合、発生します。

対処方法

作成したシェルスクリプトのファイル名を、%2(実行されているコマンド)を含まないファイル名に変更してください。

5.16 バックアップ/リストアコマンドで警告メッセージが出力される

エラーメッセージ

```
%1 が見つかりません。
```

%1: ファイル名

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～10.0

確認ポイント

「backup succeeded.」のメッセージが出力されていることを確認してください。

原因

以下の運用状態によっては、存在しないファイルをコピーした場合にメッセージが出力されます。

- スタンドアロン、2重化環境、クラスタ環境などの運用状態
- オプション機能のインストール状態

対処方法

- 確認ポイントのメッセージが出力されている場合
正常にバックアップ/リストアが完了しているため、対処する必要はありません。
- 確認ポイントのメッセージが出力されていない場合
バックアップ/リストア/移行に関するトラブルシューティングにおけるほかの記事や、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”を確認してください。

5.17 サイレントモードのバックアップに失敗する

エラーメッセージ

- UNIX版:標準出力に以下のメッセージが出力されます。

```
Directory %1 is not empty
```

%1: 退避先ディレクトリ名

- Windows版: イベントログに以下のメッセージが出力されます。

```
バックアップに失敗しました。  
(指定されたディレクトリは既に存在しています。)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降

確認ポイント

バックアップコマンドをサイレントモード (UNIX: -d/、Windows: /d) で実行しているか確認してください。サイレントモードで実行している場合、退避先ディレクトリにファイルが存在するかどうか確認してください。

原因

バックアップ先ディレクトリにファイルが存在していた場合に発生します。

対処方法

バックアップ先ディレクトリを空にした後に、コマンドを実行してください。

5.18 Systemwalker Centric Manager の移入(バージョンアップ)、またはリストア時に、警告メッセージが出力される

エラーメッセージ

リストア(移行)できなかったアクセス権情報があります。詳細は、XXX を参照してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerの使用権限をもつアカウント(ユーザ、グループ)と同名のアカウントが、移行(リストア)先に登録されていますか。

原因

- 移入(バージョンアップ)
 - 以下の場合に発生します。
 - バージョンアップ対象のSystemwalker Centric Manager のインストールを行った管理者アカウントが、バージョンアップ時に存在しない場合
 - Systemwalker Centric Manager のインストール後、コンピュータまたはドメインコントローラ名を変更し、インストールを行った管理者アカウントと同名のアカウントが、バージョンアップ時に存在しない場合
- リストア
 - 以下の場合に発生します。
 - バックアップを実行した管理者アカウントが、リストア先に存在しない場合
 - バックアップを実行したサーバ上でSystemwalker Centric Manager用に登録されていたユーザが、リストア先のサーバに登録されていない場合

対処方法

エラーメッセージで表示されたファイル(XXX)を確認し、ファイルに'YYY' not found. と出力されている場合は、以下の対処を行ってください。

- 'YYY' が管理者アカウントの場合
 - 本警告メッセージの対処は不要です。
- 'YYY' が一般ユーザの場合
 - 移入時は移入先、リストア時はリストア先のサーバに、アカウント'YYY'を登録し、再度移入(リストア)を実施してください。

5.19 Systemwalker Centric Manager のリストア時に、「InstallType is different from backup data」と出力され異常終了する

エラーメッセージ

```
InstallType is different from backup data
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.0～11.0
 - HP-UX版:10.0
 - AIX版:10.0
 - Linux版:V10.0L10～V10.0L20

確認ポイント

リストア環境にインストールしたオプション機能が、バックアップ環境にインストールしたオプション機能と異なりませんか。

原因

リストア環境にインストールしたオプション機能が、バックアップ環境にインストールしたオプション機能と異なる場合、本現象が発生します。

対処方法

リストア環境にはバックアップ環境と同じオプション機能を選択してインストールしてください。

5.20 poout コマンドでイベント監視の条件定義のポリシーの移出ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2以降

エラーメッセージ1

```
UX: MpAosfB: ERROR: 0011: 指定されたノードにはポリシーは設定されていません。
```

対処1a

確認ポイント

指定されたノード/フォルダが存在しますか。

原因

指定したノード/フォルダが存在しないために発生します。

対処方法

存在するノード/フォルダを指定してください。

備考

mpcmcsvコマンドを使用して、構成管理のcsvファイルでノード/フォルダの確認ができます。

対処1b

確認ポイント

指定したノード/フォルダと同名のノード/フォルダが存在しませんか。ツリーが異なる場合も含みます(例えば、ノード管理ツリーと業務管理ツリーに同名のノードまたは同名のフォルダが存在する場合等)。

原因

指定したノード/フォルダが複数存在し、設定できないため発生します。

対処方法

一意となるようにIPアドレスで指定してください。

備考

mpcmcsvコマンドを使用して、構成管理のcsvファイルでノード/フォルダの確認ができます。

エラーメッセージ2

```
MpAosfB: ERROR: 5009: システムエラーが発生しました。(詳細コード=IDL:CORBA/StExcep/NO_IMPLEMENT:1.0, 0x464a0880)
```

対処2

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager が起動していますか。

原因

指定したノード/フォルダが存在しないために発生します。

対処方法

Systemwalker Centric Manager が起動していない、または、Systemwalker Centric Manager の起動が完了していないために発生します。
コマンドに指定したノード名(IPアドレス)やフォルダ名の情報は、データベースから取得します。

備考

Systemwalker Centric Manager の起動が完了してからコマンドを実行してください。

5.21 「MpAosfB: エラー: 1030: イベント監視の条件定義の設定に誤りがあります。」と出力される

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー: 1030: イベント監視の条件定義の設定に誤りがあります。ファイル名:xxxx
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

- HP-UX版:5.1以降
- AIX版:10.0以降
- Linux版:5.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

イベント監視の条件定義を`aseadef`コマンドで行っていないか確認します。

原因

`aseadef`コマンドに指定したCSVファイルに誤りがあります。

対処方法

指定したCSVファイルを修正してください。

5.22 バックアップ時に「MPOPAGTのバックアップ中にエラーが発生しました。」と出力される

エラーメッセージ

```
AP:mpcmtoolc: エラー: 1100:MPOPAGTのバックアップ中にエラーが発生しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

確認ポイント

[通信環境定義]画面を起動し、[ログファイル定義]タブの下記の設定内容を確認してください。

(運用管理サーバの場合は(2)のみ確認してください。)

(1) [メッセージログ]-[格納ディレクトリ]

(2) [コマンドログ]-[格納ディレクトリ]

どちらかの[格納ディレクトリ]に、存在しないディレクトリが設定されていませんか？

原因

[メッセージログ]あるいは[コマンドログ]の[格納ディレクトリ]に、存在しないディレクトリが設定されている場合、本エラーが発生します。

対処方法

[メッセージログ]および[コマンドログ]の[格納ディレクトリ]を修正し、設定したディレクトリが存在することを確認した後、バックアップを行ってください。

5.23 運用管理サーバのバージョンアップ後にポリシー配付が失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

移行元と移行先のインストールディレクトリ(ドライブ名およびディレクトリ名)が違っていないか確認してください。

原因

移行元と移行先のインストールディレクトリ(ドライブ名およびディレクトリ名)が違った状態でバージョンアップを実施した場合、ポリシー情報の配付に失敗します。

対処方法

1. 運用環境を削除し、Systemwalker Centric Managerをアンインストールしてください。
2. 移行元のインストールディレクトリのドライブ名およびディレクトリ名に合わせてSystemwalker Centric Managerをインストールしてください。以降の手順はバージョンアップガイドを参照してください。

5.24 Systemwalker Centric Manager のクラスタ環境で移行作業(バージョンアップ)時に共有ディスクがアンマウントされる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.2 以降
 - Linux版:V11.0L10以降
 - Linux for Itanium版:V12.0L10以降

原因

移行用退避コマンド(swmove)および移行用復元コマンド(swtrans)では処理終了時に、クラスタの環境設定コマンド(mpsupclt)実行時に登録したマウントポイントをアンマウントします。

対処方法

作業完了後にマウントする必要がある場合、手動でマウントしてください。

5.25 Systemwalker Centric Managerの移行作業(バージョンアップ)後にデーモンが停止している

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:10.0以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2以降
 - Linux for Itanium版:V12.0L10以降

- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

移行用退避コマンド(swmove)および移行用復元コマンド(swtrans)は、Systemwalker Centric ManagerおよびSystemwalker Operation Managerのデーモンを停止します。

コマンド終了後も停止したままです。

対処方法

作業完了後にデーモンを起動する必要がある場合、手動でデーモンの起動コマンド(scentricmgr/soperationmgr)を実行してください。

5.26 Systemwalker Centric Manager の移行作業(バージョンアップ)時に、基本フレームワークの退避に失敗する

エラーメッセージ

基本フレームワークの退避に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

CD-ROM(Systemwalker Centric Manager V13.4.1以前の場合(以降、CD-ROMと略す))、またはDVD(Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降の場合(以降、DVDと略す))の内容をハードディスクにコピーした後、ハードディスク上から運用環境保守ウィザードのコマンドを実行していませんか？

対処方法

CD-ROM、またはDVD媒体から運用環境保守ウィザードを実行して、運用環境の退避を実施してください。

5.27 MSCS環境において、バックアップ実行中に、フェールオーバーが発生する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerのクラスタセットアップ後に、MSCSに登録されているSystemwalker Centric Manager用グループ(デフォルト:CentricMGR Group)配下のリソースに対して、設定を変更していませんか？

原因

Systemwalker Centric Managerクラスタセットアップでは、製品動作を意識したリソース設定を行っています。クラスタセットアップ後に、MSCSに登録されているSystemwalker Centric Manager用グループ(デフォルト:CentricMGR Group)配下のリソースに対して設定を変更した場合、製品の動作を保証できなくなります。

対処方法

Systemwalker Centric Manager用グループ(デフォルト:CentricMGR Group)配下のリソースに対して変更した内容を元に戻してください。

5.28 稼働状態の監視やMIB監視のメッセージが出力される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.1.0以降
 - Solaris版:V13.1.0以降
 - Linux版:V13.1.0以降

確認ポイント

- オンラインバックアップを実施しているか確認してください。
- 以下のメッセージに該当するか確認してください。
 - 「MpCNappl: ERROR: 103: ノードとの通信が可能となりました」
 - 「MpCNappl: ERROR: 103: ノードとの通信が不可となりました」
 - 「MpCNappl: ERROR: 106: ノードが起動しました」
 - 「MpCNappl: ERROR: 106: ノードが停止しました」
 - 「MpCNappl: ERROR: 106: SNMPエージェントが起動しました」
 - 「MpCNappl: ERROR: 106: SNMPエージェントが停止しました」
 - 「MpCNappl: ERROR: 106: 一部インタフェースが起動しました」
 - 「MpCNappl: ERROR: 106: 一部インタフェースが停止しました」
 - 「警告: 155: MpNmexとの通信ができません。」

原因

オンラインバックアップを実施している場合、処理内部でネットワーク管理機能の以下のプロセスが再起動します。そのため、監視結果のメッセージが出力される場合があります。

- ノード検出
- 稼働状態の監視
- MIBの監視

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。

第6章 Systemwalkerコンソールに関するトラブルシューティング

6.1 運用管理クライアントで、Systemwalkerコンソールを停止したときにエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
OD: エラー: od10915:Internal error in ObjectDirector. (%1, %2): send, 32 / パイプが切断されました。 , pid = %3, thrid = %4
```

```
OD: エラー: od10605:%5: 応答の送信に失敗しました。(from = %6.%7.%8.%9, intf = %10, op = %11) errno = %12
```

可変情報

- %1: ファイル名
- %2: 行番号
- %3: プロセス番号
- %4: スレッド番号
- %5: 時刻
- %6、%7、%8、%9: IPアドレス
- %10: インタフェース
- %11: オペレーション名
- %12: エラー番号

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

運用管理クライアントのSystemwalkerコンソールから運用管理サーバにリクエストが送信されます。運用管理サーバでリクエストの応答の送信に失敗した場合に本メッセージが出力されます。

Systemwalkerコンソールを停止したときに、このメッセージが出力された場合は、リクエストの応答先であるSystemwalkerコンソールが終了したことが原因で本メッセージが出力されますが、運用に影響を与えることはありません。

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。

異なった操作で出力された場合や、該当する2つ以外のメッセージが出力されている場合は、別途調査が必要となります。技術員へお問い合わせください。

6.2 Windows 98/Windows MeでSystemwalkerコンソールが起動できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ネットワークへのログインがされていない可能性があります。

対処方法

ネットワークへのログインが行われているか、確認してください。

※ネットワークへのログインとは、以下の認証のことです。

LANに接続できる環境の端末で、Windows 98/Meを起動すると、OSの起動時に、マイクロソフトネットワークへの接続時のユーザ名とパスワードを入力する認証画面が表示されます。

6.3 イベント一覧の文字色/背景色が、設定した色で表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

[監視イベント一覧]画面の文字色/背景色の設定が正しく行われていない可能性があります。

Systemwalkerコンソールにおいて、[オプション]-[カスタマイズ]メニューを実行し、[カスタマイズ]画面を表示して、[監視イベント一覧]画面の文字色/背景色の設定を確認してください。

なお、[イベント]-[アクション定義]メニューから表示される[イベント監視の条件定義]画面から設定した、メッセージごとの文字色/背景色の設定は、[メッセージ一覧]画面のみで有効な設定です。

対処方法

以下の手順で、設定が正しく行われているか確認してください。

1. [オプション]-[カスタマイズ]メニューを実行し、[カスタマイズ]画面を表示します。
2. [監視イベント]タブを選択し、[監視イベント一覧の色設定]で、イベントの重要度ごとの文字色および背景色を設定します。

6.4 pcAnywhereが動作している環境で[Systemwalkerコンソール システム監視]が起動できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

確認ポイント

サービス一覧で、pcAnywhereが動作していますか。

原因

pcAnywhereと[Systemwalkerコンソール システム監視]は、どちらもDirectDrawを使用しており、起動時にDirectDrawのDLL (DDRAW.DLL)をロードし、初期化処理を行います。

このDLLは初期化処理で、ロードされたプログラムの実行権限で排他資源(ミューテックス)を作成します。

pcAnywhereはサービスの実行権限であるLocalSystem権限で動作しており、ミューテックスはLocalSystem権限で作成されます。

一方、[Systemwalkerコンソール システム監視]は、OSにログインしたユーザの権限で動作するため、ミューテックスはOSにログインしたユーザの権限で作成します。

このため、pcAnywhereが動作している状態では、ミューテックスがすでにLocalSystem権限で作成されており、[Systemwalkerコンソール システム監視]を起動しても、OSのログインユーザの権限では、ミューテックスを作成することができず、[Systemwalkerコンソール システム監視]が起動できません。

対処方法

pcAnywhereのサービスの起動方法を“自動”から“手動”に変更し、[Systemwalkerコンソール システム監視]を起動してからpcAnywhereのサービスを起動してください。

6.5 ドメインの取得、または運用管理サーバとの通信に失敗して Systemwalkerコンソールが起動できない

エラーメッセージ

- V11.0L10/11.0以前

管理ドメイン一覧の取得に失敗しました。

- V12.0L10/12.0以降(自動再接続なしでSystemwalkerコンソールを起動した場合)

運用管理サーバとの接続に失敗しました。運用管理サーバでSystemwalker Centric Managerが停止している可能性があります。Systemwalker Centric Managerが、起動されているか確認してください。

- V12.0L10/12.0以降(自動再接続ありでSystemwalkerコンソールを起動した場合)

以下の理由により、Systemwalkerコンソールの起動に失敗しました。起動できる状態になるまで、待機します。待機を中止する場合には、中止ボタンを押してください。
運用管理サーバと通信できません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

接続先の運用管理サーバで、Systemwalker Centric Managerのサービスが正常に起動していますか。

対処方法

運用管理サーバで、Systemwalker Centric Managerのサービスが起動していない場合は、運用管理サーバから以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動してください。

```
scentricmgr
```

対処2

確認ポイント

運用管理クライアントで、接続先の運用管理サーバのホスト名が正しく設定されているか、以下の手順で確認してください。

1. [スタート]メニューから[Systemwalker Centric Manager]-[環境設定]-[運用管理クライアントセットアップ](12.0L10/12.0以降は[Systemwalkerコンソールセットアップ])、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]-[Systemwalkerコンソールセットアップ]を選択します。
→[運用管理クライアントセットアップ](V12.0L10/12.0以降は[Systemwalkerコンソールセットアップ])画面が表示されます。
2. [運用管理サーバのホスト名]が正しく設定されているか確認してください。

対処方法

ホスト名が正しく設定されていない場合は、正しく設定してください。(IPアドレスやDNS名を指定しないでください。)

対処3

確認ポイント

ネットワークの設定は正しく設定されていますか。

対処方法

運用管理クライアントから、運用管理サーバへの名前解決ができているか確認してください。

lmhostsファイルに定義を追加した場合は、運用管理クライアントから以下のコマンドを実行してください。

```
nbtstat -R
```

対処4

確認ポイント

運用管理サーバに複数のネットワーク・インタフェースがありますか。

運用管理サーバに複数のネットワーク・インタフェースがある場合、以下の確認を行ってください。

1. 運用管理サーバ上で `hostname` コマンドを実行し、出力されるホストの名前を確認してください。
2. Systemwalkerコンソールを起動する運用管理クライアント上で、1. で確認したホストの名前がIPアドレスに解決されるか確認してください。

```
ping ホスト名
```

3. 2.で解決されるIPアドレスが、運用管理クライアントから接続可能なインタフェースのIPアドレスであることを確認してください。ただし、2.のpingコマンドで運用管理サーバへの接続が確認できれば問題ありません。

対処方法

運用管理サーバのhostnameコマンドで出力されるホスト名が、運用管理クライアントから接続可能なインタフェースのIPアドレスに変換されるように、運用管理クライアントのlmhostsまたはhostsの設定を行ってください。

対処5

確認ポイント

接続元の運用管理クライアントにObjectDirector Serverがインストールされていますか。

「アプリケーションの追加と削除」、または「プログラムの追加と削除」に「ObjectDirector Server」が存在する場合、ObjectDirector Serverがインストールされています。ObjectDirector Serverがインストールされている場合は、以下の対処方法を実施してください。

対処方法

以下の手順を実施してください。

1. 運用管理クライアントをアンインストールする。
2. OD_start サービスを停止する。(管理ツールより実施してください。)
3. ObjectDirector Serverをアンインストールする。
4. 運用管理クライアントをインストールする。



注意

ObjectDirector Serverをアンインストールする前に、他製品で使用されていないことを確認してください。他製品でも使用している場合は、アンインストールしないでください。

対処6

確認ポイント

Interstageを導入している環境ですか

原因

InterstageとSystemwalker Centric Manager(運用管理サーバ、運用管理クライアント)の共存環境は特別な設定が必要です。

対処方法

“Systemwalker Centric Manager Interstage, Symfoware, ObjectDirectorとの共存ガイド”に従い、環境設定を行ってください。

6.6 「[Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)が動作中」と表示されて、Systemwalkerコンソールが表示されない

エラーメッセージ

- ・ V10.0L21/10.1以前の場合

業務監視が動作中に、新たに業務監視を起動することはできません。

- ・ V11.0L10/11.0以降の場合

Systemwalkerコンソールが動作中に、新たにSystemwalkerコンソールを起動することはできません。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

Systemwalkerコンソールが起動されていませんか。

対処方法

- Systemwalkerコンソールがすでに起動していないか確認し、起動している場合は、起動済みのSystemwalkerコンソールを使用してください。
- [Systemwalkerコンソール[ログイン]]ダイアログボックスが表示されていないか確認し、起動している場合は、ログインしてください。
- Windows XPの場合は、ファーストユーザスイッチにより、ほかのユーザがSystemwalkerコンソールを使用していないか確認してください。

対処2

原因

前回使用したSystemwalkerコンソールのプロセスが終了していない場合に発生します。

対処方法

システムを再起動するか、以下のプロセスを終了してください。

Mpbcmgui.exe

6.7 Systemwalkerコンソールが無応答状態になる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

異なるアイコンを500種類以上指定していませんか。

対処方法

以下の手順で、アイコンの種類を500以下にしてください。

1. Systemwalkerコンソールを強制終了します。
2. Systemwalkerコンソールを起動し、[機能選択]コンボボックスで[編集]を選択します。
3. 監視マップ、または監視リストから、アイコンを変更したノードを選択します。
4. [オブジェクト]メニューから、[プロパティ]を選択します。
→[ノードプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
5. [アイコン]タブを選択し、[参照]ボタンをクリックします。
→[アイコン選択]ダイアログボックスが表示されます。
6. リストから、[指定なし]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

対処2

確認ポイント

キーボード、マウスで操作できますか。

対処方法

操作できる場合は、Systemwalkerコンソールの[機能]メニューから、Systemwalkerコンソールの終了をしたあと、Systemwalkerコンソールを再度起動してください。

操作できない場合は、タスクマネージャから強制終了したあと、Systemwalkerコンソールを再度起動してください。

6.8 Systemwalkerコンソールが最大接続数に達して起動できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalkerコンソールを使用している運用管理クライアントが、アプリケーションエラーや電源断、シャットダウン、ログオフ、無通信監視による通信断などによって、運用管理サーバに接続されたまま停止してしまう場合があります。このような場合には、実際に接続しているコンソールの数が、最大接続可能台数に達していない場合でも、新しいコンソールを起動することができなくなります。

対処方法

運用管理サーバで以下の操作を行うことにより、運用管理サーバのSystemwalker Centric Managerを停止させないで、Systemwalkerコンソールのユーザセッションを強制切断し、新しいコンソールを起動することができます。

特定のユーザのセッションを切断する場合

- [運用管理サーバがUNIX版の場合]
 1. スーパーユーザでログインします。
 2. 以下のコマンドを実行し、切断するユーザのセッションコードを確認します。

```
/opt/FJSVfgui/bin/MpUsrlst.sh
```

3. 以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVfgui/bin/MpDcon.sh セッションコード
```

- [運用管理サーバがWindows版の場合]
 1. 以下のコマンドを実行して、切断するユーザのセッションコードを確認します。

```
MpBcmUsrlst.exe
```

2. 以下のコマンドを実行します。

```
MpBcmDcon.exe セッションコード
```

すべてのユーザのセッションを切断する場合

- [運用管理サーバがUNIX版の場合]
 1. スーパーユーザでログインします。

2. 以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVfwgui/bin/MpDcon.sh -ALL
```

- [運用管理サーバがWindows版の場合]

以下のコマンドを実行します。

```
MpBcmDcon.exe -ALL
```

注意事項

動作している運用管理クライアントの接続を切断すると、その運用管理クライアントのSystemwalkerコンソールは、強制的に終了します。切断する前に、該当ユーザがSystemwalkerコンソールを使用していないことを確認してください。

6.9 Systemwalkerコンソールの[編集]機能が使用できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

以下のどれかの場合、Systemwalkerコンソールの[編集]機能が使用できなくなる場合があります。

- Systemwalkerコンソールの[編集]機能を使用中に、運用管理クライアントの電源切断などを行う
- Systemwalkerコンソールの[編集]機能を使用中に、ネットワークエラーなど、何らかの原因によりSystemwalkerコンソールが異常終了する
- MpBcmConvMapの処理中に、電源切断やネットワーク切断など、何らかの理由により処理を中断する

対処方法

すべての運用管理クライアントのSystemwalkerコンソールを終了したあとに、運用管理サーバで以下の操作を行ってください。

- [運用管理サーバがUNIX版の場合]
 1. スーパーユーザでログインします。
 2. 運用管理サーバに接続中のSystemwalkerコンソールで、[編集]機能が使用されていないことを確認します。
 3. 以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVfwgui/bin/MpBcmmtUty.sh -l
```

- [運用管理サーバがWindows版の場合]

1. 運用管理サーバに接続中のSystemwalkerコンソールで、[編集]機能が使用されていないことを確認します。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
MpBcmmtUty.exe -l”を実行します。
```

6.10 運用中に通信エラーが発生しSystemwalkerコンソールが終了した

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

エラーメッセージ

- Systemwalkerコンソールの場合 (V11.0L10/11.0以降)

Systemwalkerにおいて通信エラーが発生したため、Systemwalkerコンソールを終了しました。

- [Systemwalkerコンソール 業務監視]の場合 (V10.0L21/10.1以前)

Systemwalkerにおいて通信エラーが発生したため、業務監視を終了しました。

- [Systemwalkerコンソール システム監視]の場合 (V10.0L21/10.1以前)

サーバとの通信中に異常が発生しました。システム監視を終了します。

- [Webコンソール]の場合

通信エラーにより、情報の取得に失敗しました。

確認ポイント

以下の方法で通信エラー種別を確認してください。

[Systemwalkerコンソール]の場合 (V11.0L10/11.0以降)

1. エラーメッセージダイアログボックスのメッセージを選択し、[詳細]ボタンをクリックします。
→[エラー詳細]ダイアログボックスが表示されます。
2. [メッセージ]本文中に、“Exception:org.omg.CORBA.****”を確認します。
→“****”が通信エラーの種別です。

[Systemwalkerコンソール 業務監視]の場合 (V10.0L21/10.1以前)

1. エラーメッセージダイアログボックスのメッセージを選択し、[詳細]ボタンをクリックします。
→[エラー詳細]ダイアログボックスが表示されます。
2. [メッセージ]本文中に、“Exception:org.omg.CORBA.****”を確認します。
→“****”が通信エラーの種別です。

[Systemwalkerコンソール システム監視]の場合 (V10.0L21/10.1以前)

エラーメッセージダイアログボックス内の“詳細コード=IDL:CORBA/StExcept/****:”を確認します。
→“****”が通信エラーの種別です。

[Webコンソール]の場合

エラー画面の“メッセージ:IDL:CORBA/StExcept/****:”を確認します。
→“****”が通信エラーの種別です。

対処方法

それぞれ、通信エラー種別ごとの対処方法を参照し、対処してください。

- COMM_FAILURE
“通信エラーの種別が“COMM_FAILURE”の場合の対処方法”を参照してください。

- NO_IMPLEMENT

“通信エラーの種別が“NO_IMPLEMENT”の場合の対処方法”を参照してください。

- CORBA. DATA_CONVERSION

“通信エラーの種別が“CORBA. DATA_CONVERSION”の場合の対処方法”を参照してください。

通信エラーの種別が“COMM FAILURE”の場合の対処方法

対処1

原因

運用管理クライアントと運用管理サーバ間のネットワークに異常があります。

対処方法

運用管理クライアントから運用管理サーバに向けて、pingまたはtracertコマンドで、ネットワークの状態を確認し、問題があれば対処してください。

対処2

原因

運用管理サーバの負荷が高く、運用管理クライアントからの要求が一定時間内に処理できない場合に発生します。

対処方法

運用管理サーバでレスポンスの悪化(CPU処理時間の異常、メモリの不足など)が発生していないか確認し、問題があれば対処してください。

頻繁に発生するようであれば、システムの資源不足が考えられます。必要な資源が確保されているか確認してください。資源については、“Systemwalker Centric Manager 解説書”の“動作環境”を参照してください。

対処3

原因

Systemwalker Centric Managerのサービスが停止したため通信できなかった場合に発生します。

対処方法

以下の手順で対処してください。

1. Systemwalker Centric Manager のサービスが停止している可能性があります。運用管理サーバのsyslog (Solaris版/Linux 版)、またはイベントログ (Windows版) にSystemwalker に関連するエラーメッセージが出力されていないか確認します。
2. メッセージが出力されている場合には、オンラインヘルプの[目次]—[メッセージ]から該当するメッセージを参照して、エラーの原因を取り除いてください。
3. 対処完了後、運用管理サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

通信エラーの種別が“NO_IMPLEMENT”の場合の対処方法

対処1

原因

運用管理サーバのSystemwalker Centric Managerが起動途中、または再起動中であり、通信ができなかった場合に発生します。

対処方法

しばらく待ってから再操作してください。

対処2

原因

Systemwalker Centric Managerのサービスが停止したため通信できなかった場合に発生します。

対処方法

以下の手順で対処してください。

1. Systemwalker Centric Managerのサービスが停止している可能性があります。運用管理サーバのsyslog (Solaris版/Linux版)、またはイベントログ (Windows版) にSystemwalker に関連するエラーメッセージが出力されていないか確認します。
2. メッセージが出力されている場合には、オンラインヘルプの[目次]-[メッセージ]から該当するメッセージを参照して、エラーの原因を取り除いてください。
3. 対処完了後、運用管理サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

通信エラーの種別が“CORBA. DATA CONVERSION”の場合の対処方法

対処1

対象バージョンレベル

- Windows版: V11.0L10以降
- Solaris版: 11.0以降
- Linux版: V11.0L10以降

確認ポイント

ホスト名、クラスタ名、コンピュータ名にマルチバイト文字(全角)を定義している監視対象システムがありませんか。

以下の手順で確認します。

1. 運用管理サーバで、以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerの構成情報をファイルに出力します。

[Windows版の場合]

```
Systemwalker-インストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥Mpfwbs¥bin¥mpcmrepair -o ファイル名
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/FJSVfwbs/bin/mpcmrepair -o ファイル名
```

2. ファイルの内容を確認し、文字化けしているシステムを特定します。

ファイルの形式(CSV)

```
ノードID,ホスト名,表示名,クラスタ名,コンピュータ名,インタフェースホスト名  
ノードID,ホスト名,表示名,クラスタ名,コンピュータ名,インタフェースホスト名  
ノードID,ホスト名,表示名,クラスタ名,コンピュータ名,インタフェースホスト名  
ノードID,ホスト名,表示名,クラスタ名,コンピュータ名,インタフェースホスト名  
:
```

※1インタフェースが1行となっているので、複数インタフェースのシステムは、複数行で表示されます。

原因

システムとは異なる文字コードが運用管理サーバのデータベースに入力されています。

対処方法

以下の方法で、Systemwalker Centric Managerの構成情報を修復します。

- ホスト名、クラスタ名を修復する方法

- ・ ホスト名、クラスタ名、コンピュータ名、インタフェースホスト名を修復する方法
- ・ ノードを削除する方法

ホスト名、クラスタ名を修復する方法

- ・ 特定したシステム(以下、対象システム)で、システム監視設定のメッセージ送信先システムが“必要時接続”の場合
 1. 対象システムで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -d
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -d
```

2. 対象システムで、ホスト名、クラスタ名、コンピュータ名にマルチバイト文字(全角)を使用しないでシステムの設定を変更します。
3. 対象システムで、Systemwalker Centric Managerのサービスを再起動します。

[Windows版の場合]

- a. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr
```

- b. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

[Solaris版、Linux版の場合]

- a. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

- b. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

4. 対象システムで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -a
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

※opaconstatコマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

- ・ 対象システムで、システム監視設定のメッセージ送信先システムが“常時接続”の場合
 1. 対象システムで、ホスト名、クラスタ名、コンピュータ名にマルチバイト文字(全角)を使用しないでシステムの設定を変更します。
 2. 対象システムで、Systemwalker Centric Managerのサービスを再起動します。

[Windows版の場合]

- a. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr
```

- b. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

[Solaris版、Linux版の場合]

- a. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

- b. 以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

ホスト名、クラスタ名、コンピュータ名、インタフェースホスト名を修復する方法

1. 運用管理サーバで、以下のコマンドを実行し、構成情報をCSV出力します。

[Windows版の場合]

```
mpcmcsv -m OUT -o NODE -f node.csv
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpcmcsv -m OUT -o NODE -f node.csv
```

2. エディタでCSVファイルの該当するホスト名、クラスタ名、コンピュータ名、インタフェースホスト名を編集します。
詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“ノード構成情報CSVファイル”を参照してください。
3. 運用管理サーバで、以下のコマンドを実行し、構成情報をCSV入力します。

[Windows版の場合]

```
mpcmcsv -m ADD -f node.csv
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpcmcsv -m ADD -f node.csv
```

ノードを削除する方法

運用管理サーバで以下のコマンドを実行します。

- **[Windows版の場合]**

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥Mpfwbs¥bin¥mpcmrepair -d ノードID
```

- **[Solaris版、Linux版の場合]**

```
/opt/FJSVfwbs/bin/mpcmrepair -d ノードID
```

※ノードIDは、確認ポイントで表示したファイル(CSV)のノードID

【例】DN040925112201_150_130



- 削除したノードに関連するポリシー、およびイベントメッセージも削除されます。
- 運用管理サーバ、および部門管理サーバのノードは削除できません。

対処2

対象バージョンレベル

- Windows版: V11.0L10以降
- Solaris版: 11.0以降
- Linux版: V11.0L10以降

確認ポイント

構成情報入出力コマンド、専用線型ノード移入コマンド、インターネット型ノード移入コマンド、または運用管理サーバ二重化型ノード移入コマンドでシステムの文字コードと異なるCSVファイルを入力しましたか。

対処方法

CSVファイルをシステムと一致する文字コードに変換し、再度同じコマンドで入力してください。

それでも解決しない場合は以下の方法で修復を行ってください。

- 構成情報入出力コマンドで文字化けを修復する方法
- ノードを削除する方法

構成情報入出力コマンドで文字化けを修復する方法

1. 運用管理サーバで、以下のコマンドを実行し、構成情報をCSV出力します。

[Windows版の場合]

```
mpcmcsv -m OUT -o NODE -f node.csv
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpcmcsv -m OUT -o NODE -f node.csv
```

2. 文字化けしている構成情報を特定し、以下のどちらかを実施します。
 - 構成情報を適切な文字に編集します。
 - 構成情報の行を削除し、ファイルを作成します。
3. 運用管理サーバで、以下のコマンドを実行し、構成情報をCSV入力します。

[Windows版の場合]

```
mpcmcsv -m ADD -f node.csv
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpcmcsv -m ADD -f node.csv
```

※ファイルを作成した場合は、“node.csv”に、作成したファイル名を指定します。

ノードを削除する方法

1. 運用管理サーバで、以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerの構成情報をファイルに出力します。

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥Mpfwbs¥bin¥mpcmrepair -o ファイル名
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/FJSVfwbs/bin/mpcmrepair -o ファイル名
```

2. ファイルの内容を確認し、文字化けしているシステムを特定します。

ファイルの形式(CSV)

```
ノードID,ホスト名,表示名,クラスタ名,コンピュータ名,インタフェースホスト名  
ノードID,ホスト名,表示名,クラスタ名,コンピュータ名,インタフェースホスト名  
ノードID,ホスト名,表示名,クラスタ名,コンピュータ名,インタフェースホスト名  
ノードID,ホスト名,表示名,クラスタ名,コンピュータ名,インタフェースホスト名  
:
```

※1インタフェースが1行となっているので、複数インタフェースのシステムは、複数行で表示されます。

3. 以下のコマンドを実行し、ノードを削除します。

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥Mpfwbs¥bin¥mpcmrepair -d ノードID
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/FJSVfwbs/bin/mpcmrepair -d ノードID
```

※ノードIDは、確認ポイントで表示したファイル(CSV)のノードID

【例】DN040925112201_150_130



注意

- ・ 削除したノードに関連するポリシー、およびイベントメッセージも削除されます。
- ・ 運用管理サーバ、および部門管理サーバのノードは削除できません。

対処3

対象バージョンレベル

- ・ V5.0L10/V5.0L20/V5.0L30/V10.0L10/V10.0L20/V10.0L21
- ・ 5.0/5.1/5.2/5.2.1/10.0/10.1

原因

構成情報(ノードなど)に、不正なコード系の情報が含まれている場合に、コード変換に失敗したために発生しています。

構成情報入出力コマンド(mpcmcsv)など、Systemwalkerコンソール以外から登録された構成情報に、誤ったコード系の情報が含まれている可能性があります。

対処方法

構成情報入出力コマンド(mpcmcsv)など、Systemwalkerコンソール以外から登録した構成情報について、構成情報の登録時に使用したパラメータやファイルの内容を確認し、誤ったコード系の情報がないか確認してください。

誤ったコード系の情報があつた場合には、一度削除し、再登録してください。

対処4

対象バージョンレベル

- ・ V5.0L10/V5.0L20/V5.0L30/V10.0L10/V10.0L20/V10.0L21
- ・ 5.0/5.1/5.2/5.2.1/10.0/10.1

原因

イベントやメッセージに、不正なコード系の文字が含まれている場合に、コード変換に失敗したために発生しています。

対処方法

運用管理サーバがWindows版で、監視対象サーバがUNIX版の場合は、運用管理サーバにADJUST、またはSystemWalker/CharsetMGRをインストールしてください。

6.11 Systemwalkerコンソールの起動で、「Connection failed or server process is down.」と出力される

Systemwalkerコンソール起動時に、運用管理サーバのシスログやイベントログに、“MPBCMUN_MSG:エラー:1:種別 mpbcmunagt : ERROR : Connection failed or server process is down.”というメッセージが出力される場合があります。

エラーメッセージ

```
[MPBCMUN_MSG:エラー:1:種別 mpbcmunagt : ERROR : Connection failed or server process is down.]
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

Systemwalkerコンソールを再起動したときに、本エラーメッセージが出力されない場合には、本原因と判断できます。

原因

運用管理サーバにおいて、サーバ異常通知機能のサービスが起動される前に、Systemwalkerコンソールを起動したため、サーバ異常通知機能のサービスとの通信の接続が失敗し、運用管理サーバに本エラーメッセージが表示されています。

対処方法

特に対処しなくても、サーバ異常通知機能以外の機能は正常に使用できますが、Systemwalkerコンソールを再起動することで、サーバ異常通知機能も使用できるようになります。

備考

サーバ異常通知機能とは、Systemwalker Centric Manager自身のサーバ機能の異常を通知する機能です。何らかのトラブルにより、Systemwalker Centric Managerの運用に必要なサービスのプロセスが異常終了した場合や、イベントの通知が遅延している場合に、Systemwalkerコンソール画面にポップアップメッセージで、異常が通知されます。

対処2

確認ポイント

Systemwalkerコンソールを再起動しても、本エラーメッセージが再度出力される場合には、本原因と判断できます。

原因

運用管理サーバにおいて、サーバ異常通知機能のサービスで異常が発生しているため、Systemwalkerコンソールが異常通知機能のサービスとの通信の接続に失敗し、運用管理サーバに本エラーメッセージが表示されています。

対処方法

運用管理サーバにおいて、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

6.12 Systemwalkerコンソールの操作中に、「MpBcmmn: ERROR: 2008: サーバ側で異常が発生しました。(詳細情報:このオペレーション(%1)はサポートしていません。)」と運用管理サーバに出力される

Systemwalkerコンソールの操作中に、MpBcmmn: ERROR: 2008: サーバ側で異常が発生しました。(詳細情報:このオペレーション(%1)はサポートしていません。)のエラーメッセージが運用管理サーバに出力される場合があります。

エラーメッセージ

MpBcmmn: ERROR: 2008: サーバ側で異常が発生しました。(詳細情報:このオペレーション(%1)はサポートしていません。)

%1は、任意の英数字(例. MpAsMTGetOperationType)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

運用管理サーバと運用管理クライアントにインストールされているSystemwalker Centric Managerのバージョンレベルやエディション、OSが異なっています。

対処方法

運用管理サーバと運用管理クライアントにインストールされているSystemwalker Centric Managerのバージョンレベルやエディション、OSを一致させてください。

Systemwalker Centric Managerのバージョンレベルやエディションの確認方法については、F3crfver(製品情報表示コマンド)コマンドおよびswpkginfo(製品情報表示コマンド)コマンドで参照してください。F3crfver(製品情報表示コマンド)コマンドおよびswpkginfo(製品情報表示コマンド)コマンドについては、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

なお、10.0/V10.0L10以降は同一バージョン、エディションであれば、レベルは異なっても低いレベルの機能は使用できます。

6.13 Systemwalkerコンソールで、[イベント]、[イベント監視の動作環境]の[ノード]がグレーアウトされている

Systemwalkerコンソールで、[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[イベント]-[ノード]と[イベント監視の動作環境]-[ノード]がグレーアウトされている場合の対処方法を説明します。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降

- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

ポリシー機能がサポートされているSystemwalker Centric Managerを導入していますか。OSごとに、ポリシー機能をサポートしたバージョンを記述します。

- Solaris版 5.0以降
- Windows版 V5.0L10以降
- UXP/DS版 V20L10以降
- Linux版 5.2以降
- HP-UX版 5.1以降
- AIX版 10.0以降

対処方法

ポリシー機能がサポートされていないSystemwalker Centric Managerが導入されているノードを選択した場合はSystemwalkerコンソールで、[イベント]-[イベント監視の動作環境]の[ノード]はグレーアウトされます。ポリシー機能を使用されたい場合はポリシー機能をサポートしたバージョンへのバージョンアップをご確認ください。

対処2

確認ポイント

選択しているノードを、Systemwalkerコンソールで、削除していませんか。

Systemwalker Centric Managerの初回導入時に、ポリシー定義に必要な情報が自動登録されます。その後、ノードを削除すると、この情報が消えます。

対処方法

以下の方法でポリシー定義に必要な情報を再登録してください。

- 該当ノードが接続方法に、必要時接続、またはRAS接続を選択している場合
該当ノードで、以下のコマンドを実行してください。

- Windows版の場合

```
opaconstat -a
```

- UNIX版

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

運用管理サーバで、以下のコマンドを実行してください。

- Windows版の場合

```
opaconstat -a ホスト名
```

- Solaris版

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a ホスト名
```

ポイント

ホスト名には、以下のコマンドで、該当ノードのホスト名を確認してください。

- Windows版の場合

```
opaconstat -o
```

- UNIX版

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -o
```

- ・ 該当ノードが接続方法に、常時接続を選択している場合
該当ノードのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

対処3

確認ポイント

ノードの登録をノード検出、または、Systemwalkerコンソールでノードの作成を実施していませんか。

原因

ポリシー定義に必要な情報はイベント監視の機能にて登録されます。そのため、ノード検出、または、Systemwalkerコンソールによるノード作成では登録されません。

対処方法

対処2と同様の[対処方法](#)を実施してください。

注意事項

ポリシー定義に必要な情報は、定義の対象となるノード側で以下の条件を満たす時に自動登録されます。“[対処2の対処方法](#)”で登録できなかった場合、条件を満たしているか確認してください。条件を満たしていないようでしたら、条件を満たすようにインストール、設定を実施してください。

【条件】

- ・ “システム監視”がインストール(選択インストール)されている
- ・ [通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]が正しく設定されている
- ・ [通信環境定義]-[自ホスト名]の設定により取得されるホスト名(注)が、Systemwalkerコンソール上の対象ノードのノードプロパティ(ネットワークタグ)のホスト名と一致している

注)対象ノード側でopamsgrvコマンドを実行し、対象ノードで発生したメッセージに付加されたホスト名を参照することで、確認ができます。

6.14 Systemwalkerコンソールで、[ノードプロパティ]のインストール情報が有効にならない

Systemwalkerコンソールにて、各ノードに対して[オブジェクト]メニューから[プロパティ]を選択、または、右クリックで[プロパティ]選択した際に、“Systemwalker Centric Manager”、“Systemwalker Operation Manager”タブのインストール情報が有効にならない(チェックされない)場合の対処方法を説明します。ノードの各情報が取得される機能の一覧については、“[ノードプロパティ項目](#)”を参照してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

選択しているノードを、Systemwalkerコンソールで、削除していませんか。

対処方法

“Systemwalkerコンソールで、[イベント]、[イベント監視の動作環境]の[ノード]がグレーアウトされている”を参照して、対処してください。

対処2

確認ポイント

ノードの登録をノード検出、または、Systemwalkerコンソールでノードの作成を実施していませんか。

対処方法

“Systemwalkerコンソールで、[イベント]、[イベント監視の動作環境]の[ノード]がグレーアウトされている”を参照して、対処してください。

対処3

確認ポイント

Systemwalker Operation Manager を後からインストールしていませんか。Systemwalker Operation Manager を後からインストールすると、情報は自動登録されません。インストール情報がSystemwalker Centric Managerのみ有効状態になります。

対処方法

以下の対処を実施してください。

- 該当ノードが接続方法に、必要時接続、またはRAS接続を選択している場合
該当ノードで、以下のコマンドを実行してください。

- Windows版の場合

```
opaconstat -a
```

- UNIX版の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

- 該当ノードが接続方法に、常時接続を選択している場合
該当ノードのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

対処4

確認ポイント

登録されないノードと同じホスト名のノードが上位システムに存在していませんか。

V11.0L10/11.0以降の場合

下記メッセージが、上位システムより出力されていませんか

[Windows版の場合]

MpOpagt: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください

[UNIX版の場合]

opagtd: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください

%1:ホスト名

%2:IPアドレス

※論理的通信構造に誤りがない場合でも、自ノードと同一ホスト名のデータを下位システムより受信した場合に出力されます。

原因

同一ホスト名のシステムが存在する環境では、Systemwalker Centric Managerで管理している内部的な管理情報に矛盾が発生し、正しく登録できません。

対処方法

ネットワーク全体で、一意のホスト名となるようにOSを設定してください。また、Systemwalker Centric Managerが意識するホスト名([通信環境定義]ダイアログボックスで設定ができます)を異なるように定義することで対処することもできます。

※同一ホスト名のシステムの特定方法は“監視イベント一覧画面に特定ホストのメッセージが表示されない”を参照してください。

対処5

確認ポイント

対象のノードはクラスタ構成(SafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTER)ですか。

クラスタ構成の場合、“クラスタシステムのメッセージが監視できない(メッセージ発生元がSafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合)”対処1について確認してください。

対処方法

“クラスタシステムのメッセージが監視できない(メッセージ発生元がSafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合)”対処1の対処方法を実施してください。

注意事項

インストール情報は実際のノードで以下の条件をすべて満たすときに自動登録されます。各対処で登録できなかった場合、条件を満たしているか確認してください。条件を満たしていない場合は、条件を満たすようにインストール、設定を実施してください。

【条件】

- Systemwalker Centric Managerがインストールされている(注)。
注)運用管理クライアントまたはクライアントの場合、[イベント監視]機能が選択インストールされている必要があります。
- [通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]が正しく設定されている。

対処6

確認ポイント

有効にならないノードは、クラスタ環境の運用管理サーバの待機系ノードですか。

原因

導入時に運用管理サーバをフェールオーバーしていないことが原因です。

対処方法

クラスタ運用管理ガイドの導入手順に従って、運用管理サーバのフェールオーバーおよびフェールバックを実施してください。

6.15 システム監視(ActiveX版)が起動できない

エラーメッセージが出力され、システム監視(ActiveX版)が起動できない。

エラーメッセージ

RPCサーバが利用できないためサーバとの接続に失敗しました。再接続を試みてください。それでも接続できないときは、以下を確認してください
- 接続先サーバのコンピュータ名とホスト名とDNSサーバに登録してある名前が一致している。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以前

原因

以下のいずれかの原因が考えられます。

- ・ 接続先サーバのコンピュータ名とホスト名とDNSサーバに登録してある名前が一致していない。
- ・ 運用管理サーバとシステム監視(ActiveX版)を起動する端末の間にFirewallが存在する。(インターネットを介した接続をしている)

対処1

確認ポイント

システム監視(ActiveX版)のページを開いている状態(エラーダイアログを閉じた後のページ)でマウスを右クリックし、ポップアップメニューの[ソースの表示]を選択して、HTMLソースを表示させます。

次に、HTMLソースに対し、"CODEBASE"が記載されている行を検索します。システム監視(ActiveX版)は、"CODEBASE"の直後のホスト名(またはFQDN名)に対し接続を行いますので、システム監視(ActiveX版)を起動する端末からこのホスト名(またはFQDN名)に対してping等によりネットワーク環境が正しく設定されていることを確認してください。

原因

接続先サーバのコンピュータ名とホスト名とDNSサーバに登録してある名前が一致していません。

対処方法

確認ポイントにおいて、ネットワーク環境が正しく設定されていない場合、該当のホスト名(またはFQDN名)をhostsファイルに設定してください。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバとシステム監視(ActiveX版)を起動する端末の間にFirewall等が存在し、特定ポート(TCP/UDP 135など)を使用できない設定があるか確認してください。

原因

Firewall等によりDCOMが使用するポートが使用できないよう設定されている場合に、システム監視(ActiveX版)はDCOMを使用するため通信に失敗します。

対処方法

Microsoft社のホームページの「ファイアウォール構成の設定」-「DCOM のファイアウォールおよびレジストリ設定」を参照し、設定してください

6.16 non-global zoneに導入した業務サーバのノードプロパティのCPU数が異常な値となる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V12.0L11
 - Solaris版:5.0～12.1
 - Linux版:V11.0L10～V12.0L10

原因

non-global zoneではCPU情報についてのインベントリ収集ができず、その結果不正な値(4294967295)をノードプロパティに登録してしまうために発生します。

対処方法

当現象が発生してもCPU数の値が異常であるだけで問題は特になく、対処の必要はありません。

6.17 SystemwalkerコンソールとSystemwalker Webコンソールの画面でノードラベル表示に違いがある

ノードの稼働状態を表示する箇所について、SystemwalkerコンソールとSystemwalker Webコンソールでは以下のとおり異なりますが、製品の仕様です。

- Systemwalkerコンソールの場合
 - 【V13.3.1以前の場合】
ノードの枠色とノードラベルに表示される。
 - 【V13.4.0～V13.6.0の場合(V13.5.2は除く)】
ノードの背景色に表示される。
- Systemwalker Web コンソールの場合
ノードの枠色に表示される。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows 版:V10.0L20～V13.6.0 (V13.5.2は除く)
 - Solaris版:10.1～V13.6.0

— Linux版:V11.0L10～V13.6.0

対処方法

Systemwalker Webコンソールにおいて、ノード状態はアイコンの枠色を参照してください。

6.18 SystemwalkerコンソールでSVPMの稼働状態が表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版(GEE):5.0以降

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。SVPMの稼働状態が表示されないのは製品の仕様です。

6.19 ノード(オブジェクト)アイコンに表示される異常を示すアイコン(初期値は「×」アイコン)がすべての端末で同じように表示されない

ノード(オブジェクト)アイコンに表示される異常を示すアイコン(初期値は「×」アイコン)は、本画面直下に表示されている監視イベント一覧の情報を元に表示しています。

よって、複数のシステム監視画面または、業務監視画面または、Systemwalkerコンソールが起動していて、それぞれの監視端末に表示されている監視イベントの数が異なる場合、表示しているツリーが同じであっても、ノード(オブジェクト)アイコンに表示される異常を示すアイコン(初期値は「×」アイコン)がすべての端末で同じように表示されない場合があります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

対処の必要はありません。

備考

ノード(オブジェクト)アイコンに表示される異常を示すアイコン(初期値は「×」アイコン)について、すべての端末で同じように表示させる場合には、以下のいずれかの操作を行うことで可能です。

- 該当のシステム監視画面または、業務監視画面または、Systemwalkerコンソールを再起動する。
- システム監視画面または、業務監視画面または、Systemwalkerコンソールにおいて、ツリーの切り替えを行う。
- Systemwalkerコンソールにおいて、「未対処イベントの最大件数取り込み」を実行する。

6.20 Systemwalkerコンソールでノード検出で更新する[ノードプロパティ]の情報が正しく表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ノード検出を行ったときにSNMPエージェントが起動していましたか。

原因

ノード検出を行ったタイミングにSNMPエージェントが起動していない、またはSNMPエージェントから情報が取得できない設定の場合、ノードの情報が取得できずにノードプロパティの値が正しくない場合があります。

対処方法

サーバからSNMPエージェントの情報が取得できる状態にし、ノード検出を行ってください。

備考

ノード検出で更新するプロパティについては、“[ノードプロパティ項目](#)”を参照してください。

6.21 Windows2000以降でSystemwalkerコンソールが最大接続数に達して起動できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

実際に接続しているコンソールの数と最大接続可能台数を確認してください。最大接続可能台数に達していないにもかかわらず本現象が発生している場合は、メディア検出機能による影響が考えられます。

原因

Windows 2000 Server以降に追加されたメディア検出機能により、LANケーブルの抜けや接続されているハブの異常が発生すると、対象のローカルエリア接続が自動的に無効状態となり、マシン内部の通信にも異常が発生します。これが原因で、コンソールの接続情報に不整合が発生し、本現象が発生する場合があります。

対処方法

以下の手順でメディア検出機能を無効にしてください。

1. 運用管理サーバにAdministrator権限を持つアカウントでログインします。
2. レジストリエディタで以下のレジストリのキーに値を追加してください。

キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameter

追加する値:

- 値の名前: DisableDHCPMediaSense
- 値の種類: DWORD値
- 値のデータ: 1 (0:メディア検出機能有効、1:メディア検出機能無効)

3. 運用管理サーバのシステム(Windows)を再起動してください。

標準では上記のレジストリ値は存在しません。存在しない場合はメディア検出機能が有効となります。

6.22 ドメインユーザの場合Systemwalkerコンソールが起動できない

エラーメッセージ

mpbcmn: エラー: 110: このユーザは、Systemwalkerコンソールの使用権限がありません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L20以降

対処1

原因

OSがドメインのメンバサーバの場合、“Systemwalker ACL Manager”サービスの権限不足により発生することがあります。

対処方法

“Systemwalker ACL Manager”サービスのスタートアップアカウントに、以下のユーザを設定してください。

- 所属しているドメイン上に登録されているドメインユーザで、Systemwalker Centric Managerのスタートアップアカウントに必要な条件をすべて満たしているユーザ

対処2

確認ポイント

ユーザが以下の種別のドメインコントローラに登録されており、ユーザ ログオン名と表示名が異なる場合に、発生することがあります。

- Windows 2000の場合
ドメイン操作モードが、“ネイティブ”の場合
- Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合
ドメインの機能レベルが、“Windows 2000 ネイティブ”、または“Windows Server 2003”の場合

対処方法

ユーザが登録されているドメインコントローラで、ユーザの“ユーザ ログオン名 (Windows 2000 以前)”と“表示名”が一致していることを確認してください。

対処3

確認ポイント

ユーザが以下の種別のドメインコントローラに登録されており、Usersオブジェクトとは異なるオブジェクト配下に登録されている場合、発生することがあります。

- Windows 2000の場合
ドメイン操作モードが、“ネイティブ”の場合
- Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合
ドメインの機能レベルが、“Windows 2000 ネイティブ”、または“Windows Server 2003”の場合

対処方法

ユーザが登録されているドメインコントローラで、ユーザが“Users”オブジェクト配下に登録されていることを確認してください。

6.23 クラスタ環境で[Systemwalkerコンソール 業務監視]、 [Systemwalkerコンソール システム監視]が起動できない

エラーメッセージ

mpbcmnmn: エラー: 110: このユーザは、Systemwalkerコンソールの使用権限がありません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

確認ポイント

セキュリティ情報の同期手順は実施しましたか。

対処方法

セキュリティ情報の同期手順については、以下のマニュアルを参照してください。

- V5.0L10/V5.0L20/V5.0L30/5.0/5.1/5.2の場合
“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“クラスタシステム上で運用管理サーバを運用する”
- V10.0L10/V10.0L20/V10.0L21/10.0/10.1の場合
“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド”の“セキュリティ情報の同期手順”

6.24 Systemwalkerコンソール(システム監視画面)で「サーバとの通信が切 断されました。再起動してください」のエラーが発生する

エラーメッセージ

サーバとの通信が切断されました。再起動してください

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L20
 - Solaris版:5.0～10.1

対処1

確認ポイント

運用管理サーバのSystemwalker Centric Managerを停止していませんか。

原因

運用管理サーバのSystemwalker Centric Managerが停止しているため、サーバとの接続が切断されました。

対処方法

運用管理サーバのSystemwalker Centric Managerを起動した後に、Systemwalkerコンソールを起動してください。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバとのネットワーク接続ができませんか。

原因

運用管理サーバとのネットワーク接続が切断されている可能性があります。

対処方法

運用管理サーバとのネットワーク接続を復旧した後、Systemwalkerコンソールを起動してください。

対処3

確認ポイント

運用管理サーバと運用管理クライアントの間で、無通信監視が行われていませんか。

原因

運用管理サーバとのネットワーク接続が、無通信監視によって切断されている可能性があります。

対処方法

無通信監視を行わないでください。無通信監視を行う場合は、Systemwalkerコンソール(業務監視画面)を使用してください。

6.25 フォルダを選択しても削除ボタンが表示されない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

新ノードフォルダを選択していませんか。

原因

新ノードフォルダは削除できません。新ノードフォルダの名前を変更した場合も同様です。

対処方法

特にありません。

6.26 [利用者のアクセス権設定]で、ユーザをロールに登録できない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

ロールに登録しようとしているユーザは、Active Directoryの"組織単位(OU)"配下に登録されていませんか。

対処方法

ロールに登録するユーザは、Active Directoryの"Users"配下に登録してください。

6.27 Systemwalkerコンソール起動時に「監視機能の開始に失敗しました」と出力される

エラーメッセージ

監視機能の開始に失敗しました

対処1

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降
 - Linux for Itanium版:V12.0L10以降

確認ポイント

下記の条件に合致するか確認してください。

- 運用管理クライアントのOSがWindows XPで以下のいずれのグループにも所属していないユーザでログインしていますか。
 - Administratorsグループ
 - DmReferenceグループ
 - DmOperationグループ
 - DmAdminグループ
- 運用管理クライアントのOSがWindows Vistaで以下のいずれのグループにも所属していないユーザでログインしていますか。
 - DmReferenceグループ
 - DmOperationグループ
 - DmAdminグループ

原因

Systemwalkerコンソールが起動中にいくつかのファイルにアクセスしますが、ファイルのアクセス権がないため、Systemwalkerコンソールの起動に失敗します。

対処方法

- 運用管理クライアントのOSがWindows XPの場合は以下のグループのいずれかに所属しているユーザでログインしてください。
 - Administratorsグループ
 - DmReferenceグループ
 - DmOperationグループ
 - DmAdminグループ

- ・ 運用管理クライアントのOSがWindows Vistaの場合は以下のグループのいずれかに所属しているユーザでログインしてください。
 - － DmReferenceグループ
 - － DmOperationグループ
 - － DmAdminグループ

対処2

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V13.0.0以前
 - － Solaris版:V13.0.0以前
 - － Linux版:V13.0.0以前
 - － Linux for Itanium版:V13.0.0以前

確認ポイント

下記のすべての条件に合致するか確認してください。

1. Systemwalker Centric Managerのバージョンが、V13.0.0以前の場合
2. 問題が起きた環境が、クラスタ環境の場合
3. クラスタ論理ノードと物理ノードのサブネットが同一の場合

原因

論理ノードが新ノードフォルダに関連付けられて登録されているためです。

対処方法

論理IPに対応するサブネットフォルダを作成後、Systemwalkerコンソールより新ノード振り分けを実行して、論理ノードを正しいサブネットフォルダに関連付けてください。

(論理ノードは、Systemwalkerコンソールに表示されません)

新ノード振り分けを実施しても、現象が再現する場合、保守情報収集ツールでフレームワークの資料の採取をして技術員に連絡してください。

6.28 Systemwalkerコンソールの起動で、「MpFWQS 1025 システムエラーが発生しました。EXCEPTION : ORG,OMG,CORBA.DATA_CONBERSION」と出力される

エラーメッセージ

```
MpFWQS 1025 システムエラーが発生しました。  
EXCEPTION : ORG,OMG,CORBA.DATA_CONBERSION
```

対象バージョンレベル

- ・ Windows版:V5.0L10以降
- ・ Solaris版:5.0以降
- ・ Linux版:V11.0L10以降

対処1(対処1を実施した後、対処2を実施してください)

確認ポイント

Windows版:V5.0L10以降

Solaris版:5.0以降

Linux版:V11.0L10以降

運用管理サーバにおいて、以下のコマンドを実行し、出力結果をテキストファイルに保存してください。

(保存先のテキストファイルは、後述する対処方法で使用します。)

[Windows版の場合]

```
opaconstat -o
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -o
```

コマンドの出力結果において、全角文字を含むホスト名または文字化けしたホスト名が存在しませんか？

運用管理サーバの配下に部門管理サーバが存在する場合、部門管理サーバでも同様の確認を行なってください。

全角文字を含むホスト名または文字化けしたホスト名が存在する場合は、さらに以下の確認を行なってください。

運用管理サーバまたは部門管理サーバの配下の各被監視サーバ(注1)について、イベント監視機能で使用するホスト名(注2)に全角文字を含むホスト名が指定されていないか、確認してください。

注1: “被監視サーバ”とは、[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]に、運用管理サーバまたは部門管理サーバを指定しているサーバを指します。

注2: “イベント監視機能で使用するホスト名”とは、[通信環境定義]-[自ホスト名]に指定されているホスト名を指します。

原因

被監視サーバの[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]で指定された接続方法が“必要時接続”の場合、上位サーバにあたる運用管理サーバおよび部門管理サーバでは、被監視サーバの情報(イベント監視機能で使用するホスト名を含む情報)をファイルで管理しています。

このファイル内に全角文字を含むホスト名が存在する場合、本現象が発生する原因となります。

なお、確認ポイントに示したコマンドの出力結果において、全角文字を含むホスト名は文字化けして表示されることがあります。

対処方法

イベント監視機能で使用するホスト名に全角文字を含むホスト名が指定された被監視サーバが存在する場合は、その被監視サーバにおいて以下の手順を実行してください。

1. 以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -d
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -d
```

2. イベント監視機能で使用するホスト名を、[通信環境定義]画面を使用して全角文字を含まないホスト名に変更してください。

「サービスを再起動しますか？」の問い合わせに対しては、「はい」を応答してください。

3. 以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -a
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

該当の被監視サーバが存在しない場合は、上位サーバ側で以下の手順を実行してください。

実行する上位サーバと操作手順は、以下の通りです。

- 部門管理サーバが存在しない場合
 - 運用管理サーバでのコマンド"opaconstat -o"の実行結果において、文字化けしたホスト名が1個でも存在する場合
下記の<手順1>を実施してください。
 - 運用管理サーバでのコマンド"opaconstat -o"の実行結果において、文字化けしたホスト名は存在せず、全角文字を含むホスト名が存在する場合
下記の<手順2>を実施してください。
- 部門管理サーバが存在する場合
 - 部門管理サーバでのコマンド"opaconstat -o"の実行結果において、文字化けしたホスト名が1個でも存在する場合
下記の<手順3>を実施してください。
 - 部門管理サーバでのコマンド"opaconstat -o"の実行結果において、文字化けしたホスト名は存在せず、全角文字を含むホスト名が存在する場合
下記の<手順4>を実施してください。

<手順1>

1. (UNIX版のみ)運用管理サーバで、端末の漢字コードの送受信設定を変えてコマンド"opaconstat -o"を実行した場合に、文字化けしていたホスト名が文字化けせずに全角で表示されるようにならないか、確認してください。
文字化けせずに全角で表示された場合は、<手順2>を実施してください。
2. 確認ポイントにおいて運用管理サーバでコマンドを実行した結果の中にホスト名が出力されている、対象の各被監視サーバで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -D
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D
```

3. 確認ポイントにおいて運用管理サーバでコマンドを実行した結果の中にホスト名が出力されている、対象の各被監視サーバで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -a
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

<手順2>

1. 運用管理サーバで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

- V5.0L20以前の場合
opaconstat -D -n 全角文字を含むホスト名
- V5.0L30以降の場合

```
opaconstat -D 全角文字を含むホスト名
```

[UNIX版の場合]

・5.1以前の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D -n 全角文字を含むホスト名
```

・5.2以降の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D 全角文字を含むホスト名
```

<手順3>

1. (UNIX版のみ)部門管理サーバで、端末の漢字コードの送受信設定を変えてコマンド"opaconstat -o"を実行した場合に、文字化けしていたホスト名が文字化けせずに全角で表示されるようにならないか、確認してください。

文字化けせずに全角で表示された場合は、<手順4>を実施してください。

2. 部門管理サーバで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -D
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D
```

3. 運用管理サーバで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -o
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -o
```

4. 3.の実行結果を確認し、下記のいずれかに該当する場合は、それぞれ記載された手順を実行します。

ー 文字化けしたホスト名が1個でも存在する場合

上記の<手順1>を実施してください。

ー 文字化けしたホスト名は存在せず、全角文字を含むホスト名が存在する場合

上記の<手順2>を実施してください。

5. 確認ポイントにおいて部門管理サーバでコマンドを実行した結果の中にホスト名が出力されている、対象の各被監視サーバで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -a
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

<手順4>

1. 部門管理サーバで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

・V5.0L20以前の場合

```
opaconstat -D -n 全角文字を含むホスト名
```

```
•V5.0L30以降の場合  
opaconstat -D 全角文字を含むホスト名
```

[UNIX版の場合]

```
•5.1以前の場合  
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D -n 全角文字を含むホスト名  
•5.2以降の場合  
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D 全角文字を含むホスト名
```

2. 運用管理サーバで以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -o
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -o
```

3. 2の実行結果を確認し、下記のいずれかに該当する場合は、それぞれ記載された手順を実行します。

- ー 文字化けしたホスト名が1個でも存在する場合
上記の<手順1>を実施してください。
- ー 文字化けしたホスト名は存在せず、全角文字を含むホスト名が存在する場合
上記の<手順2>を実施してください。

対処2(対処1を実施した後に実施してください)

確認ポイント

Windows版:V5.0L10～V5.0L30

Solaris版:5.0～5.2

保守情報収集ツールで資料を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

Windows版:V10.0L10以降

Solaris版:10.0以降

Linux版:V11.0L10以降

運用管理サーバにおいて、以下のコマンドを実行してください。

[Windows版の場合]

```
mpcmcsv -m OUT -o NODE -f 出力ノード情報ファイル名
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/MpFwbs/bin/mpcmcsv -m OUT -o NODE -f 出力ノード情報ファイル名
```

コマンドの出力結果において、全角文字を含むホスト名または文字化けしたホスト名が存在しませんか？

原因

全角文字を含むホスト名が存在する場合、本現象が発生する原因となります。

対処方法

以下の方法で、ホスト名に全角文字を含む該当ノードを削除してください。

1. 以下のコマンドで、ノード情報を取得してください。

[Windows版の場合]

```
mpcmcsv -m OUT -o NODE -f 出力ファイル名
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/MpFwbs/bin/mpcmcsv -m OUT -o NODE -f 出力ファイル名
```

2. 1.で指定した出力ファイルに、ノード情報がCSV形式で出力されています。このファイルを編集してください。
編集作業をやり直す場合に備えて、編集前のファイルのバックアップを採っておいてください。
ファイルをテキストエディタで開き、CSV形式の2カラム目に全角文字のホスト名が現れる行だけを残して、ほかの行を削除してください。
3. 以下のコマンドで、ノードの削除を実施してください。

- 2.で編集したファイルを指定することにより、該当ノードを削除します。

[Windows版の場合]

```
mpcmcsv -m DEL -f 2.で編集したファイル名
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/MpFwbs/bin/mpcmcsv -m DEL -f 2.で編集したファイル名
```

4. 念のため、1.に示したコマンドにより再びノード情報を取得して、該当ノードが削除されていることを確認してください。

6.29 ヘルプが表示されない

Systemwalkerコンソール上で以下のボタンを選択した場合に、ヘルプが表示されないか、エラーメッセージが表示される場合があります。

- [Systemwalkerコンソール ヘルプ]
- [トピックの検索]
- [ヘルプ]
- [F1]キー

エラーメッセージ

```
ヘルプの起動に失敗しました。
```

```
ヘルプ表示の処理で異常が発生しました。
```

※何もエラーが表示されない場合があります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以前
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ヘルプがインストールされていないことが原因です。

対処方法

“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“Systemwalker Centric Managerのインストール”手順に従い、以下の機能を追加インストールしてください。

- ・ [ドキュメント] - [ヘルプ]

6.30 Systemwalker Web コンソールの操作中に、画面更新中の状態から復帰しない

ServerView Operations Managerと連携したシングル・サインオンを使用している環境で、Systemwalker Web コンソールの操作中に、画面更新中の状態(ブラウザの画面全体が薄暗くなり、画面中央で緑色の更新中マークが回転し続ける状態)から復帰しない場合があります。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V15.0.0～V15.2.1
 - － Linux版:V15.0.0以降

確認ポイント

ServerView Operations Managerと連携したシングル・サインオンを使用していますか。

また、Systemwalker Web コンソールを使用中に、ServerView Operations Managerと連携したシングル・サインオンを使用している他製品(ServerView Resource Orchestratorなど)のWebコンソールのログアウトを行いましたか。

原因

Systemwalker Web コンソールを使用中に、ServerView Operations Managerと連携したシングル・サインオンを使用している他製品(ServerView Resource Orchestratorなど)のWebコンソールがログアウトされたことで、認証切れの状態が発生したためです。

対処方法

起動しているブラウザをすべて閉じて、再度Systemwalker Web コンソールを起動し、ログインしてください。

6.31 監視イベントの一括対処に時間がかかる

Systemwalkerコンソールで監視イベントの一括対処を実行すると、一括対処に時間がかかる場合があります。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

確認が不要の監視イベントが大量に存在しており、それをSystemwalkerコンソールで最大1000件ずつ一括対処する操作を繰り返していませんか。

対処方法

確認が不要のイベントは、イベント監視の条件定義の見直しを行うか、監視抑止機能を利用して、Systemwalkerコンソールに表示させないようにしてください。

すでにSystemwalkerコンソールに表示されている1001件以上の監視イベントを一括対処する場合は、`evtutlnt`(監視イベント状態変更コマンド)の監視イベント一括対処(`ustatusall`)オプションを利用することを検討してください。`evtutlnt`(監視イベント状態変更コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

なお、Systemwalkerコンソールで監視イベントを一括対処する場合は、環境にも依存しますが、1000件ずつ合計10000件の一括対処で、10分程度の時間がかかります。

時間がかかりますが、特別な対処の必要はありませんので、しばらくお待ちください。

6.32 Systemwalker Web コンソールの[ポータル]画面に[資産管理]および[資産状況]のリンクが表示されない

Systemwalker Web コンソールの[ポータル]画面に、[資産管理]および[資産状況]のリンクが表示されない場合があります。

対処1

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V15.0.0～V15.2.1
 - Linux版: V15.0.0以降
 - Solaris版: V15.0.0以降

原因

ログインユーザに、AssetAdminまたはAsssetSectionAdminのロールが割り当てられていません。

対処方法

資産管理機能を利用するユーザに、AssetAdminまたはAsssetSectionAdminのロールを割り当てた後、再度[Systemwalker Webコンソール]にログインしてください。

対処2

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V15.0.0～V15.2.1

原因

運用管理サーバのIISが停止しています。

対処方法

運用管理サーバのIISを起動してください。

対処3

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版: V15.0.0以降
 - Solaris版: V15.0.0以降

原因

資産管理サーバのIISが停止している、または以下の原因により資産管理サーバとの通信ができない状態になっています。

- 資産管理サーバとの通信がファイアウォールなどで遮断されている。
- 資産管理の連携先サーバが正しく設定されていない。
- 資産管理の連携先サーバが変更されている。

対処方法

資産管理サーバ【Linux/Solaris版】のIISを起動してください。

資産管理サーバのポートを解放してください。

運用管理サーバと資産管理サーバの通信環境を確認してください。

資産管理の連携先サーバを確認してください。

連携先サーバを変更した場合は、AssetAdminおよびAssetSectionAdminのロール設定を削除し、再度設定してください。

6.33 [リモートコマンド検索]画面で検索が完了しない

[リモートコマンド検索]画面で指定した検索条件に合致する対象が非常に多い場合、検索が完了しない場合があります。

また、次の検索時に、エラーメッセージがポップアップされ、検索に失敗する場合があります。

エラーメッセージ

システムエラーが発生しました。

Exception:org.omg.CORBA.NO_MEMORY: NewString vmcid: 0x464a000

minor code: 599 completed: No

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

[リモートコマンド検索]画面で、[条件指定(リモートコマンド検索)]の検索範囲に指定した条件に合致するリモートコマンドの履歴が大量にある状態で検索を実施していませんか。

原因

検索範囲に指定した条件に合致するリモートコマンドの履歴が大量にある場合、検索結果の表示処理に時間がかかることがあります。

対処方法

[リモートコマンド検索]画面の[条件指定(リモートコマンド検索)]で検索範囲を狭くしてください。

また、一度に大量のリモートコマンドの履歴を検索する場合は、opacmdrev(リモートコマンド検索コマンド)を使用してください。

第7章 アプリケーション管理に関するトラブルシューティング

7.1 アプリケーション管理が起動しない

APA_COプロセスが起動後しばらくして停止する。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:5.2以降、V10.0L10以降

対処1

原因

アプリケーション管理サービス起動時にアプリケーション管理の内部通信を行うためのIPアドレスが自ノードのものでないため、プロセス間通信ができなくなり、アプリケーション管理の監視が継続できなくなっています。

対処方法

エラーが発生しているノードの[システム監視設定]-[通信環境定義]-[自ホスト名]にネットワーク上解決できるホスト名 (hostsファイルに登録するなど)を指定してください。[自ホスト名]に[DNS]を指定している場合、DNSの設定が正しいか確認してください。(DNSのホスト名に対して、pingで確認できます。)

対処2

確認ポイント

CPU異常等のシステムの異常で予期せぬシャットダウンや強制終了が行われていませんか。(システムログ、イベントログ等にシステムのエラーログが出力されていませんか)

原因

アプリケーション管理の内部ファイルが破損しているため、アプリケーション管理デーモン(サービス)が起動後、停止している可能性があります。

システムの予期せぬシャットダウンやCPU異常等によってマシンの強制停止が発生した場合、OSがアプリケーション管理の内部ファイルを破壊する場合があります。

対処方法

アプリケーション管理の内部ファイルを削除することにより、復旧できる場合があります。

削除する内部ファイルは、次回起動時に新規作成されるため、削除しても問題ありません。

- Windowsの場合

1. 以下のアプリケーション管理の内部ファイルを削除します。フォルダは削除しないでください。また、ファイルは環境によって存在しない場合もあります。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥var¥dat
¥APA_PIDinfo.dat
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥var¥dat
¥APA_POLdomain.dat
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥var¥dat
¥MOIlock*.dat
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥var¥dat
```

```
¥APA_COEvtLogIndex*.dat
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥var¥dat
¥APA_CESendErr*.dat
```

2. 以下のサービスを起動します。

```
Systemwalker Mpagt
```

• UNIXの場合

1. 以下のアプリケーション管理の内部ファイルを削除します。ディレクトリは削除しないでください。また、ファイルは環境によって存在しない場合もあります。

```
/var/opt/FJSVsapag/dat/APA_PIDinfo.dat
/var/opt/FJSVsapag/dat/APA_POLdomain.dat
/var/opt/FJSVsapag/dat/MOIllock*.dat
/var/opt/FJSVsapag/dat/APA_POlock.dat
/var/opt/FJSVsapag/dat/APA_COEvtLogIndex*.dat
/var/opt/FJSVsapag/dat/APA_CESendErr*.dat
```

2. 以下のコマンドでアプリケーション管理を起動します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

対処3

確認ポイント

システムやネットワークの負荷が高い状態(OS起動時など)ではありませんでしたか。

原因

システム負荷やネットワーク負荷の影響で、一時的にノード内部での通信ができない状態であった可能性があります。

対処方法

手動でアプリケーション管理を起動します。

• Windowsの場合

以下のサービスを起動します。

```
Systemwalker Mpagt
```

• UNIXの場合

以下のコマンドで、アプリケーション管理を起動します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

7.2 「アプリケーション管理通信制御がソケットの初期化に失敗した」と出力され、アプリケーション管理が起動できない

システム監視設定の自ホスト名設定に問題があり、アプリケーション管理が起動できなかった場合に、エラーメッセージが出力されます。

エラーメッセージ

```
apagt:ERROR:0522:アプリケーション管理通信制御がソケットの初期化に失敗しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:5.2以降、V10.0L10以降

対処1

確認ポイント

対象ノードの[システム監視設定]-[通信環境定義]-[自ホスト名]で設定されたホスト名から、IPアドレスが解決できますか。

対処方法

[システム監視設定]-[通信環境定義]の[自ホスト名]に、ネットワーク上解決できるホスト名 (hostsファイルに登録するなど) で指定してください。

[自ホスト名]に[DNS]を指定している場合は、DNSの設定が正しいか確認してください。(DNSのホスト名に対して、pingで確認できます。)

[自ホスト名]が[ホスト名]を指定している場合は、DNSの設定に関係なく起動できます。

対処2

確認ポイント

Windows版の場合、アプリケーション管理機能が使用するポート番号(2425/tcp)をOS等が使用していないか、netstatコマンド等でポート番号(2425/tcp)の使用状況を確認してください。

原因

Windows版の場合、OSが一時ポートとして、アプリケーション管理機能が使用するポート番号(2425/tcp)を使用している可能性があります。

対処方法

アプリケーション管理機能が使用するポート番号(2425/tcp)を、OSが一時ポートとして使用しないように対処してください。

- 変更手順

以下のMicrosoftサポート技術情報に記載されている方法で、使用するポート番号を登録することにより、一時ポートとして使用されなくなります。(Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEでも同様に対処可能です)

マイクロソフト サポート技術情報 - 813122

登録済みポートを一時ポートとして使用させない方法

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=http://www.microsoft.com/japan/support/kb/articles/813122.asp>

7.3 アプリケーション管理起動時に通信部との接続処理でエラーが発生する

アプリケーション管理起動時に通信部との接続処理で発生するというエラーがシスログまたはイベントログに出力されます。

エラーメッセージ

```
apamc: ERROR: 0107: 通信部との接続処理でエラーが発生しました。APA_MCconnect_agent SocketDsc = 0
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

アプリケーション管理起動時に内部プロセスとの接続処理を行っているが、その接続処理で失敗します。

対処1

確認ポイント

発生したのはOS起動時ですか。

原因

OS起動時にネットワーク負荷がかかり、通信接続できませんでした。

対処方法

以下のプロセスが起動しているか確認してください。

- APA_CO (UNIX系)
- APA_CO.EXE (Windows系)

プロセスの起動を確認する方法については“[プロセス動作状況の確認方法](#)”を参照してください。

未起動の場合はSystemwalkerアプリケーション管理のデーモン(サービス)を起動してください。

- UNIX系の場合

以下のコマンドでアプリケーション管理のデーモンを起動します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

- Windowsの場合

以下のサービスを起動します。

```
Systemwalker Mpapagt
```

なお、アプリケーション管理のデーモン(サービス)の起動でも現象が回避できない場合は別の原因である可能性がありますので、保守情報収集ツールを使用して資料を採取し、技術員に連絡してください。

対処2

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager起動途中にポリシー配付をしていませんか。

原因

Systemwalkerアプリケーション管理の起動途中にポリシー配付が行われたことにより、起動処理途中のプロセスが停止処理途中のプロセスに対して通信接続が行われた可能性があります。

対処方法

この場合のエラーメッセージは再起動時の停止中のプロセスに対して通信を行ったことで発生したもので、特に対処する必要がありません。ほかの原因で発生している場合がありますので、プロセスが起動しているか確認し、起動していない場合はアプリケーション管理のデーモン(サービス)を起動します。

以下のプロセスが起動しているか確認してください。

- APA_CO (UNIX系)

- APA_CO.EXE (Windows系)

プロセスの起動を確認する方法については“[プロセス動作状況の確認方法](#)”を参照してください。

未起動の場合はSystemwalkerアプリケーション管理のデーモン(サービス)を起動します。

- UNIX系の場合

以下のコマンドでアプリケーション管理のデーモンを起動します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

- Windowsの場合

以下のサービスを起動します。

```
Systemwalker Mpapagt
```

なお、アプリケーション管理のデーモン(サービス)の起動でも現象が回避できない場合は別の原因である可能性がありますので、保守情報収集ツールを使用して資料を採取し、技術員に連絡してください。

7.4 アプリケーション管理で、「アプリケーション管理メインがソケットの接続に失敗した」と出力される

アプリケーション管理使用時に、通信異常が起きたとき、エラーメッセージが出力されます。

エラーメッセージ

```
apaagt:ERROR:313:アプリケーション管理メインがソケットの接続に失敗しました。
```

```
apaagt:ERROR:314:アプリケーション管理メインがソケット受信中に異常を検出しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30
 - Solaris版:5.0～5.2.1

確認ポイント

一時的な通信異常の場合、リトライ処理により、運用継続可能です。APA_CO(.EXE)、APA_MA(.EXE)、APA_AC(.EXE)が起動しているか、psコマンド、タスクマネージャなどで確認してください。

対処方法

- APA_CO(.EXE)、APA_MA(.EXE)、APA_AC(.EXE)が起動している場合
リトライ処理が行われて運用継続可能です。
- APA_CO(.EXE)、APA_MA(.EXE)、APA_AC(.EXE)が起動されていない場合
アプリケーション管理のデーモンが停止しています。
アプリケーション管理のデーモン起動が必要です。以下の方法によりアプリケーション管理デーモンを起動してください。
 - [Solaris版の場合]
以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

- [Windows版の場合]

以下のサービスを起動します。

7.5 アプリケーション管理画面の配付先にノードが表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

対処1

確認ポイント

V5.0L30以前、5.2.1以前の場合に、対象ノードのシステム監視設定のメッセージ送信先システムを複数指定していませんか。

対処方法

V5.0L30以前、5.2.1以前の場合は、2つ目以降のメッセージ送信先システムの場合、アプリケーション管理は無効になります。

対処2

確認ポイント

対象ノードのシステム監視設定のメッセージ送信先システムとして、ネットワークの名前解決できる運用管理サーバを指定していますか。

対処方法

システム監視設定のメッセージ送信先システムには、ネットワークの名前解決できる運用管理サーバを指定してください。

対処3

確認ポイント

対象ノードのシステム監視設定のホスト名から、IPアドレスが解決できますか。

対処方法

システム監視設定のホスト名設定には、hostsファイルに登録するなど、ネットワーク上で解決できるホスト名を指定してください。

システム監視設定のホスト名設定がDNSの場合、DNSの設定が正しいか確認してください。

対処4

確認ポイント

対象ノードのSystemwalker Centric Managerを起動させたまま、Systemwalkerコンソールの編集機能で対象ノードを削除していませんか。

対処方法

ノードを削除した場合は、対象ノードのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

対処5

確認ポイント

上位サーバとの間にFirewallが入っていることで、ポート番号(fujitsuappmgr 2425/tcp)が通らない環境になっていませんか。

対処方法

ポート番号 (fujitsuappmgr 2425/tcp) が通らない場合、アプリケーション管理機能は使用できません。

対処6

確認ポイント

対象ノードが新ノードフォルダにありませんか。

対処方法

新ノードフォルダにある対象ノードには、ポリシー設定できません。新ノード振り分けをしてください。

対処7

確認ポイント

- V10.0L21/10.1以前

対象ノードにアプリケーション管理がインストールされていますか。

インストールされているかをプロセスなど調べて確認してください。プロセス情報については、“Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集”の“第1章 環境に関する Q & A”-“Q17 プロセスの情報”を参照してください。

- V11.0L10/11.0以降

対象ノードにアプリケーション管理がインストールされていますか。

インストールされているか mppviewc コマンドで確認してください。mppviewc コマンドについては、“プロセス動作状況の確認方法”を参照してください。

対処方法

対象ノードにアプリケーション管理がインストールされていない場合は、インストールしてください。

対処8

確認ポイント

対象ノードは、クラスタシステム (SafeCLUSTER、またはPRIMECLUSTER) ですか。

対処方法

“クラスタシステムのメッセージが監視できない(メッセージ発生元がSafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合)”の“対処1”、“対処2”を参照してください。

対処9

確認ポイント

被監視サーバに、メッセージ送信先と接続可能なIPアドレスが複数ありませんか。

対処方法

被監視サーバに、メッセージ送信先と接続可能なIPアドレスが複数ある場合、その中からランダムなIPアドレスが被監視サーバのIPアドレスとして登録されるため、メッセージ送信先と接続できない場合があります。以下の対処方法を実施してください。

以下の操作により、メッセージ送信先と通信時に使用するIPアドレスを指定してください。

- Solaris版:5.2/5.2.1

以下のファイルを作成します。“XXX”には、イベントの送信先となる運用管理サーバのIPアドレス、またはホスト名の文字列を設定します。なお、本設定ファイルはバックアップされないため、システム構築時とリストア後に、再度設定する必要があります。

```
/var/opt/FJSVsagt/tmp2/XXX.snd
```

大文字小文字も含め、メッセージ送信先システムに定義した文字列と同じ文字列にします。

このファイルに、イベント送信元になる業務サーバの物理IPアドレスを設定します。詳細は“[クラスタシステムのメッセージが監視できない \(メッセージ発生元がSafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合\)](#)”のポイントを参照してください。

※メッセージ送信先の設定値は、[システム監視設定]画面の[通信環境定義]ダイアログボックスで確認できます。

- Solaris版:10.0以降

以下のコマンドを実行し、メッセージ送信先と通信時に使用するIPアドレスを定義することで、監視マップに登録されるIPアドレスを指定できます。本設定はシステム構築時に設定する必要があります。なお、異なるIPアドレスの環境へ資源をリストアされる際、本設定はリストアされないため、リストア後に再度設定する必要があります。

```
/opt/systemwalker/bin/opasetip -n nodename -i IpAddr
-n nodename:
メッセージ送信先に指定した送信先のホスト名、またはIPアドレスを定義します。大文字小文字も含め、メッセージ送信先システムに定義した文字列と同じ文字列にします。

-i IpAddr:
イベント送信元になる業務サーバの物理IPアドレスを指定します。IpAddrに指定されたIPアドレスが登録されます。
```

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処10

確認ポイント

対象ノードのSystemwalker Centric Managerを起動させたまま、hostsファイルを更新していませんか。

対処方法

hostsファイルを更新した場合は、対象ノードのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

7.6 シェルスクリプト、バッチファイルのアプリケーション監視ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0～10.1

対処方法

シェルスクリプト、およびバッチファイルは、アプリケーション管理による監視はできません。

7.7 [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)でアプリケーションが稼働中にならない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

UNIX版の場合、監視しているアプリケーションは、フルパスで起動されていますか。

原因

UNIX版の場合、自動検出で作成したアプリケーションは、フルパス指定で起動されるものとして監視する設定となっています。

相対パス、またはパス情報を付けずに、起動するアプリケーションを監視する場合には、自動検出でアプリケーションを作成できません。

対処方法

自動検出で作成したアプリケーションを削除した後、[Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)の編集機能を使用し、アプリケーションを定義してください。

このとき、インストールディレクトリには、アプリケーションを起動するディレクトリを指定します。(psコマンドで表示されるディレクトリ)

- ・ カレントパスで起動する場合
インストールディレクトリは、指定しないでください。
- ・ 相対パスで起動する場合
インストールディレクトリに相対パスを指定してください。

【例】

app1というアプリケーションを“../app/app1”で起動する場合は、インストールディレクトリには“../app”と指定します。

また、[Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)の編集機能を使用してアプリケーションを定義した場合でも、インストールディレクトリの指定が正しく定義されているか確認してください。

対処2

確認ポイント

監視しているアプリケーションは、シェルスクリプトまたはバッチファイルですか。

対処方法

- ・ V10.0L21/10.1以前
シェルスクリプトおよびバッチファイルの稼働監視はできません。
- ・ V11.0L10/11.0以降
バッチファイルの稼働監視はできません。

対処3

確認ポイント

Solaris版の場合に、監視しているアプリケーションのインストールディレクトリ+実行ファイル名が80バイトを超えていませんか。

対処方法

Solaris では、OSの制限により80バイトまでしか稼働監視することができません。

対処4

確認ポイント

運用管理サーバの再構築・リストアをしていませんか。

対処方法

運用管理サーバの再構築・リストアした場合は、部門管理サーバ、業務サーバとの連携の再構築が必要になります。手順を以下に示します。

[運用管理サーバがSolaris版の場合]

1. 運用管理サーバのアプリケーション管理を停止します。

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh stop
```

2. 運用管理サーバで、以下のファイルを削除します。

```
/var/opt/FJSVsapag/app_po/serv/dat/APA_NodeOid.dat
```

3. 運用管理サーバのアプリケーション管理を起動します。

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

4. 運用管理クライアントで、[Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)の[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[アプリケーションの監視]を選択します。
5. [アプリケーション管理]ウィンドウで、[アプリケーション管理全体の設定]-[動作の設定]ポリシーを選択します。
6. [動作の設定]ダイアログボックスで、“アプリケーション情報送信種別”の項目を“エージェント起動時に毎回最新情報を送信する”、または“次回エージェント起動時のみ最新情報を送信する”を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
7. [ポリシー]メニューから[配付先の設定]を選択し、ポリシーの配付先をリストア先運用管理サーバ、部門管理サーバ、および業務サーバに設定します。
8. [ポリシー]メニューから[ポリシーの配付]を選択し、ポリシーを配付します。このとき“ポリシーを適用するタイミング”を、“すぐ適用する(配付先のサービスを再起動する)”にしてください。

必要に応じて、“バックアップ時の運用管理サーバと関連付けされているアプリケーション管理データの削除”で削除したデータを再登録します。

[運用管理サーバがWindows版の場合]

1. 運用管理サーバで、以下のサービスを停止します。

- V5.0L10の場合

```
Systemwalker Mpappol
```

- V5.0L20以降の場合

```
Systemwalker MpPcgui
```

ポイント

.....
コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行することで、サービスを停止することができます。

- V5.0L10の場合

```
net stop "Systemwalker Mpappol"
```

- V5.0L20以降の場合

```
net stop "Systemwalker MpPcgui"
```

.....

2. 運用管理サーバで、以下のファイルを削除します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥var¥app_po¥serv¥dat
¥APA_NodeOid.dat
```

3. 運用管理サーバで、以下のサービスを起動します。

ー V5.0L10の場合

```
Systemwalker Mpappol
```

ー V5.0L20以降の場合

```
Systemwalker MpPcgui
```

ポイント

コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行することで、サービスを起動することができます。

- V5.0L10の場合

```
net start "Systemwalker Mpappol"
```

- V5.0L20以降の場合

```
net start "Systemwalker MpPcgui"
```

4. [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)で、[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[アプリケーションの監視]を選択します。
5. [アプリケーション管理]ウィンドウで、[アプリケーション管理全体の設定]-[動作の設定]ポリシーを選択します。
6. [動作の設定]ダイアログボックスで、“アプリケーション情報送信種別”の項目を“エージェント起動時に毎回最新情報を送信する”、または“次回エージェント起動時のみ最新情報を送信する”を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
7. [ポリシー]メニューから[配付先の設定]を選択し、ポリシーの配付先をリストア先運用管理サーバ、部門管理サーバ、および業務サーバに設定します。
8. [ポリシー]メニューから[ポリシーの配付]を選択し、ポリシーを配付します。このとき“ポリシーを適用するタイミング”を、“すぐ適用する(配付先のサービスを再起動する)”にしてください。

必要に応じて、“バックアップ時の運用管理サーバと関連付けされているアプリケーション管理データの削除”で削除したデータを再登録します。

対処5

確認ポイント

ポリシーの簡易設定にて他OSの製品を登録していませんか。

原因

他OSの製品を登録した場合は、アプリケーションのインストールディレクトリが異なるため、アプリケーションの稼働監視が正しく行われません。

対処方法

ポリシーの簡易設定での登録を確認し、現在登録されている他OSの製品を削除し、登録対象サーバのOSの製品を登録し直してください。

対処6

確認ポイント

監視対象アプリケーションのインストールパスが変更されていませんか。

原因

製品・アプリケーションの再インストールなどで、監視対象アプリケーションの格納ディレクトリが変更された場合は、アプリケーションの稼働監視が正しく行われません。

対処方法

Systemwalkerコンソールのアプリケーション一覧より、監視対象アプリケーションを削除して再登録後、稼働ポリシーを配付してください。

7.8 IISを稼働監視してもプロセスダウンが表示されない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

IISのバージョンを確認してください。

対処方法

IIS 5.0以上は、アプリケーション稼働監視でinetinfo.exeを監視し、WWWサーバ機能が停止してもプロセスダウンにはなりません。

以下のいずれかの方法でIISの監視を行ってください。

- ・ IISがイベントログに出力するメッセージを監視する。
- ・ IISのログを監視する。
- ・ Systemwalkerスクリプトでサービス稼働監視を行う。

サービス稼働監視については、“Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド”の“サービス稼働監視”を参照してください。

7.9 Inerstageワークユニットの稼働監視を行っていないのに、MpBcmIsEv.sh (Windowsの場合はMpBcmIsEv.exe) プロセスが多数起動している

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L30以降
 - － Solaris版:5.2以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Inerstageワークユニットの稼働監視をしていますか。

原因

Inerstageワークユニットのメッセージがほぼ同時に多数出力されるとMpBcmIsEv.sh (Windowsの場合はMpBcmIsEv.exe) プロセスが多数起動される場合があります。

対処方法

Inerstageワークユニットの稼働監視を行っていない場合は、以下の方法で対処できます。

【UNIX版】

以下の操作はroot権限で実施してください。

1. 以下のファイルの名前を変更します。

```
/etc/opt/FJSVfwaos/MGR70/abevtact
```

例: “abevtact”から“abevtact.tmp”に変更します。

2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

【Windows版】

以下の操作は、Administrator権限で実施してください。

Administratorsグループに属しているユーザで、以下の手順を行います。

1. 以下のファイルの名前を変更します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥mpaosfs¥base¥etc¥Mgr70¥abevtact
```

例: “abevtact”から“abevtact.tmp”に変更します。

2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

7.10 アプリケーションの稼働状態は正しく表示されるが、稼働違反イベントがイベント一覧に表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

Windows版 V10.0L21/Solaris版 10.1以前のバージョンで、[Systemwalkerコンソール 業務監視]画面以外から稼働違反のイベントを確認しようとしていませんか。

原因

稼働違反のイベントは、[Systemwalkerコンソール 業務監視]だけで確認ができます。

対処方法

[Systemwalkerコンソール 業務監視]を起動してください。

対処2

確認ポイント

メッセージ一覧またはメッセージ検索でアプリケーション管理の稼働違反イベントが表示されていますか。

対処方法

- メッセージ一覧またはメッセージ検索で表示される場合
以下を確認してください。

- 業務の重み付け設定で、イベント一覧に表示されない設定になっている
→イベント一覧に表示されるように設定してください。
- イベント監視の条件定義で、イベント一覧に表示されない設定になっている
→イベント一覧に表示されるように設定してください。
- イベント監視の条件定義で、イベント種別が設定されていない
→イベント種別を設定してください。
- メッセージ一覧またはメッセージ検索で表示されない場合
以下を確認してください。
 - アプリケーション管理のポリシー配付が正しく設定されていない
→ポリシー配付を設定してください。
 - 対象サーバのSystemwalker Centric Managerが起動されていない
→対象サーバのSystemwalker Centric Managerを起動してください。

対処3

確認ポイント

Solaris版12.0/Linux版V12.0L10/Windows版V12.0L10以降のバージョン場合、監視対象サーバにて稼働監視イベント抑止/再開コマンド(apl_monitor_event)をオプション指定なしで実行し、抑止設定になっていませんか。

- UNIX版の場合

```
/opt/FJSVsapag/bin/apl_monitor_event
```

- Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥Mpapagt¥opt¥bin¥apl_monitor_event
```

抑止設定中の場合、以下のメッセージが出力されます。

```
The Operation Monitoring of Application is under deterrence.
```

監視設定中の場合、以下のメッセージが出力されます。

```
The Operation Monitoring of Application is not under deterrence.
```

原因

Solaris版12.0/Linux版V12.0L10/Windows版V12.0L10以降のバージョンの場合、かつ、稼働監視イベント抑止/再開コマンド(apl_monitor_event)にて稼働監視イベントの抑止設定を実行したのち、再開設定が実行されていない場合に発生します。

対処方法

- 確認ポイントで抑止設定中の場合
監視対象サーバにて稼働監視イベント抑止/再開コマンド(apl_monitor_event)を再開オプション(-S)で実行してください。

- UNIX版の場合

```
/opt/FJSVsapag/bin/apl_monitor_event -S
```

- Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥Mpapagt¥opt¥bin¥apl_monitor_event -S
```

- ・ 確認ポイントで監視設定中の場合

原因の詳細な調査が必要なため、保守情報収集ツールを使用して資料を採取し、技術員に連絡してください。

対処4

確認ポイント

以下の条件に合致しますか。

- ・ UNIX版 でイベント監視の条件定義に“apagt\$”というラベルがありますか。
- ・ SystemWalker/CentricMGR V10.0以前でメッセージ送信先システムに複数の上位サーバを設定していますか、または、アプリケーション管理稼働スクリプトで運用していますか。

原因

UNIX版 10.0以前のバージョンで監視対象サーバのメッセージ送信先システムに複数の上位サーバを設定した場合、または、アプリケーション稼働スクリプトで監視している場合、apagtのラベルでイベントを通知します。

対処方法

イベント監視の条件定義に“apagt\$”というラベルがある場合は、“apagt”という定義に変更してください。

対処5

確認ポイント

現象が発生しているアプリケーションはポリシーの簡易設定で登録したアプリケーションであり、かつ、ポリシー名が@default(または@default1~10)の稼働監視ポリシーを削除しませんでしたか。

原因

[ポリシーの簡易設定]において、登録したアプリケーションに設定されていた稼働監視ポリシーを削除したことにより、稼働監視対象でなくなりました。このため、稼働違反イベントが出力されません。

対処方法

稼働監視ポリシーの設定を行い、稼働監視対象アプリケーションを設定し、ポリシーの配付を行ってください。

対処6

確認ポイント

アプリケーションの異常状態が継続していませんか。

原因

アプリケーションの異常を検知して違反イベントを通知した後、異常が継続している間は、イベントは通知されません。

対処方法

アプリケーションの異常状態が対処されて以降、異常が検知されたときに違反イベントは通知されます。

また、V10.0L20/10.1以降の場合、アプリケーションの状態が、「稼働違反」から「プロセス数違反」に、「プロセス数違反」から「稼働違反」に、というように異常状態が変化した場合には違反イベントが出力されます。

対処7

確認ポイント

同名のアプリケーションが複数起動していませんか。

原因

対象のアプリケーションが1つ以上、稼働している場合は稼働中と判断されますので違反イベントは通知されません。

対処方法

運用管理サーバと被監視サーバの両方がV10.0L20/10.1以降で、同名のアプリケーションが複数起動する場合には、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“稼働監視の設定”に従って、プロセス数による監視を行ってください。

対処8

確認ポイント

運用管理サーバが、V13.1.0以降で、Systemwalkerコンソールの[業務管理]画面で監視を行っていませんか。

原因

運用管理サーバが、V13.1.0以降の場合、初期設定では違反イベントはノードの異常として通知され、Systemwalkerコンソールの[ノード一覧]画面で監視を行うようになっています。

対処方法

違反イベントをアプリケーションの異常として、[業務管理]画面で監視を行う場合は、運用管理サーバ上でイベント出力変更コマンド(apl_event_change)を実行してください。

イベント出力変更コマンド(apl_event_change)の詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

7.11 ノードがダウンした場合にアプリケーションの稼働違反イベントが出力されない、または、アプリケーション、ワークユニットの稼働状態が変更されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ノードがダウンした場合はアプリケーション管理機能も停止するため、アプリケーション監視は行われません。

対処方法

ノードがダウンしたかどうかを監視するには、ノード状態の表示・監視、稼働状態の監視を行ってください。

7.12 アプリケーション管理ポリシー配付時にエラーダイアログボックスが出力される

運用管理サーバでアプリケーション管理を追加インストールすると、アプリケーション管理ポリシー配付時に、エラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージ

MpBcmstv: 警告: 2043: インストールが正しく行われていません。(Code=I2043PS)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerの通信環境定義を追加しましたか。

対処方法

以下の手順で、通信環境定義を追加します。

1. Systemwalker Centric Managerを起動している状態で、以下のコマンドを実行し、アプリケーション管理のインストールディレクトリに移動します。

```
cd Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥Mpapagt¥opt¥bin
```

2. 以下のコマンドを実行し、環境変数を設定します。

```
set INS_NAME=no
```

3. 以下のコマンドを実行し、アプリケーション管理通信定義を登録します。

```
reg_MpApaps.bat
```

4. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

- a. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr
```

- b. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

7.13 「編集結果の反映処理に失敗しました」のポップアップメッセージが出力されアプリケーション管理のポリシーが配付できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

APA_PSclearコマンドを実行後、ポリシーの更新/削除を行いましたか。

原因

APA_PSclearコマンドを実行するとアプリケーション管理で管理しているポリシー情報ファイルを削除してしまうために、既存のポリシーを変更・削除できなくなり、ポリシー配付の編集に失敗する場合があります。

対処方法

運用管理サーバにて以下を実施後、ポリシー配付を実施してください。

※UNIXの場合はスーパーユーザにて実施してください。

Windowsの場合はAdministrator権限のあるユーザにて実施してください。

【Solaris版V5.2.1以前の場合】

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. 以下のファイルを削除します。

```
/var/opt/FJSVsapag/app_po/serv/dat/APA_NodeOid.dat
```

3. Systemwalker Centric Managerを起動します。

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

【SolarisV10.0以降、Linux11.0以降の場合】

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. 以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVsapag/bin/APA_PSclear /p
```

3. Systemwalker Centric Managerを起動します。

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

【Windows版V5.0L31以前の場合】

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

以下のコマンドを実行します。

```
Pcentricmgr
```

2. 以下のファイルを削除します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥var¥app_po¥serv¥dat  
¥APA_NodeOid.dat
```

3. Systemwalker Centric Managerを起動します。

以下のコマンドを実行します。

```
Scentricmgr
```

【WindowsV10.0L10以降の場合】

1. Systemwalker Centric Managerを停止する。

以下のコマンドを実行します。

```
pcentricmgr
```

2. 以下のコマンドを実行します。

```
Systemwalker-インストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥bin¥APA_PSclear /p
```

3. Systemwalker Centric Managerを起動する。

以下のコマンドを実行します。

```
scentricmgr
```

7.14 Windowsでアプリケーション管理の内部エラーが発生する

エラーメッセージ

```
apaagt: エラー: 5316:内部エラーが発生しました。00130002:XXX][-2
```

```
apaagt: エラー: 5316:内部エラーが発生しました。00080010:XXX][-2][Get Application information Error  
[First]]
```

```
apaagt: エラー: 5316:内部エラーが発生しました。00090003:XXX][-2]
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

以下の手順で確認してください。

1. [管理ツール]-[パフォーマンス]を選択します。
 - [パフォーマンス]ダイアログボックスが表示されます。
2. グラフ上の[追加]ボタンをクリックします。
 - [カウンタの追加]ダイアログボックスが表示されます。
3. [パフォーマンスオブジェクト]プルダウンメニューに“Process”が含まれているか確認してください。

原因

パフォーマンスモニタのprocessカウンタが無効となっている可能性があります。そのため、アプリケーション情報が取得できなくなり、以下の場合に、エラーメッセージが出力され、アプリケーション管理の機能は正常に動作しなくなります。

- アプリケーション検出を行った場合
- アプリケーション管理機能を起動した場合
- アプリケーション管理の監視を行った場合
- [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10以降)で、アプリケーション性能を表示した場合
- [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10以降)で、アプリケーション性能グラフを表示した場合
- [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10以降)で、アプリケーション停止操作を行った場合

本件については、Windows 2000のService Pack 3を適用後に、カウンタでパフォーマンスデータの収集ができなくなり、今回の問題が起きる場合があります。

※Microsoft社 サポート技術情報 - 436445

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;436445>

対処方法

- 確認ポイントで“Process”が含まれていない場合
以下のサポート情報を参照し、復旧してください。

※Microsoft社 サポート技術情報 - 248993

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;248993>

なお、マイクロソフトサポート技術情報 - 436445 が原因の場合は、サポート技術情報の 436445 に公開している修正を適用し、ページ内の NOTICE 記事の内容確認することで復旧してください。

- 確認ポイントで“Process”が含まれている場合
原因の詳細な調査が必要なため、保守情報収集ツールを使用して資料を採取し、技術員に連絡してください。

7.15 監視しているアプリケーションが起動しているのに稼働ポリシー違反イベントが出力される

エラーメッセージ

apagt: エラー: アプリケーション (PID=aaaa) が XX:XX から YY:YY までの稼働ポリシーに違反しました。
(アプリケーションのフルパス)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

OSの起動時に出力された稼働ポリシー違反イベントではありませんか。

原因

アプリケーション管理サービスが、監視しているアプリケーションより先に起動する場合、稼働ポリシー違反イベントが出力される場合があります。

対処方法

以下のどちらかの対処をしてください。

- 稼働監視の設定で、監視しているアプリケーションが起動している時間帯を指定し、監視してください。
- `apl_monitor_event`(アプリケーションの稼働監視イベント抑止/再開コマンド)で、アプリケーションの稼働監視イベントを抑止/再開できます。監視対象のアプリケーション起動後に、`apl_monitor_event -S`を実行し、監視対象のアプリケーションの停止前に、`apl_monitor_event -P`を実行する運用を検討してください。
`apl_monitor_event`(アプリケーションの稼働監視イベント抑止/再開コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処2

確認ポイント

カレントパス起動のアプリケーションに対し、インストールディレクトリを指定していませんか。

なお、カレントパス起動であるかどうかは下記の方法で確認できます。

【Solaris】

Solaris 9

```
ps -e -opid -ofname -oargs
```

Solaris 10以降

```
ps -opid -ofname -oargs -z `/usr/bin/zonename`
```

【Linux】

```
ps -e -opid -ofname -oargs
```

出力例)

```
PID COMMAND COMMAND  
7777 crond crond
```

出力結果の後ろ側のCOMMANDのフィールドが実行ファイル名のみの場合が該当します。

原因

カレントパス起動のアプリケーションを監視する際は、インストールディレクトリには何も指定する必要はありません。

誤ってインストールディレクトリを指定した場合、アプリケーションが監視されません。

対処方法

インストールディレクトリに指定しているディレクトリを削除してください。

7.16 アプリケーション管理のイベントが、メッセージ送信先システムの先頭に定義してあるサーバのイベントしか通知されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30
 - Solaris版:5.0～5.2.1

原因

以下の条件の場合、アプリケーション管理のイベントは、メッセージ送信先システムの先頭に定義してあるサーバのイベントしか通知しません。

- アプリケーションを監視しているサーバのバージョンレベルがV5.0L30/5.2.1以前の場合
- アプリケーションを監視しているサーバのバージョンレベルがV10.0L10/10.0以降で、上位サーバにV5.0L30/5.2.1以前がある場合

対処方法

メッセージ送信先システムを複数送信する場合は、運用管理サーバから業務サーバまでSystemwalker Centric ManagerのV10.0L10/10.0以降を導入してください。

7.17 アプリケーション管理機能が使用できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

アプリケーション管理を使用中に運用管理サーバ/運用管理クライアントを停止すると、アプリケーション管理機能が使用できなくなる場合があります。

対処方法

すべてのSystemwalkerコンソールを終了したあとに、それぞれ以下の方法で対処してください。

なお、アプリケーション管理画面が使用できるようになれば対処が完了です。

運用管理サーバがUNIX版の場合

1. スーパーユーザでログインします。
2. 運用管理サーバに接続中のSystemwalkerコンソールで、アプリケーション管理機能が使用されていないことを確認します。
3. 以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVfvgui/bin/pmtool.sh
```

4. 以下のコマンドを入力します。

```
clearlogin
```

```
quit
```

運用管理サーバがWindows版の場合

1. 運用管理サーバに接続中のSystemwalkerコンソールで、アプリケーション管理機能が使用されていないことを確認します。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
mptool.exe
```

3. 以下のコマンドを入力します。

```
clearlogin
```

```
quit
```

7.18 「アプリケーションの取得に失敗した」と出力される

エラーメッセージ(ダイアログボックス)

```
アプリケーションの取得に失敗しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

対処をする前に、どのサーバでアプリケーション機能が停止しているか確認します。

1. エラーメッセージボックスからメッセージを選択し、[詳細]ボタンをクリックします。
→[エラー詳細]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ホスト名]で、以下を確認します。
 - － [ホスト名]が“運用管理クライアント”の場合は、運用管理クライアントのアプリケーション機能が停止しています。
 - － [ホスト名]が“運用管理サーバ”の場合は、部門管理サーバ、または業務サーバのアプリケーション機能が停止しています。

原因

以下の状態の場合、アプリケーション管理機能は使用できません。

- ・ほかのコンソールからアプリケーション管理機能のポリシーの配付中
- ・ Systemwalker Centric Managerの起動処理中
- ・ Systemwalker Centric Managerの停止処理中
- ・ アプリケーション管理機能の使用が抑止されている
- ・ アプリケーション管理機能がダウンしている

対処方法1

時間をおいて、再操作をしてください。

対処方法2

アプリケーション機能が停止しているサーバ上で、アプリケーション管理機能を抑止していないか確認します。抑止している場合は、運用設計時に、アプリケーション機能を使用しない設定をしている可能性があります。管理者に相談してください。

UNIX版の場合

以下のファイルで、該当行の先頭に“#”が付いている場合は、アプリケーション機能は抑止されています。

- ・ V13.1.0以降の場合

ファイル名	/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc2.ini
該当行	#DAEMONXX = “/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start” (注)

- ・ 5.2.1以前および10.1からV13.0.0の場合

ファイル名	/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc3.ini
該当行	#DAEMONXX = “/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start” (注)

- ・ 10.0の場合

ファイル名	/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/start_fw.in
該当行	#DAEMONXX = “/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start” (注)

注) XXは、ご利用の版またはインストール種別により異なります。

Windows版の場合

以下の場合、アプリケーション機能は抑止されています。

- ・ サービスで、“Systemwalker Mpapagt”がない
- ・ サービスで、“Systemwalker Mpapagt”のスタートアップの種類が“手動”になっている

対処方法3

アプリケーション機能が停止しているサーバ上で、アプリケーション管理機能のプロセスが停止していないか確認します。

UNIX版の場合

1. 以下のコマンドを実行し、“/opt/FJSVsapag/bin/APA_CO”を確認します。

```
ps -ef | grep APA_CO
```

2. 表示されない場合は、以下のコマンドを実行し、プロセスを起動します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

Windows版の場合

1. タスクマネージャのプロセスで、以下のプロセスが表示されているか確認します。

```
APA_CO.exe
```

2. 表示されない場合は、以下のサービスを起動します。

```
Systemwalker Mpapagt
```

7.19 「アプリケーションは検出されませんでした」と出力される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

アプリケーション管理の対象となっているファイルですか。

対処方法

ファイルの状態が以下のようになっているか確認してください。

- UNIX版の場合
 - ファイルに実行権があるか
 - fileコマンドで、実行可能なファイルとなっているか
- Windows版の場合
 - ファイルの拡張子は、“.exe”になっているか

対処2

確認ポイント

運用管理サーバがWindows版で、管理対象サーバがUNIX版の場合に、運用管理サーバにADJUST、または、SystemWalker/CharsetMGRがインストールされていますか(V10.0L21以前)。

対処方法

上記環境の場合は、運用管理サーバにADJUST、または、SystemWalker/CharsetMGRをインストールしてください。

対処3

確認ポイント

すでにアプリケーションが検出されていませんか。新規に検出したものがなければ、“検出されませんでした”が表示されます。

対処方法

エラーではないため、そのまま運用を継続してください。

対処4

原因

通信異常、運用管理サーバの環境再構築、メッセージ送信先システム変更などで、リポジトリ(※)上に保持しているアプリケーションの情報を各ノードで動作しているアプリケーション管理機能に反映できなかった場合は、[アプリケーション情報送信種別]のポリシー設定が必要になります。

※リポジトリ: Systemwalkerで管理する情報(ノード情報、セグメント情報、アプリケーション情報、各機能のポリシー情報)を格納するデータベースです。

対処方法

以下の手順で対処してください。

1. Systemwalkerコンソールを起動します。
2. [ポリシー]メニューから、[ポリシーの定義]-[アプリケーションの監視]を選択します。
→[アプリケーション管理]ウィンドウが表示されます。
3. ツリーで、[アプリケーション管理の設定]-[アプリケーション管理全体の設定]-[動作の設定]を選択します。
4. [ポリシー]メニューの[作成]を選択します。
→[動作の設定]ダイアログボックスが表示されます。
5. [アプリケーション情報送信種別]で、以下のように設定します。
 - － 運用管理サーバ上の作業(アプリケーションの登録/更新)が多い場合、または整合性を合わせる必要がある場合は、[次回エージェント起動時のみ最新情報を送信する]、または[エージェント起動時に毎回最新情報を送信する]に設定します。
 - － 運用管理サーバ上の作業は完了し、「稼働ポリシー監視間隔」または「稼働状況取得間隔」の設定だけの場合は、ネットワークの負荷軽減のために、[送信しない]に設定します。

対処5

確認ポイント

アプリケーション検出中に、対象サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動していませんか。または、アプリケーション検出中に、ポリシー配付を行っていませんか。

原因

アプリケーション検出中に対象サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動した場合、ポリシー配付を即時適用で実施したときに、アプリケーション検出プロセスが再起動されるため、正しく検出できない場合があります。

対処方法

しばらく待ってから再度操作してください。

対処6

確認ポイント

実行ファイルまたは実行ファイルが格納されているディレクトリに対して、システムアカウントでアクセス可能なアクセス権限が設定されていますか。(Windowsの場合)

原因

Windowsの場合、アプリケーション管理サービスはシステムアカウント権限で動作します。実行ファイルまたは実行ファイルが格納されているディレクトリに対して、システムアカウントでアクセス可能なアクセス権限が設定されていない場合は、アプリケーションの検出は行われません。

対処方法

実行ファイルまたは実行ファイルが格納されているディレクトリに対して、システムアカウントでアクセス可能なアクセス権限を設定してください。

対処7

確認ポイント

クラスタの待機系でInterstageが起動していますか。

原因

Interstageが起動していない場合は、ワークユニットの検出は行われません。

対処方法

待機系に切り替えを実施して、Interstageのデーモンが起動後にアプリケーション検出を行ってください。

対処8

確認ポイント

サポートしているInterstage製品のエディションですか。

原因

Interstage製品のエディションによっては対応していない製品があります。

対処方法

“Interstage Application Server運用管理ガイド”の“バージョンレベル、エディションの組合せ”にてサポートしているInterstage製品のエディションを確認してください。

7.20 Webコンソールに、「アプリケーション性能の取得に失敗した」と出力される

エラーメッセージ

- 運用管理サーバで、アプリケーション管理機能が動作していない場合

```
アプリケーション性能の取得に失敗しました。しばらく待ってから再操作してください。
API: apCallOperation
メッセージIDL:CORBA/StExcep/NO_IMPLEMENT:1.0,minor code=0x464a0880
```

- 部門管理サーバ/業務サーバで、アプリケーション管理機能が動作していない場合

```
アプリケーション性能の取得に失敗しました。しばらく待ってから再操作してください。
詳細 依頼先ノードでアプリケーション管理機能が起動されていません。または、依頼先ノードのアプリケーション管理機能と接続していません。依頼先ノードのアプリケーション管理機能が起動され
```

ている場合はしばらく待ってから再操作してください。頻繁に起きる場合は、依頼先ノードのメッセージ送信先システムが正しく設定されていることを確認してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

“[「アプリケーションの取得に失敗した」と出力される](#)”を参照し、対処してください。

7.21 ワークユニットの稼働状況を正しく監視できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

同一アクションを抑止する設定をしていませんか。

原因

[アクション環境設定]-[動作設定]タブの[同一アクションを抑止する]チェックボックスを選択している場合は、メッセージ抑止で設定しているメッセージ抑止時間の間隔よりも短い時間で、メッセージが多発したとき(例:ワークユニットの起動/停止の繰返し)、同一アクションが抑止され、稼働状態が正しく反映されません。

対処方法

[同一アクションを抑止する]チェックボックスの選択を外してください。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバで、以下のコマンド実行し、“アプリケーション起動”の自動アクションが抑止されていないか確認します。

- [UNIX版]

```
/opt/FJSVfwaos/usr/bin/mpaosment
```

- [Windows版]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥mpaosfsv¥bin¥mpaosment
```

対処方法

コマンドの実行結果に、“Program Invocation: STOP”が表示されている場合は、“アプリケーション起動”の自動アクションが抑止されています。抑止を解除するために以下のコマンドを実行してください。

- [UNIX版]

```
/opt/FJSVfwaos/usr/bin/mpaosment -S
```

- [Windows版]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥mpaosfsv¥bin¥mpaosment -S
```

対処3

確認ポイント

イベント監視条件の定義は正しいですか。

原因

Interstage (ワークユニット)稼働監視を行っている場合、“表:稼働監視の対象メッセージID”に示すメッセージIDを持つメッセージをもとに稼働監視を行っています。

対処方法

イベント監視の条件定義でメッセージ監視を抑制していないか確認してください。

表7.1 稼働監視の対象メッセージID

メッセージの先頭		メッセージ識別子
UNIX版の場合	Windows版の場合	
TD	F3FMtd	td11028
		td11029
		td11030
		td11002
		td11003
		td12033
		td12034
		td12035
		td11031
		td11032
		td11033
		td11035
		FJSVjs2:
		2012
		2017
		2208
		2211

対処4

確認ポイント

Interstageワークユニットの追加やワークユニット種別の変更をしていませんか。

原因

Interstageワークユニットの追加やワークユニット種別の変更により、以前の監視情報と不整合が発生しています。

対処方法

検出済みの対象ワークユニットを削除後、アプリケーションの自動検出を行い、ワークユニットを再検出してください。

対処5(IJServerクラスタ(Java EE 6)の場合)

確認ポイント

Interstage Application Serverのドメイン/PCMIサービスが停止していませんか。

原因

Interstage Application Serverのドメイン/PCMIサービスが停止しているためIJServerクラスタの監視が行えません。

対処方法

Interstage Application Serverのドメイン/PCMIサービスを起動させてください。

その後、アプリケーションの自動検出を行い、IJServerクラスタを再検出してください。

対処6(IJServerクラスタ(Java EE 6)の場合)

確認ポイント

APA_Manage_ISJEE6コマンドで設定したIJServerクラスタ(Java EE 6)監視用情報および業務ユニット名に誤りはありませんか。

原因

登録/変更時に指定した以下の情報が誤っているためIJServerクラスタ/サーバインスタンスの稼動状態が取得できません。

- Interstage Java EE 6 DASサービスへの認証に使用するユーザ名
- 上記ユーザのパスワード
- Interstage Java EE 6 DASサービスの運用管理用HTTPリスナーのポート番号
- Interstage Application Server Consolidation Option上で監視対象の業務ユニットまたは基本製品に割り当てたIPアドレス
- Interstage Application Server Consolidation Option上で監視対象の業務ユニット名

対処方法

APA_Manage_ISJEE6コマンドで正しいIJServerクラスタ(Java EE 6)監視用情報および業務ユニット名を設定してください。

その後、アプリケーションの自動検出を行い、IJServerクラスタを再検出してください。

7.22 アプリケーション検出、アプリケーション操作ができるまでに時間がかかる

アプリケーション検出/アプリケーション操作時に、エラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージ

通信できない状態です。依頼先ノードでアプリケーション管理機能の起動を確認してください。起動されている場合は、しばらく待って、再操作してください。

依頼先ノードでアプリケーション管理機能が起動されていません。または、依頼先ノードのアプリケーション管理機能と接続されていません。依頼先ノードのアプリケーション管理機能が起動されている場合はしばらく待ってから再操作してください。頻繁に起きる場合は依頼先ノードのメッセージ送信先システムが正しく設定されていることを確認してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降

確認ポイント

監視構成の変更などにより、監視対象外になった下位サーバがありませんか。

原因

必要時接続で監視している下位サーバの中で、監視対象外になった下位サーバがある場合、そのサーバへ接続処理を行うため、操作が可能になるまで時間がかかります。また、ネットワーク/下位サーバへの通信状態によっても、時間がかかる場合があります。

対処方法

上位サーバから、監視対象外になった下位サーバ情報を削除してください。

詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“APA_part_chg (必要時接続下位サーバ情報変更コマンド)”を参照してください。

7.23 クラスタリソースの稼働状態が正しく表示されない

クラスタリソースの稼働状態が実際の稼働状態と異なる場合、またはクラスタリソースの稼働状態が更新されない場合の原因、対処方法を説明します。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

クラスタリソースを検出後に、クラスタシステムに登録しているクラスタリソースを削除、または再作成を行った場合、稼働状態は更新されません。

対処方法

クラスタリソースの再検出を行ってください。

7.24 クラスタ環境の運用管理サーバ上で動作するアプリケーションが監視できない

運用管理サーバがクラスタ運用の場合、待機系へのポリシー配付ができません。また、運用管理サーバの待機系では、アプリケーション監視のデーモンが起動しないため、アプリケーション監視ができません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

待機系のアプリケーションの監視を行っていませんか。

原因

運用管理サーバがクラスタ運用している場合、待機系ではSystemwalkerアプリケーション監視デーモンが動作していないため、運用系から待機系のアプリケーションを監視することはできません。また、待機系のアプリケーションの稼働状況も正しく表示されません。

運用管理サーバ自身のアプリケーションの監視は、運用系から運用系のアプリケーションのみ監視することができます。

対処2

原因

クラスタ運用されている運用管理サーバでは、運用系から待機系へポリシー配付できません。待機系へポリシー配付した場合は、運用系に配付・適用されます。

対処方法

以下のようにポリシーを設定してください。

- ・ 運用系と待機系で別々のポリシーを作成してください。
- ・ 運用系のポリシーだけを変更、配付してください。
待機系のポリシーを変更、配付する場合、必ず運用系に切り替えてから実施してください。
- ・ 誤って待機系のポリシーを変更した場合は、待機系のポリシーを配付したあと、運用系のポリシーを再配付してください。

7.25 「依頼先ノードのアプリケーション管理機能と接続されていない」と出力され、アプリケーション管理の操作ができない

業務サーバ、または部門管理サーバへのアプリケーション管理の操作ができない。あるいは、業務サーバ、または部門管理サーバからアプリケーションの違反イベントが通知されていない。

エラーメッセージ

依頼先ノードでアプリケーション管理機能が起動されていません。または、依頼先ノードのアプリケーション管理機能と接続されていません。依頼先ノードのアプリケーション管理機能が起動されている場合はしばらく待ってから再操作してください。
頻繁に起きる場合は依頼先ノードのメッセージ送信先システムが正しく設定されていることを確認してください。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

業務サーバ、または部門管理サーバと運用管理サーバのアプリケーション管理が通信できない状態であるためです。

対処1

確認ポイント

業務サーバ、または部門管理サーバの[システム監視設定]ー[通信環境定義]の[メッセージ送信先システム]に設定された上位サーバのホスト名、または、IPアドレスの設定が誤っていませんか。

対処

業務サーバ、または部門管理サーバの[メッセージ送信先システム]に指定しているホスト名、または、IPアドレスにメッセージを送信する上位サーバのホスト名、または、IPアドレスを指定してください。

対処2

確認ポイント

複数のIPアドレスを持っている環境で、上位サーバと接続可能な自ホストのIPアドレスを限定していますか。

対処方法

以下の操作により、メッセージ送信先と通信可能なIPアドレスまたはホスト名を登録してください。

- Solaris版:5.2/5.2.1

以下のファイルを作成します。“XXX”には、イベントの送信先となる運用管理サーバのIPアドレス、またはホスト名の文字列を設定します。なお、本設定ファイルはバックアップされないため、システム構築時およびリストア後に、再度設定する必要があります。

```
/var/opt/FJSVsgagt/tmp2/XXX.snd
```

大文字小文字も含め、メッセージ送信先システムに定義した文字列と同じ文字列にします。

このファイルに、イベント送信元になる業務サーバの物理IPアドレスを設定します。詳細は“[クラスタシステムのメッセージが監視できない\(メッセージ発生元がSafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合\)](#)”のポイントを参照してください。

※メッセージ送信先の設定値は、[システム監視設定]画面の[通信環境定義]ダイアログボックスで確認できます。

- Solaris版:10.0以降

以下のコマンドを実行し、メッセージ送信先と通信時に使用するIPアドレスを定義することで、監視マップに登録されるIPアドレスを指定できます。なお、本設定は異なるIPアドレスの環境へ資源をリストアされる際、本設定はリストアされないため、リストア後に再度設定する必要があります。

```
/opt/systemwalker/bin/opasetip -n nodename -i IpAddr  
-n nodename:  
メッセージ送信先に指定した送信先のホスト名、またはIPアドレスを定義します。大文字小文字も含め、メッセージ送信先システムに定義した文字列と同じ文字列にします。  
  
-i IpAddr:  
イベント送信元になる業務サーバの物理IPアドレスを指定します。IpAddrに指定されたIPアドレスが登録されます。
```

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処3

確認ポイント

Systemwalkerコンソールの画面上に同一ノードで2つのアイコンが存在していませんか。

原因

ノードが複数のIPアドレスを持っており、それぞれのIPアドレスごとにノードアイコンが作成されている可能性があります。

対処方法

同一ノードで複数のアイコンが存在している場合は、1つに統一する必要があります。

以下の手順で複数ノードを1つに統一し、ノードのプロパティに被監視サーバのインタフェース(複数のIPアドレス)をすべて登録してください。

1. ノードのプロパティを起動します。
 - a. Systemwalkerコンソール[編集]ウィンドウで[ツリー選択]ボックスから[ノード一覧]を選択します。
 - b. ノード一覧ツリーでサブネットを選択し、対象ノードを選択します。
 - c. [オブジェクト]メニューから[プロパティ]を選択し、[インタフェース]タブを選択します。
2. ノードのプロパティのインタフェースに被監視サーバのインタフェース(複数のIPアドレス)をすべて登録します。
3. 接続可能なIPアドレスを代表IPアドレスに設定します。
4. 上記手順でインタフェースすべてを登録したノード以外の同一ノードを削除し、複数ある同一ノードを1つにします。
削除できない場合はホスト名、および、IPアドレスに影響のないものに変更します。
5. Systemwalkerアプリケーション管理のデーモン(サービス)を再起動します。
 - － UNIXの場合
 - a. 以下のコマンドでアプリケーション管理のデーモンを起動します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh stop
```

- b. 1分間ぐらい待ってから以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

－ Windowsの場合

- a. 以下のサービスを再起動(停止してから起動)します。

```
Systemwalker Mpapagt
```

対処4

確認ポイント

運用管理サーバと被監視サーバの間にファイアウォールが入っているなどの原因により、ポート番号2425/tcp(fujitsuappmgr)による通信が遮断されていませんか。

原因

ポート番号2425/tcp(fujitsuappmgr)による通信ができない場合、アプリケーション管理機能は使用できません。

対処方法

運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ、およびファイアウォールについて、双方向でポート番号2425/tcp(fujitsuappmgr)を開放してください。

7.26 「通信で内部エラーを検出した」と定期的にsyslogへ出力され、アプリケーション管理機能が使用できない

エラーメッセージ

```
apaagt: WARNING: 5203: 通信で内部エラーを検出しました。  
apaagt: WARNING: 5203: Detected an internal communications error.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L20～V10.0L10
 - Solaris版:5.2～10.0

確認ポイント

[システム監視設定]—[通信環境定義]の[メッセージ送信先システム]に設定されたホスト名、または、IPアドレスに自分のホスト名、または、IPアドレスを設定していませんか。

原因

システム監視設定のメッセージ送信先システムの設定が自ホストになっており、上位サーバに送信するデータが自ホストに送信されて通信に内部矛盾が発生しています。

対処方法

[メッセージ送信先システム]に指定しているホスト名、IPアドレスにメッセージを送信する上位サーバのホスト名、または、IPアドレスを指定してください。

7.27 「コマンドを実行できませんでした」とsyslogに出力される

エラーメッセージ

```
apaagt: ERROR: 5102: ファイルから情報取得に失敗しました。
apaagt: ERROR: 5102: Failed to get information from file.
apaagt: ERROR: 1609: アプリケーション管理資源採取(プロセス)はコマンドを実行できませんでした。
apaagt: ERROR: 1609: Application Management resource collection(process) Failed to execute command.
apaagt: ERROR: 1705: アプリケーション管理資源採取(マシン)はコマンドを実行できませんでした。
apaagt: ERROR: 1705: Application Management Machine Resource Collection can not excute commend.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

システム上でのメモリ空き容量が不足していませんか。

原因

アプリケーション管理の動作中にシステムのメモリ不足が発生したためです。

対処方法

システム上でのメモリ空き容量を確認して、空き容量が不足している場合はシステムのメモリを消費しているプロセスを停止するか、システムのSWAP領域を拡張してください。

アプリケーション管理の動作中にシステムのメモリ不足が発生しました。システムの空き容量を確認し、システムのメモリ不足が発生している場合は対処してください。

7.28 「アプリケーション管理共通関数でエラーを検出しました」と出力される

エラーメッセージ

```
apaagt: ERROR: 3000: アプリケーション管理共通関数でエラーを検出しました。[process_list realloc]
[cnt=[10] cnt2=[0] stat=[0][0][0][0][0][0][0][0][0][0]]
apaagt: ERROR: 3000: Application Management common function detected an error.[process_list realloc]
[cnt=[10] cnt2=[0] stat=[0][0][0][0][0][0][0][0][0][0]]
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～5.1

確認ポイント

システム上でのメモリ空き容量が不足していませんか。

原因

アプリケーション管理の動作中にシステムのメモリ不足が発生したためです。

対処方法

システム上でのメモリ空き容量を確認して、空き容量が不足している場合はシステムのメモリを消費しているプロセスを停止するか、システムのSWAP領域を拡張してください。

アプリケーション管理の動作中にシステムのメモリ不足が発生しました。システムの空き容量を確認し、システムのメモリ不足が発生している場合は対処してください。

7.29 「アプリケーション管理通信制御がデータ送信に失敗した」と出力される

シスログ(イベントログ)に「アプリケーション管理通信制御 が データ送信に失敗しました。」という警告メッセージが出力されます。

エラーメッセージ

```
apaagt: WARNING: 501: アプリケーション管理通信制御 が データ送信に失敗しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

アプリケーション管理の通信データを送信しようとしたが、送信先が不在か受信できない状態のため、送信失敗しました。

対処1

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager停止中または再起動中(発生したサーバまたはメッセージ送信先システムで指定している上位サーバ)ですか。

原因

Systemwalkerアプリケーション管理停止中のため、通信データの送信に失敗しました。

対処方法

今回のアプリケーション管理の起動時に処理しますので、メッセージの対処は不要です。頻繁に発生している場合は動作に問題があるため対処2以降を参照してください。

対処2

確認ポイント

Systemwalker起動中にメッセージ送信先システムに指定した上位サーバのネットワーク定義(IPアドレス)の変更を実施しましたか。

原因

ネットワーク環境の変更等で通信データが送信できなくなっています。

対処方法

ネットワーク定義(IPアドレス)を変更した場合は、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

対処3

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager起動後に自ホストのIPアドレスを変更して元のIPアドレスを無効化するソフトウェアは存在しますか。

原因

ネットワーク環境を変更するソフトウェアの影響で通信データが送信できなくなっています。

対処方法

自ホストのIPアドレスを変更して元のIPアドレスを無効化するソフトウェアがあれば、Systemwalker Centric Managerより先に起動するようにチューニングしてください。

7.30 アプリケーション管理の内部エラーが発生する

エラーメッセージ

```
apaagt: ERROR: 5316: 内部エラーが発生しました。[XXXXXXXX:YYY][Get Process List Error rc = 1]
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － Linux版:5.2、V10.0L10以降

確認ポイント

以下の点について確認します。

- ・ エラーメッセージは頻繁に発生しているか。
- ・ マシンのメモリの空き容量は正常か。

原因

稼働監視処理でプロセス一覧の結果を格納する領域獲得に失敗した場合に発生します。

対処方法

エラーメッセージは1回のみであり、マシンのメモリ空き容量が正常に戻っている場合は、一時的にメモリ不足が発生したものであり、特に対処する必要はありません。

エラーメッセージが頻繁に発生する場合は、マシンのメモリの空き容量を確認し、不足している場合は、メモリの増設等をご検討ください。

7.31 アプリケーション管理資源採取でメモリ情報、CPU情報が採取できないというエラーが発生する

アプリケーション管理資源採取でメモリ情報、CPU情報が採取できないというエラーがシスログに出力されます。

エラーメッセージ

```
apaagt: ERROR: 1413: アプリケーション管理資源採取(メモリ)はメモリ情報を採取できませんでした。
apaagt: ERROR: 1213: アプリケーション管理資源採取(CPU)はCPU情報を採取できませんでした。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～5.1

原因

メモリ情報、CPU情報を採取するためのsarコマンドが起動できない状況です、または、sarコマンドが異常な結果を返しています。

対処1

確認ポイント

SWAP領域不足の状態になっていませんか。SWAP領域の空き容量をSWAPコマンドで確認してください。

SWAP領域不足の場合は以下のようなOSからの通知メッセージが出力されることがあります。

```
tmpfs: [ID xxxxxx kern.warning] WARNING: /tmp: File system full, swap space limit exceeded
```

原因

メモリ情報、CPU情報を採取するためのsarコマンドが起動できません。

対処方法

SWAP領域の空き容量を確認し、SWAP領域の空き容量が少ない場合はSWAP領域を増加するなどの対処をします。SWAP領域の空き容量が十分にある場合は、一時的にSWAP領域が不足したことが考えられます。

また、SWAP領域不足により、以下のプロセスが停止している可能性がありますので、プロセスの起動を確認してください。

- APA_CP
- APA_ME

起動していない場合はSystemwalkerアプリケーション管理デーモンを再起動してください。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh stop …停止
```

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start …起動
```

運用管理サーバがクラスタ構成の場合、運用系でアプリケーション管理が動作していれば対処の必要はありません。待機系にてアプリケーション管理の再起動を行なわないようにしてください。

対処2

確認ポイント

FSC-NEWS FNS-11828に記載のOS障害のパッチを適用していますか。

原因

OSの障害(BugID 4472070)に該当します。

対処方法

FNS-11828に記載のOS障害のパッチを適用してください。

また、上記OSの障害により、以下のプロセスが停止している可能性がありますので、プロセスの起動を確認してください。

- APA_CP
- APA_ME

起動していない場合はSystemwalkerアプリケーション管理デーモンを再起動してください。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh stop …停止
```

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start …起動
```

運用管理サーバがクラスタ構成の場合、運用系でアプリケーション管理が動作していれば対処の必要はありません。待機系にてアプリケーション管理の再起動を行わないようにしてください。

7.32 アプリケーション管理資源採取の実行エラーが発生する

アプリケーション管理資源採取の実行エラーがシスログまたはイベントログに出力されます。

エラーメッセージ

```
apaagt: ERROR: 1705: アプリケーション管理資源採取(マシン)はコマンドを実行できませんでした。  
apaagt: ERROR: 1609: アプリケーション管理資源採取(プロセス)はコマンドを実行できませんでした。  
apaagt: ERROR: 1505: アプリケーション管理資源採取(ディスク)はコマンドを実行できませんでした。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～5.2.1

確認ポイント

SWAP領域不足の状態になっていませんか。SWAP領域の空き容量をSWAPコマンドで確認してください。

SWAP領域不足の場合は以下のようなOSからの通知メッセージが出力されることがあります。

```
tmpfs: [ID xxxxxx kern.warning] WARNING: /tmp: File system full, swap space limit exceeded
```

原因

アプリケーション管理でしきい値監視するときに、SWAP不足になり、アプリケーション管理のコマンドを実行できない状況です。

対処方法

SWAP領域の空き容量を確認し、SWAP領域の空き容量が少ない場合はSWAP領域を増加するなどの対処をします。SWAP領域の空き容量が十分にある場合は、発生時に一時的なSWAP領域を使用されたことが考えられます。

また、SWAP領域不足により、以下のプロセスが停止している可能性がありますので、プロセスの起動を確認してください。

- APA_CO

起動していない場合は、Systemwalkerアプリケーション管理デーモンを再起動してください。運用管理サーバがクラスタ構成の場合、運用系でアプリケーション管理が動作していれば対処の必要はありません。待機系ではアプリケーション管理の再起動を行なわないようにしてください。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh stop    …停止
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start  …起動
```

7.33 文字化けしたアプリケーションがアプリケーション一覧に存在する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V12.0L10以降
 - Solaris版:12.0以降
 - Linux版:V12.0L10以降

確認ポイント

CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)にSJISコード以外の文字コードで記述されたファイルを入力していませんか。

登録時のパラメタやファイルの内容を確認し、誤ったコード系の情報がないか確認してください。

原因

CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)にSJISコード以外の文字コードで記述されたファイルを入力した場合に文字化けしたアプリケーションが登録されてしまいます。

対処方法

誤ったコード系の情報があった場合には、Systemwalkerコンソールよりアプリケーションを削除し、再登録してください。

1. アプリケーション情報を表示します。

以下のコマンド実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDisp 1
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalker-インストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥AppInfoDisp 1
```

※スーパーユーザ/administrator権限にて実行してください。

以下のような形式でコマンドの結果が出力されます。

OID	DisplayName	ExecName	NodeName
DN041122103738_100_1792	test_app11	/home/test_exe/testappl1	node1
DN041122103738_100_1802	test_app12	/home/test_exe/testappl2	node2
DN041122103738_100_1374	test_app13	/home/test_exe/testappl3	node3
DN041122103738_100_1378	文字化け	/home/test_exe/文字化け	node3

2. 文字化けしているアプリケーション情報を削除します。

1.で実行したコマンドの結果より、文字化けしているアプリケーション情報を検索し、OIDを特定してください。

3. アプリケーション情報を削除します。

以下のコマンドを実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDelete OID
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥delapp.exe OID
```

例)

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDelete DN041122103738_100_1378
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥delapp.exe  
DN041122103738_100_1378
```

4. 実行ファイル情報を表示します。

以下のコマンドを実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDisp 2
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥AppInfoDisp 2
```

※スーパーユーザ/administrator権限にて実行してください。

以下のような形式でコマンドの結果が出力されます。

OID	DisplayName	ExecName	PackageName	Version
DN041122103738_51_1777	test_app11	testapp11	TEST	Undefined
DN041122103738_51_1781	test_app12	testapp12	TEST	Undefined
DN041122103738_51_1785	test_app13	testapp13	TEST	Undefined
DN041122103738_51_1791	文字化け	文字化け	TEST	Undefined

5. 文字化けしている実行ファイル情報を削除します。

4.で実行したコマンドの結果より、文字化けしている実行ファイルを検索し、OIDを特定してください。

6. 実行ファイル情報を削除します。

以下のコマンドを実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDelete OID
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥delapp.exe OID
```

例)

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDelete DN041122103738_51_1791
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥delapp.exe  
DN041122103738_51_1791
```

7.34 イベント出力変更コマンド(apl_event_change)がエラーメッセージを出力し終了する

イベント出力変更コマンド(apl_event_change)が二重起動されていないのに、コマンドが実行している旨のエラーメッセージを出力し終了します。

エラーメッセージ

```
This command is busy. After waiting for a while, please reexecute.
```

上記メッセージは、コマンドが終了するとき、コマンドを実行したコマンドライン上に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V12.0L10以降
 - Solaris版:12.0以降
 - Linux版:V12.0L10以降

確認ポイント

イベント出力変更コマンド(apl_event_change)を二重起動していませんか。

原因

マシンリブート等により、イベント出力変更コマンド(apl_event_change)の実行が、途中で打ち切られた場合に発生します。

対処方法

イベント出力変更コマンド(apl_event_change)が二重起動されていないにもかかわらず本エラーメッセージが出力された場合は、以下のファイルを削除し、再度、コマンドを実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/var/opt/FJSVsapag/tmp/apl_event_change.lock
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥var¥tmp¥apl_event_change.lock
```

7.35 CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)がエラーメッセージを出力し終了する

対処1

CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)が二重起動されていないのに、コマンドが実行している旨のエラーメッセージを出力し終了します。

エラーメッセージ

```
This command is busy. After waiting for a while, please reexecute.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V12.0L10以降
 - Solaris版:12.0以降
 - Linux版:V12.0L10以降

確認ポイント

CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)を二重起動していませんか。

原因

マシンリポート等により、CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)の実行が、途中で打ち切られた場合に発生します。

対処方法

CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)が二重起動されていないにもかかわらず本エラーメッセージが出力された場合は、以下のファイルを削除し、再度、コマンドを実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/var/opt/FJSVsapag/tmp/P_APPMGR_Start
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥var¥tmp¥P_APPMGR_Start
```

対処2

CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)を実行するとSystemwalkerコンソールがエラーを出力し、終了する。

エラーメッセージ

```
システムエラーが発生しました。  
Exception:org.omg.CORBA.DATA_CONVERSION: CORBA_JRT_CDR_String vmcid: 0x464a0000  
minor code: 3 completed: No
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V12.0L10以降
 - Solaris版:12.0以降
 - Linux版:5.2、V12.0L10以降

確認ポイント

CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)にSJISコード以外の文字コードで記述されたファイルを入力していませんか。

登録時のパラメータやファイルの内容を確認し、誤ったコード系の情報がないか確認してください。

原因

CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド(P_Mpapagt)にSJISコード以外の文字コードで記述されたファイルを入力した場合、文字化けしたアプリケーションが登録されます。

対処方法

誤ったコード系の情報があった場合には、下記の手順でアプリケーションを削除し、再登録してください。

1. アプリケーション情報を表示します。

以下のコマンド実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDisp 1
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥AppInfoDisp 1
```

※スーパーユーザ/administrator権限にて実行してください。

以下のような形式でコマンドの結果が出力されます。

OID	DisplayName	ExecName	NodeName
DN041122103738_100_1792	test_app11	/home/test_exe/testapp11	node1
DN041122103738_100_1802	test_app12	/home/test_exe/testapp12	node2
DN041122103738_100_1374	test_app13	/home/test_exe/testapp13	node3
DN041122103738_100_1378	文字化け	/home/test_exe/文字化け	node3

2. 文字化けしているアプリケーション情報を削除します。

1. で実行したコマンドの結果より、文字化けしているアプリケーション情報を検索し、OIDを特定してください。

3. アプリケーション情報を削除します。

以下のコマンドを実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDelete OID
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥delapp.exe OID
```

例)

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDelete DN041122103738_100_1378
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥delapp.exe  
DN041122103738_100_1378
```

4. 実行ファイル情報を表示します。

以下のコマンドを実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDisp 2
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalker-インストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥AppInfoDisp 2
```

※スーパーユーザ/administrator権限にて実行してください。

以下のような形式でコマンドの結果が出力されます。

OID	DisplayName	ExecName	PackageName	Version
DN041122103738_51_1777	test_app11	testapp11	TEST	Undefined
DN041122103738_51_1781	test_app12	testapp12	TEST	Undefined
DN041122103738_51_1785	test_app13	testapp13	TEST	Undefined
DN041122103738_51_1791	文字化け	文字化け	TEST	Undefined

5. 文字化けしている実行ファイル情報を削除します。
 4. で実行したコマンドの結果より、文字化けしている実行ファイルを検索し、OIDを特定してください。
 6. 実行ファイル情報を削除します。
- 以下のコマンドを実行してください。

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDelete OID
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalker-インストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥delapp.exe OID
```

例)

[UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVsapag/tool/AppInfoDelete DN041122103738_51_1791
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalker-インストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥Mpapagt¥opt¥tool¥delapp.exe  
DN041122103738_51_1791
```

7.36 アプリケーションの稼働状態が「非監視状態」(白色)である

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V5.2、V10.0L10以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降

対処1

確認ポイント

監視しているサーバでSystemwalker Centric Managerが停止中、または、再起動を行っていませんか。

原因

監視しているサーバが通信接続できていない、Systemwalkerが起動していない、または、再起動中である場合に「非監視状態」(白色)になります。

対処方法

起動直後の場合は、稼働状態が表示されるまでしばらくお待ちください。

しばらく待っても稼働状態が表示されない場合は、以下の手順でアプリケーションの最新稼働状態の表示を行ってください。

1. Systemwalkerコンソール[監視]で、[ツリー選択]コンボボックスから[業務管理]を選択します。
2. 業務管理ツリーの業務フォルダから、稼働状況を確認する業務のフォルダを選択します。
3. 業務を選択した後、[表示]メニューから[最新の稼働状態を表示]を選択します。

上記の対処でも稼働状態が表示されない場合は、以下の対処を実施してください。

1. 監視しているサーバで以下のプロセスが起動しているか確認をお願いします。

```
APA_CO.EXE (Windows)
/opt/FJSVsapag/bin/APA_CO (UNIX系)
```

2. 未起動の場合はSystemwalkerアプリケーション管理のデーモン(サービス)を起動してください。

- Windowsの場合

以下のサービスを開始します。

```
Systemwalker Mpapagt
```

- UNIXの場合

以下のコマンドでアプリケーション管理のデーモンを起動します。

```
/opt/FJSVsapag/opt/FJSVsapag.sh start
```

対処2

確認ポイント

動作設定ポリシーで稼働状況取得間隔を0分に設定し、ポリシー配付していませんか。

原因

動作設定ポリシーで稼働状況取得間隔を0分に設定し、ポリシー配付している場合、稼働状態は通知されませんので、アプリケーションの稼働状態の表示は更新されません。

対処方法

必要に応じて、Systemwalkerコンソール[監視]から、[最新稼働状態の表示]を操作し、稼働状態の表示を行ってください。また、稼働状態取得間隔を0分以外に再設定し、ポリシー配付することにより稼働状態が表示されます。

対処3

確認ポイント

アプリケーション登録時に、対象となる業務サーバのSystemwalker Centric Managerが停止していませんか。

原因

運用管理サーバから業務サーバへの監視アプリケーション情報の送信が行われていないためです。

対処方法

以下の手順で、ポリシー配付を行ってください。

1. Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューから、[ポリシーの定義]-[アプリケーションの監視]を選択します。
→[アプリケーション管理]ウィンドウが表示されます。
2. [アプリケーション管理の設定]-[アプリケーション管理全体の設定]-[動作の設定]を選択します。
3. [ポリシー]メニューの[作成]を選択します。
→[動作の設定]ダイアログボックスが表示されます。
4. [動作の設定]ダイアログボックスで、“アプリケーション情報送信種別”の項目を“エージェント起動時に毎回最新情報を送信する”、または、“次回エージェント起動時のみ最新情報を送信する”を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
5. [ポリシー]メニューから[配付先の設定]を選択し、ポリシーの配付先を対象業務サーバに設定します。
6. [ポリシー]メニューから[ポリシーの配付]を選択し、ポリシーを配付します。このとき“ポリシーを適用するタイミング”を、“すぐに適用する(配付先のサービスを再起動する)”にしてください。

対処4

確認ポイント

クラスタ構成で運用する運用管理サーバで待機系サーバのアプリケーションが「非監視状態」(白色)になっていませんか。(Linux版では運用管理サーバのクラスタ構成はV11.0L10以降でサポート可)

原因

運用管理サーバがクラスタ運用している場合、待機系ではSystemwalkerアプリケーション監視デーモンが動作していないため、運用系から待機系のアプリケーションを監視することはできません。また、待機系のアプリケーションの稼働状況も正しく表示されません。

対処方法

運用管理サーバ自身のアプリケーションの監視は、運用系から運用系のアプリケーションのみ監視することができます。

7.37 稼働ポリシー違反イベントが自動対処されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降

対処1

確認ポイント

ノード名の変更、または、監視対象のアプリケーションを存在するすべての業務フォルダから削除していませんか。

原因

ノード名の変更、または、監視対象のアプリケーションを存在するすべての業務フォルダから削除された場合、イベントの自動対処は行われません。

対処方法

手動による対処(メッセージを選択し、「対処(または保留)」と操作)を実施してください。

対処2

確認ポイント

監視対象サーバで電源断等による強制的なマシン停止やシステムのリブートが行われていませんか。

原因

アプリケーション管理エージェント停止時に、稼働違反情報が保存される前にシャットダウン等で強制停止された場合は、次回起動時に自動対処されないことがあります。

対処方法

手動による対処(メッセージを選択し、「対処(または保留)」と操作)を実施してください。

7.38 「コード変換ライブラリのローディングができないため、コード変換はできません」と出力される

コード変換ライブラリがインストールされていない可能性があります。

エラーメッセージ

```
apamc: エラー: 1141: コード変換ライブラリのローディングができないため、コード変換はできません。
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21

確認ポイント

運用管理サーバがWindows版で、監視対象サーバがUNIX版(EUC)の場合に、運用管理サーバにコード変換ライブラリ(ADJUST、Systemwalker CharsetMGR、または、Interstage CharsetMGR)がインストールされていますか。

上記エラーメッセージが出力された場合、UNIX版サーバ(EUC)のアプリケーションは検出できません。また、アプリケーションの稼働違反イベントも通知されません。

原因

Windows版の運用管理サーバにコード変換ライブラリ(ADJUST、Systemwalker CharsetMGR、または、Interstage CharsetMGR)が導入されていないため、UNIXサーバから受信したメッセージをコード変換できません。

対処方法

上記環境の場合は、運用管理サーバにコード変換ライブラリ(ADJUST、Systemwalker CharsetMGR、または、Interstage CharsetMGR)をインストールしてください。

7.39 アプリケーション監視の設定を行うと「指定したノードにはアプリケーション管理サーバのインストールが確認できませんでした」と表示される

エラーメッセージ

```
指定したノードにはアプリケーション管理サーバのインストールが確認できませんでした
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降

確認ポイント

設定対象の業務サーバ、および、経由する部門管理サーバ(存在する場合のみ)において、以下の2点を確認してください。

- [通信環境定義]画面の[メッセージ送信先システム]に、監視結果を送信するシステムが定義されていること。
[通信環境定義]画面は、以下の手順で起動できます。
 1. [スタート]メニューの[プログラム]から[Systemwalker Centric Manager]-[環境設定]-[システム監視設定]、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]-[システム監視設定]を選択します。
 2. [システム監視設定]画面において、[通信環境定義]を選択します。
- 上記の定義後にSystemwalker Centric Managerを再起動していること。

原因

運用管理サーバが管理するノード情報に、アプリケーション監視の設定に必要な情報が設定されていない場合に発生します。

対処方法

確認ポイントの内容について問題がない場合、設定対象の業務サーバ、および、経由する部門管理サーバ(存在する場合のみ)で、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

7.40 稼働ポリシー監視間隔ごとに違反メッセージが通知される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Windows for Itanium版:V12.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降
 - Linux for Itanium版:V12.0L10以降

確認ポイント

該当アプリケーションの登録情報として設定されている起動コマンドは正しいですか。

原因

該当アプリケーションの登録情報として設定されている起動コマンドを実行しましたが、該当アプリケーションの自動起動に失敗しています。
稼働ポリシー違反が発生したときの制御としてアプリケーションの自動起動を設定している場合、自動起動を開始したことによって一旦違反が対処されます。この自動起動に失敗すると、次の監視のタイミングで再度、稼働ポリシー違反メッセージが通知されます。(最大で連続5回まで)

対処方法

該当アプリケーションの[起動コマンド名]、[起動コマンドパス]、[起動コマンドパラメタ]に誤りがないか確認してください。

問題がない場合は、以下について確認してください。

- ・ 該当アプリケーションの実行権限を確認し、アプリケーションを実行できる権限があるか確認してください。
- ・ Windowsの“ファイル名を指定して実行”などから起動コマンドを単体で実行し、該当のアプリケーションが起動できるか確認してください。

7.41 APA_process_list(プロセス一覧確認コマンド)の結果に出力されないアプリケーションがある

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V12.0L10以降
 - － Windows for Itanium版:V12.0L10以降

確認ポイント

出力されないアプリケーションは、ログインしたユーザのアクセス権ではアクセスできないアプリケーションではありませんか。

原因

APA_process_list(プロセス一覧確認コマンド)は、ログインしたユーザのアクセス権にて動作しますので、ログインしたユーザのアクセス権でアクセスできないアプリケーションについては出力されません。

対処方法

対象アプリケーションにアクセスできる権限でログインした後、APA_process_list(プロセス一覧確認コマンド)を実行してください。

なお、稼働監視するアプリケーションがSystemwalkerが参照できる権限(ローカルシステムアカウント)で起動されているかを確認するには、以下の方法でAPA_process_list(プロセス一覧確認コマンド)を実行してください。

【確認方法】

1. 該当サーバのAPA_process_list(プロセス一覧確認コマンド)を以下の内容で、アプリケーションの登録を行います。
 - － 実行ファイル名: APA_Process_list.exe
 - － インストールディレクトリ: <SWDIR>%MPWALKER.DM%bin※<SWDIR>:Systemwalkerインストールディレクトリ(例:C:%WIN32APP)
2. 画面から、アプリケーション(APA_Process_list.exe)を手動で起動操作します。
3. WindowsのSystemフォルダにコマンド実行結果(proc.lst)が出力されます。

コマンド実行結果(proc.lst)には、Systemwalkerアプリケーション管理で監視できるアプリケーションで、かつ、現在稼働中のアプリケーションが出力されます。

※WindowsのSystemフォルダ(例:C:%WINDOWS%system32)

第8章 自動アクション関連

8.1 「アクションが実行されない」に関するトラブルシューティング

8.1.1 アクションが実行されない

アクションを実行する時間帯(アクション条件の時間)を設定しているが、条件の時間帯でもアクションが実行されない。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

イベント監視の条件定義を確認してください。

原因

イベント監視の条件定義で、想定している定義行以外の条件と一致している可能性があります。

対処方法

“監視イベント一覧画面にメッセージが表示されたり、表示されなかったりする”、または“監視イベント一覧画面に特定のメッセージが表示されない”を参照し、定義内容を確認してください。

対処2

確認ポイント

アクションの環境設定を確認してください。

対処方法

- [Windows版の場合]
 - イベントログに、以下のようなイベントが発生していないかを確認してください。
 - ソース : MpAosfB
 - イベントID: 3000 ~ 3207
 - 種類 : エラー
- 発生しているメッセージIDについて、“Systemwalker Centric Managerメッセージ説明書”を参照し、対処方法を実施してください。

- [UNIX版の場合]

syslogに、以下のようなメッセージが発生していないかを確認してください。

- ラベル : MpAosfB
- エラー種別: ERROR
- テキスト : 3000 ~ 3207 で始まる文字列

発生しているメッセージIDについて、“Systemwalker Centric Managerメッセージ説明書”を参照し、対処方法に書いてあるとおりに実施してください。

- [UNIXシステムで、ポケットベル、MS-Mail、ポップアップメッセージ、音声通報のアクションを定義している場合]

アクションを実行するホストに、Windowsシステムのホスト名を定義する必要があります。

[アクション環境設定]画面の[アクション実行先]タブで、アクション実行先ホストに、Windowsシステムを設定しているか確認してください。アクション実行先ホストに、なにも設定していない場合や、UNIXシステムを指定している場合は、Windowsシステムを設定してください。

対処3

確認ポイント

アクション実行先ホストに、ホスト(Windows)を指定している場合、アクション実行先ホストで、Systemwalker MpAosfXサービスが存在していますか。

対処方法

- Systemwalker MpAosfXサービスが存在している場合

Systemwalker MpAosfXサービスが起動しているか確認し、停止している場合は、起動してください。

また、以下のポートを通信可能にしてください。

ポート番号	送信元	あて先
9369/tcp、9370/tcp	クライアント 運用管理クライアント	運用管理サーバ 部門管理サーバ 業務サーバ
6961/tcp	運用管理サーバ 部門管理サーバ 業務サーバ	クライアント 運用管理クライアント

- Systemwalker MpAosfXサービスが存在していない場合

Systemwalker MpAosfXサービスは、“アクション実行”の中に含まれています。Systemwalker MpAosfXサービスが存在していない場合は、“アクション実行”を追加インストールしてください。

対象コンピュータに修正が適用されている場合は、追加インストール前に修正を削除してください。追加インストール後に修正を再インストールしてください。

インストール手順を以下に示します。

1. 対象コンピュータで、該当するSystemwalker Centric Managerの製品CD-ROM(Systemwalker Centric Manager V13.4.1以前)、またはDVD(Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降)をドライブに入れて、以下のコマンドを実行します。

【Systemwalker Centric Manager V13.4.1以前】

CD-ROMドライブ¥swsetup.exe

【Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降】

DVDドライブ¥swsetup.exe

2. [インストール種別]で、[次へ]ボタンをクリックします。

3. [オプション]の[イベント監視]を選択し、[詳細]ボタンをクリックします。
4. [アクション実行]チェックボックスを選択します。
5. 以降は、通常のインストールを実施してください。

対処4

確認ポイント

アクション実行先ホストにホスト(Windows)を指定している場合、アクションを定義しているシステムのhostsファイルの内容が正しいか確認してください。

対処方法

hostsファイルに、アクション実行先ホストを定義している場合は、そのIPアドレスが正しいものかを確認し、間違っている場合は、正しいIPアドレスに変更してください。

対処5

確認ポイント

音声ボード、スピーカーなどの必要機器が接続されていますか。

対処方法

接続されていない場合は、正しく接続してください。

対処6

確認ポイント

mpaosmentコマンドをパラメタなしで実行して、アクションの実行状況を確認してください。

対処方法

アクションが抑止されている場合には、mpaosmentコマンドで実行抑止を終了させてください。

コマンドの詳細や実行結果の表示内容については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

ポイント

mpaosmentコマンドに -P のパラメタを指定して、すべてのアクションを実行抑止している場合、監視イベント一覧へのメッセージ表示もされません。

対処7

確認ポイント

同一メッセージが連続して発生していませんか。

メッセージ抑止時間を設定している場合、その時間内に連続してメッセージが発生すると、2個目以降のメッセージに対してはアクションを実行しません。

対処方法

メッセージの発生間隔を確認し、メッセージ抑止時間を、その間隔以下に設定してください。

メッセージ抑止時間の設定については、[通信環境設定]についてのオンラインヘルプを参照してください。

対処8

確認ポイント

アクション条件の時間を設定していますか。

イベント発生元の時刻と、アクションを実行するサーバの時刻が一致していますか。

対処方法

イベント発生元の時刻と、アクションを実行するサーバの時刻を一致させてください。

対処9

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー: 3016:アクション実行サーバが起動されていません。
```

確認ポイント

アクション実行に使用する以下のポートに対して通信ができますか。

- JMACT1 9369/tcp
- JMACT2 9370/tcp
- JMACT3 6961/tcp

Firewallなどでポートに対する通信を遮断していませんか。telnet等のコマンドを使用してポートごとに確認してください。

原因

アクション実行に使用するポートに対して通信ができないため、アクション実行ができません。

対処方法

アクション実行に使用するポートに対して通信ができるように設定してください。

ポートに問題ない場合、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”を参照し、エラーメッセージの対処を確認してください。

対処10

確認ポイント

イベント監視の条件定義は反映されていますか。

原因

aseadef([イベント監視の条件定義]のCSV読み込みコマンド)を-uオプションを指定しないで実行した場合、画面上は新しい定義が表示されますが、処理を行なうプロセス側で定義の反映が行なわれていません。

対処方法

Systemwalkerを再起動してください。または、イベント監視の条件定義を直ちに変更する"-u"オプションを指定して、再度コマンドを実行してください。

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処11

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー: 3016: アクション実行サーバが起動されていません。ホスト名:hxxx
```

確認ポイント

アクションを実行するホストが起動していますか。

対処方法

アクションを実行するホストが起動していない場合は、起動してください。

対処12

エラーメッセージ

MpAosfB: エラー: 3016: アクション実行サーバが起動されていません。ホスト名:hhhh

確認ポイント

アクション実行サービス(Systemwalker MpAosfX)がインストールされていますか。

対処方法

アクション実行サービス(Systemwalker MpAosfX)がインストールされていない場合は、インストールしてください。

対象コンピュータに修正が適用されている場合は、追加インストール前に修正を削除してください。追加インストール後に修正を再インストールしてください。

インストール手順を以下に示します。

1. 対象コンピュータで、該当するSystemwalker Centric Managerの製品CD-ROM(Systemwalker Centric Manager V13.4.1以前)、またはDVD(Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降)をドライブに入れて、以下のコマンドを実行します。

【Systemwalker Centric Manager V13.4.1以前】

CD-ROMドライブ¥swsetup.exe

【Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降】

DVDドライブ¥swsetup.exe

2. [インストール種別]で、[次へ]ボタンをクリックします。
3. [オプション]の[イベント監視]を選択し、[詳細]ボタンをクリックします。
4. [アクション実行]チェックボックスを選択します。
5. 以降は、通常のインストールを実施してください。

対処13

エラーメッセージ

MpAosfB: エラー: 3016: アクション実行サーバが起動されていません。ホスト名:hhhh

確認ポイント

アクション実行サービス(Systemwalker MpAosfX)が起動していますか。

対処方法

アクション実行サービス(Systemwalker MpAosfX)が起動していない場合は、起動してください。サービス起動後、アクション管理ウィンドウより異常終了したアクションを実行します。

8.1.2 アクションが実行されない(ポケットベル、メール、ポップアップメッセージ、音声通知)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降

- AIX版:10.0以降
- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

エラーメッセージ

MpAosfB: ERROR: 3005: システム関数でエラーが発生しました。システム関数名:recv 理由:No such file or directory
 MpAosfB: ERROR: 3008: APIとの通信に失敗しました。
 MpAosfB: ERROR: 1029: アクション管理サーバでエラーが発生しました。詳細コード:-32

確認ポイント

Systemwalkerのコード系と異なるコード系のメッセージに対し、アクションを実行していませんか。

Systemwalker Centric Manager の文字コードは、10.0以降の場合、自動的に OS の文字コードと同じものになります。5.2以前の場合は、SystemWalker/CentricMGRのインストール時に、文字コードを指定します。

以下のような場合に、Systemwalkerのコード系と異なるコード系のメッセージが発生します。

- シスログにSystemwalkerのコード系と異なるコード系でメッセージが出力された場合
- 監視対象のログファイルに、Systemwalkerのコード系と異なるコード系でメッセージが書き込まれた場合

対処方法

Systemwalkerのコード系と発生メッセージのコード系を一致させてください。

メッセージのコード系を修正することができない場合は、以下の方法で回避できます。

- メールアクションの場合
“イベントの内容を送信する”のチェックを外してください。
- 音声通知アクションの場合
“イベント内容の通知”のチェックを外してください。
- アクション定義において“%MSG”を使用している場合
アクション定義から“%MSG”を削除してください。

対処2

確認ポイント

アクション実行中の時間帯を確認し、その時間にネットワークが切断、または不安定な状態になっていたことはないか確認してください。

切断される原因としては、以下のような場合があります。

- アクション実行先ホストがハングした。
- アクション実行先ホストの電源が落ちた。
- アクション定義ホストとアクション実行先ホスト間のLANケーブルが故障した。
- アクション定義ホストとアクション実行先ホスト間のHUBの電源が落ちた/故障した。
- アクション定義ホストとアクション実行先ホスト間で、ネットワークトラブルが発生した。

原因

サーバとクライアントのネットワークに異常が発生したため、サーバ側が管理しているアクションの状態に不整合が発生することがあります。

対処方法

ネットワークの状態を復旧した後で、サーバ側のSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

対処3

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー: 3016:アクション実行サーバが起動されていません。ホスト名:xxxx
```

確認ポイント

[アクション環境設定]ダイアログボックスの[アクション実行先]タブで指定したホストがアクション実行可能なホストか確認してください。

原因

アクション実行先に設定されているホストが存在しない、もしくはアクションを実行できる状態ではないため、アクションが実行されません。

対処方法

- アクションを実行するホストが起動しているか確認し、起動していない場合は、起動してください。
- アクション実行サービス(Systemwalker MpAosfX)がインストールされているか確認し、インストールされていない場合は、インストールしてください。
運用管理サーバ、部門管理サーバ、および業務サーバの場合は、Systemwalker Centric Managerインストール時に自動的にインストールされます。クライアント、運用管理クライアントの場合は、インストール時のオプションで[アクション実行]を選択してください。
- アクション実行サービス(Systemwalker MpAosfX)が起動しているか確認し、起動していない場合は、起動してください。サービス起動後、[アクション管理]画面より異常終了したアクションを実行してください。
- アクション実行に必要なポート(6961/tcp)に対する通信が許可されているか確認し、通信が許可されていない場合は、許可するように設定してください。
- ポート番号6961を使用しているアプリケーションがないか確認してください。ポート番号6961を使用しているアプリケーションがある場合、別のポートに移動するなどの方法で重複しないよう対処してください。

8.1.3 アクションが実行されない(アプリケーション起動)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

アプリケーションの実行権限はありますか。

原因

Windows版の場合は、システムアカウントで、UNIX版の場合は、root権限で実行します。

対処方法

アプリケーションには、実行権限で実行できるものを指定してください。

対処2

確認ポイント

パスの設定は正しいですか。

対処方法

- ・ [起動ファイル]にアプリケーションをフルパスで指定している場合、そのパスが存在するか確認してください。
- ・ [起動ファイル]にアプリケーションをフルパスで指定していない場合、そのアプリケーションが存在するパスが、システム環境変数のPATH変数に設定されているか確認してください。

システム環境変数の確認については、システム的环境に合わせて確認してください。以下は参考情報です。(ただし、以下の確認コマンドはユーザ環境で実行されるため、ユーザ環境変数が追加された値となります。)

- UNIXの場合:rootでloginして、envコマンドで、PATH変数を確認するか、setコマンドでpath変数を確認する
- Windowsの場合:path コマンドで確認する
- ・ 指定しているパスに、誤字がないか確認してください。(大文字/小文字/全角/半角など)
- ・ Windows版で、起動ファイル名の拡張子(.EXEなど)を省略して記述した場合、ファイル名に“.EXE”を追加したプログラムが起動されます。起動したいアプリケーションの拡張子が“.EXE”以外の場合は、拡張子を省略しないで記述してください。

対処3

確認ポイント

アプリケーションは、実行可能形式ですか。

対処方法

- ・ UNIX版の場合、アプリケーションファイルに実行権が与えられていることを確認してください。
- ・ UNIX版のシェルスクリプトファイルを指定している場合は、シェルスクリプトファイルの1行目に、使用するシェル名が記述されているか確認してください。
- ・ Windows版のバッチファイル(.bat)を起動する場合は、以下のように定義してください。
 - 起動ファイル :cmd.exe
 - パラメタ :/C バッチファイル名(*.bat) パラメタ
 - 実行時のディレクトリ:任意のディレクトリ
- ・ UNIX版のシェルスクリプトを起動する場合は、以下のように定義してください。
 - 起動ファイル :/bin/sh
 - パラメタ :シェルスクリプト名 パラメタ
 - 実行時のディレクトリ:任意のディレクトリ
- ・ 起動ファイルと、パラメタに指定したシェルスクリプト名の1行目に記述した使用するシェル名の種類を一致させてください。

対処4

確認ポイント

アプリケーションの実行環境は指定されていますか。

原因

アプリケーションは、起動ユーザや環境変数など、Systemwalkerと同じ動作環境で起動されます。

対処方法

起動するアプリケーションが特殊な環境変数(ライブラリのパスなど)を必要とする場合、対象となるアプリケーションを起動するバッチファイルまたはシェルスクリプトを作成し、このプログラム内で必要な環境変数を設定してください。

対処5

確認ポイント

以下のメッセージが出力されていないか確認してください。

- ・ [Windows版場合]

```
MpAosfB: エラー: 1020: プロセスの生成に失敗しました。発生元プロセス名 : f3crhesw
```

- ・ [UNIX版の場合]

```
MpAosfB: エラー: 7011: システム関数でエラーが発生しました。  
呼び出し元 : f3crhesv システム関数 : execv 理由 : xxxx
```

対処方法

- ・ [Windows版の場合]

対処1～対処3を参照し、対処してください。

- ・ [UNIX版の場合]

エラーメッセージの、理由:xxxx の部分の内容に応じて対処してください。

- 理由:2の場合、対処2を参照してください。
- 理由:8の場合、対処3を参照してください。
- 理由:13の場合、対処3を参照してください。
- 理由:上記以外の場合、保守情報収集コマンドで、イベント監視の資料を採取後、技術員に連絡してください。

対処6

確認ポイント

起動するアプリケーションで、標準出力や、標準エラー出力にメッセージを出力していませんか。

対処方法

標準出力や標準エラー出力にメッセージを出力するアプリケーションの場合は、バッチファイルやシェルにて、アプリケーションの出力を別ファイルにリダイレクションするように記述し、そのバッチファイル、または、シェルを、アクション定義のアプリケーション起動のアプリケーション名に設定してください。

8.1.4 アクションが実行されない(アプリケーション起動) (Windows)

パラメタで指定したリダイレクションの出力先のファイルが作成されない。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

対処1

確認ポイント

リダイレクション(">")の指定方法に問題がありませんか。

リダイレクション(">")の機能を使用するには、起動ファイルに"cmd.exe /c"を指定する必要があります。

起動ファイルに任意のアプリケーションを指定し、パラメタにリダイレクション(">")を指定した場合は、アプリケーションに">"という文字列のパラメタとして渡されるため、リダイレクションの機能を果たしません。

対処方法

起動ファイルに"cmd.exe /c"を指定し、パラメタに起動するアプリケーション名、パラメタおよびリダイレクション(">")を指定してください。

対処2

確認ポイント

ネットワークドライブ上のアプリケーションを起動していませんか。

原因

アプリケーション起動を行うプロセスを起動するサービス“Systemwalker MpAosfB”は、ローカルシステムアカウントで起動されます。そのため、ネットワークドライブアプリケーションを起動することはできません。

対処方法

ローカルドライブ上のアプリケーションを起動してください。

8.1.5 アクションが実行されない(リモートコマンド)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

コマンドの種類を確認してください。

対処方法

リモートコマンドには、ウィンドウコマンド、制御端末を必要とするコマンド、フルスクリーン系のコマンド、対話系のコマンドおよびページ制御を行うコマンドは指定できません。

対処2

確認ポイント

発行先に上位システムを指定していませんか。

対処方法

発行先ホストに指定できるのは、自システム、および論理的通信構造の下位システムだけです。(例:業務サーバから運用管理サーバには発行できません。)

対処3

確認ポイント

運用管理サーバから被監視システムに対して、リモートコマンドが投入できますか。

原因

以下の条件のどれか1つが満たされる場合、運用管理サーバから被監視システムに対して、リモートコマンドが投入できない場合があります。

- ・ 部門管理サーバ、業務サーバ、またはイベント監視機能をインストールしたクライアントの導入時に、運用管理サーバが未起動であった場合
- ・ メッセージ送信先システムで定義されているサーバとの通信が不可能であった場合
- ・ メッセージ送信先システムの設定で、[通知先へは必要な時だけ接続する(必要時接続)]を選択した場合

対処方法

被監視サーバで、以下のコマンドを実行し、運用管理サーバと被監視サーバの間の通信経路を確立させてください。

- ・ Windows版の場合

```
opaconstat -a
```

- ・ UNIX版

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

対処4

確認ポイント

起動するコマンドで、ファイルアクセス処理をしていませんか。

また、リモートコマンドを実行する契機となるメッセージが連続して発生していませんか。

原因

リモートコマンドを実行する契機となるメッセージが連続して発生した場合、リモートコマンドが複数、同時に実行されます。

対処方法

ファイルアクセスなど、複数のコマンドで同時に実行すると正常に動作しない処理を行う場合は、あらかじめ、コマンド内で排他制御を実施してください。

対処5

確認ポイント

サービスやデーモンを再起動するようなコマンドを、リモートコマンドに指定していませんか。

原因

サービスやデーモンを再起動するようなコマンドを、リモートコマンドに指定しないでください。

対処方法

例) V5.0L30～V10.0L20、または、5.2～10.1 の場合

“aoseadef -u”コマンドは、イベント監視の条件定義を動的反映させるため、サービスやデーモンの再起動を行います。

“aoseadef -u”コマンドの場合、アプリケーション起動のアクションで定義してください。

対処6

エラーメッセージ

```
MpAosfB: ERROR: 1031: Failed in the execution of a remote command. Command:ccc Host name:hhh  
MpAosfB: ERROR: 1031: リモートコマンドの実行に失敗しました。コマンド:ccc ホスト名:hhh
```

システムの負荷が高いため、リモートコマンドの実行に失敗しました。

ccc: コマンド名

hhh: リモートコマンド発行先ホスト名

確認ポイント

Syslog、イベントログ、監視ログファイル、下位サーバからのメッセージが多発していませんか。

対処方法

メッセージが多発している場合は、メッセージの発生頻度を下げするため、下位サーバからのイベント監視の条件定義を見直し、運用管理サーバの負荷を軽減してください。

対処7

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー: 1083: Systemwalker Centric Managerが停止中であるか、または、システムの負荷が高  
いため、リモートコマンドの実行に失敗しました。コマンド:ccc ホスト名:hhh
```

システムの負荷が高いため、リモートコマンドの実行に失敗しました。

ccc: コマンド名

hhh: リモートコマンド発行先ホスト名

確認ポイント

自サーバに対して、リモートコマンドを実行していませんか。

原因

メッセージが大量に発生し、リモートコマンド発行依頼が多発したことが原因です。リモートコマンド発行依頼が多発した場合、受付側であるシステム監視エージェントにかかる負荷が高くなり、リモートコマンド発行依頼が失敗することがあります。

対処方法

システム監視エージェントにかかる負荷を分散させるために、自サーバに対してリモートコマンドを設定している場合は、リモートコマンドではなく、アプリケーション起動を使用するように定義を変更してください。(注)

アプリケーション起動についてはシステム監視エージェントに対する負荷はかかりません。

注) 自サーバに対するアクション定義のみ変更してください。下位サーバに対するアクション定義は除きます。

対処8

確認ポイント

アクション定義のリモートコマンド発行先に指定したホスト名は、リモートコマンドが発行できるシステムですか。

原因

リモートコマンド発行先に指定したホスト名が有効でないため、リモートコマンドが実行されません。

対処方法

対処方法については、「リモートコマンドのコマンド応答がエラーとなる、またはリモートコマンドウィンドウが表示できない」を参照してください。

8.1.6 アクションが実行されない(ポケットベル)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

エラーメッセージ

MpAosfB: エラー: 4109: 電話回線からダイアルトーンを検出できません。管理番号:xxxxx ホスト名:xxxxx

原因

モデムが内線回線に接続されている場合、ポケットベルへのダイアル時に、内線交換機の仕様によりモデムがダイアルトーンを検出できない場合があります。

対処方法

「モデム初期化ATコマンド」にダイアルトーンの検出を待たずにダイアルするコマンドを設定してください。コマンドの詳細は、使用するモデムの取扱い説明書を参照してください。(例: AT&fX3)

対処2

エラーメッセージ

MpAosfB: エラー: 3110: 電話回線から応答がありません。

対処方法

[アクション環境設定]ダイアログボックスの[COMポート]タブにて、COMポート番号に指定している内容を確認し、正しいものを設定してください。

8.1.7 アクションが実行されない(ポップアップメッセージ)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

宛先にIPアドレスを指定していませんか。

原因

宛先にIPアドレスを指定することはできません。

対処方法

ユーザ名、コンピュータ名、ドメイン名のどれかを指定してください。

対処2

確認ポイント

コマンドプロンプトより、NET SENDコマンドで、宛先にポップアップメッセージが表示されますか。

原因

ポップアップメッセージの表示には、マイクロソフトのMessengerサービスの機能を使用しています。

対処方法

NET SENDコマンドで通知できないコンピュータに対しては、アクション実行機能のポップアップメッセージも通知されません。

宛先のコンピュータでMessengerサービスが無効または停止している場合は、開始してください。

対処3

確認ポイント

WANで接続された先のコンピュータを宛先に指定していませんか。

原因

WANで接続された先のコンピュータの場合、コンピュータ名検索でタイムアウトが発生し、ポップアップメッセージを表示できない場合があります。

対処方法

WANで接続された先のコンピュータは指定しないでください。

対処4

確認ポイント

アクション実行ホストに、アクションを実行するサービス(Systemwalker MpAosfX)が存在しないホスト(例えば、ポップアップメッセージの宛先)を設定していませんか。

対処方法

アクション実行ホストには、アクションを実行するサービス(Systemwalker MpAosfX MpAosfX)がインストールされているホストを指定してください。

アクション実行サービス(Systemwalker MpAosfX)がインストールされていない場合は、インストールしてください。

補足

ポップアップメッセージの宛先と、アクション実行ホストについて説明します。

それぞれの意味を以下に示します。

- ポップアップメッセージの宛先
実際にポップアップメッセージを表示するホストのコンピュータ名
- アクション実行ホスト
ポップアップメッセージの宛先に対し、ポップアップメッセージを表示するように依頼するホスト

ポップアップメッセージの宛先と、アクション実行先ホストの関係は、以下の図のようになり、それぞれの役割を表に示します。



Aサーバ	イベントを監視するホストです。イベント監視の条件定義で、イベント定義やアクション定義を行います。
Bサーバ	アクション実行先ホストです。ポップアップメッセージの宛先(Cサーバ)に対し、ポップアップメッセージを表示するよう依頼するホストです。アクションを実行するサービス(MpAosfX)が起動している必要があります。(OSは、Windowsである必要があります。)
Cサーバ	ポップアップメッセージの宛先です。実際にポップアップメッセージが表示されるホストです。このホストでアクションを実行するサービス(MpAosfX)が起動している必要はありません。

- UNIX版の場合
アクション実行ホストに、必ずWindowsマシンであるBサーバの名前を定義する必要があります。
- Windows版の場合
AサーバとBサーバを、同じホストにすることができます。

AサーバとBサーバが同じホストの場合、アクション実行先ホストに、Bサーバの名前を定義する必要はありません。
また、BサーバとCサーバを同じホストにすることもできます。

対処5

確認ポイント

通知先のコンピュータが、通信可能な状態であったか確認してください。

未起動コンピュータや登録されていないコンピュータ名を宛先に設定した場合、ポップアップメッセージによる通知は行われませんが、ポップアップメッセージアクションは正常終了します。

また、LANケーブルが接続されていない等の通信異常の場合も同様に、ポップアップメッセージによる通知は行われませんが、アクションは正常終了します。

対処方法

通知先のコンピュータを通信可能な状態にし、ポップアップメッセージアクションを実行するようにしてください。

確認後もポップアップメッセージが通知されない場合は、[アクション環境設定]ダイアログボックス-[アクション実行先]シートの[ポップアップメッセージ実行ホスト名]に指定したホスト上で、Windows(R)の“NET SEND”コマンドを実行し、ポップアップメッセージの通知ができる環境が整っていることを確認してください。

対処6

確認ポイント

アクション実行先ホストにfirewallが設定されていませんか。

原因

以下のポートが、firewallの設定により通信できません。

- ・ 自動運用支援のアクション機能に必要なポート(デフォルトは、6961/tcp、9369/tcp、9370/tcp、9371/tcp)
- ・ マイクロソフトのMessengerサービス機能に必要なポート(UDP/138)

対処方法

自動運用支援のアクション機能に必要なポート、およびマイクロソフトのMessengerサービス機能に必要なポートが通信可能になるように、firewallを設定してください。

8.1.8 アクションが実行されない(メール)

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

以下のエラーメッセージが出力されていた場合は、対処1の対処方法を実施してください。

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー: 3053: SMTPサーバとの通信処理でエラーが発生しました。サーバ名:xxxx 理由:451  
access currently denied
```

確認ポイント

POP認証が必要なSMTPサーバを使用していないですか。

原因

V10.0L10以前、10.0以前では、メール送信のアクションは、POP認証(POP before SMTP)をサポートしていません。

対処方法

POP認証を必要としないSMTPサーバを使用してください。

対処2

以下のエラーメッセージが出力されていた場合は、対処2の対処方法を実施してください。

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー: 3053: SMTPサーバとの通信処理でエラーが発生しました。サーバ名:xxxx理由:501  
unacceptable mail address
```

確認ポイント

Fromアドレスが、SMTPサーバが許可しているアドレス形式ですか。

原因

[アクション環境設定]-[メール]タブの、[Fromアドレス]に設定したアドレスの形式が、SMTPサーバが許可しているアドレスの形式に一致していない場合、メール送信ができません。

SMTPサーバ側のセキュリティの程度によって、許可するFromアドレスの形式やアドレス内容が違います。

対処方法

許可されている形式については、SMTPサーバの管理者に問い合わせてください。

ポイント

「@ドメイン形式」で設定していない場合は、「@ドメイン」形式で設定してください。

対処3

確認ポイント

ダイヤルアップ接続をしていませんか。

対処

ダイヤルアップ接続はサポートしていません。

対処4

以下のエラーメッセージが出力されていた場合は、対処4の対処方法を実施してください。

エラーメッセージ

MpAosfB: エラー: 3052: SMTPサーバへの接続に失敗しました。SMTPサーバの状態を確認し、理由に表示されるコードおよびメッセージを、SMTPサーバの管理者に問い合わせ、対処してください。サーバ名:xxxx 理由:No such file or directory

確認ポイント

[アクション環境設定]ダイアログの[メール]タブで、[SMTPサーバ名]に定義しているホスト名(または、IPアドレス)に対し、pingコマンドを発行し、通信できる状態かどうかを確認してください。通信できない状態の場合は、[SMTPサーバ名]に定義しているホスト名(または、IPアドレス)が正しいかを確認してください。

また、システムに定義されているホストテーブルの内容が正しいか確認してください。

対処方法

[SMTPサーバ名]に正しいホスト名(またはIPアドレス)を定義してください。また、システムに定義されているホストテーブルの内容を正しい内容に修正してください。

- [UNIX版の場合]

hostsファイルにSMTPサーバ名を定義している場合は、そのIPアドレスが正しいものかを確認し、間違っている場合は、正しいIPアドレスに変更してください。

- [Windows版の場合]

hostsファイルにSMTPサーバ名を定義している場合は、そのIPアドレスが正しいものかを確認し、間違っている場合は、正しいIPアドレスに変更してください。

対処5

確認ポイント

Fromアドレスに指定したメールアドレスが、実際に存在するアドレスかどうかを確認してください。

対処方法

Fromアドレスには、実際に存在するメールアドレスを指定してください。

補足

SMTPサーバに一般のプロバイダのサーバを指定している場合、プロバイダによっては、スパムメール対策のため、存在しないメールアドレスからのメールを、破棄する場合があります

対処6

以下のエラーメッセージが出力されていた場合は、対処6の対処方法を実施してください。

エラーメッセージ

MpAosfB: エラー: 3058: SMTPサーバからエラーが返答されました。Fromアドレスと送信先アドレスが正しいか確認してください。理由に表示されるコードおよびメッセージを、SMTPサーバの管理者に問い合わせ、対処してください。サーバ名:xxxx 理由:550 5.7.1 <xxxx@xxxx.xxx> ... Relaying denied. IP name lookup failed [XXX.XXX.XXX.XXX]

確認ポイント

[アクション定義]ダイアログの[メール]タブの[宛先リスト]に指定しているアドレスは、SMTPサーバより送信許可されているアドレスかどうかを確認してください。また、SMTPサーバが、POP認証を必要とするSMTPサーバかどうかを確認してください。

原因

SMTPサーバから、メール送信を拒否されています。

また、V10.0L10/10.0以前では、メール送信のアクションは、POP認証(POP before SMTP)をサポートしていません。

対処方法

拒否された原因について、SMTPサーバの管理者にお問い合わせください。

V10.0L10/10.0以前の場合、メール送信のアクションでは、POP認証を必要としないSMTPサーバを使用してください。

対処7

確認ポイント

Fromアドレスにエラーメールが届いていませんか。

対処方法

メールの送信経路の途中でエラーが発生、またはメール送信が拒否されたなどの場合、Fromアドレスに指定したメールアドレスに、発生したエラーの内容が通知されます。エラーの内容に従って対処してください。

対処8

確認ポイント

メールの宛先に定義したメールアドレスは、間違っていないですか。

対処方法

メールの宛先に定義したメールアドレスが間違っていないか、大文字/小文字の違いなど、スペルをもう一度確認してください。

対処9

確認ポイント

メールの宛先は、社外のメールアドレスですか。

対処方法

社外発信権限が必要である運用の場合、社外へメール送信するときには、Fromアドレスに、社外発信権限があるメールアドレスを指定してください。

対処10

以下のエラーメッセージが出力されている場合は、対処10の対処方法を実施してください。

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー: 3053: SMTPサーバとの通信処理でエラーが発生しました。サーバ名:xxxx 理由:553 sorry, that domain isn't in my list of allowed rcpthosts (#5.7.1)
```

確認ポイント

SMTPサーバが、POP認証を必要とするSMTPサーバか確認してください。

POP認証が必要なSMTPサーバで、認証されていない場合に、上記のエラーメッセージが出力される場合があります。

対処方法

- ・ V10.0L10/10.0以前

POP認証はサポートしていません。POP認証の不要なSMTPサーバを指定してください。

- ・ V10.0L20/10.1以降

POP認証をサポートしています。[アクション環境設定]ダイアログボックスの[メール]タブから[送信メールサーバ]ダイアログボックスを開き、認証のための情報 (POP3サーバ名、アカウント名、パスワード)を設定してください。

対処11

確認ポイント

V10.0L20以降、または10.1以降の場合、POP認証用の定義をしていませんか。

対処方法

POP認証用のアカウント名、パスワードに間違いがないか確認し、正しいものを定義してください。

対処12

確認ポイント

SMTPサーバは動作していますか。

対処方法

SMTPサーバが正常動作しているか確認してください。SMTPサーバが停止している場合は起動し、メール送信を行ってください。

対処13

確認ポイント

メール送信元とSMTPサーバの間にfirewallが設定されていませんか。

対処方法

servicesファイルに記述されているsmtpのポート番号での通信が可能になるように、firewallを設定してください。

または、firewallが設定されていないSMTPサーバを指定してください。

対処14

確認ポイント

[アクション環境設定]ダイアログボックスの[メール]タブにて、SMTPサーバ名、Fromアドレスが設定されているか確認してください。

V10.0L20以降、または、10.1以降で、POP認証が必要なSMTPサーバを使用している場合は、POP認証用のアカウント、パスワードが設定されているか確認してください。

対処方法

SMTPサーバ名、Fromアドレスに正しいものを設定してください。

V10.0L20以降、または、10.1以降で、POP認証が必要なSMTPサーバを使用している場合は、POP認証用のアカウント、パスワードに正しいものを設定してください。

対処15

エラーメッセージ

MpAosfB: エラー: 3058: SMTPサーバからエラーが返答されました。Fromアドレスと送信先アドレスが正しいか確認してください。理由に表示されるコードおよびメッセージを、SMTPサーバの管理者に問い合わせ、対処してください。サーバ名:xxxx 理由:550 5.7.1 <xxxx@xxx.xxx>... Relaying denied:Use POP before SMTP or SMTP-AUTH

確認ポイント

POP認証、または、SMTP認証が必要なSMTPサーバを指定していませんか。

原因

SMTP認証はサポートしていません。

また、V10.0L10/10.0以前では、POP認証(POP before SMTP)をサポートしていません。

対処方法

SMTP認証を必要としないSMTPサーバを指定してください。

また、V10.0L10/10.0以前の場合、POP認証を必要としないSMTPサーバを使用してください。

対処16

エラーメッセージ

```
MpAosfB: ERROR: 3053: SMTPサーバとの通信処理でエラーが発生しました。サーバ名:xxxxx 理由:Success
```

確認ポイント

メールサーバの負荷が高い状況ではありませんか。

原因

メールサーバの負荷が高いため、送信メールのデータが受信されませんでした。

対処方法

メールサーバが高負荷にならないよう、メールアクションの定義を見直してください。

8.1.9 アクションが実行されない(音声通知)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

Solaris版、HP-UX版、AIX版およびLinux版では、PCクライアントだけにメッセージが表示されます。

対処1

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー: 4011: 指定されたファイルは存在しません。ファイル: xxxxx
```

確認ポイント1

WAVファイル名がフルパスで記述されているか確認してください。

対処方法

WAVファイル名は、フルパスで定義してください。

確認ポイント2

WAVファイル名のスペルが正しいか確認してください。

対処方法

正しいWAVファイルを指定してください。

確認ポイント3

Windows版V10.0L10以降、またはSolaris版10.0以降のPCクライアントの場合、「アプリケーションの追加と削除」で音声合成エンジンがインストールされているか確認してください。

対処方法

音声合成エンジンをインストールしてください。

対処2

エラーメッセージ

MpAosfB: エラー: 4205: 有効な音声合成エンジンがインストールされていません。

確認ポイント

V10.0L10以降の場合、SAPI4.0の音声合成エンジンを使用していますか。

原因

SAPI4.0以外の音声合成エンジンには対応していません。

対処方法

SAPI4.0の音声合成エンジンをインストールしてください。

※Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE/Windows XP においても、SAPI4.0の音声合成エンジンをインストールしてください。

対処3

日本語メッセージの読み上げが英語で行われる。

確認ポイント

インストールされているSAPI対応辞書が日本語のものであるか確認してください。

原因

インストールされたSAPI対応の辞書が英語版のためです。

対処方法

日本語のSAPI対応辞書をインストールしてください。

8.1.10 アクションが実行されない(メッセージ監視)

メッセージ監視アクション型スクリプトが実行されない。

エラーメッセージ

- V10.0L21、10.1以前

```
MpScsv: 警告: 1053: メッセージ監視アクションスクリプトでエラーが発生しました。(プロシジャ名=xxxx,詳細コード=%2)
```

- V11.0L10、11.0以降

```
MpScsv: 警告: 1053: メッセージ監視アクションスクリプトでエラーが発生しました。(プロシジャ名=xxxx,詳細コード=%2)
MpScsv: 警告: 1063: 定義したプロシジャ名が登録されていないか存在しないコマンド(xxxx)が呼び出されました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - HP-UX版:10.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

目的のスクリプトが登録されていますか。

対処方法

以下のスクリプト管理コマンドにより、目的のスクリプトが登録されているか確認してください。

- [UNIX版]

```
/opt/FJSSvc/bin/mpscsctl
```

- [Windows版]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpsc¥bin¥mpscsctl
```

目的のスクリプトが登録されていない場合は、mpscsctlコマンドにてスクリプトの登録を行ってください。mpscsctlコマンドについては、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

V10.0L20/10.1以降は以下の方法でも対処できます。

Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]—[スクリプト](または[インテリジェントサービス])—[スクリプトの管理]を選択して、[スクリプト管理]ダイアログを起動し、目的のスクリプトが登録されているか確認してください。

目的のスクリプトが登録されていない場合は[スクリプト管理]ダイアログにてスクリプトの登録をしてください。

対処2

確認ポイント

登録済みスクリプトが適用されていますか。

対処方法

運用管理サーバの場合、以下のスクリプト管理コマンドで即時適用を行ってください。

- [UNIX版]

```
/opt/FJSVssc/bin/mpscsctl -r
```

- [Windows版]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpsc¥bin¥mpscsctl -r
```

mpscsctlコマンドについては、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

V10.0L20/10.1以降は以下の方法でも対処できます。

運用管理サーバの場合、Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューの[ポリシーの定義]から[スクリプト](または[インテリジェントサービス])-[スクリプトの管理]を選択して[スクリプト管理]ダイアログを起動し、[OK]ボタンを押して即時適用をしてください。

運用管理サーバ以外の場合、該当システムに対し、スクリプトのポリシー設定・配付を行ってください。配付の際には即時適用を行ってください。

対処3

確認ポイント

イベント監視の条件定義に定義したプロシージャ名に誤りはありませんか。

対処方法

エラーメッセージのxxxxに示されたプロシージャ名がメッセージ監視タブに定義したプロシージャ名と同じである場合、それがスクリプト内に記述した名前と同じであるか確認してください。

対処4

確認ポイント

登録されたスクリプトの記述内容に誤りはありませんか。

対処方法

サンプルスクリプトの格納ディレクトリで下記コマンドを実行し、登録されているスクリプトに誤りがないか確認してください。

- 格納ディレクトリ

```
[UNIX版]:/etc/opt/FJSVssc/sample  
[Windows版]:Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpsc¥sample
```

- コマンド

```
swctclsh scProcChk.swt
```

これによりエラーメッセージが出力される場合、登録済みのスクリプトのいずれかにエラーがあり、該当スクリプトは呼び出しができません。エラーメッセージの内容に従ってスクリプトを修正してください。

- エラーメッセージの出力形式

<1行目> どのような文法エラーになったかを知らせるメッセージが出力されます。
<2行目> while executing
<3行目> "文法エラーになった行のテキスト"が出力されます。
<4行目> (file "文法エラーになったスクリプトファイル名" line <文法エラーになった箇所の行番号>)が出力されます。
<5行目> invoked from within

対処5

確認ポイント

ライブラリ型スクリプトのプロシジャ名に誤りはありませんか。

原因

登録されたライブラリ型スクリプトのプロシジャ名が誤っているか、そのプロシジャの呼び出し元に記述されたプロシジャ名が誤っている可能性があります。

対処方法

登録されたプロシジャ名と呼び出し元に記述された名前が一致していることを確認してください。

対処6

確認ポイント

存在しないコマンドや制御文を呼び出していないですか。

対処方法

コマンドや制御文のスペルミスなど、存在しないコマンド名や制御文が記述されていないか確認してください。

対処7

確認ポイント

運用管理サーバで編集するスクリプトファイルの文字コードは、運用管理サーバの文字コードと一致していますか。

原因

運用管理サーバの文字コードと異なる文字コードでスクリプトを編集しています。

対処方法

運用管理サーバで編集するスクリプトファイルの文字コードは、変更せずに運用管理サーバと同じにしてください。

8.1.11 アクションが実行されない(SNMPトラップ)

エラーメッセージ

MpAosfB: エラー: 1082: DLL (mpsnmp.dll) の (NWsnmpTrapSend) でエラーが発生しました。理由: -13

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降

- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

[メッセージをトラップで送信する]を有効にしているか、およびSNMPトラップで送信するデータの長さが2048バイトを超えていないかを確認してください。

原因

SNMPトラップで送信可能なデータの長さは2048バイトまでとなっています。イベント監視で扱えるメッセージの長さも2048バイトまでとなっているため、メッセージによってはトラップ送信に必要な情報を付加すると、トラップで送信可能なデータ長を超えるため送信できません。

対処方法

メッセージが通知されるイベントを特定しトラップ通知を抑止するか、イベント監視の条件定義で送信するトラップメッセージを固定にしてください。

備考

イベントの特定には、mpaosactrevコマンドやopamsgrevコマンドが利用できます。

8.1.12 監視対象のアプリケーションログファイルのメッセージに対するアクションが実行されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Windows for Itanium版 V12.0L10～V13.3.0
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
 - Linux for Itanium版:V12.0L10～V13.3.0
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

以下の2つの条件に当てはまりますか。

- Solaris版/HP-UX版/AIX版/Linux版のどれかの被監視システムにおいて、監視対象のアプリケーションログファイルのメッセージを、[イベント監視の条件定義]で定義している。
- メッセージテキストの特定条件を、「\$」(行の末尾を表す正規表現)を使用して定義している。

原因

Solaris版/HP-UX版/AIX版/Linux版/Linux for Itanium版のSystemwalker Centric Managerにおいて、監視対象ログファイルに出力されたメッセージテキストの最後には改行が付きます。そのため、このメッセージテキストをイベント監視の条件定義で「\$」(行の末尾を表す正規表現)を使用して特定する場合、「\$」の前に改行を表す定義が無いと不一致として処理されます。

対処方法

「\$」の前に「.」(改行を含む任意の1文字を表す正規表現)を挿入してください。

監視対象ログファイルに出力された「MESSAGE」を特定する場合の定義例

```
MESSAGE.$
```

8.2 その他の自動アクションに関するトラブルシューティング

8.2.1 意図しないアクションが実行される

アクションを実行する時間帯(アクション条件の時間)を設定しているが、条件の時間帯の範囲外でアクションが実行された。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.0以降
 - HP-UX版:10.0以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

発生したメッセージが、イベント監視の条件定義で、複数の行に一致していないか確認してください。複数の行に一致している場合、最初に一致した定義行よりも下で一致した行において、[アクション定義]画面の該当アクションのタブで、実行方法の指定に“常時実行”と設定されていないか確認してください。

原因

最初に一致した定義行よりも下で一致した行において、[アクション定義]画面の該当アクションのタブで、実行方法の指定に“常時実行”と設定されている場合、“常時実行”と設定されたアクションが実行されます。また、この場合注意が必要なのは、ある定義行でSystemwalker スクリプトによりメッセージを編集したとしても、ほかの行では編集前のメッセージと比較されることです。

対処方法

複数の定義行でアクション実行されることのないよう、イベント監視の条件定義を見直してください。

ポイント

- イベント監視の条件定義の簡易チェックツール

V10.0L20以降、10.1以降の場合は、以下の簡易チェックツールを使用することにより、発生したイベントが、イベント監視の条件定義のどの行と一致したか確認することができます。また、意図する定義行と一致しなかった原因を確認することができます。

[Windows 98/Windows Meの場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpaosfsv¥bin¥mpaosevchk.exe
```

[Windows NT/Windows 2000/Windows XP/Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥mpaosfsv¥bin¥mpaosevchk.exe
```

詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

— V10.0L20/10.1～V13.2.0

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“イベント監視の条件定義の簡易チェックツールを使用する”

— V13.3.0以降

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“イベント監視の条件定義を確認する”

または、

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”の“イベント監視の条件定義を確認する”

Windows版V5.0L10～V10.0L10、およびSolaris版5.0～10.0については、Rescue、Supportdeskwebで簡易チェックツールを公開しています。そちらより取得して確認してください。

・アクション実行履歴の表示コマンド

V11.0L10以降、V11.0以降の場合は、以下のアクション実行履歴の表示コマンドを使用し、アクション実行ログから、アクションが実行される契機となったメッセージ、およびイベント監視の条件定義の一致行を確認することができます。

— [Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥mpaosfsv¥bin¥mpaosactrev
```

— [UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVfwaos/usr/bin/mpaosactrev
```

対処2

確認ポイント

「ログ格納」を“しない”と定義しているメッセージに対し、アクションを定義していませんか。

原因

「ログ格納」を“しない”と定義している場合、発生したメッセージは、[監視イベント一覧]、および、[メッセージ一覧]の画面に表示されません。そのため、アクションが実行されたときに、アクションを実行する契機となったメッセージを、画面で確認することができません。

対処方法

アクションを実行するよう定義した場合は、「ログ格納」を“する”と定義してください。

対処3

確認ポイント

アクション条件の時間帯を設定していますか。

イベント発生元の時刻と、アクションを実行するサーバの時刻が一致していますか。

対処方法

イベント発生元の時刻と、アクションを実行するサーバの時刻を一致させてください。

対処4

確認ポイント

アクションの保存を行っていませんか。

原因

[アクション環境設定]画面－[動作設定]で[サービス再起動時に異常終了状態のアクションを実行する]を選択している場合、自動運用支援サービス(MpAosfB)の起動時に、異常終了していたアクションが再実行されます。

対処方法

[アクション環境設定]画面－[動作設定]で[サービス再起動時に異常終了状態のアクションを実行する]を解除するか、[アクション管理]画面で異常終了したアクションを削除してください。

対処5

確認ポイント

イベント監視の条件定義は反映されていますか。

原因

aseadef([イベント監視の条件定義]のCSV読み込みコマンド)を-uオプションを指定しないで実行した場合、画面上は新しい定義が表示されますが、処理を行なうプロセス側で定義の反映が行なわれていません。

対処方法

Systemwalkerを再起動してください。または、イベント監視の条件定義を直ちに変更する"-u"オプションを指定して、再度コマンドを実行してください。

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

8.2.2 アクションが大量に実行される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － HP-UX版:5.1以降
 - － AIX版:10.0以降
 - － Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - － Windows版:V10.0L20以降
 - － Solaris版:10.1以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

イベント監視の条件定義を確認してください。

対処1

確認ポイント

すべてのメッセージを拾うような定義に対し、アクションを定義していないか確認してください。

対処方法

定義を見直してください。

V10.0L10/10.0以降の場合は、アクション環境設定-[動作設定]で同一アクションの抑止を設定できます。必要に応じて設定してください。

同一アクションの抑止についての詳細は、“”Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“同一アクションの実行を抑止する”で確認してください。

対処2

確認ポイント

リモートコマンドや、アプリケーション起動のアクション定義で、パラメタに%MSG変数を用いて定義していないか確認してください。

原因

パラメタに%MSG変数を用いると、イベント内容をコマンドや、アプリケーションに渡すことができます。

対処方法

コマンドやアプリケーションが、パラメタで渡されたイベント内容を、Windowsのイベントログや、UNIXシステムのsyslogに出力するような構造にしている場合、アクションの実行がループすることがあります。監視する条件を見直してください。

対処3

確認ポイント

メッセージが発生したサーバから、運用管理サーバに通知されるまでの間に、経由するサーバで、同じアクションを定義していないか確認してください。

原因

メッセージが通過するサーバごとにアクションを定義している場合、発生したメッセージが通過する複数のサーバでアクションを実行することになります。

対処方法

必要なサーバでアクションを実行するよう、各サーバの定義を見直してください。

8.2.3 音声通知のアクションが止まらない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

音声通知のアクションで、繰り返し回数に0を指定していませんか。

原因

音声通知の繰り返し回数に0を指定した場合、無限回繰り返します。

対処方法

繰り返し回数に、0以外の値を指定してください。

備考

音声通知のアクションを停止する方法として、以下があります。

- アクション管理画面から、対象の音声通知アクションを削除する。
- Mp_SpActコマンドを実行する。(音声通知を依頼したサーバで実行)

[Windowsの場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥bin¥Mp_SpAct
```

[Solarisの場合]

```
/opt/systemwalker/bin¥Mp_SpAct
```

※実行中のアクションのみに有効

- Mp_SpSndコマンドを実行する。(音声通知が実行されているクライアントで実行)

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥bin¥Mp_SpAct
```

※実行中のアクションのみに有効

8.2.4 ポップアップメッセージが遅延する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

ポップアップメッセージの宛先を、多数定義していませんか。

原因

ポップアップメッセージは、定義されている宛先に対し、1つずつ順番に通知します。宛先が多数定義されている場合、宛先リストの後方にある宛先に通知されるのが遅れるために発生します。

対処方法

通知したい宛先を絞り込んでください。

対処2

確認ポイント

通知先を複数指定している場合、すべての通知先のコンピュータと通信できる状態にあるか確認してください。

ポップアップメッセージの通知先が複数指定されている場合、指定されている順番に通知を行います。通知先のコンピュータと通信ができない場合、タイムアウトに時間がかかるため、次の通知先へのポップアップメッセージの表示が遅れることがあります。

対処方法

通知先に指定しているコンピュータすべてを通信できる状態にしてください。

または、通信できない状態であるコンピュータをアクション定義の通知先から削除してください。

8.2.5 アクション環境設定、監視ログファイル設定、メール連携環境設定が意図しないうちに更新される、または、初期状態にもどる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1(V11.0L10/11.0以降の場合)

確認ポイント

V11.0L10/11.0 以降の場合、イベント監視の条件定義画面メニューの「ポリシー配付の対象定義」にて、アクション環境設定、監視ログファイル設定、またはメール連携環境設定をポリシー配付対象にしていませんか。

原因

アクション環境設定、監視ログファイル設定、メール連携環境設定がポリシー配付対象にしていたため、各設定をポリシー定義していなくても配付されました。

対処方法

定義の変更をしない設定は、ポリシー配付の対象からはずしてください。

対処2(V11.0L10/11.0以前の場合)

確認ポイント

[ポリシー配付状況]画面のツリービューにおいて、“配付済み(成功)”配下の“自動運用支援”を選択し、対象のノードに対して“イベント監視の条件”のポリシー配付を行っていないか確認してください。

イベント定義のポリシー配付では、以下の定義が配付されます。

- イベント監視の条件定義
- アクション環境設定(※)
- 監視ログファイル設定(※)
- メール連携環境設定(※)

※V10.0L20、V10.0L21および10.1では、デフォルト定義を変更した場合のみ配付されます。

V11.0L10および11.0以降では、[イベント監視の条件定義]画面メニューの"ポリシー配付の対象定義"で選択した定義のみ配付されます。

対処方法

対象のサーバ自身のアクション環境設定定義を再度定義してください。サーバ自身の定義を更新するために、[アクション環境設定]画面は、以下の方法で起動してください。

- [アクション環境設定]画面起動方法
[システム監視設定]画面を対象のサーバに対して起動し、[アクション環境設定]ボタンを押下します。

8.2.6 大量に溜まっているアクションを一括削除したい

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

- イベントログ出力、アプリケーション起動、リモートコマンド、SNMPトラップの場合
Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

- ポケットベル、メール、ポップアップメッセージ、音声通知の場合

[アクション管理]画面より、“実行待ち”のアクションを削除してください。または、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

また、V10.0L20および10.1以降の場合は、mpaosmentコマンドを使用してアクションを削除することもできます。コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

なお、V10.0L20および10.1以降では、アクション環境設定定義において、アクションの保存を行うよう設定している場合はSystemwalker Centric Managerの再起動を行っても、アクションは削除されません。アクションの保存を行わないよう設定した後、Systemwalker Centric Managerの再起動を行ってください。

8.2.7 メール送信時に半角カナ文字および記号が全角文字に変換される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

確認ポイント

メール通知に、半角カナ文字を設定していませんか。

原因

半角カナ文字および記号(「」、・、°の記号を含む)は送信できない場合があるため、全角文字に変換する仕様です。

対処方法

半角カナ文字および記号の使用を見直してください。

8.2.8 イベントが発生してからアクションの実行までに時間がかかる

対処1

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

シスログ、イベントログ、監視ログファイルを確認し、イベントが連続で発生していないか確認してください。また、下位サーバから連続してメッセージが通知されている可能性もあるため、下位サーバでも同様に確認してください。

原因

音声通知や、ポケットベル通知などのアクションは、アクションの実行が終了するまでに時間がかかります。実行中のアクションが終了する前に次のイベントが発生した場合、アクションが実行待ち状態で溜まります。そのため、イベント発生よりも遅れてアクションが実行されます。

対処方法

- イベント監視の条件定義を見直し、必要なイベントに対してのみアクションを実行するように定義してください。
- 音声通知の繰り返し回数に「無限回」や、大きな値を指定している場合、1回にするなど繰り返し回数を見直してください。
- V10.0L10以降の場合、アクション環境設定画面の動作設定タブにて、アクションのリトライ回数、リトライ間隔が必要最低限の回数/間隔になるよう見直してください。
- V11.0L10以降の場合、アクション実行履歴コマンド(mpaosactrev)を提供しています。コマンドの出力結果では、アクションの契機となったイベントが分かります。不要なイベントに対してアクションが実行されていないか確認し、定義内容を見直してください。

対処2

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

ポケットベル・ポップアップ・音声通知アクションの実行先に複数のホストを指定していませんか。その中にアクション実行サービスが起動していないホストを指定していませんか。また、ファイアウォール等によるアクション実行先との通信ができない状態ではありませんか。

アクション実行サービス名: SystemWalker MpAosfX

原因

アクション実行先に複数指定している場合、1つずつ順番にアクションを実行しています。途中でマシンが起動していない等、アクション実行サービスへの通信ができない場合、タイムアウトエラーに時間がかかります。そのため、次の実行先へのアクションが遅れることがあります。

対処方法

- アクションの実行先に指定しているコンピュータすべてにおいて、アクション実行サービスを起動する、またはファイアウォールの設定を見直し、アクション実行先との通信を可能にしてください。
- アクション実行サービスを起動していないコンピュータをアクションの実行先から削除してください。

8.2.9 アクション管理画面が起動できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降

- Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

実行待ちのアクションが大量に存在する状態ですか。

- イベント監視の条件定義を確認し、アクションを実行する契機となるイベントが大量に発生していないか確認してください。
- V11.0以降の場合、アクション実行履歴コマンド(mpaosactrev)を提供しています。コマンドの出力結果では、アクションの契機となったイベントを確認することができます。

原因

実行待ちのアクションが大量に存在する場合、アクション管理画面からの接続を受け付けるのに時間がかかる場合があります。

対処方法

“大量に溜まっているアクションを一括削除したい”を参照し、アクションを削除してください。

8.2.10 アクション管理画面から、実行中のメールアクションが削除できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ネットワークに障害が発生していませんか。

または、SMTPサーバ側で異常が発生していませんか。

原因

メール送信中に、SMTPサーバとの通信が切断された可能性があります。

対処方法

SMTPサーバ側で異常が発生している場合、異常を取り除いてください。その後、Systemwalkerを再起動してください。

8.2.11 %HOSTなどの置き換え文字が置換されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

- HP-UX版:5.1以降
- AIX版:10.0以降
- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

置き換え文字の前に、半角スペースがありますか。

原因

%HOSTなどの置き換え文字の前に半角スペースがない場合、置換されません。

対処方法

置き換え文字の前に、半角スペースを入れて定義してください。

8.2.12 メール送信者欄の日本語が文字化けする

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V13.0.0
 - Solaris版:5.03～V13.0.0
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10～V13.0.0
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20～V13.0.0
 - Solaris版:10.1～V13.0.0
 - Linux版:V11.0L10～V13.0.0

確認ポイント

メールの[Subject]または[本文]が、英数字だけで構成されていませんか。

原因

メールの[Subject]または[本文]の文字列中に日本語が含まれていない場合、メールヘッダの[charset]には[us-ascii]が設定されます。

対処方法

[Subject]または[本文]に日本語を含む文字列を指定してください。

8.2.13 メール送信時、メールの表題(件名)に空白が入ってしまう

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

メールの規約(RFC規約)により、76バイトを超える場合、「改行+半角空白」を付加します。

対処方法

メールによって処理が異なりますので、特に対処は必要ありません。同じ定義をしても発生する／しないがあります。

76バイトとは、Systemwalkerのアクション定義に設定した「メールの表題」の文字列の長さではなく、メール処理における内部データ(ヘッダ情報)の長さになります。

第9章 イベント監視関連

9.1 [システム監視設定]画面に関するトラブルシューティング

9.1.1 [システム監視設定]画面で、運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバへの接続に失敗する

システム監視設定画面を起動し、ホスト名、ユーザ名、パスワードを入力し、運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバに接続しようとする、エラーメッセージが表示され、接続できないことがある。

エラーメッセージ

```
認証処理に失敗しました。詳細コード:%1,%2
```

[可変情報]

%1:ACLマネージャのエラーコード

%2:ACLマネージャの詳細コード

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1(「詳細コード:3, 0」と表示される場合)

確認ポイント

- [ホスト名]に指定したコンピュータに、運用管理サーバ、部門管理サーバ、または業務サーバがインストールされていますか。
- [ホスト名]に指定したサーバで、ACLマネージャサービス(Systemwalker ACL Manager)が起動していますか。(Windowsの場合)
- [ホスト名]に指定したサーバで、ACLマネージャのデーモン(MpFwsec)が起動していますか。(UNIXの場合)
ACLマネージャのデーモンについて、パスは以下のいずれかになります。
 - Linuxの場合
 - /usr/lib/MpFwsec
 - /usr/lib64/MpFwsec
 - Solarisの場合
 - /usr/lib/MpFwsec
 - /usr/lib/sparcv9/MpFwsec

- ・ システム監視設定画面と接続先サーバの間にファイアウォールがありませんか。

対処方法

- ・ [ホスト名]に指定したコンピュータに、運用管理サーバ、部門管理サーバ、または業務サーバがインストールされていない場合
[ホスト名]には、運用管理サーバ、部門管理サーバ、または業務サーバのホスト名を指定してください。クライアントの監視設定を行う場合は、[システム監視クライアント設定]画面より、設定を行ってください。
- ・ [ホスト名]に指定したサーバで、ACLマネージャサービス(Systemwalker ACL Manager)が起動していない場合(Windowsの場合)または、[ホスト名]に指定したサーバで、ACLマネージャのデーモン(MpFwsec)が起動していない場合 (UNIXの場合)
 - ー [ホスト名]に指定したサーバのservicesファイルに、以下の情報が設定されていることを確認してください。設定されていない場合は、定義を追加し、Systemwalker Centric Managerを起動してください。

```
mpaclmgr      4013/tcp      # Systemwalker ACL Manager
```

- ー システムパラメタ(セマフォ)が適切な値にチューニングされていることを確認してください。システムパラメタのチューニングについては、以下のマニュアルを参照してください。
 - 5.0/5.1
“SystemWalker/CentricMGR 導入手引書”の“運用管理サーバで必要な作業、部門管理サーバで必要な作業”
 - 5.2以降
“SystemWalker/CentricMGR 導入手引書”の“システムパラメタのチューニング”
- ー システム監視設定画面を起動したコンピュータ上のservicesファイルと、[ホスト名]に指定したサーバのservicesファイルで、サービス名“mpaclmgr”のポート番号が一致していることを確認してください。

上記のいずれにも該当しない場合は、保守情報収集ツールにより保守情報を採取し、技術員へ連絡してください。

- ・ システム監視設定画面と接続先サーバの間にファイアウォールがある場合
以下のポート番号が遮断されていないことを確認してください。

```
サービス名: mpaclmgr   ポート番号/プロトコル: 4013/tcp
```

遮断されている場合は、上記ポートを遮断しないようファイアウォールの設定を行ってください。

対処2(「詳細コード:3, 9」と表示される場合)

確認ポイント

ポート番号(mpaclmgr 4013/tcp)が設定されていますか。

対処方法

システム監視設定画面を起動したコンピュータ上のservicesファイルに、以下の情報を定義してください。

```
mpaclmgr      4013/tcp      # Systemwalker ACL Manager
```

対処3(「詳細コード:3, 10」と表示される場合)

確認ポイント

[ホスト名]に指定したホスト名が名前解決されていますか。

対処方法

[ホスト名]に指定しているホスト名をhostsファイルに登録するか、または名前解決できるホスト名を指定してください。

対処4(「詳細コード:11, %2」と表示される場合)

[可変情報]%2: ACLマネージャの詳細コード

確認ポイント

OSにログインできるユーザを指定していますか。

対処方法

[ホスト名]に指定したコンピュータにログインできるユーザ名、パスワードを指定してください。

対処5(「詳細コード:2,3」と表示される場合)

確認ポイント

ホスト名に、運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバのホスト名を指定していますか。

原因

ホスト名に運用管理クライアント/クライアントのホスト名を指定した場合に、発生することがあります。

対処方法

ホスト名には、運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバのホスト名を指定してください。クライアントのシステム監視設定を行う場合は、[クライアント監視設定]メニューから実施してください。

対処6(上記以外の詳細コードが表示される場合)

対処方法

V12.0L10/12.0以降の“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“ACLマネージャのエラーコード、詳細コード一覧”を参照し、各コードの【対処方法】を実施してください。

9.1.2 [システム監視設定]画面でのボタン押下時に、「接続先の定義サーバが終了した可能性があります」と表示される

エラーメッセージ

接続先の定義サーバが終了した可能性があります。(環境定義開始応答の受信に失敗しました。)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

[システム監視設定]画面を表示したWindowsマシン側、または接続先のサーバ側において、ポート「9345/tcp」を使用した通信を抑止する設定(注)が行われていませんか。

注) FirewallやFENCE-G(通信抑止オプション)等の設定が挙げられます。

原因

ポート「9345/tcp」を使用した通信を抑制している場合に発生します。

対処方法

ポート「9345/tcp」を使用した通信を許可してください。

9.1.3 [システム監視設定]画面でのボタン押下時に、「ソケット接続に失敗しました。詳細コード:10104」とポップアップメッセージが表示される

エラーメッセージ

【V10.0L21/10.1以前の場合】

ソケット接続に失敗しました。(詳細コード:10104)
接続先のサービスが起動していない可能性があります。

【V11.0L10/11.0以降の場合】

ソケット接続に失敗しました。(詳細コード:10104)
接続先のサービスが起動していない。または、通信経路に問題のある可能性があります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

システム監視設定[接続先設定]で指定したサーバ側で、サービス/プロセスの動作状況を確認します。

- 接続先のサーバがWindowsサーバの場合
接続先のサーバ側で、サービス"Systemwalker MpOpgui" (V10.0L10以前の場合は"SystemWalker MpOpgui")は動作していますか。
- 接続先のサーバがUNIXサーバの場合
接続のサーバ側で、プロセス"mpstartsv"は動作していますか。

原因

接続先のサーバ側で、確認ポイントに示したサービスまたはプロセスが動作していないことが原因です。

これらが動作していない原因としては、以下が考えられます。

- 接続先のサーバがWindowsサーバの場合

サービス"Systemwalker MpOpgui" (V10.0L10以前の場合は"SystemWalker MpOpgui")のスタートアップの種類が[手動]または[無効]になっている。

- 接続先のサーバがUNIXサーバの場合

- Systemwalker Centric Managerが10.0/V10.0L10以前の場合

Systemwalker Centric Managerのインストール後にOSをリブートした実績が無い。

- Systemwalker Centric Managerの起動スクリプト(注1)を起動抑止した実績がある場合

起動抑止解除後に、OSのリブートまたは以下の[起動手順]に示す手順を行なった実績が無い。

※プロセス"mpstartsv"はコマンド"scentricmgr"では起動しません。

(注1)対象の起動スクリプトを以下に示します。

[Solaris版]

```
/etc/rc2.d/S73opagt.syslog
```

[Linux版]

- 5.2の場合

```
/etc/rc2.d/S04opagt.syslog
/etc/rc3.d/S04opagt.syslog
/etc/rc5.d/S04opagt.syslog
```

- V10.0L10の場合

```
/etc/rc2.d/S00opagt.syslog
/etc/rc3.d/S00opagt.syslog
/etc/rc5.d/S00opagt.syslog
```

- V10.0L20以降の場合(Red Hat Enterprise Linux 6以前の場合)

```
/etc/rc2.d/S11opagt.syslog
/etc/rc3.d/S11opagt.syslog
/etc/rc5.d/S11opagt.syslog
```

- V10.0L20以降の場合(Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合)

以下のSystemdサービスの起動を抑止した実績があるかどうかを確認してください。

```
opagt.syslog.service
```

[HP版]

```
/sbin/rc2.d/S200opagt.syslog
```

[AIX版]

```
/opt/FJSVsagt/etc/script/S73opagt.syslog
```

(/etc/inittabファイルに上記を呼び出すためのエントリ行が登録されています)

[起動手順]

1. プロセス"mpstartsv"を起動します。

上記の(注1)に示した起動スクリプトを、引数"start"を指定して手動で実行する方法(Solaris 10では使用不可)のほか、以下の方法があります。

[Solaris版]

```
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog (10.1以降の場合)
```

[Linux版]

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog start または  
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog (V10.0L20以降の場合)
```

※Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合は、必ず/opt/systemwalker/bin/stropasyslogを実行してください。

[HP版]

```
sh /opt/FJSVsagt/sbin/init.d/opagt.syslog start または  
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog (11.0以降の場合)
```

[AIX版]

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/script/opagt.syslog start または  
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog (11.0以降の場合)
```

2. syslogdにHUPシグナルを通知する。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で確認したプロセスID>
```

対処方法

- 接続先のサーバがWindowsサーバの場合
接続先のサーバ上で、サービス"Systemwalker MpOpgui"を起動してください。
- 接続先のサーバがUNIXサーバの場合
接続先のサーバ上で、原因の[起動手順]に従って、プロセス"mpstartsv"を起動してください。

9.1.4 [システム監視設定]画面でのボタン押下時に、「XXXXXは二重起動できません。他クライアントからの起動を確認してください。」とポップアップメッセージが表示される

エラーメッセージ

```
サーバ環境定義は二重起動できません。他クライアントからの起動を確認してください。  
操作メニュー定義は二重起動できません。他クライアントからの起動を確認してください。  
通信環境定義は二重起動できません。他クライアントからの起動を確認してください。  
監視ログファイル定義は二重起動できません。他クライアントからの起動を確認してください。  
メール連携定義は二重起動できません。他クライアントからの起動を確認してください。  
サーバ間連携定義は二重起動できません。他クライアントからの起動を確認してください。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以前
 - Solaris版:10.0以前

- HP-UX版:10.0以前
- AIX版:10.0以前
- Linux版:V10.0L10以降

対処1

確認ポイント

起動しようとした画面と同じ画面を、ほかのWindows端末で表示していませんか。

原因

起動しようとした画面と同じ画面が、既にほかのWindows端末で表示されているためです。

エラーメッセージにある各画面は、複数のWindows端末から同じサーバに接続して同時に起動することはできません。

対処方法

ほかのWindows端末で表示されている画面を終了してから、再度起動してください。

対処2

確認ポイント

ほかのWindows端末において、起動しようとした画面と同じ画面を表示していないのに、エラーメッセージが表示されていますか。

原因

画面の接続先となるサーバにおいて、画面からの接続状況を管理する情報が、何らかの理由により残存している状態が考えられます。

この情報は、サーバ側で画面とのTCP/IP切断を検知した場合にクリアされます。

しかし、ネットワーク不調や、画面を表示した状態でWindows端末の電源を強制的に切断した場合等に、稀にサーバ側で画面とのTCP/IP切断を検知しないことがあります。

対処方法

画面の接続先となるサーバ側で以下の操作を実施後、再度、画面を起動してください。

<接続先のサーバがWindowsサーバである場合>

接続先のサーバ上で、サービス"SystemWalker MpOpgui"を再起動してください。

<接続先のサーバがUNIXサーバである場合>

接続先のサーバ上で、以下の手順でプロセス"mpstartsv"を再起動してください。

[Solaris版]

1. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を停止します。

```
sh /etc/rc2.d/S73opagt.syslog stop
```

2. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を起動します。

```
sh /etc/rc2.d/S73opagt.syslog start
```

3. 以下のコマンドを実行し、syslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で確認したプロセスID>
```

[HP-UX版]

1. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を停止します。

```
sh /opt/FJSVsagt/sbin/init.d/opagt.syslog stop
```

2. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を起動します。

```
sh /opt/FJSVsagt/sbin/init.d/opagt.syslog stop
```

3. 以下のコマンドを実行し、syslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で確認したプロセスID>
```

[AIX版]

1. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を停止します。

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/script/opagt.syslog stop
```

2. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を起動します。

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/script/opagt.syslog start
```

3. 以下のコマンドを実行し、syslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で確認したプロセスID>
```

[Linux版]

1. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を停止します。

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog stop または  
/opt/systemwalker/bin/stpopasyslog (V10.0L20以降の場合)
```

※Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合は、必ず/opt/systemwalker/bin/stpopasyslogを実行してください。

2. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を起動します。

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog start または  
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog (V10.0L20以降の場合)
```

※Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合は、必ず/opt/systemwalker/bin/stropasyslogを実行してください。

3. 以下を実行します。

【Red Hat Enterprise Linux 6.3 以降】

rsyslogサービスを再起動します。

- Red Hat Enterprise Linux 6の場合

```
service rsyslog restart
```

- Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合

```
systemctl restart rsyslog.service
```

【Red Hat Enterprise Linux 6.0/Red Hat Enterprise Linux 6.1/Red Hat Enterprise Linux 6.2】

rsyslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep rsyslogd  
kill -HUP <上記で確認したプロセスID>
```

【上記以外のLinux】

syslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で確認したプロセスID>
```

注意

- 上記手順1～3の実施により、syslog連携機能も同時に再起動されます。そのため、3の手順が完了するまでの間に発生したsyslogd経由のメッセージは、監視できません。
- syslog連携機能を停止している間にsyslogdとの接続が切断されたことをあらわすメッセージが出力される場合がありますが、3の手順を完了することで復旧しますので、そのメッセージは無視してください。

9.1.5 [システム監視設定]画面でのボタン押下時に、「XXXXX画面はクライアント(YYYYY)により使用中のため、起動できません。」とポップアップメッセージが表示される

エラーメッセージ

サーバ環境定義画面はクライアント(%1)により使用中のため、起動できません。
操作メニュー登録画面はクライアント(%1)により使用中のため、起動できません。
通信環境定義画面はクライアント(%1)により使用中のため、起動できません。
監視ログファイル設定画面はクライアント(%1)により使用中のため、起動できません。
メール連携定義画面はクライアント(%1)により使用中のため、起動できません。
サーバ間連携定義画面はクライアント(%1)により使用中のため、起動できません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

起動しようとした画面と同じ画面を、別のWindows端末(注)で表示していませんか。

(注)エラーメッセージの(%1)の部分に表示されたコンピュータ名を持つ、Windows端末を指します。

原因

起動しようとした画面と同じ画面が、既に別のWindows端末(注)で表示されているためです。

エラーメッセージにある各画面は、複数のWindows端末から同じサーバに接続して同時に起動することはできません。

注)エラーメッセージの(%1)の部分に表示されたコンピュータ名を持つ、Windows端末を指します。

対処方法

別のWindows端末で表示されている画面を終了してから、再度起動してください。

対処2

確認ポイント

エラーメッセージの(%1)の部分に表示されたコンピュータ名を持つWindows端末において、起動しようとした画面と同じ画面を表示していないのに、エラーメッセージが表示されていますか。

原因

画面の接続先となるサーバにおいて、画面からの接続状況を管理する情報が、何らかの理由により残存している状態が考えられます。この情報は、サーバ側で画面とのTCP/IP切断を検知した場合にクリアされます。

しかし、ネットワーク不調や、画面を表示した状態でWindows端末の電源を強制的に切断した場合等に、稀にサーバ側で画面とのTCP/IP切断を検知しないことがあります。

対処方法

画面の接続先となるサーバ側で以下の操作を実施後、再度、画面を起動してください。

<接続先のサーバがWindowsサーバである場合>

接続先のサーバ上で、サービス"Systemwalker MpOpgui"を再起動してください。

<接続先のサーバがUNIXサーバである場合>

接続先のサーバ上で、以下の手順でプロセス"mpstartsv"を再起動してください。

1. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/stpopasyslog
```

2. 以下のコマンドを実行し、"mpstartsv"を起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog
```

3. 以下のコマンドを実行し、syslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で確認したプロセスID>
```

注意

- ・上記手順1～3の実施により、syslog連携機能も同時に再起動されます。そのため、3の手順が完了するまでの間に発生したsyslogd経由のメッセージは、監視できません。
- ・syslog連携機能を停止している間にsyslogdとの接続が切断されたことをあらわすメッセージが出力される場合がありますが、3の手順を完了することで復旧しますので、そのメッセージは無視してください。

9.2 「イベントが表示されない」に関するトラブルシューティング

9.2.1 監視イベントが表示されない(設定を確認する)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:10.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V12.0L10以降

対処1

確認ポイント

Systemwalkerコンソールの設定は正しいですか。

原因

Systemwalkerコンソールの設定に問題があると考えられます。

対処方法

以下の設定を確認してください。

- イベントの絞込みの設定は正しいか
 - a. Systemwalkerコンソールの[イベント]メニューから、[絞り込み条件]を選択します。
→[絞り込み条件]ダイアログボックスが表示されます。
 - b. 絞り込み条件が設定されている場合は、[解除]ボタンをクリックし、設定を解除します。
- イベントが発生したノードに重み付けを設定していないか
 - a. Systemwalkerコンソールの[編集]モードで、[ツリー選択]コンボボックスから、[業務管理]を選択します。

ポイント

.....

業務管理ツリーが複数存在する場合は、[ファイル]メニューから、[監視ツリーの選択]を選択し、[監視ツリーの選択]ダイアログボックスに表示されるツリーから、業務の重み付けを設定するツリーを選択します。

- a. イベントが発生する予定のノードを選択します。
 - b. [オブジェクト]メニューから、[重み付け]を選択します。
→[業務の重み付け]ダイアログボックスが表示されます。
 - c. “業務に影響あり”が選択されている場合は、影響がある重要度が正しく設定されているか確認します。
-
- イベントが発生したノードが、監視ツリーに所属しているか
 - a. Systemwalkerコンソールの[オブジェクト]メニューから[検索]を選択します。
→[オブジェクト検索]ダイアログボックスが表示されます。
 - b. イベントが発生する予定のオブジェクトを検索し、監視ツリー内に所属しているか確認します。

- c. ノードが見つからなければ、業務監視ツリーに[オブジェクト]メニューから[追加]―[ノードの追加]でノードを追加し、再度イベントを発生させて確認します。

注意

ドメイン名付きのホスト名とドメイン名なしのホスト名は、別のノードと認識されます。(“host1”と“host1.fujitsu.com”は、Systemwalkerコンソールのツリー上で、異なるノードとして扱われます。)

対処2

確認ポイント

[イベント監視の条件定義]の設定は正しいですか。

対処方法

イベント監視の条件定義の設定に問題がないか以下の設定を確認してください。

また、イベントトレース機能を使用した結果イベント監視の条件定義の設定に問題と考えられる場合、コマンドを実行したサーバと、その上位サーバで、以下の設定を確認してください。

尚、イベントトレース機能はV10.0L20、10.1以降に提供された機能です。

運用管理サーバの設定

1. スタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]―[環境設定]―[システム監視設定]、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]―[システム監視設定]を選択します。接続先サーバには、設定を確認するサーバを指定し、ユーザ名、パスワードを入力します。
→[システム監視設定]ウィンドウが表示されます。
2. [イベント監視の条件定義]ボタンをクリックします。
→[イベント監視の条件定義]ウィンドウが表示されます。
3. イベントが一致する条件を一覧から選択し、[アクション]メニューから[アクションの設定]を選択します。
→[アクション定義]ダイアログボックスが表示されます。(V13.3.0以降では、[イベント定義/アクション定義]ダイアログボックスが表示されます。)
4. [メッセージ監視]タブを選択し、以下の値が設定されているか確認します。(V13.3.0以降では、[メッセージ監視アクション]タブを選択してください。)

【V5.0L10～V10.0L10の場合】

- ― [ログ格納]: “する”
- ― [重要度の設定]: “警告”以上
- ― [監視イベント種別]: 監視イベント種別に監視対象の種別が設定されているか

【V10.0L21～V13.2.0の場合】

- ― [ログ格納]: “する”
- ― [詳細]ボタンをクリックし、以下の値が設定されているか確認
 - 重要度の設定]: “警告”以上
 - [監視イベント種別を設定する]: 監視対象の種別が設定されているか

【V13.3.0以降の場合】

- ― [ログ格納]: “する”
- ― [詳細]ボタンをクリックし、以下の値が設定されているか確認
 - [重要度の設定]: “通知”以上

- [監視イベント種別を設定する]: 監視対象の種別が設定されているか

部門管理サーバ/業務サーバの設定

1. スタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]—[環境設定]—[システム監視設定]、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]—[システム監視設定]を選択します。接続先サーバには、設定を確認するサーバを指定し、ユーザ名、パスワードを入力します。
→[システム監視設定]ウィンドウが表示されます。
2. [イベント監視の条件定義]ボタンをクリックします。
→[イベント監視の条件定義]ウィンドウが表示されます。
3. イベントが一致する条件を一覧から選択し、[アクション]メニューから[アクションの設定]を選択します。
→[アクション定義]ダイアログボックスが表示されます。
4. [メッセージ監視]タブを選択し、以下の値が設定されているか確認します。

【V5.0L10～V10.0L10の場合】

- [上位システムに送信]: “する”
- [重要度の設定]: “警告”以上
- [監視イベント種別]: 監視イベント種別に監視対象の種別が設定されているか

【V10.0L21～V13.2.0の場合】

- [上位システムに送信]: “する”
- [詳細]ボタンをクリックし、以下の値が設定されているか確認
 - [重要度の設定]: “警告”以上
 - [監視イベント種別を設定する]: 監視対象の種別が設定されているか

【V13.3.0以降の場合】

- [上位システムに送信]: “する”
- [詳細]ボタンをクリックし、以下の値が設定されているか確認
 - [重要度の設定]: “通知”以上
 - [監視イベント種別を設定する]: 監視対象の種別が設定されているか

(監視イベント種別は、下位サーバで設定した種別が、上位サーバで登録されている必要があります。登録されていない場合、運用管理サーバの[サーバ環境定義]ダイアログボックスの[監視イベント種別]にて登録してください。)

ポイント

コリレーションログ機能

V13.1.0以降の場合は、コリレーションログイベントでイベント監視の条件定義を確認することができます。コリレーションログは、実際に受信したイベントがイベント監視の条件定義のどこに一致したか結果が記録されます。イベント監視の条件定義が目的通り設定されているか、コリレーションログで確認してください。

コリレーションログの詳細は、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.1.0～V13.2.0
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“コリレーションログにより確認する”
- V13.3.0以降
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“コリレーションログにより確認する”
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”の“コリレーションログにより確認する”

テスト支援機能

V10.0L10/10.0～V13.0.0の場合は、以下のイベント監視のテスト支援コマンドを使用し、イベント監視の条件定義を確認することができます。

- [Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥mpaosfsv¥bin¥mpaostest
```

- [UNIX版の場合]

```
/opt/FJSVfwaos/usr/bin/mpaostest
```

詳細は、以下のマニュアルを参照してください。

- V10.0L10/10.0
“SystemWalker/CentricMGR 使用手引書 監視機能編”の“イベント監視の条件定義を確認する(テスト支援機能)”
 - V10.0L21/10.1～V13.0.0
“SystemWalker/CentricMGR 使用手引書 監視機能編”の“テスト支援機能を使用する”
-

備考

イベント監視の条件定義における比較処理は、大文字・小文字も区別して行います。

対処3

確認ポイント

情報レベルのイベントですか。

原因

Windowsイベントログで発生した情報レベルのイベントは、Systemwalker Centric Managerでは、重要度が“一般”のメッセージとして処理します。監視イベント一覧に表示させるためには、重要度を“一般”以外に設定する必要があります。

イベント監視の条件定義を設計/確認する手段として、以下のツールがあります。

- イベント監視の条件定義の簡易チェックツール (Systemwalker技術情報ホームページにて公開)
実際の運用前に発生するイベントを想定して設計/確認を行う場合や、実際に運用している環境と異なるマシンで確認する場合に、簡易チェックツールを使用します。
- テスト支援機能 (V10.0L10または10.0以降)
運用前テストや実際の運用時に実機でイベント監視の条件定義の正当性を確認する場合に、テスト支援機能を使用します。

対処方法

イベント監視の条件定義において、重要度を以下の様に設定してください。

【V13.2.0以前】

- “警告”、“重要”、“最重要”のいずれかに設定してください。

【V13.3.0以降】

- “通知”、“警告”、“重要”、“最重要”のいずれかに設定してください。

また、監視イベント種別を任意の文字列に変更している場合は、この監視イベント種別が通知先の運用管理サーバにおいて登録されている必要があります。

対処4

確認ポイント

メッセージ発生元のメッセージ送信先システムの定義は正しいですか。

対処方法

[通信環境定義]ダイアログボックスにあるメッセージ送信先システムの定義内容を確認してください。

- メッセージ送信先システムに定義したホストが意図したホストになっていますか
意図したホストとなっていない場合、正しい定義に変更後、サービスを再起動してください。なお、ホスト名はDNS、hostsファイルにて名前解決されたホスト名を設定してください。
- ネットワーク構成は正しいですか
メッセージ送信先システムに定義したホストに、pingが通るか確認してください。
pingが通らない場合、ネットワーク構成を見直してください。
- 監視サーバと被監視サーバ間にFirewallがありますか
メッセージ発生元のホスト(被監視サーバ)から、メッセージ送信先システムに定義したホスト(監視サーバ)までの間にFirewallが存在するか確認してください。
Firewallが存在する場合は、以下のポートの通信を許可してください。

9294/TCP

※リモートコマンドを使用している場合は、9294/UDPの通信も許可してください。

- メッセージ送信先システムの定義が、ループする定義になっていませんか
メッセージ送信先システムの定義がループする構成となっていると、データがループし、スローダウンが発生します。
この場合は、システム構成(メッセージ送信先システム)を見直してください。

V11.0L10/11.0以降の場合

下記メッセージが出力される場合があります

[Windows版の場合]

MpOpagt: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください

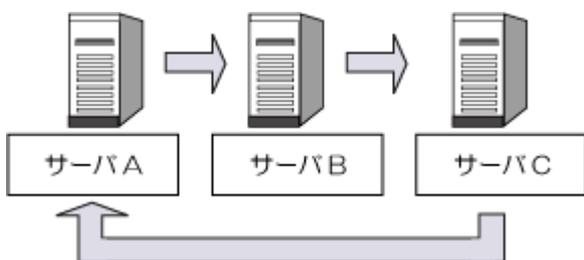
[UNIX版の場合]

opagtd: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください

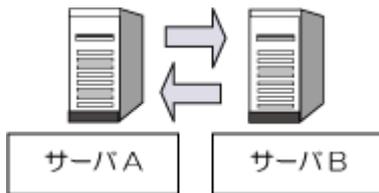
%1:ホスト名

%2:IPアドレス

【例1】



【例2】



←:A、Bの[通信環境定義]-[接続]-[接続詳細]-[中継機能]が“中継する”になっている場合

- IPアドレスは正しいですか

同一システムの異なるIPアドレスを、メッセージ送信先システムに定義していないか確認してください。定義している場合は、1システムに対して1つのIPアドレスに変更してください。通信経路の二重化はサポートされていません。

- 自身のホスト名と、同一ホスト名のシステムが監視システム配下中に既に存在していませんか

同一ホスト名のシステムが複数存在する環境でイベント監視はできません。そのため、メッセージ送信先システムを設定する前に、同一ホスト名のシステムが存在していないか確認してください。既に存在した場合、自身のホスト名を適切なホスト名に設定しなおしてからメッセージ送信先システムを設定してください。

対処5

確認ポイント

先頭通知コラレーションスクリプトからの通知メッセージ自身が、そのスクリプトのプロシジャ名を登録したイベント監視の条件定義の行に該当していないか確認してください。

メッセージがイベント監視の条件定義のどの行に該当するかは、イベント監視の条件定義の簡易チェックツールにより確認できます。

- イベント監視の条件定義の簡易チェックツール

V10.0L20以降、10.1以降の場合は、以下の簡易チェックツールを使用することにより、発生したイベントが、イベント監視の条件定義のどの行と一致したか確認することができます。また、意図する定義行と一致しなかった原因を確認することができます。

[Windows 98/Windows Meの場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpaosfsv¥bin¥mpaosevchk.exe
```

[Windows NT/Windows 2000/Windows XP/Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥mpaosfsv¥bin¥mpaosevchk.exe
```

詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.3.0以降

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“イベント監視の条件定義を確認する”

または、

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”の“イベント監視の条件定義を確認する”

- V13.2.0～V10.0L21/10.1

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“イベント監視の条件定義の簡易チェックツールを使用する”

- V10.0L10/10.0

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“イベント監視の条件定義についての確認”

Windows版V5.0L10～V10.0L10、およびSolaris版5.0～10.0については、Rescue、Supportdeskwebで簡易チェックツールを公開しています。そちらより取得して確認してください。

- 先頭通知コラレーションスクリプト

詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- V5.0L30/5.2
“SystemWalker/CentricMGR 導入手引書”の“先頭通知コラレーション”
- V10.0L10/10.0～V13.0.0
“Systemwalker Centric Manager スクリプトガイド”の“先頭通知コラレーション”
- V13.1.0～V13.2.0
“Systemwalker Centric Manager スクリプトガイド”の“先頭通知コラレーション”
- V13.3.0以降
“Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド”の“先頭通知コラレーション”

原因

スクリプト呼出し定義の誤りにより、先頭通知コラレーションスクリプトからの通知メッセージ自身が再度同じスクリプトでコラレーション処理されています。

対処方法

先頭通知コラレーションスクリプトからの通知メッセージ自身がスクリプト呼出し定義に該当しないように、条件定義または、発行するメッセージを変更してください。

先頭通知コラレーションスクリプトが発行するメッセージの変更は、スクリプトの動作定義パートの「発行イベントテキスト」を変更してください。

対処6

確認ポイント

メッセージ発生元の[通信環境定義]-[接続]-[二次接続要求の回数]が、有限回数に設定されていませんか。

原因

[通信環境定義]-[接続]-[二次接続要求の回数]が有限回数に設定されている場合、メッセージ送信先システムへの接続リトライ処理が、指定回数に達しても接続できないと接続リトライ処理を終了します。この場合、あとで接続不可状態が解消されても接続処理は再開されないため、イベントは送信されません。

ただし、メッセージ発生元のSystemwalker Centric Managerを再起動した場合は、接続処理を再開します。

対処方法

メッセージ発生元の[通信環境定義]-[接続]-[二次接続要求の回数]を「無制限」に設定した後、[通信環境定義]画面終了時の問い合わせ「サービスを再起動しますか？」に対して「はい」を押下して設定変更を有効にしてください。

対処7

確認ポイント

監視不要メッセージを抑止するスクリプトを設定していませんか。

原因

当該イベントが一致するイベント監視の条件定義に、監視不要メッセージを抑止するスクリプトが設定されている場合、当該イベントはSystemwalkerコンソールに表示されません。

対処方法

監視不要メッセージを抑止するスクリプトの設定を解除してください。

詳細については、“Systemwalker Centric Manager スクリプトガイド”または“SystemWalker CentricMGR API・スクリプトガイド”を参照してください。

9.2.2 監視イベントが表示されない(イベントトレース機能を使用した対処方法)

Systemwalkerコンソールに、イベントが表示されない場合は、原因調査、対処のため、以下の操作を行います。

ポイント

ネットワーク関連のイベントの場合

Systemwalkerコンソールに表示されるイベントで、ネットワーク関連のイベントだけが表示されない場合は、“[ネットワーク関連のイベントが表示されない](#)”を参照してください。

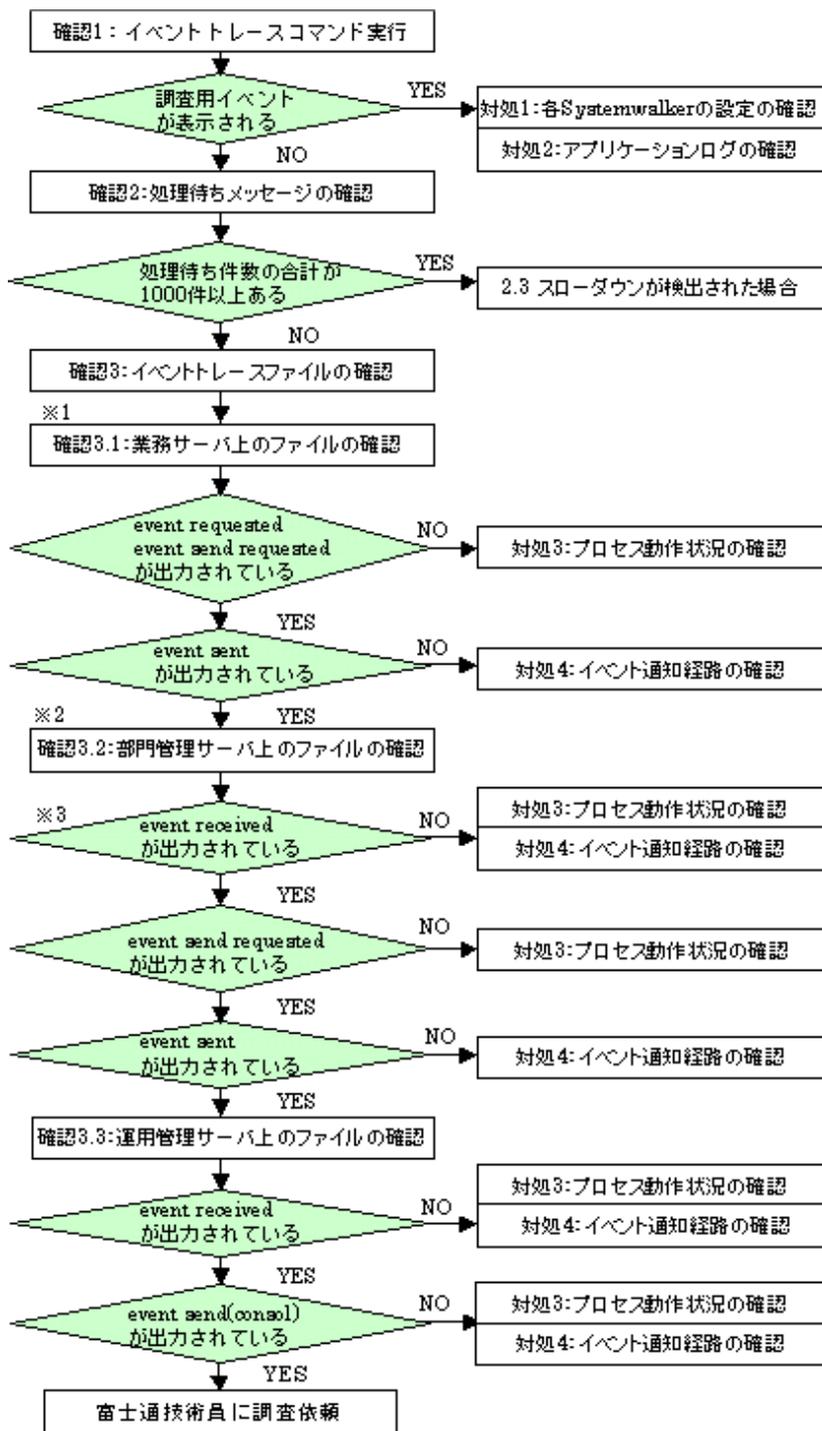
ネットワーク関連のイベントは、Systemwalkerコンソールで、以下の情報をどちらか満たしているイベントです。

- 種別が、“ネットワーク”の場合
 - “UX:MpTrfAgt”、または“UX:MpPmonC”が、メッセージの先頭に表示される場合 (Windows版の場合は、“MpTrfAgt”または“MpPmonC”)
-

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版: 10.1以降

対処フロー図



※1: 業務サーバでコマンドを実行した場合は、ここから確認します。

※2: 部門管理サーバでコマンドを実行した場合は、ここから確認します。

※3: 部門管理サーバでコマンドを実行した場合、本項目は確認不要です。

確認1: イベントトレースコマンド実行

イベントがSystemwalkerコンソールに表示されない場合は、イベントの通知経路が正常か調査するために、以下の操作を行います。

1. 運用管理クライアントで、V10.0L21/10.1以前のバージョンでは[Systemwalkerコンソール 業務監視]または[Systemwalkerコンソール システム監視]を起動します。V11.0L10/11.0以降のバージョンではSystemwalkerコンソールを起動します。

2. Systemwalkerコンソールに、イベントを送ることができていないイベント発生元のサーバで、以下のイベントトレースコマンドを実行し、調査用イベントを送信します。

— [Windows版の場合]

```
mpevttrc
```

— [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpevttrc
```

3. 運用管理クライアントで、以下のメッセージボックス(調査用のイベント)が表示されるか調査します。



4. 以下の対処に進みます。

- 調査用イベントが表示された場合は、“[対処1:各Systemwalkerの設定の確認](#)”、“[対処2:イベントログ\(アプリケーション/システム/セキュリティ/Directory Service/ファイル複製サービス/DNS Server\)の確認](#)”を参照してください。
- 調査用イベントが表示されない場合は、“[確認2:処理待ちメッセージの確認](#)”を参照してください。

注意

調査用のイベントが表示されなかった場合は、対処後に調査用のイベントが表示される場合があります。その場合は、メッセージボックスの時刻を参照し、いつ実行したものかを判断してください。

ポイント

調査用イベントの表示中に、新規に調査用イベントを取得しても、表示中のメッセージ内容は変更されません。メッセージ内容は、画面受信ログファイルに記載されます。

調査用イベントの受信確認をする場合は、運用管理クライアントの画面受信ログファイルを参照してください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥log¥ファイル名
```

ファイル名	説明
cons-s.txt	[システム監視]画面メッセージボックス(最新)
cons-b.txt	[業務監視]画面、[Systemwalkerコンソール]画面メッセージボックス(最新)(※)
cons-s#.txt	[システム監視]画面メッセージボックス(前回の内容)
cons-b#.txt	[業務監視]画面、[Systemwalkerコンソール]画面メッセージボックス(前回の内容)(※)

※ V10.0L21/10.1以前は[システム監視]画面、V11.0L10/11.0 [Systemwalkerコンソール]画面

確認2: 処理待ちメッセージの確認

運用管理サーバで、以下のコマンドを実行し、処理待ちのメッセージ一覧を確認します。

- [Windows版の場合]

```
Mpevquelst
```

- [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpevquelst
```

→機能、発生元ノード、および処理待ち件数が表示されます。

【実行例】

機能	発生元	処理待ち件数
システム監視	nodeA	1
システム監視	nodeB	200
アプリケーション管理	nodeX	3
対処イベント	—	1

計		205

実行結果から、以下の確認作業に進みます。

- 処理待ち件数が、1000以上の場合には、“セルフチェック監視中に、「監視メッセージ・監視イベント通知に遅延が発生しています」と出力される”-“確認3: 出力情報の確認”を参照してください。
- 処理待ち件数が、1000未満の場合には、“確認3: イベントトレースファイルの確認”を参照してください。

確認3: イベントトレースファイルの確認

調査用イベントが表示されない場合は、イベントトレースファイルを参照し、調査用イベントがどこで停止しているか確認します。

イベントトレースファイルは、イベントの発生、中継、上位の各サーバに作成されます。

- 業務サーバで、コマンドを実行した場合
確認3.1から順に確認します。部門管理サーバを設置していない場合は、確認3.2の確認は不要です。
- 部門管理サーバで、コマンドを実行した場合
確認3.2と確認3.3を確認します。
この場合、部門管理サーバ上のファイルで、“event received”は、表示されないため、“event send requested”から確認してください。

イベントトレースファイル

イベントトレースファイル名

イベントトレースファイルは、2世代で管理されます。最新のファイルは、evttrc.txtで、前回の内容は、evttrc#.txtに保存します。

- [Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥log¥evttrc.txt  
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥log¥evttrc#.txt
```

- [Solaris版の場合]

```
/var/opt/FJSVftlc/log/evttrc.txt  
/var/opt/FJSVftlc/log/evttrc#.txt
```

イベントトレースファイルの内容

```
host yy/mm/dd HH:MM:SS Hostname=hostname time=hh:mm:ss function
```

- host
処理ホスト名
- yy/mm/dd HH:MM:SS
テストイベント処理(通過)時間
- Hostname=hostname
テストイベント発生ホスト名(イベントトレースコマンド実行ホスト名)
- time=hh:mm:ss
テストイベント発生時刻
- function
テストイベント処理機能名

テストイベント処理機能名	説明
event requested	テストイベントの受付
event send requested	テストイベント送信待ち(サーバ間)
event sent (送信先ホスト名)	テストイベントの送信完了(サーバ間)
event received	テストイベントの受信(サーバ間)
event sent (console)	テストイベントの監視画面送信完了
event not sent (送信先ホスト名)	送信先の定義ミス テストイベントの未送信完了(上位サーバのバージョンレベルが、下位サーバのバージョンレベルより古い)

正常時のファイル内容例

- 運用管理サーバ(manager)

```
manager 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 event received
manager 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 event send(console)
```

- 部門管理サーバ(servera)

```
servera 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 event received
servera 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 event send requested
servera 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 event sent (manager)
```

- 業務サーバ(serverz)

```
serverz 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 event requested
serverz 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 event send requested
serverz 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 event sent (servera)
```

確認3.1: 業務サーバ上のファイルの確認

業務サーバ上(イベントトレースコマンドを実行したサーバ)で、イベントトレースファイルの内容を確認し、以下のように正常に出力されていない場合のそれぞれの対処に進みます。

- “event requested”、“event send requested”が出力されていない
“[対処3: プロセス動作状況の確認](#)”を参照してください。
- “event sent (送信先ホスト名)”が出力されていない
“[対処4: イベント通知経路の確認](#)”を参照してください。

確認3.2: 部門管理サーバ上のファイルの確認

部門管理サーバを設置している場合は、部門管理サーバ上で、イベントトレースファイルの内容を確認し、正常に出力されていない場合、それぞれの対処に進みます。

- “event received”が出力されていない
“[対処3:プロセス動作状況の確認](#)”を参照してください。
“[対処4:イベント通知経路の確認](#)”を参照してください。
- “event send requested”が出力されていない
“[対処3:プロセス動作状況の確認](#)”を参照してください。
- “event sent (送信先ホスト名)”が出力されていない
“[対処4:イベント通知経路の確認](#)”を参照してください。

確認3.3:運用管理サーバ上のファイルの確認

運用管理サーバ上で、イベントトレースファイルの内容を確認し、正常に出力されていない場合、それぞれの対処に進みます。

- “event received”が出力されていない
“[対処3:プロセス動作状況の確認](#)”を参照してください。
“[対処4:イベント通知経路の確認](#)”を参照してください。
- “event send(console)”が出力されていない
“[対処3:プロセス動作状況の確認](#)”を参照してください。
“[対処4:イベント通知経路の確認](#)”を参照してください。

対処1:各Systemwalkerの設定の確認

調査用イベントが表示された場合は、以下のトラブル項目を実施して対処してください。

- “syslogに出力するメッセージが表示されない(または遅れて表示される)”
- “監視イベントが表示されない(設定を確認する)”

対処2:イベントログ(アプリケーション/システム/セキュリティ/Directory Service/ファイル複製サービス/DNS Server)の確認

Windows版の場合、イベントログがいっぱいになっていると、監視イベントは、発生しません。

イベントビューアを使用してイベントログの容量を確保する、又は、イベントログが更新されるように設定してください。

対処3:プロセス動作状況の確認

Systemwalker Centric Managerのプロセス動作状況の障害が起きていると考えられます。以下の場合、それぞれのサーバでプロセス動作状況を確認します。

- 業務サーバで、“event requested”、“event send requested”が出力されていない場合は、業務サーバで以下のコマンドを実行します。
- 部門管理サーバで、“event received”、“event send requested”が出力されていない場合は、部門管理サーバで以下のコマンドを実行します。
- 運用管理サーバで、“event received”、“event send(console)”が出力されていない場合は、運用管理サーバで以下のコマンドを実行します。

以下の手順で、プロセス動作状況を確認します。

1. プロセス動作状況の確認

問題が発生しているマシン上で、以下のコマンドを実行し、各機能のプロセスの動作状況を確認します。

— [Windows版の場合]

```
mppviewc
```

— [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mppviewc
```

ポイント

プロセスに異常が発生している場合は、機能に対して、以下のように表示されます。

```
>>>> ERROR:Process NOT Found!! : 監視対象プロセス
```

2. システムの復旧

プロセス動作状況の表示コマンドで、異常のプロセスが発見できた場合は、Systemwalker Centric Managerを復旧します。それぞれの対処方法は、“[プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された](#)”を参照してください。

対処4: イベント通知経路の確認

- 業務サーバで、“event sent”が出力されていない場合
 - 上位サーバ(部門管理サーバ、または運用管理サーバ)でmppviewcコマンドを実行して異常プロセスがないか確認します。
 - 業務サーバと上位サーバ間のネットワークの状態(LANなど)が通信可能な状態になっているか確認します。
 - 業務サーバのメッセージ送信先システムの設定を確認してください。
- 部門管理サーバで、“event received”が出力されていない場合
 - 業務サーバと部門管理サーバ間のネットワークの状態(LANなど)が通信可能な状態になっているか確認します。
 - 業務サーバのメッセージ送信先システムの設定が、部門管理サーバを指定しているか確認してください。
- 部門管理サーバで、“event sent”が出力されていない場合
 - 運用管理サーバでmppviewcコマンドを実行して異常プロセスがないか確認します。
 - 部門管理サーバと運用管理サーバ間のネットワークの状態(LANなど)が通信可能な状態になっているか確認します。
 - 部門管理サーバのメッセージ送信先システムの設定を確認してください。
- 運用管理サーバで、“event received”が出力されていない場合
 - 下位サーバと運用管理サーバ間のネットワークの状態(LANなど)が通信可能な状態になっているか確認します。
 - 下位サーバ(部門管理サーバまたは業務サーバ)のメッセージ送信先システムの設定が、運用管理サーバを指定しているか確認してください。
- 運用管理サーバで、“event send(console)”が出力されていない場合
 - Systemwalkerコンソールが起動しているか確認します。
 - 運用管理クライアントと運用管理サーバ間のネットワークの状態(LANなど)が通信可能な状態になっているか確認します。
 - 運用管理クライアントでmppviewcコマンドを実行して異常プロセスがないか確認します。

mppviewcコマンドの詳細については、“[プロセス動作状況の確認方法](#)”を参照してください。

ポイント

イベント通知先の設定方法

上記の条件に当てはまるサーバ上で、以下の設定を確認します。

1. 運用管理クライアントのスタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]—[環境設定]—[システム監視設定]、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]—[システム監視設定]を選択します。
→[システム監視設定[接続先設定]]ダイアログボックスが表示されます。

2. 設定を確認するサーバのホスト名、ユーザ名、パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。
→[システム監視設定]ダイアログボックスが表示されます。
3. [通信環境定義]ボタンをクリックします。
→[通信環境定義]ダイアログボックスが表示されます。
4. [メッセージ送信先システム]タブを選択し、[追加]ボタンをクリックします。
→[メッセージ送信先システム(追加)]ダイアログボックスが表示されます。
5. メッセージ送信先システムに正しく設定されているか確認後、[OK]ボタンをクリックします。(設定に誤りがある場合は、修正してください。)

9.2.3 ネットワーク関連のイベントが表示されない

Systemwalkerコンソールに、SNMPトラップを含むネットワーク関連のイベントが表示されない場合の原因調査、対処方法を説明します。
ネットワーク関連のイベントは、Systemwalkerコンソールで、以下の情報をどちらか満たしているイベントです。

- 種別が、“ネットワーク”の場合
- “UX:MpTrfAgt”、または“UX:MpPmonC”が、メッセージの先頭に表示される場合 (Windows版の場合は、“MpTrfAgt”、または“MpPmonC”)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降

対処1

確認ポイント

ここでの対処方法を実施する前に、プロセス動作状況が正常か確認します。

問題が発生しているコンピュータ上、およびその上位サーバで、以下のコマンドを実行し、各機能のプロセスの動作状況を確認します。

- [Windows版の場合]

```
Mppviewc
```

- [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mppviewc
```

ポイント

ここでは、機能区分略称FS4の以下のプロセスを確認します。プロセスについては、“[機能区分/プロセス名対応一覧](#)”を参照してください。

- ネットワーク管理
- NTC

プロセスに異常が発生している場合は、機能に対して、以下のように表示されます。

```
>>>>> ERROR:Process NOT Found!! : 監視対象プロセス
```

対処方法

実行結果が以下の場合、それぞれの対処に進んでください。

- ・ 異常のプロセスが発見できた場合は、Systemwalker Centric Managerを復旧します。それぞれの対処方法は、“[プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された](#)”を参照してください。
- ・ プロセス異常が発見できなかった場合は、対処2を実施します。

対処2

確認ポイント

トラップ待受ポート(udp/162)の競合が発生していないか確認してください。

対処方法

競合が発生している場合は、以下のように対処してください。

・ [Windows版の場合]

Microsoft SNMP Trap Service経由で、SNMPトラップを受信する他社アプリケーションが動作している場合、Systemwalker Centric Managerのトラップ受信サービスをMicrosoft SNMP Trap Service経由で、トラップ受信できるように以下のコマンドを実行してください。

```
mpmsts ON
```

・ [Solaris版の場合]

Systemwalker Centric Manager以外で、トラップ待受ポート(udp/162)を使用する製品、またはアプリケーションが動作していないか確認し、使用されている場合は停止します。

対処3

対処方法

対処1、対処2で解決しない場合は、以下のトラブル項目を参照し、それぞれ対処してください。

- ・ 運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ、運用管理クライアント、およびクライアントからの監視イベントが表示されない場合
→“[Systemwalker Centric ManagerがインストールされたノードからのSNMPトラップが出力されない](#)”
- ・ 運用管理サーバ、または部門管理サーバの配下にある、Systemwalker Centric Managerがインストールされていないルータ、ハブを含むSNMPエージェントが動作しているネットワーク機器からの監視イベントが表示されない場合
→“[Systemwalker Centric ManagerがインストールされていないノードからのSNMPトラップが出力されない](#)”
- ・ ノード状態の監視対象サーバのシステムがダウンしても、監視イベント一覧に、ノード状態の監視イベント(“ノードとの通信が不可となりました”)が表示されない場合
→“[ノード状態の監視、稼働状態の監視イベントが表示されない](#)”
- ・ しきい値を超えても、該当ノードのしきい値超えイベントが監視イベント一覧に表示されない場合
→“[ネットワーク性能のしきい値超えイベントが表示されない](#)”

9.2.4 ノード状態の監視、稼働状態の監視イベントが表示されない

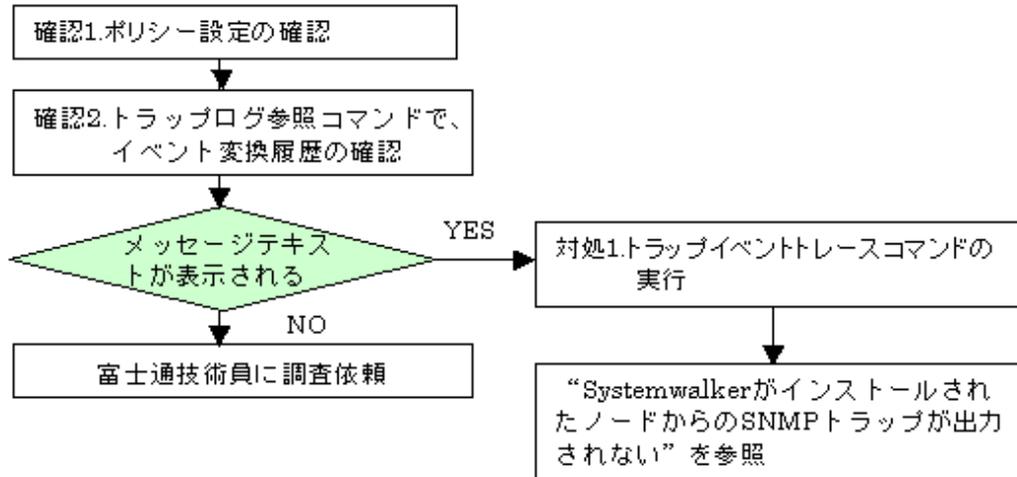
ノード状態の監視対象サーバのシステムがダウンしても、監視イベント一覧に、ノード状態の監視、稼働状態の監視イベント(“ノードとの通信が不可となりました”)が表示されない場合の対処方法について説明します。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降

対処フロー図

対処手順の流れを以下に示します。



確認1:ポリシー設定の確認

ノード状態の監視、稼働状態の監視のポリシーが正しく設定されているか確認します。

ノード状態の監視のポリシーは、以下から設定変更できます。

Systemwalkerコンソールで、[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]—[ノード]—[ノード状態の監視]—[フォルダ]または[ノード]を選択します。

ポリシーの設定の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

確認2:トラップログ参照コマンドで、イベント変換履歴の確認

1. 被監視ノードが所属する管理サーバ上で、以下のトラップログ参照コマンドを実行します。

— [Windows版の場合]

```
mptmpref -n -a 被監視ノードのIPアドレス
```

— [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptmpref -n -a 被監視ノードのIPアドレス
```

2. 以下のメッセージテキストが出力されているか確認します。

出力内容の詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。この出力結果において、“ノード状態の監視”、“稼働状態の監視”の対象ノードのIPアドレスとエージェントアドレスが一致する、または、ホスト名が一致するかを確認してください。(例は、Solaris版です。Windows版は、変換メッセージの先頭の文字列が“UX:”から“AP:”に変わります。)

```
-----  
イベント変換時刻 : 20020405193527.047599+540  
監視イベント種別: ネットワーク  
エージェントアドレス: 10.10.10.10  
ホスト名: servera  
送信元IPアドレス: 10.10.10.1  
変換メッセージ : UX:MpCNapl: ERROR: 102: ノードとの通信が不可となりました。(TRAP agent:10.10.10.10 ... ※任意の文字列)  
-----
```

3. メッセージテキストが出力された場合は、“[対処1:トラップイベントトレースコマンドの実行](#)”を参照してください。

対処1:トラップイベントトレースコマンドの実行

トラップイベントトレースコマンドを実行し、イベント通知経路を調査します。

ポイント

Systemwalker Centric Managerが、以下の運用形態の場合は、“[各運用形態の場合](#)”を参照し、コマンドを実行してください。

- クラスタシステム
- 二重化環境
- 全体監視サーバ インターネット型
- 全体監視サーバ 専用線型
- DMZ

1. 運用管理クライアントで、Systemwalkerコンソールを起動します。
2. 被監視ノードが所属している管理サーバ上で、以下のトラップイベントトレースコマンドを実行し、調査用のイベントを送信します。

— [Windows版の場合]

```
mptprtc -a 被監視ノードのIPアドレス
```

— [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptprtc -a 被監視ノードのIPアドレス
```

— [Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptprtc -a 被監視ノードのIPアドレス
```

3. “[Systemwalker Centric ManagerがインストールされたノードからのSNMPトラップが出力されない](#)”を参照し、トラップイベントトレースコマンド実行後の対処を実施します。

9.2.5 ネットワーク性能のしきい値超えイベントが表示されない

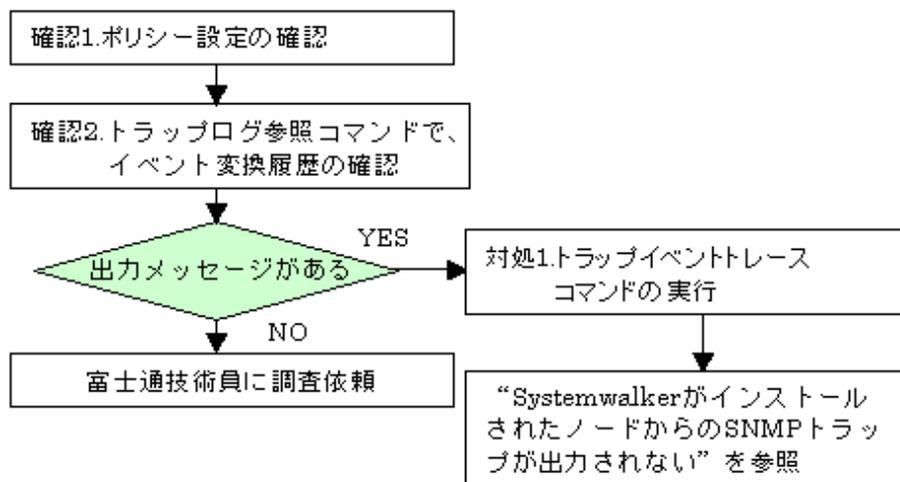
性能監視のノード中心マップやペアノード経路マップ、ヒストリ表示などでしきい値を超えても、該当ノードのしきい値超えイベントが監視イベント一覧に表示されない場合の対処について説明します。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処フロー図

対処手順の流れを以下に示します。



確認1:ポリシー設定の確認

ネットワーク性能の監視のポリシーが正しく設定されているか確認します。

ネットワーク性能の監視のポリシーは、以下から設定変更できます。

Systemwalkerコンソールで、[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]–[ネットワーク性能]–[全体]、[フォルダ]または[ノード]を選択します。

ポリシーの設定の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

確認2:トラップログ参照コマンドで、イベント変換履歴の確認

1. 被監視ノードが所属する管理サーバ上で、以下のトラップログ参照コマンドを実行します。

– [Windows版の場合]

```
mptmpref -n -a 被監視ノードのIPアドレス
```

– [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptmpref -n -a 被監視ノードのIPアドレス
```

2. 以下のメッセージテキストが出力されているか確認します。

監視項目は、しきい値超えが発生した監視項目名が入ります。

また、しきい値はポリシーで設定した値となります。

出力内容の詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。(例は、Solaris版です。Windows版は、変換メッセージの先頭の文字列が“UX:”から“AP:”に変わります。)

```

-----
イベント変換時刻 : 20020405193527.047599+540
監視イベント種別: 性能監視
エージェントアドレス: 10.10.10.10
ホスト名: servera
送信元IPアドレス: 10.10.10.1
変換メッセージ : UX:MpTrfAgt: WARNING: 999: サービスレベル監視において、
監視項目(Percentage of error packets)が、しきい値(30)を上回りました. 現在値
=35.030245, インタフェース番号=2 (TRAP agent:10.10.10.10 ... ※任意の文字
列)
-----

```

3. メッセージテキストが出力された場合は、“[対処1:トラップイベントトレースコマンドの実行](#)”を参照してください。

対処1:トラップイベントトレースコマンドの実行

トラップイベントトレースコマンドを実行し、イベント通知経路を調査します。

ポイント

Systemwalker Centric Managerが、以下の運用形態の場合は、“各運用形態の場合”を参照し、コマンドを実行してください。

- クラスタシステム
 - 二重化環境
 - 全体監視サーバ インターネット型
 - 全体監視サーバ 専用線型
 - DMZ
1. 運用管理クライアントで、Systemwalkerコンソールを起動します。
 2. 被監視ノードが所属している管理サーバ上で、以下のトラップイベントトレースコマンドを実行し、調査用のイベントを送信します。
 - [Windows版の場合]

`mptprtc -a 被監視ノードのIPアドレス`

 - [Solaris版の場合]

`/opt/systemwalker/bin/mptprtc -a 被監視ノードのIPアドレス`
 3. Systemwalker Centric ManagerがインストールされたノードからのSNMPトラップが出力されない”を参照し、トラップイベントトレースコマンド実行後の対処を実施します。

9.2.6 監視イベント一覧画面に特定ホストのメッセージが表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

インストール後にシステムを再起動しましたか。

対処方法

メッセージが通知されない被監視サーバに、Systemwalker Centric Managerをインストールしたあと、被監視サーバのシステムを再起動したか確認してください。システムを再起動していない場合は、再起動を実施してください。

なお、UNIX版10.1以降ではOSの再起動をしなくても監視を始められますので、各バージョンレベルの“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。

対処2

確認ポイント

メッセージ発生元のメッセージ送信先システムの定義は正しいですか。また、メッセージ送信先システムの設定後にサービスの再起動は実施されていますか。

原因

メッセージ送信先システムの定義に問題があると考えられます。また、メッセージ送信先システム設定後、サービスを再起動しないと定義が反映されません。

対処方法

“監視イベントが表示されない(設定を確認する)”を参照し、対処してください。再起動していないのであれば定義を反映するために、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

対処3

確認ポイント

被監視サーバ、監視サーバのservicesファイルの定義は正しいですか。

被監視サーバ、監視サーバで、以下の定義が存在しているか確認してください。

- uxpopt 9294/tcp
- uxpopt 9294/udp

存在していない場合、以下の要因から定義が削除されていることが考えられます。それぞれの原因について対処してください。

対処方法

- インストール前のservicesファイルをコピーしてしまった場合、またはservicesファイルから定義を削除してしまった場合は、servicesファイルを元に戻してください。
- Solaris ではservicesファイルは、/etc/inet/servicesへのリンクですが、Systemwalker Centric Managerのインストール時にリンクが外れている場合があります。これが原因でインストール時に定義が追加されません。以下の手順を実施してください。
 1. Systemwalker Centric Managerをアンインストールします。
 2. servicesファイルを/etc/inet/servicesへのリンクに戻します。
 3. Systemwalker Centric Managerをインストールします。

対処4

確認ポイント

ADJUST、SystemWalker/CharsetMGRがインストールされていますか。

メッセージ送信先システムに定義しているサーバがWindows版で、メッセージ発生元の文字コードがEUCの場合は、メッセージ送信先システムに定義しているサーバ(Windows版)にコード変換機能を導入する必要があります。

ただし、送信先システムに定義されているサーバが、Systemwalker Centric Manager V11.0L10以降の場合は除きます。

対処方法

“syslogに出力するメッセージが表示されない(または遅れて表示される)”を参照して、対処してください。

対処5

確認ポイント

運用管理サーバで以下のエラーメッセージが出力されていませんか。

[Windows版の場合]

- SystemWalker/CentricMGR V5.0L20以前

```
MpOpaddRep: エラー: 0008:The system error occurred. (Detailedcode=30009101,0x00000000)
```

```
MpOpaddRep: エラー: 0004:Failed in MpFwcm_MpCm_AddNode() (-1)
```

- Systemwalker Centric Manager V5.0L30～V11.0L10

```
MpOpaddRep: 警告: 0013:The overlapping node has already been defined.(XXX,YYY)
```

- Systemwalker Centric Manager V12.0L10以降

```
MpOpaddRep: 警告: 13: The node is already defined. (XXX,YYY)
```

XXX: ホスト名

YYY: IPアドレス

[Solaris版の場合]

- SystemWalker/CentricMGR 5.2.1以前

```
MpOpaddRep: ERROR: 0008: The system error occurred. (Detailedcode=30009101,0x00000000)
```

```
MpOpaddRep: ERROR: 0004: Failed in MpFwcm_MpCm_AddNode() (-1)
```

- Systemwalker Centric Manager 10.0～11.0

```
MpOpaddRep: WARNING: 13: The overlapping node has already been defined.(XXX,YYY)
```

- Systemwalker Centric Manager 12.0/12.1以降

```
MpOpaddRep: 警告: 13: The node is already defined. (XXX,YYY)
```

XXX: ホスト名

YYY: IPアドレス

[Linux版の場合]

- Systemwalker Centric Manager V11.0L10

```
MpOpaddRep: WARNING: 13: The overlapping node has already been defined.(XXX,YYY)
```

- Systemwalker Centric Manager V12.0L10以降

```
MpOpaddRep: 警告: 13: The node is already defined. (XXX,YYY)
```

XXX: ホスト名

YYY: IPアドレス

原因

運用管理サーバ上のノード情報に、別々のインタフェースとして登録されているホスト名とIPアドレスが、同じインタフェースとして上がった場合に出力されるエラーメッセージです。

対処方法

以下に発生例とその対処方法を示します。

- 1つのシステムに複数のIPアドレスがある場合

1つのシステムに複数(ここでは2つ)のIPアドレスがあるとします。

このとき、運用管理サーバ上のSystemwalker Centric Manager構成情報に以下のような定義が行われているとします。

	ホスト名	IPアドレス
ホストA	nodeA1 nodeA2	10.10.10.1 10.10.10.2

このときにメッセージデータなどでnodeA1の10.10.10.2のデータが上がってきた場合、以下の手順で対処してください。

ポイント

nodeA1の10.10.10.2のデータが発生する原因

Systemwalker Centric Managerでは通信に使用したIPアドレスを、メッセージのデータに付加して処理します。複数インタフェースを持つシステムの場合、この通信に使用するIPアドレスが一意になりません。このため、メッセージのデータに付加されるホスト名とIPアドレスの組み合わせは不定です。

1. 以下の修正を適用します。(障害レポート番号:P139002)

V5.0L10 EE	TP03309以降
V5.0L20 EE	TP02555以降
V5.0L20 SE	TP02557以降
5.0 EE	910261-3以降
5.0 SE	910371-2以降
5.0 GEE	910360-03以降
5.1 EE	910735-02以降
5.1 SE	910736-02以降
上記以外	障害はありません

2. Systemwalkerコンソールで、該当ノードが1つのノードとして定義されているか確認します。

定義されていない場合は、各コンソールより該当ノードのノードプロパティを以下のように定義してください。

ネットワークタブ	インタフェースタブ	
ホスト名	ホスト名	IPアドレス
nodeA	nodeA1 nodeA2	10.10.10.1 10.10.10.2

- 定義によるSystemwalker Centric Managerの構成情報の矛盾が発生した場合

定義ミスなどにより運用管理サーバ上のSystemwalker Centric Managerの構成情報が以下のような場合、Systemwalkerコンソールで、構成情報を正しく変更してください。

ー [実際の環境]

	ホスト名	IPアドレス
ホストA	nodeA	10.10.10.1
ホストB	nodeB	10.10.10.2

— [Systemwalker Centric Manager: 構成情報]

	ホスト名	IPアドレス
ホストA	nodeA	10.10.10.2
ホストB	nodeB	10.10.10.1

 **注意**

上記対処で改善されない場合、同一ホスト名、同一IPアドレスのシステムが監視システム配下中に既に存在している可能性があります。同一ホスト名、同一IPアドレスのシステムが複数存在する環境でイベント監視はできません。また、クラスタ運用の運用管理サーバで使用している論理ホスト名と同一ホスト名のシステムを監視することもできません。そのため、同一のシステムが存在していないか確認してください。既に存在した場合、自身のホスト名、IPアドレスを適切な設定になおしてから上記設定を実施してください。

 **ポイント**

Windows版V5.0L30以降、Solaris版10.0以降、Linux版V11.0L10以降では、以下のコマンドでノードを確認することができます。メッセージに出力された“XXX(ホスト名)”と重複するノード、“YYY(IPアドレス)”と重複するノードを“node.csv”より特定します。

[Windows版の場合]

- SystemWalker/CentricMGR V5.0L30

```
mpcmnout node.csv
```

- Systemwalker Centric Manager V10.0L10以降

```
mpcmcsv -m OUT -o NODE -f node.csv
```

[Solaris版の場合]

- Systemwalker Centric Manager 10.0以降

```
/opt/systemwalker/bin/mpcmcsv -m OUT -o NODE -f node.csv
```

[Linux版の場合]

- Systemwalker Centric Manager V11.0L10以降

```
/opt/systemwalker/bin/mpcmcsv -m OUT -o NODE -f node.csv
```

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処6

確認ポイント

メッセージが表示されないサーバにて、ファイルシステムの空き容量は十分ですか。
または、以下のメッセージが出力されていませんか。

```
Windows版の場合 MpOpagt: エラー: 51: writeでエラーが発生しました:デバイス上に十分な領域がありません。( %1)  
UNIX版の場合 opagtd: エラー: 51: writeでエラーが発生しました:デバイス上に十分な領域がありません。( %1)
```

%1: write関数の実行に失敗したプロセス名

原因

ファイルシステムが100%使用されている場合、Systemwalker Centric Managerは正しく動作しません。

対処方法

以下のように対応してください。

Windows版の場合

1. 不要なファイルを削除します。
2. Systemwalker Centric Managerのサービスを再起動します。
3. イベントログで、Systemwalker Centric Managerのエラーメッセージが出力されていないことを確認します。
エラーメッセージが出力されている場合は、メッセージに対応した対処をしてください。

UNIX版の場合

1. 不要なファイルを削除します。
2. Systemwalker Centric Managerのサービスを再起動します。
3. 以下のコマンドを実行し、syslogと通信するプロセスを再起動します。

ー SystemWalker/CentricMGR 10.0以前

- [Solaris版の場合]

```
sh /etc/rc2.d/S73opagt.syslog stop
sh /etc/rc2.d/S73opagt.syslog start
```

- [HP-UX版の場合]

```
sh /opt/FJSVsagt/sbin/init.d/opagt.syslog stop
sh /opt/FJSVsagt/sbin/init.d/opagt.syslog start
```

- [AIX版の場合]

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/script/opagt.syslog stop
sh /opt/FJSVsagt/etc/script/opagt.syslog start
```

- [Linux版の場合]

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog stop
sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog start
```

ー Systemwalker Centric Manager 10.1以降

```
/opt/systemwalker/bin/stpopasyslog
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog
```

4. syslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd
kill -HUP <上記で求めたプロセスID>
```

ただし、Red Hat Enterprise Linux 6以降については、以下を実施します。

【Red Hat Enterprise Linux 6.3 以降】

rsyslogサービスを再起動します。

ー Red Hat Enterprise Linux 6の場合

```
service rsyslog restart
```

- Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合

```
systemctl restart rsyslog.service
```

【Red Hat Enterprise Linux 6.0/Red Hat Enterprise Linux 6.1/Red Hat Enterprise Linux 6.2】

rsyslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep rsyslogd  
kill -HUP <上記で求めたプロセスID>
```

5. 以下のsyslogのメッセージファイルを確認し、Systemwalker Centric Managerのエラーメッセージが出力されていないことを確認します。
(ファイル名は標準定義の場合です)

- Solaris版 : /var/adm/messages
- HP-UX版 : /var/adm/syslog/syslog.log
- AIX版 : /var/adm/messages
- Linux版 : /var/log/messages

エラーメッセージが出力されている場合は、メッセージに対応した対処をしてください。

UXP/DS版の場合

1. 不要なファイルを削除します。
2. Systemwalker Centric Managerのサービスを再起動します。
3. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerのエラーメッセージが出力されていないことを確認します。

```
Msgprt
```

エラーメッセージが出力されている場合は、メッセージに対応した対処をしてください。

対処7

確認ポイント

メッセージが通知されないホストのイベント監視の条件定義は正しいですか。

イベント監視の条件定義で、通知されないメッセージについての定義行に、[上位送信:しない]と定義されていないか確認してください。

対処方法

[上位送信:しない]と定義されている場合は、[上位送信:する]と定義を変更してください。

対処8

確認ポイント

メッセージ送信先システムで設定されているシステムでホスト名の変更が行われた場合、メッセージ送信先システムに設定されている内容もホスト名にあわせて変更していますか。

対処方法

ホスト名の変更が行われた場合、メッセージ送信先システムに設定されている内容も変更にあわせて設定し、サービスの再起動を実施してください。

対処9

確認ポイント

以下のメッセージがイベントログ/シスログへ出力されていませんか。

[Windows版の場合]

```
MpOpagt: 警告: 158: %1 への接続処理に失敗しました。再接続処理を行います
```

[UNIX版の場合]

```
opagtd: 警告: 158: %1 への接続処理に失敗しました。再接続処理を行います
```

または

```
opagtd: 警告: 154: %1 への接続処理に失敗しました。再接続処理を行います(通信用IPアドレス:%2)
```

%1: ホスト名

%2: IPアドレス

注)メッセージ“opagtd: 警告: 154: …”が出力され、クラスタシステムの場合、“[クラスタシステムのメッセージが監視できない\(メッセージ発生元がSafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合\)](#)”も参照してください。

対処方法

確認ポイントのメッセージが発生後、該当システムからのメッセージが通知されていないか(自動再接続処理が成功している)確認し、通知されていない場合は下記を実施してください。(通知されていれば、自動再接続処理は成功しています。)

- メッセージ送信先に定義されているシステムのホスト名または、IPアドレスが正しいことを確認し、誤りがある場合は、メッセージ送信先定義の変更し、サービスの再起動を実施してください。
- メッセージの通信に使用するポート(デフォルトでは9294/TCP)が、メッセージ送信先との間で使用可能か確認してください。使用できない場合、使用可能にしてください(firewall等で)。
- メッセージ送信先システムに設定されている上位システムにて、Systemwalker Centric Manager がメッセージ発生時間帯より停止されていないか確認してください。停止されている場合はSystemwalker Centric Manager を起動させてください。
- “opasetip”コマンドにて設定している場合、設定内容が正しいことを確認し、誤りがある場合は、設定の変更を実施(再度、コマンドを実施)してください。

本コマンドを実施した場合は、以下の操作を実施してください。

- メッセージ送信先と常時接続で接続している場合
 - Systemwalker Centric Managerの再起動
- メッセージ送信先と必要時接続で接続している場合
 - Systemwalker Centric Managerの再起動
 - 下記コマンドの実行

```
— /opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

注) “opasetip”コマンドはUNIX版の10.0以降で提供されているコマンドになります。コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

備考

- V11.0L10/11.0 以降の場合

確認ポイントに示したメッセージが最初に出力された後、24時間経っても自動再接続処理が続いている場合(自動再接続処理が一度も成功しない場合)、再度、確認ポイントに示したメッセージが出力されます。

- V12.0L10/12.0 以降の場合

自動再接続処理が成功した場合は、下記メッセージがイベントログ/シスログへ出力されます。

- [Windows版の場合]

```
MpOpagt: 警告: 165: %1への再接続処理が完了しました
```

ー [Unix版の場合]

opagtd: 警告: 165: %1への再接続処理が完了しました

%1: 上位システム名

対処10

確認ポイント

監視できないノードと同一ホスト名のノードが上位システムに存在していませんか。

V11.0L10/11.0以降の場合

下記メッセージが、上位システムより出力されていませんか

[Windows版の場合]

MpOpagt: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください

[UNIX版の場合]

opagtd: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください

%1: ホスト名

%2: IPアドレス

※論理的通信構造に誤りがない場合でも、自ノードと同一ホスト名のデータを下位システムより受信した場合に出力されます。

原因

同一ホスト名のシステムが存在する環境では、Systemwalker Centric Managerで管理している内部的な管理情報に矛盾が発生し、正しく監視ができません。

対処方法

ネットワーク全体で、一意のホスト名となるようにOSを設定してください。また、Systemwalker Centric Manager が意識するホスト名 ([通信環境定義]ダイアログボックスで設定ができます)を異なるように定義することで対処することもできます。

※同一ホスト名のシステムの特定方法は“[対処5](#)”を参照してください。

対処11

確認ポイント

メッセージが通知されない被監視システム側で、前回のシステム起動日時に、イベントログ(システム)に以下のエラーメッセージが出力されていませんか。

ソース: Service Control Manager

イベントID: 7009

説明: Systemwalker MpOpagt サービスへの接続中にタイムアウト (30000 ミリ秒) になりました。

ソース: Service Control Manager

イベントID: 7000

説明: Systemwalker MpOpagt サービスは次のエラーのため開始できませんでした: そのサービスは指定時間内に開始要求または制御要求に応答しませんでした。

原因

Windows版で、システムの起動時に高負荷な状態が発生したことにより、OSのサービスコントロールマネージャがサービス「Systemwalker MpOpagt」の起動に失敗する場合があります。

対処方法

起動に失敗したサービス「Systemwalker MpOpagt」を手動で起動してください。また予防策として以下の負荷分散の対処を実施してください。

1. サービスの設定で、Systemwalker Centric Managerのサービスでスタートアップの種類が「自動」であるものについて、「手動」に変更します。
Systemwalker Centric Managerのサービスは、“[機能区分/プロセス名対応一覧](#)”を参照してください。
2. Systemwalker Centric Managerの起動コマンド「scentricmgr」を組み込んだバッチファイルを作成します。
 - バッチファイルによるSystemwalker Centric Managerの起動が、OS起動時の自動起動サービスの起動タイミングと重ならないようにするため、「scentricmgr」の前に待ち合わせ処理を組み込んでください。
 - 待ち合わせ処理については、OS標準のコマンドは存在しませんので、Sleep()関数等を使用したコマンドを作成してバッチファイルに組み込んでください。
 - 待ち合わせ時間は、OS起動時の自動起動サービスの起動完了に要する時間を目安に設定してください。イベントログに出力されるサービスの起動完了メッセージ等の発生時間を参考に、妥当な待ち合わせ時間を設定してください。
3. 作成したバッチファイルを、スタートアップあるいはタスクスケジューラでOSの起動時に起動されるように設定します。

対処12

確認ポイント

問題のホストで以下のコマンドを2回実行し、以下の観点で確認してください。

[Windows版の場合]

```
opamsgrv
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opamsgrv
```

【観点】

- 最後に表示されている、最新のメッセージが1回目と2回目で異なっているか。
- 表示されている最新のメッセージが、過去に発生したものではないか。
- 定常的に、短時間に大量のメッセージが出力されていないか。

表示結果が1回目と2回目で異なり、かつ、過去に発生したメッセージが表示されている場合は、Systemwalker Centric Managerでのメッセージ処理が遅延していると考えられます。定常的に短時間に大量のメッセージが出力されている場合は、それが原因であると考えられます。

原因

問題のホストで大量のメッセージが発生し続けた場合、Systemwalker Centric Managerがリアルタイムにメッセージを処理できなくなり、メッセージが発生してからSystemwalkerコンソールに表示されるまで遅延が発生することがあります。

対処方法

大量に発生しているメッセージの出力元のアプリケーション等で、メッセージの出力頻度を抑えるように調整してください。

なお、以下の方法により、Systemwalker Centric Manager側での対処も可能です。

[Windows版]

- 大量に発生しているメッセージがイベントログ(セキュリティ)に出力された監査機能のイベントである場合
→“[Systemwalkerコンソールでの表示、操作に時間がかかる\(遅延している\)、各サーバでCPU使用率が高くなっている](#)”の対処2を参照してください。

[UNIX版]

- ・ 大量に発生しているメッセージがsyslog経由のメッセージである場合
→/etc/syslog.confのメッセージ監視の定義を編集し、Systemwalker Centric Managerに通知するメッセージの条件を絞り込んでください。
詳細は、“[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)”の対処4を参照してください。

対処13

確認ポイント

メッセージが通知されない被監視システム側で、前回のSystemwalker Centric Manager起動時にイベントログ/シスログへ、以下のエラーメッセージが出力されていませんか。

[Windows]

```
MpOpagt: 警告: 126: メッセージ送信先システム定義に定義されているホスト(%1)はシステムに定義されていません。この行を無視します
```

%1: メッセージ送信先システムに定義してある名前

[UNIX]

```
opagtd: 警告: 21: ホスト名 (%1) はシステムに定義されていません
```

%1: システムに定義されていないホスト名 [Windows版の場合]

原因

Systemwalker Centric Manager起動時にメッセージ送信先システムに定義されているホスト名の名前解決に失敗したことが原因です。

対処方法

以下のどちらかの対処を行った後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

- ・ /etc/hostsでホスト名を管理している場合
/etc/hostsにホスト名を定義するか、メッセージ送信先システムに定義したホスト名をIPアドレスに修正してください。
- ・ DNS/NISサーバでホスト名を管理している場合
DNS/NISサーバにメッセージホスト名を定義するか、メッセージ送信先システムに定義したホスト名をIPアドレスに修正してください。

9.2.7 監視イベント一覧画面にメッセージが表示されたり、表示されなかったりする

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

メッセージ抑止機能で、表示を抑止していませんか。

原因

メッセージ抑止機能によって、表示を抑止されている場合があります。

対処方法

メッセージの発生間隔を確認し、メッセージ抑止時間をその間隔以下に設定してください。

“メッセージ抑止機能”、“メッセージ抑止時間の設定”等については、[通信環境定義]についてのオンラインヘルプを参照してください。

備考

抑止時間(間隔)は、最後に発生したイベントからカウントします。

例)抑止時間(間隔)が60秒:

59秒間隔で同一メッセージが発生し続けた場合は、最初のメッセージ以外は表示が抑止されます。

対処2

確認ポイント

[通信環境定義]ダイアログボックスの[二次接続要求の間隔]で設定された、接続待ち状態の時間帯ではありませんか。

原因

[通信環境定義]ダイアログボックスの[二次接続要求の間隔]の設定により、接続待ち状態の時間帯であった場合、接続待ち状態が終わるまでメッセージは上位送信されません。

対処方法

[二次接続要求の間隔]の設定を確認し、運用に適した間隔に設定してください。

[二次接続要求の間隔]の設定については、[通信環境定義]についてのオンラインヘルプを参照してください。

対処3

確認ポイント

アクション条件を定義していませんか。

原因

イベント監視の条件定義においてアクション条件に指定した時間帯以外に通知されたイベントについてのアクションは実行されません。

対処方法

イベントが通知される時刻が、イベント監視の条件定義でのアクション条件の指定時間内になるよう、指定時間帯を設定してください。

対処4

確認ポイント

メッセージ抑止機能が無効の状態でも、同一メッセージが抑止されていますか。

“メッセージ抑止機能”については、[通信環境定義]についてのオンラインヘルプを参照してください。

原因

メッセージ通知では、メッセージ送信先システムの定義がループ構成となっていると通知されるメッセージがループしないように、メッセージを破棄する場合があります。下記の条件に一致するメッセージを下位サーバから受信した場合、システム間でループしているメッセージと判断し、受信サーバにて同一メッセージの始めのメッセージだけ監視します。そのため、通常的环境下でも条件に一致するメッセージが発生した場合、同一メッセージは破棄されます。

【破棄される条件】

下位サーバから受信したメッセージが

- “発生時間が同一”、かつ
- “ホスト名が同一”、かつ
- “メッセージテキストが同一” の場合

対処方法

対処方法はありません。

対処5

エラーメッセージ

MpAosfB: INFO: 1000: 自動化で管理できるメッセージが最大数(10000)を超えたため、古いメッセージを順に破棄します。

確認ポイント

メッセージが多発していませんか。

原因

メッセージが多発したため、イベントの受け渡しの際に保持する最大数を超え古いメッセージを破棄しました。

対処方法

監視する必要のないメッセージについては、下位サーバを含めてイベント監視の条件定義で[上位送信しない]や[ログ格納しない]設定をするなど、定義の見直しをしてください。

9.2.8 監視イベント一覧画面に特定のメッセージが表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

発生メッセージはsyslogに出力するメッセージですか。

対処方法

“[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)”を参照して、対処してください。

対処2

確認ポイント

イベント監視の条件定義を確認してください。

対処方法

メッセージの発生元のサーバから、運用管理サーバに通知されるまでの経路にあるすべてのサーバで、以下を確認してください。

- 同じようなイベント定義を、複数定義している場合
発生メッセージとイベント監視の条件が一致すると想定している定義行よりも、上の位置にある定義行で一致している可能性があります。想定している定義行より上にある条件と一致しないか確認してください。
- 発生メッセージが、ログファイル監視のメッセージである場合
[監視ログファイル設定]ダイアログボックスで、監視するログファイルを設定している場合、ラベルにエラー種別の文字列を設定していないか確認してください。ラベル名に、エラー種別で使用するような文字列を設定していた場合は、別の文字列に変更してください。
- 発生メッセージのエラー種別が「情報」である場合
初期設定では、エラー種別が「情報」のメッセージは、監視イベント一覧に表示されません。[アクション定義]ダイアログボックスの[メッセージ監視]タブで、[重要度]に以下のいずれかを選択してください。

【V13.2.0以前】

- 最重要
- 重要
- 警告

【V13.3.0以降】

- 最重要
- 重要
- 警告
- 通知

- 発生メッセージに、以下の文字列が含まれている場合

- daemon[nnnnn]
- [ID nnnnn facility.priority]

Solaris版の場合、出力されるsyslogのメッセージテキストの中で、システムが付加する以下の文字列は、比較対象外となります。

- [ID nnnnn facility.priority]
 - nnnnn : 可変の数字
- エラー種別の前部分に付加される“daemon[nnnnn]”
 - daemon : デーモン名
 - nnnnn : プロセスID

ラベル名の特定や、メッセージテキストの特定の項目に、上記のような形式の文字列を定義しないでください。

【例】

```
MpAosfB[2565]: UX:MpAosfB: [ID 498913 daemon.error] ERROR: 7011: Error occurred in system function
```

このメッセージを、ラベル/エラー種別/テキストに分割すると以下のようになります。

- ラベル: ^UX:MpAosfB
 - エラー種別: エラー
 - テキスト: 7011: Error occurred in system function
- 発生したメッセージが、イベント監視の条件定義ですべての定義行と一致しなかった場合
このメッセージは、監視イベント一覧に表示されません。このメッセージを監視するためのイベント定義を追加してください。
 - 上記以外の場合
イベント定義に設定した内容と、発生するメッセージに違いがないかを確認してください。スペル以外にも、空白の数や、大文字/小文字、半角/全角を確認してください。メッセージを定義と比較する場合、大文字、小文字の区別、全角、半角の区別をしています。
また、空白の数についてもチェックしています。発生メッセージの文字列と定義内容を比べて異なる場合は、発生メッセージに合わせて、定義内容を変更してください。

ポイント

- イベント監視の条件定義の簡易チェックツール
V10.0L20以降、10.1以降の場合は、以下の簡易チェックツールを使用することにより、発生したイベントが、イベント監視の条件定義のどの行と一致したか確認することができます。
また、意図する定義行と一致しなかった原因を確認することができます。詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

— [Windows 98/Windows Meの場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpaosfsv¥bin¥mpaosevchk.exe
```

— [Windows NT/Windows 2000/Windows XP/Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥mpaosfsv¥bin¥mpaosevchk.exe
```

対処3

確認ポイント

メッセージ監視のアクション定義は正しいですか。

対処方法

イベント監視の条件定義で、発生メッセージとイベント監視の条件が一致していると思われる定義行の[アクション定義]ダイアログボックスの[メッセージ監視]タブで、以下を確認してください。

なお、メッセージの発生元のサーバから、運用管理サーバに通知されるまでの経路にあるすべてのサーバで確認してください。

- ログ格納するように定義していますか(運用管理サーバ)
「ログ格納」が“する”と設定しているか確認してください。
「ログ格納」が“しない”と設定している場合は、“する”に設定してください。
- 上位送信するように定義していますか(部門管理サーバ/業務サーバ)
「上位送信する」が“する”と設定しているか確認してください。
「上位送信する」が“しない”と設定している場合は、“する”に設定してください。

- 監視イベント種別は登録されていますか

opfmt (対象V/L: 10.1以前)で出力したメッセージや、Systemwalker Operation Manager との連携機能より出力される“ジョブネットの異常終了”メッセージ、トラップが出力するメッセージ、アプリケーション管理の稼働違反のメッセージ、性能監視のメッセージ、および Systemwalker スクリプトが発行するメッセージには、デフォルトの監視イベント種別が付いていません。このようなメッセージの場合は、監視イベント種別で「種別指定」を選択し、コンボボックスから監視イベント種別を選択して設定してください。運用管理サーバに登録されていない場合は、監視イベント種別を登録してください。

- 重要度の設定は正しいですか

監視イベント一覧には、重要度が「一般」であるようなメッセージは、表示されません。

一 重要度の設定が、「一般」の場合

重要度の設定で以下のいずれかを設定してください。

【V13.2.0以前】

- 最重要
- 重要
- 警告

【V13.3.0以降】

- 最重要
- 重要
- 警告
- 通知

一 重要度の設定が、「自動設定」の場合

発生メッセージの重要度を確認してください。発生メッセージのデフォルトの重要度は以下のとおりです。

発生したメッセージの重要度が「一般」である場合は、重要度の設定で、「最重要」、「重要」、「警告」のどれかを設定してください。

メッセージの種類	重要度
Windows イベントログのエラー種別“なし”のメッセージ	(注)
Windows イベントログのエラー種別“エラー”重要または、“失敗の監査”のメッセージ	重要
Windows イベントログのエラー種別“警告”の警告メッセージ	警告
Windows イベントログのエラー種別“情報”一般または、“成功の監査”のメッセージ	一般
Windows イベントログのエラー種別“重大”のメッセージ	最重要
Windows イベントログのエラー種別“詳細”のメッセージ	一般
UNIX SYSLOGのエラー種別“HALT”のメッセージ	最重要
UNIX SYSLOGのエラー種別“ERROR”のメッセージ	重要
UNIX SYSLOGのエラー種別“WARNING”のメッセージ	警告
UNIX SYSLOGのエラー種別“INFO”のメッセージ	一般
UNIX SYSLOGのエラー種別なしのメッセージ	重要
監視ログファイルのメッセージ	監視ログファイル設定で設定した重要度

注)以下の重要度が設定されます。

V11.0L10以前:最重要

V12.0L10以降: 一般

なお、V12.0L10以降では、以下の設定にて重要度の変更が可能です。

[通信環境定義]-[動作設定]-[詳細]-[エラー種類未設定イベントの扱い]

対処4

確認ポイント

業務の重み付け設定は正しいですか。

対処方法

[Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)で、業務の重み付け設定によってイベント表示を抑止しているか確認してください。以下の手順で確認することができます。

1. [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)-[編集]を選択します。
2. [ツリー選択]-[業務管理]を選択します。
業務管理ツリーが複数存在する場合は、[ファイル]メニューから[監視ツリーの選択]を選択し、[監視ツリーの選択]ダイアログボックスに表示されるツリーの中から業務の重み付けを設定するツリーを選択します。
3. 設定対象のノード、またはアプリケーションを選択します
4. [オブジェクト]メニューから[重み付け]を選択し、[業務の重み付け]ダイアログボックスを表示します。

対処5

確認ポイント

運用管理サーバのイベントログ/シスログに、以下のメッセージが出力されていませんか。

- Windows版 V11.0L10までの場合

```
MpOpaddMgr: 警告: 12: Event of unregistered type was received. (type=XXXX, hostname=YYYY)
```

- Windows版 V12.0L10以降の場合

```
MpOpaddMgr: 警告: 12: An unregistered event type was received. (type=XXXX, hostname=YYYY)
```

- UNIX版 11.0までの場合

```
MpOpaddMgr: WARNING: 12: Event of unregistered type was received. (type=XXXX, hostname=YYYY)
```

- UNIX版 12.0以降の場合

```
MpOpaddMgr: WARNING: 12: An unregistered event type was received. (type=XXXX, hostname=YYYY)
```

XXXX:メッセージに付加されている監視イベント種別

YYYY:メッセージ発生元ホスト名

原因

Systemwalker Centric Managerでは、メッセージの付加情報として監視イベント種別を設定することができます。この監視イベント種別が、運用管理サーバの[サーバ環境定義]ダイアログボックスの[監視イベント種別]に登録されていないと、監視イベント一覧に表示されません。このとき、定義誤りがないか確認するメッセージを出力しています。

このメッセージが出力されている場合、以下のことが原因と考えられます。

- メッセージの付加情報として設定されている監視イベント種別に誤りがある。
- [サーバ環境定義]ダイアログボックスに設定されている[監視イベント種別]が不足している、または誤りがある。
- 監視イベント種別の設定後、サービスの再起動が実施されていない。
- 旧バージョン製品からバージョンアップした場合、監視イベント種別は旧バージョンで設定されていた内容が設定されるが、SystemWalker/CentricMGR 5.0以降で追加された機能に対する監視イベント種別が追加されていない。

対処方法

以下のように対処してください。

- メッセージの付加情報として設定されている監視イベント種別に誤りがある場合

イベント監視の条件定義で、発生メッセージとイベント監視の条件が一致していると思われる定義行の[アクション定義]ダイアログボックスの[メッセージ監視]タブの監視イベント種別で、[種別指定]を選択し、正しい監視イベント種別を指定してください。

※監視イベント種別が付いていない(上記メッセージの“XXXX”が空欄)メッセージの場合は、監視イベント種別を指定し、メッセージに付加してください。

- [サーバ環境定義]に設定されている[監視イベント種別]が不足している、または誤りがある場合

[サーバ環境定義]に設定されている[監視イベント種別]への新しく監視イベント種別を登録するか、登録されている監視イベント種別を変更してください。

- 監視イベント種別の設定後、サービスの再起動が実施されていない、または不明な場合

運用管理サーバにてSystemwalker Centric Managerの再起動を実施してください。

- 旧バージョン製品からバージョンアップした場合

“Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド”等のバージョンアップに関わるマニュアルに従い、監視イベント種別の登録を実施してください。

V11.0L10/11.0以降の場合

上記対処方法のほかに、V11.0L10/11.0以降では、以下の方法(コマンドはV11.0L10/11.0以降に提供されているコマンドになります)で対処することができます。

運用管理サーバで以下のコマンドを実行し、本メッセージ発生の契機となったメッセージを確認してください。そのため、以下の方法でも対処できます。

[Windows版の場合]

```
opmumchdsp
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opmumchdsp
```

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

- 監視対象のメッセージの場合

該当メッセージに対して、[イベント監視の条件定義]ウィンドウの[アクション定義]ダイアログボックスから、監視イベント種別を設定してください。

- 監視対象外のメッセージの場合

該当メッセージに対して、[イベント監視の条件定義]ウィンドウの[アクション定義]ダイアログボックスから、[ログ格納]“しない”を設定してください。

対処6

確認ポイント

以下のメッセージが表示されないのではありませんか。

対処方法

以下のメッセージは監視対象外であるため、メッセージは表示されません。

- Windows版V5.0L30以前
 - ソース名が「MpAosfB」であるメッセージ。(イベントIDが9999であるものは除く)
- Windows版V10.0L10～V10.0L21
 - ソース名が「MpOpagt」であるメッセージ。(イベントIDが9999、139であるものは除く)
 - ソース名が「MpOpaddMgr」かつ、イベントIDが12であるメッセージ
 - ソース名が「MpFwbs」かつ、イベントIDが3かつ、下記いずれかのテキストを含むメッセージ
 - 50000009: イベントDBのアクセスに失敗しました
 - 50200005: メッセージキューの受信に失敗しました
 - 50200007: ソケットのオープンに失敗しました
 - 50200008: ソケットの送信に失敗しました
- Windows版V11.0L10以降
 - ソース名が「MpOpagt」であるメッセージ。(イベントIDが9999、139、78、79、3108、320であるものは除く)
 - ソース名が「MpFwbs」かつ、イベントIDが3かつ、下記いずれかのテキストを含むメッセージ
 - 50000009: イベントDBのアクセスに失敗しました
 - 50200005: メッセージキューの受信に失敗しました
 - 50200007: ソケットのオープンに失敗しました
 - 50200008: ソケットの送信に失敗しました
- UNIX版10.0～10.1
 - ラベル名「UX:opagtd」のメッセージすべて
 - 下記いずれかのテキストを含むメッセージ
 - WARNING:12: Event of unregistered type was received. (type=
 - エラー: 50000009: イベントDBのアクセスに失敗しました
 - エラー: 50200007: ソケットのオープンに失敗しました
 - エラー: 50200008: ソケットの送信に失敗しました
 - エラー: 50200005: メッセージキューの受信に失敗しました
- UNIX版11.0以降
 - ラベル名「UX:opagtd」のメッセージすべて。(イベントIDが78、79、3108、320であるものは除く)
 - 下記いずれかのテキストを含むメッセージ
 - エラー: 50000009: イベントDBのアクセスに失敗しました
 - エラー: 50200007: ソケットのオープンに失敗しました
 - エラー: 50200008: ソケットの送信に失敗しました
 - エラー: 50200005: メッセージキューの受信に失敗しました

対処7

確認ポイント

発生元システムから運用管理サーバまでの経路にあるサーバで、以下のエラーメッセージが出力されていませんか(Solaris の場合)。

エラーメッセージが表示されている場合、発生したメッセージの文字コードと、Systemwalker Centric Manager の文字コードが一致しているか確認してください。

Systemwalker Centric Manager の文字コードは、10.0以降の場合、自動的にOSの文字コードと同じものになります。5.2以前の場合は、SystemWalker/CentricMGRインストール時に文字コードを指定します。

エラーメッセージ

```
UX:MpAosfB: ERROR: 1018: コード変換に失敗しました。
```

対処方法

"出力されたメッセージと、監視イベント一覧に表示されるメッセージが違う"の対処2を参照して、対処してください。

対処8

確認ポイント

ADJUST、SystemWalker/CharsetMGRがインストールされていますか。

メッセージ送信先システムに定義しているサーバがWindows版で、メッセージ発生元の文字コードがEUCの場合は、メッセージ送信先システムに定義しているサーバ(Windows版)にコード変換機能を導入する必要があります。

ただし、送信先システムに定義されているサーバが、Systemwalker Centric Manager V11.0L10以降の場合は除きます。

対処方法

"syslogに出力するメッセージが表示されない(または遅れて表示される)"を参照して、対処してください。

対処9

確認ポイント

フィルタリング対象の設定を確認します。イベント監視の条件定義の「ホスト名の特定」が[システム監視設定]ー[通信環境定義]ー[自ホスト名]で設定したホスト名と異なっていないか確認してください。

原因

「ホスト名の特定」では、[システム監視設定]ー[通信環境定義]ー[自ホスト名]で設定したホスト名でフィルタリングされます。

対処方法

「ホスト名の特定」を[システム監視設定]ー[通信環境定義]ー[自ホスト名]で設定したホスト名に修正してください。

9.2.9 syslogに出力するメッセージが表示されない(または遅れて表示される)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - ー Windows版:V5.0L10以降
 - ー Solaris版:5.0以降
 - ー HP-UX版:5.1以降
 - ー AIX版:10.0以降
 - ー Linux版:5.2、V10.0L10以降

- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

ADJUST、SystemWalker/CharsetMGRがインストールされていますか。

メッセージ送信先システムに定義しているサーバがWindows版で、メッセージ発生元の文字コードがEUCの場合は、メッセージ送信先システムに定義しているサーバ(Windows版)にコード変換機能を導入する必要があります。

ただし、送信先システムに定義されているサーバが、Systemwalker Centric Manager V11.0L10以降の場合は除きます。

対処方法

メッセージ送信先システムに定義しているサーバ(Windows版)に、以下のどれか1つをインストールしてください。

- 運用管理サーバの場合
 - ADJUST V2.1L40(文字コード変換ライブラリ)以降
 - SystemWalker/CharsetMGR-M V5.0L10以降
 - SystemWalker/CharsetMGR-A V5.0L10以降
- 部門管理サーバ/業務サーバで、Windows NT 4.0/Windows 2000の場合
 - ADJUST V2.1L20(文字コード変換ライブラリ)以降
 - SystemWalker/CharsetMGR-M V5.0L10以降
 - SystemWalker/CharsetMGR-A V5.0L10以降
- 部門管理サーバ/業務サーバで、Windows NT 3.51の場合
 - ADJUST V1.1以降

なお、インストール後、システム的环境変数のPathに、“f3ceicnv.dll”が格納されているフォルダまでのパスを設定する必要があります。

*:ユーザ環境変数ではありません。

*:環境変数設定後はコンピュータの再起動が必要です。

対処2

確認ポイント

ADJUST、SystemWalker/CharsetMGRがインストールされている場合、日本語のメッセージを出力し、運用管理サーバで正しく表示されますか。

文字化けした場合は、ADJUSTまたは、SystemWalker/CharsetMGRの設定をもう一度確認してください。

ただし、サーバが、Systemwalker Centric Manager V11.0L10以降の場合は除きます。

対処方法

- コード変換機能が使用できることを確認してください。(例:ADJUSTの場合)
 1. EUCコードで、テキストが書かれているファイルを用意します。
 2. [プログラム]-[ADJUST]-[標準コード変換]メニューを選択します。
→[標準コードユーティリティ]画面が表示されます。

3. [コード変換]ボタンをクリックします。
→[コード変換]画面が表示されます。
4. 変換元コードにU90、変換先コードにShift-JIS、入力ファイル名に1) で用意したファイル、出力ファイル名に任意のファイル名を入力します。
5. [OK]ボタンをクリックします。
6. 出力ファイル名に指定したファイルに、正しくShift-JISに変換された結果が出力されることを確認します。
→正しく変換されない場合、ADJUSTのインストールに問題があります。見直しをお願いします。

• 環境変数の確認

システムの環境変数のPathに、“f3ceicnv.dll”が格納されているフォルダまでのパスが設定されていることを確認してください。

*: ユーザ環境変数ではありません。

*: 環境変数設定後はコンピュータの再起動が必要です。

対処3

確認ポイント

メッセージが通知されないホスト(被監視サーバ)側で、コマンド“uname -n”で獲得できるホスト名と、syslogに出力されたメッセージに付加されたホスト名が一致しているか、確認してください。Linux版の場合は、ドット「.」以前が一致しているか確認してください。

原因

Systemwalker Centric Managerは、自システムのsyslogに通知されたメッセージを監視します。ほかのホストから、syslogdの機能によって通知されたメッセージは監視対象外です。

対処方法

- システムの設定(ホスト名の設定)の後でシステムの再起動を行ったかどうかを確認し、再起動が行われていなければ再起動してください。
- システムの設定(ホスト名の設定)に不整合がないか確認し、不整合が見られた場合はシステムの設定を修正してください。

[Linux版で不整合となるケースの例]

以下のように、/etc/sysconfig/networkファイルに定義されたホスト名(XXXXX)とは異なるホスト名(YYYYY)が、/etc/hostsファイルでIPアドレスの直後に(XXXXXより前に)定義されている場合、不整合となる場合があります。この場合、コマンド“uname -n”ではXXXXXが取得されますが、syslogメッセージに付加されるホスト名はYYYYYとなります。

— /etc/sysconfig/networkファイル

```
HOSTNAME=XXXXX
```

— /etc/hostsファイル

```
10.90.144.56 YYYYY XXXXX
```

この場合の対処方法としては、/etc/sysconfig/networkファイルの定義ホスト名と/etc/hostsファイルのIPアドレスの直後の定義ホスト名を一致させる必要があります。



注意

ホスト名の大文字小文字は区別されます。

例えば、“uname -n”で獲得されたホスト名が“hostname”、messagesファイルに出力されているメッセージのホスト名が“HOSTNAME”の場合、別ホストと認識されます。

対処4

原因

Systemwalker Centric Managerは、`/etc/syslog.conf`に定義した条件 (facility.level) のメッセージをsyslogdから直接受信しています。このため、syslogdがデフォルトで出力しているメッセージファイル (例: `messages`) に出力されるすべてのメッセージが監視できるものではありません。

※出力されたメッセージファイル (例: `messages`) を監視しているわけではありません。

対処方法

メッセージが監視できるように、syslogdからSystemwalker Centric Manager へ通知される条件 (`/etc/syslog.conf`に定義した条件 (facility.level)) に設定してください。また、syslogdがデフォルトで出力しているメッセージファイルと同じメッセージを監視する場合は、この条件 (facility.level) の部分をメッセージファイルと同一にしてください。

注意

- 条件 (facility.level) を、syslogdがデフォルトで出力しているメッセージファイルと同一に変更すると、Systemwalker Centric Managerに通知されるメッセージが増加します。監視の必要がないメッセージは、イベント監視の条件定義を更新し、監視対象から外してください。
- Red Hat Enterprise Linux 6以降は、rsyslogdからメッセージを受信しています。そのため本記事のsyslogdに関する記事は、rsyslogdに読み替えてください。

syslogdからSystemwalker Centric Managerへ通知される条件を変更するために、syslogdの環境定義ファイル`/etc/syslog.conf`をSystemwalker Centric Managerのインストール時に自動的に設定します。

- 5.0、5.1: Solaris、HP-UX、AIX版の場合

```
*.err;kern.debug;auth.notice /var/opt/FJVSvagt/fifo/slq
```

- 5.2以降: Solaris、HP-UX、AIX版の場合

```
*.warning /var/opt/FJVSvagt/fifo/slq
```

- 5.2以降: Linux版の場合

```
*.warning /var/opt/FJVSvagt/fifo/slq
```

注意

- Systemwalker Centric Managerに受け渡すメッセージを変更する場合には、メッセージの定義部分を任意に変更してください。
- Solarisでは、`/etc/syslog.conf`に空白を記述すると、syslogdが正しくメッセージをSystemwalker Centric Managerに通知しません (Linux版を除く)。パラメタの区切りは、タブを使用してください。
- `/etc/syslog.conf`を変更した場合は、syslogdに変更を通知するかsyslogdを再起動します。

ー 通知する場合

syslogdに対してHUPシグナルを送ります。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で求めたプロセスID>
```

ー 再起動する場合

syslogdを以下のように再起動します。

【Solaris版】

```
sh /etc/rc2.d/S74syslog stop  
sh /etc/rc2.d/S74syslog start
```

【Linux版】

- Red Hat Enterprise Linux 6.0/Red Hat Enterprise Linux 6.1/Red Hat Enterprise Linux 6.2の場合

```
sh /etc/rc.d/init.d/syslog restart
```

- Red Hat Enterprise Linux 6.3以降の場合

【Red Hat Enterprise Linux 6】

```
service rsyslog restart
```

【Red Hat Enterprise Linux 7以降】

```
systemctl restart rsyslog.service
```

- 上記以外のLinuxの場合

```
sh /etc/rc.d/init.d/syslog restart
```



注意

再起動を行った場合、syslogdが停止している間に発生したメッセージは、syslogdで処理されない場合があります。

HP-UX版、AIX版の場合、再起動の実施ではなく、HUPシグナルの通知を実施してください。

- 定義部分と、/var/opt/FJSVsagt/fifo/slgの間は、必ずタブだけで区切ってください。
- /var/opt/FJSVsagt/fifo/slgの後ろは、必ず改行してください。空白文字などは入力できません。
- この定義をコメントアウトしないでください。



ポイント

SystemWalker/CentricMGR 5.2/5.2.1/10.0で、「facility.level」が「kern.info」のメッセージを監視対象に追加する場合の例を以下に示します。

1. /etc/syslog.confを以下のように変更します。

— [変更前]

```
*.warning /var/opt/FJSVsagt/fifo/slg
```

— [変更後]

```
*.warning;kern.info /var/opt/FJSVsagt/fifo/slg
```

2. syslogdを再起動します。

1. 以下のコマンドを実行し、syslogdを停止します。

```
sh /etc/rc2.d/S74syslog stop
```

2. 以下のコマンドを実行し、syslogdを起動します。

```
sh /etc/rc2.d/S74syslog start
```

対処5

確認ポイント

監視できないシステムはOSがTurbo LinuxまたはRed Hat Linuxで、SystemWalker/CentricMGR SE 5.2または、V10.0L10 の環境ではありませんか。

対処方法

留意事項があります。(FNS-10631)

以下の条件のとき、Systemwalker Centric Manager のメッセージ監視において、syslogd から通知されるメッセージが破棄され、監視できない場合があります。

1. 発生条件

1. OSがTurbo LinuxまたはRed Hat Linuxである。かつ、(OpenLinuxでは本現象は発生しません)
2. システムの設定ファイル/etc/sysconfig/networkにおいて、ホスト名が定義されていない。(HOSTNAMEの内容が以下3つのいずれかと合致する)

HOSTNAME=localhost.localdomain

HOSTNAME=localhost

HOSTNAME=

2. 原因

Linuxの起動処理において、/etc/sysconfig/network にホスト名が定義されていない場合、Systemwalker Centric Manager起動後にホスト名が再設定されることが原因です。メッセージ監視では、syslogdからメッセージを受信すると自システム(CentricMGR起動時に決定されるホスト名)での発生メッセージを監視対象とし、他システムでの発生メッセージは破棄する仕様です。

3. 利用者の処置

スーパーユーザで以下の1)2)の手順を実施してください。

1. システムの設定ファイル/etc/sysconfig/networkをエディタで開き、HOSTNAMEにホスト名を定義します。
2. システムを再起動(リブート)します。または、以下のコマンドを実行します。

```
# sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog stop
```

```
# sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog start
```

```
# /opt/FJSVsagt/usr/lib/hupsyslog
```

システムの設定を変更できない場合は、「4. 回避方法」に示す手順を実施してください。

4. 回避方法

Systemwalker Centric Manager (syslog連携部分)の起動順序を変更することで、回避可能です。

スーパーユーザで以下の1)2)の手順を実施してください。

1. 以下のコマンドを実行します。

- SystemWalker/CentricMGR 5.2の場合

```
# cd /etc/rc.d/rc2.d
```

```
# mv S04opagt.syslog S11opagt.syslog
```

```
# cd /etc/rc.d/rc3.d
```

```
# mv S04opagt.syslog S11opagt.syslog
```

```
# cd /etc/rc.d/rc5.d
```

```
# mv S04opagt.syslog S11opagt.syslog
```

- SystemWalker/CentricMGR 10.0の場合

```
# cd /etc/rc.d/rc2.d
```

```
# mv S00opagt.syslog S11opagt.syslog
```

```
# cd /etc/rc.d/rc3.d
```

```
# mv S00opagt.syslog S11opagt.syslog
# cd /etc/rc.d/rc5.d
# mv S00opagt.syslog S11opagt.syslog
```

2. システムを再起動(リブート)します。または、以下のコマンドを実行します。

```
# sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog stop
# sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog start
# /opt/FJSVsagt/usr/lib/hupsyslog
```

5. 問題発生後のリカバリ方法

なし。

6. その他

「4.回避方法」を実施した場合、Systemwalker Centric Managerをアンインストール後に一部のファイルが残ります。スーパーユーザで以下のコマンドを実行して削除してください。

```
# rm -f /etc/rc.d/rc2.d/S11opagt.syslog
# rm -f /etc/rc.d/rc3.d/S11opagt.syslog
# rm -f /etc/rc.d/rc5.d/S11opagt.syslog
```

対処6

確認ポイント

表示されないメッセージがSystemwalker Centric Managerの起動前に発生している場合、Systemwalker Centric Managerの起動後に以下のメッセージが出力されていませんか。

[V13.0.0以前]

```
opagtd: 警告: 205: 監視対象メッセージを破棄しました (データ数=XXXX)
```

[V13.1.0]

```
opagtd: 警告: 205: 監視対象メッセージを破棄しました (データ数=XXXX)。YYYYにおいて
Systemwalker Centric Manager起動前の監視対象メッセージが500件を超えました。
```

XXXX: 破棄されたデータ数

YYYY: 破棄対象(以下の文字列)

- ・ システムのログ
- ・ 監視ログファイル(<対象ファイル名>)
- ・ 連携製品

対処方法

“監視対象のメッセージが破棄される”を参照して、対処してください。

対処7

確認ポイント(Linux版のみ)

syslogに連続して出力された同一のメッセージの内、2つめ以降のメッセージが表示されない(または遅れて表示される)現象ですか。

原因

syslogdの仕様により、syslogに連続して同一のメッセージが出力された場合、2つ目以降のメッセージはすぐにはSystemwalker Centric Managerに通知されずに溜められます。そして溜められていたメッセージは、以下のどちらかのタイミングで通知されます。

- ・溜められていたメッセージとは異なるメッセージが出力された場合
- ・ syslogがローテートされた場合

「異なるメッセージ」とは、syslogdがSystemwalker Centric Managerへ通知する対象のメッセージであることが条件です。異なるメッセージが発生しても、それがSystemwalker Centric Managerへの通知対象でなければ、その後も溜められたままとなります。

syslogdがSystemwalker Centric Managerへ通知する対象のメッセージについては、[対処4](#)を参照してください。

対処方法

以下のOSの場合の回避する方法を説明します。

- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.0以降

/etc/sysconfig/syslog に以下のオプションを指定することで、syslogdはある一定の間隔で溜められていたメッセージをSystemwalker Centric Managerに通知するようになります。

ただし、後述する「回避できないケース」に合致する場合は除きます。

- ・ /etc/sysconfig/syslog

```
SYSLOGD_OPTIONS="-m N"
```

Nは任意の数字です。分を指定します。

また、上記を記述後は設定を反映させるために syslog を再起動してください。

```
# service syslog restart
```

この -m オプションを指定することで、syslogd は原則として毎回N分ごとにmessagesに「-- MARK --」という文字列を出力します(注)。この文字列はpriorityがinfoであるため、infoを明示的に通知対象にしない限り、Systemwalker Centric Managerに通知されることはありません。

(Systemwalker Centric Managerへの通知対象のメッセージについては[対処4](#)を参照。)

ただし、「-- MARK --」がmessagesに出力されたタイミングでsyslogdが溜め込んでいるメッセージを、すべて出力先のファイルに書き出すため、長時間Systemwalker Centric Managerに対してメッセージ通知が遅れることは無くなります。

注)

syslogdの仕様により、N分おきに必ず「-- MARK --」が出力されるわけではなく、「-- MARK --」出力予定時間の直前 "N分の半分以内" にログが出力された場合は、出力予定時に「-- MARK --」が出力されません。

回避できないケース

-m オプションを指定した場合でも、syslogd が毎回N分ごとにmessagesに「-- MARK --」を出力しないケースがあります。「-- MARK --」出力は、/etc/sysconfig/syslog の SYSLOGD_OPTIONS="-m n" で指定した数字(n) の半分の値のインターバル時間を設けています。

SYSLOGD_OPTIONS="-m 1" と指定した場合、インターバル時間は30秒となり、MARK 出力予定時間の直前 "30秒以内" にログが出力されると、出力予定時にMARKを出力しません。最後のログ出力から30秒経過後に、MARKを出力します。そのため、短時間の間に(例えば10秒間隔)でログが出力され続ける場合、MARKの出力は抑止されるため、回避することはできません。

以下に参考例を記載します。

SYSLOGD_OPTIONS="-m 1" と設定している場合です。

上記より、動作は以下のようになります。

ケース1)

```
/var/log/messages
:
Jun  2 15:33:01 hostname -- MARK --
Jun  2 15:33:05 hostname test-log1
Jun  2 15:33:06 hostname test-log2
Jun  2 15:34:01 hostname -- MARK --
:
```

この場合、MARK 出力予定時間 15:34:01 の30秒以内(15:33:31 ~ 15:34:01)にログが出力されていないため、予定通り"15:34:01"に MARK を出力します。

ケース2)

```
/var/log/messages
:
Jun  2 15:33:01 hostname -- MARK --
Jun  2 15:33:50 hostname test-log1
Jun  2 15:33:51 hostname test-log2
Jun  2 15:33:55 hostname last message repeated 9 times
Jun  2 15:33:55 hostname test-log1
Jun  2 15:34:00 hostname test-log2
Jun  2 15:34:30 hostname -- MARK --
:
```

この場合、MARK 出力予定時間 15:34:01 の30秒以内(15:33:31 ~ 15:34:01)にログが出力されている為、予定時間"15:34:01"にMARK を出力しません。

その後、最後のログ出力(15:34:00)から、30秒経過した15:34:30 に MARK を出力します。

9.2.10 クラスタシステムのメッセージが監視できない(メッセージ発生元が SafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

SafeCLUSTER、またはPRIMECLUSTERの運用管理ビューのIPアドレスが運用管理サーバから見えていますか。

V11.0L10/11.0 以降の場合

下記メッセージが出力されていないか、確認してください。

```
opagtd: 警告: 154: %1 への接続処理に失敗しました。再接続処理を行います(通信用IPアドレス:%2)
```

%1: 接続に失敗したメッセージ送信先ホスト名またはIPアドレス

%2: クラスタシステムの運用管理ビューが使用するIPアドレス、または、通信用IPアドレス定義コマンド(opasetip)で定義したメッセージ送信先システムとの通信時に使用するIPアドレス

対処方法

クラスタシステム上で、以下の手順で得られたIPアドレスに対して、運用管理サーバからpingが通るか確認します。

V11.0L10/11.0以降の場合で、“opagtd: 警告: 154:…”のメッセージが出力されているのであれば、“通信用IPアドレス:%2”に対して、運用管理サーバからpingが通るか確認します。

1. 以下のコマンドを実行します。

```
/etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam acsif
```

2. 以下のコマンドを実行し、IPアドレスを獲得します。

```
/usr/sbin/ifconfig インタフェース名
```

インタフェース名:1.で表示された名前

※IPアドレスは、コマンド結果の“inet XXX.XXX.XXX.XXX”の“XXX.XXX.XXX.XXX”です。

【例】

運用管理サーバ上で、“ping 123.123.123.1”を実行し、運用管理サーバから通信可能か確認する例を示します。

1. クラスタシステム上で、以下の操作を行います。

```
# /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam acsif
sys:acsif hme2
# /usr/sbin/ifconfig hme2
hme2:
flags=1000863<UP,BROADCAST,NOTRAILERS,RUNNING,MULTICAST,IPv4>
mtu 1500 index 2 inet 123.123.123.1 netmask fffffff0 broadcast 123.123.123.255 ether
1:1:1:1:1:1
```

2. 運用管理サーバ上で、pingを実行します。

```
ping 123.123.123.1
```

運用管理サーバから見えないIPアドレスとなっている場合、以下のように対処してください。

- SystemWalker/CentricMGR 5.0/5.1の場合

運用管理ビューが使用するIPアドレスを、運用管理サーバと通信可能なIPアドレスに、定義を変更してください。

- SystemWalker/CentricMGR 5.2/5.2.1の場合

運用管理ビューが使用するIPアドレスを、運用管理サーバと通信可能なIPアドレスに定義を変更するか、Systemwalker Centric Managerが使用するIPアドレスを変更してください。

Systemwalker Centric Managerが使用するIPアドレスの変更は、SafeCLUSTER上で以下の手順を実施してから、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

以下のファイルを作成します。“XXX”には、イベントの送信先となる運用管理サーバのIPアドレス、またはホスト名の文字列を設定します。なお、本設定ファイルはバックアップされないため、システム構築時に再度設定する必要があります。

```
/var/opt/FJSVsagt/tmp2/XXX.snd
```

ポイント

ファイル名

```
XXX.snd
```

※“XXX”には、イベントの送信先となる運用管理サーバのIPアドレス、または、ホスト名の文字列を設定します。大文字小文字も含め、メッセージ送信先に定義した文字列と同じ文字列にします。

使用用途

業務サーバが通信で使用する業務サーバ自身のIPアドレスを定義します。

SafeCLUSTERにSystemwalker Centric Managerがインストールされている場合、この定義が実施されないと、クラスタ管理画面用に定義されているIPアドレスを使用してメッセージ送信先と通信します。クラスタ管理画面用に定義されているIPアドレスを使用する通信に支障がある場合は、本定義により使用するIPアドレスを変更してください。

格納場所

```
/var/opt/FJSVsagt/tmp2
```

ファイル形式

IPAddress

パラメタ

IPAddress: 通信で使用する業務サーバ自身の物理IPアドレス

IPAddressは、半角英数字で指定します。

【例】

10.10.10.10

• Systemwalker Centric Manager 10.0以降の場合

運用管理ビューが使用するIPアドレスを、運用管理サーバと通信可能なIPアドレスに、定義を変更するか、Systemwalker Centric Managerが使用するIPアドレスを変更してください。

Systemwalker Centric Managerが使用するIPアドレスの変更は、SafeCLUSTER、またはPRIMECLUSTER上で以下の手順を実施してから、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

以下のコマンドを使用し、Systemwalker Centric Managerがメッセージ送信先システムと通信時に使用するSafeCLUSTER、またはPRIMECLUSTER上の物理IPアドレスを定義します。なお、本設定は異なるIPアドレスの環境へ資源をリストアされる際、本設定はリストアされないため、システム構築時に再度設定する必要があります。

```
/opt/systemwalker/bin/opasetip -n nodename -i IpAddr
```

-n *nodename*:

メッセージ送信先に指定した送信先のホスト名、またはIPアドレスを定義します。

大文字小文字も含め、メッセージ送信先システムに定義した文字列と同じ文字列にします。

-i *IpAddr*:

イベント送信元になる業務サーバの物理IPアドレスを設定します。物理IPアドレスを指定します。IpAddrに指定されたIPアドレスが登録されます。

※指定したIPアドレスが不当であった場合は下記メッセージが出力されます。その際は正しいIPアドレスで再設定してください。

```
opagtd: エラー: 290: 通信用IPアドレス定義コマンド(opasetip)で定義したIPアドレスが不当です。  
(IPアドレス:%1)
```

%1: opasetip(通信用IPアドレス定義コマンド) で設定したIPアドレス

【例】

一 条件

クラスタを構成するノードがNodeA、NodeBとします。

それぞれの条件を以下の表に示します。物理IPアドレスと論理IPアドレスは、運用管理サーバと通信ができるものとします。

	NodeA	NodeB
物理IPアドレス	128.10.10.1	128.10.10.2
論理IPアドレス	128.10.10.5	128.10.10.5
運用管理ビューが使用するIPアドレス	10.10.10.1	10.10.10.2
メッセージ送信先システム名	unyoukanri	unyoukanri

一 定義

- SystemWalker/CentricMGR 5.2/5.2.1の場合

NodeA:

```
ファイル名 : /var/opt/FJSVsgagt/tmp2/unyoukanri.snd  
設定値(ファイルの内容) : 128.10.10.1
```

NodeB:

```
ファイル名 : /var/opt/FJSVsgagt/tmp2/unyoukanri.snd  
設定値(ファイルの内容) : 128.10.10.2
```

- Systemwalker Centric Manager 10.0以降の場合

NodeA:

```
/opt/systemwalker/bin/opasetip -n unyoukanri -i 128.10.10.1
```

NodeB:

```
/opt/systemwalker/bin/opasetip -n unyoukanri -i 128.10.10.2
```

備考

ポイント

```
opagtd: ERROR: 290: IP address specified in the command (opasetip) is invalid. (IP address:%1)
```

```
opagtd: エラー: 290: 通信用IPアドレス定義コマンド(opasetip)で定義したIPアドレスが不当です。(IPアドレス:%1)
```

【メッセージの意味】

opasetip(通信用IPアドレス定義コマンド) で設定したIPアドレスが不当です。

【パラメタの意味】

%1: opasetip(通信用IPアドレス定義コマンド) で設定したIPアドレス

【対処方法】

正しい、物理IPアドレスにてopasetip(通信用IPアドレス定義コマンド)を実施してください。コマンドで定義を実施した場合は、以下の操作を実施してください。

- メッセージ送信先と常時接続で接続している場合
Systemwalker Centric Managerの再起動
- メッセージ送信先と必要時接続で接続している場合
Systemwalker Centric Managerの再起動
下記コマンドの実行

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

対処2

確認ポイント

ノード名引継ぎ機能を使用していますか。

対処方法

クラスタシステムを構成する両ノードで、以下のコマンドを実行してください。

```
uname -n
```

ノード名引継ぎ機能を使用している場合、コマンド結果で同一のホスト名が表示されます。この場合は、物理ノードを識別できるノード名で通知するため、ノード名引継ぎ機能使用時の環境設定を業務サーバの通信環境を定義します。

以下の手順を運用系、待機系で、実施してください。

1. 運用管理クライアントで、スタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]-[環境設定]-[システム監視設定]、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]-[システム監視設定]を選択します。
→[システム監視設定[接続先設定]]ダイアログボックスが表示されます。
2. 対象の業務サーバを指定します。
→[システム監視設定]ダイアログボックスが表示されます。
3. [通信環境定義]ボタンをクリックします。
→[通信環境定義]ダイアログボックスが表示されます。
4. 自ホスト名を定義します。
[自ホスト名]タブから、自ホストを選択し、物理ノードを識別できるノード名を設定します。
5. 業務サーバのhostsファイルと、部門管理サーバ、運用管理サーバのhostsファイルに、物理ノードを識別できるノード名(4.で設定したホスト名)を追加します。

対処3

確認ポイント

SafeCLUSTERが出力するメッセージを監視できますか。

対処方法

SafeCLUSTERのメッセージは、以下のように出力されます。

以下の情報を参考にし、/etc/syslog.confの定義を見直してください。

/etc/syslog.confの設定方法については、“[syslog.confの定義](#)”を参照してください。

発生時期	カテゴリ facility	エラー種別 level	メッセージテキスト	監視設定	発生元
リソース異常による状態遷移	daemon	err(*1)	2905:リソース(resource リソースID:rid)に異常が発生しました。	初期値で監視対象(*2)	運用系
ノード異常による状態遷移	daemon	err(*1)	2906:ノード(node)に異常が発生しました。	初期値で監視対象(*2)	待機系

*1):SafeCLUSTER1.1/1.0.3の場合は、“notice”

*2):SafeCLUSTER1.1/1.0.3の場合は、syslog.confの変更が必要

ポイント

syslog.confの定義

syslogからSystemwalker Centric Managerへ通知される条件を、変更するために、syslogdの環境定義ファイル/etc/syslog.confをSystemwalker Centric Managerのインストール時に自動的に設定します。

- SystemWalker/CentricMGR 5.0/5.1 : Solaris /HP-UX/AIX版の場合

```
*.err;kern.debug;auth.notice /var/opt/FJVSsagt/fifo/slg
```

- Systemwalker Centric Manager 5.2以降 : Solaris /HP-UX/AIX版の場合

```
*.warning /var/opt/FJVSsagt/fifo/slg
```

- Systemwalker Centric Manager 5.2以降 : Linux版の場合

```
*.warning |/var/opt/FJVSsagt/fifo/slg
```

注意

- Systemwalker Centric Managerに受け渡すメッセージを変更する場合には、メッセージの定義部分を任意に変更してください。
- Solarisでは、/etc/syslog.confに空白を記述すると、syslogdが正しくメッセージをSystemwalker Centric Managerに通知しません。パラメタの区切りは、タブを使用してください。
- /etc/syslog.confを変更した場合は、syslogdに変更を通知するかsyslogdを再起動します。
なお、再起動方法は“[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)” – “[対処4](#)”を参照してください。
- 定義部分と、/var/opt/FJVSsagt/fifo/slgの間は必ずタブだけで区切ってください。
- /var/opt/FJVSsagt/fifo/slgの後ろは必ずすぐに改行してください。空白文字などは入力できません。
- この定義をコメントアウトしないでください。

対処4

確認ポイント

PRIMECLUSTERが出力するメッセージを監視できますか。

対処方法

PRIMECLUSTERのRMSのメッセージをsyslogに出力する設定を行ってください。設定方法については、PRIMECLUSTERのマニュアルを参照してください。

発生時期	カテゴリ facility	エラー種別 level	メッセージテキスト	監視設定	発生元
リソース異常による 状態遷移	daemon	err	Resource リソース名 transitioned to a Faulted state due to a child fault.	初期値で 監視対象	運用系

9.2.11 クラスタシステムのメッセージが監視できない(メッセージ発生元がOracle Solaris Clusterの場合)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降

確認ポイント

Oracle Solaris Clusterが出力するメッセージを監視できますか。

対処方法

Oracle Solaris Clusterのメッセージは、以下のように出力されます。

以下の情報を参考にし、/etc/syslog.confの定義を見直してください。

/etc/syslog.confの設定方法については、“[syslog.confの定義](#)”を参照してください。

発生時期	カテゴリ facility	エラー種別 level	メッセージテキスト	監視設定	発生元
リソースグループの停止	daemon	notice	resource group リソースグループ名 state on node change RG_OFFLINE	syslog.confの変更が必要	運用系
リソースの停止	daemon	notice	resource CentricMGR_STOREAGE state on node sf6800-I change to R_STOPPING	syslog.confの変更が必要	運用系

ポイント

syslog.confの定義

syslogからSystemwalker Centric Managerへ通知される条件を、変更するために、syslogdの環境定義ファイル/etc/syslog.confをSystemwalker Centric Managerのインストール時に自動的に設定します。

- SystemWalker/CentricMGR 5.0/5.1 : Solaris /HP-UX/AIX版の場合

```
*.err;kern.debug;auth.notice /var/opt/FJSVsagt/fifo/slg
```

- Systemwalker Centric Manager 5.2以降 : Solaris /HP-UX/AIX版の場合

```
*.warning /var/opt/FJSVsagt/fifo/slg
```

- Systemwalker Centric Manager 5.2以降 : Linux版の場合

```
*.warning |/var/opt/FJSVsagt/fifo/slg
```

注意

- Systemwalker Centric Managerに受け渡すメッセージを変更する場合には、メッセージの定義部分を任意に変更してください。
- Solarisでは、/etc/syslog.confに空白を記述すると、syslogdが正しくメッセージをSystemwalker Centric Managerに通知しません。パラメタの区切りは、タブを使用してください。
- /etc/syslog.confを変更した場合は、syslogdに変更を通知するかsyslogdを再起動します。なお、再起動方法は“[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)” – “[対処4](#)”を参照してください。
- 定義部分と、/var/opt/FJSVsagt/fifo/slgの間は必ずタブだけで区切ってください。
- /var/opt/FJSVsagt/fifo/slgの後ろは必ずすぐに改行してください。空白文字などは入力できません。
- この定義をコメントアウトしないでください。

9.2.12 メール連携により通知したメッセージが運用管理サーバのSystemwalkerコンソールに表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

[メール連携環境設定](画面)の設定は正しいですか。

対処方法

メールを受信するSystemwalker Centric Managerの導入サーバで、[メール連携環境設定](画面)を確認してください。

定義がされていない、または誤っている場合は、[メール連携環境設定](画面)を再定義してください。なお、定義方法の詳細はオンラインヘルプを参照してください。

対処2

確認ポイント

[メール連携環境設定]-[監視間隔]に大きな値が設定されていませんか。

原因

メール連携機能により送信されたメッセージは、[メール連携環境設定]-[監視間隔]に定義された間隔で受信されます。

対処方法

[監視間隔]に大きな値が設定されると、メッセージが大幅に遅延します。この場合、指定する値を適切なものに変更してください。

対処3

確認ポイント

一般のメール受信ソフトで、[メール連携環境設定](画面)に定義したPOP3サーバ上から、メール連携機能より通知されたメールを受信または削除していませんか。

対処方法

一般のメール受信ソフトでメールの受信は行わないでください。

対処4

確認ポイント

メール送信サーバとメール受信サーバで、文字コードに違いがありませんか。

ただし、メール受信サーバが、Systemwalker Centric Manager V11.0L10以降の場合は除きます。

原因

メール受信サーバがWindows版で、メール送信サーバの文字コードがEUCの場合は、メール受信サーバ(Windows版)にコード変換機能を導入する必要があります。

対処方法

- ADJUST、SystemWalker/CharsetMGRがインストールされていない場合
“[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)”の“[対処1](#)”を参照し、対処してください。
- ADJUST、SystemWalker/CharsetMGRがインストールされている場合
“[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)”の“[対処2](#)”を参照し、対処してください。

対処5

確認ポイント

メール送信サーバで、アクション環境の設定が実施されていますか。

対処方法

メッセージを送付する側のサーバ(メール送信サーバ)で、メールを送付するための環境定義([アクション環境設定]ダイアログボックスの[メール]タブ)が実施されているか確認してください。定義されていない場合は、環境定義を実施してください。

対処6

確認ポイント

メール送信サーバで、メール連携をするための定義が実施されていますか。

対処方法

メッセージを送付する側のサーバ(メール送信サーバ)で、[アクション定義]ダイアログボックスの[メール]タブから、[メール連携用データの送信]チェックボックスに、チェックされているか確認してください。チェックされていない場合は、このチェックボックスをチェックしてください。

対処7

確認ポイント

メールサーバ(POP3サーバ)に、2つ以上の添付ファイルが付いたメール連携のメールデータが存在しませんか。

原因

メール連携により通知されたメールデータ(Subjectが「This mail is sent by Event-Monitoring-Function service」であるデータ)には、以下の本文の後に、実際のイベントデータを含む添付ファイルが1つだけ付いています。その添付ファイル以外に余分な添付ファイルが付いていると、Systemwalker Centric Managerではそのメールデータを読み込めなくなります。メールデータに余分な添付ファイルが付いてしまう原因としては、メールサーバ等のメール送信時の設定等が挙げられます。

[本文]

```
vol=XX
lev=XX
code=XXXX
This mail is sent to Mail-Monitor from Event-Monitor.
```

対処方法

メール送信時に、メールデータに余分な添付ファイルが付加されない様、メールサーバ等の設定等を変更してください。

9.2.13 opfmtコマンドのメッセージが監視できない (その1)

エラーメッセージ

```
MpOpaddMgr: WARNING: 12: Event of unregistered type was received. (type=, hostname=XXXX)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～10.1
 - HP-UX版:5.1～10.0
 - AIX版:10.0
 - Linux版:5.2～V10.0L20
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1

確認ポイント

運用管理サーバのイベントログ、またはシステムログに上記のメッセージが出力されていませんか。

原因

“opfmt”コマンドのメッセージには、監視イベント種別が付加されないため発生します。

対処方法

UNIX系システムで実行された“opfmt”コマンドのメッセージは、デフォルトの監視イベント種別が付いていません。

このようなメッセージの場合は、[イベント監視の条件定義]ウィンドウで、発生したメッセージとイベント監視の条件が一致していると思われる定義行を選択し、[アクション定義]ダイアログボックスの[メッセージ監視]タブで、監視イベント種別の[種別指定]を選択し、正しい監視イベント種別を指定してください。

9.2.14 opfmtコマンドのメッセージが監視できない (その2)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

- ・ コマンドをTTY端末より発行の場合
OSとTTY端末のLANG(文字コード)が一致していますか。
- ・ コマンドをユーザアプリケーションより発行の場合
OSとユーザアプリケーションが実行している環境でLANG(文字コード)が一致していますか。

原因

OSと“opfmt”コマンドの発行環境のLANG設定が一致していないため発生します。

対処方法

- ・ コマンドをTTY端末より発行の場合
OSとTTY端末のLANG(文字コード)が一致しているか、TTY端末のLANG(文字コード)を確認してください。一致していない場合、OSと同一のLANGを設定してください。
- ・ コマンドをユーザアプリケーションより発行の場合
OSとユーザアプリケーションが実行している環境でLANG(文字コード)が一致しているか、ユーザアプリケーションの実行環境のLANG(文字コード)を確認してください。一致していない場合、OSと同一のLANGを設定してください。

対処2

確認ポイント

“出力されたメッセージと、監視イベント一覧に表示されるメッセージが違う”の対処1、対処2について確認してください。

対処3

確認ポイント

“監視イベント一覧に文字化けしたメッセージが表示される”について確認してください。

9.2.15 主系サーバのメッセージが従系サーバに通知されない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

運用管理サーバを連携型で二重化して運用していますか。

[システム監視設定]ウィンドウの[通信環境定義]ダイアログボックスから[メッセージ送信先定義]を表示し、各ホストを確認してください。

主系サーバのホスト名:AAA、従系サーバのホスト名:BBBの場合、従系サーバのメッセージ送信先定義としてAAA、主系サーバのメッセージ送信先定義としてBBBが定義されていることを確認してください。

原因

メッセージ送信先定義に誤りがあるため発生します。

対処方法

主系サーバと従系サーバで、MpFwSetDupコマンドを実行し、通信先を定義します。定義が完了後、メッセージで定義を確認してください。

9.2.16 正規表現を使用してイベント監視の条件定義を設定したが、想定した動作をしない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

正規表現が正しく設定されているか確認してください。

原因

正規表現が正しく設定されていません。

対処方法

正しい正規表現に修正してください。

備考

- 正規表現の使用方法は、“[正規表現の使用方法がわからない](#)”を参照してください。
- 正規表現の"*"は任意の文字列を意味するものではありません。
直前の1文字の0回以上の繰り返しを表します。そのため、直前の1文字が含まれないパターンも一致します。

9.2.17 正規表現を使用してイベント監視の条件定義を設定したが、想定した動作をしない ("¥"を付加した場合)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
 - Linux for Itanium版:V12.0L10～V13.3.0
- Systemwalker Event Agent
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

正規表現文字以外の文字の前に“¥”を付けていませんか？

原因

正規表現文字以外の一般の文字の前に“¥”を付けると、“¥”+“一般文字”として解釈されます。

例)

“abc¥d”と定義した場合は、メッセージ中の“abcd”という文字列には一致しません。

メッセージ中の“abc¥d”という文字列に一致します。

Linux以外のOSでは、“abc¥d”と定義した場合は、メッセージ中の“abcd”という文字列には一致して、“abc¥d”には一致しません。

対処方法

正規表現文字以外の一般の文字の前に“¥”は付けないでください。

備考

正規表現の使用方法は、“[正規表現の使用方法がわからない](#)”を参照してください。

9.2.18 Windowsのイベントログ(セキュリティ)に出力されたメッセージが表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.5.0以降

確認ポイント

opaevt(イベントログ監視設定ファイル)において、イベントログ(セキュリティ)は、Systemwalker Centric Managerでの監視対象として定義されていますか？

原因

Systemwalker Centric Manager V13.5.0以降では、opaevt(イベントログ監視設定ファイル)において、イベントログ(セキュリティ)を監視対象外とする定義をデフォルトとしています。

そのため、デフォルト定義を変更しない限り、イベントログ(セキュリティ)は、Systemwalker Centric Managerでの監視対象とはなりません。

対処方法

opaevt(イベントログ監視設定ファイル)において、イベントログ(セキュリティ)が、Systemwalker Centric Managerでの監視対象となるように定義を変更してください。

opaevt(イベントログ監視設定ファイル)については、各バージョンレベルの“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

9.3 「イベント監視の条件定義」に関するトラブルシューティング

9.3.1 イベント監視の条件定義の内容が意図するものではない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降

- AIX版:10.0以降
- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

ポリシー配付をしていませんか。

原因

ポリシー配付した場合、そのサーバ自身で定義した内容は、ポリシー配付された定義で上書きされます。

対処方法

イベント監視の条件定義を変更する場合、以下のどちらかの運用に統一してください。

- 運用管理サーバからポリシー定義／配付で定義変更する。
- 配付先の各サーバ自身で定義変更する。

対処2

確認ポイント

Systemwalkerコンソールイベントメニューの「アクション定義」、「監視対象からはずす」、「アクション定義の追加」を行っていませんか。

原因

「アクション定義」、「監視対象からはずす」、「アクション定義の追加」を行った場合、イベント監視の条件定義に設定内容が追加されます。

対処方法

不用な定義の場合は削除してください。

対処3

確認ポイント

ポリシー定義を再起動時適用で適用していませんか。

原因

ポリシー定義を再起動時適用で適用したため、イベント監視の条件定義はポリシー配付前の定義で表示されました。

対処方法

Systemwalker Centric Managerの再起動を行ってください。

対処4

確認ポイント

auseadef コマンドを連続発行していないか確認してください。

対処方法

auseadefコマンドを連続で発行しないようにしてください。

備考

auseadefコマンドをバッチやシェルで実行している場合は、連続発行にならないように、バッチやシェルを修正してください。

対処5

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager と Systemwalker Operation Manager の混在環境において、mprso(Systemwalker Operation Manager リストアコマンド)でデータの復元をしていませんか。

原因

イベント監視機能は、Systemwalker Centric Manager と Systemwalker Operation Manager の共通の機能です。イベント監視の条件定義は、それぞれのバックアップ・リストアの対象であるため、Systemwalker Operation Manager のリストア時に、イベント監視の条件定義が復元されました。

対処方法

Systemwalker Operation Manager のバックアップデータより、新しい Systemwalker Centric Manager のバックアップデータが存在する場合は、mprsコマンドを使用して復元してください。

9.3.2 イベント監視の条件定義画面が起動できない

対処1

エラーメッセージ

[イベント監視の条件定義]画面起動時に、以下のエラーダイアログが表示されます。

XXXXにおいてイベント監視の条件定義画面が既に起動中です。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

エラーダイアログの XXXX の部分に表示されたホストで、[イベント監視の条件定義]画面を起動していませんか。

対処方法

起動中の[イベント監視の条件定義]画面を終了してください。

対処2

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

[イベント監視の条件定義]画面の起動中に、クライアント端末を強制切断したことはありませんか。

また、サーバ側に以下のメッセージが表示されていませんか。

MpAosfB: ERROR: 7008: ソケットによるデータの受信に失敗しました。

対処方法

サーバ側のSystemwalker Centric Manager を再起動してください。

対処3

エラーメッセージ

Systemwalker Centric Manager 起動操作直後に、[イベント監視の条件定義]画面を起動した場合に、以下のエラーダイアログが表示される。

XXXXにおいてイベント監視の条件定義画面が起動中です。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Manager が起動完了する前に[イベント監視の条件定義]画面を起動したため、表示されるエラーメッセージです。

対処方法

対処は不要です。

しばらく待って、Systemwalker Centric Manager 起動完了後に、[イベント監視の条件定義]画面を起動してください。

対処4

エラーメッセージ

```
イベント監視機能サービスとの接続に失敗しました。
ホスト名：HOSTNAME
理由：Connection timed out(10060)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ファイアウォール等の設定で、以下のポートが通信不可になっていないか確認してください。

```
9371/tcp
```

対処方法

クライアントとサーバ間において、下記ポートで双方向の通信が可能な状態にしてください。ファイアウォールを設定している場合は、許可するようにしてください。

```
9371/tcp
```

対処5

エラーメッセージ

```
XXXXXにおいてイベント監視の条件定義画面が既に起動中です。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V11.0L10

- Solaris版:5.0～11.0
- HP-UX版:5.1～11.0
- AIX版:10.0～11.0
- Linux版:5.2、V10.0L10～V11.0L10
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20～V11.0L10
 - Solaris版:10.1～11.0
 - Linux版:V11.0L10

確認ポイント

以下の状態のときにネットワークが切断されなかったか確認してください。

- [イベント監視の条件定義]画面を起動中である。または
- [イベント監視の条件定義]画面にて定義更新中である。または
- [イベント監視の条件定義]画面を終了中である。または

切断される原因としては、以下のような場合があります。

- クライアントがハングした。
- クライアントの電源が落ちた。(シャットダウン処理がされなかった)
- サーバとクライアント間のLANケーブルが故障した。
- サーバとクライアント間のHUBの電源が落ちた／故障した。
- サーバとクライアント間で、ネットワークトラブルが発生した。

原因

サーバとクライアントとのネットワークに異常が発生した。

対処方法

サーバ側のSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

クライアントの定義画面は、強制終了させてください。

対処6

エラーメッセージ

接続先のイベント監視条件定義の形式が正しくありません

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

イベント監視の条件定義をコマンドで移入する場合の定義ファイルの文字コードは正しいですか。例えば、定義ファイルをFTP等のファイル転送時にコード変換していませんか。

原因

イベント監視の条件定義の文字コードは、SJISコードです。FTP等でのファイル転送時に、コード系が変更、または改行コードが付加される場合があります。そのファイルを指定して、コマンド(aoseadef, poin1, poin2)を実行したためエラーとなっています。

対処方法

コマンドに指定する定義ファイルは、文字コードをSJISコードにしてください。

対処7

エラーメッセージ

```
イベント監視機能サービスとの接続に失敗しました。
ホスト名: HOSTNAME
理由: Connection refused(10061)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

以下の画面接続先の定義サーバプロセスは起動していますか。

- Windows版
サービス名: Systemwalker MpAosfB (f3crhdsw.exe)
- UNIX版
プロセス名: f3crhdsv

原因

画面接続先の定義サーバプロセスが起動していません。

対処方法

画面接続先のマシンにおいて、scentricmgrコマンドを実行し、定義サーバのプロセスを起動してください。

対処8

エラーメッセージ

```
接続先のイベント監視条件定義の形式が正しくありません。
```

確認ポイント

定義をコピー&ペーストで行っていないか確認してください。

上記に当てはまる場合は、監視条件定義ファイルに改行が含まれないか確認してください。

原因

監視条件定義ファイルに不要な改行コードが含まれています。

対処方法

- 定義のバックアップがある場合は、定義ファイルをリストアしてください。

- aoseacsvコマンドで定義ファイルをCSV出力して、不要な改行コードを削除してください。

備考

イベント監視条件のCSVファイルを使用して定義変更を行う場合、FTPなどでファイル転送する際に不要な改行コードが含まれることがあります。

9.3.3 イベント監視の条件定義画面の起動時にエラーが発生する

エラーメッセージ1

以下のエラーダイアログが表示されます。

カレンダー名取得に失敗しました。カレンダーサービスが起動していない可能性があります

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Operation Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.0以降
 - AIX版:5.0以降
 - Linux版:5.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

- Windows版の場合
 - 以下のサービスが起動しているか確認してください。
 - Systemwalker MpJmCal
- UNIX版の場合
 - 以下のプロセスが起動しているか確認してください。
 - f3crhes2

対処方法

- Windows版の場合
 - Systemwalker MpJmCal サービスが起動していない場合は、サービスを起動してください。

- Solaris版の場合
 - 5.0～5.2であり、かつ、クラスタ運用の待機系システムの場合、カレンダーサービスは起動されません。イベント監視の条件定義のアクション条件は、カレンダーを使用せずに設定してください。
 - 上記以外の場合、Systemwalker Operation Manager を起動してください。
- HP-UX版/AIX版/Linux版の場合
 - Systemwalker Operation Manager を起動してください。

エラーメッセージ2

接続先のバージョンが一致しないため、正常に動作しない場合があります

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

イベント監視の条件定義画面と、接続先サーバのバージョンレベルで、イベント監視の条件定義画面の方が古いバージョンレベルではありませんか。

原因

旧バージョンレベルの画面から新バージョンレベルのサーバに対して接続したために警告メッセージが出力されました。

対処方法

画面の接続先と同じか、それ以降のバージョンレベルの画面から接続してください。

旧バージョンレベルの画面から、新バージョンレベルのサーバに対して接続した場合、新バージョンレベルで機能追加している定義については、画面表示されません。そのため、定義の変更を行うと、画面に表示されない定義(機能追加している定義)については、初期値になってしまう場合がありますので注意が必要です。定義変更を行わなければ問題ありません。

エラーメッセージ3

MpAosfB: エラー: 5005:定義ファイルの構造が異常です。ファイル名:xxxx

対処1

確認ポイント

再度、イベント監視の条件定義画面を起動したときに同様のエラーが発生しますか。

原因

再度イベント監視の条件定義画面を起動したときに同様のエラーが発生しない場合は、一時的なサーバの高負荷が原因です。

対処方法

同様なエラーが発生しない場合、対処は不要です。

同様なエラーが発生した場合、保守情報収集ツールで、イベント監視の資料を採取後、技術員に連絡してください。

対処2

確認ポイント

abevtactファイルに不正な改行が含まれていないか確認してください。

原因

abevtactファイルに不正な改行が含まれています。

対処方法

abevtactファイル内の不正な改行を削除してください。

備考

コピー&ペーストを使用すると不正な改行が含まれることがあります。

9.3.4 イベント監視のテスト支援ログが出力されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager の運用中に、FILTERnn.log ファイルを別ディレクトリに移動していませんか。

対処方法

FILTERnn.log ファイルを別ディレクトリに移動しないでください。待避を行いたい場合は、ファイルをコピーしてください。

9.3.5 イベント監視条件のCSVファイルを読み込むことができない

auseadefコマンドでイベント監視条件のCSVファイルを読み込むことができない。

エラーメッセージ

```
auseadef: ERROR: Because the version of the input file is different,it is not possible to read.
auseadef: ERROR: The input file did not exist or the error occurred by operating the input file.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30
 - Solaris版:5.2
 - Linux版:5.2

原因

イベント監視条件のCSVファイルの形式が正しくない。

Excelで編集しCSV形式で保存した場合、以下のように保存されるため、形式不当となります。

1行目のバージョンの記述の後ろに","(カンマ)が付加されます。また、文字列は,"""(ダブルクォート)が削除されます。

- 正しい形式

```
V1.00
1,0,2,0,0,0,"SY:",0,0,0,,,,,1,1,"システム",0,0,30,30,0,0,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,1
```

- Excelで編集し、保存した場合

```
V1.00,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
1,0,2,0,0,0,SY:,0,0,0,,,,,1,1,システム,0,0,30,30,0,0,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,1
```

対処1

確認ポイント

1行目の定義ファイルバージョンの後ろに","(カンマ)が追加されていませんか。

ExcelでCSVファイルを編集し、保存している場合、","(カンマ)が追加されている場合があります。

対処方法

イベント監視条件のCSVファイルの1行目には、定義ファイルバージョンのみを記述してください。

対処2

確認ポイント

文字列を指定する項目が""(ダブルクォート)で囲まれているか確認してください。

ExcelでCSVファイルを編集し、保存している場合、""(ダブルクォート)が削除されている場合があります。

対処方法

“Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル”の“イベント監視条件のCSVファイル”の“定義表示形式”に記載されているとおりに記述してください。

ポイント

CSVファイルの編集手段

テキストエディタにおいて、編集し保存してください。

または、Excelにおいて編集したのち、テキストエディタにおいて、イベント監視条件のCSVファイルの形式に修正してください。

9.4 リモートコマンドに関するトラブルシューティング

9.4.1 リモートコマンドのコマンド応答がエラーとなる、またはリモートコマンドウィンドウが表示できない

エラーメッセージ

```
コマンド発行先システムと接続されていません
下位システムのシステム監視エージェントサービスが停止しているため、コマンドが投入できません
```

※上記メッセージはリモートコマンドウィンドウ、opacmdrev(リモートコマンド検索コマンド)の結果に表示されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

リモートコマンドが発行できるシステムですか。

原因

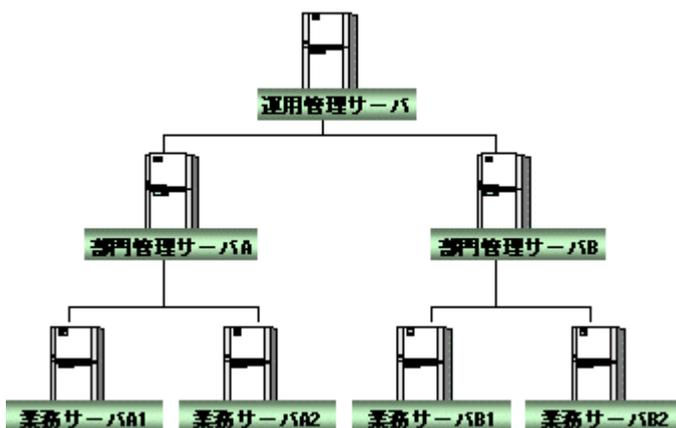
リモートコマンドが発行できるシステムは、以下の2つです。

- 自システム
- 論理的通信構造によって接続している自システムの下位システム

対処方法

【例】

以下の構成となっている場合、部門管理サーバAからリモートコマンドの発行対象にできるのは、部門管理サーバA、業務サーバA1、および業務サーバA2になります。



対処2

確認ポイント

運用管理サーバから被監視サーバに対して、リモートコマンドが投入できますか。

原因

以下の条件のどれか1つに該当した場合、運用管理サーバから被監視システムに対して、リモートコマンドが投入できない場合があります。

- 部門管理サーバ、業務サーバ、イベント監視機能をインストールしたクライアント、またはイベント監視機能をインストールしたヘルプデスクサーバの導入時に、運用管理サーバが未起動であった場合
- メッセージ送信先システムで定義されているサーバとの通信が不可能であった場合
- イベント通知先の設定で、[通知先へは必要な時だけ接続する(必要時接続)]を選択した場合

対処方法

被監視サーバで、以下のコマンドを実行し、運用管理サーバと被監視サーバの間の通信経路を確立させてください。

- Windows版の場合

```
opaconstat -a
```

- UNIX版

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

対処3

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerとネットワークの設定で、名前の不整合はありませんか。

対処方法

リモートコマンドを実行する場合、以下のインストール種別では、Systemwalker Centric Managerの自ホスト名取得方法で取得した名前と、システムのネットワーク設定による名前を統一して設定してください。

- 運用管理サーバ
- 部門管理サーバ
- 業務サーバ
- イベント監視機能をインストールしたクライアント
- イベント監視機能をインストールしたヘルプデスクサーバ

システムのネットワーク設定と、Systemwalker Centric Managerの自ホスト名取得方法定義に不整合がある場合、運用管理サーバから上記のサーバやクライアントにリモートコマンドが投入できません。

ホスト名の不整合により、リモートコマンドが実行できない場合は、以下のどちらかの対処方法を実施してください。

- [システム監視設定]ウィンドウの[通信環境定義]ダイアログボックスで、自ホスト名の取得方法をシステムの設定に合わせたあと、Systemwalker Centric Managerを再起動します。
- システム設定を自ホスト名取得方法の定義に合わせたあと、ノード検出を再実施します。

対処4

確認ポイント

メッセージ送信先システムの定義内容は、正しいですか。

対処方法

リモートコマンド発行先の[通信環境定義]ダイアログボックスにある、メッセージ送信先システムの定義内容を確認してください。

- ネットワーク構成は正しいですか

メッセージ送信先システムに定義したホストに、pingが通るか確認してください。

pingが通らない場合、ネットワーク構成を見直してください。

- 監視サーバと被監視サーバ間にFirewallがありますか

メッセージ発生元のホスト(被監視サーバ)から、メッセージ送信先システムに定義したホスト(監視サーバ)までの間にFirewallが存在するか確認してください。

Firewallが存在する場合は、以下のポートの通信を許可してください。

9294/TCP 9294/UDP

- メッセージ送信先システムの定義が、ループする定義になっていませんか
この場合は、システム構成(メッセージ送信先システム)を見直してください。

V11.0L10/11.0以降の場合

下記メッセージが出力される場合があります

[Windows版の場合]

MpOpagt: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください
--

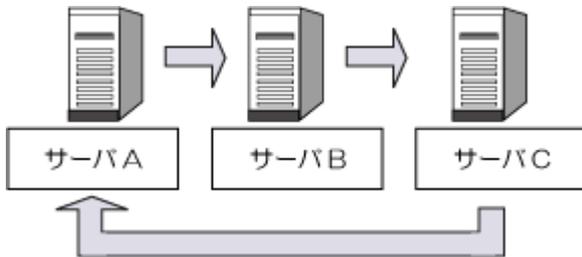
[UNIX版の場合]

opagtd: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください

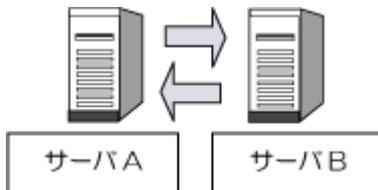
%1:ホスト名

%2:IPアドレス

【例1】



【例2】

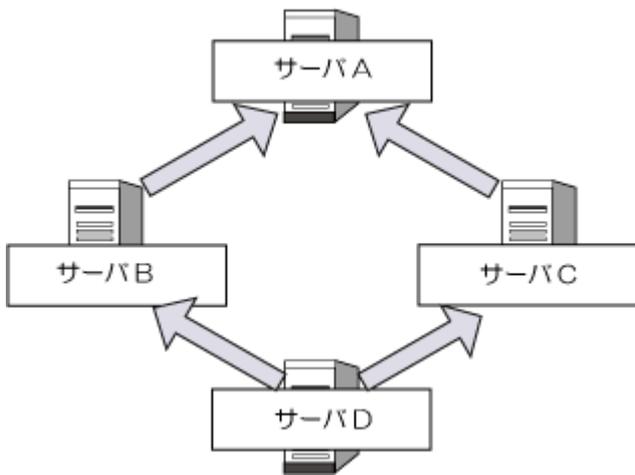


←: A、Bの[通信環境定義]-[接続]-[接続詳細]-[中継機能]が“中継する”になっている場合

- メッセージ送信先システムの定義が、複数の通信経路を経由し、コマンド発行元サーバに接続される定義になっていませんか
複数の通信経路を経由する接続形態は、サポートしていません。接続経路は1つとなるように定義してください。

【例】

Dの送信先の定義には、B経由とC経由があります。



対処5

確認ポイント

以下の手順で、各ホスト名の設定を確認します。

- Systemwalkerコンソール上で、以下のノードのホスト名（ノードプロパティの[ネットワーク]タブに表示されているホスト名）を確認します。
 - リモートコマンド発行先のホスト名
 - 運用管理サーバとリモートコマンド発行先の間にある、部門管理サーバのノードのホスト名（存在する場合のみ）
- リモートコマンド発行先において、[通信環境定義]-[自ホスト名]タブの設定により決まるホスト名を確認します。
opamsgrvコマンドを実行した場合に、表示されるメッセージの前に付加されているホスト名がこれに該当します。
- 部門管理サーバがある場合は、2.と同じ方法でホスト名を確認します。

1.と2.で確認したリモートコマンド発行先のホスト名は一致していますか？

また1.と3.で確認した部門管理サーバのホスト名は一致していますか？

原因

確認ポイントで確認した各ホスト名が一致しない場合、リモートコマンドの発行ができません。

これらのホスト名の不一致は、主にノード検出機能を使用している場合に、以下が原因となって発生します。

- リモートコマンド発行先の上位サーバ（部門管理サーバあるいは運用管理サーバ）において、hosts、DNS、nsswitch.conf等で名前解決されるリモートコマンド発行先のホスト名が、リモートコマンド発行先の[通信環境定義]-[自ホスト名]タブの設定により決まるホスト名と異なっている。
- 部門管理サーバの上位サーバ（運用管理サーバ）において、hosts、DNS、nsswitch.conf等で名前解決される部門管理サーバのホスト名が、部門管理サーバの[通信環境定義]-[自ホスト名]タブの設定により決まるホスト名と異なっている。

これは、ノード検出機能で検出されるノードに設定されるホスト名には、そのノードの上位サーバにて名前解決されるホスト名が設定されるためです。

対処方法

以下の手順で対処してください。

- リモートコマンド発行先および部門管理サーバにおいて[通信環境定義]-[自ホスト名]タブの設定により決まるホスト名と、その上位サーバで名前解決される、リモートコマンド発行先および部門管理サーバのホスト名が一致するように設定します。
- ホスト名が不一致となっていた、リモートコマンド発行先あるいは部門管理サーバにおいて、以下のコマンドを実行します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -a
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

3. 確認ポイントに示した内容において、各ホスト名が一致していることを確認します。
4. リモートコマンドを発行します。

対処6

確認ポイント

[アクション定義(リモートコマンド)]の設定によるリモートコマンドが多発していませんか。

原因

メッセージが大量に発生し、メッセージに対する[アクション定義(リモートコマンド)]の設定によるリモートコマンド発行依頼が多発したことが原因です。リモートコマンド発行依頼が多発した場合、受付側であるシステム監視エージェントにかかる負荷が高くなり、リモートコマンド発行依頼が失敗することがあります。

対処方法

システム監視エージェントに掛かる負荷を分散させるために、[アクション定義(リモートコマンド)]の設定にて、自サーバに対してリモートコマンドを発行する設定をしている場合は、リモートコマンドではなく、アプリケーション起動を使用するようにアクション定義を変更してください。(注)

アプリケーション起動についてはシステム監視エージェントに対する負荷はかかりません。

注) 自サーバに対するアクション定義のみ変更してください。下位サーバに対するアクション定義は除きます。

対処7

確認ポイント

リモートコマンドの発行先システムにおいて、[通信環境定義]-[メッセージ送信先]に指定された接続方法が「必要時接続」である場合、ポート「9294/udp」の受け入れは許可されていますか。

原因

「必要時接続」である被監視システムに対してリモートコマンドを発行する場合、発行側システムからポート「9294/udp」を使用して被監視システムに接続することがあります。(注)

この場合、被監視システム側でファイアウォール等によりポート「9294/udp」を受け入れる設定になっていないと、エラーメッセージが表示されます。

注) 発行側システムからポート「9294/udp」を使用して被監視システムに接続するのは、「必要時接続」のパスが未接続のときにリモートコマンドを発行する場合です。「必要時接続」のパスが接続中の場合は、ポート「9294/udp」を使用しての接続は行われません。

なお、「必要時接続」のパスが接続中の状態とは、以下の状態を指します。

- ・ 被監視システム側でイベントが発生した契機で、ポート「9294/tcp」を使用した接続(被監視システムから発行側システムへの接続)が行われている。かつ、
- ・ 最後のイベント発生の時刻から、[通信環境定義]-[接続]-[パス切断時間]がまだ経過していない状態。

対処方法

リモートコマンドの発行先システムにおいて、ポート「9294/udp」の受け入れを許可するようにファイアウォール等を設定してください。

注意事項

- リモートコマンドより発行されるコマンドは、制御端末から切り離された状態で実行されます。このため、以下のコマンドは、使用できません。
 - ウィンドウコマンド (notepadなど)
 - 制御端末を必要とするコマンド (ps, passwd, xcopy, prstatなど)
 - フルスクリーン系のコマンド (vi, sysadmなど)
 - 対話型のコマンド (write, mailなど)
 - ページ制御を行うコマンド (more, psなど)

※仕様に合わないコマンドを実行したとき、下記プロセスにてCPU使用率が高くなる場合があります。

UNIX版: opacmde, opacmdc

Windows版: flegopcm

- リモートコマンドウィンドウでは、コマンド発行から結果表示で、1回の通信処理が完了します。したがって、連続して機能する複数のコマンドは使用できません。このようなコマンドを使用する場合は、これらのコマンドを“;”で区切って指定するか、(Windowsに対しては、複数コマンドを投入することはできません)、[操作メニュー (指定オブジェクト)]のtelnet よりログインしてから操作してください。
- リモートコマンドは、Systemwalker Centric Managerのデーモンが起動した環境で動作します。このため、コマンドが動作するために特殊な環境が必要な場合 (環境変数が設定する必要があるなど)は、環境を整えた後コマンド発行するシェルスクリプトやバッチファイルを作成し、作成したシェルスクリプトやバッチファイルをリモートコマンドで起動してください。
- 以下の条件に一致するプログラムをリモートコマンドにて発行したとき、ゾンビプロセスが発生する場合があります。
 - 【条件】パイプを継承して起動するデーモンを呼び出す (起動させる) プログラムをリモートコマンドで実行した場合。(UNIX版のみ)
ゾンビが発生した場合、発生したサーバにてSystemwalker Centric Manager の再起動を実施してください。
なお、リモートコマンドの発行時に以下のように実施すると回避されます。但し、画面へはリモートコマンドの最終応答しか表示されません。
`/usr/bin/nohup プログラム名 (フルパス) > /dev/null 2>&1`

9.4.2 リモートコマンドが投入できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
 - Solaris版: 5.0以降
 - HP-UX版: 5.1以降
 - AIX版: 10.0以降
 - Linux版: 5.2, V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降
 - Solaris版: 10.1以降
 - Linux版: V11.0L10以降

原因

以下の条件のとき、運用管理サーバから被監視システムに対して、リモートコマンドが投入できない場合があります。

- 部門管理サーバ、業務サーバ、またはイベント監視エージェントをインストールしたクライアントの導入時に運用管理サーバが未起動であった場合

- ・ イベント通知先のシステムとの通信が不可能であった場合
- ・ イベント通知先の設定で、[通知先へは必要な時だけ接続する(必要時接続)]を選択した場合

対処方法

被監視ノードで、以下のコマンドを実行し、運用管理サーバと被監視ノードの間の通信経路を確立させてください。

- ・ Windows版の場合

```
opaconstat -a
```

- ・ UNIX版の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

9.4.3 大規模同報リモートコマンドが実行できない

単体起動型スクリプト、大規模同報リモートコマンドが実行されない。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L30以降
 - － Solaris版:5.2以降
 - － HP-UX版:10.0以降
 - － AIX版:11.0以降
 - － Linux版:5.2、V10.0L10以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - － Windows版:V10.0L20以降
 - － Solaris版:10.1以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

次のメッセージが出力されていないか確認してください。また、管理者権限になっているか確認してください。

```
Error (sw_AgOpenRemoteCmd) errcode=27
```

原因

管理者権限で実行されていません。

対処方法

管理者権限で実行してください。

対処2

確認ポイント

次のメッセージが出力されていないか確認してください。また、アクション定義より、リモートコマンドを自サーバへ発行していませんか。

```
Error: The System Monitoring Agent service has stopped. (sw_AgOpenRemoteCmd errcode=1)
```

原因

メッセージが大量に発生したことで、[アクション定義(リモートコマンド)]の設定によってリモートコマンドを自サーバへ大量に発行しようとしたためです。

対処方法

[アクション定義(リモートコマンド)]の設定にて、自サーバに対してリモートコマンドを実行している場合は、リモートコマンドではなく、アプリケーション起動を使用するようにアクション定義を変更してください。

対処3

確認ポイント

次のメッセージが出力されていないか確認してください。また、コマンド発行先ノードのSystemwalker Centric Managerが動作しているか確認してください。

```
Error: The System Monitoring Agent service has stopped. (sw_AgOpenRemoteCmd errcode=1)
```

原因

Systemwalker Centric Managerが動作していません。

対処方法

Systemwalker Centric Managerを動作させてください。

対処4

確認ポイント

次のメッセージが出力されていないか確認してください。また、リモートコマンドを同時に複数動作させていないか確認してください。

```
Error: The System Monitoring Agent service has stopped. (sw_AgOpenRemoteCmd errcode=2)
```

原因

システム監視のエージェントサービスが過負荷状態です。

対処方法

リモートコマンドの同時実行可能数は、大規模同報リモートコマンド、Systemwalkerコンソールのリモートコマンド、アクション定義のリモートコマンドなども含めて、Systemwalker Centric Manager全体で30個までです。

同時に実行させる数を30個以下になるように運用方法を変更してください。また、同時に実行している数が30個以下でもリモートコマンドの発行のタイミングが同時になった場合、このエラーメッセージが出力されることがあるため、大規模同報リモートコマンドは、少し間隔を空けて起動させるようにしてください。

9.4.4 リモートコマンドのコマンド応答が意図しない結果になる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

[通信環境定義]-[動作設定詳細]-[コマンドシェル]にユーザ作成のシェルを指定していますか。

原因

[通信環境定義]-[動作設定詳細]-[コマンドシェル]にユーザ作成のシェルを指定した場合、Systemwalkerからは以下の形式でコマンドが呼び出されます。

```
コマンドシェル(ユーザ作成シェル) -c コマンドテキスト
```

対処方法

ユーザ作成のコマンドシェルを見直し、以下の形式で正しく動作するようにしてください。

```
コマンドシェル -c コマンドテキスト
```

対処2

確認ポイント

実行したコマンドは、以下に該当するコマンドですか。

- ウィンドウコマンド (notepadなど)
- 制御端末を必要とするコマンド (ps, passwd, xcopy, prstatなど)
- フルスクリーン系のコマンド (vi, sysadmなど)
- 対話型のコマンド (write, mailなど)
- ページ制御を行うコマンド (more, psなど)

原因

リモートコマンドより発行されるコマンドは、制御端末から切り離された状態で実行されます。このため、「確認ポイント」に記述したコマンドは使用できません。

対処方法

「確認ポイント」に記述したコマンドはリモートコマンドで実行しないでください。

9.4.5 クライアントや運用管理クライアントに対してリモートコマンドを発行できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

クライアントや運用管理クライアントをインストールする際に、イベント監視機能を選択しましたか？

原因

クライアントや運用管理クライアントに対してリモートコマンドを発行する場合、クライアントや運用管理クライアントにイベント監視機能がインストールされており、かつ、“運用管理サーバへのルート”が定義されている必要があります。

“運用管理サーバへのルート”が定義されているかどうかは、以下の方法で確認が可能です。

1. クライアントや運用管理クライアントにおいて、[スタート]メニューから[Systemwalker Centric Manager]-[環境設定]-[システム監視クライアント設定]、または[Systemwalker Centric Manager]-[システム監視クライアント設定]を起動します。
2. [通信環境定義]を押下します。
3. [メッセージ送信先システム]に、運用管理サーバあるいは運用管理サーバへの中継サーバのホスト名(またはIPアドレス)が定義されているかを確認します。

この定義が無ければ“運用管理サーバへのルート”が定義されていないことになります。

また、[システム監視クライアント設定]のメニュー項目が存在しない場合は、イベント監視機能がインストールされていないことになります。

対処方法

クライアントや運用管理クライアントにイベント監視機能をインストールし、かつ、“運用管理サーバへのルート”を定義してください。

9.5 イベント対処に関するトラブルシューティング

9.5.1 イベントの自動対処が正しく行えない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

イベント発生元のホスト名を変更していませんか。

原因

ホスト名を変更している場合は自動対処機能が動作しません。

対処方法

復旧時にSystemwalkerコンソールにてイベントの対処操作を行ってください。

対処2

確認ポイント

ノード検出を行いましたか。その結果、運用管理サーバのノードプロパティのホスト名がフルドメイン名 (FQDN) からホスト名に変更されていませんか。

原因

Systemwalkerコンソールに作成されているサブネットフォルダのサブネットマスクが正しく設定されていないと、運用管理サーバのノードプロパティのホスト名がフルドメイン名 (FQDN) からホスト名に変更され、イベントの自動対処ができなくなります。

対処方法

“[運用管理サーバのノードプロパティのホスト名がフルドメイン名 \(FQDN\) からホスト名に変更される](#)”を参照してください。

対処3

確認ポイント

メール連携によるイベント通知をおこなっていますか。

原因

メール連携によるイベント通知をおこなっているため、自動対処されません。

9.5.2 サーバ間連携でイベントが対処されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

本章に記載されている[サーバ間連携定義]は、バージョンレベルによって起動方法が異なります。

V13.2.0以前

[システム監視設定]-[サーバ間連携定義]-[連携先システム]

V13.3.0以降

[システム監視設定]-[サーバ環境定義]-[詳細設定]-[サーバ環境定義]-[サーバ間連携定義]タブ

対処1

確認ポイント

監視イベント状態変更コマンド(evtutInt)にて、イベントの一括対処(ustatusall)を実施していませんか。

原因

監視イベント状態変更コマンドによる監視イベントの一括対処は、サーバ間連携機能(全体監視運用や二重化運用において、複数運用管理サーバ間で、同一監視イベントの状態変更を同期する機能)の対象外です。

対処方法

サーバ間連携機能を使用されている場合は、サーバごとに監視イベント状態変更コマンドによる一括対処を行ってください。

対処2

確認ポイント

サーバ間連携を複数台(3台以上)で実施していませんか。

原因

サーバ間連携は設定された連携先システムと連携をとります。

対処方法

連携先システムが複数台存在した場合、各サーバにて複数の相手サーバを[システム監視設定]-[サーバ間連携定義]-[連携先システム]で設定する必要があります。以下の例を参考にして正しく設定してください。

【例】運用管理サーバ A、B、C でサーバ間連携を実施する場合

- A の[サーバ間連携定義]-[連携先システム]の設定には “B”、“C”を設定する
- B の[サーバ間連携定義]-[連携先システム]の設定には “A”、“C”を設定する
- C の[サーバ間連携定義]-[連携先システム]の設定には “A”、“B”を設定する

対処3

確認ポイント

連携できなかったイベントは、以下に示すイベントですか。

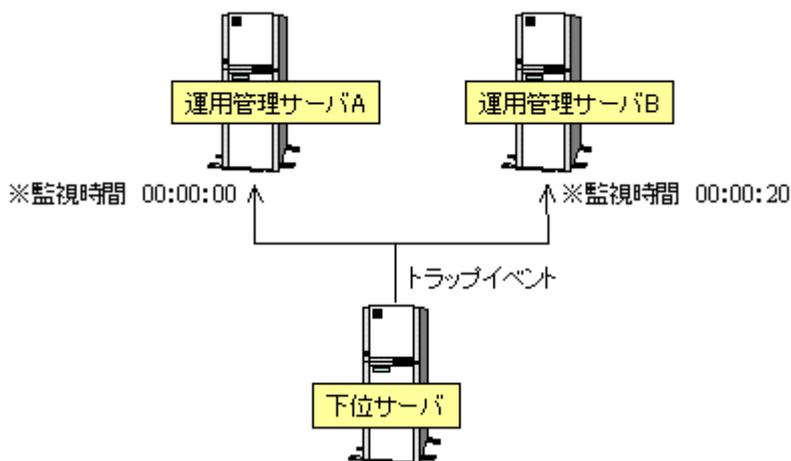
- ネットワークのメッセージ: ネットワーク異常のメッセージ(以下のラベルで始まるメッセージ)
 - Windows版 : AP:MpCNapl
 - UNIX版 : UX:MpCNapl
- ハードウェアのメッセージ: SVPMが監視するハードウェア異常のメッセージ

対処方法

各サーバにて、[システム監視設定]-[サーバ間連携定義]-[詳細]-[サーバ間連携定義詳細]の“監視イベントの同期時間”を適切な値で設定する必要があります。以下の例(ネットワークの場合)を参考にして正しく設定してください。

【例】“ネットワークで発生した事象の同期時間”の設定“15秒”(デフォルト)とする

- 運管A・Bのシステム時間、または、通信状況により、監視時間20秒の差が生じた場合です。
- 下記の監視時間を各サーバでは“イベント発生時間”として扱われます。



上記の場合、運管Aで対処を行った場合、運管Bでは00:00:00の±15秒(23:59:45~00:00:15)で連携すべき対象のイベントを検索します。しかし、00:00:20は同期時間の範囲外のメッセージとなり、対処されません。そのため、“監視イベントの同期時間-ネットワークで発生した事象の同期時間”を20秒以上に設定してください。

ネットワーク、ハードウェアで発生したイベントが運用管理サーバ(主系、従系共に)へ通知されている環境において、メッセージ発生時間(1)の違いから対処できない場合があります。[通信環境定義]-[サーバ間連携定義]-[サーバ間連携定義詳細]にて“監視イベントの同期時間”-“ネットワークで発生した事象の同期時間”(2))で設定された時間内に連携する対象イベントが存在しない場合です。

1. ネットワーク、ハードウェアで発生したイベントのメッセージ発生時間

下位サーバからトラップ通知された上位サーバで時間設定されます。そのため、運用管理サーバが複数台存在した場合、各サーバで監視された時間が設定され、各サーバのシステム時間が異なった場合、またはイベントを受信したタイミングが異なった場合、同一メッセージでも発生時間が異なってきます。

2. ネットワーク、ハードウェアで発生したイベントの同期時間

アラームイベントを同一のものとして判断するための時間範囲を指定します。初期値には15秒が設定されています。

アラームイベントは、イベントの発生日時が複数の運用管理サーバで異なるため、対処したイベントの発生日時から特定時間の範囲内のイベントを同一イベントとして扱います。

対処4

確認ポイント

連携元サーバでネットワークのメッセージ(UX:MpCNAppI: …/AP:MpCNAppI: …)を大量に対処したことにより、連携先でサーバ間連携の反映処理が遅くなる、または、サーバ間連携ができなくなっています。

また、それに伴って運用管理サーバのイベントログ/シスログに、以下のメッセージが出力されていません。

```
MpOpmln: 警告: 1010: 未送信データの個数が指定した数を超えた為、データ(監視イベント番号=%1)は破棄されました (%2)
```

%1:破棄したデータの監視イベント番号

%2:連携先システム名

原因

ネットワークのメッセージ(UX:MpCNAppI: …/AP: MpCNAppI: …)はネットワーク機器から発生するイベントです。

このイベントの特徴はメッセージ発生時刻の情報を持たない特殊のメッセージであり、Systemwalker Centric Managerではネットワークのイベントを監視したサーバで、擬似の発生時間をイベントの情報に付加しています(通常はイベント自身に発生時間の情報を持っています)。そのため、サーバ間連携で連携先サーバのDBから対処処理を実行しなければならないイベントを検索する際、発生時間をキーにして検索が行えず、DBの中からネットワークのイベント、同一ホスト名、同一メッセージテキストを、主なキーにして検索を行っています。そのため、検索処理が通常のイベントより時間が掛かります。よって、多数のネットワークのイベントが発生している環境(DBに多数格納された環境)でネットワークのイベントをサーバ間連携で短期間に連続して反映処理を行うことにより、大きな負荷が掛かり、処理が遅れることがあります。

なお、処理の遅れの程度は、[サーバ間連携定義詳細]-[監視イベントの同期時間]-[ネットワークで発生した事象の同期時間]に関係し、この時間範囲が大きいほどデータベースの検索負荷が高まり、遅れの程度が大きくなります。([無制限]が最も大きくなります。)

対処方法

[サーバ間連携定義詳細]-[監視イベントの同期時間]-[ネットワークで発生した事象の同期時間]を可能な限り短縮することで、処理の遅れが改善される可能性があります。(この場合、設定する時間が、連携元/連携先サーバのシステム時間のずれよりも短くならないように注意してください。)

上記の方法で効果が見られない場合は、大量のネットワークイベントを同時に対処する必要があるときに、監視イベント一括対処(ustatusall)コマンドを使用し、両サーバで対処を行ってください。

対処5

原因

“被監視システムに関係なく連携する”が無効になっている場合は、連携情報受信時に登録されているシステムで発生したメッセージのみを連携します。つまり、以下の場合は、連携されません。

- ・ 一度も連携情報受信を行っていない場合。または、
- ・ 連携情報受信後に追加されたシステムで発生したメッセージ。

対処方法

サーバ間連携をおこなう各運用管理サーバにて、以下のいずれかの対処を行ってください。

- “被監視システムに関係なく連携する”を有効にしてください。(サーバ連携定義—連携先システム設定画面)
- 被監視システムを追加した場合は連携情報受信を行ってください。(サーバ連携定義画面)

対処6

確認ポイント

連携されなかったイベントはすべて同一ですか。例えば、ネットワークのイベントは本文に日時が含まれることがあります。この日時は各運用管理サーバで同一にならない場合があります。

例) 下記の場合、timestamp:以降の日時が異なるため連携されません。

- 運用管理サーバA
MpCNappl: ERROR: 106: ネットワークで事象が発生しました, ~~~ timestamp:35703463 ~~~
- 運用管理サーバB
MpCNappl: ERROR: 106: ネットワークで事象が発生しました, ~~~timestamp:35703464 ~~~

原因

サーバ間連携機能はイベントの内容がすべて同一である必要があります。

対処方法

特にありません。

9.5.3 「MPHD0002:JYP7210 データベース"HD_DATABASE"が存在しません」と出力される

[監視イベント対処]画面起動時に出力されます。

エラーメッセージ

```
MpHlpdmn: ERROR: MPHD0002:JYP7210E データベース“HD_DATABASE”が存在しません。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

バージョンアップ前はヘルプデスクDBを構築していたが、バージョンアップ後、ヘルプデスクDBを構築しない場合に出力されます。

対処方法

ヘルプデスク機能を使用しないための設定を行います。

以下の定義ファイルを変更します。

```
/etc/opt/FJSVshlpm/helpdesk.ini
```

- 修正前

FUNCTION=YES

- ・ 修正後

FUNCTION=NO

9.5.4 [監視イベント対処]画面のメッセージ説明に「メッセージ説明は定義されていません」、または「検索条件に一致する帳票は見つかりませんでした」と出力される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

原因

障害票が発行されていませんでした。または、対処記事が登録されていません。

対処1

確認ポイント

[監視イベント対処]画面のメッセージ説明に「メッセージ説明は定義されていません」と出力されます。

対処方法

1. [サーバ環境定義]画面の[メッセージ説明]タブで、該当のイベントに対応する障害票番号を確認します。
2. 該当する障害票の[対処]欄に記事を記入します。[帳票]画面の操作方法は、オンラインヘルプの“帳票を更新する”を参照してください。

対処2

確認ポイント

[監視イベント対処]画面のメッセージ説明に「検索条件に一致する帳票は見つかりませんでした」と出力されます。

- ・ メッセージから検索条件を取り出せる場合

[監視イベント対処]画面の[基本]タブで[障害票発行]ボタンをクリックすると表示される、[帳票発行]画面の[種別]欄の下2つの入力域のどちらかに値が入っています。または、「この帳票は発行済みです」とエラーメッセージがポップアップされます。

対処方法

- ・ 帳票が発行されていない場合は、該当メッセージについて[監視イベント対処]画面から[帳票発行]画面を起動し、[基本情報]タブの[対処]欄に記事を書き込み、障害票を発行します。
- ・ 帳票が発行済みの場合は、[監視イベント対処]画面の[基本]タブで[障害票検索]ボタンをクリックすると、[帳票一覧]画面が表示されるため、該当する帳票を選択して表示し、[対処]欄に記事を記入します。

対処3

確認ポイント

[監視イベント対処]画面のメッセージ説明に「検索条件に一致する帳票は見つかりませんでした」と出力されます。

- ・メッセージから検索条件を取り出せない場合

[監視イベント対処]画面の[基本]タブで[障害票発行]ボタンをクリックすると表示される、[帳票発行]画面の[種別]欄の下2つの入力域のどちらにも値が入っていません。

対処方法

- ・該当メッセージについて[監視イベント対処]画面から[帳票発行]画面を起動し、[基本情報]タブの[対処]欄に記事を書き込み、障害票を発行します。
- ・発行された障害票の障害票番号を控えておきます。
- ・[サーバ環境定義]画面の[メッセージ説明]タブに以下を追加します。

格納先: ヘルプデスク

ファイル名/帳票コード: 発行された障害票の障害票番号

キーワード: 表示させるメッセージが検索できるキーワード

備考

[メッセージから検索条件を抽出する方法]

- ・ V10.0L10～V13.2.0/10.0～V13.2.0

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“ヘルプデスクの検索機能”を参照してください。

- ・ V5.0L10～V5.0L30/5.0～5.2

“Systemwalker/CentricMGR GEE説明書”の“メッセージIDの抽出”を参照してください。

9.5.5 「未送信データの個数が指定した数を超えた為、データ(監視イベント番号=%1)は破棄されました (%2)」と出力される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
 - Solaris版: 5.0以降
 - Linux版: V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

連携先システムでSystemwalker Centric Managerが動作していますか。

原因

サーバ間連携機能では、連携先システムのSystemwalker Centric Managerが動作していない状態でイベントの対処が行われた場合、未送信データ(対処連携依頼データ)を保存していきます。保存された未送信データの個数が最大値([サーバ間連携定義詳細]-[保存データ数]に指定された値)を超えた場合に当メッセージが出力されます。

対処方法

以下のどれかの対処をしてください。

- ・ 連携先システムで以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動してください。

- Windows版の場合

```
scentricmgr
```

- UNIX版の場合

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

- 可能であれば、[サーバ間連携定義詳細]-[保存データ数]の値を増やしてください。
- 連携先システムとの連携が不要な場合は、[サーバ間連携定義]より連携先システムを削除してください。

対処2

確認ポイント

連携先システムでプロセスflegopl.exeが動作していますか。また動作していない場合、UNIX版ではシステムログ、Windows版ではイベントログ(アプリケーション)に、MpOpmlnで始まるエラーメッセージが出力されていませんか。

対処方法

連携先システムで「MpOpmlnで始まるエラーメッセージ」が出力されている場合は、以下を参照し、各エラーメッセージの対処を実施してください。

- 「MpOpmln: エラー: 1: 」が出力されている場合
Systemwalker Centric Managerを再起動してください。
- 「MpOpmln: エラー: 2: 」が出力されている場合
Systemwalker Centric Managerが正常にセットアップされているか、以下の観点で確認してください。
 - Systemwalkerのインストール時、または環境作成(MpFwSetup)時にエラーが出力されていなかったか。
 - プロセスの動作状況表示コマンド(mppviewc)を使用して、運用管理サーバの各プロセスが正常に動作しているかどうか。(V10.0L20/10.1以降の場合)

Systemwalker Centric Managerのセットアップが実行されていない場合、セットアップを実行し、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

- 「MpOpmln: エラー: 1000: 」が出力されている場合
メモリ不足のため、サーバ間連携の処理が続行できない状態になっています。ページファイルのサイズを拡張するか、メモリを増設してください。
- 「MpOpmln: エラー: 1002: 」が出力されている場合
Systemwalkerインストールディレクトリ配下に読み込みのアクセス権があるかどうか、以下の方法で確認してください。
 - Windows版の場合

```
エクスプローラによるアクセス権の確認
```

- UNIX版の場合

```
lsコマンド
```

Systemwalkerインストールディレクトリ配下に読み込みのアクセス権がない場合はアクセス権を付加した後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

- 「MpOpmln: エラー: 1008: 」が出力されている場合
[サーバ間連携定義]画面より該当の連携先システムの定義に対して、連携情報受信を行うか、“被監視システムに関係なく連携する”チェックボックスを有効にしてください。
- 「MpOpmln: エラー: 1022: 」が出力されている場合
連携先システムとの接続回線状態を確認し、通信異常となった原因をのぞいてください。
- 「MpOpmln: エラー: 1026: 」が出力されている場合
ディスクの空き容量を確認し十分な領域を確保後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

対処3

確認ポイント

MpCNaplで始まるメッセージを大量に対処していませんか。

対処方法

“サーバ間連携でイベントが対処されない”対処4を参照してください。

9.6 イベントに関するトラブルシューティング

9.6.1 イベントの状態が調査中のままになっている

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L20以降
 - Solaris版:5.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

[監視イベントの対処]ダイアログボックスを表示しているとき以外に、イベントの状態が調査中になっている場合は、以下の手順を実施してください。

- Windows版:V5.0L30以降、Solaris版: 5.2以降、Linux版:V11.0L10以降の場合

1. 運用管理サーバに、システム管理者(スーパーユーザ)権限のアカウントでログインします。
2. 以下のコマンドを実行します。

- Windows版

```
evtutlnt ustatus -t 状態を変更する監視イベント番号 -c
```

- UNIX版

```
/opt/systemwalker/bin/evtutlnt ustatus -t 状態を変更する監視イベント番号 -c
```

- Windows版:V5.0L20、Solaris版: 5.1の場合

1. この版数の製品には対処用のコマンドが含まれておりませんので、公開されている最新の緊急修正を適用してください。
2. 運用管理サーバに、システム管理者(スーパーユーザ)権限のアカウントでログインします。
3. 以下のコマンドを実行します。

- Windows版

DOSプロンプトを起動して、以下のようにコマンドのインストール先をカレントフォルダにしてから実行してください。

```
>cd Systemwalker-インストールディレクトリ\Mpwalker.dm\MpFwbs\bin  
>ustatus -t 状態を変更する監視イベント番号 -c
```

- UNIX版

以下のようにコマンドのインストール先をカレントディレクトリにしてから実行してください。

```
>cd /opt/FJSVfwbs/bin  
>ustatus -t 状態を変更する監視イベント番号 -c
```

9.6.2 イベントログの読み込み情報のバックアップファイル作成処理が失敗した

エラーメッセージ

MpOpagt: エラー: 122:異常(CopyFile()-XX)が発生しました。

MpOpagt: エラー: 106:イベントログの位置ファイルの書き込みに失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

原因

Systemwalker Centric Managerは、イベントログからイベントを読み込み処理したタイミングで、どのイベントまで読み込んだかを内部ファイルに記録します。このとき、内部ファイルのバックアップを作成します。このバックアップファイル作成処理に失敗した場合に、エラーメッセージが出力されます。

対処方法

該当のメッセージが連続して出力され続けているか確認してください。

- 連続して出力されていない場合
 - 一時的なファイルアクセスの失敗です。そのまま使用を続けても問題ありません。
- 連続して出力されている場合
 - なんらかの原因でバックアップファイルが作成できない環境となっている可能性があります。以下の観点で、環境を見直してください。
 - Systemwalker Centric Managerインストールドライブのディスク使用量が100%となっていないか
 - ディスク使用量が100%の場合、以下の手順を実施してください。
 1. 不要なファイルを削除します
 2. Systemwalker Centric Managerのサービスを再起動します
 - “Systemwalker MpOpagt”サービスのログオンアカウントに、以下のフォルダへのアクセス権が与えられているか

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.dm¥MpOpagt¥tmp

アクセス権が与えられていない場合、以下の手順を実施してください。

1. “Systemwalker MpOpagt”サービスのログオンアカウントに、アクセス権を与えます。
 2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。
- Systemwalker Centric Managerインストールドライブのハードディスクが故障していないか
 - ハードディスクが故障している場合は、ハードディスクを交換し、Systemwalker Centric Managerを再インストールしてください。

備考

上記のエラーメッセージ「MpOpagt: エラー: 122:」の“XX”の部分に表示されているエラーコード別に、考えられる原因・対処方法を以下に示します。

- “112”と表示されている場合

【考えられる原因】

バックアップ先のディスクの容量が不足しています。

【対処方法】

Systemwalker Centric Managerのインストール先ドライブの空き領域を確保した後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

- “1117”または“1167”と表示されている場合

【考えられる原因】

HDD自身のハード障害が発生している可能性があります。

【対処方法】

ハード障害が認められた場合は、対処(ディスク交換等)を行なった後、Systemwalker Centric Managerをアンインストールして、インストールを実施してください。

- “5”と表示されている場合

【考えられる原因】

バックアップ先のディレクトリに対し、Systemwalkerアカウントでの書き込み権限が無効となっている可能性があります。

【対処方法】

バックアップ先のディレクトリ(以下)に対し、Systemwalkerアカウントでの書き込み権限があるか確認してください

<インストール先>¥MPWALKER.DM¥mpopagt¥TMP

書き込み権限がない場合は書き込み権限を与えた後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

- “32”または“1224”と表示されている場合

【考えられる原因】

ウィルススキャンソフトなどで対象のファイルが排他状態となっている可能性があります。

【対処方法】

連続して出力されていない場合、一時的なファイルアクセスの失敗のため、対処は不要です。

- “19”と表示されている場合

【考えられる原因】

シャットダウン処理中のためバックアップできません。

【対処方法】

対処は不要です。

9.6.3 出力されたメッセージと、監視イベント一覧に表示されるメッセージが違う

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

メッセージ発生元が、文字コードEUCのUNIX版、およびメッセージ送信先システムにWindows版のSystemwalker Centric Managerがインストールされていますか。

ただし、送信先システムに定義されているサーバが、Systemwalker Centric Manager V11.0L10以降の場合は除きます。

対処方法

- ・ ADJUST、SystemWalker/CharsetMGRがインストールされていない場合
“syslogに出力するメッセージが表示されない(または遅れて表示される)”の“対処1”を参照し、対処してください。
- ・ ADJUST、SystemWalker/CharsetMGRがインストールされている場合
“syslogに出力するメッセージが表示されない(または遅れて表示される)”の“対処2”を参照し、対処してください。

対処2

確認ポイント

自システムのメッセージ(シスログ、ログファイル監視、opfmtコマンド(API))で正しく監視できる条件は以下になります。

OSの文字コード=Systemwalker Centric Managerの文字コード=出力されたメッセージの文字コード
--

UNIXシステムで、文字コードが一致しているか確認してください。

Systemwalker Centric Managerの文字コードは、10.0以降の場合、Systemwalker Centric Managerのインストール時に、OSが使用していた文字コードが登録されます。5.2以前の場合は、インストール時に文字コードを指定します。

対処方法

- ・ OSの文字コードとSystemwalker Centric Managerの文字コードの確認
それぞれ以下の方法で、文字コードを確認し、可能であればOSが使用する文字コードを変更するか、Systemwalker Centric ManagerをOSの文字コードに合わせて再インストールしてください。

一 Systemwalker Centric Managerのインストール時に指定された文字コードの確認方法

以下のコマンド実行結果の“Code=”に続く文字列を確認します。

cat /opt/systemwalker/etc/systemwalker.reg grep Code=

インストール環境	実行結果
EUC環境	Code=EUC
SJIS環境	Code=SJIS
ASCII環境	Code=ASCII
UTF-8環境	Code=UTF-8

UTF-8環境はLinux版V11.0L10以降のサポートになります。

一 OSに指定された文字コードの確認方法

それぞれ、以下のファイルからLANGの値を確認してください。

- Solaris

/etc/default/init

- UXP/DS

/etc/LANGUAGE

- AIX

/etc/environment

- HP-UX

/etc/rc.config.d/LANG

- Red Hat Enterprise Linux 6以前

/etc/sysconfig/i18n

- Red Hat Enterprise Linux 7以降

/etc/locale.conf

- Linux(TurboLinux)

/etc/skel/.lang/i18n

- Linux(OpenLinux)

/etc/config.d/I18N

- ・ 出力されたメッセージ(シスログ、ログファイル監視、`opfmt`コマンド(API))が、OSと異なる文字コードで出力されていないか確認してください。

異なる文字コードのメッセージを出力している場合、出力しているアプリケーションにて、同じ文字コードのメッセージを出力するようにしてください。

※`opfmt`については“`opfmt`コマンドのメッセージが監視できない”も参照してください。

対処3

確認ポイント

メッセージ発生元はWindows版ですか。

原因

イベントビューアで、該当メッセージを確認したときに、説明の欄に以下のように表示されるメッセージは、正しく表示されません。

また、メッセージ発生元がクラスタ構成の運用管理サーバの場合、以下のようなメッセージがどちらか一方の系で表示される場合も、正しく表示されません。

【Windows NTの場合】

ソース(YYYY)内のイベントID (XX)に関する説明が見つかりません。
次の挿入文字列が含まれています:

【Windows 2000の場合】

イベント ID (XX) (ソース YYYY 内)に関する説明が見つかりませんでした。
リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリ情報またはメッセージ DLL ファイルがローカルコンピュータにない可能性があります。次の情報はイベントの一部です:

【Windows XP/Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合】

イベント ID (XX) (ソース YYYY 内)に関する説明が見つかりませんでした。リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリ情報またはメッセージ DLL ファイルがローカルコンピュータにない可能性があります。この説明を取得するために /AUXSOURCE= フラグを使用す

ることができる可能性があります。詳細については、ヘルプとサポートを参照してください。次の情報はイベントの一部です:

対処方法

メッセージ出力アプリケーションの問題です。

メッセージ出力アプリケーションが、以下の場合は、メッセージ出力アプリケーションの開発元にお問い合わせください。

- メッセージファイルを作成していない。
- メッセージファイルを正しくOSに登録していない。(クラスタ構成の場合は運用系および待機系のどちらか一方でも登録していない)
- メッセージファイルをローカルディスク以外(共有ディスク等)に配置している。

対処4

確認ポイント

メッセージ発生元は、グローバルサーバですか。

原因1

監視パス定義ファイル(/etc/opt/FJSVsagt/opapath)に定義された文字コードに誤りがある場合、グローバルサーバで発生したメッセージは、正しく表示されません。

対処方法1

監視パス定義ファイルに定義されている文字コードと、実際のグローバルサーバの文字コードを確認し、異なる場合は、以下の手順を実施してください。

1. 監視パス定義ファイルを訂正します
2. システム構成情報を登録します
3. Systemwalker Centric Managerを再起動します

定義の詳細は、“Systemwalker Centric Manager GEE 説明書”、“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition 説明書”または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 グローバルサーバ運用管理ガイド”を参照してください。

原因2

被監視システムのSystemwalkerコンソールに、JEF拡張漢字が表示された場合は、Systemwalker Centric Manager GEEで使用する文字コード(EUC、Shift-JIS)に対応するコードセットが用意されていないため、画面上に“□”、“・”などで表示されます。

対処方法2

Systemwalker Centric Manager GEEでは、JEF拡張漢字変換テーブルに変換パターンを登録することにより、被監視システムのSystemwalkerコンソールに、出力されるJEF拡張漢字を正しく画面に表示することができます。

なお、JEF拡張漢字変換テーブルは、主監視パス経由で通知されるメッセージ、およびリモートコマンドに対してだけ有効となります。代替監視パスから通知されるメッセージについては、JEF拡張漢字変換テーブルは有効になりません。

- JEF拡張漢字変換テーブル

JEF拡張漢字変換テーブル“/etc/opt/FJSVsagt/opajefext”に変換パターンを定義します。

以下の形式で定義してください。

```
type from-code to-code
```

type:

変換方向を“to”または“from”で指定します。

to:

リモートコマンド投入時の変換処理(運用管理サーバから被監視システムへの変換)

from:

メッセージ受信時およびリモートコマンドの応答受信時の変換処理(被監視システムから運用管理サーバへの変換)

from-code:

変換前のコードを16進数で指定します。

to-code:

変換後のコードを16進数で指定します。

• 定義例

ローマ数字I~Xまでを、EUC環境で表示する定義例を以下に示します。

#	type	from-code	to-code
	from	77de	adb5
	from	77df	adb6
	from	77e0	adb7
	from	77e1	adb8
	from	77e2	adb9
	from	77e3	adba
	from	77e4	adbb
	from	77e5	adbc
	from	77e6	adbd
	from	77e7	adbe

対処5

原因

インテリジェントサービス機能を使用して、以下を実施している場合に、出力されたメッセージと監視イベント一覧に表示されるメッセージが異なる場合があります。

- 先頭通知コラレーション
- イベント切り分けテキスト変換
- 末尾通知コラレーション
- イベント固定テキスト変換
- イベント詳細フィルタリング
- 切り替え型イベント詳細フィルタリング

対処方法

対処方法はありません。

対処6

確認ポイント

以下のメッセージが出力されていませんか。

```
last message repeated XX times
```

XX: 数字

原因

UNIX版の場合、同一メッセージが複数発生した場合に、OSの機能によりメッセージがまとめられます。

対処方法

対処方法はありません。

対処7

確認ポイント

監視イベント一覧に表示されているメッセージは、ログファイル監視機能(共有ディスクファイル監視機能を含む)によりラベル、エラー種別が付加されたメッセージではないですか。

原因

ログファイル監視機能(共有ディスクファイル監視機能を含む)を使用している場合は、監視対象ログファイルに出力されたメッセージにラベル、エラー種別が付加されたものが監視イベント一覧に表示されます。

対処方法

対処の必要はありません。ただし、システムログ(messagesファイル)をログファイル監視している場合は、“[1つのメッセージ発生で2つのメッセージが表示される](#)”の対処1を参照して対処してください。

9.6.4 発生していないメッセージが通知された

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

同一ホスト名のシステムがありませんか。

対処方法

同一ホスト名のシステムがある場合、以下のどちらかの対処を実施してください。

- ネットワーク全体で一意的ホスト名となるようにOSのホスト名を変更する。
- Systemwalker Centric Managerの定義(通信環境定義)で、自ホスト名の定義を、ユーザ指定と指定し、ネットワーク全体で一意的名前になるように定義を実施する。

対処2

確認ポイント

[通信環境定義]ダイアログボックスの自ホスト名で、同じホスト名が、ユーザ指定で定義されているシステムはありませんか。

対処方法

同じホスト名が定義されている場合、ネットワーク全体で一意の名前になるように変更してください。

9.6.5 1つのメッセージ発生で2つのメッセージが表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

syslogのメッセージをログファイル監視していませんか。

原因

syslogのメッセージは、Systemwalker Centric Managerに直接通知されます。このため、syslogのメッセージをログファイル監視に指定すると、同一メッセージが2重に処理されることとなります。

対処方法

/etc/syslog.confに定義されたファイル(/var/adm/messagesなど)を、監視ログファイル設定に定義していないか確認し、定義している場合は定義を削除してください。

対処2

確認ポイント

メッセージ送信先システムの定義が、複数の通信経路を経由し、運用管理サーバに通知される定義となっていないですか。

原因

複数の通信経路を経由する接続形態は、サポートしていません。

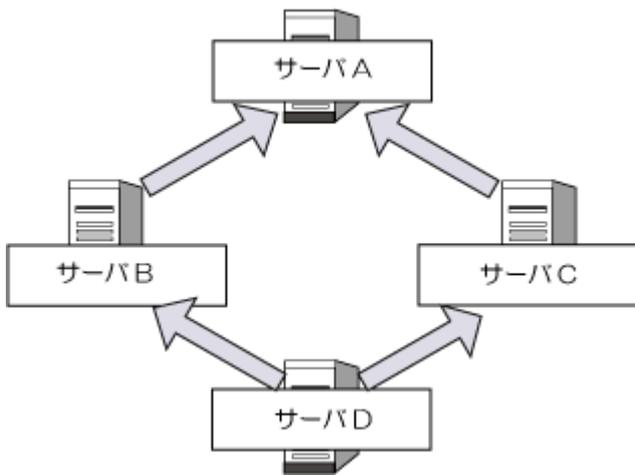
対処方法

接続経路は1つとなるように定義してください。

【例】

Dの送信先の定義には、B経由とC経由があります。

B経由とC経由の2経路で、同一メッセージが通知されることから、メッセージが重複して処理されることとなります。



対処3

確認ポイント

[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]に定義されているシステム、またはその上位システムに対し、メールによりイベントを通知していませんか。

原因

[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]に定義されているシステムへのイベント通知(上位送信)と、メールによるイベント通知により、2重にイベントが通知されることになります。

対処方法

メールにより通知するイベントは、イベント監視の条件定義により、上位送信しない設定にしてください。または、[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]の定義を削除してください。

9.6.6 過去に発生したイベントが再度表示された

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

[Systemwalkerコンソール システム監視](V10.0L21/10.1以前または、Systemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)に、1000件以上イベントを残していませんか。

原因

[Systemwalkerコンソール システム監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)では、画面に表示されている部分しか対処済みにはできません。

対処方法

[Systemwalkerコンソール システム監視] (V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)に表示できるイベントの数は1000件で、対処済にしたあと、[Systemwalkerコンソール システム監視] (V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)を再起動すると、ログの中に未対処で残っているログが表示されます。

ポイント

[Systemwalkerコンソール システム監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)は、初期表示時には100件で、起動中にイベントが発生すると、1000件まで表示されます。イベントが1000件、画面に表示されている状態で、[Systemwalkerコンソール システム監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)を再起動すると、最新の未対処のイベントが100件表示されます。

【例】

未対処のイベントが2000件あります。(監視イベント番号1-2000)

1. [Systemwalkerコンソール システム監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)を起動すると、監視イベント番号1901-2000までのイベントが表示されます。
2. 一括対処などでイベントをすべて対処します。
→1901-2000のイベントが対処済になります。
3. [Systemwalkerコンソール システム監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)を再起動します。
→1801-1900までのイベントが未対処の状態が表示されます。

対処2

確認ポイント

一括対処が終了する前に、[Systemwalkerコンソール システム監視] (V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)を終了しましたか。

原因

一括対処が終了する前に、[Systemwalkerコンソール システム監視] (V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)を終了すると、一括対処は途中でキャンセルされます。このためすべてのイベントは、対処済みになりません。

対処3

確認ポイント

再起動により、イベントログのメッセージが再度通知されていないか。

原因

OSの予期しない停止が発生した場合、Systemwalker Centric Managerが処理したイベントの内容とOSのイベントログに残っているイベントの内容に矛盾が発生しイベントログが再度処理されてしまう場合があります。

対処方法

この問題には、アップデートバックで対応しています。以下の修正を適用してください。

V5.0L20	アップデートバックU004以降
V5.0L30	アップデートバックU003以降

V10.0L10	アップデートパックU002以降
V10.0L20	アップデートパックU001以降

対処4

確認ポイント

再表示されたのは監視ログファイル設定に登録したログファイルのメッセージですか。

原因

“監視対象のログファイルが意図したとおりに監視できない”を確認してください。

対処方法

“監視対象のログファイルが意図したとおりに監視できない”を確認してください。

対処5

確認ポイント

再表示されたメッセージは、Windows版のクラスタ環境の運用管理サーバにて発生したメッセージで、かつ、再表示の契機は運用管理サーバのフェールオーバー/フェールバックですか。

原因

クラスタ環境の運用管理サーバにおいて、運用系および待機系のクラスタノード定義ファイルの「NodeName」の記述に誤りがあります。この場合、運用系と待機系の整合性がとれないため、フェールオーバー/フェールバック時に監視済みのメッセージが再通知されます。

※クラスタノード定義ファイル

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpopagt¥etc¥opaclshosts
```

対処方法

運用系および待機系のクラスタノード定義ファイルの「NodeName」を修正し、クラスタサービスを再起動してください。

ポイント

「NodeName」にはお互いのコンピュータ名を定義します。(ホスト名やIPアドレスではなくコンピュータ名です)

コンピュータ名は、コマンドプロンプト上でsetコマンドを実行し表示されるCOMPUTERNAMEから確認してください。

9.6.7 Systemwalkerコンソールでの表示、操作に時間がかかる(遅延している)、各サーバでCPU使用率が高くなっている

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

メッセージが大量に発生、または複数の被監視サーバから同時にメッセージが通知されていませんか。

原因

同一のサーバ上からメッセージが大量に発生している、または複数の被監視サーバから同時にメッセージが通知されると、処理遅延が発生することがあります。

この状態になると、メッセージが発生してから、Systemwalkerコンソールに、メッセージが表示されるのに時間がかかります。

対処方法

監視の必要がないメッセージは、メッセージ発生元から運用管理サーバに通知しないように定義してください。

以下に定義方法の例を示します。(例は一般的な定義方法です。それぞれの運用方法に合わせた定義をしてください。)

1. Systemwalkerコンソールを起動します。
2. [イベント]メニューから[アクション定義]を選択します。
→[イベント監視の条件定義]ウィンドウが表示されます。
3. [アクション]メニューから[アクションの設定]を選択します。
→[アクション定義]ダイアログボックスが表示されます。
4. [メッセージ監視]タブを選択し、以下の設定をします。
監視の必要なメッセージは、以下のように設定してください。
 - [上位システムに送信]:する
 - [ログ格納]:する監視の必要がないメッセージは、以下のように設定してください。
 - [上位システムに送信]:しない
 - [ログ格納]:しない

対処2

確認ポイント

Windowsのセキュリティイベントの監査機能を使用していませんか。

原因

Windowsのセキュリティイベントの監査機能を使用すると、イベントログのセキュリティログで、大量にメッセージが出力されるため、処理遅延が発生することがあります。

対処方法

Windowsの監査を実施する場合は、必要最小限な項目に絞ってください。

ポイント

Windowsのセキュリティイベントの監査機能は、Windows NTでは、ユーザマネージャ、Windows 2000、Windows XP、およびWindows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEでは、セキュリティポリシーから設定します。

- Windows版V11.0L10以降の場合

下記の手順で定義を行うことで、Windowsのセキュリティイベントログの監視を行わないようにすることが可能です。

これは、Systemwalkerインストールディレクトリ配下のファイルやフォルダへのアクセスに対して監査を設定している場合、セキュリティイベントログに大量にイベントが出力されるためSystemwalker Centric Managerの負荷が高くなることを防ぐことができます。

1. Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpopagt¥etc¥opaevtを以下のように定義します。

```
MPOP_EVTLOG_SEC OFF
```

2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

注意

- 定義に誤りがある場合、メッセージを出力しセキュリティイベントログの監視を行います。
- 定義が設定されていない場合、セキュリティイベントログの監視を行います。
- Systemwalker Centric Manager インストール時はセキュリティイベントログの監視を行います。
- Systemwalker Centric Manager の再起動後有効になります。
- 定義変更後はSystemwalker Centric Manager を停止してから起動するまでに出力されたすべてのイベントログの監視は行いません。
- 本定義の詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処3

確認ポイント

同一ホスト名、または同一IPアドレスを持ったシステムが複数存在していませんか。

V11.0L10/11.0以降の場合

下記メッセージが出力される場合があります

[Windows版の場合]

```
MpOpagt: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください
```

[UNIX版の場合]

```
opagtd: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください
```

%1:ホスト名

%2:IPアドレス

※論理的通信構造に誤りがない場合でも、自ノードと同一ホスト名のデータを下位システムより受信した場合に出力されます。

原因

同一ホスト名のシステムが存在する環境では、Systemwalker Centric Managerで管理している内部的な管理情報に矛盾が発生し、正しく監視ができません。

対処方法

ネットワーク全体で、一意のホスト名、IPアドレスとなるようにOS、ネットワークを設定してください。また、ホスト名については Systemwalker Centric Manager が意識するホスト名 ([通信環境定義]ダイアログボックスで設定ができます)を異なるように定義することで対処することもできます。

※同一ホスト名のシステムの特定方法は“[監視イベント一覧画面に特定ホストのメッセージが表示されない](#)”を参照してください。

対処4

確認ポイント

メッセージ送信先システムの定義が、ループする定義となっていないですか。

原因

メッセージ送信先システムの定義がループする構成となっていると、データがループし、スローダウンが発生します。

対処方法

システム構成(メッセージ送信先システム)を見直してください。

V11.0L10/11.0以降の場合

下記メッセージが出力される場合があります

[Windows版の場合]

MpOpagt: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください

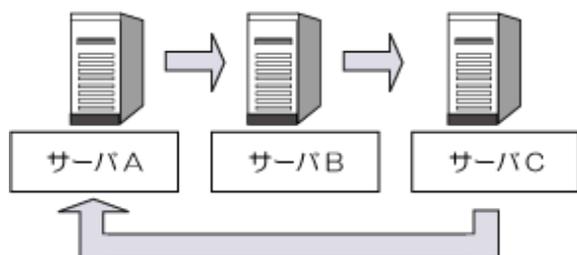
[UNIX版の場合]

opagt: 警告: 320: 下位システムから自ホストと同じホスト名のデータを受信しました(%1,%2)。論理的通信構造に誤りがないか確認してください

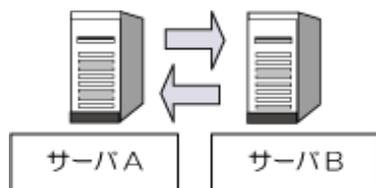
%1:ホスト名

%2:IPアドレス

【例1】



【例2】



←: A、Bの[通信環境定義]-[接続]-[接続詳細]-[中継機能]が“中継する”になっている場合

対処5

確認ポイント

同一システムの異なるIPアドレスをメッセージ送信先システムに定義していませんか。

原因

[通信環境定義]ダイアログボックスの[メッセージ送信先システム]の定義に、同一システムの異なるIPアドレスをメッセージ送信先システムに定義していないかを確認してください。

このような環境では、Systemwalker Centric Managerで管理している内部的な管理情報に矛盾が発生し、正しく監視ができません。

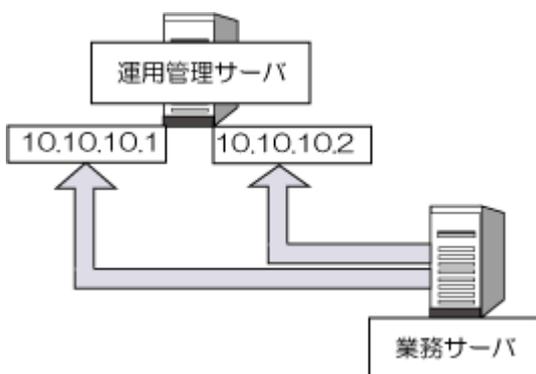
対処方法

定義している場合は、1システムに対して1つのIPアドレスだけを定義してください。

【例】

以下のように、業務サーバのメッセージ送信先システムに、運用管理サーバの2つのIPアドレス(10.10.10.1と10.10.10.2)を定義している場合がこの例に当てはまります。

業務サーバの[メッセージ送信先システム]には、どちらか一方のIPアドレスを定義するようにしてください。



対処6

確認ポイント

運用管理サーバ二重化(連携型)の運用を実施し、各運用管理サーバにて通信環境定義の中継機能を有効にできていませんか。

原因

運用管理サーバ二重化(連携型)の運用では中継機能を無効にし、下位サーバからのメッセージを相手の運用管理サーバへ通知は行いません。自身のメッセージだけを相手の運用管理サーバへ通知する運用になります。

対処方法

各運用管理サーバにて、[システム監視設定]-[通信環境定義]の[接続]-[詳細]-[中継機能]で“中継機能”のチェックボックスを外してください。

対処7

確認ポイント

イベント監視の条件定義において、イベントを特定する定義として、正規表現文字“.*”を先頭に定義していませんか。

原因

先頭の“.*”は使用しても、使用しなくてもどちらも同じ意味になります。先頭の“.*”の正規表現を使用することによって、プロセスの負荷がかかるため処理が遅延します。

対処方法

先頭の正規表現文字“.*”は使用しないように定義してください。

対処8

確認ポイント

過去に発生したイベントが通知されていませんか。

原因

過去に発生したイベントが一度に再通知されると処理遅延が発生することがあります。

対処方法

“過去に発生したイベントが再度表示された”の対処3、対処4を参照してください。

注意事項

Systemwalkerコンソールでの表示、操作に時間がかかる(遅延している)場合、下記プロセスにてCPU使用率が高くなる可能性があります。上記に記載されている対処方法を実施してください。

- 対処1、2に該当する場合

UNIX版: opasyslog、opasyslog2、opafmnr、opamain、opamcauto1、opamcauto2、opasend、opaconn、opaacct、f3crhesv

Windows版: flegopeg.exe、flegope2.exe、flegopfg.exe、flegopct.exe、flegopm1.exe、flegopm2.exe、flegoppt.exe、flegopup.exe、flegoplw.exe、f3crhesw.exe

- 対処3、4、5、6に該当する場合

UNIX版: opamain、opamcauto1、opamcauto2、opasend、opaconn、opaacct、f3crhesv

Windows版: flegopct.exe、flegopm1.exe、flegopm2.exe、flegoppt.exe、flegopup.exe、flegoplw.exe、f3crhesw.exe

対処9

確認ポイント

未サポートの正規表現を使用していませんか。

原因

Systemwalkerがサポートしていない正規表現を使用した場合、処理遅延が発生することがあります。

対処方法

V10.0L21/10.1以前

“Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集”に記載されている正規表現を使用してください。

V11.0L10/11.0以降

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”に記載されている正規表現を使用してください。

9.6.8 監視対象のログファイルが意図したとおりに監視できない

以下のように監視対象のログファイルが監視できない場合の対処方法を説明します。

- 監視対象のログファイルのメッセージが再表示される
→ 対処1、2、4、5および注意事項を確認してください。
- 監視対象のログファイルが監視できない
→ 対処1～8、10、11および注意事項を確認してください。
- 監視対象のログファイルのメッセージが行の途中の文字で切れる
→ 対処3、4、8および注意事項を確認してください。

- 監視対象のログファイルのメッセージが行の途中の文字から表示される
→対処3、4、8および注意事項を確認してください。
- 監視対象のログファイルのメッセージが文字化けする
→対処3、4、8および注意事項を確認してください。
- 監視対象のログファイルの複数行のメッセージが1行で表示される
→対処3を確認してください。
- 監視対象のログファイルのメッセージが「Invalid character code. Text is deleted.」というメッセージに置換される
→対処3、4、8および注意事項を確認してください。
- 同一の監視対象ログファイルのメッセージであるのに、表示されるものとされないものがある
→対処3、4、8および注意事項を確認してください。
- 監視対象のログファイルを切り替えた際、切り替え後のログファイルが監視できない(11.0以降/V11.0L10以降)
→対処9を確認してください。
- 監視対象のログファイルの切り替えタイミングで、監視が抜けるログがある。(11.0以降/V11.0L10以降)
→対処12を確認してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

クラスタシステムの共有ディスクのログファイルを、[監視ログファイル設定]画面を使用して、監視対象として登録していませんか。
以下のバージョン、エディション、インストール種別以外は、共有ディスクのログファイルの監視をサポートしていません。

- Systemwalker Centric Manager 10.0以降
- Systemwalker Centric Manager EE
- 部門管理サーバ/業務サーバ

※運用管理サーバがクラスタの場合、共有ディスクのファイル監視機能は使用できません。

原因

クラスタシステムの共有ディスクのログファイル監視は、共有ディスクのファイル監視機能でサポートしています。
設定方法は[監視ログファイル設定]画面ではなく、「共有ディスクファイル監視定義ファイル」です。

対処方法

共有ディスクのファイル監視の設定手順に従って定義を実施してください。

詳細は、Systemwalker技術情報ホームページの、各クラスソフトの運用管理ガイドを参照してください。

注意事項

- 共有ディスク上のファイルを通常のログファイル監視(共有ディスクのファイル監視機能ではない)で監視すると、共有ディスクへの不正なアクセスが行われ、クラスタサービス機能によるフェールオーバ・システム停止が起こる可能性があります。通常のログファイル監視による監視を絶対行わないでください。
- 通常の“監視ログファイル設定”とは定義方法が異なります。
- Solaris版のSafeCLUSTER上で、共有ディスクのファイル監視を実施する場合は、必ず以下の修正を適用し、修正に添付しているreadmeも合わせて参照してください。

10.0 TJ00152以降 10.1 TJ10152以降

対処2

確認ポイント

リモートシステムのログファイルを監視対象としていますか。

原因

リモートシステムのログファイル監視は、サポートしていません。

対処方法

リモートシステムのログファイルを監視対象から外してください。

対処3

確認ポイント

監視対象のログファイルの文字コード(または改行コード)が、OSの文字コード(または改行コード)と異なっていませんか。

原因

監視対象のログファイルの文字コードおよび改行コードは、OSの文字コードおよび改行コードと必ず一致させてください。
ログファイル内に文字コードまたは改行コードが一致しない行が一部でも存在する場合、正常に監視ができません。

対処方法

文字コードの確認方法は“[出力されたメッセージと、監視イベント一覧に表示されるメッセージが違う](#)”を参照してください。

対処4

確認ポイント

ログファイル監視のしくみに合った監視をしていますか。

対処方法

監視のしくみ上、ログファイルへのメッセージの出力方法に問題がある場合、メッセージの出力方法を変更してください。

以下に監視のしくみを説明します。

ログファイル監視を実施した場合、Systemwalker Centric Managerは以下のタイミングでファイルサイズに変更がないかチェックします。

- Systemwalker Centric Manager起動時

- ・ [通信環境定義]ダイアログボックスの[動作設定]タブの[ファイル監視間隔]に指定された間隔

このチェック時に読み込んだログファイルの大きさと、現在の大きさを比較し、違いがある場合、ログファイルを読み込みます。

前回の大きさより増えた場合は、改行までを1メッセージとしてログファイルを読み込み、新規メッセージとします。

前回の大きさよりサイズが減少した場合は、ログファイルが一度クリアされたあと再出力されたと判断し、すべての内容を改行までを1メッセージとして処理します。

※共有ディスクのファイル監視機能も同様のしくみで、ファイルから新規のメッセージを読み込みます。

【例1】正しい監視の例

以下の場合、message6を新規メッセージとして処理します。

追加前	追加後
message1	message1
message2	message2
message3	message3
message4	message4
message5	message5
	message6

【例2】正しい監視の例

以下の場合、message6からmessage9を新規メッセージとして処理します。

追加前	追加後
message1	message6
message2	message7
message3	message8
message4	message9
message5	

【例3】正しい監視ができない例

以下の場合、サイズが変化しないため、message2は、新規メッセージにはなりません。

追加前	追加後
message1	message2

【例4】正しい監視ができない例

以下の場合、MESSAGE1001ではなく、001を新規メッセージとして処理します。

追加前	追加後
message1	MESSAGE1 001

【例5】正しい監視ができない例

以下の場合、messageABCDではなく、Cより新規メッセージとして処理し、文字列の途中から監視されます。

※ファイルサイズには改行コードが含まれているため、監視は"C"からになります。また、Windowsの場合は改行コードが2バイトであるため、監視は"D"からになります。

追加前	上書き後	通知結果
message1	messageABCD	UNIXの場合:CD Windowsの場合:D

対処5

確認ポイント

共有ディスクのログファイル監視で使用する、“監視作業ファイル”のアクセス権が変更されていないですか。

- Windows版

“監視作業ファイル”のセキュリティ設定で“administrators”、“SYSTEM”グループが共に割り当てられ、“書き込み”、“読み取り”が許可されていることを確認してください。

- UNIX版

“監視作業ファイル”のファイルの所有者が“システム管理者(スーパーユーザ)権限”で、所有者の“書き込み”、“読み込み”が許可されていることを確認してください。

原因

共有ディスクログファイル監視で使用する“作業ファイル”の属性が変更されてアクセス権限が無くなると、共有ディスクのログファイル監視が行えなくなります。

対処方法

“監視作業ファイル”のアクセス権が変更されている場合、“監視作業ファイル”を再作成してください。

以下の手順にて、“監視作業ファイル”を再作成します。

1. Systemwalker Centric Manager を停止します。
2. アクセス権が変更されている共有ディスクログファイル監視で使用する“監視作業ファイル”を削除します。
3. Systemwalker Centric Manager を起動します。

起動後に監視作業ファイルが自動生成され、生成された後にログされたメッセージから共有ディスクログファイル監視を始めます。

対処6

確認ポイント

ログファイル監視の定義変更を実施後、またはログファイル監視の定義をポリシー配付した後に、サービス、またはSystemwalker Centric Managerを再起動していますか。

原因

ローカルドライブ上のログファイル監視、または共有ディスクのログファイル監視の定義変更を実施後に、サービス、またはSystemwalker Centric Manager を再起動しないと、定義内容が有効になりません。

※サービスの再起動とは、[システム監視設定]画面より定義を変更し、変更完了時に実施する(ポップアップにより)、またはポリシー配付により“すぐに適用する(配付先のサービスを再起動する)”を選択した際に実施されます。

対処方法

再起動が未実施、または実施したことが不明の場合は、Systemwalker Centric Manager を再起動させてください。

対処7

確認ポイント

UNIX版の場合、監視対象のログファイルのサイズが2GBを超えていませんか。

原因

UNIX版Systemwalker Centric Managerでは2GBを超えるログファイルは監視できません。

対処方法

注意事項の“監視対象のログファイルをリセットする手順”に従って、ログファイルのリセットを実施してください。

対処8

確認ポイント

監視対象ログファイルをバイナリエディタで開いた場合に、NULL文字(0x00)等のバイナリデータが含まれていませんか。

原因

監視できるファイルはテキスト形式のファイルだけです。NULL文字(0x00)等のバイナリデータを含むファイルは監視できません。

対処方法

監視対象ログファイル内のバイナリデータを取り除いてください。また、その後バイナリデータが出力されないようにアプリケーション側で対処してください。

対処9

確認ポイント

監視機能の一時停止後に“監視ファイル名格納ファイル”の定義変更、および監視の再開は行っていますか。

原因

監視対象のログファイルが運用中に変更される場合、監視対象のログファイルの変更を行う必要があります。変更の手順が完了していない場合、切り替え後のログファイルは監視できません。

対処方法

以下の手順で監視対象のログファイルの変更を行ってください。コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

- ローカルドライブ上のログファイル監視の場合

1. 監視機能の一時停止をします。

```
opafmonext -p
```

2. “監視ファイル名格納ファイル”の内容を編集し、新たに監視対象となるファイル名に変更します。
3. 監視を再開します。

```
opafmonext -s
```

- 共有ディスクのログファイル監視の場合

運用系システムで実施してください。

1. 監視機能の一時停止をします。

```
opashrfmonext -p
```

2. “監視ファイル名格納ファイル”の内容を編集し、新たに監視対象となるファイル名に変更します。
3. 監視を再開します。

```
opashrfmonext -s
```

対処10

確認ポイント

監視対象のログファイルのファイルサイズは増加していますか？

原因

ログファイル監視機能では、ログファイルのサイズ増加を検知した場合に増分のテキストを読み込む仕様です。そのため、サイズが変化しないログファイルは監視ができません。

対処方法

監視対象にするログファイルは、ログの更新と同時にファイルサイズが増加するようにしてください。

対処11

確認ポイント

監視対象ログファイルの各行末に改行は付加されていますか。

原因

ログファイル監視では、各行の先頭から改行までを1メッセージとして処理します。

改行が付加されていない行については、たとえ増分であってもメッセージとして通知されません。

対処方法

監視対象ログファイルの各行末には改行を付加するようにしてください。

対処12

確認ポイント

監視対象のログファイルを切り替える前後で、ログファイル監視機能の一時停止と再開を行なっていますか？

原因

監視対象のログファイルを切り替える前後で、ログファイル監視機能の一時停止と再開を行なわない場合、ログファイルの切り替えタイミングで、ログの監視が抜ける場合があります。

対処方法

監視対象のログファイルを切り替える前後で、ログファイル監視機能の一時停止と再開を行なってください。ログファイル監視機能の一時停止と再開を行なうには下記のコマンドを使用します。一時停止時には”-p”オプションを、また再開時には”-s”オプションを指定してください。コマンド使用方法の詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

- opafmonext(ログファイル監視拡張コマンド)
- opashrfmonext(共有ディスクファイル監視拡張コマンド)

注意事項

- 監視対象ファイルを、定義から削除したあと、再度ログファイル監視設定に追加した場合、新規のファイルが定義されたと認識し、ファイルの内容がすべて処理されます。
- ログファイルの増加分の1行を1メッセージとして処理します。ただし、付加情報を含めた長さが2047バイト以下になるようにしてください。変換されたメッセージの構造を以下に示します。

ラベル: エラー種別: メッセージ

- ラベル: [監視ログファイル設定]画面で設定したラベル名
- エラー種別: [監視ログファイル設定]画面で設定したエラー種別
- メッセージ: ログファイルに書き込まれたメッセージ

- ログファイルサイズについての注意事項

ログファイル監視機能は、監視対象のログファイルを前回読み込んだ時の大きさを比較し、差分を新規メッセージとして通知します。このため、前回読み込んだ時の大きさより小さい場合は、すべての内容が更新されたと判断し、すべての内容が読み直されます。ログファイルのチェック間隔の初期値は30秒です。(ログファイルのチェック間隔は、[通信環境定義]ダイアログボックスの[動作設定]-[ファイル監視間隔]の設定で変更できます)

※監視対象のファイルが一時的にアクセスできない(アンマウント状態、一時的に退避等)、ファイルが存在しない場合、ファイルサイズは“0byte”として扱われ、次の監視はファイルの先頭から実施されます。

- Systemwalker Centric Managerの運用中に、一時的にアンマウントされるディスク上のファイルについて
アンマウントの状態ではファイルの参照ができないときはファイルサイズをObyteとして扱われます。そのため、再マウント後の監視はファイルの先頭から監視され、ログの再読み込みが行われる可能性があります。そのため、監視は正しくできません。
ただし、V11.0L10/11.0以降の場合、ログファイル監視拡張コマンド (opafmnext) または共有ディスクファイル監視拡張コマンド (opashrfmnext) を使用して、以下のようにアンマウントの前後でファイル監視機能の一時停止、再開を行うことでログの再読み込みが行われることなく監視を継続することが可能です。
 1. ファイル監視機能の一時停止
 2. アンマウント
 3. 再マウント
 4. ファイル監視機能の再開
- ラベル名に以下の文字列を指定した場合、メッセージ監視 (フィルタリング) が正しくできない場合があります。
 - INFO, 情報, Information
 - WARNING, 警告, Warning
 - ERROR, エラー, Error
 - HALT, 停止, Stop
- メッセージ発生日時は、Systemwalker Centric Managerがログファイルからメッセージを読み込んだ日時となります。
- 改行だけの行がログファイルに出力、監視された場合、メッセージが空白のメッセージ (ラベル+エラー種別だけのメッセージ) として扱われます。
- ファイルサイズの大きなログファイルを監視対象に追加する場合、ファイルの先頭から監視を開始するため、監視を完了するまでに時間が掛かり、大量のメッセージが発生する可能性があります。
- 監視対象のログファイルをリセットする手順は以下になります。(運用を止めずに実施する)
 1. 監視対象のログをリセット (ファイル削除・ファイル内容を消去) して、ファイルサイズを“Obyte”にする。
 2. [ファイル監視間隔]の時間以上待ち、ログファイルが“Obyte”になったことを Systemwalker Centric Manager に認識させる。
 3. ログの書き込みを再開する。

※2)の処理により、ログの書き込みを再開した後の監視ではファイルの先頭から監視されるため、メッセージが漏れなく監視されます。
- クラスタ運用を実施している運用管理サーバにおいて、ローカルドライブ上のログファイル監視は使用できないため、ログファイル監視の設定を外してください。

9.6.9 情報レベルのメッセージが監視イベント一覧に表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

確認ポイント

当該イベントをイベントビューアの[イベントの詳細]の画面で見た場合、[種類:]が[なし]になっていませんか。

Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合、エラー種別が[なし]のイベントであってもイベントビューアの[イベントの詳細]の画面で見た場合に[種類:]は[情報:]となります。そのため、Windows 2000等の別コンピュータのイベントビューアを使用して[操作]→[別コンピュータへ接続]でWindows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEのコンピュータに接続し、当該イベントの[種類:]を確認してください。

原因

エラー種別(※)が[なし]のメッセージは、Systemwalker Centric Managerでは以下のように処理します。

- [V11.0L10以前]
エラー種別を[エラー]、重要度を[最重要]として処理します。
- [V12.0L10以降]
メッセージ発生元システムの[通信環境定義]-[動作設定]-[動作設定詳細]-[エラー種別未設定イベントの扱い]で指定された[エラー種別(重要度)]として処理します。
初期値は[情報(一般)]です。
重要度が「通知」、「警告」、「重要」、「最重要」のいずれかであれば、メッセージが監視イベント一覧に表示されます。
※エラー種別とは、イベントビューアの[イベントの詳細]画面で見た場合の[種類:]を指します。

対処方法

[イベント監視の条件定義]ウィンドウで、重要度を“一般”と設定することで、監視イベント一覧に表示されなくなります。

9.6.10 正規表現の使用方法がわからない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

- V10.0L21/10.1以前
正規表現の使用方法については、“Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集”の“第2章 監視機能に関するQ & A”-“Q6 正規表現の使用方法”を参照してください。
- V11.0L10/11.0以降
正規表現の使用方法については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“正規表現の設定例”を参照してください。

9.6.11 同じメッセージが大量に表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

- HP-UX版:5.1以降
- AIX版:10.0以降
- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

メッセージ抑止機能を停止している、またはメッセージ抑止時間が短いため発生します。

メッセージ抑止機能を停止した場合、サーバで発生した同じメッセージが、すべて監視イベント一覧に表示されます。メッセージ抑止時間がメッセージ発生間隔よりも短い場合、同じメッセージが監視イベント一覧に表示されます。

確認ポイント

[通信環境定義]ダイアログボックスの[動作設定]タブで、[メッセージ抑止]に関する設定内容を確認してください。

対処方法

メッセージの発生間隔を確認し、メッセージ抑止時間をその間隔以上に設定してください。

メッセージ抑止時間の設定については、[通信環境定義]についてのオンラインヘルプを参照してください。

9.6.12 上位ノードへのメッセージが破棄される

エラーメッセージ

- Windows版の場合

```
MpOpagt: 警告: 47: 上位ノード (ホスト名=XXXX) への送信メッセージを破棄しました (データ数=XXXX)
```

- UNIX版の場合

```
opagtd: 警告: 47: 上位ノード (ホスト名=XXXX) への送信メッセージを破棄しました (データ数=XXXX)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

メッセージが送信されたとき、上位ノードのSystemwalker Centric Managerは起動していましたか。

原因

上位ノードのSystemwalker Centric Managerが停止しているため、メッセージが送信できず、発生したメッセージ数が通信環境定義で指定したメッセージの保存数を超えたことが原因です。

対処方法

破棄されたメッセージを被監視システムのメッセージログを参照して確認します。また、可能なら、[通信環境定義]ダイアログボックスの[保存データ数]で指定した未送信データ保存数を増やします。

[保存データ数]の設定については、[通信環境定義]についてのオンラインヘルプを参照してください。

対処2

確認ポイント

- ・ ネットワーク構成は正しいですか。
- ・ 上位ノードに、pingが通りますか

原因

ネットワーク障害によりメッセージが送信できず、発生したメッセージ数が通信環境定義で指定したメッセージの保存数を超えたことが原因です。

対処方法

pingが通らない場合、ネットワーク構成を見直してください。

破棄されたメッセージを被監視システムのメッセージログを参照し、確認します。また、[通信環境定義]ダイアログボックスの[保存データ数]で指定した未送信データ保存数を増やします。

[保存データ数]の設定については、[通信環境定義]についてのオンラインヘルプを参照してください。

対処3

確認ポイント

システム上で、大量のメッセージが発生していませんか、または、下位サーバから大量のメッセージを受信(下位サーバで大量のメッセージが発生)していませんか。

原因

イベント監視の条件定義により“上位送信”に該当するメッセージが、上位送信処理を上回る頻度で大量に発生し、通信環境定義で指定したメッセージの保存数を超えたことが原因です。

※上位サーバの負荷が高く、下位サーバからのメッセージ受信処理が低下している状況で、大量のメッセージが発生している場合も含まれます。

対処方法

“Systemwalkerコンソールでの表示、操作に時間がかかる(遅延している)、各サーバでCPU使用率が高くなっている”を参照し、対処してください。

対処4

確認ポイント

[通信環境定義]-[自ホスト名]の設定で決まるホスト名が、上位ノードのホスト名と同じ名前になっていませんか。

原因

[通信環境定義]-[自ホスト名]の設定で決まるホスト名が上位ノードのホスト名と同じ名前になっている場合、上位ノード側では被監視システムと正常に通信ができません。そのため、被監視システム側では送信待ちのメッセージが溜まり続け、「エラーメッセージ」に示したメッセージが連続して出力されることがあります。

対処方法

自ホスト名の定義がネットワーク全体で一意となるように、[通信環境定義]-[自ホスト名]を設定してください。

備考

自ホスト名が具体的にどのような名前になるか分からない場合、opamsgrcvコマンド(メッセージ検索コマンド)を実行し、自システムで発生したメッセージに付加されているホスト名を確認してください。

9.6.13 監視対象のメッセージが破棄される

エラーメッセージ

[V13.0.0以前]

```
opagtd: 警告: 205: 監視対象メッセージを破棄しました (データ数=XXXX)
```

[V13.1.0]

```
opagtd: 警告: 205: 監視対象メッセージを破棄しました (データ数=XXXX)。YYYYにおいてSystemwalker Centric Manager起動前の監視対象メッセージが500件を超えました。
```

XXXX: 破棄されたデータ数

YYYY: 破棄対象(以下の文字列)

- ・ システムのログ
- ・ 監視ログファイル(<対象ファイル名>)
- ・ 連携製品

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

長期間 Systemwalker Centric Manager を停止していませんか。

Systemwalker Centric Manager を停止中に200件(V13.1.0では500件)を超えるメッセージが発生していませんか。

原因

システム監視エージェントの起動前に、監視ログファイル、またはシステムログに200メッセージ以上出力された場合、各ログにて最新の200メッセージしか監視しません。そのため、起動前に200メッセージ以上が出力されていると、上記メッセージを出力してメッセージを破棄します。
※V13.1.0では最新の500メッセージが監視対象になります。

対処方法

破棄対象箇所(シスログ、監視ログファイルなど)に重要なメッセージが存在していないか確認し、必要であればメッセージにあわせた対処を実施してください。

Systemwalker Centric Managerの長期間の停止は行なわないようにしてください。また、V13.1.0では連携製品などでSystemwalker Centric Managerの起動前に大量のメッセージを通知しているものがある場合、起動順序などの運用を見直してください。

破棄対象がシスログの場合、/etc/syslog.confファイルでinfo(情報)レベルのメッセージをSystemwalker Centric Managerに通知する設定をしていると、Systemwalker Centric Managerの起動前にシスログに出力されるメッセージが多くなり、200件(V13.1.0では500件)を超える場合が起こりやすくなります(当メッセージが出力されやすくなります)。Systemwalker Centric Managerに通知するメッセージの設定を絞り込む(warning(警告))レベル以上のメッセージを通知する設定にすることにより対処できます。

※監視対象となっているシステムログのメッセージを見る方法、および監視対象の変更方法は、“[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)” 対処4を参照してください。

9.6.14 監視イベント一覧に文字化けしたメッセージが表示される

対処1

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

エラーメッセージ

MpAosfB: ERROR: 1018: コード変換に失敗しました。

確認ポイント

メッセージの発生元のサーバが、Solaris の場合、メッセージの発生元のサーバにエラーメッセージが出力されていないか確認してください。
エラーメッセージが表示されている場合、発生したメッセージの文字コードと、Systemwalker Centric Manager の文字コードが一致しているか確認してください。

Systemwalker Centric Manager の文字コードは、10.0以降の場合、自動的にOSの文字コードと同じものになります。5.2以前の場合は、SystemWalker/CentricMGRのインストール時に、文字コードを指定します。

対処方法

“出力されたメッセージと、監視イベント一覧に表示されるメッセージが違う”の対処2を参照して、対処してください。

対処2

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V11.0L10
- Systemwalker Event Agent
 - Linux版:V11.0L10

原因

Linux版のSystemwalker Centric ManagerおよびSystemwalker Event AgentのUTF-8コード系は、Red Hat Linux 9ではサポートされていないため、発生します。

対処方法

コードをUTF-8からEUCに変更して、Systemwalker Centric ManagerまたはSystemwalker Event Agentを再インストールします。

ポイント

Linux版のSystemwalker Centric ManagerおよびSystemwalker Event AgentのUTF-8コード系は、以下のOSの部門管理サーバ/業務サーバでサポートされます。

- Red Hat Enterprise Linux AS (v.3)
- Red Hat Enterprise Linux ES (v.3)

9.6.15 同一メッセージ抑止時間内に発生した同一メッセージが抑止されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

同一メッセージが発生する間に、ほかのメッセージが多数発生していませんか。

メッセージ抑止機能では一定時間(初期値:60秒)内に発生した100種類までのメッセージについて抑止を行います。一定時間内に100種類を超えてメッセージが発生した場合は、最新の100種類のメッセージについてメッセージを抑止します。

対処方法

メッセージが多発している場合は、発生原因を調査し対処してください。

9.6.16 監視したメッセージが時間順にならない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

異なるシステム・異なるリソース(イベントログ、ログファイル監視設定に定義されたログファイル等)に出力されたメッセージは、システム負荷やネットワークの状況によりメッセージの順番が前後してSystemwalker Centric Managerにロギングされます。そのため、Systemwalkerコンソールやメッセージ検索コマンド等の結果が時間順に表示されない場合があります。

対処方法

対処方法はありません。

9.6.17 関数の実行に失敗したことを示すメッセージが出力される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

以下のメッセージが出力されていませんか。

- Windows版の場合

MpOpagt: エラー: 51: writeでエラーが発生しました:デバイス上に十分な領域がありません。(%)

- UNIX版の場合

```
opagtd: エラー: 51: writeでエラーが発生しました:デバイス上に十分な領域がありません。( %1)
```

%1: write関数の実行に失敗したプロセス名

原因

ファイルシステムが100%使用されている場合、Systemwalker Centric Managerは正しく動作しません。

対処方法

“監視イベント一覧画面に特定ホストのメッセージが表示されない”の対処6を参照してください。

備考

上記メッセージのほかに、続けて別のメッセージが出力される場合もあります。まずは、上記メッセージの対処を実施してください。

例)

```
opagtd: エラー: 51: writeでエラーが発生しました:デバイス上に十分な領域がありません。(opalogmsg)
```

```
opagtd: エラー: 44: ログファイル (opalogmsgxx) の書込みに失敗しました
```

対処2

確認ポイント

以下のメッセージが出力されていませんか。

- Windows版の場合

```
MpOpagt: エラー: 51: bindでエラーが発生しました:アドレスがすでに使われています。( %1)
```

または、

```
MpOpmln: エラー: 1004: bindでエラーが発生しました (1,bind,10048,AR_bind,100)
```

%1: bind関数の実行に失敗したプロセス名

- UNIX版の場合

```
opagtd: エラー: 51: bindでエラーが発生しました:アドレスがすでに使われています。( %1)
```

または、

```
opadef: エラー: 51: bindでエラーが発生しました:アドレスがすでに使われています。( %1)
```

または、

```
MpOpmln: エラー: 1004: bindでエラーが発生しました (1,bind,125,AR_bind,200)
```

%1: bind関数の実行に失敗したプロセス名

※“NetWorker等との共存環境でSystemwalker Centric Managerのエラーメッセージが表示される”を合わせて確認してください。

原因

Systemwalker Centric Manager で使用するポートが、アプリケーションによって既に使われています。

対処方法

既に使用されているポート番号をメッセージのラベルおよびプロセス名(%1の部分)より確認し、使用するポートが重ならないようにしてください。Systemwalker Centric Manager 側の使用するポートを変更する場合、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

- ラベルにより特定

ラベル名	ポート番号
MpOpmln	9344/TCP

- プロセス名により特定(ラベルにより特定できない場合)

Windows版の場合

モジュール名	ポート番号
flegoplw	9294/TCP
flegopud	9294/UDP
mpstartsv	9345/TCP

UNIX版の場合

モジュール名	ポート番号
opaacct	9294/TCP
opaudpdrv	9294/UDP
mpstartsv	9345/TCP
FJSVgssagt	3035/TCP

9294: servicesファイルに、サービス名“uxpopagt”で定義されたポート番号

9344: servicesファイルに、サービス名“opmgrln”で定義されたポート番号

9345: servicesファイルに、サービス名“opmgrdef”で定義されたポート番号

3035: servicesファイルに、サービス名“FJSVgssagt”で定義されたポート番号

対処後は、以下を実施してください。

Windows版の場合

- Systemwalker Centric Managerを再起動します。

UNIX版の場合

- Systemwalker Centric Managerを再起動します。
- 以下のコマンドを実行し、syslogと通信するプロセスを再起動します。

SystemWalker/CentricMGR 10.0以前

- [Solaris版の場合]

```
sh /etc/rc2.d/S73opagt.syslog stop
```

```
sh /etc/rc2.d/S73opagt.syslog start
```

- [HP-UX版の場合]

```
sh /opt/FJSVsagt/sbin/init.d/opagt.syslog stop
```

```
sh /opt/FJSVsagt/sbin/init.d/opagt.syslog start
```

- [AIX版の場合]

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/script/opagt.syslog stop
```

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/script/opagt.syslog start
```

- [Linux版の場合]

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog stop
```

```
sh /opt/FJSVsagt/etc/init.d/opagt.syslog start
```

— Systemwalker Centric Manager 10.1以降

```
/opt/systemwalker/bin/stpopasyslog
```

```
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog
```

3. syslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で求めたプロセスID>
```

ただし、Red Hat Enterprise Linux 6以降については、以下を実施します。

【Red Hat Enterprise Linux 6.3 以降】

rsyslogサービスを再起動します。

— Red Hat Enterprise Linux 6の場合

```
service rsyslog restart
```

— Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合

```
systemctl restart rsyslog.service
```

【Red Hat Enterprise Linux 6.0/Red Hat Enterprise Linux 6.1/Red Hat Enterprise Linux 6.2】

rsyslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep rsyslogd  
kill -HUP <上記で求めたプロセスID>
```



注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

備考

上記メッセージのほかにも、続けて別のメッセージが出力される場合もあります。まずは、上記メッセージの対処を実施してください。

例)

```
opagtd: エラー: 51: bindでエラーが発生しました:アドレスがすでに使われています。(opaacct)
```

```
opagtd: エラー: 51: readでエラーが発生しました:パイプが切断されました。(opamain)
```

```
opagtd: エラー: 56: opaacctからのデータ受信に失敗しました (opamain)
```



ポイント

```
opadef: ERROR: 51: Error occurred in xxxx: yyyy (www)
```

```
opadef: エラー: 51: xxxxでエラーが発生しました:vvvv(www)
```

【メッセージの意味】

システムコールまたはシステム標準提供のライブラリ関数の実行に失敗しました。

【パラメタの意味】

xxxx: 失敗したシステムコールまたはライブラリ関数の名称

vvvv: 失敗した原因を示す文字列

wwwv: 失敗したMpOpguiサービスのプロセス名

【対処方法】

保守情報収集コマンドでイベント監視の資料を採取後、技術員に連絡してください。

.....

対処3

確認ポイント

以下のメッセージが出力されていませんか。

```
opagtd: エラー: 51: bindでエラーが発生しました:要求されたアドレスを割り当てられません。(opaconn)
```

原因

Systemwalker Centric Managerが、メッセージ送信先システムと通信時に使用するIPアドレスの設定が誤っています。

対処方法

Systemwalker Centric Managerがメッセージ送信先システムと通信時に使用するIPアドレスの定義を修正します。

•SystemWalker/CentricMGR 5.2/5.2.1の場合

下記定義ファイルに定義された、Systemwalker Centric Managerが使用するIPアドレスを修正してください。

```
/var/opt/FJSVsagt/tmp2/XXX.snd
```

XXX:

イベントの送信先となる運用管理サーバのIPアドレス、またはホスト名の文字列。大文字小文字も含め、メッセージ送信先に定義した文字列と同じ文字列にします。

1. 定義ファイルへ正しいIPアドレス(イベント送信元になるサーバの物理IPアドレス)へ修正してください。
2. Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

•Systemwalker Centric Manager 10.0以降の場合

下記コマンドにて定義された、Systemwalker Centric Managerが使用するIPアドレスを修正してください。

```
/opt/systemwalker/bin/opasetip -n nodename -i IpAddr
```

-n nodename:

メッセージ送信先に指定した送信先のホスト名、またはIPアドレスを定義します。大文字小文字も含め、メッセージ送信先システムに定義した文字列と同じ文字列にします。

-i IpAddr:

イベント送信元になるサーバの物理IPアドレスを設定します。物理IPアドレスを指定します。IpAddrに指定されたIPアドレスが登録されます。

1. opasetip(通信用IPアドレス定義コマンド)を正しいIPアドレス(イベント送信元になるサーバの物理IPアドレス)を指定して実施してください。
2. Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

備考

上記メッセージのほかに、続けて別のメッセージが出力される場合もあります。まずは、上記メッセージの対処を実施してください。

例)

opagtd: エラー: 51:bindでエラーが発生しました:要求されたアドレスを割り当てられません。(opaconn)
opagtd: エラー: 290:通信用IPアドレス定義コマンド(opasetip)で定義したIPアドレスが不当です。(IPアドレス:%1)
opagtd: エラー: 51:readでエラーが発生しました:パイプが切断されました。(opamain)
opagtd: エラー: 6:システム監視エージェントサービスが異常終了しました

%1: opasetipコマンドにて設定したIPアドレス

ポイント

opagtd: ERROR: 290: IP address specified in the command (opasetip) is invalid. (IP address:%1)
opagtd: エラー: 290: 通信用IPアドレス定義コマンド(opasetip)で定義したIPアドレスが不当です。(IPアドレス:%1)

【メッセージの意味】

opasetip(通信用IPアドレス定義コマンド) で設定したIPアドレスが不当です。

【パラメタの意味】

%1: opasetip(通信用IPアドレス定義コマンド) で設定したIPアドレス

【対処方法】

正しい、物理IPアドレスにてopasetip(通信用IPアドレス定義コマンド)を実施してください。コマンドで定義を実施した場合は、以下の操作を実施してください。

- ・ メッセージ送信先と常時接続で接続している場合
Systemwalker Centric Managerの再起動
- ・ メッセージ送信先と必要時接続で接続している場合
Systemwalker Centric Managerの再起動
下記コマンドの実行

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

対処4

確認ポイント

以下のメッセージが出力されていませんか

opagtd: 警告: 21: ホスト名 (%1) はシステムに定義されていません

%1: システムに定義されていないホスト名

原因

運用の最中に、メッセージ送信先システムに定義されているシステム情報が獲得できない(定義されていない)状況に陥っています。

対処方法

以下のどちらかの対処を行い、Systemwalker Centric Managerを再起動します。

- /etc/hostsでホスト名を管理している場合:
/etc/hostsにホスト名を定義するか、メッセージ送信先システムに定義したホスト名を修正します。
- DNS/NISサーバでホスト名を管理している場合:
DNS/NISサーバにメッセージホスト名を定義するか、メッセージ送信先システムに定義したホスト名を修正します。ネットワークの不調により、DNS/NISサーバにアクセスできない場合も同様の現象になります。その場合はネットワークを回復させてください。

備考

上記メッセージのほかに、続けて別のメッセージが出力される場合もあります。まずは、上記メッセージの対処を実施してください。

opagtd: 警告: 21: ホスト名 (%1) はシステムに定義されていません
opagtd: エラー : 51: readでエラーが発生しました:パイプが切断されました。(opasend)
opagtd: エラー : 51: readでエラーが発生しました:パイプが切断されました。(opamain)
opagtd: エラー : 56: opasendからのデータ受信に失敗しました (opamain)

%1: システムに定義されていないホスト名

対処5

確認ポイント

以下のメッセージが続けて出力されていませんか。

opagtd: エラー: 51: readでエラーが発生しました:接続が時間切れです。(opaacct)
opagtd: エラー: 56: opaconnからのデータ受信に失敗しました (opaacct)
opagtd: 警告: 60: 通信異常が発生しました。(ホスト=%1)(opaacct)

%1: 通信先のホスト名

原因

データ受信を行う際に、ネットワーク通信でタイムアウトが発生したことによりメッセージが出力されています。

対処方法

異常の発生した通信パスを切断し、新たな通信パス確立を待ち受けるため対処は不要です。

上記のメッセージが続けて出力されている場合は、ネットワークに不調はないか確認してください。

対処6

確認ポイント

以下のメッセージが出力されていませんか。

- Windows版の場合

MpOpagt: エラー: 57: 内部動作異常が発生しました (_open)
MpOpagt: エラー: 129: メッセージのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません

または、

MpOpagt: エラー: 57: 内部動作異常が発生しました (_open)
MpOpagt: エラー: 130: リモートコマンドのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません

- UNIX版の場合

opagtd: エラー: 15: 通信環境定義(ログファイル定義シート:メッセージログ:格納ディレクトリ)の指定が不当です
opagtd: エラー: 51: openでエラーが発生しました:ファイルもディレクトリもありません。(opalogmsg)
opagtd: エラー: 44: ログファイル (opalogmsgxx) の書込みに失敗しました
opagtd: エラー: 6: システム監視エージェントサービスが異常終了しました

または、

opagtd: エラー: 15: 通信環境定義(ログファイル定義シート:コマンドログ:格納ディレクトリ)の指定が不当です
opagtd: エラー: 51: openでエラーが発生しました:ファイルもディレクトリもありません。(opalogcmd)
opagtd: エラー: 44: ログファイル (opalogcmdxx) の書込みに失敗しました
opagtd: エラー: 6: システム監視エージェントサービスが異常終了しました

原因

通信環境定義に定義されている、メッセージログ、コマンドログの格納ディレクトリのパスが誤っています。

対処方法

実際に存在する格納ディレクトリを指定してください。

1. [システム監視設定]-[通信環境定義]のログファイル定義タブにて、実際に存在する格納ディレクトリを指定します。
2. Systemwalker Centric Manager を再起動させます。

対処7

確認ポイント

以下のメッセージが出力されていませんか。

MpOpagt: エラー: 122 :異常(FlushViewOfFile()-19)が発生しました
--

原因

イベント監視で使用する管理ファイル情報を、メモリからディスクに反映する際にエラーが発生したことを示します。

対処方法

システムシャットダウンの処理中に本エラーが出力された場合は対処の必要はありません。エラーを回避する場合は、Systemwalker Centric Managerを停止してからシステムシャットダウンを行うようにしてください。

システムシャットダウンが行われていないのに本エラーが出力された場合は、ディスク障害が発生していないか調査してください。

9.6.18 opamsgrev(メッセージ検索コマンド)にて、コマンド結果が正しく表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降

- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

検索条件で、“検索を開始する日時”(-sオプション)、“検索を終了する日時”(-eオプション)で検索していませんか。

原因

検索結果として表示される日時は、メッセージが発生した時点でのメッセージ発生システムでの日時です。また、検索条件として指定された日時は、ロギングされた日時をもとに検索されます。そのため、以下の状態になる場合がありますので注意してください。

- 条件で指定した日時の範囲からはずれているメッセージまで検索されます。
- 条件で指定した日時の範囲のメッセージでも検索されない。
- 複数システムのメッセージを同時に検索した場合、検索結果の表示でメッセージが時間順に並びません。

※ロギングされた日時とは、各サーバのメッセージログへ格納された日時になります。

ネットワーク不調により、上位サーバへの通知が遅れ、発生時間より時間が経ってから上位サーバのメッセージログへ格納された場合、サーバごとにシステム時間が違っていた場合などは、上記のような状態になることがあります。

対処方法

ロギングタイミングを考慮した検索条件で、メッセージ検索を実施してください。

9.6.19 Systemwalkerコンソールからイベントを対処したときに、監視イベント対処の開始に失敗する

Systemwalkerコンソールからイベントを対処したときに、“監視イベント対処の開始に失敗しました。”というエラーメッセージが表示され、運用管理サーバのイベントログまたはシスログに、“監視イベントの更新に失敗しました。”というメッセージが出力されます。

エラーメッセージ

MpBcmmt: エラー: 2130: 監視イベントの更新に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

監視イベントの対処に失敗したSystemwalkerコンソールにおいて、[イベント]-[未対処イベント最大件数読み込み]メニューを実行し、対処に失敗したイベントが表示されなくなれば、本原因と判断できます。

原因

運用管理サーバのイベントDBから既に溢れたイベントに対して操作を行っています。

本現象は、システム監視画面または、業務監視画面または、Systemwalkerコンソールに表示されているイベントを対処／保留した際に、対象のイベントが運用管理サーバの監視イベントログDBから削除されていた場合に発生することがあります。

監視イベントログDBに格納可能な監視イベント数は、設定時に初期値(1000ノードモデル)を採用している場合、約1万2千件程度です。イベントが発生した際、監視イベントログDBとして用意されていたサイズを超えていた場合には、古いイベントから順に監視イベントログDBから削除されます。

一方、システム監視画面または、業務監視画面または、Systemwalkerコンソールのイベント一覧は、現在表示している監視ツリーに所属している資源(ノードや、アプリケーション、ワークユニット等)で発生しているイベントが1000件を超えた場合に、古いイベントから順番にイベント一覧画面から削除されます。

このため、監視ツリーが2つ以上ある環境では、システム監視画面または、業務監視画面または、Systemwalkerコンソールのイベント一覧画面に表示されているイベントが、運用管理サーバの監視イベントログDBから既に削除されているというケースが発生します。

例えば以下のケースです。

監視ツリーAと監視ツリーBがあり、1日に100件(監視ツリーAに所属しているノードでは99件／日、監視ツリーBに所属しているノードでは1件／日)イベントが発生する場合、1000ノードモデルで作成した環境では、約120日経過した時点で、運用管理サーバのイベントログDBから古いイベントが削除されます。

しかし、監視ツリーBのイベント一覧画面には、120日経過した時点でも、表示されているイベント数は120件程度存在し、監視イベントログDBから削除されたイベントについても、監視イベント一覧に表示されたまま残っています。

対処方法

Systemwalkerコンソールにおいて、[イベント]-[未対処イベント最大件数読み込み]メニューを実行することで、イベント一覧が再表示され、イベントDBから溢れたイベントはイベント一覧から削除されます。

対処2

確認ポイント

Systemwalkerコンソールにおいて、選択しているイベントに関係なく、イベントの対処ができない。かつ、[イベント]-[未対処イベント最大件数読み込み]メニューを実行しても、イベント一覧が再表示されず、再表示後も現象が再現していませんか。

原因

運用管理サーバにおいて、Systemwalker Centric Managerのサービスの動作に異常が発生している可能性があります。

対処方法

運用管理サーバにおいて、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

9.6.20 監視イベント一覧のメッセージの一部が“_”で表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Managerが収集したイベントのメッセージ文字列の一部が、監視イベント一覧で表示できる文字コードに変換できなかったために発生します。

変換できなかった文字が“_”で表示されます。

具体的には、イベント発生元のメッセージを出力しているアプリケーションで、以下のどれかの動作をしていることが原因です。

- ・ 発生元システムの文字コードと異なる文字コードのメッセージを出力している
- ・ 出力しているメッセージが1文字のコードの途中で途切れている(例:2バイトコード文字の1バイト目で切れている)
- ・ 出力しているメッセージにクライアントのコード系では、表現できない文字が含まれている(JIS補助漢字など)

対処方法

“「Invalid character code. Text is deleted」または、「xxx "Cannot encode the rest of the messages. Check their contents on the sender system. <yyy>”が表示される”を参照して対処してください。

9.6.21 メール連携により監視しているメッセージの通知が遅延する

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

メールサーバ(POP3サーバ)に未受信のメールが溜まっていませんか。

原因

メールサーバ(POP3サーバ)に未受信のメールが溜まっている場合、メールサーバからの受信処理で遅延が発生することがあります。

対処方法

メールサーバ(POP3サーバ)に溜まっているメールの削除、またはメール連携機能専用のアカウントを用意して[メール連携環境設定]で定義してください。

対処2

確認ポイント

[メール連携環境設定]-[監視間隔]に大きな値が設定されていませんか。

原因

メール連携機能により送信されたメッセージは、[メール連携環境設定]-[監視間隔]に定義された間隔で受信されます。

対処方法

[監視間隔]に大きな値が設定されると、メッセージが大幅に遅延します。この場合、指定する値を適切なものに変更してください。

対処3

確認ポイント

POP3メールサーバへは遅延せずに通知されてきていますか。

原因

メール連携機能によるメッセージ通知は、メールサーバ(SMTPサーバおよびPOPサーバ)を中継しますので、各メールサーバ間の通知が遅延する場合、メッセージ遅延が発生します。

対処方法

各メールサーバ間の通知が遅延している原因(ネットワーク、各メールサーバの設定)を取り除いてください。

9.6.22 クラスタ待機系監視で、運用系ノードと通信不可状態のときに待機系ノードで発生したメッセージが100件しか通知されない

クラスタ待機系監視環境定義ファイル(opaclskonf)のパラメタ(SAVMSGNUM)に501~5000を指定した場合、運用系ノードと通信不可状態のときに待機系ノード(Systemwalker Centric Managerが動作していないノード)で発生したメッセージが、100件しか通知されません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

待機系ノードのシステムログ(messagesファイル)に、前回のシステム起動またはsyslog連携の起動タイミングで「opagtd: 警告: 8405:」のメッセージが出ていませんか。

原因

以下のマニュアルに記載されたSAVMSGNUMの指定可能範囲が間違っています。

- Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
- 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド PRIMECLUSTER編
- 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド SafeCLUSTER

対処方法

運用系ノードおよび待機系ノードで以下の手順で対処してください。

1. クラスタ待機系監視環境定義ファイル(/etc/opt/FJSV/sagt/opaclskonf)において、パラメタ(SAVMSGNUM)の設定値を100~500に変更後、保存してください。
2. システムの再起動、またはsyslog連携の停止/起動を行ってください。

syslog連携の停止/起動は以下の手順で実施してください。

1. syslog連携停止コマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/stpopasyslog
```

2. syslog連携起動コマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog
```

3. syslogdにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd
```

```
kill -HUP 上記で求めたプロセスID
```

9.6.23 監視イベント履歴CSV出力コマンド opmtrcsv が「ERROR: 00014: It failed to get domain name from registry.」で失敗する

エラーメッセージ

```
ERROR: 00014: It failed to get domain name from registry.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V11.0L10
 - Solaris版:5.0～11.0
 - Linux版:V11.0L10

確認ポイント

- opmtrcsv を運用管理クライアント上で実行しているか確認してください。
- opmtrcsv 実行時のオプションに「-d」を指定していないことを確認してください。

原因

運用管理クライアント上で opmtrcsv コマンドを実行する場合は、「-d」オプションで管理ドメインを指定する必要があります。

対処方法

運用管理クライアント上で opmtrcsv コマンドを実行する場合は、「-d」オプションで管理ドメインを指定してください。

管理ドメイン名は、運用管理サーバの環境作成時に指定したものを指定してください。また、以下の製品につきましては、MpfwSetupInfo(Systemwalkerセットアップ情報表示コマンド)を使用して、管理ドメインを確認することができます。

- Windows版:V5.0L30以降
- Solaris版:V5.2以降
- Linux版 :V11.0L10以降

9.6.24 監視イベントログDB情報表示コマンド opmtrinf、メッセージログ情報表示コマンド opaloginf、ログ強制切替えコマンド opalogchgが「エラー: 000x: データベースのオープンに失敗しました」で失敗する

エラーメッセージ

```
エラー: 000x: データベースのオープンに失敗しました
```

※メッセージ中の「x」は1桁の数値

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V13.2.0

確認ポイント1

- Centric Manager のバージョンがV5.0L10 ～ V13.0.0である。
- 運用管理サーバ上で実行している。
- Windowsターミナルサービス(リモートデスクトップ)経由でリモートから操作している。

原因

Windowsターミナルサービス(リモートデスクトップ)経由でリモートからの操作はサポートしていません。

対処方法

運用管理サーバのコンソール上で再度実行してください。リモートから操作を行う場合は、Systemwalker Centric Managerリモート操作を使用してください。

確認ポイント2

- Centric Manager のバージョンが V13.1.0 ～ V13.2.0 である。
- 運用管理サーバ上で実行している。
- Windowsターミナルサービス(リモートデスクトップ)をリモートセッションで接続してリモートから操作している。

原因

本機能は、リモートセッション接続では使用できません。

詳細は、V13.2.0の“Systemwalker Centric Manager 解説書”の“リモートデスクトップ(ターミナルサービス)を使用する場合の注意事項”を参照してください。

対処方法

本機能を使用する場合は、以下いずれかの方法で使用してください。

- コンソールセッションで接続して使用する。
- Systemwalker Centric Managerリモート操作を使用する。
- 運用管理サーバのコンソール上から直接使用する。

9.6.25 アプリケーション管理の稼働ポリシー違反イベントが、自動アクションの実行抑止コマンド(mpaosment)で抑止されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

自動アクションの実行抑止コマンド(mpaosment)をイベント発生元で実行していませんか。

原因

アプリケーション管理の稼働ポリシー違反イベントは、イベント発生元から運用管理サーバへ直接通知されます。そのため、mpaosmentコマンドでは抑止できません。

対処方法

運用管理サーバのイベント監視の条件定義で重要度を一般にする等、Systemwalkerコンソールに表示されない設定をしてください。

9.6.26 Systemwalkerコンソールに表示されたイベントに対するアクション定義ができない

エラーメッセージ

このメッセージは、フレームワークで管理されていないため定義できません

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

イベントログやsyslog等にイベントが多発していませんか。または、下位サーバからのイベントが多発していませんか。

原因

イベントが多発し、イベントを管理するデータベース容量を超えたため、対象のイベントが削除されました。そのため、対象のイベント情報をイベント監視の条件定義に反映できませんでした。

対処方法

対象のイベントについては、手動でイベント監視の条件定義に設定してください。

また、下位サーバからのイベント通知が多い場合、下位サーバから運用管理サーバへ通知するイベントについて検討し、必要でないイベントは通知しないように、下位サーバでの設定を見直してください。合わせてデータベースの拡張についても検討してください。

9.6.27 syslogに出力されたメッセージが遅延して通知される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

“[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)”の対処7について確認してください。

9.6.28 アプリケーションが監視ログファイル設定に登録されているログへの書き込みに失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

アプリケーションは、ログファイルを読み取り共有不可モードでオープンしていませんか。

原因

ログファイル監視機能は、読み書き共有可能モードでログファイルをオープンしています。しかし、ログを書き込むアプリケーションが読み取り共有不可モードでオープンする場合、ログファイル監視機能がファイルオープンしている間はオープンに失敗します。

対処方法

読み取り共有不可モードでオープンしているログファイルの監視はできません。アプリケーション側で読み取りが共有可能モードでオープンするようにしてください。

[参考]

ログファイル監視機能は、読み取りモードかつ、読み書き共有可能モード (WindowsAPI の CreateFile 関数 GENERIC_READ, FILE_SHARE_READ, FILE_SHARE_WRITE) でオープンしています。このモードでファイルをオープンした場合に、後発のオープンが成功/失敗するパターンを以下の表に記載します。

アプリケーションのオープンモード	G_R FS_R	G_R FS_W	G_R FS_R FS_W	G_W FS_ R	G_W FS_W	G_W FS_R FS_W	G_R G_W FS_R	G_R G_W FS_W	G_R G_W FS_R FS_W
オープン成功→○	○	×	○	○	×	○	○	×	○
オープン失敗→×									

- G_R: GENERIC_READ
- G_W: GENERIC_WRITE
- FS_R: FILE_SHARE_READ
- FS_W: FILE_SHARE_WRITE

9.6.29 opfmtコマンドまたはopfmt()関数を使用するアプリケーションがコア・ダンプする

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

opfmtコマンドの記述形式において、formatに指定された文字列の長さが、4175バイトを超えていませんか。

opfmtコマンドの記述形式

```
opfmt [-c] [-f flags] [-l label] [-s errclass] [-g catalog:msgnum] format [args]
```

各オプションの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

原因

確認ポイントに示した文字列の長さが長すぎる(4175バイトを超えている)ことが原因です。

対処方法

確認ポイントに示した文字列の長さが、4175バイト以内になるようにオプションを指定してください。

備考

Systemwalkerコンソールに表示されるメッセージは2047バイトで切られます。

対処2

確認ポイント

opfmtコマンドの記述形式において、以下の文字列の長さの合計が4175バイトを超えていませんか。

- catalogに指定されたメッセージカタログ名の長さ+1
- msgnumに指定されたメッセージテキスト番号の長さ+1
- formatに指定された文字列の長さ

opfmtコマンドの記述形式

```
opfmt [-c] [-f flags] [-l label] [-s errclass] [-g catalog:msgnum] format [args]
```

各オプションの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

原因

確認ポイントに示した文字列の長さが長すぎる(4175バイトを超えている)ことが原因です。

対処方法

確認ポイントに示した文字列の長さが4175バイト以内になるようにオプションを指定してください。

備考

Systemwalkerコンソールに表示されるメッセージは2047バイトで切られます。

対処3

確認ポイント

opfmtコマンドの記述形式において、以下の文字列の長さの合計が8351バイトを超えていませんか。

- labelに指定されたラベルの長さ+2
- errclassに指定された文字列に対応するエラー種別の長さ+2
- メッセージテキストの長さ(注)

注)

- `-g catalog:msgnum`が指定されている場合は、メッセージカタログ(`catalog`)の中のメッセージテキスト番号(`msgnum`)に対応するメッセージの長さ。
ただしメッセージカタログからメッセージを取り出せない場合は、`format`に指定された文字列の長さ。
- `format`に書式(`%s`)と引数(`args`)が指定されている場合は、書式を引数で置き換えた文字列の長さ。
- `-g catalog:msgnum`が指定されておらず、かつ、`format`に書式(`%s`)と引数(`args`)が指定されていない場合は、`format`の文字列の長さ。

opfmtコマンドの記述形式

```
opfmt [-c] [-f flags] [-l label] [-s errclass] [-g catalog:msgnum] format [args]
```

各オプションの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

原因

確認ポイントに示した文字列の長さが長すぎる(8351バイトを超えている)ことが原因です。

対処方法

確認ポイントに示した文字列の長さが8351バイト以内になるようにオプションを指定してください。

備考

Systemwalkerコンソールに表示されるメッセージは2047バイトで切られます。

対処4

確認ポイント

opfmt() 関数の記述形式において、以下の文字列の長さの合計が8351バイトを超えていませんか。

- opsetLabel()で指定されたラベルの長さ+2
- flagに指定されたエラー種別フラグに対応するエラー種別の長さ+2
- メッセージテキストの長さ(注)

注)

- `format`が"`catalog:msgnum:deftext`"または"`:msgnum:deftext`"の形式で指定されている場合は、メッセージカタログの中のメッセージテキスト番号(`msgnum`)に対応するメッセージの長さ。
ただしメッセージカタログからメッセージを取り出せない場合は、`deftext`に指定された文字列の長さ。
- `format`に書式(`%s`)と引数(`args`)が指定されている場合は、書式を引数で置き換えた文字列の長さ。
- `format`が"`catalog:msgnum:deftext`"または"`:msgnum:deftext`"の形式で指定されておらず、かつ、`format`に書式(`%s`)と引数(`args`)が指定されていない場合は、`format`の文字列の長さ。

opfmt() 関数の記述形式

```
int opfmt(FILE *stream, long flags, char *format, ... /*args*/);
```

各パラメタの詳細は、“Systemwalker Centric Manager APIガイド”または“Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド”を参照してください。

原因

確認ポイントに示した文字列の長さが長すぎる(8351バイトを超えている)ことが原因です。

対処方法

確認ポイントに示した文字列の長さが8351バイト以内になるようにパラメタを指定してください。

備考

Systemwalkerコンソールに表示されるメッセージは2047バイトで切られます。

9.6.30 イベントに対して、表示する色の変更が有効にならない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

アクション定義設定で色分けした場合、メッセージ一覧ウインドウに表示されるメッセージに対して有効になります。Systemwalkerコンソールの[監視イベント一覧]の表示色を設定するわけではありません。

対処方法

対処は必要ありません。

9.6.31 Systemwalker Centric Managerのメッセージログに「system (XXX) connected [YYY]」または「system (XXX) changed to [YYY]」といったログが出力される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降"

確認ポイント

メッセージの発生元システムにおいて、運用形態名による監視を行っていますか。

原因

運用形態名による監視を行っている場合に、Systemwalker Centric Managerが内部的に運用形態名の通知の履歴として、以下のメッセージを残します。

「<<<system (XXX) connected [YYY]>>>」または「<<<system (XXX) changed to [YYY]>>>」

対処方法

対処は必要ありません。

9.6.32 被監視サーバをネットワークに接続したときに、過去に発生した大量のメッセージが運用管理サーバに通知される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

被監視サーバ側で[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]を設定した状態で、ネットワークから切り離してSystemwalker Centric Managerを運用していましたか。

原因

仕様です。

Systemwalker Centric Managerでは、[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]に指定されたシステムと通信ができない状態で監視対象メッセージを受信した場合、保存データ数(注)に達するまでメッセージを溜め、通信可能になった時点で溜めていたメッセージを送信します。

注) [通信環境定義]-[動作設定]-[保存データ数]に指定された数値です。

対処方法

対処は必要ありません。

なお、V13.1.0以降は、滞留しているメッセージを破棄しても問題ない場合は、mpstayevtinit(滞留イベント初期化コマンド)により滞留イベントを削除できます。

mpstayevtinit(滞留イベント初期化コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

9.6.33 「監視イベントログをCSV形式で保存」機能が異常終了する

エラーメッセージ

エラーコード=1:CORBA 例外

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.2～11.0
 - Linux版:V11.0L10

確認ポイント

データベース作業用ディレクトリが削除されていませんか。

"データベース作業用ディレクトリ"の作成先は、製品VLにより異なります。対処方法の記載内容に従って、環境を確認してください。

原因

データベース作業用ディレクトリが存在しないため、処理が続行できません。

対処方法

ユーザ操作等で誤って削除されてしまった場合は、手動作成し復旧してください。

以下のXXXXは該当環境における"データベース作業用ディレクトリ"を示します。

- Solaris 5.2 の場合
 - 確認ファイル:/opt/FSUNrdb2b/etc/fssqlenv
 - 確認箇所:WORK_PATH=XXXX
- Solaris 10.0 ～11.0
 - 確認ファイル:/opt/systemwalker/etc/fssqlenv
 - 確認箇所:WORK_PATH=XXXX
- Linux 11.0
 - 確認ファイル:/opt/systemwalker/etc/fssqlenv
 - 確認箇所:WORK_PATH=XXXX

復旧手順

XXXX が"/var/tmp/CENTRIC"の場合を例に説明します。

1. rootアカウントでログインしてください。
2. Systemwalker Centric Manager を停止してください。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

3. /var/tmp/CENTRIC を作成してください。

```
mkdir -p /var/tmp/CENTRIC
```

4. ディレクトリのアクセス権限、オーナー、グループを以下のとおり、設定してください。

- Solaris版の場合
アクセス権限:755 オーナー:root グループ:other

```
chmod 755 /var/tmp/CENTRIC ; chown root:other /var/tmp/CENTRIC
```

- Linux版の場合
アクセス権限:755 オーナー:root グループ:root

```
chmod 755 /var/tmp/CENTRIC ; chown root:root /var/tmp/CENTRIC
```

5. Systemwalker Centric Manager を起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

備考

本現象は、opmtrcsv(監視イベント履歴CSV出力コマンド)でも発生します。opmtrcsvで発生する場合のエラーメッセージは、「opmtrcsv:ERROR:00014」、または「opmtrcsv:ERROR:00015」です。上記の対処方法で対処できます。

"/var/tmp/CENTRIC"ディレクトリが存在しないと、Symfoware Serverの動作保障ができないため、コマンドの実行の有無に関わらず対処が必要です。

9.6.34 「メッセージログファイルを切り替えました。」というメッセージが短時間に連続して出力される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

確認ポイント

監視対象のメッセージの発生頻度が高くなっていないかを確認してください。

特に、イベントログ(セキュリティ)へのメッセージ出力頻度が高い状態でないか確認してください。

原因

本メッセージは、Systemwalker Centric Managerが使用するメッセージログファイルが切り替えられた場合に出力されます。1つのメッセージログファイルに保存されたメッセージ数が、[通信環境定義]-[ログファイル定義]タブにある[メッセージログ]-[メッセージ数/ファイル]に指定された個数に達した場合に、メッセージログファイルの切り替えが発生します。

監視対象のメッセージの発生頻度が高い場合、メッセージログファイルの切り替えが早いサイクルで行なわれるために、本メッセージが短時間に連続して出力されます。

対処方法

本メッセージの出力頻度を抑える対処をしたい場合は、[通信環境定義]-[ログファイル定義]タブにある[メッセージログ]-[メッセージ数/ファイル]の値を拡張してください。

また、イベントログ(セキュリティ)へのメッセージ出力頻度が高いことで監視対象メッセージの通知遅延やシステムの高負荷状態が発生しており、これらを解決したい場合は、下記の設定ファイルに設定を行うことで、イベントログ(セキュリティ)を監視対象外にすることが可能です。(V11.0L10以降の場合)

- V11.0L10～V13.0.0の場合
セキュリティイベントログ監視設定ファイル
- V13.1.0以降の場合
イベントログ監視設定ファイル

設定方法の詳細は“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

なお、V10.0L21以前の場合は、必要に応じて、Windowsの監査対象項目を必要最小限に絞り、イベントログ(セキュリティ)へのイベント出力量を調整してください。

9.6.35 opaconstatコマンドを実行するとエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

[Windows版]

```
opaconstat:エラー:200:パイプのオープンに失敗しました(指定されたファイルが見つかりません。)
```

[UNIX版]

```
UX:opaconstat: エラー: 52: connectでエラーが発生しました (ファイルもディレクトリもありません。)
```

```
UX:opaconstat: エラー: 575: システム監視エージェントサービスへの接続に失敗しました
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:10.0以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V10.1以降

確認ポイント

コマンドを実行したサーバ上で、Systemwalker Centric Managerは動作していますか。

原因

opaconstatコマンドは自システム上のSystemwalker Centric Managerと通信を行なうため、Systemwalker Centric Managerが停止している状態で実行するとエラーとなります。

対処方法

Systemwalker Centric Managerを起動してからコマンドを実行してください。

9.6.36 イベント監視のポリシー設定時に「配付先ノードにイベント監視機能サービスがインストールされていません」と表示される

エラーメッセージ

```
配付先ノードにイベント監視機能サービスがインストールされていません
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Windows for Itanium版 V12.0L10～V13.3.0

- Solaris版:5.0以降
- HP-UX版:5.1以降
- AIX版:10.0以降
- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Linux for Itanium版:V12.0L10～V13.3.0
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

配付先ノードにSystemwalker Centric Manager が導入されており、[イベント通知先]の設定が完了していますか？

原因

イベント監視のポリシー設定時には、配付先ノードに対してSystemwalker Centric Managerのインストールコンポーネント情報が反映されている必要があります。この情報は、配付先となるノードにおいて、[イベント通知先]に運用管理サーバ(または部門管理サーバ)が設定され、運用管理サーバと配付先ノードの通信確立時に自動的に設定されます。

通信が一度も確立していない場合、配付先ノードにはインストールコンポーネント情報が未反映のため、イベント監視のポリシーを設定することができません。

対処方法

配付先となるノードをネットワークに接続させた状態で、[イベント通知先]に運用管理サーバ(または部門管理サーバ)を設定後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

第10章 監査ログ管理に関するトラブルシューティング

10.1 ログが収集できない

エラーメッセージ

```
mptm0124 収集対象のログがありませんでした。サーバ名=(収集を行ったサーバ名)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降
 - HP-UX版:13.2以降
 - AIX版:13.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降

対処1

確認ポイント

収集対象のログファイルが存在していますか。

対処方法

収集対象のログファイルが作成され、収集期間内のログデータが作成された後にログ収集してください。

対処2

確認ポイント

収集対象のログファイルの更新日付は収集期間内の日付ですか。また、収集対象のログファイルに収集期間内のログデータが存在していますか。

収集対象のログファイルの更新日付、およびログファイル内のログデータの日付が、ログ収集対象期間である収集実施日から7日前までのログを収集します。

対処方法

収集対象のログファイルに収集期間内のログデータが作成された後にログ収集してください。

監査ログ管理の「ログ収集対象期間」については、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.0.0
 - “Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“監査ログ管理の構成を設計する”
- V13.1.0～V13.2.0
 - “Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“監査ログ管理”

- V13.3.0

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編”の“監査ログ管理の構成を設計する”

対処3

確認ポイント

収集対象のログファイル名の設定が間違っていないか。収集対象のログファイル名の設定をmpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)で確認してください。

対処方法

正しい収集対象のログファイル名をmpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)で設定した後にログ収集してください。

mpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処4

確認ポイント

収集対象のログファイル名に対する日付書式の設定が間違っていないか。収集対象のログファイル名に対する日付書式定義ファイルの設定をmpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)で確認してください。

収集対象のログファイル内のログデータ書式と日付書式定義ファイルで設定した日付書式を確認します。

対処方法

正しい収集対象のログファイル名に対する日付書式定義ファイルの設定をmpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)で設定した後にログ収集してください。

mpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

日付書式定義ファイルで設定した日付書式が誤っていた場合は、正しい日付書式に修正した後に、mpatmdelap(ログ情報削除コマンド)でログ管理情報を削除してください。その後、ログ収集してください。

また、この場合、収集当日として収集されたログデータは、mpatmdelap後のログ収集で再収集されますので、一旦別のディレクトリに退避し、ログの再収集実施後にログデータが収集されているのを確認した後に削除してください。

監査ログ管理の収集規約については、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.0.0～V13.1.0

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“監査ログ管理でログを収集するために”

- V13.2.0

“Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド セキュリティ編”の“監査ログ管理でログを収集するために”

- V13.3.0以降

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編”の“監査ログ管理でログを収集するために”

mpatmdelap(ログ情報削除コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処5

確認ポイント

収集対象のログファイルが複数ログの場合、昇順・降順の設定が間違っていないか。収集対象のログファイル名の設定をmpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)で確認してください。

対処方法

正しい収集対象のログファイル名をmpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)で設定した後にログ収集してください。

mpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処6

確認ポイント

収集対象のログファイルが複数ログの場合、ログファイル名の設定にワイルドカードを含んでいますか。収集対象のログファイル名の設定をmpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)で確認してください。

対処方法

正しい収集対象のログファイル名をmpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)で設定した後にログ収集してください。

mpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処7

確認ポイント

監査ログ管理の収集規約に違反していませんか。収集対象のログが監査ログ管理の収集規約に一致しているかを確認してください。

対処方法

収集対象のログが監査ログ管理の収集規約に一致するように修正した後にログ収集してください。

監査ログ管理の収集規約については、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.0.0～V13.1.0
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“監査ログ管理でログを収集するために”
- V13.2.0
“Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド セキュリティ編”の“監査ログ管理でログを収集するために”
- V13.3.0以降
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編”の“監査ログ管理でログを収集するために”

対処8

確認ポイント

収集対象のログファイルにログ収集日よりも未来日のデータが含まれていませんか。収集対象のログファイルにログ収集日よりも未来日のデータが含まれていないかを確認してください。

対処方法

収集対象のログファイルからログ収集日よりも未来日のデータを削除した後にログ収集してください。

監査ログ管理の注意事項については、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.0.0～V13.1.0
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“監査ログ管理の注意事項”
- V13.2.0
“Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド セキュリティ編”の“監査ログ管理の注意事項”
- V13.3.0以降
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編”の“監査ログ管理の注意事項”

10.2 収集したログファイルがログ収集日の当日のみ作成される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降
 - HP-UX版:13.2以降
 - AIX版:13.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降

確認ポイント

収集対象のログファイルに収集日当日以外の期間内のログデータが存在していますか。

対処方法

収集対象のログファイルに収集日当日のログデータのみが存在している場合は、ログ収集は正常に動作しています。

収集対象のログファイルに収集日当日以外の期間内のログデータが存在している場合は、収集対象のログファイル名に対する日付書式の設定や収集対象のログファイル内のログデータ書式と日付書式定義ファイルで設定した日付書式を確認します。

- 収集対象のログファイル名に対する日付書式の設定に誤りがあった場合

正しい収集対象のログファイル名に対する日付書式定義ファイルの設定をmpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)で設定した後にログ収集してください。

mpatmlogapdef(ログ収集設定コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

- 日付書式定義ファイルで設定した日付書式が誤っていた場合

正しい日付書式に修正した後に、mpatmdelap(ログ情報削除コマンド)でログ管理情報を削除してください。その後、ログ収集してください。また、この場合、収集当日として収集されたログデータは、mpatmdelap後のログ収集で再収集されますので、いったん別のディレクトリに退避し、ログの再収集実施後にログデータが収集されているのを確認した後に削除してください。

監査ログ管理の収集規約については、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.0.0～V13.1.0

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“監査ログ管理でログを収集するために”

- V13.2.0

“Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド セキュリティ編”の“監査ログ管理でログを収集するために”

- V13.3.0以降

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編”の“監査ログ管理でログを収集するために”

mpatmdelap(ログ情報削除コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

10.3 ログ収集が失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降

- Linux版:V13.0.0以降
- HP-UX版:13.2以降
- AIX版:13.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降

対処1

確認ポイント

出力されているメッセージの対処方法を行いましたか。

対処方法

出力されているメッセージの対処方法を実施してください。

メッセージの対処については、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”-“mpatmではじまるメッセージ”を参照してください。

ほかには次のことを確認し、対処してください。

- 収集対象である被管理サーバ(部門管理サーバ、業務サーバ)自体が起動されていますか。
収集対象である被管理サーバを起動した後にログ収集してください。
- 収集対象である被管理サーバの“Systemwalker MpTrans”サービス、または“ftrandemon”デーモンが起動されていますか。
収集対象である被管理サーバの“Systemwalker MpTrans”サービス、または“ftrandemon”デーモンが起動した後にログ収集してください。Windowsの場合は、“Systemwalker MpTrans”サービスの起動、UNIXの場合は、Systemwalker Centric Managerを起動します。
なお、収集対象である被管理サーバがWindowsの場合は、以下の理由で起動されていない可能性が考えられます。
 - “Systemwalker MpTrans”サービスがエラーメッセージを出力して起動されていない。
 - “Systemwalker MpTrans”サービスのスタートアップの種類が“手動”になっていて起動されていない。
 これらの原因や対処については、“ファイル転送基盤のサービスが起動しない”、“ファイル転送基盤のサービス起動に失敗する”を参照して対処してください。
- 運用管理サーバと収集対象である被管理サーバとのネットワーク回線が切断されていませんか。
ネットワーク回線を復旧した後にログ収集してください。
- 運用管理サーバ自身のホスト設定がされていますか。
Linuxの場合、“/etc/hosts”に運用管理サーバのホスト名とIPアドレスの記述があるか確認し、ない場合は設定してください。
- DNS名運用の場合、DNSサーバの設定がされていますか。
DNSの設定をした後、ログ収集してください。

対処2

確認ポイント

収集対象である被管理サーバ・運用管理サーバとも、互いのホスト名の名前解決がされていますか。

収集対象である被管理サーバがWindowsの場合、運用管理サーバの名前解決に失敗している可能性があります。

名前解決の失敗は、以下の操作で確認ができます。

1. 運用管理サーバにて、以下のコマンドを投入し運用管理サーバのIPアドレスの一覧を出力します。

— Windowsの場合

```
ipconfig -a
```

— UNIXの場合

```
ifconfig -a
```

2. 収集対象である被管理サーバにて、以下のコマンドを 1.で出力した運用管理サーバのIPアドレスすべてに対して投入します。

```
ping -a IPアドレス
Pinging XX.XX.XX.XX with 32 bytes of data: *1
Reply from XX.XX.XX.XX: bytes=32 time=20ms TTL=247
:
```

*1:この行にホスト名が表示されない場合は、名前解決ができていない状況と特定できます。

原因

被管理サーバ上で、ファイル転送基盤が運用管理サーバのIPアドレスの名前解決に失敗したためです。

対処方法

被管理サーバのhostsファイルに運用管理サーバのIPアドレスをすべて追加してください。

追加した後、“Systemwalker MpTrans”サービスを再起動してください。

対処3

エラーメッセージ

```
mpatm0771 環境設定が行なわれていません。
```

確認ポイント

接続可能一覧ファイル (mpatmconnect.ini) を編集していますか。

対処方法

Systemwalker Centric Manager または Systemwalker Event Agent のインストール直後は、接続可能一覧ファイルに「*」が設定されており、「*」行が存在するとログ収集ができません。そのため、収集を行う前に必ず接続可能一覧ファイルを編集してください。

- 指定した運用管理サーバ以外からはログ収集させない場合
接続可能一覧ファイル (mpatmconnect.ini) に、収集を許可する運用管理サーバの情報を記述します。
- どの運用管理サーバからもログ収集させる場合
接続可能一覧ファイル (mpatmconnect.ini) を削除します。

mpatmconnect.ini(接続可能一覧ファイル)については、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.3.0以降の場合
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編”の“収集対象のサーバを限定する”
- V13.2.0の場合
“Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド セキュリティ編”の“収集対象のサーバを限定する”
- V13.0.0/V13.1.0の場合
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“収集対象のサーバを限定する”

対処4

エラーメッセージ

```
mpatm0741 ファイルの転送に失敗しました。ファイル名=(ファイル名)、エラー=(エラー内容)
```

確認ポイント

エラー内容に2と出力されている場合、転送用ディレクトリの設定は正しいですか。

対処方法

mptamdef(ログ収集一括定義コマンド)、または、mpatmlogdef(ログ収集情報定義コマンド)で転送用ディレクトリを設定してから、ログ収集をしてください。

mpatmdef(ログ収集一括定義コマンド)、mpatmlogdef(ログ収集情報定義コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

10.4 ログ収集をやり直したい

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降
 - HP-UX版:13.2以降
 - AIX版:13.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降

対処方法

一度行ったログ収集をやり直したい場合は、mpatmdelap(ログ情報削除コマンド)でログ管理情報を削除してください。その後、ログ収集してください。

また、事前に収集されたログデータとmpatmdelap後のログ収集で再収集されるログデータで重複する日付が存在する場合は、事前に収集されたログデータを一旦別のディレクトリに退避し、ログの再収集実施後にログデータが収集されているのを確認した後に削除してください。

mpatmdelap(ログ情報削除コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

10.5 ログ収集が途中で終了する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降
 - HP-UX版:13.2以降

- AIX版:13.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降

対処1

エラーメッセージ

```
mpatm0714 ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名=(ファイル名)
```

確認ポイント

被管理サーバ(部門管理サーバ、業務サーバ)のディスク容量は十分にありますか。

対処方法

ディスクの空き容量がない場合は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“監査ログ管理に必要な資源”を参照し、空き容量を確保してください。対処後も同じエラーになる場合は、保守情報収集ツールを使用して[監査ログ管理]-[監査ログ管理]の資料を採取し、技術員へ連絡してください。

対処2

エラーメッセージ

```
mpatm0741 ファイルの転送に失敗しました。ファイル名=(ファイル名)、エラー=(エラー内容)
```

確認ポイント

運用管理サーバのディスク容量は十分にありますか。

対処方法

ディスクの空き容量がない場合は、mpatmtrsdef(ファイル転送情報定義コマンド)で格納ディレクトリを変更し、ログ収集を行なうのに十分なディスクを用意してからログ収集してください。

mpatmtrsdef(ファイル転送情報定義コマンド)については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

10.6 Linuxの二重化環境においてログ収集が失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版V13.0.0以降(運用管理サーバ)
- Systemwalker Event Agent
 - Linux版V13.2.0

確認ポイント

運用管理サーバの/etc/hostsにおいてループバックアドレス(127.0.0.1)にサーバ名が設定されていませんか。

対処方法

/etc/hostsファイルを以下のように修正してください。

【修正前】

```
127.0.0.1 SERVER_NAME localhost.localdomain localhost
```

【修正後】

```
127.0.0.1 localhost
xxx.xxx.xxx.xxx SERVER_NAME
```

※xxx.xxx.xxx.xxxには運用管理サーバ(SERVER_NAME)のIPアドレスを指定してください。

10.7 ポリシーの登録に失敗する

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版 : V13.2.0 以降
 - － Solaris版 : V13.2.0以降
 - － Linux版 : V13.2.0以降

エラーメッセージ1

```
mpatm0619
```

対処1

エラーメッセージ出力例

```
mpatm0619 定義ファイルに不当なデータ行が存在します。行番号=nn、行データ=
REP,EventLogApplication,
YES,NO,NO,,C:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥MpAtm¥fmt¥mpatmevt.fmt,,,
```

確認ポイント

監査ログ管理ポリシーファイル内の“必須項目”となっている項目にデータを入力していますか。

対処方法

監査ログ管理ポリシーファイルの入力内容について、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“監査ログ管理ポリシーファイル”を確認のうえ、“必須項目”を入力してください。

修正確認後、ポリシーの登録を行ってください。

対処2

エラーメッセージ出力例

```
mpatm0619 定義ファイルに不当なデータ行が存在します。行番号=nn、行データ=
REP,EventLogApplication,
YES,NO,NO,C:¥WIN32APP¥MPWALKER.DM¥mpatm¥EvtLog.mpatmevt.fmt,,,
```

確認ポイント

監査ログ管理ポリシーファイルに記述した日付書式定義ファイルを、ポリシーファイルと同じディレクトリ配下に格納していますか。

対処方法

監査ログ管理ポリシーファイルに記述した日付書式定義ファイルを、ポリシーファイルを配置した同じディレクトリ配下に格納してください。

格納後、ポリシーの登録を行ってください。

エラーメッセージ2

mpatm0850 指定したノードにはポリシーを登録できません。

対処1

確認ポイント

ポリシー登録を行うノードのSystemwalker Centric Manager(またはSystemwalker Event Agent)のバージョンレベルは、V13.2.0以降ですか。

対処方法

監査ログ管理ポリシーファイルのポリシーの登録が可能なバージョンレベルは、V13.2.0以降です。

対処2

確認ポイント

ポリシー登録を行うノードをノード検出または、Systemwalkerコンソールでノード作成を実施していませんか。

Systemwalker Centric Manager(またはSystemwalker Event Agent)の初回導入時にポリシー定義に必要な情報が自動登録されます。それによりポリシーの登録が可能になります。

対処方法

“Systemwalkerコンソールで、[イベント]、[イベント監視の動作環境]の[ノード]がグレーアウトされている”の“対処2”と同様の対処を行ってください。

10.8 ログ収集が完了しない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降
 - HP-UX版:13.2以降
 - AIX版:13.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降

対処1

確認ポイント

収集対象である被管理サーバで、Systemwalker Centric Manager、またはSystemwalker Event Agentがインストールされていますか。インストールされていない場合は、“netstat -ao”コマンド(-oオプションはWindowsXP/Windows Server 2003のみ)にて1105ポートが使用されているか確認してください。

Systemwalker Centric Manager、またはSystemwalker Event Agentがインストールされていない場合も、1105ポートが使用されている場合があります。

原因

収集対象である被管理サーバで、ファイル転送基盤のサービスが使用する1105ポートをほかのプログラムが使用しているのが原因です。
Windows版の場合、1024番から5000番までのサービスポート番号をOSが一時ポートとして割り当てるため、ほかのプログラムが使用する場合もあります。

対処方法

以下のどれかの対処を行ってください。

- ・ 収集対象である被管理サーバがWindowsの場合、OSが一時ポートとして割り当てるポート番号の範囲を以下のURLを参考にして変更してください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;813122>

本対応は、レジストリの修正のため、システムバックアップの後行ってください。

- ・ 被管理サーバにおいて、1105を使用しているプログラムのTCPポートを別の値に変更してください。
- ・ 運用管理サーバとログ収集対象となっているすべての被管理サーバにおいて、ファイル転送基盤のポート番号(ftranhc)を、OSが一時ポートとして割り当てる範囲(1024-5000)以外のポート番号のうち、空いているポート番号に変更します。その後、Windowsの場合は、“Systemwalker MpTrans”サービスの起動、UNIXの場合は、Systemwalker Centric Managerを起動します。

備考

過去事例として、CA ARCserveという製品が1105ポートを使用しており、上記現象が発生しました。

対処2

確認ポイント

収集対象である被管理サーバ・運用管理サーバとも、互いのホスト名の名前解決がされていますか。

収集対象である被管理サーバがWindowsの場合、運用管理サーバの名前解決に失敗している可能性があります。

名前解決の失敗は、以下の操作で確認ができます。

1. 運用管理サーバにて、以下のコマンドを投入し運用管理サーバのIPアドレスの一覧を出力します。

- － Windowsの場合

```
ipconfig -a
```

- － UNIXの場合

```
ifconfig -a
```

2. 収集対象である被管理サーバにて、以下のコマンドを 1.で出力した運用管理サーバのIPアドレスすべてに対して投入します。

```
ping -a IPアドレス
Pinging XX.XX.XX.XX with 32 bytes of data: *1
Reply from XX.XX.XX.XX: bytes=32 time=20ms TTL=247
:
```

*1:この行にホスト名が表示されない場合は、名前解決ができていない状況と特定できます。

原因

被管理サーバ上で、ファイル転送基盤が運用管理サーバのIPアドレスの名前解決に失敗したためです。

対処方法

被管理サーバのhostsファイルに運用管理サーバのIPアドレスをすべて追加してください。

追加した後、“Systemwalker MpTrans”サービスを再起動してください。

対処3

確認ポイント

- Windowsの場合
収集対象である被管理サーバで、"Systemwalker MpTrans"サービスが起動している場合に発生していますか。
- UNIXの場合
収集対象である被管理サーバで、"ftranftwc"プロセスが起動している場合に発生していますか。

原因

ログ収集中に、ログ収集対象である被管理サーバで何らかの通信異常が発生し処理を中断しました。しかし、ログ収集コマンドが処理の中断を検知できず、応答待ちの状態になっています。

対処方法

通信異常等何らかの原因により、一定時間被管理サーバからの応答がなかった場合はエラーとなるように、無通信監視時間を設定します。

- 設定対象サーバ
ログ収集元となる運用管理サーバ
- 編集ファイル
 - Windowsの場合
Systemwalkerインストールディレクトリ¥Mpwalker.DM¥mptrans¥etc¥mpatmftranf.ini
Systemwalkerインストールディレクトリ¥Mpwalker.DM¥mptrans¥etc¥mpatmftranv.ini
 - UNIXの場合
/opt/FJSVftsv/etc/mpatmftranf.env
/opt/FJSVftsv/etc/mpatmftranv.env
- 設定内容
編集ファイルの最終行に、以下の2行を追加します。

```
[SYSTEM]
rty_timer = 通信監視時間
```

rty_timerに設定可能な値は以下となります。

- 0: 無通信監視を行わない
 - 1~3600: 無通信監視を行う時間(秒)
- タイムアウト発生時のメッセージ

```
mpatm0741 ファイルの転送に失敗しました。ファイル名=[%1]、エラー=[43]
```

%1: 転送に失敗したファイル名

備考

rty_timerに設定する値は、ログの容量やネットワークの状況に依存するため、適切な値を見積もるのは難しく、最大値 3600(1時間)を設定することを推奨します。

本タイムアウトの設定により行われる無通信監視は、転送するログファイル1つずつに対して行われます。1回のログ収集コマンドで複数のログファイルを収集する場合、コマンドの実行開始から終了までを一つのタイマーで監視しているわけではありません。

つまり、rty_timer = 3600と設定していても、1つのログファイルの転送に1時間以上かかればタイムアウトにならず、ログ収集コマンドの実行に1時間以上かかる場合もあります。

3600以内で設定したい場合は、運用環境でかかる時間を測定して適切な値を設定してください。

対処4

確認ポイント

収集対象である被管理サーバにおいて、分割転送時の転送サイズ(分割転送サイズ)が変更されていますか。

“mpatmlogdef DISP”コマンドを実行し、“TRANS SIZE=”の値が60(デフォルト値)より大きな値になっているか確認してください。

原因

転送するファイルサイズが監査ログの分割転送サイズを超えているため、ログの収集に時間がかかっています。

対処方法

mpatmlogdef(ログ収集情報定義コマンド)の“-S”オプションで分割転送サイズを拡張します。

備考

“-S”オプションで指定する値は1～1000(MB)の範囲で指定可能ですが、ネットワークへの負荷を考慮した上で、可能な限り大きな値を指定してください。

10.9 コマンドが実行できない

エラーメッセージ

mpatm0621 他のコマンドが実行中のため、このコマンドは実行できません

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0～V13.2.0
 - Solaris版:V13.0.0～V13.2.0
 - Linux版:V13.0.0～V13.2.0
 - HP-UX版:13.2
 - AIX版:13.2
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降

確認ポイント

Ctrl+C等で監査ログ管理のコマンドを強制終了していませんか。

原因

コマンドを強制終了したことで、コマンドの実行用排他ファイルが残存したために発生しています。

対処方法

以下の対処を行ってください。

[V13.2.0の場合]

1. 以下のディレクトリ配下のファイルをすべて削除してください。

```
Windows: Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.dm¥mpatm¥ctl¥exc
UNIX: /etc/opt/FJSVmpatm/ctl/exc
```

2. ログ収集コマンドを再度、実行してください。

サーバの再起動は必要ありません。

[V13.0.0/V13.1.0の場合]

1. 以下のファイルを削除してください。

— ディレクトリ

```
Windows: Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.dm¥mpatm¥ctl
UNIX: /etc/opt/FJSVmpatm/ctl
```

— ファイル

- "mpatm"で始まるファイル
- xxx.xxx.xxx.xxx_mpatmagentSemaphore.ctl
xxx.xxx.xxx.xxx:IPアドレス

2. ログ収集コマンドを再度、実行してください。

サーバの再起動は必要ありません。

10.10 共有ディスク上のログを収集するための設定が複数設定できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V13.2.0 以降
 - Solaris版: V13.2.0以降
 - Linux版: V13.2.0以降
 - HP-UX版: 13.2以降
 - AIX版: 13.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V13.2.0
 - Solaris版: V13.2.0
 - Linux版: V13.2.0

確認ポイント

mpatmcssetコマンドの-Hオプションに同じ論理ホスト名を指定していませんか。

原因

収集対象ログが存在する共有ディスク数分、mpatmcssetコマンドを実行しますが、-Hオプションに同じ論理ホスト名を指定すると、最後の設定のみ有効となります。

対処方法

mpatmcsset(クラスタセットアップコマンド)の-Hオプションには、共有ディスクを識別するための任意の名前を、それぞれ別の名前で指定してください。

指定する名前については、実際の論理ホスト名でなくても構いません。

10.11 ログが重複収集される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V15.3.0 以降

確認ポイント

収集対象のログファイルがテキストログ、かつ、複数ファイル指定で収集されていますか。

また、前回収集時に最後に収集したログデータ(以降、最終収集ログデータと呼びます)が、収集対象のログファイルに残っていますか。

補足

収集対象のログファイルがテキストログ、かつ、複数ファイル指定で収集されている場合、最終収集ログデータが収集対象のログファイルから無くなると、収集済のログデータなのか、出力されたログデータなのか判断できない状態となり、ログデータが一部重複収集される場合があります。

対処方法

重複収集されないようにするためには、以下の手順を実施してください。

1. 最終収集ログデータが無くなる前に、ログを収集する運用になっていることを確認します。
最終収集ログデータが無くなった後に収集した場合は、ログデータが一部収集されなくなります。

2. レジストリを修正します。

レジストリの修正内容は、下記のとおりです。

[キー名]

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu\MpWalker\CurrentVersion\MpAtm

[キー名]の配下に以下のデータを追加します。

- 名前 : SameTimestampOption
- 種類 : REG_DWORD
- データ : 1

元に戻す場合は、追加したデータを削除します。

第11章 監査ログ分析に関するトラブルシューティング

11.1 監査ログ正規化コマンド(mpatalogcnvt)に関するトラブルシューティング

11.1.1 監査ログの正規化に時間がかかる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.3.0
 - Solaris版:V13.3.0
 - Linux版:V13.3.0

確認ポイント

以下の条件を満たしている場合は、対処方法に従って回避してください。

- 正規化対象にWindows2008またはWindows Vistaのログが存在しない。

原因

UTF-8文字コードに含まれるJIS X 0213:2004で新規に追加された合成文字(4バイト)を通常文字に変換する処理に時間がかかっているため発生します。

対処方法

mpatalogcnvt(監査ログ正規化コマンド)に-Qオプションを指定してください。

- 記述形式

```
mpatalogcnvt [-H サーバ名] [-A ログ識別名] [-F 日数 -T 日数 | -B 日付]
[-L 監査ログ格納ディレクトリ] [-D 正規化出力ディレクトリ]
[-P [-R 正規化ルール定義ファイル名]] [-C {S|E|U|W}] [-Q]
```

- オプション

- -Q: 合成文字を通常文字に変換する処理を省略することで正規化の性能を上げます。

正規化対象にWindows2008または、Windows Vistaのログがない場合に指定してください。これらのログを含む場合に本オプションを指定した場合、合成文字が通常文字に変換されないため、通常文字(例:ば)と合成文字(例:は[°])を区別して検索する必要があります。

備考

-Qオプションは、以下の修正番号の緊急修正で有効です。

- T001829WP-02以降 (Windows版)
- T001830IP-02以降 (Windows for Itanium版)
- T001831SP-02以降 (Solaris版)
- T001832LP-02以降 (Linux版)
- T001834QP-02以降 (Linux for Itanium版)

適用されている修正については、UpdateAdvisor(ミドルウェア)のuam showupコマンドを実行することで確認できます。

コマンドの詳細については、UpdateAdvisor(ミドルウェア)のヘルプを参照してください。

11.1.2 監査ログ正規化コマンド(mpatalogcnvt)が失敗する

エラーメッセージ

```
mpatalogcnvt: エラー: 3202: 監査ログファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名=...
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.2.0以降
 - Solaris版:V13.3.0以降
 - Linux版:V13.3.0以降

確認ポイント

監査ログ管理の日付書式定義ファイルの設定が、正規化対象の監査ログファイルの日付書式と一致していますか。

原因

監査ログ管理の日付書式定義ファイルの設定が誤っているために発生しています。

対処方法

監査ログ管理の日付書式定義ファイルの誤っている箇所を修正し、再度、監査ログ正規化コマンドを実行してください。

(例1)

- 監査ログ

```
Oct 20 18:34:17 2008, . . .  
^      ^
```

- 日付:0文字目から開始(1)
- 時刻:7文字目から開始(2)

- 日付書式定義ファイル

(1)(2)の値に設定してください。

```
[FORMAT]  
TOKEN_WORD=xxxxxxx  
DATE_FORMAT=xxxxxxx  
DATE_TOKEN_POSIT=xx  
DATE_WORD_POSIT=0.....(1)  
TIME_FORMAT=xxxxxxx  
TIME_TOKEN_POSIT=xx  
TIME_WORD_POSIT=7.....(2)
```

(例2)

- 監査ログ

```
08-05-12 08:44:47.263725 D 3 DAO 10  
08-05-12 08:44:52.050608 D 3 MDL 10
```

- 区切り文字:タブ(1)
- 日付形式:YY-MM-DD(2)

- 日付書式定義ファイル

(1)(2)の値に設定してください。

```
[FORMAT]
TOKEN_WORD=TAB.....(1)
DATE_FORMAT=DATEFMT99.....(2)
DATE_TOKEN_POSIT=xx
DATE_WORD_POSIT=xx
TIME_FORMAT=xxxxxx
TIME_TOKEN_POSIT=xx
TIME_WORD_POSIT=xx
[USR_FMT1].....(2)
USR_FORMAT=%yy%-%mm%-%dd%.....(2)
USR_TOKEN_POSIT=0.....(2)
USR_WORD_POSIT=0.....(2)
```

第12章 ネットワーク管理関連

12.1 ノード検出に関するトラブルシューティング

12.1.1 ノード検出で、ノードが検出されない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

ノード検出を行うコミュニティ名でのアクセスが、検出対象ノードに許可されていません。

対処方法

検出対象ノードのSNMPエージェントに対して、ノード検出を行うコミュニティ名のアクセスを許可するように設定を変更してください。

対処2

原因

検出対象ノードのSNMPコミュニティ名と一致していません。

対処方法

検出対象ノードのSNMPエージェントに対して、ノード検出を行うコミュニティ名のアクセスを許可するように設定を変更してください。

対処3

確認ポイント

検出対象セグメントのルータ上で、SNMPエージェントが動作されていますか。

対処方法

ルータにSNMPエージェントをインストールするか、SNMPエージェント機能を有効にしてください。

対処4

確認ポイント

リトライアウト、タイムアウトオーバーが発生していませんか。

対処方法

リトライ回数、タイムアウト時間を増やしてください。

対処5

原因

検出対象ノード上でSNMPエージェントが動作していません。

または、SNMPエージェントが動作しているノードのARPテーブルに、検出対象ノードが載っていません。

※スイッチなどのネットワーク機器は、SNMPエージェントが動作していても[高速]検出では検出できない場合があります

対処方法

以下に示すどちらの方法で対処してください。

- ・ 運用管理サーバ上より、検出対象ノードにpingを行った直後、ノード検出を実行します。
- ・ [検出モード]を[確実]にして、ノード検出をしてください。

対処6

確認ポイント

検出対象セグメントのルータが無応答状態になっていませんか。

※ノード検出により一時的にルーティング機能が低下するルータがあります

対処方法

以下のどちらかでノード検出してください。

- ・ [検出モード]を[高速]にして、ノード検出をします。
- ・ [検出モード]の[カスタム]-[ICMP検索する]を選択し、[ICMP多重度]に[1]を指定して、ノード検出をします。

対処7

確認ポイント

ノード検出に時間がかかっていますか。

ICMPを使用したノード検出時間は、ネットワーク体系に依存します

原因

サブネットマスク(255.255.0.0)の検出は、長時間の検出時間を要します。

対処方法

“性能ガイド”を参照し、検出時間の見積もりを行ってください。

“性能ガイド”は、ソフトウェア技術情報の手引き／ガイド集よりダウンロードしてください。

<http://www.fujitsu.com/jp/software/technical/systemwalker/centricmgr/guide/>

対処8

確認ポイント

ネットワーク環境の不備により、ノード検出に時間がかかっていますか。

対処方法

運用管理サーバ、または部門管理サーバで、検出対象ノードに対して、以下のコマンドを実行し、ping応答に時間がかかっているか確認してください。(ping発行時のパケット往復時間は、通常10ms以下です。)

- ・ [Solaris の場合]

ping -I 1 検出対象ノードのIPアドレス32

- ・ [Windowsの場合]

ping 検出対象ノードのIPアドレス

として考える必要があります。

したがって、IPアドレスの29ビット目が変わるたびにサブネットが変わることになりますので、サブネットフォルダは以下のように切り分ける必要があります。

サブネットフォルダ1: xxx.xxx.xxx.0～xxx.xxx.xxx.7 サブネットフォルダ2: xxx.xxx.xxx.8～xxx.xxx.xxx.15 サブネットフォルダ3: xxx.xxx.xxx.16～xxx.xxx.xxx.23
--

対処14

確認ポイント

Windows2000/Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの「TCP/IPポートフィルタリング」機能を使用していませんか。

対処方法

「TCP/IPポートフィルタリング」機能を無効にしてください。

対処15

確認ポイント

ポリシーが設定されているか確認してください。

原因

ポリシーが設定されていないため監視が行われておりません。

対処方法

ポリシーを設定してください。

対処16

確認ポイント

検出対象のセグメントがどの部門に所属するかを確認してください。運用管理サーバまたは部門管理サーバによって、確認事項が異なります。

- ・ [操作]メニューのノード検出の場合

[操作]メニューのノード検出の場合、検出対象ノードへの通信は運用管理サーバから行います。

- ・ [ポリシー]メニューの定期的なノード検出の場合

定期的なノード検出では、セグメントが所属する部門の管理サーバにポリシーを設定し、その管理サーバから検出対象ノードに対して検出の要求を送信します。そのため、検出対象のセグメントはあらかじめ各管理サーバ配下に所属した状態でポリシー設定する必要があります。

原因

検出する管理サーバ(運用管理サーバまたは部門管理サーバ)から検出対象ノードに対しての通信が許可されていない、もしくは何らかの原因で通信ができない場合、ノードが検出されません。

対処方法

検出する管理サーバから検出対象ノードに対してpingコマンドを実行し、通信が可能か確認してください。

- ・ [Solaris の場合]

ping -I 1 検出対象ノードのIPアドレス32

- [Windowsの場合]

```
ping 検出対象ノードのIPアドレス
```

- [Linuxの場合]

```
ping -i 1 検出対象ノードのIP アドレス32
```

応答が返ってこない場合は、ping通信が可能となるように、ファイアウォールの設定などネットワーク環境の設定を見直してください。

12.1.2 セグメントに対するノード検出でノードが検出されない(モード=高速、対象=運用管理サーバが属するセグメント)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

ノード検出を行うコミュニティ名は、検出対象ノードへのアクセスが許可されていますか。

対処方法

検出対象ノードのSNMPエージェントに対して、ノード検出を行うコミュニティ名のアクセスを許可するように設定を変更してください。

SNMPエージェントの設定に関する詳細は、各ネットワーク機器のマニュアルを参照してください。

対処2

確認ポイント

ノード検出に時間がかかっていませんか。

対処方法

ネットワーク環境に問題がないか、検出されないノードに対し、ping、tracert (Windows版の場合は、tracert) コマンドで確認します。

- ネットワーク環境に問題がある場合
ネットワーク環境を見直してください。
- ネットワーク環境に問題がない場合
[検出モード]を[確実]にして、ノード検出をしてください。

12.1.3 セグメントに対するノード検出でノードが検出されない(モード=高速、対象=運用管理サーバが属さないセグメント)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

ノード検出を行うコミュニティ名は、検出対象ノードへのアクセスが許可されていますか。

対処方法

検出対象ノードのSNMPエージェントに対して、ノード検出を行うコミュニティ名のアクセスを許可するように設定を変更してください。

対処2

確認ポイント

検出対象セグメントのルータ上で、SNMPエージェントが動作していますか。

対処方法

該当ルータにSNMPエージェントをインストールするか、SNMPエージェント機能を有効にしてください。

対処3

確認ポイント

ネットワーク負荷は、高くないですか。

ネットワーク負荷が高いため、監視ポーリングがタイムアウトになっている可能性があります。

対処方法

リトライ回数、またはタイムアウト時間を増やしてください。

リトライ回数とタイムアウト時間は、[ノード検出]ダイアログボックスで、[詳細]-[ポーリング]の[リトライ回数]、または[タイムアウト時間]で設定できます。

対処4

原因

検出対象ノード上でSNMPエージェントが動作していません。

または、SNMPエージェントが動作している検出対象ノードのARPテーブルに、検出対象ノードが載っていません。(運用管理サーバ上で、arpコマンドを実行し、確認できます。)

※スイッチなどのネットワーク機器は、SNMPエージェントが動作していても[高速]検出では検出できない場合があります。

対処方法

以下のどちらかを実施してください。

- ・ 運用管理サーバ上で、検出対象ノードにpingを行ったあとに、ノード検出してください。
- ・ [検出モード]を[確実]にして、ノード検出をしてください。

対処5

確認ポイント

ノード検出に時間がかかっていませんか。

対処方法

運用管理サーバまたは部門管理サーバで、検出対象ノードに対して、以下のコマンドを実行し、ping応答に時間がかかっていないか確認してください。(ping発行時のパケット往復時間は、通常10ms以下)

- [Solaris の場合]

```
ping -I 1 検出対象ノードのIPアドレス 32
```

- [Windowsの場合]

```
ping 検出対象ノードのIPアドレス
```

- [Linuxの場合]

```
ping -i 1 検出対象ノードのIPアドレス 32
```

時間がかかる場合は、DNSサーバなどの定義が正しいか確認してください。

12.1.4 セグメントに対するノード検出でノードが検出されない(モード=確実、対象=運用管理サーバが属するセグメント)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

被監視ノードのOS側で、パーソナルファイアウォールなどのパケットフィルタリングソフトが起動されていませんか。

対処方法

被監視ノードのOS側の設定を見直し、ICMP/SNMPの通信を許可するようにしてください。

対処2

確認ポイント

ノード検出に時間がかかっていますか。

対処方法

[検出モード]を[高速]にして、ノード検出をしてください。

対処3

確認ポイント

ネットワーク環境に問題はありますか。

対処方法

運用管理サーバまたは部門管理サーバで、検出対象ノードに対して、以下のコマンドを実行し、ping応答に時間がかかっているか確認してください。(ping発行時のパケット往復時間は、通常10ms以下です。)

- [Solaris の場合]

```
ping -I 1 検出対象ノードのIPアドレス 32
```

- [Windowsの場合]

```
ping 検出対象ノードのIPアドレス
```

- [Linuxの場合]

```
ping -i 1 検出対象ノードのIPアドレス 32
```

時間がかかる場合は、DNSサーバなどの定義が正しいか確認してください。

12.1.5 セグメントに対するノード検出でノードが検出されない(モード=確実、対象=運用管理サーバが属さないセグメント)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

検出対象セグメントのルータが無応答状態になっていませんか。

対処方法

以下のどちらかでノード検出をしてください。

- [検出モード]を[高速]にして、ノード検出をします。
- [検出モード]の[カスタム]-[ICMP検索する]を選択し、[ICMP多重度]に[1]を指定して、ノード検出をします。

対処2

確認ポイント

ノード検出に時間がかかっていますか。

対処方法

[検出モード]を[高速]にして、ノード検出をしてください。

対処3

確認ポイント

ネットワーク環境に問題はありますか。

対処方法

運用管理サーバまたは部門管理サーバで、検出対象ノードに対して、以下のコマンドを実行し、ping応答に時間がかかっているか確認してください。(ping発行時のパケット往復時間は、通常10ms以下)

- [Solaris の場合]

```
ping -I 1 検出対象ノードのIPアドレス 32
```

- [Windowsの場合]

```
ping 検出対象ノードのIPアドレス
```

- [Linuxの場合]

```
ping -i 1 検出対象ノードのIPアドレス 32
```

時間がかかる場合は、DNSサーバなどの定義が正しいか確認してください。

12.1.6 ネットワーク全体に対するノード検出で、運用管理サーバが属するネットワーク配下のノードしか検出されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

検出対象のサブネットフォルダを作成していますか。

対処方法

検出したいサブネットフォルダを作成し、ノード検出します。

【V10.0L21/10.1以前】

1. [Systemwalkerコンソール システム監視]の、[モード]メニューから[編集モード]を選択します。
2. [フォルダ]メニューから、[フォルダの作成]を選択します。
→[フォルダ作成]ダイアログボックスが表示されます。
3. 項目を入力し、[OK]ボタンをクリックします。
4. 作成したサブネットフォルダを選択し、[操作]メニューから[ノード検出]を選択します。

【V11.0L10/11.0以降】

1. Systemwalkerコンソールの、[機能]メニューから[機能選択]-[編集]を選択します。
2. [オブジェクト]メニューから、[フォルダの作成]を選択します。
→[フォルダ作成]ダイアログボックスが表示されます。
3. 項目を入力し、[OK]ボタンをクリックします。
4. 作成したサブネットフォルダを選択し、[検出]メニューから[ノード検出]を選択します。

対処2

確認ポイント

ルータ上でSNMPエージェントが動作していますか。

対処方法

ルータのアイコンを選択し、[操作]メニューから[MIB情報の表示]-[システム情報]を実行します。タイムアウトした場合は、該当ルータにSNMPエージェントをインストールするか、SNMPエージェント機能を有効にしてください。

対処3

確認ポイント

運用管理サーバからのアクセスをルータがIPレベルで許可していますか。

対処方法

運用管理サーバから、ルータに対してpingを発行します。応答しない場合はIPレベルでの通信ができるようにシステム/ネットワークなどの設定を見直してください。

対処4

確認ポイント

運用管理サーバからのアクセスをルータがSNMPレベルで許可していますか。

対処方法

ルータのアイコンを選択し、[操作]メニューから[MIB情報の表示]-[システム情報]を実行します。タイムアウトした場合は、運用管理サーバからのSNMPでのアクセスを許可するようにルータの設定を変更してください。

対処5

確認ポイント

ルータ上で動作しているSNMPエージェントは、正常に動作していますか。

対処方法

ルータのアイコンを選択し、[操作]メニューから[MIB情報の表示]-[インタフェース情報]を実行します。何も表示されない場合は、SNMPエージェントの設定を見直してください。または、正しく動作するSNMPエージェントを導入してください。

対処6

確認ポイント

ルータは、LANのインタフェースを実装していますか。

対処方法

ルータのアイコンを選択し、[操作]メニューから[MIB情報の表示]-[インタフェース情報]の[インタフェースの種類]に、LANのインタフェースがあるか確認してください。LANのインタフェースがない場合には、ノード検出はできません。

対処7

確認ポイント

ルータ上のARPテーブルに、ほかのネットワークの情報がありますか。

対処方法

ルータのアイコンを選択し、[操作]メニューから[MIB情報の表示]-[MIB取得]で、[ipNetToMediaNetAddress]を取得し、その中にほかのネットワークの情報がああるか確認してください。ほかのネットワークの情報があない場合は、ほかのネットワーク配下のノードに対して、pingなどでアクセスしてから、ノード検出を行ってください。

対処8

確認ポイント

ルータで動作するSNMPエージェントが許可するコミュニティ名は一致していますか。

対処方法

ルータのアイコンを選択し、[操作]メニューから[MIB情報の表示]-[システム情報]などを実行します。タイムアウトするか、またはルータのSNMPトラップ通知先に対してauthenticationFailureが通知された場合、ノード検出のコミュニティ名をルータ側で許可するように、SNMPエージェントの設定を変更します。

12.1.7 WANに対してノード検出したとき、対象ネットワーク側のルータのルーティング能力が低下する、または無応答状態になる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ノード検出時に指定した[検出モード]と対象ルータの機種を確認してください。

ルータの機種によっては、一度に大量のARPを受信するとルーティング能力が低下する、または一時的に無応答状態になるものがあります。(例:LR-2xxなど)。

対処方法

LR-2xxルータに対して、[検出モード]を[確実]でノード検出を行っている場合は、[検出モード]を[高速]に変更して、ノード検出を行ってください。

12.1.8 ノード検出時に、複数インタフェースを持つノードの代表インタフェースが変更される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

- 複数のインタフェースを持つノードの各インタフェースのIPアドレスが名前解決できるようになっていますか。
- ノードの名称は、インタフェースの名前のどれか一つと一致していますか。

ノード検出時の代表インタフェースは、以下の順序で自動的に選ばれます。

1. システム名とIPアドレスに対応するホスト名が同一のインタフェース
2. 検出インタフェースの先頭よりIPアドレスが“0.0.0.0”、“127.0.0.1”以外のインタフェース

対処方法

複数のインタフェースを持つノードは、それぞれのインタフェースのIPアドレスが名前解決できるように設定し、ノードの名称は、インタフェースの名前のどれか一つと一致させてください。

対処2

確認ポイント2

名前解決をWINSで行っており、複数枚のLANカード(NIC)のすべてのIPアドレスが同一のホスト名で解決されていませんか。

原因

WINSやMS-ActiveDNSによる名前解決が行われているために発生します。

対処方法

複数LANカード(NIC)を搭載したサーバのそれぞれのIPアドレスに対し、別々のホスト名をhostsファイルに設定してください。Systemwalkerの導入されているすべてのサーバで同様の名前で解決できるように設定を行う必要があります。

12.1.9 クラスタノード検出時、系間アドレスが代表インタフェースとして検出される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

- 運用管理サーバ上で、クラスタを構成するノードが管理するIPアドレスに、別々のホスト名が割り当てられていますか。
- パブリックネットワークのIPアドレスに対して、ノードのコンピュータ名をホスト名として割り当てられていますか。

対処方法

以下の2つの対処を実施してください。

- 1台のマシンにLANカード(NIC)を2枚以上搭載した場合、LANカード(NIC)に割り当てたIPアドレスには、別々の名前を与えてください。
- どれか一つの名前を、コンピュータ名と合わせてください。

12.1.10 ノード検出後、ネットワークタブのMIB2 SysDescの文字列が16進数表記となったり、一部文字化けする

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

該当ノードのMIB2 sysDescr(エージェントに関する記述)に、Shift-JIS以外の日本語が設定されていませんか。

対処方法

“MIB2 SysDesc:”の表示項目の情報については、対象ノードを選択し、[操作]メニューから[指定システム]—[MIB情報]—[システム情報]ウィンドウの“システム詳細”を参照してください。

なお、本現象によるネットワーク監視の動作への影響はありません。

12.1.11 MIB取得はできるが、ノード検出でインタフェース情報が採取されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

対象ノードに対し、MIB情報の取得を行い、インタフェースの情報にあるifIndexの値とIPアドレスの情報にあるipAdEntIfIndexの値が一致していますか。

Windows版、Solaris版12.0以降、またはLinux版V12.0L10以降の場合は、snmpdumpコマンドを使用してMIBの値を確認してください。正しいコミュニティ名を指定してください。なお、snmpdumpコマンドはトラブル調査用であり、Systemwalker Centric Managerの一般機能ではありません。

```
snmpdump -a IPアドレス -m MIB名 -c コミュニティ名
```

例)

```
snmpdump -a 10.124.201.171 -m interfaces -c public > 10.124.201.171_if.txt
```

```
snmpdump -a 10.124.201.171 -m ip -c public > 10.124.201.171_ip.txt
```

- 格納場所

[Windows版]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpnetmgr¥bin
```

[UNIX版 (Solaris版12.0以降/Linux版V12.0L10以降)]

```
/opt/FJSVfsmkt/bin
```

原因

インタフェースの情報にあるifIndexの値とIPアドレスの情報にあるipAdEntIfIndexの値が一致していない場合は、ノード検出時のインタフェース情報は反映されません。

対処方法

以下の手順により採取されなかったインタフェース情報のうち、IPアドレス、サブネットマスク、ホスト名、インタフェース名を手動で追加することができます。

1. Systemwalkerコンソール[編集]にて、基本ツリーより、対象ノードのプロパティを開く
2. インタフェースタブに切り替え、[追加]ボタンをクリックする

ifIndexの値とipAdEntIfIndexの値が一致していないことについての対処方法については、対象ノードの機器提供元に問い合わせてください。

12.1.12 ノード検出を行うと、仮想メモリ不足が発生する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

- Linux版:V11.0L10以降

原因

- Systemwalker Centric Manager V5.0以降の場合
 - ノード検出の対象にサブネットマスク255.0.0.0のサブネット、またはサブネットマスク255.0.0.0のサブネットを含む部門フォルダがある場合
 - [検出モード]を[確実]、または[カスタム]-[ICMP検索する]を指定している場合
- SystemWalker/CentricMGR V4.0系以前からV5.0系へバージョンアップした場合
 - [検出モード]が[確実]、または[カスタム]-[ICMP検索する]で、部門フォルダにノード検出が設定されている場合

上記の場合、対象ネットワークに接続できるノード数の作業領域をあらかじめメモリ上に確保するため、仮想メモリ不足が発生することがあります。

対処方法

サブネットマスクが255.0.0.0のサブネットに対するノード検出を実施する場合、[検出モード]を[高速]に指定して、実施してください。

また、サブドメインに対して、ノード検出のポリシー設定がある場合は、その配下のサブネットマスク255.0.0.0のサブネットフォルダに対して、以下の設定を行ってください。

- 該当サブネットフォルダに対してノード検出を実施する必要がない場合
 1. Systemwalkerコンソールで、該当サブネットフォルダをクリックし、[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[ノード]-[ノードの検出]-[フォルダ]を選択します。
→[ノード検出]ダイアログボックスが表示されます。
 2. [設定]-[無効]ラジオボタンを選択し、[OK]ボタンをクリックします。
 3. [ポリシー]メニューから[ポリシーの配付]を選択し、ポリシーを配付後、以下を実施します。
 - [Windows版の場合]
該当するサーバで、以下のサービスを再起動します。

Systemwalker MpNmsmgr
 - [Solaris版、Linux版の場合]
該当するサーバで、Systemwalker Centric Managerを再起動します。
- 該当サブネットフォルダに対してノード検出を実施する必要がある場合
 1. Systemwalkerコンソールで、該当サブネットフォルダをクリックし、[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[ノード]-[ノードの検出]-[フォルダ]を選択します。
→[ノード検出]ダイアログボックスが表示されます。
 2. [検出モード]-[高速]ラジオボタンを選択します。
 3. [設定]-[有効]ラジオボタンを選択し、[OK]ボタンをクリックします。
 4. [ポリシー]メニューから[ポリシーの配付]を選択し、ポリシーを配付後、以下を実施します。
 - [Windows版の場合]
該当するサーバで、以下のサービスを再起動します。

Systemwalker MpNmsmgr
 - [Solaris版、Linux版の場合]
該当するサーバで、Systemwalker Centric Managerを再起動します。

12.1.13 ノード検出実行時に自ネットワーク情報の取得に失敗した

エラーメッセージ(ダイアログボックス)

自ネットワーク情報の取得に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

運用管理サーバのネットワーク環境は適切ですか。

対処方法

運用管理サーバで、以下の条件を満たしてください。

- 運用管理サーバをDHCP環境で運用する場合は、運用管理サーバに固定のIPアドレスを割り当てること
- TCP/IPの設定が正しいこと

12.1.14 負荷分散装置の先にあるサブネットのノード検出が、[検出モード]-[高速]では検出できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

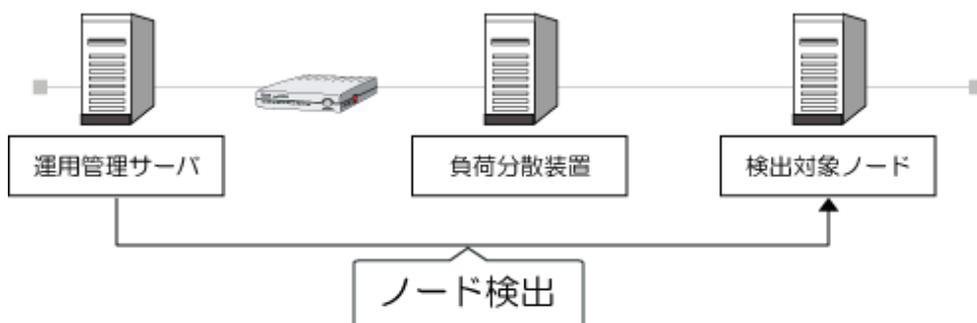
原因

負荷分散装置の先にあるサブネットのノードは、ARPテーブルに載りません。

そのため、運用管理サーバと検出対象ノードの間に、負荷分散装置が存在するようなネットワーク構成の場合、[検出モード]に[高速]を指定して、ノード検出を行うと、負荷分散装置の先のノードが検出されない場合があります。

【例】

以下のようなネットワーク構成で、負荷分散装置の先にあるサブネットをサブネット指定のノード検出を、[検出モード]-[高速]で、行ったとき。



対処方法

負荷分散装置の先にあるサブネットをノード検出する場合、[検出モード]を[确实]、または[カスタム]で[ICMP検索する]に指定して、ノード検出を行ってください。

12.1.15 ノード検出(AUTOMAP)で、Windows NT 3.51 Server、Windows NT 3.51 Workstationの判断ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ノード検出では、SNMPを使用してエージェント識別を取得し、OS種別を判断しています。Windows NT Server 3.51のエージェント種別は、Windows NT 4.0 Workstation (SP未適用)と同一であり判断することができないため、“Windows NT”として扱います。

12.1.16 ノード検出実行時に、「運用管理サーバにおいて完了待ち要求が存在します」とエラーダイアログが表示される

エラーメッセージ(ダイアログボックス)

運用管理サーバにおいて完了待ちの要求が存在します。複数の要求を並列に処理することはできません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

別の運用管理クライアントから、ノード検出が実行されていませんか。

対処方法

すでに実行中のノード検出が完了するのを待ってから、ノード検出を行ってください。

12.1.17 運用管理サーバのノードプロパティのホスト名がフルドメイン名(FQDN)からホスト名に変更される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

自ホスト名がhostsファイルにフルドメイン名で指定されていません。

システム監視や、インベントリ管理から通知されたホスト名とノード検出で追加するホスト名が一致していません。

対処方法

hostsファイルに設定している自ホスト名をフルドメイン名に変更します。

12.1.18 ノード検出を行うと、Systemwalkerコンソールのノード一覧画面にセグメントフォルダが作成される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

ノード検出を実施するセグメントフォルダのサブネットマスクの設定は正しいですか。

ノードの設定と異なる場合は、検出されるノードのサブネットマスクに影響を与える場合があります。

原因

セグメントフォルダに設定されているサブネットマスクに誤りがあります。

対処方法

セグメントフォルダのサブネットマスクの設定が誤っている場合は以下の手順で修正し、再度ノード検出を実行してください。

1. Systemwalkerコンソールを編集モードに切り替える
2. 設定が誤っているセグメントフォルダを削除
3. Systemwalkerコンソールにて再度セグメントフォルダを再作成
4. 作成したセグメントフォルダに対し、再度、ノード検出を実行

対処2

確認ポイント

検出対象ノードに設定されているサブネットマスクを確認してください。

検出対象ノードに設定されているサブネットマスクが異なる場合、新規に正しくないサブネットマスクのセグメントフォルダが作成される場合があります。

SNMPエージェントが実装されているノードの場合、以下の方法でサブネットマスクを確認することができます。

1. Systemwalkerコンソールより該当ノード右クリック
2. [操作]—[MIB情報の表示]—[MIBの取得]
3. [MIB取得]画面にて以下を設定し、[リストへ追加]後、[取得]ボタンを押す

MIB名 : ipAdEntNetMask

原因

検出対象ノードに設定されているサブネットマスクが正しくありません。

対処方法

MIB取得の結果、検出対象ノードのサブネットマスクが誤って設定されている場合、検出対象ノード側のネットワーク設定を修正し、再度ノード検出を実行してください。

12.1.19 ノードの自動検出を設定していないにもかかわらず、ノードが自動検出される

インベントリ管理機能により、ノード情報をフレームワークのデータベースに登録しているため、ノードの自動検出を行わない場合でも、Systemwalkerコンソールの画面にノード情報が表示されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

インベントリ情報を管理する運用を行っていますか。

原因

インベントリ管理機能が、ノード情報をフレームワークのデータベースに登録しているためです。

対処方法

以下の手順により、インベントリ管理機能によってフレームワークDBのノード情報を登録しないようにします。

[Windowsの場合]

1. Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[インベントリ]を選択します。
→[デスクトップ管理 サーバ動作環境設定]ダイアログボックスが表示されます。
2. [インベントリ管理環境]ボタンをクリックします。
→[インベントリ管理環境]ダイアログボックスが表示されます。
3. [インベントリ情報の登録先]ボタンをクリックします。
→[インベントリ情報の登録先]ダイアログボックスが表示されます。
4. [フレームワークのデータベース]のチェックをはずします。
5. [OK]ボタンをクリックします。

[Solaris/Linuxの場合]

1. pcentricmgrコマンドにより、Systemwalker Centric Managerを停止します。
2. "/etc/opt/FJSV/sivmg/env/control.conf"ファイルを以下のように編集します。

[変更前]

```
NOREPOSITORIMPORTATION 0
```

[変更後]

```
NOREPOSITORIMPORTATION 1
```

3. `scentricmgr`コマンドにより、Systemwalker Centric Managerを起動します。

12.1.20 ノード検出を行った後、Systemwalker Centric Managerがインストールされている同じシステムのノードのアイコンが複数に増える

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

- ノード検出を行ったサーバから、対象のノードに対して正しく名前解決を行えますか。
- 対象のノードに設定されているシステム名は正しく設定されていますか。
- システム監視による自ホスト名の解決方法は妥当ですか。

原因

ノード検出を行ったサーバから、対象のノードに対して名前解決を行った結果と、対象のノード上で動作するシステム監視での名前解決の結果が異なっているために発生します。

対処方法

以下をお客様の運用に合わせて統一してください。

- DNSによる名前解決
- `sysName`による名前解決
- システム監視による自ホスト名

確認手順を以下に示します。

1. ノード検出を行ったサーバ上で対象のノードに対する名前解決の結果を確認します。

例)

ノード名“`name2.domain(IP:1.2.3.4)`”に対する名前解決の結果を確認する場合

```
>nslookup 1.2.3.4
Server: name1.domain
Address: 1.2.2.2

Name: name2.domain
Address: 1.2.3.4

>more hosts
127.0.0.1 localhost
1.2.3.4 name2
```

この場合、DNSによる名前解決の結果と`hosts`ファイルの定義が異なっているため、正しくノード検出を行うことができません。

2. 手順1によって確認できた名前解決の結果と、対象のノードのシステム名が異なる場合、設定を見直す必要があります。

対象のノードに設定されているシステム名は、MIBオブジェクト“`sysName`”の値を取得し、確認してください。MIBオブジェクト“`sysName`”の値は以下の手順で取得します。

1. Systemwalkerコンソールより表示対象のノードを選択します。

2. [操作]メニューより、[指定オブジェクト]-[MIB情報の表示]-[MIBの取得]を選択します。
3. MIB名に“sysName”と入力し[リストへ追加]をクリックし、[取得]をクリックします。
3. 手順1によって確認できた名前解決の結果と、システム監視による自ホスト名解決結果が異なる場合、設定を見直す必要があります。
システム監視による自ホスト名解決方法は以下の手順で確認します。
 1. [Systemwalker Centric Manager]プログラムグループから[環境設定]フォルダを開き、[システム監視設定]を起動します。
 2. 確認するサーバのホスト名、および、サーバに対するユーザ名とパスワードを入力し[OK]をクリックします。
 3. [通信環境定義]を起動します。
 4. [自ホスト名]タブを選択します。

12.1.21 ノード検出を行った後、ノード一覧上に新規に追加されたノードの表示名がホスト名ではなく、IPアドレスになる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

- ノード検出を行ったサーバから、対象のノードに対して正しく名前解決を行えますか。
- 対象のノードに設定されているシステム名は正しく設定されていますか。
- システム監視による自ホスト名の解決方法は妥当ですか。

原因

ノード検出を行ったサーバから、該当するノードの名前解決を行うことができないために発生します。

対処方法

対処方法については、“[ノード検出を行った後、Systemwalker Centric Managerがインストールされている同じシステムのノードのアイコンが複数に増える](#)”の対処方法を参照してください。

12.1.22 ノード検出を行った後、ネットワークタブのホスト名が意図しないホスト名となる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

[Systemwalkerコンソール[編集]]でホスト名を変更しましたか。

ノードの検出を行うと、手動で設定したホスト名が以下の方法で設定されるホスト名と異なっている場合、上書きします。

- ・ ノード検出時の代表インタフェースは、以下の順序で自動的に選ばれ、代表インタフェースに設定されているホスト名をネットワークタブのホスト名に設定します。
 1. システム名とIPアドレスに対応するホスト名が同一のインタフェース
 2. 検出インタフェースの先頭よりIPアドレスが“0.0.0.0”、“127.0.0.1”以外のインタフェース

原因

代表インタフェース以外のインタフェースに設定されている名前を、ホスト名として使用しているために発生します。

対処方法

1. 該当ノードのSNMPエージェントの設定にて、sysNameにホスト名にしたいIPアドレスを指定します。
2. ノード検出を行うサーバのhostsファイルにて、代表インタフェースのIPアドレスに対するホスト名に、ホスト名にしたいIPアドレスを指定します。

例)代表IPアドレスが“10.241.0.1”、ホスト名にしたいIPアドレスが“10.242.0.1”の場合

10.241.0.1	10.242.0.1
------------	------------

12.1.23 Systemwalkerのインストールされているノードを検出したが、ノードのプロパティにSystemwalker Centric Managerや、Systemwalker Operation Managerのインストール状態が取得されない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

原因

ノードの検出では、Systemwalkerのインストール状態を設定しません。Systemwalkerのインストール状態は、システム監視機能によりイベントが通知された際に設定されます。

対処方法

システム監視機能がインストールされたノードで、opaconstatコマンドを実行してください。

12.1.24 ノード一覧上の新ノードフォルダにノードが追加される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ノード検出機能では、ノード一覧上に存在しないセグメントに所属するノードを検出した場合、セグメントフォルダを作成し、ノードを追加します。

そのため、新ノードフォルダにノードを追加することはありません。

原因

システム監視機能により、ノード一覧上に存在しないセグメントに所属するノードが追加されたために発生します。

対処方法

新ノードフォルダに存在するノードが所属するセグメントのフォルダを作成し、新ノードの振り分けを実施してください。

12.1.25 ノード検出を行ったが、サブネットマスクが正しく検出されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

検出したノードでSNMPエージェントが起動している場合、ノードプロパティにおけるインタフェースタブ内に設定されるサブネットマスクは、Systemwalkerコンソールのサブネットフォルダに設定したサブネットマスクではなく、ノード側に設定されているサブネットマスクが適用されます。当該のノードに設定されているサブネットマスク情報が誤っている可能性がありますので、正しく検出されていないノード上で以下のコマンドを実行し、サブネットマスク情報が誤っていないか確認してください。

[Windows版の場合]

```
ipconfig -a
```

[Solaris版/Linux版の場合]

```
ifconfig -a
```

原因

該当ノードにて、SNMPエージェントが動作しており、設定されているサブネットマスクの設定が誤っているために発生します。

対処方法

該当のノードにて、サブネットマスクを正しく設定し、再度ノード検出を実施してください。

12.1.26 ノード検出時に、「ノードのインタフェースが複数存在する。」と出力される

エラーメッセージ

```
MpFwcm: 警告: [ホスト名]のインタフェース(IPアドレス:XXX.XXX0XXX.XXX)は複数のノードに存在します。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

検出対象のサブネットフォルダ内に、クラスタ構成のノードが存在しますか。

本イベントは、クラスタ構成のノードが存在するサブネットワークフォルダに対し、ノード検出した場合に発生する一時的なイベントであり、ノード検出時、およびクラスタの切替えが発生した後のノード検出時に出力されます。しかしノード検出は正常に行われており、構成情報は最新の状態となっているため、運用には影響ありません。

原因

クラスタ構成の管理サーバが存在するサブネットワークフォルダに対し、ノード検出を実施したために発生します。

対処方法

クラスタ構成のノードが存在することを確認した場合、特に対処の必要はありません。

12.1.27 ルータなどのネットワーク機器の検出時に、ホスト名が変更される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

複数インタフェースを持つパソコンのノード検出時の注意事項としては、名前解決が可能となるような設定を事前に行う必要がありますが、パソコン以外のネットワーク機器についても同じです。クラスタ構成の管理サーバが存在するサブネットワークフォルダに対し、ノード検出を実施したために発生します。

12.1.28 ノード検出で、非活性のインタフェースが代表インタフェースとして検出される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ノード検出により複数インタフェースを持つ新規ノードを追加する場合に、非活性のインタフェースが代表となる以下のどちらかの場合があります。

- MIBから取得されるインタフェース情報のうち、最初に取得される情報が非活性なインタフェースの情報であり、全インタフェースのIPアドレスに対するホスト名が、システム情報に含まれるシステム名(sysName.0)と一致しない場合
- MIBから取得されるインタフェース情報に、非活性なインタフェースの情報が含まれており、そのIPアドレスに対するホスト名が、システム情報に含まれるシステム名(sysName.0)と一致する場合

代表インタフェースの決定

代表インタフェースは、ノードを検出したときに以下の順序で自動的に選ばれます。

1. システム名(sysName.0)とIPアドレスに対応するホスト名が同一のインタフェース
2. 検出インタフェースの先頭よりIPアドレスが0.0.0.0以外のインタフェース

対処方法

システム名(sysName.0)を、現在活性状態にあるインタフェースのホスト名と一致させるよう、設定を変更してください。

12.1.29 ノード検出を行うと、既存ノードの代表インタフェース以外の情報が消える

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

SNMPエージェントは動作していますか。

ノード検出を「既存ノードの更新」で行った場合は、ネットワーク接続を確認することなく既存ノードのIPアドレスを指定してSNMPエージェントとの通信を行います。その結果、SNMPエージェントの応答がない場合は、そのセグメントに所属するIPアドレスのインタフェースのみとなります。

原因

検出対象ノードからMIB情報が取得できないため発生します。

対処方法

監視対象機器にSNMPエージェントをインストールするか、SNMPエージェント機能を有効にしてください。

12.1.30 ポリシー定義によるノード検出を行った場合、既存ノードのホスト名が変更されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ポリシー定義のノード検出では、前回の検出結果と比較し、変更があった場合のみ情報を更新します。

操作メニューの「ノード検出」の場合は、常に検出対象に指定したすべてのノードの情報が更新されますが、ポリシー定義による「ノード検出」の場合は、ノードプロパティの以下の情報が変更となった場合に情報更新を行います。

[編集モードで更新可能なプロパティ]

- インタフェースタブのプロパティ
インタフェース名、ifType、ifSpeedは比較対象外です。
- Rコミュニティ名

[編集モードで更新不可能なプロパティ]

- システム名(sysName.0の応答値)
- SNMPエージェントのバージョン

対処

対処は不要です。

12.1.31 クラスタシステムを監視した場合、両ノードに論理インタフェースが検出される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

クラスタシステムが、以下の状態のときにノード検出を行うと、発生する場合があります。

- 起動中
- 停止中
- フェールオーバー中

対処方法

クラスタシステムに対して、再度ノード検出を実施してください。

12.1.32 ノード検出時に運用管理サーバがクラスタとして認識されません

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

システム監視の自ホスト名(注)を確認し、システムの設定(HOSTファイルやDNSの設定等)に基づき、IPアドレスから決定しているホスト名と一致しているか確認してください。

原因

ネットワーク全体で一意のホスト名となるようにOSのホスト名が一致していないためです。

システム監視は、[通信環境定義]ダイアログボックスの[自ホスト名]の定義に従い自ホスト名を求めているのに対して、ネットワーク管理は、システムの設定(HOSTファイルやDNSの設定等)に基づき、IPアドレスからホスト名を決定しています。そのため、取得したホスト名に差異が生じて発生します。

対処方法

ホスト名が異なっている場合、運用管理サーバの運用系と待機系のホスト名の設定を下記のように修正した後、運用管理サーバの構築をしてください。

- ホスト名をシステム監視の自ホスト名(注)と同じになるように修正してください。

注)

[通信環境定義]ダイアログボックスの[自ホスト名]の定義に従います。詳細は“[被監視サーバが意図していないホスト名で監視マップに登録される](#)”の対処1を参照してください。

12.1.33 ホスト名がイベント発生時と、ノード検出時で異なる名前が表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ノード検出時とイベント発生時に、hostsファイルに定義されているホスト名に差異はありませんか。

また、hostsファイルにホスト名が定義されていない場合にノード検出を実施すると、フルドメイン名でホスト名が表示される場合があります。

原因

ノード検出時とイベント発生時で名前解決されるホスト名に差異があった場合、ホスト名が更新されます。

対処方法

hostsファイルに正しいホスト名が定義されているかを確認し、再度ノード検出を実施してください。

12.1.34 ノード検出時に、代表インタフェース以外のインタフェースが検出されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

検出対象ノード上でSNMPエージェントが動作していません、または、ノード検出が動作する運用管理サーバ、または部門管理サーバから検出対象ノードに対して、MIB情報が取得できません。

対処方法

SNMPエージェントが動作しているか確認してください。

運用管理サーバ、および部門管理サーバからMIB情報が取得できるようにSNMPエージェントの設定を見直してください。

12.1.35 ノード検出を行うと複数のサブネットフォルダにノードが追加される

複数IPアドレスのノードを検出すると複数のサブネットに追加されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

該当ノードのノードプロパティのインタフェース情報を確認してください。

原因

1つのノードでも複数のインタフェースを持つノードであり、かつ、それぞれのインタフェースのIPアドレスが含まれるサブネットフォルダが登録されていると、各サブネットフォルダに該当ノードが表示されます。

対処方法

対処は必要ありませんが、ノード検出をしない場合には、以下の対応を行うことでアイコンを一つのみ表示することができます。

- ・ 該当ノードのノードプロパティにて、不要なインタフェースを削除します。
- ・ サブネットフォルダそのものが不要でない場合、ノードのアイコンを削除せず、サブネットフォルダを削除します。

12.1.36 ノードが消える、または移動する

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalkerの全ノードの中に、ホスト名が同一であるIPアドレスをもつノードが複数存在しませんか。

原因

Systemwalkerの全ノードの中に同一のホスト名が複数存在する場合、IPアドレスが異なっても同一ノードと判定されます。

対処方法

Systemwalkerで監視対象となるノードのIPアドレスのホスト名はすべて一意に決定されるようにしてください。

12.1.37 ノード検出を行うと、同一ノードが2つのアイコンに分かれて、コンソール上に登録される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

運用管理サーバは複数のインタフェースを持っていませんか。

原因

運用管理サーバのインタフェースが複数存在する場合、ノード検出時にどのインタフェースからポーリングがかかるかは、運用管理サーバのOS、およびネットワーク情報に依存します。SNMPエージェントのアクセス認証で、運用管理サーバのすべてのIPアドレスを指定していない場合、指定されていないインタフェースからポーリングされたとき、応答が返ってこないことがあります。

対処方法

検出対象ノード側のSNMPエージェントの設定で、運用管理サーバに複数インタフェースがある場合は、すべてのIPアドレスを認証許可してください。

SNMPエージェントの設定方法については、各OS、ネットワーク機器のマニュアル・ヘルプを参照してください。

12.1.38 「既存ノードの更新」でインタフェース情報が正しく更新されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.1.0以降
 - Solaris版:V13.1.0以降
 - Linux版:V13.1.0以降

確認ポイント

検出対象ノードのSNMPエージェントのバージョンやコミュニティ名とSystemwalkerコンソールのノードプロパティに、登録されているSNMPの設定は一致していますか。

原因

検出対象ノードのSNMPエージェントの設定とノード検出のSNMPエージェントの設定が一致してないためです。

対処方法

「有効なSNMPエージェントのバージョン」を指定して、既存ノードを更新してください。

SNMPv1、SNMPv2Cの場合はコミュニティ名、SNMPv3の場合はセキュリティパラメタについても、正しい設定を行う必要があります。

12.2 ノード状態の表示、稼働状態の監視に関するトラブルシューティング

12.2.1 SNMPエージェントが動作していないときの色(デフォルト:水色)でノードカラーが表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

監視対象機器でSNMPエージェントが動作していません。

対処方法

監視対象機器にSNMPエージェントをインストールするか、SNMPエージェント機能を有効にしてください。

対処2

確認ポイント

サブネット内に異常な応答を返すSNMPエージェントが動作しているノードがありますか。

サブネット内にあるSolaris 2.6を導入したコンピュータに、以下のパッチ(xxは累積番号)が適用されているか確認してください。

- 107035-xx

- 106787-xx (Solstice(TM) Enterprise Agents(TM)1.0.3 (SEA※)に置き換えている環境の場合)
※Solaris に添付しているSNMPエージェントです。

対処方法

適用されていない場合は、上記のパッチを適用してください。

対処3

確認ポイント

該当ノードの代表インターフェースの設定は正しいですか。以下の手順で確認してください。

1. Systemwalkerコンソールで、該当ノードを選択します。
2. [オブジェクト]メニューから[プロパティ](システム監視では、[ノード]メニューの[ノードのプロパティ])を選択します。
→[ノードプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [インターフェース]タブを選択し、[代表]に“*”が正しく設定されているか確認します。

対処方法

代表インターフェースの設定が正しくない場合は、以下の手順を実施し、代表インターフェースを監視対象としたいインターフェースに変更してください。

1. [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)-[編集]を起動します。
2. 該当ノードを選択します。
3. [オブジェクト]メニューから[プロパティ]を選択します。
→[ノードプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [インターフェース]タブを選択し、監視対象としたいインターフェースを代表に変更してください。

対処4

確認ポイント

監視対象機器で動作するSNMPエージェントで設定されているコミュニティ名と、ノード状態表示で送信するSNMP要求のコミュニティ名が一致していますか。

監視対象機器から「AuthenticationFailure」のSNMPトラップのイベントが通知されていませんか。

または、監視元サーバから以下のコマンドを実行し、“snmpget: Timeout”が表示されるか確認してください。表示された場合は、対処方法を実施してください。

- Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpnetmgr¥bin¥snmpget -a 監視機器のIPアドレス -m sysName.0 -c コミュニティ名
```

- Solaris版12.0以降、Linux版V12.0L10以降の場合

```
/opt/FJSVfnmktbin/snmpget -a 監視機器のIPアドレス -m sysName.0 -c コミュニティ名
```

対処方法

サブネットフォルダに定義されているSNMPコミュニティ名で、監視対象機器のSNMPエージェントへアクセスできるように、監視対象機器のSNMPコミュニティ名を変更してください。

サブネットフォルダに定義されているSNMPコミュニティ名は、以下の手順で参照できます。

1. [Systemwalkerコンソール システム監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)で、対象のサブネットフォルダを選択します。

2. [オブジェクト]メニューから[プロパティ]を選択します。
→[フォルダプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ネットワーク]タブを選択し、表示された[SNMPコミュニティ名]を参照します。

対処5

確認ポイント

監視元サーバより以下のコマンドを実行し、“NAME:ifOperStatus.*”が表示されるか確認してください。表示されない場合は、SNMPエージェントに問題があります。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpnetmgr¥bin¥snmpnext -a 監視機器のIPアドレス  
-m ifOperStatus -c コミュニティ名
```

※UNIX版で本コマンドは提供していません。

原因

監視対象機器のSNMPエージェントが正常に動作していません。

対処方法

MIB情報が取得できない原因をSNMPエージェントの提供元に問い合わせてください。

対処6

原因

プリンタ、電源装置、そのほかSNMPエージェントを搭載しているハード機器で、SNMPエージェントの仕様により、SNMPエージェントがインタフェース情報取得に必要な標準MIBが実装されていないため発生することがあります。

以下に示す必要な標準MIBが実装されていない可能性があります。

- interfaces (インタフェースグループ)
 - ifOperStatus (現在のインタフェース状態)
 - ifAdminStatus (望ましいインタフェース状態)

対処方法

SNMPエージェントの提供元に、必要な標準MIBをサポートしているか問い合わせてください。

対処7

確認ポイント

監視対象のSNMPエージェントの設定で、SNMP要求を許可するサーバのIPアドレスを限定しているかを確認してください。

また、監視サーバ側が、複数のインタフェースを持っているかを確認してください。

原因

監視サーバ側のインタフェースが複数存在する場合、監視時にどのインタフェースからSNMP要求を発行するかは、監視サーバ側のOS、およびネットワーク情報に依存します。監視対象ノードのSNMPエージェントのアクセス認証で、監視サーバ側のすべてのIPアドレスを指定し許可していない場合、指定されていない監視サーバのインタフェースからSNMP要求が送出されると、SNMPエージェントで破棄してしまう可能性があります。

対処方法

監視サーバに複数インタフェースがある場合は、監視対象ノード側のSNMPエージェントの設定で、すべてのIPアドレスを認証許可してください。

SNMPエージェントの設定方法については、各OS、ネットワーク機器のマニュアル・ヘルプを参照してください。

12.2.2 ノードカラーが青色(一部インタフェースが異常)になる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

青色になっているノードはスイッチではありませんか。

スイッチに未使用のポートはありませんか。

ポートに接続されているノードは起動していますか。

原因

起動状態となっているスイッチは、ノードが接続されていないポートがあるか、または、接続されているノードが起動していない場合、ノードカラーが青色になります。

複数インタフェースを持つノード(スイッチングハブなどのネットワーク機器)で、未使用のインタフェース(ポート)が存在する場合、ノード状態が「一部インタフェースが異常」(青色)と表示される場合があります。

対処方法

未使用のインタフェース(ポート)が存在する場合は、機器側の設定でインタフェースを非活性にしてください。非活性にすることにより、稼働中のインタフェースは、すべて正常(緑色)になります。

対処2

確認ポイント

ノード状態の表示、稼働状態の監視ポリシーによる状態判定によって、正常なノードに対してノード状態表示の結果が「一部インタフェース異常」になる場合があります。

原因

原因については、“[ノードカラーが意図したものにならない](#)”の原因を参照してください。

対処方法

対処方法については、“[ノードカラーが意図したものにならない](#)”の対処方法を参照してください。

12.2.3 クラスタシステムを監視した場合、一部インタフェースダウンで表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

各クラスタシステムで、以下の状態になっていますか。

- SafeCLUSTER 1.1.1

ノード検出結果	論理インタフェースは正しく検出されます。
ノード状態の表示、稼働状態の監視結果	論理インタフェースが常に停止状態で通知されます。

論理インタフェースが動作中のノードは、一部インタフェースダウン(紺色)で表示されます。

- SafeCLUSTER V1.1L10

ノード検出結果	論理インタフェースはクラスタの両ノードに検出されます。
ノード状態の表示、稼働状態の監視結果	論理インタフェースが常に動作中状態で通知されます。

論理インタフェース以外が正しく動作しているノードは、SNMP動作中(緑色)で表示されます。

- SunCLUSTER 2.2

ノード検出結果	論理インタフェースはクラスタの両ノードに検出されます。
ノード状態の表示、稼働状態の監視結果	論理インタフェースが常に停止状態で通知されます。

論理インタフェースは、両ノードに存在すると通知されるため、クラスタシステムを構成するノードは、すべて一部インタフェースダウン(紺色)で表示されます。

対処方法

以下のSNMPエージェントのpatchを適用してください。仮想インタフェースに対するMIB情報の収集が正しく行われるようになるため、ノード状態の表示、稼働状態の監視が正しく表示可能となります

Solaris 8	108869-07以降
Solaris 7	107709-15以降
Solaris 2.6 SEA 1.0.3	106787-16以降

12.2.4 部門管理サーバ配下のノードカラーが正しくない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

運用管理サーバが停止中に、部門管理サーバから監視対象ノードの状態遷移が通知されたために発生することがあります。

対処方法

ラベルカラーが正しく表示されていないサブドメインフォルダ配下に対し、以下の操作を実施してください。

【Windows版 V12.0L21以前、Solaris版 12.1以前、Linux版 V12.0L10以前の場合】

1. Systemwalkerコンソールから対象のサブドメインフォルダを選択します。
2. [操作]メニューから[ノード状態の初期化]を実行します。

3. [ポリシー]メニューから[ポリシー配付]を選択し、ポリシーを適用するタイミングを[すぐに適用する]、配付の対象を[全て]として[OK]をクリックします。

【Windows版 V13.0.0以降、Solaris版 V13.0.0以降、Linux版 V13.0.0以降の場合】

1. Systemwalkerコンソールから対象のサブドメインフォルダを選択します。
2. [ポリシー]メニューから[ポリシーの定義][ノードの監視][ノード状態の初期化][フォルダ]を実行します。
3. [ポリシー]メニューから[ポリシー配付]を選択し、ポリシーを適用するタイミングを[すぐに適用する]、配付の対象を[全て]として[OK]をクリックします。

12.2.5 ノード状態表示が行われない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

部門フォルダ、セグメントに対して既にポリシー設定を行っている場合、新規に追加したノードやノードプロパティの変更を行ったノードについての構成情報の変更が反映されていない可能性があります。

対処方法

ポリシー配付を行ってください。ポリシー配付の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”を参照してください。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバ、部門管理サーバでWindows2000/Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの「TCP/IPポートフィルタリング」機能を使用していませんか。

対処方法

「TCP/IPポートフィルタリング」機能を無効にしてください。

対処3

確認ポイント

ポリシーが設定されているか確認してください。

原因

ポリシーが設定されていないため監視が行われていません。

対処方法

ポリシーを設定してください。ポリシー設定の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”を参照してください。

12.2.6 バックアップ資源のリストア後にノード状態の表示、稼働状態の監視が動作しなくなる

バックアップ資源をリストアした後に、ノードの停止、SNMPエージェントの停止が発生しても、ノード状態の表示、稼働状態の監視によってノードの色が変化しなくなる。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

バックアップした資源のリストア後に構成情報の一括配付を行っていない可能性があります。

対処方法

運用管理サーバにて以下のコマンドを実行し、構成情報、および、ネットワーク管理のポリシーを再度配付してください。

[Windows版の場合]

1. 構成情報を配付します。
 - V10.0L21以前の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

- V11.0L10以降の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

2. ネットワーク管理ポリシーを配付します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpnmpref.bat
```

[Solaris版/Linux版の場合]

1. 構成情報を配付します。

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

2. ネットワーク管理ポリシーを配付します。

```
/opt/systemwalker/bin/mpnmpref
```

12.2.7 部門管理サーバで実施しているノード状態の表示、稼働状態の監視の結果が正しくない

- あるノードのSNMPエージェントが停止したのでSNMPエージェントを再起動したが、ノード状態の表示、稼働状態の監視でノードの色が[SNMPエージェント動作中]にならない。
- あるノードのSNMPエージェントが停止したが、表示色が[SNMPエージェント動作中]のままになっている。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降

原因

運用管理サーバの停止中に、監視対象の状態に変化があった可能性があります。

部門管理サーバで行われるノード状態の表示、稼働状態の監視では、監視を行った際に、監視の結果が前回の監視結果と異なる場合のみ、監視の結果を運用管理サーバに通知します。

そのため、運用管理サーバの停止中にSNMPエージェントが起動/停止した/ノードが停止した/起動した場合は、その結果は運用管理サーバに通知されず、以降、再度状態の変更があるまではノード状態の表示、稼働状態の監視の結果が正しく反映されません。

対処方法

以下の対処により、次回の監視結果から正しく表示されるようになります。

【Windows版 V12.0L21以前、Solaris版 12.1以前、Linux版 V12.0L10以前の場合】

1. Systemwalkerコンソールから監視対象のセグメントフォルダ、または、ノードを選択します。
2. [操作]メニューから[ノード状態の初期化]を実行します。
3. [ポリシー]メニューから[ポリシー配付]を選択し、ポリシーを適用するタイミングを[すぐに適用する]、配付の対象を[全て]として[OK]をクリックします。

【Windows版 V13.0.0以降、Solaris版 V13.0.0以降、Linux版 V13.0.0以降の場合】

1. Systemwalkerコンソールから監視対象のセグメントフォルダ、または、ノードを選択します。
2. [ポリシー]メニューから[ポリシーの定義][ノードの監視][ノード状態の初期化]を実行します。
3. [ポリシー]メニューから[ポリシー配付]を選択し、ポリシーを適用するタイミングを[すぐに適用する]、配付の対象を[全て]として[OK]をクリックします。

12.2.8 ノードカラーが変わらない

ノード状態の表示、稼働状態の監視の監視対象のノードの色が変更されない。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

ネットワーク管理が参照しているノード構成情報が正しくないため、監視が正しくできません。

対処方法

運用管理サーバにて以下のコマンドを実行し、構成情報、および、ネットワーク管理のポリシーを再度配付してください。

1. 構成情報配付コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

[Windows版の場合]

- V10.0L21以前の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

- V11.0L10以降の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

2. ネットワーク管理ポリシー反映コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpnmpref
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpnmpref.bat
```

対処2

原因

部門管理サーバのポート設定を変更後、部門管理サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動していなかったため、変更したポート設定が反映されていません。

対処方法

Systemwalker Centric Manager を再起動してください。

[Windows版の場合]

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥bin¥pcentricmgr.exe
```

2. Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥bin¥scentricmgr.exe
```

[Solaris版/Linux版の場合]

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

対処3

確認ポイント

V11以降であれば、下記のメッセージが通知されます

[UNIX]

```
MpNmnode: WARNING: 155: The error in communication with MpNmex occurred. [%1]
```

[Windows]

```
MpNmnode: 警告: 155: MpNmexとの通信ができません。[%1]
```

原因

CPU負荷や通信などの影響により、フレームワークDBへの情報更新に失敗しているためにノードのラベルカラーが変更されません。

対処方法

1. Systemwalkerコンソールからラベルカラーが変わらないノードを選択します。
2. ノード状態の初期化を行います。
3. ポリシー配付を行います。

対処4

確認ポイント

本機能で使用するICMPの送信パケットサイズは以下のとおりです。ICMPを送信して応答がありますか。

- 【Windows版】106バイト
- 【UNIX版】64バイト

以下のコマンドを実行して、応答があるか確認してください。

- 【Windows版】

```
# ping xx.xx.xx.xx -l 106
```

- 【UNIX版】

```
# ping xx.xx.xx.xx -l 64
```

原因

指定したICMPパケットで応答がない場合は未起動と判断して、ノードカラーと「黄色」とします。

対処方法

指定したICMPが送受信可能なように、ネットワーク構成を見直してください。

12.2.9 Systemwalker Webコンソールにおいて、ノードラベルにノード状態色が表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20～V13.6.0 (V13.5.2は除く)
 - Solaris版:10.1～V13.6.0 (V13.5.2は除く)
 - Linux版:V11.0L10～V13.6.0 (V13.5.2は除く)

原因

【V13.3.1以前の場合】

Systemwalkerコンソールでは、ノードの枠色、ノードラベルのそれぞれにノードの状態色が設定されますが、Systemwalker Webコンソールでは、ノードの枠色だけに状態色が設定されます。

【V13.4.0～V13.6.0の場合(V13.5.2は除く)】

Systemwalkerコンソールでは、ノードの背景色にノードの状態色が設定されますが、Systemwalker Webコンソールでは、ノードの枠色だけに状態色が設定されます。

対処方法

ノード状態について、Systemwalker Webコンソールではノードの枠色で状態を判断してください。

12.2.10 運用管理サーバの環境移設を行うと、ノードとして2つ登録される場合がある

構築済の運用管理サーバ環境を、別環境に移設した際に、運用管理サーバが2つ(自部門および新規ノード)登録される。

エラーメッセージ

登録しようとした情報(HostName=[サーバ名.ドメイン], IPAddress=XXX.XXX.XXX.XXX)と、フレームワークのデータベースに登録されている情報との間に矛盾があったため、登録しませんでした。

The overlappingnode has already been defined.([サーバ名.ドメイン],XXX.XXX.XXX.XXX)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

確認ポイント

以下の方法でメディア検出機能が有効になっていないか確認してください。Windows2000以降で追加されたOS機能で、デフォルト設定値は“有効”です。

1. 運用管理サーバにAdministrator権限のアカウントでログインします。
2. レジストリエディタで以下のレジストリキーを確認します。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters

3. 以下の名前について確認します。

DisableDHCPMediaSense

4. 以下の条件でメディア検出機能の状態を判断します。

有効状態

- 上記名前(DisableDHCPMediaSense)が存在しない場合(OS標準設定)
- 上記名前(DisableDHCPMediaSense)が存在し、かつデータに"0"が設定されている場合

無効状態

- 上記名前(DisableDHCPMediaSense)が存在し、かつデータに"1"が設定されている場合

原因

運用管理サーバの移設の際に、OSがLANを検出することができず、自動でループバックアドレスを運用管理サーバのIPアドレスとして設定したため発生します。WindowsOS機能である“メディア検出機能”が有効状態の場合で、かつ、LANが無効(未接続状態)であった場合にOS機能の動作として、このような状態に陥ります。

対処方法

1. メディア検出機能の無効化を行います。
 1. 運用管理サーバにAdministrator権限のアカウントでログインします。
 2. レジストリエディタで以下のレジストリを編集します。

キー: HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters

上記のキーに、以下の値を追加します。

値の名前	: DisableDHCPMediaSense
値の種類	: DWORD値
値のデータ	: 1
	※0: 機能有効 (デフォルト)
	1: 機能無効

キーに上記名前が存在しない場合は、有効状態を表します

3. 運用管理サーバを再起動します。
2. ノードの修復を行います。

1. 不要な運用管理サーバの削除

Systemwalkerコンソール上で、サブネットフォルダ配下にある対象ノードを削除します。

2. 運用管理サーバのIPアドレスを更新

Systemwalkerコンソール上で、新ノードフォルダ配下にある対象ノードのIPアドレスを正しいIPアドレスに更新します。IPアドレスの更新を行うとノードが新ノードフォルダからサブネットフォルダ配下へ自動的に移動します。

※メディア検出機能とは、Windows 2000以降で追加されたOSの機能で、LANが無効になったことを検出したときに、インタフェースの開放、ループバックの仮想インタフェースへの切り換えを自動的に行う機能です。DHCPクライアントとして運用する場合、アドレス再取得などの効果がある機能で、DHCPクライアントでなければ無用です。デフォルトではメディア検出機能は有効となっています。なお、運用管理サーバのメディア検出機能は無効にして運用してください。運用管理サーバはDHCPクライアントをサポートしていません。

12.2.11 ノードカラーが意図したものにならない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

以下のフローチャートに従って、対象ノードの状態を確認してください。

管理サーバからノードプロパティに設定されているホスト名を指定して、ping コマンドの応答が正常に返ってきますか？

- ・Windows版の場合
 > ping 監視対象ノードの代表インタフェースのIPアドレス -l 64
- ・UNIX版の場合
 # ping 監視対象ノードの代表インタフェースのIPアドレス

YES

NO

ノードが未起動状態(黄色)

管理サーバから snmpdump コマンド(*)が "ERROR" のメッセージが出力されずに終了しましたか？

- > snmpdump -a 対象IPアドレス -t 3 -r 2 -m ifOperStatus -c public
- > snmpdump -a 対象IPアドレス -t 3 -r 2 -m ifAdminStatus -c public

YES

NO

ノードが起動状態かつSNMPエージェント未起動(水色)

MIBの値を確認してください。(**)

ifOperStatusの結果が全て "INTEGER : 1" となっている、
例)

```
ifOperStatus.1 : INTEGER : 1
ifOperStatus.2 : INTEGER : 1
ifOperStatus.3 : INTEGER : 1
```

または

ifOperStatusの結果が "INTEGER : 1" 以外のものがあるが、
対応するifAdminStatusの結果も "INTEGER : 1" 以外である。
例)

```
ifOperStatus.1 : INTEGER : 1
ifOperStatus.2 : INTEGER : 2
ifOperStatus.3 : INTEGER : 2
ifAdminStatus.1 : INTEGER : 1
ifAdminStatus.2 : INTEGER : 2
ifAdminStatus.3 : INTEGER : 2
```

YES

NO

SNMPエージェント動作中(緑色)

SNMPエージェント動作中、かつ
一部インタフェースが停止中(紺色)

※snmpdumpコマンドについて

Windows版、Solaris版12.0以降、またはLinux版V12.0L10以降の場合

- 格納場所
 - Windows版の場合
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin
 - UNIX版の場合
/opt/EJSVfnmkt/bin
- コマンドのパラメタ
 - -t: ノード状態の監視ポリシー、稼働状態の監視に指定したタイムアウト時間を指定
 - -r: ノード状態の監視ポリシー、稼働状態の監視に指定したリトライ回数を指定
 - -c: ノードプロパティに設定されている“Rコミュニティ名”を指定

Solaris版11.0以前、Linux版V11.0L10以前の場合は、確認する手段がありません。

なお、snmpdumpコマンドはトラブル調査用であり、Systemwalker Centric Managerの一般機能ではありません。

※※ifOperStatus/ifAdminStatusについて

値の意味は、“Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル”で“ネットワークMIB”の中の“Interfacesグループ”を参照してください。

これらの値は、MIB取得機能で取得することができます。MIB取得機能については、以下のマニュアルを参照してください。

- V13.3.0～V13.0.0
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編(互換用)”の“MIB情報を表示する”
- V12.0L10/12.0
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“MIB情報を操作する”
- V11.0 L10/11.0～V5.0L10/5.0
“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“3.2 ネットワークMIB”

原因

対象ノードのICMP/SNMPの応答が、期待する結果になっていないために発生します。

対処方法

フローチャートによる確認により、対象ノードが意図した状態となるようにICMPやSNMPエージェントの設定を見直してください。

対処2

確認ポイント

監視サーバ(運用管理サーバ、部門管理サーバ)が停止していませんか。

原因

監視側のサーバが起動していないか、監視している部門管理サーバと運用管理サーバのネットワークが切断されています。

対処方法

監視サーバが起動されていること。運用管理サーバと部門管理サーバ間のネットワークの疎通を確認してください。

対処3

確認ポイント

監視対象ノードのアイコン色がすべて水色になる現象が発生していますか。

この現象が発生する場合、監視対象のSNMPエージェントの設定で、SNMP要求を許可するサーバのIPアドレスを限定しているかを確認してください。

また、監視サーバ側が、複数のインタフェースを持っているかを確認してください。

対処方法

以下のトラブルシューティングを参照してください。

「SNMPエージェントが動作していないときの色(デフォルト:水色)でノードカラーが表示される」

12.2.12 無効のポリシーを配付後にノードのラベルカラーが変更されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

無効のポリシーを配付しても、ノード状態の表示のラベルカラーは初期化されません。これは無効のポリシーが配付されたときにノード状態の表示、稼働状態の監視の監視対象から外されるだけで、ノード状態の初期化を行なわれないことに起因しています。

対処方法

ノードのラベルカラーを初期化したい場合は、無効ポリシーを作成後、手動でノード状態の初期化を行い、ポリシー配付を行ってください。

12.2.13 ノードプロパティの「稼働状態」の列が全て「-」のまま更新されない

エラーメッセージ

エラーメッセージはありません。

ノードプロパティでは、リスト表示を行うと「稼働状態」の列に状態が表示されますが、アイコン表示にした場合は、ノードのアイコン色で表示されます。リスト表示の「稼働状態」と、アイコン表示のアイコン色は同じものとなりますので、アイコン色の表示に関するほかのトラブルシューティングも参考にしてください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

V13.3.0以前の場合は、ノード状態の表示ポリシーが設定されているか確認してください。

V13.4.0以降の場合は、稼働状態の監視ポリシーにおいて、以下の項目を確認してください。

- 「通知/表示単位」が「ノード単位で通知/表示」になっていますか。
- 「状態を表示」または「イベントを通知かつ状態を表示」を設定していますか。
- プロトコル一覧で、SNMPの監視に設定していますか。
- プロトコル一覧のSNMPの監視における詳細設定で、「インタフェースの状態の監視を行う」に対してチェック入れていますか。

原因

上記のポリシー設定が行われていないため、稼働状態を監視することができません。

対処方法

V13.3.0以前の場合は、ノード状態の表示のポリシー設定を行ってください。

V13.4.0以降の場合は、稼働状態の監視のポリシー設定において、以下のように変更してください。

- ・ 「通知/表示単位」で「ノード単位で通知/表示」を選択する。
- ・ 「状態を表示」または「イベントを通知かつ状態を表示」を選択する。
- ・ プロトコル一覧で、SNMPの監視を選択する。
- ・ SNMPの監視における詳細設定で、「インタフェースの状態の監視を行う」を選択する。

12.2.14 ノード状態の表示において、ノードプロパティの「稼働状態」の列がすべて「-」のまま更新されない

エラーメッセージ

エラーメッセージはありません。

ノードプロパティでは、リスト表示を行うと「稼働状態」の列に状態が表示されますが、アイコン表示にした場合は、ノードのアイコン色で表示されます。リスト表示の「稼働状態」と、アイコン表示のアイコン色は同じものとなりますので、アイコン色の表示に関するほかのトラブルシューティングも参考にしてください。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V10.0L20以降

確認ポイント

ノード状態の表示ポリシーを設定していますか。

原因

上記のポリシー設定が行われていないため、稼働状態を監視することができません。

対処方法

ノード状態の表示ポリシーを設定してください。

12.2.15 稼働状態の監視で、メッセージ一覧に監視結果のメッセージが頻繁に出力される

エラーメッセージ

以下のメッセージが頻繁に出力されます。

```
MpCNappl: ERROR: 106: ノードが起動しました
MpCNappl: ERROR: 106: ノードが停止しました
MpCNappl: ERROR: 106: SNMPエージェントが起動しました
MpCNappl: ERROR: 106: SNMPエージェントが停止しました
MpCNappl: ERROR: 106: 一部インタフェースが起動しました
MpCNappl: ERROR: 106: 一部インタフェースが停止しました
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.4.0以降
 - Solaris版:V13.4.0以降
 - Linux版:V13.4.0以降

対処1

確認ポイント

以下のメッセージが出力されているかを確認してください。

```
MpCNappl: ERROR: 106: ノードが起動しました  
MpCNappl: ERROR: 106: ノードが停止しました
```

原因

監視対象ノードからのICMP応答が一時的に受信できない、または遅延している可能性があります。

対処方法

稼働状態の監視のポリシー設定画面において、[ポーリング]タブの[タイムアウト時間]を長めに設定し、現象が改善されるかをご確認ください。
お客様環境により設定する設定値は異なりますので、推奨値はありません。

対処2

確認ポイント

以下のメッセージが出力されているかを確認してください。

```
MpCNappl: ERROR: 106: SNMPエージェントが起動しました  
MpCNappl: ERROR: 106: SNMPエージェントが停止しました  
MpCNappl: ERROR: 106: 一部インタフェースが起動しました  
MpCNappl: ERROR: 106: 一部インタフェースが停止しました
```

原因

監視対象ノードのSNMPエージェントからの応答が一時的に受信できない、または遅延している可能性があります。

対処方法

稼働状態の監視のポリシー設定画面において、[ポーリング]タブの[タイムアウト時間]を長めに設定し、現象が改善されるかをご確認ください。
お客様環境により設定する設定値は異なりますので、推奨値はありません。

12.3 ノード状態の監視、稼働状態の監視に関するトラブルシューティング

12.3.1 ノード状態の監視、稼働状態の監視で自動対処されない

対象バージョンレベル

- CSystemwalker entric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

以下の二つの条件を満たす時、自動対処されない場合があります。

- ・ 運用管理サーバを停止する直前に、ノード状態の監視、稼働状態の監視処理が行われ、ノード状態の遷移を検知した場合
- ・ 状態が遷移した情報のイベントの通知に失敗した場合

対処方法

自動対処されずに残っているイベントは、以下の手順で対処してください。

1. Systemwalkerコンソールで、該当イベントを選択します。
2. [イベント]メニューから[監視イベントの対処]を選択します。
→[監視イベント対処]ダイアログボックスが表示されます。
3. [対処]ボタンをクリックします。

対処2

確認ポイント

メディア検出機能が有効になっていませんか。

原因

メディア検出機能が有効になっている場合は、自動対処されないことがあります。

対処方法

以下の手順でメディア検出機能を無効にしてください。

1. 運用管理サーバにAdministrator権限を持つアカウントでログインします。
2. レジストリエディタで以下のレジストリのキーに値を追加してください。

キー		HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet ¥Services¥Tcpip¥Parameter
追加する値	値の名前	DisableDHCPMediaSense
	値の種類	DWORD値
	値のデータ	1 (0:メディア検出機能有効、1:メディア検出機能無効)

3. 運用管理サーバのシステム (Windows) を再起動してください。

標準では上記のレジストリ値は存在しません。存在しない場合はメディア検出機能が有効となります。

12.3.2 ノード状態の監視、稼働状態の監視が行われない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

バックアップした資源のリストア後に構成情報の一括配付を行っていない可能性があります。

対処方法

運用管理サーバにて以下のコマンドを実行し、構成情報、および、ネットワーク管理のポリシーを再度配付してください。

1. 構成情報配付コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

[Windows版の場合]

－ V10.0L21以前の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

－ V11.0L10以降の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

2. ネットワーク管理ポリシー反映コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpnmpref
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpnmpref.bat
```

対処2

原因

部門フォルダ、セグメントに対して既にポリシー設定を行っている場合、新規に追加したノードやノードプロパティの変更を行ったノードについての構成情報の変更が反映されていない可能性があります。

対処方法

ポリシー配付を行ってください。ポリシー配付の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”を参照してください。

対処3

確認ポイント

イベント監視の条件定義でノード状態の監視、稼働状態の監視イベントがフィルタリングされていませんか。

原因

イベント監視の条件定義でノード状態の監視、稼働状態の監視イベントがフィルタリングされているため、イベントが通知されません。

対処方法

マニュアルの“イベント監視の条件を定義する”を参照して、イベント定義を見直してください。参照マニュアルは、以下のとおりです。

- Windows版V5.0L10～V5.0L20、Solaris版5.0～5.1の場合
“SystemWalker/CentricMGR 導入手引書”

- Windows版V5.0L30、Solaris版5.2の場合
“SystemWalker/CentricMGR 運用手引書”
- 上記以外
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編(互換用)”

対処4

原因

ノード状態の監視、稼働状態の監視ポリシーをサービス再起動時適用で配付したが、サービスの再起動を行っていないため、ポリシーが反映されていません。

対処方法

ネットワーク管理ポリシー反映コマンドを実行してください。

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpnmpref
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpnmpref.bat
```

対処5

原因

ネットワーク管理が参照しているノード構成情報が正しくないため、監視が正しくできません。

対処方法

対処1の対処方法を実施してください。

対処6

確認ポイント

運用管理サーバ、部門管理サーバでWindows2000/Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの「TCP/IPポートフィルタリング」機能を使用していませんか。

対処方法

「TCP/IPポートフィルタリング」機能を無効にしてください。

対処7

原因

ポリシーの設定により、監視のタイミングが遅れている可能性があります。

確認ポイント

“[指定した監視間隔より遅れて結果が表示される](#)”を参照してください。

対処8

確認ポイント

ポリシーが設定されているか確認してください。

原因

ポリシーが設定されていないため、監視が行われていません。

対処方法

ポリシーを設定してください。ポリシー設定の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”を参照してください。

12.3.3 部門管理サーバで実施しているノード状態の監視、稼働状態の監視の結果が通知されない

- ・ 例) あるノードが停止したが、ノードとの通信が不可となったことを示すイベントが通知されない。
- ・ 例) あるノードが起動したが、ノードとの通信が可能となったことを示すイベントが通知されない。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

運用管理サーバの停止中に、監視対象ノードが停止、または、起動した可能性があります。

部門管理サーバで行われるノード状態の監視、稼働状態の監視では、監視を行った際に、監視の結果が前回の監視結果と異なる場合のみ、監視の結果を運用管理サーバに通知します。

そのため、運用管理サーバの停止中にノードが停止した、または、起動した場合は、その結果は運用管理サーバに通知されず、以降、状態の遷移があるまではノード状態の監視、稼働状態の監視の結果がイベントに通知されません。

対処方法

再度、起動状態の遷移があるまではイベントが通知されませんが、特に対処をする必要はありません。

12.3.4 意図したノードのアドレスでメッセージが通知されない

エラーメッセージ

AP:MpCNapl: ERROR: 102: ノードとの通信が不可となりました。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

IPアドレスが重複していませんか。

原因

同じIPアドレスが複数存在する場合、構成情報内で最初に検索されたノードを、イベントの発生元としてメッセージを通知します。

対処方法

異なるノードに同じIPアドレスを設定しないでください。

備考

IPアドレスとホスト名は、システムで一意になるようにネットワークの設定を行ってください。

12.3.5 SNMPマネージャで意図しないSNMPトラップを受信する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

イベントの通知はSNMPトラップで行っているためです。

対処方法

メッセージは無視してかまいません。

12.4 仮想ノードの監視に関するトラブルシューティング

12.4.1 仮想ノードの監視で、実ノードに対する「ノードとの通信が不可となりました」のイベントが二重に通知される

仮想ノード監視で停止状態を検出し、エラーメッセージを通知している状態で、再度、同じエラーメッセージが通知される場合があります。

エラーメッセージ

- Solaris、Linuxの場合

```
MpCNappl: ERROR: 102: ノードとの通信が不可となりました. (TRAP agent:%1 community:%2 generic:2 enterprise:application.19.3 specific:0 timestamp:0 varbind:-)
```

- Windowsの場合

```
MpCNappl: エラー: 102: ノードとの通信が不可となりました. (TRAP agent:%1 community:%2 generic:2 enterprise:application.19.3 specific:0 timestamp:0 varbind:-)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10～V15.2.1
 - Solaris版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

- Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[仮想ノードの監視]ダイアログボックスの[通知]タブで、[実ノード]にもイベントを発行する]が選択されていませんか。

- ・ 実ノードが停止している状態で、監視を行っている運用管理サーバ、または部門管理サーバで、Systemwalker Centric Managerの再起動が行われていませんか。

対処方法

実ノードが、停止状態から起動状態になったことを検知したときに、通知された複数のイベントが自動対処されますので、対処を行う必要はありません。

12.5 MIB拡張に関するトラブルシューティング

12.5.1 MIB拡張操作で障害が発生した場合に最初に確認する

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

拡張MIBファイルの名前は、<MIB名>.myとなっていますか(V13.4.1以前の場合)。

対処方法

拡張MIBファイルの名前は、<MIB名>.myに変名してから、MIB拡張操作を行ってください。ここでいう<MIB名>とは、拡張MIBファイル内で、“DEFINITIONS”の前に定義されている文字列になります。

拡張MIBファイルが以下のような場合、<MIB名>は、“SAMPLE-MIB”となります。

```
SAMPLE-MIB DEFINITIONS ::= BEGIN
...
定義
...
END
```

備考)

1つのMIBの定義は、以下の構文で表されます。

```
<MIB名> DEFINITIONS ::= BEGIN
...
定義
...
END
```

対処2

確認ポイント

拡張MIBファイルの名前に、日本語(全角文字)が使われていませんか。

対処方法

<MIB名>に日本語(全角文字)は利用できません。

拡張MIBファイルの名前は、<MIB名>.myに変名してから、MIB拡張操作を行ってください。

日本語(全角文字)名の拡張MIBファイルに対してMIB拡張操作を行うと、すべてのSystemwalkerコンソールから、対象の運用管理サーバに対して接続ができなくなります。復旧するには、運用管理サーバで環境の再構築が必要となります。

対処3

確認ポイント

拡張MIBファイルに複数のMIB定義が記述されていませんか(V13.4.1以前の場合)。

対処方法

1つの拡張MIBファイル<MIB名>.myに、1つのMIB定義となるようにしてください。

そのため、1つの拡張MIBファイルに複数の<MIB名>が記述されている場合、複数の拡張MIBファイルに分割してください。

次のような拡張MIBファイル“SAMPLE-MIB1.my”がある場合は、以下のように修正してください。

【修正前】

- ファイル名: SAMPLE-MIB1.my

```
SAMPLE-MIB1 DEFINITIONS ::= BEGIN
    . . .
    定義
    . . .
END
. . .
SAMPLE-MIB2 DEFINITIONS ::= BEGIN
    . . .
    定義
    . . .
END
```

【修正後】以下のように2つに分割します

- ファイル名: SAMPLE-MIB1.my

```
SAMPLE-MIB1 DEFINITIONS ::= BEGIN
    . . .
    定義
    . . .
END
```

- ファイル名: SAMPLE-MIB2.my

```
SAMPLE-MIB2 DEFINITIONS ::= BEGIN
    . . .
    定義
    . . .
END
```

対処4

確認ポイント

すでにSystemwalkerに定義されている拡張MIBファイルではありませんか。

対処方法

すでにSystemwalkerに定義されている拡張MIBファイルは、通常、改めて、MIB拡張操作を行う必要はありません。ただし、以下の場合は、MIB拡張操作を行ってください。

- 更新された新しい拡張MIBファイルが提供されている場合
- SNMPトラップ受信等で表示されるメッセージで、拡張MIBファイルで定義されているオブジェクトの名前が表示されない場合

Systemwalkerにあらかじめ定義されているものは、以下のとおりです。

- V5.0L10/5.0以降で定義されている拡張MIBファイル

```
APPLICATION-MIB
CISCO-SMI
FJADAPL
HOST-RESOURCES-MIB
IANAIFTYPE-MIB
IF-MIB
ISPMIBNT
ISPMIBSOL
MPCNAPPL
MPTRFEXAGT
NETPRISM
RDBMS-MIB
RFC-1155
RFC-1157
RFC-1212
RFC-1213
RFC-1215
RFC1155-SMI
RFC1155
RFC1157-SMI
RFC1157
RFC1212
RFC1213-MIB
RFC1213
RFC1215
RFC1316-MIB
RFC1759
SNMPV2-CONF
SNMPV2-MIB
SNMPV2-PARTY-MIB
SNMPV2-SMI
SNMPV2-TC
```

- V11.0L10/11.0以降で追加された拡張MIBファイル

```
IEEE802DOT11-MIB
INETADDR
IPCOMP
IPCOMSYS
SNMPFRWK
```

- V13.3.0以降で追加された拡張MIBファイル

```
IPV6-TC
```

- V13.4.0以降で追加された拡張MIBファイル

```
FSC-SERVERCONTROL2-MIB
MMB-COM-MIB
OPL-SP-MIB
```

- V15.0.0以降で追加された拡張MIBファイル

```
INET-ADDRESS-MIB
SNMP-FRAMEWORK-MIB
```

対処5

確認ポイント

前提として必要となる拡張MIBファイルのMIB拡張操作を行いましたか。

対処方法

拡張MIBファイル内のIMPORTS文で指定されている拡張MIBファイルもMIB拡張操作を行う必要があります。

次のような拡張MIBファイル“SAMPLE-MIB.my”がある場合、“SAMPLE-MIB.my”のMIB拡張を行う前、または同時に、

```
EXTERNAL-OBJECT-1が定義されている“EXTERNAL1.my”
EXTERNAL-OBJECT-2が定義されている“EXTERNAL2.my”
```

に対して、MIB拡張操作を行う必要があります。

[拡張MIBファイル“SAMPLE-MIB.my”]

```
SAMPLE-MIB DEFINITIONS ::= BEGIN
IMPORTS
EXTERNAL-OBJECT-1 FROM EXTERNAL1
EXTERNAL-OBJECT-2 FROM EXTERNAL2;
...
定義
...
END
```

なお、対処4に示したSystemwalkerに定義されている拡張MIBファイルはMIB拡張の必要はありませんが、更新された拡張MIBファイルが提供されている場合は、再度MIB拡張操作が必要になる場合があります。

対処6

確認ポイント

拡張MIBファイルをSystemwalkerインストールディレクトリ配下においていませんか。

対処方法

MIB拡張操作対象の拡張MIBファイルは、Systemwalkerインストールディレクトリ配下に置かないでください。

対処7

確認ポイント

一度に登録する拡張MIBファイルの数は200以下ですか(V13.5.0以降の場合)。

対処方法

一度に登録できる拡張MIBファイルの最大数は200です。それ以上の数の拡張MIBファイルに登録する場合は、複数回に分けて行ってください。

対処8

確認ポイント

TRAP-TYPEにSTATUSが記載されていますか。

対処方法

TRAP-TYPEにはSTATUSの記載が必要です。追加したMIBを利用してください。

12.5.2 MIB拡張操作を行うとコンパイルに失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V13.4.0
 - Solaris版:5.0～V13.4.0
 - Linux版:V11.0L10～V13.4.1

対処1

対処方法

Systemwalker技術情報ホームページで公開されているMIB拡張チェックツールを利用して、拡張MIBファイルのチェックを行ってください。MIB拡張チェックツールには以下の機能があります。

- MIB名と拡張MIBファイル名が一致するように、拡張MIBファイルを改名・分割します。
- コンパイルエラーの詳細と対処方法、MIB拡張を行う順序、不足しているMIB名を出力します。

対処2

エラーメッセージ

```
line nnn: syntax error
last token read was "XXX"
コンパイルに失敗しました
```

対処方法1

確認ポイント

識別子の記述は正しいですか。

対処方法

識別子には、以下の規約があります。

- 任意の文字、数字、または“-”が使用できます。
- 始まりの文字は小文字です。
- 最後の文字に、“-”は使用できません。
- “-”を続けて使用することはできません。

【例】

```
《誤》Network OBJECT IDENTIFIER ::= { fujitsu 4 }
《正》network OBJECT IDENTIFIER ::= { fujitsu 4 }
```

対処方法2

確認ポイント

型の記述は正しいですか。

対処方法

型は、以下の規約があります。

- 任意(1個以上)の文字、数字、および“-”が使用できます。
- 始まりの文字は大文字です。
- 最後の文字に、“-”は使用できません。
- “-”を続けて使用することはできません。

【例】

```
《誤》grAtmVcStatsEntry OBJECT-TYPE
SYNTAX grAtmVcStatsTableEntry

《正》GrAtmVcStatsEntry OBJECT-TYPE
SYNTAX GrAtmVcStatsTableEntry
```

対処方法3

原因

コンパイル対象がSNMPv2となっていますが、コンパイラがSNMPv1と認識しています。

対処方法

コンパイラは、SNMPv1/SNMPv2の判断を、SNMPv2-SMIがインポートされているかで判断します。コンパイル対象が、SNMPv2で記述されている場合、SNMPv2-SMIをIMPORTSの項目に追加し、拡張する必要があります。

SNMPv1とSNMPv2の詳細な記載方法については、“Systemwalker Centric Manager Q & A集”の“SNMPv2形式の拡張MIBファイルの基本的な文法”と“SNMPv1形式の拡張MIBファイルの基本的な文法”を参照してください。

対処方法4

確認ポイント

1つのファイルに複数のMIB定義が存在していませんか。

対処方法

[DEFINITIONS ::= BEGIN ... END]で囲まれた構文が、1つのファイル中に複数存在する場合、複数のファイルに分割し、[DEFINITIONS ::= BEGIN]の前に記述された文字列(MIB定義)をファイル名として保存(MIB定義.my)後、拡張する必要があります。

【例】

```
《修正前》
<sample.txt>
MIB定義1 DEFINITIONS ::= BEGIN
....
END
MIB定義2 DEFINITIONS ::= BEGIN
....
END
《修正後》
<MIB定義1.my>
MIB定義1 DEFINITIONS ::= BEGIN
....
END

<MIB定義2.my>
MIB定義2 DEFINITIONS ::= BEGIN
....
END
```

対処3

エラーメッセージ

```
line 999: MODULE-IDENTITY must be invoked at beginning of module
last token read was "END"
コンパイルに失敗しました
```

原因

SNMP-V2形式の場合に、拡張MIBファイル先頭のオブジェクトの定義が、MODULE-IDENTITY句で始まっていません。

対処方法

V2形式には、必ず“MODULE-IDENTITY”が必要です。

対象となる拡張MIBファイルの先頭のオブジェクトを、“MODULE-IDENTITY”で定義してください。

【例:修正前】

```
<オブジェクト> OBJECT IDENTIFIER ::= { enterprises 10480 }
```

【例:修正後】

```
<オブジェクト> MODULE-IDENTITY
LAST-UPDATED "TEST LAST-UPDATE"
ORGANIZATION "TEST ORGANIZATION"
CONTACT-INFO "TEST CONTACT-INFO"
DESCRIPTION
    "TEST DESCRIPTION"
::= { enterprises 10480 }
```

対処4

エラーメッセージ

```
USAGE.MOSY -C -D -I -M DIRECTORY -I <MIBファイル名> コンパイルに失敗しました。
```

原因

MIB拡張操作の対象となるファイルパスに空白が含まれています。

例) C:\Documents and Settings\Administrator\Desktop

対処方法

ファイルパスに空白が含まれないディレクトリに対象ファイルを格納しなおした後、MIB拡張操作を行ってください。

Windows版V10.0L10以降、Linux版および、Solaris版10.0以降では発生しません。

対処5

エラーメッセージ

```
line nnn: unknown token: "_"
last token read was "_"
コンパイルに失敗しました
```

原因

nnn行目の変数名に'_'が含まれています。

対処方法

変数名から'_'を取り除いてください。

対処6

エラーメッセージ

拡張MIBをコンパイルしています。 Fail to make the MIB file. code = -4 detail = 2 line = nnn コンパイルに失敗しました。 (nnnは、134～143)
拡張MIBをコンパイルしています。 Fail to make the MIB file. code = -4 detail = 0 line = nnn コンパイルに失敗しました。 (nnnは、613～626)
拡張MIBをコンパイルしています。 Fail to make the MIB file. code = -4 detail = 0 line = nnn コンパイルに失敗しました。 (nnnは、613～626)
拡張MIBをコンパイルしています。 Fail to make the MIB file. code = -4 detail = 0 line = nnn コンパイルに失敗しました。 (nnnは、613～626)
拡張MIBをコンパイルしています。 Fail to make the MIB file. code = -4 detail = 0 line = nnn コンパイルに失敗しました。 (nnnは、613～626, mmmは、134～143)
拡張MIBをコンパイルしています。 Fail to make the MIB file. code = -4 detail = 0 line = nnn コンパイルに失敗しました。 (nnnは、1139または1143)

原因

コンパイル対象の拡張MIBで、使用しているオブジェクトの参照に失敗した場合、メッセージが出力されます。

対処方法

- エラーメッセージに、“code = -4 detail = 2 line = nnn”が含まれている場合

(nnnは、134～143)

— 確認ポイント1

IMPORTS文で参照先としている拡張MIBファイルが見つからない原因が考えられます。以下の項目を確認してください。

- IMPORTS文で指定されている拡張MIBファイルがコンパイル済みかを確認します。
以下のファイルが存在することを確認してください。なお、Systemwalkerであらかじめ定義されている拡張MIBファイルであっても、DEFSファイルが入っていないものがあります。その場合は当該拡張MIBファイルをMIB拡張してください。

Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mib¥拡張MIBファイル名.DEFS
--

— 原因1

IMPORTS文で参照先としている拡張MIBファイルが見つからない可能性があります。

— 対処方法1

IMPORTS文で指定されている拡張MIBファイルがコンパイルされていなかった場合は、先にコンパイルしてください。

— 確認ポイント2

Counter32のオブジェクトMAX-ACCESSがnot-accessible、read-write、read-createになっていないか確認してください。

— 原因2

オブジェクトで定義されている型に関する原因が考えられます。

— 対処方法2

Counter32のMAX-ACCESSはread-onlyでなければなりません。変更してください。

• エラーメッセージに、“code = -4 detail = 0 line = nnn”が含まれている場合

(nnnは、613～626)

— 確認ポイント

参照先が明示されていない、または参照先に存在しないオブジェクトが使用されていないか確認してください。

例) testB.my

```
testB OBJECT IDENTIFIER ::= { testA 10 }
```

testB.myの中に上記のようにtestBの定義がある場合、事前にtestAが定義されていないと、このエラーが発生します。また、参照先の拡張MIBファイルにtestAの定義が含まれているか確認してください。

— 原因

参照先が明示されていないオブジェクトが参照されているか、以前にMIB拡張した拡張MIBファイルが古く、オブジェクトが参照先に存在していない可能性があります。

— 対処方法

未定義のオブジェクトが登録されている拡張MIBファイルがコンパイル対象のMIBファイルにあった場合は、そのファイルを先にコンパイルしてください。

例) testAの定義がtestA.myにあった場合

1. testA.myをコンパイルします。
2. 未定義のオブジェクトが登録されている拡張MIBファイルがIMPORTS文で指定されていないければ、IMPORTS文を追加してください。

例: testB.myに以下を追加し、testBをコンパイルします。

```
IMPORTS  
testA FROM testA.my;
```

• エラーメッセージに、“code = -4 detail = 0 line = nnn”が含まれている場合

(nnnは、1139または1143)

— 確認ポイント

Counter64を使用していないか確認してください。

BITSを使用していないか確認してください。

Unsigned32を使用していないか確認してください。

— 原因

サポートされていないオブジェクトが使用されている可能性があります。

— 対処方法

Systemwalker Centric Manager V13.0.0以前では、Counter64とBITSをサポートしていません。また、Systemwalker Centric Manager V13.4.0以前では、SEQUENCEの中でBITSを使用することはできません。

Counter64を使用している場合はCounter32に、BITSを使用している場合はINTEGERに、それぞれ変更してください。

Systemwalker Centric Manager V13.0.0以前では、TEXTUAL-CONVENTIONでのUnsigned32をサポートしていません。

Unsigned32を使用している場合はUInteger32/Counter32に置き換えてください。

TEXTUAL-CONVENTIONについては、RFC1443にもとづいています。そのため、SYNTAXに指定できるのは、INTEGER,OCTET STRING,OBJECT IDENTIFER,BIT STRINGなどの単純タイプの型か、RFC1442にて定義されている応用タイプ (IpAddress,Counter32,Gauge32,TimeTicks,Opaque,NsapAddress,Counter64,UInteger32)、または拡張MIBファイルのどれかでTEXTUAL-CONVENTIONにより、定義している型となります。

注意

“Fail to make the MIB file. code = -4・・・”のときの、lineの値は、拡張MIBファイルのエラー発生行と異なりますので、注意してください。

対処7

エラーメッセージ

```
object <オブジェクト名>:  
value of ACCESS clause isn't a valid keyword  
コンパイルに失敗しました。
```

原因

ACCESSの属性として、無効なキーワードが指定されました。

対処方法

- ・ SMI-v1形式の場合

ACCESSの属性には、以下のどれかを指定してください。

- “read-only”
- “read-write”
- “write-only”
- “not-accessible”

- ・ SMI-v2形式の場合

ACCESSというキーワードが使用されず、代わりにMAX-ACCESSキーワードが使用されます。MAX-ACCESSの属性を設定する場合は、以下のどれかを指定してください。

- “not-accessible”
- “accessible-for-notify”
- “read-only”
- “read-write”
- “read-create”

対処8

エラーメッセージ

```
object <オブジェクト名>:  
value of STATUS clause isn't a valid keyword  
コンパイルに失敗しました。
```

原因

STATUSの属性として、無効なキーワードが指定されました。

対処方法

- SMI-v1形式の場合
STATUSの属性には、以下のどれかを指定してください。
 - “mandatory”
 - “optional”
 - “obsolete”
- SMI-v2形式の場合
以下のどれかを指定してください。
 - “current”
 - “deprecated”
 - “obsolete”

対処9

エラーメッセージ

```
line nnn: use MAX-ACCESS not ACCESS  
コンパイルに失敗しました。
```

原因

SNMP-V2形式のオブジェクト定義でACCESS節が指定されました。

対処方法

SNMP-V2形式のオブジェクト定義では、ACCESS節の代わりにMAX-ACCESSを使用してください。

対処10

エラーメッセージ

```
object <オブジェクト名>:  
INTEGER requires either upper-lower bounds or named-number enumerations  
コンパイルに失敗しました。
```

原因

SYNTAX句に“INTEGER”型を指定する場合は、列挙型の値または範囲を指定する必要があります。

対処方法

以下のように指定値の範囲を指定します。

【例: 修正前】

```
SYNTAX INTEGER
```

【例: 修正後】

```
SYNTAX INTEGER(0..65535)
```

対処11

エラーメッセージ

```
object <オブジェクト名>:  
value of enumerated INTEGER is zero
```

原因

MIBファイルがSNMPv1形式の場合に、INTEGER型の列挙型の値に0が設定されました。

対処方法

INTEGER型の列挙型の値に0以外の値を設定してください。

【例: 修正前】

```
<オブジェクト名> OBJECT-TYPE  
SYNTAX INTEGER {  
enum1(0),  
enum2(1)  
}  
ACCESS read-only  
STATUS mandatory  
DESCRIPTION  
""  
::= { <オブジェクト> 1 }
```

【例: 修正後】

```
<オブジェクト名> OBJECT-TYPE  
SYNTAX INTEGER {  
enum1(1),  
enum2(2)  
}  
ACCESS read-only  
STATUS mandatory  
DESCRIPTION  
""  
::= { <オブジェクト> 1 }
```

対処12

エラーメッセージ

```
object XXXTable:  
INDEX clause should not be present  
object XXXEntry:  
missing INDEX clause  
コンパイルに失敗しました。
```

原因

- INDEX句が列要素オブジェクトの定義以外でINDEX句が指定されました。
- INDEX句は列要素オブジェクトの定義で使用することが許可されます。

[発生例]

```
XXXTable OBJECT-TYPE  
SYNTAX SEQUENCE OF XXXEntry  
MAX-ACCESS not-accessible
```

```
STATUS current
DESCRIPTION ""
INDEX { Index }
::= { XXXInfo 0 }
```

```
XXXEntry OBJECT-TYPE
SYNTAX XXXEntry
MAX-ACCESS not-accessible
STATUS current
DESCRIPTION ""
::= { XXXTable 1 }
```

XXXTable: テーブルオブジェクト

XXXEntry: 列要素オブジェクト

上記例では、テーブルオブジェクトXXXTableにINDEX句があるため、以下のコンパイルエラーが発生します。

```
object XXXTable:
INDEX clause should not be present
```

また、列要素オブジェクトであるXXXEntryオブジェクトには、INDEX句、または、AUGMENTS句を必ず指定してください。

指定しない場合、以下のコンパイルエラーが発生します。

```
object XXXEntry:
missing INDEX clause
```

対処方法

INDEX句は、列要素オブジェクトで定義し、それ以外のオブジェクトではINDEX句を指定しないでください。また、列要素オブジェクトには必ずINDEX句、またはAUGMENTS句を指定します。

[修正例]

```
XXXXTable OBJECT-TYPE
SYNTAX SEQUENCE OF XXXEntry
MAX-ACCESS not-accessible
STATUS current
DESCRIPTION ""
::= { XXXInfo 0 }

XXXEntry OBJECT-TYPE
SYNTAX XXXEntry
MAX-ACCESS not-accessible
STATUS current
DESCRIPTION ""
INDEX { Index }
::= { XXXTable 1 }
```

対処13

原因

すでにコメントのある行をコメントアウトすると、コンパイルエラーになります。

[例: コメントアウト前]

```
MAX-ACCESS not-accessible -- Comment 1
```

[例: コメントアウト後]

```
-- MAX-ACCESS not-accessible -- Comment1
```

→コンパイルエラーが発生。

コメントの文法は、“--”で始まり、次の“--”か、行末までの間をコメントとみなします。

[例:コメントアウト後]の場合、“-- MAX-ACCESS not-accessible --”をコメント、“Comment1”を本文とみなしますので、“Comment1”というオブジェクトがないと判断され、コンパイルエラーが発生します。

対処方法

すでにコメントがある場合は、以下のようにコメントを付加してください。

[修正例]

```
-- MAX-ACCESS not-accessible --- Comment1
```

対処14

エラーメッセージ

```
use "TRAP-DEFINITION" not "TRAP-TYPE"  
syntax error last token read was "{"
```

原因

TRAP-TYPEマクロが使用されています。

対処方法

TRAP-TYPEマクロをコメントアウトします。

【例:修正前】

```
sample TRAP-TYPE  
Reverse mappable trap  
ENTERPRISE sample MIB  
VARIABLES {  
sampleDomain, sampleAddr }  
Status  
current  
DESCRIPTION  
"AAA BBB CCC"  
::= 1
```

【例:修正後】

```
--sample TRAP-TYPE  
--Reverse mappable trap  
-- ENTERPRISE sampleMIB  
-- VARIABLES {  
-- sampleDomain, sampleAddr }  
-- Status  
-- current  
-- DESCRIPTION  
-- "AAA BBB CCC"  
-- ::= 1
```

対処15

エラーメッセージ

```
object <オブジェクト名>:  
invalid element in SEQUENCE  
コンパイルに失敗しました。
```

原因

SEQUENCEの中で使用できない型が指定されました。

対処方法

Systemwalker Centric Manager V13.4.0以前では、SEQUENCEの中でBITSを使用することはできません。

BITSを使用している場合はINTEGERに変更してください。

12.5.3 拡張したMIBが参照できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

MIB拡張した運用管理クライアントとは別の運用管理クライアントで、接続していませんか。

また、Windows版の運用管理サーバでMIB拡張後、別の運用管理クライアントを接続していませんか。

対処方法

MIB拡張は、個々の運用管理サーバ(Windows版のみ)運用管理クライアントに対して行ってください。運用管理サーバに対して複数の運用管理クライアントを使用する場合、使用する運用管理クライアントすべてに対してMIB拡張を行う必要があります。

12.5.4 MIB拡張登録に失敗するが、エラーコードが表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

エラーが大量に発生していませんか。

原因

エラー内容が多いために、MIB拡張操作画面にエラー内容をすべて表示できません。

対処方法

以下のファイルから、エラー内容を参照してください。

(Systemwalkerインストールディレクトリ)¥MPWALKER.DM¥mpnetmgr¥mibtmp¥tmp¥mosy.log

12.5.5 エラーメッセージが表示されるがMIB拡張に成功する

エラーメッセージ

Fail to make the MIB file. code = xxx detail = xxx line =xxx
コンパイルは正常に終了しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

MIB拡張は二つのコンパイラでコンパイルを行います。片方のコンパイラでエラーが発生していた場合でも、最終的にコンパイルが成功すれば問題ありません。

対処方法

コンパイルは成功しているため対処は不要です。

12.6 環境に関するトラブルシューティング

12.6.1 Systemwalker Centric Managerが起動していないというポップアップメッセージが表示されて操作が行えない

エラーメッセージ(ポップアップメッセージ)

Systemwalker CentricMGRが起動されていません。運用管理サーバ上でSystemwalker CentricMGRを再起動してください。(詳細コード=%1)

メッセージに表示される製品名称は、バージョンレベルによって以下のように変わります。

- V10.0L10以前: SystemWalker/CentricMGR
- V10.0L20: Systemwalker CentricMGR
- V11.0L10以降: Systemwalker Centric Manager

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Managerが正常に動作していない可能性があります。

対処方法

運用管理サーバで、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

Systemwalker Centric Managerを再起動しても同様なエラーメッセージが出力される場合は、以下の資料を採取して技術員へお問い合わせください。

- ・ 発生時のポップアップウィンドウのハードコピー
- ・ 運用管理クライアント、運用管理サーバのSystemwalker Centric Manager全体の調査資料資料の採取方法は“[調査資料の採取方法](#)”を参照してください。

12.6.2 セットアップが実行されていないか、または通信エラーが発生して操作できない

エラーメッセージ(ポップアップメッセージ)

Systemwalker CentricMGRのセットアップが実行されていないか、通信エラーが発生しています。(詳細コード=%1)

メッセージに表示される製品名称は、バージョンレベルによって以下のように変わります。

- ・ V10.0L10以前: SystemWalker/CentricMGR
- ・ V10.0L20: Systemwalker CentricMGR
- ・ V11.0L10以降: Systemwalker Centric Manager

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Managerが正常に動作していない可能性があります。

対処方法

運用管理サーバで、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

Systemwalker Centric Managerを再起動しても同様なエラーメッセージが出力される場合は、以下の資料を採取して技術員へお問い合わせください。

- ・ 発生時のポップアップウィンドウのハードコピー
- ・ 運用管理クライアント、運用管理サーバのSystemwalker Centric Manager全体の調査資料資料の採取方法は“[調査資料の採取方法](#)”を参照してください。

12.6.3 システムエラーのポップアップメッセージが出力される

エラーメッセージ(ポップアップメッセージ)

システムエラーが発生しました。(詳細コード=%1)

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

運用管理サーバまたは部門管理サーバがWindows 2000以降の場合、メディア検出機能が有効になっていませんか。

この原因以外でメッセージが通知されている場合は、ネットワーク監視で予期しない例外が発生している可能性があります。

対処方法

以下の手順でメディア検出機能を無効にしてください。

1. 現象の発生したサーバにAdministrator権限を持つアカウントでログインしてください。
2. レジストリエディタで以下のレジストリを編集してください。

キー: HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters
に以下の値を追加

値の名前: DisableDHCPMediaSense

値の種類: DWORD値

値のデータ: 1

(0:メディア検出機能有効、1:メディア検出機能無効)

補足:

標準では上記のレジストリ値は存在しません。存在しない場合はメディア検出機能が有効となります。

3. サーバのシステム(Windows)を再起動してください。

再起動後からメディア検出機能が無効となり、LANケーブルやハブの異常時にマシン内部の通信まで異常となることはなくなります。

そのほかの原因の場合は、“[ネットワーク管理のトラブルが解決しない場合の調査資料の採取方法](#)”を参照してネットワーク管理の調査資料を採取し、技術員へお問い合わせください。

12.6.4 システムエラーのエラーメッセージが出力される

対処1

エラーメッセージ

MpWkstr:エラー:1: システムエラーが発生しました。詳細は以下の通りです。ログファイル:原因コード
=nnn 関数名=bind() 詳細コード=10048

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

トラップデーモン(MpWkstr)は、SNMPトラップを受信するために、UDPポート162をバインドします。そのとき、ほかのアプリケーションによって、すでにポート162がバインドされ、トラップデーモンがポート162をバインドできない場合、本イベントが出力されます。

SNMPトラップのポートをバインドするアプリケーションとSystemwalker Centric Managerを同一コンピュータ上で動作させることはできません。

対処方法

Systemwalker Centric Managerをほかのコンピュータで運用してください。

Microsoft SNMP TrapServiceと競合している場合は、“TRAPのポートが競合しているため、TRAPが受信されない”を参照し、対処してください。

対処2

エラーメッセージ

```
MpNmsv:エラー:145:システムエラーが発生しました(詳細=CMpNMPOManager, 5, 10, 706)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

システム起動後、ネットワーク管理のサービスの起動が完了しているにもかかわらず、ネットワーク管理のサービスが使用するプロセスの起動が完了していないために発生します。

対処方法

ネットワーク管理の以下のサービスを再起動してください。

```
SystemWalker MpNmsmgr
```

12.6.5 SNMPコミュニティ名が自動的に変更されてしまう

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ノード検出(automap)により、読み出し用のSNMPコミュニティ名(Rコミュニティ名)が更新されている可能性があります。

ノード検出は、サブネットフォルダのSNMPコミュニティを使用し、ノード情報の検出または更新を行います。更新対象の情報としてSNMPコミュニティ名も含まれているため、本現象が発生します。

対処方法

サブネットフォルダ配下の、全ノードのSNMPコミュニティ名を統一してください。

12.6.6 指定したログファイルのヘッダが異常のため、ログファイルが初期化される

エラーメッセージ

MpWkstr:警告:11:トランプデーモン ログファイル:指定ファイルのヘッダが異常なため、ログファイルの初期化を行います。ファイル名 =xxxx

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - ー Windows版:V10.0L10以降

対処1

確認ポイント

運用管理サーバのIPアドレスを変更していませんか。

対処方法

運用管理サーバのIPアドレスを変更した場合、“Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q & A集”または“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照し、IPアドレスの変更手順を実施してください。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバや部門管理サーバのメディア検出機能が有効になっていませんか(確認方法は対処方法を参照してください)。

原因

Windows 2000 Server以降に追加されたメディア検出機能により、LANケーブルの抜けや接続されているハブの異常が発生すると、対象のローカルエリア接続が自動的に無効状態となり、マシン内部の通信にも異常が発生します。これが原因で、OSは監視サーバのIPアドレスをループバックアドレス(127.0.0.1など)に変更します。

対処方法

以下の手順でメディア検出機能を無効にしてください。

1. 運用管理サーバや部門管理サーバにAdministrator権限を持つアカウントでログインします。
2. レジストリエディタで以下のレジストリのキーに値を追加してください。

キー:

HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameter

追加する値:

値の名前: DisableDHCPMediaSense

値の種類: DWORD値

値のデータ: 1 (0:メディア検出機能有効、1:メディア検出機能無効)

3. システム(Windows)を再起動してください。

標準では上記のレジストリ値は存在しません。存在しない場合はメディア検出機能が有効となります。

12.6.7 特定の機器、セグメントに対して定期的にSNMPパケットが送信される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - ー Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

対象の機器、またはセグメントに原因となるポリシーが設定されていませんか。

Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューより、[ポリシーの定義]-[ノードの監視]-[対象一覧]から、配付済みのポリシーを確認してください。

[ノード状態の表示]、[稼働状態の監視]では、SNMPによる監視のほか、ICMPによる監視も行います。ICMPによる監視だけを行う場合は、[ノード状態の表示]、[稼働状態の監視]で稼働状態の監視方法をイベントで通知します。

原因

- [ノードの検出]のポリシーが設定されている。
- [MIBの監視]のポリシーが設定されている。
- [ノード状態の表示]のポリシーが設定されている。
- [稼働状態の監視]のポリシーが設定されている。
- Systemwalker Centric Managerスクリプト[MIBしきい値監視]により、機器の監視を行っている。

対処方法

特に対処を行う必要はありません。

SNMPによる監視を行わない場合は、対象のノード・フォルダに対して[ノード検出]、[ノード状態の表示]、[稼働状態の監視]、または[MIB監視]ウィンドウで、最初に表示される画面の[無効]ラジオボタンをクリックして保存し、ポリシー配付を実施してください。

12.6.8 特定の機器、セグメントに対して定期的にICMPパケットが送信される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

対象の機器、またはセグメントに原因となるポリシーが設定されていませんか。

Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューより、[ポリシーの定義]-[ノードの監視]-[対象一覧]から、配付済みのポリシーを確認してください。

[ノード状態の表示]、[稼働状態の監視]で稼働状態の監視方法を状態を表示で監視した場合は、ICMPによる監視のほか、SNMPによる監視も行います。ICMPによる監視だけを行う場合は、[ノード状態の監視]、[稼働状態の監視]で稼働状態の監視方法をイベントで通知します。

原因

- [ノードの検出]のポリシーが設定されている。
- [ノード状態の表示]のポリシーが設定されている。
- [ノード状態の監視]のポリシーが設定されている。
- [稼働状態の監視]のポリシーが設定されている。
- Systemwalker Centric Managerスクリプト[ノード状態の監視]により、機器の監視を行っている。

対処方法

特に対処を行う必要はありません。

ICMPによる監視を行わない場合は、対象のノード・フォルダに対して[ノード検出]、[ノード状態の表示]、[稼働状態の監視]、または[MIB監視]ウィンドウで、最初に表示される画面の[無効]ラジオボタンをクリックして保存し、ポリシー配付を実施してください。

12.6.9 エラーメッセージが出力され、ネットワーク管理の監視や、ノードの検出を行うことができない

エラーメッセージ

ダイナミックリンクライブラリMPSNMP.DLLが見つかりませんでした。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Managerがインストールされている環境に、古いバージョンのSystemwalker Operation Managerをインストールした場合、MPSNMP.DLLが古いバージョンのものに置き換わるために発生します。

対処方法

以下の手順により、MPSNMP.DLLを新しいものに置き換えてください。

1. Systemwalker Centric Manager、Systemwalker Operation Managerを停止します。
2. Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥bin¥MPSNMP.DLLをほかの名前に変更します。
3. Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥bin¥MPSNMP.DLL.1をMPSNMP.DLLという名前で同一ディレクトリにコピーします。
4. Systemwalker Centric Manager、Systemwalker Operation Managerを起動します。



MPSNMP.DLL.1を削除しないでください。

12.6.10 意図した時間にネットワーク管理の監視を行うことができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ポリシーの設定にて、ポーリング間隔指定での監視をしていませんか。

ポーリング間隔の指定では、監視の開始から、次の監視の開始までの時刻を設定するのではなく、監視が終了してから、次の監視を行うまでの時間を設定します。

監視の開始から終了するまでの時間は、ネットワークの状況やマシンの負荷により一定ではないため、ポーリング間隔指定の監視では、一定した時刻に監視を開始することはできません。

対処方法

一定した時刻に監視を開始したい場合は、動作時刻指定での監視とるように、ポリシーを設定してください。

12.6.11 部門フォルダを新規に作成したが、部門管理サーバ配下のノードをSystemwalkerコンソールのノード一覧上に表示することができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

部門フォルダを作成した後、サブネットフォルダを作成してノードの検出を実施しましたか。

原因

Systemwalker Centric Managerでは、運用管理サーバの新規構築時には、運用管理サーバの所属するサブネットフォルダを自動作成し、Systemwalkerコンソールの初回起動時に、ノードの検出を行うためのメニューを表示します。しかし、部門フォルダの作成時には、自動的に所属するサブネットフォルダを作成し、ノードの検出を行うためのメニューを表示することはありません。

対処方法

ノード一覧上で部門管理サーバが所属するサブネットのノードを表示し、監視を行うためには、以下のどれかの操作を行ってください。

- 部門管理サーバの管理するサブネットフォルダを作成し、ノードの検出を行う。
- 手動でノード作成を行う。
- 構成情報入出力コマンド(mpcmcsv)により、サブネットフォルダ配下にノードを登録する。(Windows版V5.0L10～V5.0L30、Solaris版5.0～5.2は対象外)

構成情報入出力コマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

12.6.12 Systemwalker Centric ManagerとSOFTEK Storage Cruiserを共存させた場合、SOFTEK Storage CruiserのSNMPトラップデーモン(nwsnmp-trapd)が動作しない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

Systemwalker Centric ManagerとSOFTEK Storage Cruiserが共存する環境では、Systemwalker Centric ManagerのSNMPトラップデーモン(nwsnmp-trapd)が起動していると、SOFTEK Storage CruiserのSNMPトラップデーモンは起動しません。

この場合、SOFTEK Storage Cruiserの障害監視処理は、Systemwalker Centric ManagerのSNMPトラップデーモンを経由して行われます。

SNMPトラップデーモンが受信したデータを用いて、Systemwalker Centric Manager、SOFTEK Storage Cruiserのそれぞれの固有処理が行われます。

12.6.13 ネットワーク管理の監視プロセスが起動せず、フェールオーバーしてしまう

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

次のディレクトリにアクセス可能か確認してください。

- Windowsの場合
Systemwalker Centric Manager が使用する共有ディスクのすべて
- UNIXの場合
 - /var/opt/FJSVfwnm/tmp
 - /var/opt/FJSVsnm/tmp

原因

クラスタセットアップ手順が正しくないために、共有ディスクが見えない状態になっています。

対処方法

現在の共有ディスクの状態により対処方法は変わってくるため、保守情報収集ツールを使用して資料を採取し、技術員に連絡してください。

12.6.14 携帯型の運用管理サーバ二重化環境にて、主系と従系でネットワーク管理の監視の結果が異なる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

- ノードの検出を行っていませんか。
- Systemwalkerコンソール[編集]によるノードの追加を行っていませんか。
- イベント通知またはインベントリ情報通知によって、ノードが自動登録されていませんか。

原因

ネットワーク管理の監視は、ノード構成情報をもとに行われます。そのため、主系でノードの検出を行う、またはSystemwalkerコンソール[編集]により、新規にノードを追加したことに起因して、主系、従系のノード構成情報の差異が生じると、監視の結果が異なる現象が発生します。

対処方法

主系にて新規にノードを検出した場合や、Systemwalkerコンソール[編集]により新規にノードを追加した場合は、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド(携帯型)”の“構成情報/ポリシーの同期”の手順に従い、構成情報、およびポリシー情報の同期を行ってください。

12.6.15 コミュニティ名や代表インタフェース、ホスト名を修正したのに、変更内容がネットワーク管理の監視機能で有効になりません

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

GUIやmpcmcsvコマンドでコミュニティ名等のノードプロパティを変更した後に、[ポリシー配付状況]画面でノード構成情報が配付されていますか。

原因

ネットワーク管理の監視機能にノード情報の変更(ホスト名、コミュニティ名、代表インタフェース等)を伝えるノード構成情報の配付は、通常1時間に1回自動で実行されています。このため、変更内容の反映は、最大で1時間の遅延が発生します。

したがって、ノード情報の変更を行った後、ノード構成情報の配付を行う前にSNMPトラップを受信すると、変更前のホスト名に戻ってしまいます。詳細は“[ホスト名を変更したが、SNMPトラップに対するイベントのホスト名が変更前のものとなる](#)”を参照してください。

対処方法

ノード情報の変更(ホスト名、コミュニティ名、代表インタフェース等)をすぐ有効にするためには、[全て]を選択してポリシー配付を実施してください。

12.7 ポリシー設定に関するトラブルシューティング

12.7.1 ネットワーク管理に関する動作設定が行われていて、ポリシー設定画面が表示されない

エラーメッセージ(ダイアログボックス)

ネットワーク管理に関する動作設定が既に行われています。処理が完了するまで新たに設定画面を表示することはできません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ネットワーク管理に関する画面(ノード検出、ノード状態の初期化、ポリシー定義全般)を複数表示しようとするが発生します。

対処方法

すでに起動しているネットワーク管理に関する画面を閉じてから、[ポリシー設定]画面を表示してください。

12.7.2 続行不可能なエラーが発生してポリシー設定ができない

エラーメッセージ(ダイアログボックス)

続行不可能なエラーが発生しました (%1)。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Managerが正常に動作していない可能性があります。

対処方法

運用管理サーバ上のSystemwalker Centric Managerを再起動してください。再度、ポリシー設定を行っても、同様のダイアログメッセージが出力される場合、“[ネットワーク管理のトラブルが解決しない場合の調査資料の採取方法](#)”を参照して、ネットワーク管理の資料を採取し、技術員へお問い合わせください。

12.7.3 監視できるノードとできないノードが存在する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

監視できないノードが新規に追加されましたか。

新規にノードが追加された後、構成情報の配付が未実施である場合、追加されたノード情報が構成情報に反映されておらず、監視対象として認識されない場合があります。

※構成情報の配付はデフォルト設定で1時間に1回自動配付されます。

原因

構成情報の変更が、ネットワーク管理が使用するノード構成情報に反映されていない可能性があります。

対処方法

ポリシー配付を実施してください。

ポリシー配付により、構成情報が反映されるため、ネットワーク管理の次のポーリングから監視が行われます。

なお、早急に確認したい場合は、運用管理サーバで以下のコマンドを実行し構成情報の配付、ネットワーク管理ポリシーの反映を行ってください。

- 構成情報一括配付コマンド
 - Windows版V10系の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

- Windows版V11.0L10以降の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

- UNIX版の場合

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

- ネットワーク管理ポリシー一括反映コマンド
 - Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpnmpref.bat
```

- UNIX版の場合

```
/opt/systemwalker/bin/mpnmpref
```

対処2

確認ポイント

業務管理ツリー、ノードツリー管理で作成したフォルダにノードを追加していませんか。

原因

ポリシーが設定してある業務管理ツリー、ノードツリー管理で作成したフォルダへ、[親フォルダを引き継ぐ]としてノードを新規に追加しても、ポリシー定義は反映されません。

対処方法

論理フォルダへ追加したノードに対して、個別にポリシーを設定してください。

12.7.4 ネットワーク管理のポリシー設定を行っても、ポリシー配付状況画面にて、ネットワーク管理のポリシーが配付待ちの状態にならない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

V5.0以降の運用管理サーバから、V4.0以前の部門管理サーバに対するポリシー設定を行ったために発生します。

ネットワーク管理のポリシーは、V4系以前の部門管理サーバに配付する場合、ノード構成情報ポリシーの一部として配付されます。ノード構成情報ポリシーは基本ツリーの構成に変化があった場合に作成・更新されるため、[ポリシー配付状況]画面には配付待ちとして表示されません。

このため、V4系以前の部門管理サーバにネットワーク管理のポリシーを設定してもポリシー配付状況画面には表示されません。

対処方法

対処の必要はありません。

12.7.5 運用管理サーバが二重化(独立型)だが、特定のフォルダについて一方の運用管理サーバでしか監視をすることができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

- 部門管理サーバを各運用管理サーバに対し、共通にしていますか。
- 監視できないセグメントフォルダの管理サーバが部門管理サーバではありませんか。

二重化(独立型)の運用管理サーバに対し、共通の部門管理サーバで特定のセグメントを管理していると、部門管理サーバ配下の基本ツリーに変更があった場合、それぞれの運用管理サーバにノード構成情報ポリシーが作成され配付されるため、部門管理サーバのノード構成情報が異常になる可能性があります。

原因

二重化(独立型)の運用管理サーバに対し、共通の部門管理サーバで特定のセグメントを管理しているために発生します。

ネットワーク管理の監視結果は、一方の運用管理サーバにだけ通知されます。したがって、二重化(独立型)の運用管理サーバに対し、共通の部門管理サーバでセグメントフォルダを監視している場合、一方の運用管理サーバにだけ監視結果が通知されます。

対処方法

各運用管理サーバに対し、別々の部門管理サーバを用意してください。または、ネットワーク管理を行うセグメントを運用管理サーバにて監視してください。

12.7.6 指定した監視間隔より遅れて結果が表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

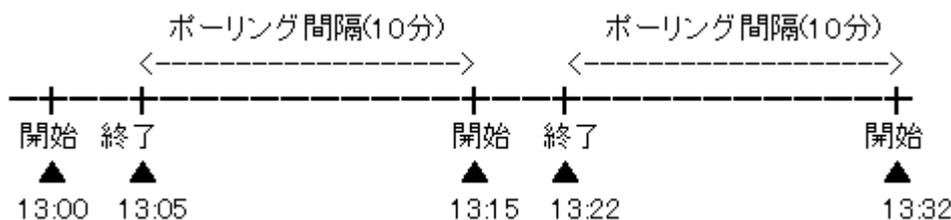
確認ポイント

- 動作時間をポーリング間隔で設定しているか、時刻指定で設定しているか確認してください。
- 設定しているポリシー数を確認してください。

原因

- ポーリング間隔指定の場合

ポリシー設定の「ポーリング間隔」は、前回の監視終了時から次の監視開始までの間隔を指定するものです。1回の監視に要する時間によって、ポーリング監視の開始時間は変化しますので、ポーリング間隔に指定した間隔でポーリング監視が開始されるわけではありません。以下に例を示します。



また、ネットワーク管理のポリシーによる監視は、監視の多重度として最大10個のポリシーを同時に監視しますので、10個を超えるポリシーが設定された場合は、11個目のポリシーによる監視は、最初の10個のうちどれか1つが終了した時点で開始されます。そのため、ポリシー数が膨大になると、各ポリシーの監視開始時刻に大幅なばらつきが生じます。

・時刻指定の場合

ポリシー設定の「時刻指定」は、監視の開始時刻を指定します。ただし、監視の多重度である10個を超える数のポリシーを全く同じ時刻指定とした場合は、監視の開始時刻が保証されるのは10個までとなります。それ以外の監視は、先に開始された処理が完了した時点で開始されます。

また、設定時刻の間隔が監視時間より短い場合は、監視がスキップされます。



対処方法

サブネットワークフォルダ単位、または部門フォルダ単位にポリシーを設定することでポリシー数を削減し、現象が回避されるかを確認してください。

また、1回の監視の所要時間は、“Systemwalker CentricMGR 性能ガイド”の“2.3.1 ネットワーク監視”に記載していますので、ポリシー設定時の参考情報として参照してください。

12.7.7 バージョンアップした場合、ポリシー配付状況一覧画面において、稼働状態の監視ポリシーが未配付の状態が残る

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.4.0以降
 - Solaris版:V13.4.0以降
 - Linux版:V13.4.0以降

確認ポイント

V13.3系以前の環境において、ノード状態の監視またはノード状態の表示ポリシーを設定している環境を、V13.4系以降にバージョンアップした場合に発生します。

原因

V13.4系以降に対して稼働状態の監視(旧:ノード状態の監視、ノード状態の表示)ポリシーを引継ぐ場合、ポリシーを再作成します。

この場合に、ポリシー一括配付コマンドで配付しますが、ポリシー配付状況一覧画面は更新しないため、設定したポリシーが未配付の状態が残ったままとなります。

対処方法

ポリシーは正しく配付されており、対処の必要はありません。

12.7.8 Databaseを監視方法とした稼働状態の監視ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.4.0以降
 - Solaris版:V13.4.0以降
 - Linux版: V13.4.0以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager 導入手引書の“監視用に使用するプロトコル”を参照して、“Databaseに関する事前設定項目”を行っているかを確認してください。

また、JDBCデータベース・ドライバ・ファイルを指定されたディレクトリに複数個コピーしているかを確認してください。

原因

異なるバージョンのJDBCデータベース・ドライバ・ファイルを、指定されたディレクトリに複数個コピーし格納すると、Databaseの稼働状態の監視が正しく動作しない場合があります。

対処方法

JDBCデータベース・ドライバ・ファイルは、各DatabaseサーバのVLに合った最新のものを1つだけ指定されたディレクトリ配下に配置するようにしてください。

12.8 MIB情報に関するトラブルシューティング

12.8.1 タイムアウトが発生してMIB情報が取得できない

エラーメッセージ(ダイアログボックス)

タイムアウトしました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

対象ノードでSNMPエージェントが動作していますか。

対処方法

指定したノードのSNMPエージェントが動作していることを確認してください。

対処2

確認ポイント

MIB情報の取得時に指定したコミュニティ名の設定は正しいですか。

対処方法

指定したコミュニティ名が正しいか確認してください。

コミュニティ名は、[MIB取得]ダイアログボックスの[コミュニティ名]で指定する文字列です。

対処3

確認ポイント

SNMPコミュニティに不整合がありませんか。

MIB取得操作時に、SNMPエージェントに設定されているトラップ通知先に対して、authenticationFailureが通知された場合、SNMPコミュニティに不整合があります。

対処方法

以下のどちらかの方法で対処してください。

- Systemwalkerコンソールで、対象ノードの[ノードプロパティ]-[コミュニティ名]に、SNMPエージェントがアクセスを許可しているSNMPコミュニティを設定します。
- [ノードプロパティ]-[コミュニティ名]に表示されているSNMPコミュニティを、SNMPエージェントで、アクセスを許可するよう設定します。

対処4

原因

SNMPエージェントで、特定の機器からのアクセスしか許可しない設定になっていませんか

MIB取得操作時、SNMPエージェントに設定されているトラップ通知先に対して、authenticationFailureが通知された場合、SNMPエージェントは、特定の機器からのアクセスできないように設定されています。

対処方法

SNMPエージェントで、運用管理サーバからのアクセスを許可するよう設定してください。

対処5

確認ポイント

ノード自体が特定の機器からのアクセスしか許可しない設定になっていませんか。

対処方法

SNMPエージェントで、MIB取得を行うホストからのアクセスを許可するよう設定してください。

運用管理クライアントでMIB取得を行う場合は、運用管理クライアントから直接MIB取得を行います。

対処6

確認ポイント

運用管理サーバ、または部門管理サーバのsnmpポートが書き換えられていませんか。

servicesファイルに記述されているsnmpポートが161以外の値になっている場合、snmpポートは、書き換えられています。

原因

snmpポートを書き換えるアプリケーションとの共存はできません。

対処方法

Systemwalker Centric Managerと、該当アプリケーションを別マシンで運用してください。

備考

OpenViewをインストールすると、snmpポートが8161に書き換えられる事例があります。

対処7

確認ポイント

対象ノードに負荷がかかった状態になっていませんか。

原因

SNMP要求への応答に時間がかかっています。

対処方法

[操作]-[MIB情報の表示]メニューで指定可能な以下の機能については、タイムアウト値が30秒として設定されています。

- ・ システム情報
- ・ インタフェース情報
- ・ 通信情報
- ・ TCP接続情報
- ・ UDPポート情報
- ・ Interstage情報
- ・ 無線LANアクセスポイント情報
- ・ 省電力情報
- ・ MIBの取得
- ・ MIBの設定

12.8.2 MIB取得/設定を行うとエラーダイアログボックスが表示される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

エラーメッセージ(ダイアログボックス)1

指定したノードでエージェントが動作していない、またはコミュニティ名が誤っている恐れがあります。

確認ポイント

対象ノードでSNMPエージェントが動作していますか。

対処方法

指定したノードのSNMPエージェントが動作していることを確認してください。

エラーメッセージ(ダイアログボックス)2

タイムアウトしました。指定したノードでエージェントが動作していない、またはコミュニティ名が誤っている恐れがあります。

対処1

確認ポイント

ノードのコミュニティ名は正しいですか。

対処方法

ノードのコミュニティ名が正しいか確認してください。

コミュニティ名は、[MIB取得]ダイアログボックスの[コミュニティ名]で指定する文字列です。

対処2

確認ポイント

対象ノード側でSNMPマネージャのアクセスを制限していませんか。

原因

MIB取得操作は、操作を実施するノードSystemwalkerコンソールから直接MIB情報を取得しています。

対象ノード側のSNMPエージェント(サービス)の設定で[MIB取得]を実施しているノードのホスト名、または、IPアドレスでの操作を受け付けるか確認してください。

※ 確認方法については機器によって異なりますので、SNMPエージェント側にお問合せください。

- ・ 運用管理サーバなど、クラスタ環境からMIB取得を行う場合、取得元のIPアドレスは論理IPアドレスだけでなく、物理IPアドレスも追加してください。
- ・ 部門管理サーバ配下の監視対象ノードで、部門管理サーバからのSNMPパケットしか受け付けられない設定をしている場合、運用管理サーバや運用管理クライアントからのMIB取得操作でエラーとなります。

対処方法

ノード側のSNMPエージェント(サービス)の設定で[MIB取得]を実施しているノードのホスト名、または、IPアドレスでの操作を受け付けるように設定を変更してください。

対処3

確認ポイント

対象ノード自体が特定の機器からのアクセスしか許可しない設定になっていませんか。

ファイアウォールの設定等により、特定のIPアドレス以外からのアクセスを許可しない設定となっている可能性があります。

原因

ファイアウォールなどの通信を制限するような機器が導入されている場合、許可しないポートに対する通信を遮断してしまいます。

SNMPを使用した通信を行う場合 161/udp が遮断されていますとSNMPエージェントから情報が取得できないためタイムアウトが発生します。

対処方法

MIB取得を行うノード(運用管理サーバ、部門管理サーバ、運用管理クライアント)からのSNMPの通信が可能となるように、ネットワークの設定(Firewallなど)を見直してください。

エラーメッセージ(ダイアログボックス)3

取得したデータにオブジェクトデータが存在しませんでした。

原因

MIBの取得を行いました。取得対象のMIBが存在しませんでした。未サポートのMIBが指定された可能性があります。

対処方法

機器側のSNMPエージェントから取得対象のMIBが取得可能であるか確認してください。

エラーメッセージ(ダイアログボックス)4

指定したMIBが送信先ノードのエージェントに登録されていないか、コミュニティ名が間違っています

確認ポイント

MIB名、インスタンスの指定が間違っていないか。

原因

指定したMIB情報の設定が対象ノードに存在しないため、MIB情報を取得できませんでした。

対処方法

MIB名、インスタンスの指定を見直してください。

備考

MIB取得時に、指定したMIB名の上位ツリーを指定して、取得方法にdumpを指定したMIB取得を行い、MIB名とインスタンスの組み合わせが存在しているか確認することが可能です。

12.8.3 MIB情報の取得を行うとエラーダイアログボックスが表示される

エラーメッセージ(ダイアログボックス)

SNMPエージェントと通信できません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

“ネットワーク管理関連”-“MIB情報に関するトラブルシューティング”-“[MIB取得/設定を行うとエラーダイアログボックスが表示される](#)”を参照してください。

エラーメッセージ(ダイアログボックス)2

通信エラー(SENDTO_ERR)
DETAIL CODE=10065, CAUSE CODE=XXX

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

対象ノード側でSNMPマネージャのアクセスを制限していませんか。

原因

MIB取得操作は、操作を実施するノードSystemwalkerコンソールから直接MIB情報を取得しています。対象ノード側のSNMPエージェント(サービス)の設定で[MIB取得]を実施しているノードのホスト名、またはIPアドレスでの操作を受け付けるか確認してください。

なお、確認方法については、機器によって異なりますので、SNMPエージェント側にお問合せください。

- 運用管理サーバなど、クラスタ環境からMIB取得を行う場合、取得元のIPアドレスは論理IPアドレスだけでなく、物理IPアドレスも追加してください。
- 部門管理サーバ配下の監視対象ノードで、部門管理サーバからのSNMPパケットしか受け付けない設定をしている場合、運用管理サーバや運用管理クライアントからのMIB取得操作でエラーとなります。

対処方法

ノード側のSNMPエージェント(サービス)の設定で[MIB取得]を実施しているノードのホスト名、または、IPアドレスでの操作を受け付けるように設定を変更してください。

12.8.4 SNMPエージェントが動作している機器に対してMIB取得操作を行うと、「タイムアウト」のメッセージが出力され、MIB取得ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

SNMPコミュニティに不整合がありませんか。

MIB取得操作時に、SNMPエージェントに設定されているトラップ通知先に対して、authenticationFailureが通知された場合、SNMPコミュニティに不整合があります。

対処方法

以下のどちらかの方法で対処してください。

- Systemwalkerコンソールで、対象ノードの[ノードプロパティ]-[コミュニティ名]に、SNMPエージェントがアクセスを許可しているSNMPコミュニティを設定します。
- [ノードプロパティ]-[コミュニティ名]に表示されているSNMPコミュニティを、SNMPエージェントで、アクセスを許可するよう設定します。

対処2

確認ポイント

SNMPエージェントで、特定の機器からのアクセスしか許可しない設定になっていませんか。

MIB取得操作時、SNMPエージェントに設定されているトラップ通知先に対して、authenticationFailureが通知された場合、SNMPエージェントの設定にて運用管理サーバ、部門管理サーバのIPアドレスからのSNMPパケットを受け付けない設定となっている可能性があります。

対処方法

SNMPエージェントの設定にて、運用管理サーバ、または、部門管理サーバからのSNMPパケットを受け付ける設定にしてください。

対処3

確認ポイント

ノード自体が特定の機器からのアクセスしか許可しない設定になっていませんか。

ファイアウォールの設定等により、特定のIPアドレス以外からのアクセスを許可しない設定となっている可能性があります。

対処方法

ノードの設定で、Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバ、または部門管理サーバからのアクセスを許可するよう設定してください。

対処4

確認ポイント

運用管理サーバ、または部門管理サーバのsnmpポートが書き換えられていませんか。

servicesファイルに記述されているsnmpポートが161以外の値になっている場合、snmpポートは、書き換えられています。

原因

snmpポートを書き換えるアプリケーションとの共存はできません。

対処方法

Systemwalker Centric Managerと、該当アプリケーションを別マシンで運用してください。

備考

OpenViewをインストールすると、snmpポートが8161に書き換えられる事例があります。

12.8.5 Linux版のSNMPエージェントに対し、MIB情報が正しく取得できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:10.0以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

対処方法

SNMPエージェントを新しいバージョンにアップデートしてください。

UCD-snmpは、SNMP脆弱性の問題があり、4.2.3で対応されていますので、4.2.3以降に入れ替えを行ってください。

12.8.6 Solaris 2.6 のSNMPエージェントに対し、MIB情報が正しく取得できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

対処方法

Solaris 2.6 0E 標準添付のSNMPのバージョンを、SEA1.0.1からSEA1.0.3へアップデートしてください。アップデート後、SEA 1.0.3用パッチ(106787-14以降)を適用してください。

12.8.7 リレーモード運用時にMIB情報の取得に失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - HP-UX版:5.1以降
 - Solaris版:10.1以前
 - Linux版:V10.0L10以降

確認ポイント

正しくリレーモードで動作しているか確認するために、以下のコマンドを実行します。

```
# ps -aef | grep MpTrfExAgt
```

上記コマンドを実施した際、プロセス情報がポート番号つきで表示されていない場合は、性能監視拡張エージェントはリレーモードで動作していると判断できます。

対処方法

性能監視拡張エージェントをリレーモードで運用する場合、以下の点に注意してください。

- リレーモードで運用する場合、SNMPエージェントと性能監視拡張エージェントの関係が逆転します。そのため、コミュニティ名やアクセス制御の設定に注意してください。
 - コミュニティ名
Systemwalker Centric Managerで定義したコミュニティ名を、性能監視拡張エージェントとSNMPエージェントの両方で許可する必要があります。
 - アクセス制御
アクセス制御を行う場合、設定は性能監視拡張エージェント側で実施します。SNMPエージェントでは実施しないでください。

12.9 MIBログ変換に関するトラブルシューティング

12.9.1 MIBログのCSV出力ができない

エラーメッセージ(ダイアログボックス)

CSV変換の処理中に異常が発生しました。エラー番号:-100

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

原因

指定したログファイル、またはCSVファイルのパス異常(アクセス権がない、パスに空白を含むなど)が発生しています。

対処方法

設定ファイルのパスを変更してください。

12.9.2 MIBログファイルの表示ができない

MIBログファイルの表示を行うと「オペレーションの指定に誤りがあります」(タイトル:MIB Information Viewer)と表示され、参照できない。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

MIB取得では、一度のポーリングで同時に採取したMIB情報を横1列(改行なし)でMIBログファイルに出力します。CSVに変換した場合も同様に変換されるため一度に大量のMIB情報を採取すると、MIBログファイルの読み込みに失敗し表示できない場合があります。

対処方法

一度に採取するMIB情報の見直しを行ってください。複数のMIBを同時に採取するのであれば、MIBごとに監視することをお勧めします。

12.10 調査資料の採取方法

12.10.1 ネットワーク管理のトラブルが解決しない場合の調査資料の採取方法

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L10
 - Solaris版:5.0～10.0
 - HP-UX版:10.0
 - AIX版:10.0
 - Linux版:5.2～V10.0L10

※V10.0L20以降/10.1以降の場合は、“[調査資料の採取方法](#)”を参照し、調査資料を採取してください。

採取情報・採取方法

各対処方法で問題が解決しない場合は、以下の資料を採取してください。

[Solaris版]の場合

- /var/opt/配下の以下のファイル
 - FJSVftlc/trc/MpN*.trc
 - FJSVfwnm/po/* (サブディレクトリも含む)
 - FJSVfwnm/log/*
 - FJSVfwnm/tmp/*.*
 - FJSVsnm/miblog/*
 - FJSVsnm/tmp/*

- FJSVsnm/log/*
- FJSVfwbs/cmdr/*
- FJSVfwbs/cm/*
- FJSVfwbs/cmtmp/*
- /etc/opt/配下の以下のファイル
 - FJSVsnm/*.ini
 - FJSVfwnm/*.ini
 - FJSVfmkt/*.ini
- /var/adm/messages*
- /opt/FSUNNWSnmp/etc/trapd/*.pid
- psコマンド(ps -ef)の出力結果

[Linux版]の場合

- /var/opt/配下の以下のファイル
 - FJSVftlc/trc/MpN*.trc
 - FJSVfwnm/po/* (サブディレクトリも含む)
 - FJSVsnm/log/*
 - FJSVfwnm/tmp/*.*
 - FJSVsnm/miblog/*
 - FJSVsnm/log/*
 - FJSVfwbs/cmdr/*
 - FJSVfwbs/cm/*
 - FJSVfwbs/cmtmp/*
- /etc/opt/配下の以下のファイル
 - FJSVfwnm/*.ini
 - FJSVsnm/*.ini
 - FJSVfmkt/*.ini
- /var/log/messages*
- /opt/FSUNNWSnmp/etc/trapd/*.pid
- ps コマンド (ps -ef) の出力結果

[Windows版]の場合

- Windows NT診断プログラムの出力結果
- Windowsインストールディレクトリ¥system32¥配下の以下のファイル
 - f3cvgtd¥MpN*.trc
 - drivers¥etc¥services
- イベントログ (システムログ、アプリケーションログ)
- Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥配下の以下のファイル
 - mpnetmgr¥tmp¥*
 - mpnetmgr¥po¥*

- mpnetmgr¥log¥*
 - mpnetmgr¥miblog¥*
 - mpfwbs¥var¥cmdr¥*
 - mpfwbs¥var¥cm¥*
 - mpfwbs¥var¥cmtmp¥*
 - mpwksttr¥etc¥*
 - mpwksttr¥bin¥*.ini
 - mpwksttr¥PIPEFILE
- MpNmで始まるプロセス一覧のスナップショット(タスクマネージャのスナップショット)。必ず、[イメージ名]をクリックしてソートしたあと、スナップショットを採取してください。
 - ワトソログ(アプリケーションエラー発生時に採取してください。)

12.11 MIB監視に関するトラブルシューティング

12.11.1 MIB監視のしきい値超えのイベントが通知されない

設定したMIB監視ポリシーのイベントが通知されません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

- しきい値条件が正しく設定されていますか。
- リセット条件が正しく設定されていますか。
- しきい値条件とリセット条件が同じ条件になっていますか。
- 動作時間が正しく設定されていますか。

原因

以下の原因が考えられます。

- しきい値条件を設定していません。
- リセット条件を設定していません。
- リセット条件を満たしています。
- しきい値条件を満たしていません。
- 一度しきい値を超えたがリセット条件を満たしていません。
- しきい値条件とリセット条件が同じ値になっています。
- 動作時間になっていません。

対処方法

MIB監視のイベントが通知される条件は以下のとおりです。

1. リセット条件を満たさない。かつ
2. しきい値条件を満たす場合

例を参考にしてリセット条件としきい値条件を再度、確認してください。

例

<対象MIB>
MIB名:sysUpTime
インスタンス:0

<しきい値条件>
・絶対値にチェック
しきい値:28900
条件:以上
・リセット条件を指定するにチェック
リセット値:300000
リセット条件:以下
・トラップ通知するにチェック
しきい値超え:1回

<ポーリング>
ポーリング間隔:10分間隔

前述の条件に当てはめると、現在のしきい値条件の場合、しきい値超えのイベントを通知するのは、sysUpTime.0の値が「300001以上」の場合です。

- ・ しきい値条件を設定しない状態でイベントが通知されることはありません。
- ・ リセット条件を指定しない状態で、しきい値条件を満たしイベント通知が行われた後、再度イベント通知が行われることはありません。
- ・ 一度、しきい値条件を超えてイベント通知した場合、リセット条件が満たされないかぎり、しきい値を超えてもイベントは通知されません。

12.11.2 MIB監視が行われない

ノードからMIB監視のイベント通知が行われない。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

バックアップした資源のリストア後に構成情報の一括配付を行っていない可能性があります。

対処方法

運用管理サーバにて以下のコマンドを実行し、構成情報、および、ネットワーク管理のポリシーを再度配付してください。

1. 構成情報配付コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

[Windows版の場合]

- V10.0L21以前の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

- V11.0L10以降の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

2. ネットワーク管理ポリシー反映コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpnmpref
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpnmpref.bat
```

対処2

原因

部門フォルダ、セグメントに対して既にポリシー設定を行っている場合、新規に追加したノードやノードプロパティの変更を行ったノードについての構成情報の変更が反映されていない可能性があります。

対処方法

ポリシー配付を行ってください。ポリシー配付の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”を参照してください。

対処3

確認ポイント

各ノード上のSNMPエージェントの設定において、読み取り権限が与えられているコミュニティ名と、SystemwalkerコンソールのノードプロパティのネットワークタブにおけるRコミュニティが一致していますか。

Systemwalkerコンソールにてノードプロパティを参照するには、ノード一覧上で参照したいノードをダブルクリックするか、参照したいノードを選択し右クリックメニューからプロパティを選択します。

原因

Systemwalker Centric Managerの構成情報に登録されている、SNMP Rコミュニティ名が間違っている可能性があります。

対処方法

1. [Systemwalkerコンソール[編集]]より各ノードを選択し、右クリックメニューから[ノードプロパティ]を選択します。
2. [ネットワークタブ]を選択し、Rコミュニティ名を各ノードにて読み取り権限が与えられているコミュニティ名に変更します。
3. ポリシーの配付を行います。ポリシー配付の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”を参照してください。

対処4

確認ポイント

運用管理サーバ、部門管理サーバでWindows2000/Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの「TCP/IPポートフィルタリング」機能を使用していないですか。

対処方法

「TCP/IPポートフィルタリング」機能を無効にしてください。

対処5

確認ポイント

ポリシーが設定されているか確認してください。

原因

ポリシーが設定されていないため、監視が行われていません。

対処方法

ポリシーを設定してください。ポリシー設定の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”を参照してください。

12.11.3 MIB監視ログファイルの表示を行うと「表示可能なデータが存在しません」と表示され、参照できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

対象ノードでSNMPエージェントが動作していますか。

原因

対象ノードのSNMPエージェントが起動していないためにMIB情報が取得できずに該当のメッセージが表示されました。

対処方法

指定したノードのSNMPエージェントが動作していることを確認してください。

対処2

確認ポイント

対象ノードのSNMPエージェントとコミュニティ名が一致していますか。

原因

対象ノードのSNMPエージェントのコミュニティ名が一致していないためにMIB情報が取得できずに該当のメッセージが表示されました。

対処方法

対象ノード側で動作しているSNMPエージェントのコミュニティ名と、Systemwalkerコンソール上のノードプロパティに設定されているRコミュニティ名を一致させてください。

備考

ノードプロパティを更新したら、ポリシー配付を実施してください。

対処3

確認ポイント

MIB名、インスタンスの指定が間違っていないか。

原因

対象ノードに対する取得するMIB名、またはインスタンスが間違っているためにMIB情報が取得できずに該当のメッセージが表示されました。

対処方法

MIB名、インスタンスの指定を見直してください。

12.11.4 MIB監視のポリシー設定画面で参照ボタンを押下すると「ファイル(xxxx.mib); 読込に失敗しました。読み込み可能であるか確認してください。」と警告メッセージが出力される

エラーメッセージ

ファイル(xxxx.mib);読込に失敗しました。
読み込み可能であるか確認してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

運用管理サーバ(Windows版)、運用管理クライアントのMIBディレクトリ(※)にxxxx.mibのファイルを追加していないか確認してください。

※MIBディレクトリ: エラーメッセージに出力されているファイルの格納されているディレクトリ

原因

MIBファイルでないファイルをMIBディレクトリに格納しました。

対処方法

xxxx.mibのファイルを削除するか、または正しいMIBファイルと置換してください。

第13章 SNMPトラップに関するトラブルシューティング

13.1 SNMPトラップが通知されない

対処1

確認ポイント

通知先にSNMPトラップが通知されていますか。mptptrc(トラップイベントトレースコマンド)を使用して、確認してください。トラップイベントトレースコマンドについての詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

SNMPエージェントの設定にて、トラップ通知先のIPアドレスの設定が間違っている場合があります。

対処方法

SNMPエージェントの設定を見直し、トラップ通知先のIPアドレスを正しく設定してください。

対処2

確認ポイント

トラップ送信先を業務サーバにしているませんか。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

業務サーバにはSystemwalkerでトラップを受信する機能がありません。

対処方法

運用管理サーバ、または部門管理サーバにトラップを送信するように設定してください。

対処3

確認ポイント

ServerViewトラップ転送プログラム(trpsrvd)が起動しているか確認してください。以下のファイルに、“mpwkstr-trap”が記載されているか確認してください。

```
/etc/services
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V12.0L10以降

原因

ServerViewトラップ転送プログラムの設定が行われているにもかかわらず、ServerViewトラップ転送プログラムが導入されていない場合、トラップ受信ができません。

対処方法

- ・ ServerViewトラップ転送プログラムを導入する場合
 1. 該当の製品のReadme等を参照し、ServerViewトラップ転送プログラムを導入してください。
ServerViewトラップ転送プログラムは、富士通のホームページ (http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviadownload.cgi?DRIVER_NUM=F1004355)から入手することができます。
- ・ ServerViewトラップ転送プログラムを導入しない場合
 1. “/etc/services”に記載されている以下の行を削除してください。

```
-----  
mpwkstr-trap xxx/udp  
-----
```

2. システムを再起動してください。

対処4

確認ポイント

ServerViewトラップ転送プログラム(trpsrvd)が起動しているか確認してください。以下のファイルに、“mpwkstr-trap”が記載されているか確認してください。

```
/etc/services
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V12.0L10以降

原因

ServerViewトラップ転送プログラムでは、SNMPv1トラップのみを転送します。

SNMPv2CおよびSNMPv3トラップは破棄します。

対処方法

SNMPトラップ転送プログラムを使用することで、連携することができます。

詳細は“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“運用管理サーバの環境構築”に記載されている、“SNMPトラップ転送プログラムを利用する場合の環境設定”を参照してください。

13.2 Systemwalker Centric ManagerがインストールされたノードからのSNMPトラップが出力されない

Systemwalker Centric Managerがインストールされたノード(*1)からのSNMPトラップによる通知が表示されない場合の対処方法について説明します。

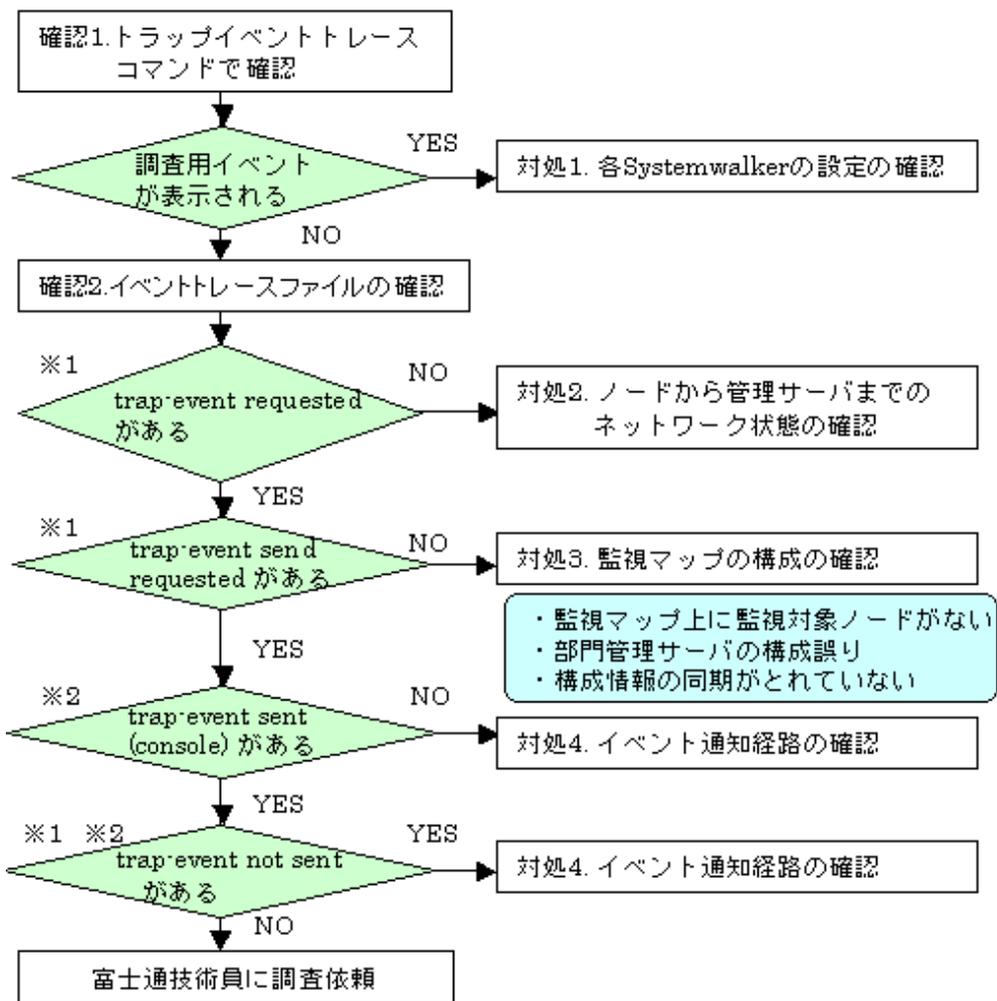
*1): 運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ、運用管理クライアント、クライアント

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処フロー図

対処手順の流れを以下に示します。



トラップイベントトレースコマンドで指定した管理サーバにより参照ファイルが異なります。

※1:管理サーバが部門管理サーバの場合-部門管理サーバ参照
管理サーバが運用管理サーバの場合-運用管理サーバ参照

※2:管理サーバが部門管理サーバの場合-運用管理サーバ参照
管理サーバが運用管理サーバの場合-運用管理サーバ参照

確認1:トラップイベントトレースコマンドで確認

Systemwalkerコンソールに、ネットワーク関連のイベントが表示されない場合は、トラップがイベントに変換されているか、トラップの通知経路が正常かを調査するために以下の操作を行います。

ポイント

Systemwalker Centric Managerが、以下の運用形態の場合は、“各運用形態の場合”を参照し、コマンドを実行してください。

- ・ クラスタシステム
- ・ 二重化環境
- ・ 全体監視サーバ インターネット型
- ・ 全体監視サーバ 専用線型
- ・ DMZ

1. 運用管理クライアントで、V10.0L21/10.1以前のバージョンでは[Systemwalkerコンソール 業務監視]または[Systemwalkerコンソール システム監視]を起動します。V11.0L10/11.0以降のバージョンではSystemwalkerコンソールを起動します。
2. ネットワーク関連のイベントが表示されないノード(被監視サーバ)上で、以下のトラップイベントトレースコマンドを実行し、調査用イベントを送信します。

— [Windows版の場合]

```
mptrptrc -d 管理サーバのIPアドレス
```

— [Solaris版の場合]

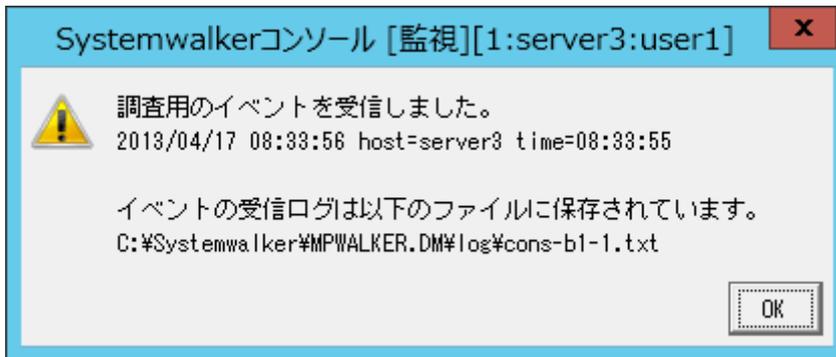
```
/opt/systemwalker/bin/mptrptrc -d 管理サーバのIPアドレス
```

— [Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptrptrc -d 管理サーバのIPアドレス
```

管理サーバのIPアドレスは、Systemwalkerコンソールの基本ツリーで、Systemwalker Centric Managerのノードが所属しているサブドメインフォルダの部門管理サーバ、または運用管理サーバのIPアドレスを指定してください。

3. Systemwalkerコンソールで、以下のメッセージボックス(調査用のイベント)が表示されるか確認します。



4. 以下の対処に進みます。
 - 調査用イベントが表示された場合は、“[対処1:各Systemwalkerの設定の確認](#)”を参照してください。
 - 調査用イベントが表示されない場合は、“[確認2:イベントトレースファイルの確認](#)”を参照してください。

ポイント

調査用イベントの表示中に、新規に調査用イベントを取得しても、表示中のメッセージ内容は変更されません。メッセージ内容は、画面受信ログファイルに記載されます。

調査用イベントの受信確認をする場合は、運用管理クライアントの画面受信ログファイルを参照してください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥log¥ファイル名
```

ファイル名	説明
cons-s.txt	[システム監視]画面メッセージボックス(最新)
cons-b.txt	[業務監視]画面、[Systemwalkerコンソール]画面(※)メッセージボックス(最新)
cons-s#.txt	[システム監視]画面メッセージボックス(前回の内容)
cons-b#.txt	[業務監視]画面、[Systemwalkerコンソール]画面(※)メッセージボックス(前回の内容)

※ V10.0L21/10.1以前は[システム監視]画面、V11.0L10/11.0 [Systemwalkerコンソール]画面

確認2: イベントトレースファイルの確認

調査用イベントが表示されない場合は、イベントトレースファイルを参照し、(トラップイベントトレースの結果もイベントトレースファイルに表示されます) 調査用イベントがどこで停止しているか確認します。

イベントトレースファイルは、トラップイベントトレースコマンドの実行時に指定した管理サーバ、および運用管理サーバで出力されます。

イベントトレースファイル名

イベントトレースファイルは、2世代で管理されます。最新のファイルは、“evttrc.txt”で、前回の内容は、“evttrc#.txt”に保存します。

• [Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥log¥evttrc.txt
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥log¥evttrc#.txt
```

• [Solaris版の場合]

```
/var/opt/FJSVftlc/log/evttrc.txt
/var/opt/FJSVftlc/log/evttrc#.txt
```

イベントトレースファイルの内容

トラップイベントトレースの結果は、“function”に“trap-event”が表示されています。

```
host yy/mm/dd HH:MM:SS Hostname=hostname time=hh:mm:ss function
```

- host
管理サーバのホスト名
- yy/mm/dd HH:MM:SS
テストトラップイベント処理(通過)時間
- Hostname=hostname
テストトラップイベント送信元ホスト名(トラップ発生元ホスト名)
- time=hh:mm:ss
トラップをイベントに変換した時間
- function
テストイベント処理機能名

テストイベント処理機能名	説明
trap-event requested	トラップを受信
trap-event send requested	イベントとして出力要求
trap-event sent	イベントとして正常に出力が完了
trap-event sent(送信先ホスト名)	送信先ホストに出力が完了

テストイベント処理機能名	説明
trap-event sent(console)	Systemwalkerコンソールに送信完了
trap-event not sent	監視対象としてイベントを破棄

正常時のファイル内容例

- 被監視サーバ(serverz=10.10.10.1)から管理サーバを運用管理サーバとして実行した場合。
運用管理サーバ(Manager)

```
manager 02/04/05 13:45:20 Hostname=10.10.10.1 time=13:45:20 trap-event requested
manager 02/04/05 13:45:20 Hostname=serverz time=13:45:20 trap-event send requested
manager 02/04/05 13:45:20 Hostname=serverz time=13:45:20 trap-event sent
manager 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 trap-event sent(console)
```

- 被監視サーバ(serverz=10.10.10.1)から管理サーバを部門管理サーバとして実行した場合。
部門管理サーバ(smssvr)

```
smssvr 02/04/05 13:45:20 Hostname=10.10.10.1 time=13:45:20 trap-event requested
smssvr 02/04/05 13:45:20 Hostname=serverz time=13:45:20 trap-event send requested
smssvr 02/04/05 13:45:20 Hostname=serverz time=13:45:20 trap-event send requested
smssvr 02/04/05 13:45:20 Hostname=serverz time=13:45:20 trap-event sent
smssvr 02/04/05 13:45:20 Hostname=serverz time=13:45:20 trap-event sent (manager)
```

運用管理サーバ(manager)

```
manager 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 trap-event received
manager 02/04/05 13:45:21 Hostname=serverz time=13:45:20 trap-event sent(console)
```

対処方法

イベントトレースが正常に出力されない場合の原因特定と、対処方法を以下に示します。

- “trap-event requested”が出力されていない
“[対処2: ノードから管理サーバまでのネットワーク状態の確認](#)”を参照してください。
- “trap-event send requested”が出力されていない
“[対処3: 監視マップの構成の確認](#)”を参照してください。
- “trap-event sent(console)”が出力されていない
“[対処4: イベント通知経路の確認](#)”を参照してください。
- “not sent(ホスト名)”が出力されている
“[対処4: イベント通知経路の確認](#)”を参照してください。

対処1: 各Systemwalkerの設定の確認

調査用イベントが表示された場合は、以下のトラブル項目を実施し対処してください。

- “[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)”
- “[監視イベントが表示されない\(設定を確認する\)](#)”

対処2: ノードから管理サーバまでのネットワーク状態の確認

トラップイベントトレースコマンドを実行したノード(被監視ノード)から、管理サーバまでのネットワーク経路について、確認する手順を以下に示します。

1. IPパケットの到達確認

被監視ノードに対し、pingコマンドやtracerouteコマンドを使用して、IPパケットが到達しているか確認します。

2. 経路上に存在するネットワーク機器で、SNMPトラップのパケットをフィルタリングしていないか、各ネットワーク機器で確認します。
 - UDPプロトコルで、管理サーバの162ポートに対して、通信可能か
 - 通信方向は、被監視ノードから管理サーバになっているか
3. ネットワーク経路に、異常がない場合は、“[被監視ノードからSNMPトラップを送信する](#)”を参照し、確認手順を実施してください。ネットワーク上でなんらかの異常があった場合は、ネットワーク管理者に調査を依頼し、原因を取り除いてください。

対処3: 監視マップの構成の確認

監視マップ構成を確認します。確認方法は、“[監視対象外として破棄した場合の確認手順](#)”を参照してください。

対処4: イベント通知経路の確認

- 運用管理サーバで、“trap-event sent(console)”が出力されていない場合
 - Systemwalkerコンソールが起動しているか確認します。
 - 運用管理クライアントと、運用管理サーバ間のネットワークの状態(LANなど)が通信可能な状態になっているか確認します。
 - 運用管理クライアント上で動作するSystemwalker Centric Managerのサービスが正常に動作しているかを確認してください。
- 運用管理サーバで、“trap-event not sent(ホスト名)”が出力されている場合
 - 運用管理クライアントと、運用管理サーバ間のネットワークの状態(LANなど)が通信可能な状態になっているか確認します。
 - 運用管理クライアント上で動作するSystemwalker Centric Managerのサービスが正常に動作しているかを確認してください。
- 部門管理サーバで、“trap-event not sent(ホスト名)”が出力されている場合
 - 運用管理サーバと部門管理サーバ間のネットワークの状態(LANなど)が通信可能な状態になっているか確認します。
 - 運用管理サーバ上で動作するSystemwalker Centric Managerのサービスが正常に動作しているかを確認してください。
 - メッセージ送信先システムを確認します。
 1. 運用管理クライアントで、スタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]—[環境設定]—[システム監視設定]、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]—[システム監視設定]を選択します。
 2. 接続先サーバには、設定を確認するサーバを指定し、ユーザ名、パスワードを入力します。
→[システム監視設定]ウィンドウが表示されます。
 3. [通信環境定義]ボタンをクリックします。
→[通信環境定義]ダイアログボックスが表示されます。
 4. [メッセージ送信先システム]タブを選択し、メッセージ送信先システムと接続方法が定義されていない場合は、定義してください。

13.3 Systemwalker Centric ManagerがインストールされていないノードからのSNMPトラップが出力されない

運用管理サーバまたは部門管理サーバの配下にあるSystemwalker Centric Managerがインストールされていない被監視ノード(*1)から、異常通知が表示されない場合の対処方法について説明します。

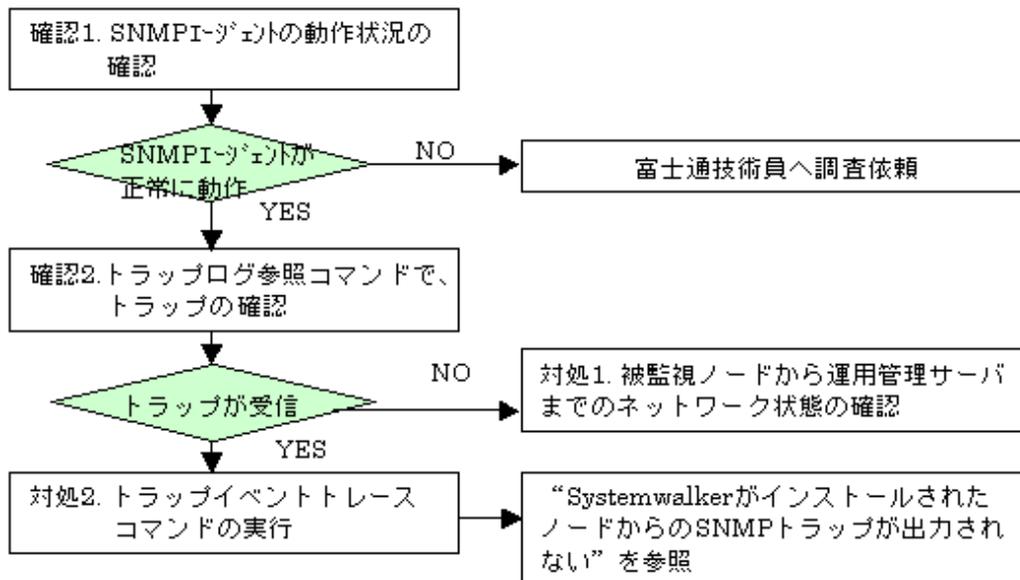
*1): ルータ、ハブなどのネットワーク機器を含むSNMPエージェントが動作しているノード

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処フロー図

対処手順の流れを以下に示します。



確認1: SNMPエージェントの動作状況の確認

SNMPエージェントの動作状況が正常か、以下の方法で確認します。

・ [Windows版の場合]

[コントロールパネル]-[サービス]から、“SNMP Service”が正常に動作しているか確認してください。

・ [Solaris版の場合]

psコマンドを使用し、snmpdxプロセスが正常に動作しているか確認してください。

・ [Linuxの場合]

psコマンドを使用し、snmpdプロセスが正常に動作しているか確認してください。

停止している場合は、技術員へ調査依頼を行ってください。

確認2: トラップログ参照コマンドで、トラップの確認

1. 運用管理サーバで、以下のコマンドを実行し、トラップログを参照します。

ー [Windows版の場合]

```
mptmpref -r -a 被監視ノードのIPアドレス
```

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

ー [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptmpref -r -a 被監視ノードのIPアドレス
```

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

ー [Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptmpref -r -a 被監視ノードのIPアドレス
```

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

2. 実行結果から、被監視サーバから該当のトラップ(種別は任意)を受信しているか確認します。コマンド実行により、なんらかの結果が出力された場合は、過去に被監視サーバからトラップを受信していたこととなります。なお、受信した時刻は、“Receive Time”となります。
3. 以下の対処に進みます。
 - － 該当のトラップが受信された場合は、“[対処2:トラップイベントトレースコマンドの実行](#)”を参照してください。
 - － 該当のトラップが受信されない場合は、“[対処1:被監視ノードから運用管理サーバまでのネットワーク状態の確認](#)”を参照してください。

対処1:被監視ノードから運用管理サーバまでのネットワーク状態の確認

トラップを送信した被監視ノードから、運用管理サーバまでのネットワーク経路について、確認する手順を以下に示します。

1. IPパケットの到達確認

被監視ノードに対し、pingコマンドやtracerouteコマンドを使用して、IPパケットが到達しているか確認します。
2. 経路上に存在するネットワーク機器で、SNMPトラップのパケットをフィルタリングしていないか、各ネットワーク機器で確認します。
 - － UDPプロトコルで、管理サーバの162ポートに対して、通信可能か
 - － 通信方向は、被監視ノードから管理サーバになっているか
3. ネットワーク経路に、異常がない場合は、“[被監視ノードからSNMPトラップを送信する](#)”を参照し、確認手順を実施してください。ネットワーク上で何らかの異常があった場合は、ネットワーク管理者に調査を依頼して原因を取り除いてください。

対処2:トラップイベントトレースコマンドの実行

確認2までの結果により、被監視ノードからのトラップが管理サーバに通知されたことを確認できた場合は、調査用のイベントを送信し、イベントの通知経路を調査します。

ポイント

Systemwalker Centric Managerが、以下の運用形態の場合は、“[各運用形態の場合](#)”を参照し、コマンドを実行してください。

- ・ クラスタシステム
- ・ 二重化環境
- ・ 全体監視サーバ インターネット型
- ・ 全体監視サーバ 専用線型
- ・ DMZ

1. 運用管理クライアントで、Systemwalkerコンソールを起動します。
2. 被監視ノードが所属している管理サーバ上で、以下のトラップイベントトレースコマンドを実行し、調査用のイベントを送信します。
 - － **[Windows版の場合]**

```
mptprtc -a 被監視ノードのIPアドレス
```
 - － **[Solaris版の場合]**

```
/opt/systemwalker/bin/mptprtc -a 被監視ノードのIPアドレス
```
 - － **[Linux版の場合]**

```
/opt/systemwalker/bin/mptprtc -a 被監視ノードのIPアドレス
```
3. “[Systemwalker Centric ManagerがインストールされたノードからのSNMPトラップが出力されない](#)”を参照し、トラップイベントトレースコマンド実行後の対処を実施します。

13.4 管理サーバの起動時に、管理サーバのSNMPエージェントからColdStartが通知される場合がある

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

エラーメッセージ

```
MpCNappl: ERROR: 100: ネットワークで“ColdStart”が発生しました。
```

原因

運用管理サーバや部門管理サーバのシステム起動時には、通常、SNMPトラップデーモンよりも先に、SNMPエージェントが起動されますので、SNMPエージェントが起動したことを示す“ColdStart”はイベント通知されません。

ただし、何からの原因により、SNMPエージェントの起動およびColdstartトラップの通知が、自身のSNMPトラップデーモン起動後に行われた場合には、“Coldstart”がイベント通知されます。

対処方法

機器側から通知されたイベントのため対処の必要はありません。

備考

下記プロセスの起動時刻を確認することにより、SNMPトラップデーモンおよびSNMPエージェントの起動順序を知ることができます。

- SNMPエージェントプロセス(snmidx・mibiisa)
- SNMPトラップデーモンプロセス(nwsnmp-trapd・mprcvtrp.exe)

トラップの詳細内容につきましては、オンラインヘルプを参照してください。

13.5 SNMPトラップ受信時に「受信したトラップPDUのデコードに失敗しました」と出力される

対処1

エラーメッセージ

```
MpCNappl: エラー: xxx.xxx.xxx.xxxから受信したトラップPDUのデコードに失敗しました。(Errno:-17  
Detail:0 in mprcvtrp.exe)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

対象機器のTrap形式がSNMPv2形式になっていませんか。

対象機器の提供元にお問い合わせください。

原因

- ・ V13.0.0以前
SNMPv1、SNMPv2C以外のトラップはサポート対象外のためです。
- ・ V13.1.0以降
SNMPv1、SNMPv2C、SNMPv3以外のトラップはサポート対象外のためです。

対処2

エラーメッセージ

```
MpCNApp! エラー: xxx.xxx.xxx.xxxから受信したトラップPDUのデコードに失敗しました。(Errno:-14  
Detail:%2 in mprcvtrp.exe)
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

対処2-1

確認ポイント

トラップ送信元のIPアドレスを持つ機器を確認し、トラップを送信している機器、もしくはアプリケーションを特定し、エラー詳細コード一覧より、エラー情報を確認してください。

【エラー詳細コード一覧】

10001 PDU に設定されているPDU 長が実PDU 長を超えている
10002 不当な種別が設定されている (get-response/trap以外)
10003 variable-bindings - syntaxに不当な値が設定されている、または、Counter64の値が設定されている可能性がある(未サポート)
10004 variable-bindings - value長に不当な値が設定されている
10005 PDU に設定されているvariable-bindings - value長が実PDU 長を超えている
10006 シーケンスタグの位置に不当な値が設定されている
10007 シーケンス長に不当な値が設定されている
10008 PDU に不当な種別が設定されている(get-request/get-next-request/get-response/trap以外)
10009 種別長に不当な値が設定されている
10010 コミュニティタグに不当な値が設定されている(OctetString型以外)
10011 コミュニティ長に不当な値が設定されている
10012 enterpriseタグに不当な値が設定されている(ObjectIdentifier型以外)
10013 enterprise長に不当な値が設定されている
10014 variable-bindings - nameタグに不当な値が設定されている(ObjectIdentifier型以外)

10015	variable-bindings - name長に不当な値が設定されている
10016	versionタグに不当な値が設定されている(INTEGER型以外)
10017	version長に不当な値が設定されている
10018	request-idタグに不当な値が設定されている(INTEGER型以外)
10019	request-id長に不当な値が設定されている
10020	error-statusタグに不当な値が設定されている(INTEGER型以外)
10021	error-status長に不当な値が設定されている
10022	error-indexタグに不当な値が設定されている(INTEGER型以外)
10023	error-index長に不当な値が設定されている
10024	generic-trapタグに不当な値が設定されている(INTEGER型以外)
10025	generic-trap長に不当な値が設定されている
10026	specific-trapタグに不当な値が設定されている(INTEGER型以外)
10027	specific-trap長に不当な値が設定されている
10028	agent-addrタグに不当な値が設定されている(IPAddress型以外)
10029	agent-addr長に不当な値が設定されている
10030	time-stampタグに不当な値が設定されている(TimeTicks型以外)
10031	time-stamp長に不当な値が設定されている

原因

SNMP Trapで不正なデータが定義されています。

対処方法

エラーが発生したトラップの原データは、共通トレース(MpCNApp1)に格納しています。本エラー情報とあわせてトラップ送信元機器、もしくは、アプリケーション開発元に連絡してください。

対処2-2

原因

SolarisのSNMPエージェントに不具合があり、送信するトラップのデータ形式に誤りがあるために発生します。

対処方法

SUNの修正パッチ(108869-31)以上を適用してください。

パッチの適用が行えない場合は、OSの再起動を行うことで回避できます。

13.6 Centric ManagerのSNMPトラップデーモンが停止する

Centric Managerのトラップデーモンが停止し、トラップの受信が行えなくなります。またクラスタ環境の場合、フェールオーバーが発生します。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

StorageMGRなどの他製品(*)との混在環境ですか。

混在環境ではない場合、Centric ManagerもStorageMGRなどの他製品もトラップデーモンはnwsnmp-trapdであるが、Centric ManagerとStorageMGRの混在環境である場合、トラップデーモン(nwsnmp-trapd)は、Centric Manager側のプロセスとして起動されるため、nwsnmp-trapdを停止した場合、Centric Manager側のトラップデーモンが停止することになります。

a. *) StorageMGR以外に以下の製品でも同様な現象が発生します。

- Softek Storage Crusier
- Softek SANView 4.x
- Systemwalker Network Assist
- Systemwalker Network Topology Manager
- Systemwalker Resource Coordinator

原因

Centric ManagerとStorageMGRなどの他製品との混在環境において、StorageMGRなどの他製品のトラップデーモンを停止したつもりが、Centric Managerのトラップデーモンを停止してしまったためです。

13.7 TRAPのポートが競合しているため、TRAPが受信されない

エラーメッセージ

- Windows版

```
他のアプリケーションがTRAPのポートをバインドしているため、TRAPの受信は行いません。
```

- Linux版

```
nwsnmp-trapd: Trap operations:Bind error
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

運用管理サーバや、部門管理サーバで、Systemwalker Centric Manager以外にトラップを受信するアプリケーションが動作しており、トラップポートの競合が発生しています。

対処方法

Windows版の場合

Microsoft SNMP TrapServiceとSystemwalker Centric Managerのトラップ受信サービスとの連携が設定されているかどうか確認します。

1. 以下のファイルを参照してください。なお、本ファイルはmpmstsコマンドにより編集されます。手動では編集しないでください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥Mpwalker.dm¥mpwkstr¥bin¥mpwkstr.ini
```

2. ファイルの内容が以下のようにになっているか確認してください。

```
[MSTS Cooperation]  
Cooperation=1
```

ファイルが存在しない場合、または“Cooperation=0”の場合は、Microsoft SNMP TrapServiceとの連携は設定されていません。

Microsoft SNMP TrapServiceとの連携が設定されていない場合

以下の手順で対処してください。

1. 以下のコマンドを実行します。

```
mpmsts on
```

2. コンピュータを再起動します。

Microsoft SNMP TrapServiceとの連携が設定されている場合

ほかのサービスがSNMPトラップのポートを占有している可能性があります。コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスの[スタートアップの種類]を確認します。

```
SNMP Trap Service
```

- 自動起動になっている場合

Systemwalker Centric Managerは、上記サービスを自動起動にしないため、SNMPトラップを使用するほかの製品での問題の可能性があります。

SNMPトラップサービスを扱うサービスを特定し、対象製品へ問い合わせてください。

- 手動起動になっている場合

以下の手順で対処してください。

1. コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスを停止します。

- Systemwalker mpwksttr
- SNMP Trap Service

2. 以下のサービスを手動起動にします。

- Systemwalker mpwksttr
- Systemwalker MpCNappl

3. コンピュータを再起動します。

4. 以下のコマンドを実行し、ポート番号を確認します。

```
netstat /a
```

5. 以下の行が出力されているか確認します。

```
UDP xxx:snmp-trap *:*
```

上記出力がある場合、SNMP-TRAPポートを直接バインドしているサービスがあることが考えられます。手順6)に従って対処してください。

6. SNMPトラップポートをバインドしているサービスを確認し、開発元に“SNMP Trap Service”の対応について確認してください。

- 対応している場合は、該当アプリケーションの“SNMP Trap Service”の対応を行ってください。
- 対応していない場合、該当アプリケーションとの共存はできないため、Systemwalker Centric Managerは、別コンピュータで運用してください。

Linux版の場合

ServerViewを使用している場合

ServerView Linux を使用している場合は、“ServerViewトラップ転送プログラム”を導入してください。

“ServerViewトラップ転送プログラム”は、富士通のホームページ(<http://jp.fujitsu.com/>)の[ダウンロード]から入手することができます。

- 入手方法(2009年7月現在)
 1. 富士通のホームページ(<http://jp.fujitsu.com/>)の[サポート情報]から[ダウンロード]を選択します。
 2. [ダウンロード]の[タイプ別ダウンロード]から[ドライバ、アップデート]を選択します。
 3. [ドライバ、アップデート]の[サーバ]から、[PCサーバ]の[PRIMERGY、GRANPOWER5000]を選択します。
 4. PRIMERGYの[ダウンロード]で、[ドライバ&修正プログラム]の、[ダウンロード検索]から、“ServerViewトラップ転送プログラム”を入手します。

ServerViewを使用していない場合

OSにバンドルされているSNMPトラップデーモンがポート(162/udp)を使用している場合は、停止させる必要があります。以下の作業を行ってください。

- setupコマンドを使用してSNMPトラップデーモンの自動起動を抑制する場合
LinuxサーバのSNMPトラップデーモンが自動起動するように定義されている場合、自動起動しないように設定を変更してください。
 1. スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
/usr/sbin/setup
```

setupコマンドはRed Hat専用のコマンドです。

→メニュー画面が表示されます。

2. 「System service」を選択し、[Enter]キーを押します。
→「サービス」画面が表示されます。
3. 「snmptrapd」の項目に付いている「*」を外します。
「*」印を外すには、項目にカーソルを合わせ、[Space]キーを押します。
4. [Tab]キーで「OK」にカーソルを合わせ、[Enter]キーを押します。
5. [Tab]キーで「停止」にカーソルを合わせ、[Enter]キーを押します。
setup が終了します。

- chkconfigコマンドを使用してSNMPトラップデーモンの自動起動を抑制する場合
 1. 管理者権限で以下のコマンドを実行してください。

```
chkconfig snmptrapd off
```

- SNMPトラップデーモンが起動している場合

1. SNMPトラップデーモンを停止します。

【Red Hat Enterprise Linux 6以前】

```
/etc/init.d/snmptrapd stop
```

【Red Hat Enterprise Linux 7以降】

```
systemctl stop snmptrapd
```

13.8 Systemwalker Centric Managerをインストールしたら、SNMP Trapを受信できなくなる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

下記の製品がインストール・使用されていませんか。下記の製品はSNMP Trapを受信するために162/UDPポートを使用している場合があります。

- Fujitsu Server View
- Microsoft Trap Service

原因

Systemwalker Centric Managerをインストールすると、Systemwalker Centric Managerのトラップデーモンが162/UDPポートを使用するため、ほかの製品でSNMP Trapを受信するようにしていた場合、SNMP Trapを受信できなくなったように見えます。

Microsoft Trap Serviceを使用するサービスが起動しているために発生します。

対処方法

下記のコマンドを実行してください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpnetmgr¥bin¥mpmsts ON
```

mpmstsコマンドについては、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

13.9 「ネットワークでAuthenticationFailureが発生しました」と出力される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

SNMPマネージャとSNMPエージェントで指定しているコミュニティ名が異なっていませんか。

原因

SNMPマネージャとSNMPエージェントで指定しているコミュニティ名が異なるために発生します。

対処方法

SNMPマネージャとSNMPエージェントで指定しているコミュニティ名を一致させてください。

対象ノードのノードプロパティのネットワークタブにて、Rコミュニティ名が一致していることを確認してください。

対処2

確認ポイント

SNMPエージェントに対して、アクセスを許可していないSNMPマネージャからのSNMP要求を行っていませんか。

原因

SNMPエージェントにて、アクセスを許可していないSNMPマネージャからのSNMP要求を受信したために発生します。

対処方法

SNMPエージェントにてSNMPマネージャからのSNMP要求を許可するか、指定のSNMPエージェントがSNMP要求発行先として適切であるかを確認してください。

13.10 SNMPトラップが受信できない

サーバに通知したSNMPトラップが受信できない。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Managerでは、監視対象ノード以外からのトラップは破棄する仕組みとなっています。このため通知されたトラップが受信できない原因としては以下が考えられます。

対処1

原因

Systemwalker Centric Managerにて登録されているノード以外から通知している場合に発生します。

対処方法

Systemwalkerコンソールにトラップ通知先のノードを追加で登録してください。

対処2

原因

Systemwalker Centric Managerにて登録されているノードだが、すべてのインタフェースのIPアドレスがSystemwalker Centric Manager側で登録されていない、かつ、その登録されていないアドレスをエージェントアドレスとしてトラップ通知している場合に発生します。

対処方法

トラップ通知先のノードのすべてのインタフェースのIPアドレスを追加で登録してください。

対処3

原因

トラップに含まれているエージェントアドレスが、登録されているアドレスではない場合に発生します。

対処方法

トラップのエージェントアドレスをSystemwalker Centric Managerに登録しているアドレスに変更してください。

対処4

原因

ファイアウォールとの混在環境のため、ICMPによるノード検出ができない場合に発生します。

対処方法

手動で対象ノードの作成を行ってください。

対処5

確認ポイント

ポート1024を使用しているアプリケーションがないか確認してください。

原因

ほかのアプリケーションがSystemwalker Centric Managerのトラップデーモンが使用するポート1024を使用しているため、トラップデーモンの起動に失敗しています。

対処方法

ポート1024を使用しているアプリケーションを停止してください。

対処6

原因

Linux版でトラップ受信側のサーバからトラップ送信元への通信経路がない場合、OSのrp_filter(注)が有効であると、トラップが受信できません。

注) rp_filter(reverse path filtering)とは、パケットを受信したときに、そのパケットの送信元IPアドレスに対する返信ルートがそのパケットを受信したネットワークインタフェースではない場合、そのパケットを破棄するというものです。

例えば、パケットが往復する場合で、往路と復路のネットワークインタフェースが異なるケースでは、受信パケットが破棄されます。

対処方法

以下のどちらかの方法で対処してください。

- ・ OSの設定でrp_filterを無効にします。
- ・ トラップ受信側のサーバからトラップ送信元への通信経路を設定します。

13.11 「トラップデーモンが停止したため、TRAPの受信は行いません」と出力される

エラーメッセージ

ソース:MpNmalm ID:5 説明:トラップデーモンが停止したため、TRAPの受信は行いません

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V4.0L10～V4.0L20

原因

V4サーバにてMpcmSrvサービスを停止しているために発生します。

対処方法

通知元サーバにて“SystemWalker MpcmSrv”サービス起動後、“SystemWalker MpTitan Client”サービスを再起動してください。

13.12 ホスト名を変更したが、SNMPトラップに対するイベントのホスト名が変更前のものとなる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalkerコンソール上のノードに対してホスト名の変更が反映されているか確認してください。

原因

hostsファイルの変更等のホスト名解決に関する設定を変更した後、Systemwalkerコンソール上のノードのホスト名を変更していない。または、そのホスト名の変更結果が、ノード構成情報に反映されていないために発生します。

対処方法

Systemwalkerコンソール上のノードに対してホスト名の変更を行い、ポリシー配付を行ってください。

13.13 Systemwalkerコンソール画面で、SNMPトラップのvarbind情報がバイナリで表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

varbind中の文字列情報は、通常テキスト形式で出力しますが、文字列中に表示不可能な文字コードを含む場合、バイナリ表示(ダンプ表示)されます。

対処方法

対処は必要ありません。

13.14 Microsoft SNMPサービスが通知するSNMPトラップがイベント一覧に表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Microsoft SNMPサービスが通知するSNMPトラップ送信先とSNMPトラップ送信元が同じコンピュータの場合、SNMPエージェントアドレスにループバックアドレス(127.0.0.1)が設定されるため発生します。

Windows 2000にバンドルされるMicrosoft SNMPサービスの動作仕様になります。

対処方法

SNMPサービスが動作するコンピュータのIPアドレスに変更してください。変更方法については、SNMPサービスの提供元に、SNMPトラップのSNMPエージェントアドレスの変更方法について問い合わせてください。

13.15 SNMPトラップのvarbindが文字化けして表示される

エラーメッセージ

```
varbind:(fujitsu.1.127.59.102.7 [2 413 1] 4a 75 6c 20 20 38
20 32 33 3a 34 35 3a 30 32 20 61 75 74 68 20 57 41 52 4e 49 4e 47 5b 34 30 31
32 30 30 31 32 5d 3a 20 55 73 65 72 20 61 75 74 68 65 6e 74 69 63 61 74 69 6f
6e 20 68 61 73 20 66 61 69 6c 65 64 2e 20 28 75 73 65 72 3d 62 75 66 66 65 72
08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 2c 63 6f
64 65 3d 35 2c 64 65 74 61 69 6c 3d 49 6e 76 61 6c 69 64 20 55 73 65 72 2d 49
44 29))
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:10.0以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

varbind中の文字列情報は、通常テキスト形式で出力しますが、文字列中に表示不可能な文字コードを含む場合、バイナリで表示(ダンプ表示)します。

対処方法

SNMPトラップのvarbind中に制御文字(例:0x07(BEL)、0x16(SYN))等の表示不可能な文字コードを含まないように設定してください。設定方法についてはSNMPトラップ送信元機器やソフトウェアのマニュアルを参照してください。

13.16 「nwsnmp-trap: process:Signal catch(SIGALRM)」と出力される

エラーメッセージ

```
nwsnmp-trap: process:Signal catch(SIGALRM)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降

対処方法

nwsnmp-trapdがシグナル「SIGALRM」を受け付けたためです、動作に影響はありませんので対処は不要です。

第14章 インターネットサーバ監視に関するトラブルシューティング

14.1 操作メニューに“インターネットサーバ”が表示されないため、WWWサーバの利用状況の表示操作ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1
 - HP-UX版:5.1～10.0
 - AIX版:10.0
 - Linux版:5.2～V10.0L20

対処1

確認ポイント

監視対象ノード(運用管理サーバ、部門管理サーバ、または業務サーバ)で、インターネットサーバ管理エージェントは、起動していますか。

対処方法

監視対象ノードで、インターネットサーバ管理エージェントを起動します。それぞれ以下の方法で起動してください。

Windows版の場合

以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

UNIX版の場合

psコマンドを実行し、“mpisagt”が起動しているか確認します。

起動していなければ、以下のコマンドを実行し、mpisagtを起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/mpisastart
```

対処2

確認ポイント

監視対象ノード(部門管理サーバ、または業務サーバ)を追加したあと、インターネットサーバ管理エージェントを再起動しましたか。

対処方法

追加した監視対象ノードで、インターネットサーバ管理エージェントを再起動します。

Windows版の場合

以下のサービスを再起動してください。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

UNIX版の場合

1. 以下のコマンドを実行し、インターネットサーバ管理エージェントを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/mpisastop
```

2. 以下のコマンドを実行し、インターネットサーバ管理エージェントを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/mpisastart
```

14.2 WWWサーバ(IIS)の監視開始までに非常に時間がかかる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21

確認ポイント

IISで匿名アクセスを許可する必要があります。IISで匿名アクセスを許可していますか。

対処方法

Internet Information Server 3.0の場合

以下の手順で設定を有効にしてください。

1. WWWサービスプロパティのサービスを選択します。
2. パスワードの認証にある[匿名を許可]を有効にします。
3. インターネットサーバ管理エージェントサービスを再起動します。
コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスを再起動します。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

Internet Information Server 4.0の場合

以下の手順で設定を有効にしてください。

1. 既定のWebサイトプロパティ(ディレクトリセキュリティ)にある匿名アクセスと、認証制御の[編集]を選択します。
2. 認証方法にある[匿名アクセスを許可する]を有効にします。
3. インターネットサーバ管理エージェントサービスを再起動します。
コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスを再起動します。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

Internet Information Services 5.0/6.0の場合

以下の手順で設定を有効にしてください。

1. IISで、ツリーの[既定の Web サイト]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。
→[既定の Web サイトのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ディレクトリセキュリティ]タブの[匿名アクセスおよび認証コントロール]-[編集]ボタンをクリックします。
→[認証方法]ダイアログボックスが表示されます。
3. [匿名アクセス]チェックボックスをチェックします。
4. インターネットサーバ管理エージェントサービスを再起動します。
コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスを再起動します。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

14.3 WWWサーバの監視ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:V5.2、V10.0L10以降

対処1

確認ポイント

監視対象のWWWサーバがサポート対象外ではありませんか。

対処方法

サポート対象であるWWWサーバを使用してください。バージョンによってサポート対象のWWWサーバが異なります。

以下にサポート対象のWWWサーバを示します。

Windows版 Systemwalker Centric Manager

WWWサーバ	バージョンレベル					
	V5.0L10	V5.0L20	V5.0L30	V10.0L10	V10.0L20	V10.0L21以降
Internet Information Server V3.0	○	○	○	○	○	○
Internet Information Server V4.0	○	○	○	○	○	○
Internet Information Services V5.0	○	○	○	○	○	○
Internet Information Services V6.0	—	—	—	—	—	○
Apache 1.3.3/1.3.4/1.3.9	○	○	○	○	○	○
Apache 2.0	—	—	—	—	○	○
FUJITSU InfoProvider Pro V2.0	○	○	○	○	○	○
Netscape Enterprise Server V3.5.1	○	○	○	○	○	○

Solaris版 Systemwalker Centric Manager

WWWサーバ	バージョンレベル					
	5.0	5.1	5.2	10.0	10.1	11.0以降
Apache 1.2.6	○	○	○	—	—	—
Apache 1.3.3/1.3.4/1.3.9	○	○	○	○	○	○
Apache 2.0	—	—	—	—	○	○

WWWサーバ	バージョンレベル					
	5.0	5.1	5.2	10.0	10.1	11.0以降
FUJITSU InfoProvider Pro V2.0	○	○	○	○	○	—
Netscape Enterprise Server V3.5.1	○	○	○	○	○	—
Sun Web Server 1.0/2.0	—	—	—	○	○	○

Linux版 Systemwalker Centric Manager

WWWサーバ	バージョンレベル						
	5.2	V10.0L10	V10.0L20	V11.0L10	V12.0L10	V12.0L10 Linux for Itanium	V13.0.0以降
Apache 1.3.3/1.3.4/1.3.9	○	○	○	○	○	—	—
Apache 2.0	—	—	○	○	○	○	○

HP-UX/AIX版 Systemwalker Centric Manager

WWWサーバ	バージョンレベル				
	HP 5.1	HP 10.0	AIX 10.0	HP 11.0	AIX 11.0
Apache 1.3.3/1.3.4/1.3.9	○	○	○	○	○
Apache 2.0	—	—	—	○	○

○: サポート対象

—: サポート対象外

対処2

確認ポイント

監視対象であるWWWサーバのポートのhttpポートが、80以外で運用されていませんか。

対処方法

監視対象サーバで、以下の環境設定ファイルの“HTTPPORT=”の値を、監視対象のWWWサーバのポート番号に変更します。

- [UNIX版の場合]

```
/etc/opt/FJSVsisag/etc/mpagtprvpo
```

- [Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpnsagt¥etc¥mpagtprvpo
```

対処3

確認ポイント

複数のWWWサーバが動作していませんか。

対処方法

監視対象サーバで、以下の環境設定ファイルの“HTTPPORT=”の値に、監視を行いたいWWWサーバのポート番号を設定します。

- [UNIX版の場合]

```
/etc/opt/FJSVsisag/etc/mpagtprvpo
```

- [Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpnsagt¥etc¥mpagtprvpo
```

対処4

確認ポイント

監視対象がApacheの場合に、ソースを修正し、HTTPD_ROOTのパスをデフォルト以外に設定していませんか。

対処方法

Apacheのhttpd.hで定義されているHTTPD_ROOTのパスをデフォルト以外に設定している場合は、以下の環境設定ファイルで、“CONFFILE=”にHTTPD_ROOTのパスを設定します。

- [UNIX版の場合]

```
/etc/opt/FJSVsisag/etc/mpagtprvpo
```

- [Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpnsagt¥etc¥mpagtprvpo
```

対処5

確認ポイント

監視対象のWWWサーバが起動されていますか。

対処方法

監視対象サーバで、WWWサーバを起動してください。

対処6

確認ポイント

Netscape Enterprise Server、およびApache以外のWWWサーバを監視対象とする場合、WWWサーバの環境設定で定義されるログファイル形式、およびログ設定は正しいですか。

対処方法

以下に示す内容に設定してください。

InfoProvider Pro V2.0の場合

ログ形式:標準モード

“アクセスログファイル”、または“自動的にログファイルを作成”

Internet Information Server 3.0の場合

ログ形式:NCSA形式

“自動的に新しいログを作成(ファイルサイズ指定のみ)”

Internet Information Server 4.0 /

Internet Information Services 5.0/6.0の場合

Webサイトの識別:IPアドレス(未使用のIPアドレスすべて)

アクティブログ形式:NCSA共通ログファイル形式

NCSAログプロパティ(全般)の新しいログ期間:

“ファイルサイズを限定しない”、または“ファイルサイズが次のバイト数に達したとき”

Sun Web Server 1.0の場合

Sun Web Serverのhttpd.confのlog_typeを、以下のように設定します。

httpd.confは、/etc/http/ディレクトリに格納されています。

```
対象ファイル:/etc/http/httpd.conf
log_type     "clf"
```

Sun Web Server 2.0の場合

Sun Web Serverで監視対象とするsite.confのlog_typeおよびlog_prefixを以下のように設定します。

site.confは、/var/http/sws_server/websites/default_site/conf/ディレクトリに格納されています。

```
対象ファイル:
/var/http/sws_server/websites/default_site/conf/default_site.site.conf
log_type     clf
log_prefix   /var/http/sws_server/logs/http_log
```

対処7

確認ポイント

監視対象とするWWWサーバから、WWWサーバの製品名およびバージョン情報を取得することができますか。

以下の方法で、WWWサーバが監視可能であるかを確認することができます。

1. コマンドライン(DOSプロンプトやターミナル)を用意します。
2. 1.上で、TELNETコマンドを用いて、確認対象のWWWサーバに接続します。

```
telnet 確認対象のホスト名 確認対象のWWWサーバが使用するポート番号
```

例)

webserverというマシン上でポート番号80を使用するWWWサーバを確認する場合

```
telnet webserver 80
```

3. 確認対象のWWWサーバに接続完了後、以下のメッセージをWWWサーバに送信します。

```
HEAD / "HTTP/1.0" [リターンキー] [リターンキー]
```

4. WWWサーバから送られてくる応答メッセージを採取します。

応答メッセージ例)

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Thu, 20 Jan 2005 07:36:27 GMT
Server: Apache/1.3.12 (Unix) mod_perl/1.24 ApacheJserv/1.1.2
Last-Modified: Mon, 27 Oct 2003 07:20:18 GMT
```

5. 採取した応答メッセージに、Server: Webサーバ名/バージョン情報(*)という情報が含まれていれば監視可能と判断できます。

例)

```
Server: Apache/1.3.12 (Unix) mod_perl/1.24 ApacheJserv/1.1.2
```

*) バージョン情報には、すべての情報が含まれている必要があります。

例)

Apache1.3.9の場合	: バージョン番号 1.3.9
Internet Information Services 5.0の場合:	バージョン番号 5.0

原因

監視対象のWWWサーバから、監視に必要な情報を取得できないために発生します。

インターネットサーバ管理では、監視を行うWWWサーバに対して、HEADリクエストを送信し、その応答結果から、監視が可能であるかの判断を行っています。

この応答結果に、WWWサーバの製品名およびバージョン情報が含まれない場合、監視を行うことができません。

対処方法

以下の場合に、本現象が発生する可能性がありますので、対処を行ってください。

- 監視対象のWWWサーバが以下の場合で、URLScanを導入している場合

- Internet Information Server V4.0
- Internet Information Services V5.0
- Internet Information Services V6.0

URLScanの設定を見直し、WWWサーバの製品名およびバージョン情報をHEADリクエストにて取得できるようにしてください。

- 監視対象のWWWサーバがApache1.3.12以降で、Apacheの設定ファイルにて、ServerTokensディレクティブを指定している場合
Apacheの設定ファイルからServerTokensディレクティブを削除してください。

14.4 WWW利用状況の表示でグラフが表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

確認ポイント

- Internet Explorer 3.02、4.0および5.0を使用している場合
Java Plug-in 1.1.2以上がインストールされていますか。
- Internet Explorer 5.5および6.0以降を使用している場合
JRE1.2.2、またはJRE1.3.1以上がインストールされていますか。

対処方法

Java Plug-in 1.1.2以上、またはJRE1.3.1以上がインストールされていない場合は、Java Plug-in 1.1.2以上、またはJRE1.3.1をインストールしてください。

14.5 WWW利用状況が表示できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

対処1

確認ポイント

監視対象サーバのWWWサーバの設定は正しいですか。

以下のマニュアルを参照して設定を確認してください。

- V10.0L21/10.1～V10.0L10/10.0
“Systemwalker CentricMGR 使用手引書 監視機能編”の“インターネットサーバを監視する”
- V5.0L30/5.2
“SystemWalker/CentricMGR 運用手引書”の“インターネットサーバを監視する”
- V5.0L10/5.0/V5.0L20
“SystemWalker/CentricMGR 運用手引書”の“インターネットサーバ管理の設定”

対処方法

Windows版の場合、以下のマニュアルを参照して設定してください。

- V10.0L21～V10.0L10
“Systemwalker CentricMGR 使用手引書 監視機能編”の“インターネットサーバを監視する”
- V5.0L30
“SystemWalker/CentricMGR 運用手引書”の“インターネットサーバを監視する”
- V5.0L10/V5.0L20
“SystemWalker/CentricMGR 運用手引書”の“インターネットサーバ管理の設定”

Solaris版の場合、監視対象サーバで、以下のようにWWWサーバの設定を行ってください。

各WWWサーバプログラムに対するディレクトリ(エイリアス)の設定方法を以下に示します。

Sun Web Serverの場合

設定ファイル“/etc/http/httpd.conf” (ただし、デフォルトファイル名、インストール場所を変更した場合は、それに従います)の内容を以下のように修正します。

- V10.0L10/10.0以前の場合

```
1) 設定ファイル内の以下のセクションに
----設定セクション-----
server {
}
または
url 仮想サーバURL{
}
-----
以下のレコードを設定します。
----設定レコード-----
cgi_enable "yes"
map /SystemWalker/ /opt/systemwalker/inet/wwwroot/
map /MpScript/ /opt/systemwalker/inet/scripts/ cgi
map /SystemWalker/CentricMGR /opt/FJSVfsjvc/java/classes/
-----
2) cgi_enable“yes”|”no”
レコードが既に存在する場合は書き換えます。
3) その他の mapレコードは新たに挿入します。
```

- V10.0L20/10.1以降の場合

1) 設定ファイル内の以下のセクションに

-----設定セクション-----

```
server {  
}  
または  
url 仮想サーバURL{  
}
```

以下のレコードを設定します。
-----設定レコード-----

```
cgi_enable "yes"  
map /SystemWalker/ /opt/systemwalker/inet/wwwroot/  
map /Systemwalker/ /opt/systemwalker/inet/wwwroot/  
map /MpScript/ /opt/systemwalker/inet/scripts/ cgi  
map /SystemWalker/CentricMGR /opt/FJSVfsjvc/java/classes/  
map /Systemwalker/CentricMGR /opt/FJSVfsjvc/java/classes/
```

2) cgi_enable "yes"|"no"

レコードが既に存在する場合は書き換えます。

3) その他の mapレコードは新たに挿入します。

- url{}は特定の仮想サーバだけに対する設定です。
- Systemwalker Centric Managerを仮想サーバで運用する場合は、運用する仮想サーバの当該セクションに設定します。
- server{}は全サーバに対するデフォルト設定です。
- mapの末尾のcgiキーワードでCGIを認識させています。

Apacheの場合

- Apache1の場合

Apache1に対するディレクトリ(エイリアス)の設定方法を説明します。

設定ファイル"/usr/local/apache/srm.conf"(ただし、デフォルトファイル名、インストール場所を変更した場合は、それに従います)内に、以下のレコードを設定します。

— V10.0L10/10.0以前の場合

```
Alias /SystemWalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"  
Alias /SystemWalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"  
ScriptAlias /MpScript/ "/opt/systemwalker/inet/scripts/"
```

— V10.0L20/10.1以降の場合

```
Alias /SystemWalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"  
Alias /Systemwalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"  
Alias /SystemWalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"  
Alias /Systemwalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"  
ScriptAlias /MpScript/ "/opt/systemwalker/inet/scripts/"
```

- Apache2の場合

Apache2に対するディレクトリ(エイリアス)の設定方法を説明します。

設定ファイル"/usr/local/apache2/conf/httpd.conf"(ただし、デフォルトファイル名、インストール場所を変更した場合は、それに従います)内に、以下のレコードを設定します。

```
Alias /Systemwalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"  
Alias /SystemWalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"
```

```
Alias /Systemwalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"
Alias /SystemWalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"
※“Alias /manual”の最終に追加します
```

```
ScriptAlias /MpScript/ "/opt/systemwalker/inet/scripts/"
※“ScriptAlias”の最終に追加します
```

InfoProvider Proの場合

UNIXのファイルシステムのシンボリックリンク機能を使用して設定します。

設定ファイル“etc/opt/FSUNprovd/HTTPD.conf”（ただし、デフォルトファイル名、インストール場所を変更した場合は、それに従います）内の“acstop”で定義した公開ディレクトリに移動し、以下のコマンドを入力します。

- V10.0L10/10.0以前の場合

```
In -s /opt/systemwalker/inet/scripts MpScript
In -s /opt/systemwalker/inet/wwwroot/ SystemWalker
In -s /opt/FJSVfsjvc/java/classes/ SystemWalker/CentricMGR
```

- V10.0L20/10.1以降の場合

```
In -s /opt/systemwalker/inet/scripts MpScript
In -s /opt/systemwalker/inet/wwwroot/ SystemWalker
In -s /opt/FJSVfsjvc/java/classes/ SystemWalker/CentricMGR
In -s /opt/systemwalker/inet/wwwroot/ Systemwalker
In -s /opt/FJSVfsjvc/java/classes/ Systemwalker/CentricMGR
```

対処2

確認ポイント

ブラウザのプロキシ設定で運用管理サーバのIPアドレスに対してプロキシを使用していませんか。

対処方法

運用管理サーバのIPアドレスに、プロキシサーバを使用しないように設定してください。

14.6 WWW利用状況の表示で、インターネットサーバ管理マネージャと通信できない

エラーメッセージ

```
インターネットサーバ管理マネージャにアクセスできません。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

確認ポイント

運用管理サーバで、インターネットサーバ管理マネージャが停止していませんか。

Windows版の場合

コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスが起動しているか確認します。

```
Systemwalker MpNsMgr
```

Solaris版、Linux版の場合

psコマンドを実行し、“mpismgr”が起動しているか確認します。

対処方法

運用管理サーバで、インターネットサーバ管理マネージャを起動します。

それぞれ以下の方法で起動してください。

Windows版の場合

起動していなければ、以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpNsMgr
```

Solaris版、Linux版の場合

起動していなければ、以下のコマンドを実行し、mpismgrを起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/mpismstart
```

14.7 WWW利用状況の表示で、インターネットサーバ管理エージェントと通信できない

エラーメッセージ

```
指定されたノードのインターネットサーバ管理エージェントから返答がありません。
```

```
インターネットサーバ管理エージェントと通信できません。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1
 - HP-UX版:5.1～10.0
 - AIX版:10.0
 - Linux版:5.2～V10.0L20

確認ポイント

インターネットサーバ管理エージェントが停止していませんか。

Windows版の場合

コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスが起動しているか確認します。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

UNIX版の場合

psコマンドを実行し、“mpisagt”が起動しているか確認します。

対処方法

監視対象サーバで、インターネットサーバ管理エージェントを起動します。それぞれ以下の方法で起動してください。

Windows版の場合

起動していなければ、コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

UNIX版の場合

起動していなければ、以下のコマンドを実行し、mpisagtを起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/mpisastart
```

14.8 「読み込み中-Javaアプレット」が表示されたまま画面表示が停止する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～10.1

確認ポイント

WWWサーバが正しく設定されていますか。

対処方法

Solaris版の場合、監視対象サーバで、以下のようにWWWサーバの設定を行ってください。

各WWWサーバプログラムに対するディレクトリ(エイリアス)の設定方法を以下に示します。

Sun Web Serverの場合

設定ファイル“/etc/http/httpd.conf”(ただし、デフォルトファイル名、インストール場所を変更した場合は、それに従います)の内容を以下のように修正します。

- V10.0L10/10.0以前の場合

```
1) 設定ファイル内の以下のセクションに
----設定セクション-----
server {
}
または
url 仮想サーバURL{
}
-----
以下のレコードを設定します。
----設定レコード-----
cgi_enable "yes"
map /SystemWalker/ /opt/systemwalker/inet/wwwroot/
map /MpScript/ /opt/systemwalker/inet/scripts/ cgi
map /SystemWalker/CentricMGR /opt/FJSVfsjvc/java/classes/
-----
2) cgi_enable "yes"|"no"
レコードが既に存在する場合は書き換えます。
3) その他の mapレコードは新たに挿入します。
```

- V10.0L20/10.1以降の場合

```
1) 設定ファイル内の以下のセクションに
----設定セクション-----
server {
}
```

```
または
url 仮想サーバURL{
}
```

以下のレコードを設定します。

```
-----設定レコード-----
cgi_enable "yes"
map /SystemWalker/ /opt/systemwalker/inet/wwwroot/
map /Systemwalker/ /opt/systemwalker/inet/wwwroot/
map /MpScript/ /opt/systemwalker/inet/scripts/ cgi
map /SystemWalker/CentricMGR /opt/FJSVfsjvc/java/classes/
map /Systemwalker/CentricMGR /opt/FJSVfsjvc/java/classes/
-----
```

- 2) cgi_enable "yes"|"no"
レコードが既に存在する場合は書き換えます。
- 3) その他の mapレコードは新たに挿入します。

- url{}は特定の仮想サーバだけに対する設定です。
- Systemwalker Centric Managerを仮想サーバで運用する場合は、運用する仮想サーバの当該セクションに設定します。
- server{}は全サーバに対するデフォルト設定です。
- mapの末尾のcgiキーワードでCGIを認識させています。

Apacheの場合

- Apache1の場合

Apache1に対するディレクトリ(エイリアス)の設定方法を説明します。

設定ファイル"/usr/local/apache/srm.conf"(ただし、デフォルトファイル名、インストール場所を変更した場合は、それに従います)内に、以下のレコードを設定します。

- V10.0L10/10.0以前の場合

```
Alias /SystemWalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"
Alias /SystemWalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"
ScriptAlias /MpScript/ "/opt/systemwalker/inet/scripts/"
```

- V10.0L20/10.1以降の場合

```
Alias /SystemWalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"
Alias /Systemwalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"
Alias /SystemWalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"
Alias /Systemwalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"
ScriptAlias /MpScript/ "/opt/systemwalker/inet/scripts/"
```

- Apache2の場合

Apache2に対するディレクトリ(エイリアス)の設定方法を説明します。

設定ファイル"/usr/local/apache2/conf/httpd.conf"(ただし、デフォルトファイル名、インストール場所を変更した場合は、それに従います)内に、以下のレコードを設定します。

```
Alias /Systemwalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"
Alias /SystemWalker/CentricMGR/ "/opt/FJSVfsjvc/java/classes/"
Alias /Systemwalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"
Alias /SystemWalker/ "/opt/systemwalker/inet/wwwroot/"
※"Alias /manual"の最終に追加します

ScriptAlias /MpScript/ "/opt/systemwalker/inet/scripts/"
※"ScriptAlias"の最終に追加します
```

InfoProvider Proの場合

UNIXのファイルシステムのシンボリックリンク機能を使用して設定します。

設定ファイル“etc/opt/FSUNprovd/HTTPD.conf”(ただし、デフォルトファイル名、インストール場所を変更した場合は、それに従います)内の“acstop”で定義した公開ディレクトリに移動し、以下のコマンドを入力します。

- V10.0L10/10.0以前の場合

```
ln -s /opt/systemwalker/inet/scripts MpScript
ln -s /opt/systemwalker/inet/wwwroot/ SystemWalker
ln -s /opt/FJSVfsjvc/java/classes/ SystemWalker/CentricMGR
```

- V10.0L20/10.1以降の場合

```
ln -s /opt/systemwalker/inet/scripts MpScript
ln -s /opt/systemwalker/inet/wwwroot/ SystemWalker
ln -s /opt/FJSVfsjvc/java/classes/ SystemWalker/CentricMGR
ln -s /opt/systemwalker/inet/wwwroot/ Systemwalker
ln -s /opt/FJSVfsjvc/java/classes/ Systemwalker/CentricMGR
```

14.9 インターネットサーバ管理エージェントが正しく動作しない

対処1

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21

原因

インターネットサーバ管理のサービスの起動と、IISとのサービス起動の順序により正しく動作しないことが原因です。

対処方法

IIS起動後に、コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、インターネットサーバ管理のサービス(MpNsAgtMain)を起動してください。

対処2

エラーメッセージ

```
MpPmonC: ERROR: 106: 'Systemwalker Centric Manager'のプロセス'mpisagt'が正常に動作しているか確認してください。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

部門管理サーバのインターネットサーバ管理エージェントにおいて、業務サーバからの通信が集中したことが原因で、業務サーバのインターネットサーバ管理エージェントが通信不可で停止する場合があります。

対処方法

インターネットサーバ管理機能を利用していない場合は、対処は不要です。

インターネットサーバ管理機能を利用している場合は、インターネットサーバ管理のデーモンを以下の手順で再起動してください。

1. 部門管理サーバ上でインターネットサーバ管理のエージェントを再起動します。

[Windows版の場合]

Systemwalker MpNsAgtのサービスを再起動します。

[Unix版の場合]

以下のコマンドを実行してください。

```
/opt/FJSVsisag/bin/mpisastop  
/opt/FJSVsisag/bin/mpisastart
```

2. 業務サーバ上でインターネットサーバ管理のエージェントを起動します。

[Windows版の場合]

Systemwalker MpNsAgtのサービスを起動します。

[Unix版の場合]

以下のコマンドを実行してください。

```
/opt/FJSVsisag/bin/mpisastart
```

14.10 インターネットサーバの稼働状況が表示されない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1
 - HP-UX版:5.1～10.0
 - AIX版:10.0
 - Linux版:5.2～V10.0L20

確認ポイント

インターネットサーバの稼働状況の表示は、アプリケーション管理の稼働監視で行ってください。

対処方法

アプリケーション管理の稼働状況の表示方法について説明します。

以下に手順を示します。

1. アプリケーションを自動検出します。
 - a. 自動検出ポリシーの設定
 - b. アプリケーションのグルーピング設定
 - c. アプリケーションの自動検出
2. 自動検出されたアプリケーションに対し、稼働監視の設定を行います。

[稼働監視の設定]ダイアログボックスで、設定してください。

稼働監視の設定方法の詳細については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

14.11 WWW/Firewallセキュリティ監視のイベントがSystemwalkerコンソールに通知されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

対処1

確認ポイント

動作環境の設定で設定したポリシーが正常に配信されていますか。

対処方法

ポリシーが配信されているかを[ポリシーの適用状況]画面で確認します。配信されていない場合は配信をしてください。
[ポリシーの適用状況]画面でエラーになっている場合、インターネットサーバ管理エージェントが停止している可能性があります。その場合は、監視対象サーバでインターネットサーバ管理エージェントを起動し、再度、ポリシー配信をしてください。インターネットサーバ管理エージェントは以下の方法で起動してください。

Windows版の場合

以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

UNIX版の場合

psコマンドを実行し、“mpisagt”が起動しているか確認します。

起動していなければ、以下のコマンドを実行し、mpisagtを起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/mpisastart
```

対処2

確認ポイント

監視対象のWWWサーバが起動されていますか。

対処方法

監視対象サーバで、WWWサーバを起動してください。

対処3

確認ポイント

Netscape Enterprise Server、およびApache以外のWWWサーバを監視対象とする場合、WWWサーバの環境設定で定義されるログファイル形式、およびログ設定は正しいですか。

対処方法

以下に示す内容に設定してください。

InfoProvider Pro V2.0の場合

ログ形式:標準モード

“アクセスログファイル”、または“自動的にログファイルを作成”

Internet Information Server 3.0の場合

ログ形式:NCSA形式

“自動的に新しいログを作成(ファイルサイズ指定のみ)”

Internet Information Server 4.0 /

Internet Information Services 5.0/6.0の場合

Webサイトの識別:IPアドレス(未使用のIPアドレスすべて)

アクティブログ形式:NCSA共通ログファイル形式

NCSAログプロパティ(全般)の新しいログ期間:

“ファイルサイズを限定しない”、または“ファイルサイズが次のバイト数に達したとき”

Sun Web Server 1.0の場合

Sun Web Serverのhttpd.confのlog_typeを、以下のように設定します。

httpd.confは、/etc/http/ディレクトリに格納されています。

```
対象ファイル:/etc/http/httpd.conf
log_type      "clf"
```

Sun Web Server 2.0の場合

Sun Web Serverで監視対象とするsite.confのlog_typeおよびlog_prefixを以下のように設定します。

site.confは、/var/http/sws_server/websites/default_site/conf/ディレクトリに格納されています。

```
対象ファイル:
/var/http/sws_server/websites/default_site/conf/default_site.site.conf
log_type      clf
log_prefix    /var/http/sws_server/logs/http_log
```

対処4

確認ポイント

監視対象のFirewall (Firewall-1、またはSafegate)のトラップ通知先に、運用管理サーバ、または部門管理サーバのIPアドレスを設定していますか。

対処方法

トラップ通知先には、運用管理サーバ、または部門管理サーバのIPアドレスを設定してください。

- ・ クラスタ運用している運用管理サーバの場合

Firewallのセキュリティ監視機能を使用する場合、Firewall側で設定するトラップ通知先は、論理IPアドレス(Systemwalker Centric Manager用グループのIPアドレス)を指定してください。

- ・ クラスタ運用している部門管理サーバの場合 (V5.0L10/V5.0L20)

Firewallのセキュリティ監視機能を使用する場合、Firewall側で設定するトラップ通知先は、Firewallセキュリティ監視のポリシーを配付したノード(プライマリノードまたはセカンダリノード)を指定してください。

- ・ クラスタ運用している部門管理サーバの場合

Firewallのセキュリティ監視機能を使用する場合、Firewall側で設定するトラップ通知先は、論理IPアドレス(Systemwalker Centric Manager用グループのIPアドレス)を指定してください。

対処5

確認ポイント

アプリケーションログがいっぱいになっていませんか。

原因

アプリケーションログがいっぱいの状態で、WWW/Firewallセキュリティ監視を行っても、イベントはSystemwalkerコンソールに通知されません。

対処方法

イベントビューアからアプリケーションログがいっぱいになっていないかを確認し、いっぱいであれば最大ログサイズの見直しやイベントの上書き設定を見直してください。

14.12 部門管理サーバがクラスタの場合、Firewallセキュリティ監視ができない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21

確認ポイント

Firewall製品のトラップ通知先と、配付されたポリシーの配付先が異なっていませんか。

対処方法

- ・ クラスタ運用している部門管理サーバの場合 (V5.0L10/V5.0L20)
Firewallのセキュリティ監視機能を使用する場合、Firewall側で設定するトラップ通知先は、Firewallセキュリティ監視のポリシーを配付したノード(プライマリノード、またはセカンダリノード)を指定してください。
- ・ クラスタ運用している部門管理サーバの場合
Firewallのセキュリティ監視機能を使用する場合、Firewall側で設定するトラップ通知先は、論理IPアドレス (Systemwalker Centric Manager用グループのIPアドレス)を指定してください。

14.13 WWWセキュリティ監視の設定ができない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

対処1

確認ポイント

運用管理サーバの製品エディションがSE版ではありませんか。

原因

運用管理サーバがSE版では、WWWセキュリティ監視はできません。

対処方法

運用管理サーバには、Systemwalker Centric Manager EE/GEEをインストールしてください。

対処2

確認ポイント

監視対象サーバに、Systemwalker Centric Managerがインストールされていますか。

対処方法

監視対象サーバに、Systemwalker Centric Managerをインストールしてください。

対処3

確認ポイント

運用管理サーバ上で、インターネットサーバ管理マネージャが起動されていますか。

対処方法

運用管理サーバで、インターネットサーバ管理マネージャを起動します。それぞれ以下の方法で起動してください。

Windows版の場合

以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpNsMgr
```

UNIX版の場合

psコマンドを実行し、“mpismgr”が起動しているか確認します。

起動していなければ、以下のコマンドを実行し、mpismgrを起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/mpismstart
```

対処4

確認ポイント

監視対象サーバ上でインターネットサーバ管理エージェントが起動されていますか。

対処方法

監視対象サーバで、インターネットサーバ管理エージェントを起動します。それぞれ以下の方法で起動してください。

Windows版の場合

以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

Solaris版の場合

psコマンドを実行し、“mpisagt”が起動しているか確認します。

起動していなければ、以下のコマンドを実行し、mpisagtを起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/mpisastart
```

対処5

確認ポイント

ポリシー設定対象ノードのOSがWindowsであり、かつ、複数のIPアドレスが割り振られていませんか。

この場合は、以下の手順により、ネットワークサービスがアクセスする順にネットワーク接続が一覧表示されますので、構成管理DBに存在するIPアドレスが設定されているネットワーク接続が、1番目に表示されていることを確認してください。

- Windows2000およびWindows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEでの手順

1. ネットワークの設定画面を表示します。
 - Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE:
「コントロールパネル」より、「ネットワーク接続」を選択します。
 - Windows2000:
「コントロールパネル」より、「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択します。
2. メニューより、「詳細設定」-「詳細設定」を選択し、「詳細設定」ダイアログを表示します。
3. 「詳細設定」ダイアログで「アダプタとバインド」タブを選択します。
4. 「接続(C)」に表示されるネットワーク接続の並び順を確認してください。

- WindowsNTでの手順

1. 「コントロールパネル」より、「ネットワーク」を選択します。
2. 「ネットワーク」ダイアログで「バインド」タブを選択します。
3. 「バンドの表示(S)」に表示されるネットワーク接続の並び順を確認してください。

詳細な操作手順はWindows付属のオンラインヘルプを参照してください。

原因

ポリシー設定を行うノードでインターネットサーバ管理の機能が使用可能であることを運用管理サーバが認識できないため、ポリシー設定画面を表示できない場合があります。

これは、対象ノードのネットワーク設定で、ネットワークサービス(Windowsサービス)が最初に使用するIPアドレスが、運用管理サーバの構成管理DBに存在しないためです。

対処方法

ポリシー設定対象ノードのネットワーク設定を見直し、構成管理DBに存在するIPアドレスが設定されているネットワーク接続が、ネットワークサービスにより最初にアクセスされるように順番を変更してください。

備考)

以下のすべての条件に合致する場合は、運用管理サーバからポリシー設定対象ノードに対してICMPパケットを送信し続け、ネットワーク負荷を増大するという障害が発生します。

- 運用管理サーバ(※1)がV5.2以降のSolaris版もしくはLinux版である。
- ポリシー設定対象ノードのOS種別がWindowsである。
- ポリシー設定対象ノードのネットワークサービスが最初に使用するIPアドレス(※2)が(※1)の運用管理サーバの構成管理DBに存在しない。
- 運用管理サーバから(※2)のIPアドレスに対してpingを行うとDestination Unreachableとなる。

この場合は、運用管理サーバに以下の緊急修正を適用してください。

- Solaris版の場合
 - V5.2 :T002VS-01以降、T002QS-04以降
 - V10.0:T002WS-01以降、T002RS-03以降

- V10.1:T002XS-02以降、T002SS-01以降
- V11.0:T009QS-01以降、T009RS-01以降
- V12.0:T0168S-01以降、T0167S-01以降
- Linux版の場合
 - V11.0:T00689-01以降、T00688-01以降
 - V12.0:T00686-01以降、T00687-01以降

14.14 WWW/Firewallセキュリティ監視のポリシー配付でエラーになる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

確認ポイント

監視対象ノード上でインターネットサーバ管理エージェントが起動されていますか。

対処方法

監視対象ノードで、インターネットサーバ管理エージェントを起動します。それぞれ以下の方法で起動してください。

Windows版の場合

以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpNsAgt
```

UNIX版の場合

psコマンドを実行し、“mpisagt”が起動しているか確認します。

起動していなければ、以下のコマンドを実行し、mpisagtを起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/mpisastart
```

14.15 インターネットサーバ監視のトラブルが解決しない場合の調査資料の採取方法

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L10
 - Solaris版:5.0～10.0
 - HP-UX版:5.1～10.0
 - AIX版:10.0
 - Linux版:5.2～V10.0L10

※V10.0L20以降/10.1以降の場合は、“[調査資料の採取方法](#)”を参照し、調査資料を採取してください。

採取情報・採取方法

上記の原因に該当しない場合や、対処方法で問題が解決しない場合は、以下の資料を採取してください。

[Solaris版、Linux版]の場合

- ・ インターネットサーバ管理マネージャ

```
/var/opt/FJSVsisimg/varディレクトリ配下すべて  
/etc/opt/FJSVsisimg/etcディレクトリ配下すべて
```

- ・ インターネットサーバ管理エージェント

```
/var/opt/FJSVsisag/varディレクトリ配下すべて  
/etc/opt/FJSVsisag/etcディレクトリ配下すべて
```

[Windows版]の場合

- ・ インターネットサーバ管理マネージャ

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNsMgt¥varディレクトリ配下すべて  
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNsMgt¥etcディレクトリ配下すべて
```

- ・ インターネットサーバ管理エージェント

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNsAgt¥varディレクトリ配下すべて  
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNsAgt¥etcディレクトリ配下すべて
```

[AIX版、HP-UX版]の場合

- ・ インターネットサーバ管理エージェント

```
/var/opt/FJSVsisag/varディレクトリ配下すべて  
/etc/opt/FJSVsisag/etcディレクトリ配下すべて
```

14.16 WWWサーバがHTTPSプロトコルで動作している場合、インターネットサーバ管理の監視が行えない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

監視の前処理として、HTTPプロトコルを使用し、監視対象のWWWサーバが稼働しているかの確認を行っていますが、この際に、HTTPSプロトコルで動作するWWWサーバを認識することができないため、監視を行うことができません。

対処方法

監視対象のWWWサーバで、HTTPSプロトコルのほかに、HTTPプロトコルを動作させ、そのHTTPプロトコルを用いてWWWサーバの稼働状態の確認が行えるように設定することにより、インターネットサーバ管理の監視を行うことができます。

設定を行うには、監視対象サーバの環境設定ファイルに、
“HTTPPORT=”にHTTPプロトコルで使用するポート番号
“CONFFILE=”にHTTPSプロトコルで使用する設定ファイル
と指定してください。

- ・ 環境設定ファイル
 - － UNIX版の場合

```
/etc/opt/FJSVsisag/etc/mpagtprvpo
```

- － Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpnsagt¥etc¥mpagtprvpo
```

[設定例]

HTTPプロトコルで使用するポートが80で、HTTPSプロトコルで使用する設定ファイルが/usr/local/apache2/conf/ssl.confの場合、環境設定ファイルを

```
[ISMPRV]
HTTPPORT=80
CONFFILE=/usr/local/apache2/conf/ssl.conf
```

と指定してください。

14.17 監視設定をしていないのに、「WWWサービスが停止しました」というイベントが通知される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10～V5.0L20
 - － Solaris版:5.0～5.1

原因

業務サーバでは、デフォルトの設定の場合、稼働監視機能が動作するために発生します。

対処方法

以下の手順で、稼働監視機能を無効にしてください。

1. 環境設定ファイルの[ISMPRV]セクションに、“AplDetect=0”を追加します。

- － [Windows版]の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpnsagt¥etc¥mpagtprvpo
```

- － [UNIX版]の場合

```
/etc/opt/FJSVsisag/etc/mpagtprvpo
```

例)

修正前

```
[ISMPRV]
HTTPPORT=80
```

```
HTTTPING=60
TRACEMAX=40960
```

修正後

```
[ISMPRV]
HTTPPORT=80
AplDetect=0
HTTTPING=60
TRACEMAX=40960
```

2. インターネットサーバ管理エージェントを再起動します。

— [Windows版]の場合

以下のサービスを再起動します

```
Systemwalker MpNsAgt
```

— [UNIX版]の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/systemwalker/bin/mpisastop
# /opt/systemwalker/bin/mpisastart
```

14.18 インターネットサーバ管理の停止に失敗する

エラーメッセージ

- インターネットサーバ管理マネージャ停止コマンド(mpismstop)を実行した場合

```
(E)MpIsMgr:IS management stop command already running.
```

- インターネットサーバ管理エージェント停止コマンド(mpisastop)を実行した場合

```
(E)MpIsAgt:IS management stop command already running.
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

インターネットサーバ管理の停止コマンドを実行した際にエラーメッセージが表示されていますか。

原因

インターネットサーバ管理マネージャ停止コマンド、およびインターネットサーバ管理エージェント停止コマンドの処理を中断した後に、停止コマンドを再度実行すると本現象が発生します。

これは、停止コマンドを中断したことで、本来、停止コマンド終了時に削除する作業ファイルが消えずに残るためです。この作業ファイルが残った状態で、停止コマンドが実行されると、停止コマンドはすでに停止動作中であると判断し、停止処理を行うことなく処理を終了します。

対処方法

以下の作業ファイルを削除後、再度、停止コマンドを実行してください。

- ・ インターネットサーバ管理マネージャの場合

```
/tmp/.mpismstplock
```

- ・ インターネットサーバ管理エージェントの場合

```
/tmp/.mpisstplock
```

作業ファイルを削除しても問題ありません。

第15章 ポリシー配付に関するトラブルシューティング

15.1 「いくつかのポリシー配付に失敗しました」と表示される

ポリシーの配付を行ったが、ポリシーの配付に失敗している。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

「実行エラー」が発生しています。

対処方法

“[ポリシー配付に失敗し、\[ポリシー配付状況\]ウィンドウの配付結果に「実行エラー」と表示される](#)”を参照してください。

対処2

原因

「適用エラー」が発生しています。

対処方法

“[ポリシー配付に失敗し、\[ポリシー配付状況\]ウィンドウの配付結果に「適用エラー」と表示される](#)”を参照してください。

対処3

原因

「接続エラー」が発生しています。

対処方法

“[ポリシー配付に失敗し、\[ポリシー配付状況\]ウィンドウの配付結果に「接続エラー」と表示される](#)”を参照してください。

対処4

原因

「アクセスエラー」が発生しています。

対処方法

“ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「アクセスエラー」と表示される”を参照してください。

対処5

原因

「依存ポリシーエラー」が発生しています。

対処方法

“ネットワーク管理のポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「依存ポリシーエラー」と表示される”を参照してください。

対処6

原因

「送信エラー」が発生しています。

対処方法

“ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「送信エラー」と表示される”を参照してください。

15.2 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「実行エラー」と表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

配付先マシンでメモリ不足が発生していませんか。

対処方法

配付先マシンで不要なサービス/デーモンを停止するか、swap、実メモリを増加してください。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバでメモリ不足が発生していませんか。

対処方法

運用管理サーバで不要なサービス/デーモンを停止するか、swap、実メモリを増加してください。

対処3

現象

ポリシーの配付に時間がかかり、その配付以降、ポリシーの配付に必ず失敗する。(対象バージョンレベル:UNIX版)

確認ポイント

ディレクトリに一時ファイルが存在していませんか。

以下のコマンドを実行し、ディレクトリに一時ファイルが存在しないか確認してください。

```
# ls -l /opt/FJSVfwtrs/mppol/pipe/*App*
```

原因

ポリシーの配付時に作成した一時ファイルが残ってしまったためにポリシーの配付に失敗しています。

対処方法

ポリシーの配付を行っていない状態で、一時ファイルを削除してください。

```
# rm -rf /opt/FJSVfwtrs/mppol/pipe/*App*
```

15.3 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「適用エラー」と表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

配付先マシン上でメモリ不足が発生していませんか。

原因

配付先マシン上で、メモリ不足により適用コマンドが失敗した可能性があります。

対処方法

メモリ不足の場合は、不要なサービス、プロセスを停止したあとでポリシー配付を行ってください。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバでメモリ不足が発生していませんか。

原因

運用管理サーバで、メモリ不足により適用コマンドが失敗した可能性があります。

対処方法

メモリ不足の場合は、不要なサービス、プロセスを停止したあとでポリシー配付を行ってください。

対処3

確認ポイント

[ポリシー配付状況]ウィンドウの[配付失敗]に、以下の情報がありますか。

- ・ 配付失敗: MpCNAppI
- ・ 適用コマンド結果: 失敗 (0x3e5)

原因

運用管理サーバで、メモリ不足により適用コマンドが失敗した可能性があります。

対処方法

メモリ不足の場合は、不要なサービス、プロセスを停止したあとでポリシー配付を行ってください。

対処4

確認ポイント

ポリシー配付を行った監視機能でエラーが発生していませんか。

ポリシー配付状況で配付失敗となっている監視機能を確認します。

対処方法

ポリシー配付状況で配付が失敗となっている監視機能を確認し、技術員へお問い合わせください。

対処5

確認ポイント

[ポリシー配付状況]ウィンドウの[配付失敗]に、以下の情報がありますか。

- ・ 配付失敗: ノード構成情報
- ・ 適用コマンド結果: 失敗 (0x24)

原因

以下の原因が考えられます。

- ・ バックアップした資源のリストア後に、ノード構成情報の一括配付を行っていない(Windows版V10.0L20以降は除く)。
- ・ 部門管理サーバにてmpdrpclrコマンドを実行した。
- ・ 部門フォルダを削除せずに部門管理サーバの再インストールやアンインストールを行った。

対処方法

運用管理サーバにて以下のコマンドを実行し、構成情報、および、ネットワーク管理のポリシーを再度配付してください。

1. 構成情報配付コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

[Windows版の場合]

— V10.0L21以前の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

— V11.0L10以降の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

2. ネットワーク管理ポリシー反映コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpnmpref
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpnmpref.bat
```

15.4 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「接続エラー」と表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

接続先コンピュータは起動されていますか。

対処方法

コンピュータが起動されていない場合は、起動してください。

対処2

確認ポイント

ポリシー受信サービス・デーモンは起動されていますか。

部門管理サーバ、または業務サーバ上で、ポリシー受信サービス/デーモンの起動状態を以下の方法で確認してください。

[Windows版の場合]

コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスが起動状態であるか確認します。

```
Systemwalker MpPolRecv
```

[UNIX版の場合]

ポリシー基盤のデーモンが停止しているかどうかを確認します。

1. root権限で以下コマンドを実行し、デーモンの起動状況を表示します。

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolCheck
```

2. 実行結果を確認します。

出力メッセージに"/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv is running..."が含まれていれば、ポリシー基盤のデーモンが起動されています。

以下のように実行結果が表示されます。

- 10.1以前の場合

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv is running...  
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv3 is running...
```

- 11.0以降の場合(Linux版V10.0L20、Solaris版Event Agent 10.1含む)

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv is running...  
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv3 is not running...
```

/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv3は起動されなくなります。

対処方法

ポリシー配付先(部門管理サーバ、または業務サーバ)でポリシー受信サービス/デーモンが起動されていない場合は、起動してください。ポリシー受信サービス/デーモンの起動方法を以下に示します。

[Windows版の場合]

コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpPolRecv
```

[Solaris版の場合]

root権限で以下のシェルを起動してください。

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolStart
```

対処3

確認ポイント

ネットワークの設定は正しいですか。

対処方法

接続先コンピュータに、“ping”を実行し、応答がない場合は、ネットワークの設定を見直してください。また、“ping”の応答がある場合でも、0byteのICMPパケットを送信して応答があるか確認してください。応答がない場合はポリシー配付に失敗しますので、配付先サーバで0byteのICMPパケットを受信できるように設定を見直してください。

備考

0byteのICMPパケットを送信する場合、以下のように実行してください。

- Windowsの場合

```
#ping -l 0 ホスト名
```

- Solarisの場合

```
>ping -s ホスト名 0
```

- Linuxの場合

```
>ping -s 0 ホスト名
```

対処4

確認ポイント

部門フォルダ配下のノードへのポリシー配付において、中継先の部門管理サーバが停止していませんか。あるいは、部門管理サーバから配付対象のノードへの通信ができない環境ではありませんか。

部門フォルダ配下のノードへのポリシー配付は、部門管理サーバを中継して行われます。このため、中継先の部門管理サーバが停止していた場合、または部門管理サーバから配付対象のノードへの通信ができない場合、ポリシー配付に失敗します。

対処方法

ポリシー配付対象のノードが所属する部門フォルダのプロパティを選択しサブメニューに部門管理サーバとして指定されているノードが停止していないか対処1、対処2、対処3の処置を行い確認してください。また、部門管理サーバから配付対象のノードに、“ping”を実行し、応答がない場合は、ネットワーク設定を見直してください。

対処5

確認ポイント

ポリシー配付先のノードが削除されていませんか。

原因

存在しないノードに対して、ポリシー配付を行うことができません。

対処方法

[ポリシー配付状況]画面から、存在しないノードへのポリシーを削除してください。

対処6

確認ポイント

配付先サーバの5968番ポートにアクセスできるか確認してください。

この確認を行うには、運用管理サーバから以下のコマンドを実行して、応答があるかどうかを見てください。

```
telnet 配付先サーバホスト名 5968
```

接続が確立できないというエラーになる場合は、ポリシー基盤の待受ポート(5968番)へのアクセスができません。

原因

ポリシー基盤の待受ポートにアクセスできないため、ポリシー配付に失敗しています。

対処方法

ファイアウォールの設定などを見直して、ポリシー基盤の待受ポートにアクセスできるようにしてください。

15.5 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「アクセスエラー」と表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

以下のコマンドを実行し、運用管理サーバのディスク容量を確認してください。

```
df -k
```

ディスクがfullの場合、各コンポのポリシー設定ファイルの生成に失敗します。ディスクの空き容量を増やしてください。

対処2

確認ポイント

ポリシーの配付元のパスと配付先のパスが正しいですか。

原因

ポリシーの配付先に指定されたフォルダやファイルが存在しない場合に発生します。

対処方法

ポリシーの配付先のフォルダのみが存在しない場合は、フォルダを再作成してください。

ポリシーの配付先のフォルダよりさらに上位フォルダが存在しない場合は、Systemwalker Centric Managerの再インストールを行ってください。

対処3

確認ポイント

ポリシーの配付先が正しい配付先ですか。

原因

ポリシーの配付先のサーバの通知先が配付元と異なる場合に発生します。

対処方法

ポリシーの配付先が正しい配付先になるように、ポリシーの配付元のシステムの設定を変更してください。

対処4

確認ポイント

ポリシーの配付元のパスと配付先のパスが正しいですか。

原因

ポリシーの配付先のサーバのSystemwalker Centric Managerがアンインストールされた場合に発生します。

対処方法

ポリシーの配付対象からはずすか、ポリシーの配付先にSystemwalker Centric Managerを再インストールしてください。

対処5

確認ポイント

セキュリティツールの設定は正しいですか。

ポリシーの配付先のパスの権限は正しいですか。

原因

ポリシーの配付先のフォルダへアクセスする権限がない(セキュリティツール等などによって制限がされている)場合に発生します。

対処方法

ポリシーの配付先ディレクトリの権限を正しく設定してください。

対処6

確認ポイント

ポリシーの配付を行うシステムに該当の機能がインストールされていますか。

原因

ポリシーの配付先のシステムに、配付する機能をインストールしていない(例 アプリケーション管理)場合に発生します。

対処方法

ポリシーの配付対象からはずすか、ポリシーの配付先にSystemwalker Centric Managerを再インストールしてください。

対処7

確認ポイント

エクスプローラ等でポリシーの配付先のフォルダをクリックしていませんか。

原因

Windows(R)上で特定のフォルダをエクスプローラ等でクリックしている(フォルダが削除できない)場合に発生します。

対処方法

エクスプローラ等でクリックしているフォルダをほかのフォルダに変更してください。

対処8

確認ポイント

クラスタ環境を使用している場合、共有ディスクに対してアクセス可能ですか。

原因

クラスタ環境を使用している場合に共有ディスクにアクセスできない場合に発生します。

対処方法

共有ディスクをアクセス可能にしてください。

対処9

確認ポイント

ポリシーの配付元または配付先のディレクトリ配下に、ファイルまたはディレクトリを作成していませんか。

各機能配下のディレクトリに対して、ファイルやフォルダの作成および削除を行わないでください。動作保証はできません。

原因

ポリシーの配付元または配付先のディレクトリ配下に、手動で作成したファイルまたはディレクトリが存在している場合に発生します。

対処方法

ポリシーの配付元または配付先のディレクトリ配下に作成したファイルまたはディレクトリを削除してください。

15.6 ネットワーク管理のポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「依存ポリシーエラー」と表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

構成情報(部門リポジトリ)に不整合が発生しています。不整合の発生には、以下の原因が考えられます。

- バックアップ・リストア後に構成情報の一括配付を行っていない場合
- 運用管理サーバを移行後に構成情報の一括配付を行っていない場合
- 部門管理サーバ上で、mpdrpclr(構成情報削除コマンド)を実行後に部門フォルダの部門管理サーバの設定を解除していない場合

対処方法

運用管理サーバで以下のコマンドを実行し、構成情報を一括配付します。

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

[Windows版の場合]

- V10.0L21以前の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

- V11.0L10以降の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

15.7 ポリシー配付に失敗し、[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付結果に「送信エラー」と表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

ポリシー受信サービス・デーモンは起動されていますか。

部門管理サーバ、または業務サーバ上で、ポリシー受信サービス/デーモンの起動状態を以下の方法で確認してください。

[Windows版の場合]

コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスが起動状態であるか確認します。

```
Systemwalker MpPolRecv
```

[UNIX版の場合]

ポリシー基盤のデーモンが停止しているかどうかを確認します。

1. root権限で以下コマンドを実行し、デーモンの起動状況を表示します。

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolCheck
```

2. 実行結果を確認します。

出力メッセージに"/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv is running..."が含まれていれば、ポリシー基盤のデーモンが起動されています。

以下のように実行結果が表示されます。

- 10.1以前の場合

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv is running...  
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv3 is running...
```

- ー 11.0以降の場合(Linux版V10.0L20、Solaris版Event Agent 10.1含む)

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv is running...  
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv3 is not running...
```

※/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv3は起動されなくなります。

原因

ポリシーの送信先のノードのSystemwalker Centric Manager、またはポリシー基盤が起動していないために発生します。

対処方法

ポリシー配付先(部門管理サーバ、または業務サーバ)でポリシー受信サービス/デーモンが起動されていない場合は、起動してください。ポリシー受信サービス/デーモンの起動方法を以下に示します。

[Windows版の場合]

コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpPolRecv
```

[Solaris版の場合]

root権限で以下のシェルを起動してください。

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolStart
```

対処2

確認ポイント

ポリシーの配付先ノード上でpingコマンドを自分自身のIPアドレスとホスト名、localhostに対して実行し、問題が発生しませんか。

原因

ポリシーの配付先ノードで自分自身のIPアドレスが解決できないために発生します。

対処方法

ポリシーの配付先のIPアドレス、またはホスト名をシステム全体で一意に統一し、解決できるようにしてください。また、localhostに対してもpingが通るように設定してください。

対処3

確認ポイント

全体監視サーバに対してサーバ性能ポリシーの配付を実行していませんか。

原因

全体監視サーバに対してサーバ性能ポリシーを配付することはできません。

対処方法

全体監視サーバに対するサーバ性能ポリシーを削除してください。

対処4

確認ポイント

5969/tcpのポートをフィルタリングしていませんか。

原因

ポリシー配付を行う際に、配付先サーバと通信を行うため、5968/tcpおよびICMPを使用します。

対処方法

ファイアウォールの設定で、上記ポートのフィルタリングを行っている場合は解除してください。

対処5

確認ポイント

ポリシー配付先のサーバのホスト名がシステム内で一致していますか。

対処方法

ポリシー配付先サーバのホスト名の定義をシステムで一意に設定してください。hostsファイルに自マシン名を設定している場合は、システムに設定しているホスト名の設定のどちらかに一致させてください。

15.8 運用管理クライアントで[ポリシー配付]ダイアログボックス、[ポリシー配付状況]ウィンドウが表示できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

運用管理サーバが複数のIPアドレスを持っていませんか。

対処方法

代表IPアドレスを、運用管理クライアントから接続できるように、変更してください。

1. [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)-[編集]を起動します。
2. 該当の運用管理サーバを選択します。
3. [オブジェクト]メニューから[プロパティ]を選択します。
→[ノードプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [インタフェース]タブを選択し、代表インタフェースを監視対象としたいIPアドレスのインタフェースに変更してください。

15.9 運用管理サーバがクラスタの場合、運用系から待機系へポリシー配付ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

運用系から待機系へ配付はできません。

対処方法

運用管理サーバは、運用系に配付してください。

待機系にポリシー設定・配付を行う場合

以下の手順でポリシーを設定してください。

- アプリケーション管理/サーバ性能監視のポリシー定義
 1. 運用系でポリシーを作成します。
 2. 運用系のポリシーを配付します。
 3. フェールオーバーします。
 4. 切り替わった運用系でポリシーを作成します。
 5. 切り替わった運用系でポリシーを配付します。
 6. フェールバックし、元の状態に戻します。
- アプリケーション管理/サーバ性能監視以外のポリシー定義
運用系からポリシーを作成し、配付してください。

運用系で、待機系のポリシー設定を行った場合

[ポリシー配付状況]ウィンドウで、待機系へのポリシーを削除してください。

運用系で、待機系へのポリシー配付を行った場合

運用系のポリシーを再度、設定・配付してください。

以下の手順でポリシーを設定してください。

- アプリケーション管理/サーバ性能監視のポリシー定義
 1. 運用系でポリシーを作成します。
 2. 運用系のポリシーを配付します。
 3. フェールオーバーします。
 4. 切り替わった運用系でポリシーを作成します。
 5. 切り替わった運用系でポリシーを配付します。
 6. フェールバックし、元の状態に戻します。
 7. 配付登録されたポリシーを配付したあと、運用系のポリシーを再配付してください。
- アプリケーション管理/サーバ性能監視以外のポリシー定義
運用系からポリシーを作成し、配付してください。

15.10 運用管理サーバが二重化されている場合、主系サーバから従系サーバへポリシー配付ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

- Linux版:V11.0L10以降

原因

主系サーバから従系サーバへポリシー配付はできません。

対処方法

主系サーバで設定し、ポリシー配付を行ってください。

1. 主系サーバで、構成情報、およびポリシー情報を退避します。
2. 従系サーバに、主系サーバの構成情報、およびポリシー情報を反映(復元)します。
3. 従系サーバでポリシーを作成した場合は、[ポリシー配付状況]ウィンドウから、従系サーバのポリシーを削除してください。

15.11 運用管理クライアントで[ポリシー配付]ダイアログボックス、[ポリシー配付状況]ウィンドウの起動で、エラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

サーバとの通信でエラーが発生しました。SEND_ERROR NO_DETAIL

サーバとの通信でエラーが発生しました。PIPE_ERROR NO_DETAIL

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

以下の原因が考えられます。

- 運用管理サーバとの間で、TCPレベルの通信エラーが発生しています。
- 運用管理サーバとの回線が切断されています。
- 運用管理サーバのメモリが不足しています。

対処方法

運用管理クライアントー運用管理サーバ間のネットワークの設定を見直してください。または、swap、および実メモリを増加してください。

15.12 [ポリシー配付状況]ウィンドウで「配付待ち」にあるポリシーの送信日時や適用コマンド結果に値が入っている

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降

- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ポリシー配付後、再度同じポリシー（配付先、ポリシー名が同じ）の設定を行った場合、前回の結果を残すために、値が入ったままになります。

対処方法

対処は必要ありません。

15.13 ポリシー配付が準備中のまま、配付が完了しない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ポリシー配付を開始時に実行した構成管理のコマンドが完了していません。

対処方法

それぞれ以下の手順で対処してください。

[Windows版の場合]

1. 運用管理サーバのタスクマネージャで、以下のプロセスを検索し、終了させてください。

```
mpdrpspm.exe
```

2. mpdrpspm.exeのプロセス停止後、ポリシー配付を行ってください。

[Solaris版、Linux版の場合]

終了しない準備コマンドをkillコマンドで終了し、ポリシー配付を行ってください。

kill対象の準備コマンド名:mpdrpspm

【例】

```
ps -e | grep mpdrpspm  
kill -KILL プロセス番号
```

15.14 業務サーバ/部門管理サーバでエラーメッセージが表示され、起動に失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降

対処1

エラーメッセージ

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv start...ld.so.1:
/home/support/sw/opt/FJSVfsjvc/jre/bin/sparc/native_threads/jre:
重大なエラー: libX11.so.4: open に失敗しました: ファイルもディレクトリもありません。16720 強制終了

/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv start.../opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/allownative[45]: 11905 強制終了
ld.so.1: /opt/FJSVfsjvc/jre/1.2.2/bin/sparc/native_threads/java:
重大なエラー: libX11.so.4: open に失敗しました: ファイルもディレクトリもありません。11873 強制終了
Done
```

確認ポイント

X Windowライブラリ(SUNWxwplt)は、インストールされていますか。

対処方法

X Windowライブラリ(SUNWxwplt)をインストールしてください。

対処2

エラーメッセージ

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv start...Error: failed /opt/FJSVfsjvc/jre/1.4.1/lib/sparc/client/
libjvm.so, because ld.so.1: /opt/FJSVfsjvc/jre/1.4.1/bin/java: 重大なエラー: 再配置エラー: ファイル /opt/
FJSVfsjvc/jre/1.4.1/lib/sparc/client/libjvm.so: シンボル __1cG__Cr
unSregister_exit_code6FpG_v_v_: 参照シンボルが見つかりません。
Done
```

確認ポイント

最新のOSパッチは、インストールされていますか。

対処方法

最新のOSパッチをインストールしてください。

15.15 ポリシー配付に失敗し、syslogにエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
Fail to exec sending command. Cmd=/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolSend -d DN***** -s 1 -xc
-c mpdrpspm, errno=12
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

配付先マシンでメモリ不足が起きていませんか。

対処方法

配付先マシンで不要なデーモンを停止するか、swap、および実メモリを増加してください。

15.16 ポリシー配付要求直後に配付中の画面に、「配付中のポリシーはありません」と表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

運用管理サーバで、配付処理状態を表示しますが、配付要求直後では処理のタイミングにより、このメッセージが表示される場合があります。

対処方法

対処は必要ありません。

15.17 ポリシー配付中の画面が表示されたまま配付が終わらない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

運用管理サーバの負荷が高くありませんか。

対処方法

運用管理サーバの負荷を軽減するために、パラメタファイルを編集し、Javaで使用するバッファサイズを小さくします。

1. 以下のファイルを編集します。

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/mppolsend.properties
```

2. 以下のように“BufferSize=”を修正します。

[修正前]

```
BufferSize=524288
```

[修正後]

```
BufferSize=102400
```

対処2

原因

ポリシー配付先で、ポリシー受信サービス/デーモンが起動されていません。

[Windows版の場合]

コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスが起動状態であるかどうか確認します。

```
Systemwalker MpPolRecv
```

[UNIX版の場合]

ポリシー基盤のデーモンが停止しているかどうかを確認します。

1. root権限で以下コマンドを実行し、デーモンの起動状況を表示します。

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolCheck
```

2. 実行結果を確認します。

出力メッセージに"/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv is running..."が含まれていれば、ポリシー基盤のデーモンが起動されています。

以下のように実行結果が表示されます。

- 10.1以前の場合

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv is running...  
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv3 is running...
```

- 11.0以降の場合(Linux版V10.0L20、Solaris版EventAgent 10.1含む)

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv is running...
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv3 is not running...
```

/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolRecv3は起動されなくなります。

対処方法

ポリシー配付先(部門管理サーバ、または業務サーバ)で、ポリシー受信サービス/デーモンが起動されていない場合は、起動してください。
ポリシー受信サービス/デーモンの起動方法を以下に示します。

[Windows版の場合]

コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、以下のサービスを起動してください。

```
Systemwalker MpPolRecv
```

[Solaris版の場合]

root権限で以下のシェルを起動してください。

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolStart
```

対処3

確認ポイント

[ポリシー配付状況]ウィンドウの配付先のホスト名は正しいですか。

原因

ポリシー配付先が正しくありません。ポリシー配付する時点で、対象ノードのSystemwalker Centric Managerがアンインストールされた状態である場合に発生します。

対処方法

監視マップの構成を見直し、再度ポリシー配付を行ってください。

15.18 ポリシー配付を実行してください。または、Please execute policy distribution.というメッセージが出力された

エラーメッセージ

```
XXXXXXXX:警告:149:構成情報に存在しないポリシーがあります。ポリシー配付を実行してください。
[:XXXXXXXX]
```

または

```
XXXXXXXX:WARNING: 149: Policy of invalid configuration information existed. Please execute
policy distribution. [:XXXXXXXX]
```

XXXXXXXXには、MpNmdisc、MpNmhost、MpNmnodeなどが入ります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

- Linux版:V11.0L10以降

原因

構成情報に不整合が発生している場合にエラーが通知されます。

原因として以下の項目があります。

- ノードやフォルダの削除、移動を行ったあとに、ポリシー配付を実施していない場合
- リストアするときに、部門管理サーバだけ古いバックアップデータを使用した場合
- 部門フォルダ(サブドメインフォルダ)を削除したとき、mpdrpclr(構成情報削除コマンド)を実行しないで使用し、再度部門管理サーバとして部門フォルダを作成した場合

対処方法

以下のコマンドを実行し、構成情報、およびネットワーク管理のポリシーを再度配付してください。

1. 構成情報配付コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

[Windows版の場合]

- V10.0L21以前の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

- V11.0L10以降の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

2. ネットワーク管理ポリシー反映コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpnmpref
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpnmpref.bat
```

15.19 ポリシー配付に成功したが、ポリシーが反映されない

対処1

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V11.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

- Solaris版:10.1以降
- Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ポリシー配付時に[配付先でサービスを再起動した時に適用する]を選択してポリシー配付を行っていませんか。

対処方法

ポリシー配付時に[すぐに適用する]を選択してポリシー配付を行ってください。

対処2

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager にバンドルされているJREが実行可能か次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVfsjvc/jre/(1.4.1または1.4.2)/bin/java -version
```

※java version "1.4.1_xxx" と表示された場合

原因

JREには問題はありません。

対処方法

保守情報収集ツールでフレームワークの資料の採取をして技術員に連絡してください。

対処3

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager にバンドルされているJREが実行可能か次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVfsjvc/jre/(1.4.1または1.4.2)/bin/java -version
```

※アボートした場合

原因

NX機能有効(ON)時はjavaが正常に動作しないため、Systemwalkerを含め富士通のMW製品は動作保証していません。

対処方法

ハードのNX機能を無効(OFF)にしてください。ハードのNX機能を無効にする方法は、OS側に確認してください。

15.20 イベント監視の条件定義のポリシー定義が意図したものではない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

フォルダ指定でポリシー定義していませんか。

原因

複数階層フォルダの構成において、上位フォルダでイベント監視の条件定義のポリシーを定義したあとに、そのフォルダ配下にある下位フォルダでポリシー定義した場合は、上位フォルダの定義内容は下位フォルダには反映されません。

対処方法

イベント監視の条件定義を変更する場合、以下のどちらかの運用に統一してください。

- 上位フォルダで定義変更する
- 下位フォルダで定義変更する

対処2

確認ポイント

配付先のサーバ自身で、定義を変更していませんか。

原因

配付先のサーバ自身で変更した定義内容は、ポリシー定義には反映されません。

対処方法

イベント監視の条件定義を変更する場合、以下のどちらかの運用に統一してください。

- 運用管理サーバからポリシー定義/配付で定義変更する
- 配付先の各サーバ自身で定義変更する

対処3

運用管理サーバのイベント監視の条件定義のポリシー定義がポリシーの配付後に変更されてしまった。

確認ポイント

ポリシーの配付を行ったサーバのノードプロパティの「SystemwalkerCentricManager」タブの種別が“運用管理サーバ”になっていませんか。

原因

運用管理サーバ配下に別の運用管理サーバを配置し、ポリシーの配付を行ったことが原因です。

運用管理サーバから別の運用管理サーバにはポリシーの配付は行えません。

対処方法

二重化環境、または全体監視環境での運用を行う場合には、環境設定を正しく行ってください。環境設定の詳細についてはそれぞれのマニュアルを参照してください。

また、新しい運用管理サーバにポリシーの移行を行う場合には移行コマンドを使用してください。移行コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処4

確認ポイント

ポリシーを設定した後、ノードの削除と追加を行っていませんか。

原因

ノードの削除と追加を行った場合、ポリシーの情報がノードの削除とともに消えてしまうため、以下のポリシーの情報が初期状態になります。

- ・ イベント監視の条件定義
- ・ アクション環境設定
- ・ 監視ログファイル設定
- ・ メール連携環境設定

対処方法

再度、ポリシーを必要に応じて設定し直してください。

15.21 V4.0以前の運用管理サーバ、または部門管理サーバからポリシー配付が行えない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.0以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

※V10.0L20ポリシー基盤の緊急修正を適用している場合、またはアップデートパックU001を適用している場合

※10.1ポリシー基盤の緊急修正を適用している場合

原因

V4.0以前のポリシーを受信するプロセスが起動していないため、V4.0以前の運用管理サーバ、または部門管理サーバから配付されたポリシーを受信することができません。

対処方法

V4.0以前のポリシーを受信する場合は、配付先で以下の手順を行い、ポリシー受信プロセス(MpPolRecv3)を起動します。

1. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr
```

2. 以下のようにファイルを差し替えます。

- [Windows版の場合]

[格納先]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ\MpWalker.DM\mppol\bin
```

[ファイル名変更]

```
MpPolSch.exe → MpPolSch.bak  
MpPolSch.exe.1 → MpPolSch.exe
```

- [UNIX版の場合]

[格納先]

```
/opt/FJSVfwtrs/mppol/bin
```

[ファイル名変更]

```
MpPolStart → MpPolStart.bak  
MpPolStart.1 → MpPolStart  
MpPolStop → MpPolStop.bak  
MpPolStop.1 → MpPolStop
```

3. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

15.22 全体監視サーバでのポリシー配付に時間がかかる

インターネット型の全体監視サーバから被監視側の運用管理サーバに対してポリシー配付を行った場合に、被監視側の運用管理サーバのSystemwalker Centric Managerが停止していた場合にポリシー配付が失敗するまでに約30分かかる。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

被監視側の運用管理サーバが起動、またはSystemwalker Centric Managerが起動していますか。

原因

インターネット型の全体監視サーバから被監視側の運用管理サーバに対してicmpによる起動確認が行えないため、ポリシーの配付エラーを検知するタイムアウトまでに約30分かかるためです。

対処方法

被監視側の運用管理サーバの起動、またはSystemwalker Centric Managerの起動を行ってください。

15.23 全体監視サーバが所属する自部門配下のノードに対してイベント監視の条件定義のポリシー定義画面が起動できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V12.0L10以降

確認ポイント

イベント監視の条件定義のポリシー定義を、全体監視サーバが所属する自部門配下のノードに対して設定しようとしていませんか。

原因

全体監視サーバが所属する自部門配下のノードに対して、ポリシー定義は設定できません。

15.24 ポリシーの配付対象にならない

Systemwalker Centric Manager をインストールしたノードに対してポリシーの配付を行うことができない。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ポリシーの配付を行う対象ノードのノードプロパティの「SystemwalkerCentricManager」タブの種別にチェックがついていますか。

原因

ポリシーの配付を行う対象ノードにSystemwalker Centric Managerがインストールされていると認識されていないためです。

対象ノードにSystemwalker Centric Managerがインストールされていても、以下のいずれかの場合は、上記の状態になります。

- 対象ノードの「メッセージ送信先」に運用管理サーバまたは部門管理サーバが設定されていない
- 過去に、Systemwalkerコンソールから対象ノードを削除したことがある

対処方法

運用管理クライアントから[システム監視設定]画面を起動し、ポリシーを配付するノードに接続します。起動した[システム監視設定]画面の「通信環境定義」ボタンを押下し、[通信環境定義]画面を起動します。「メッセージ送信先システム」のタブを選択し、メッセージ送信先一覧に運用管理サーバまたは部門管理サーバが設定されているかを確認し、確認結果に応じて以下のように対処してください。

- 未設定だった場合

ポリシーを配付するノードにおいて、メッセージ送信先に運用管理サーバまたは部門管理サーバを設定してください。

通信環境の設定の詳細については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“通信環境を設定する”または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編(互換用)”の“通信環境の設定”を参照してください。

- すでに設定済だった場合

ポリシーを配付するノードで、以下のコマンドを実行してください。

- OSがWindowsの場合

```
opaconstat -a
```

- OSがSolarisまたはLinuxの場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

15.25 ポートスキャンを行うとポリシー基盤のプロセスが停止してしまう

Systemwalker Centric Manager をインストールしたノードに対してポリシーの配付を行うことができない。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L20
 - Solaris版:5.0～10.1
 - HP-UX版:5.1～10.0
 - AIX版:10.0
 - Linux版:5.2、V10.0L10

確認ポイント

ポリシー基盤のプロセスが起動していますか。

原因

ポリシー基盤の受信プロセスが起動しているノードに対してポートスキャンを行うと、ポリシー基盤が使用しているポートに不正なポートアクセスが発生してしまうためです。

対処方法

[Windows版の場合]

コントロールパネルからポリシー基盤のサービスを再起動してください。

[UNIX版の場合]

ポリシー基盤のデーモンを再起動してください。

```
# /opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolStop
# /opt/FJSVfwtrs/mppol/bin/MpPolStart
```

15.26 ポリシーの配付に時間がかかる

ポリシーの配付を行った場合に配付に時間がかかる、または配付に失敗する。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

“ulimit -n”をrootユーザで実行し、表示された値が無制限になっていませんか。

原因

システムのnofiles(descriptors)の値が無制限になっているために発生します。(この値は1プロセスがオープンできるファイルディスクリプタの上限値を意味しています)。

対処方法

“ulimit -n”実行後に表示された値が無制限になっている場合、適切な値に再設定してください。適切な値についてはシステム側に問い合わせてください。

対処2

確認ポイント

ポリシーの配付を行った場合のメモリ使用量を確認してください。

原因

メモリ不足のために発生します。

対処方法

メモリの増設を行ってください。

15.27 V10.0以前からV11.0以降への移行を行った後に、ポリシー配付を行うと失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降

確認ポイント

Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューより、[ポリシー配付状況]画面を起動し、配付失敗となっているポリシーがノード構成情報となっていないですか。

原因

ノード構成情報のポリシーが未配付のまま移行を行ったために発生します。

ノード構成情報は、基本ツリーの構成に変更があるごとに作成・更新され、初期設定では1時間ごとにポリシー配付が行われます。そのため、移行前にポリシー配付を行っていない場合、ノード構成情報が未配付のままになっている場合があります。

対処方法

配付失敗となっているノード構成情報ポリシーを削除してください。

また、移行前には必ずポリシー配付を行うようにしてください。

15.28 運用管理サーバからLinux版の部門管理サーバ/業務サーバに対してポリシーの配付ができない

運用管理サーバからLinux版の部門管理サーバ/業務サーバに対してポリシーの配付に失敗する。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L20
 - Solaris版:5.0～5.1

確認ポイント

ポリシー配付元がSolaris版SystemWalker/CentricMGR 5.0/5.1または、Windows版SystemWalker/CentricMGR V5.0L10/V5.0L20の運用管理サーバですか。

ポリシー配付先がLinuxサーバですか。

原因

Solaris 版 SystemWalker/CentricMGR 5.0/5.1 および Windows 版 SystemWalker/CentricMGR V5.0L10/V5.0L20 と Linux 版 SystemWalker/CentricMGR 5.2以降の組み合わせが、製品仕様により対象外の組み合わせであるために発生している現象となります。

15.29 運用管理サーバ自身にポリシー配付を行なうと、「コマンド応答の獲得に失敗しました」というメッセージが出力される

エラーメッセージ

【Windows】

```
ソース: MpOpmgr
種類: エラー
イベントID: 4077
説明: コマンド応答の獲得に失敗しました
```

【Solaris】

```
opmgrctl: エラー 4077: コマンド応答の獲得に失敗しました
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

確認ポイント

運用管理サーバ自身に対し、以下のどちらかのポリシーを、[すぐに適用する(配付先のサービスを再起動する)]をチェックして配付しましたか。

- イベント
- イベント監視の動作環境

原因

上記の確認ポイントに示したポリシーの配付後に、運用管理サーバ上のシステム監視機能が自動的に再起動されたことが原因です。

システム監視画面上のリモートコマンドウィンドウは、システム監視機能と通信しています。

システム監視機能が再起動された場合、リモートコマンドウィンドウ側で通信の切断を検知し、上記のメッセージが出力されます。

対処方法

リモートコマンドウィンドウを終了後、起動してください。

15.30「XXXXXXXX:警告:149:構成情報に存在しないポリシーがあります。ポリシー配付を実行してください。[Mp_GetSegment, 0x40012,0x4,0x12]」または「XXXXXXXX:WARNING: 149: Policy of invalid configuration information existed. Please execute policy distribution. [:XXXXXXXX]」が表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

バックアップした資源のリストア後にノード構成情報の一括配付を行っていない。(Windows版V10.0L20以降は除く)、または、部門管理サーバにてmpdrpclrコマンドを実行した可能性があります。

対処方法

運用管理サーバにて以下のコマンドを実行し、構成情報、および、ネットワーク管理のポリシーを再度配付してください。

1. 構成情報配付コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

[Windows版の場合]

- V10.0L21以前の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

- V11.0L10以降の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

2. ネットワーク管理ポリシー反映コマンド

[Solaris版/Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpnmpref
```

[Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpnmpref.bat
```

15.31 バージョンアップを行うと、ネットワーク管理の配付済みのポリシーが配付待ちになる場合がある

部門管理サーバで動作するネットワーク管理の配付済みポリシーが存在する場合に、部門管理サーバのバージョンアップを行うと、配付済みのポリシーが配付待ちになる場合があります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

ポリシー配付を実施してください。

15.32 「イベント監視の条件」のポリシー配付が失敗する

「イベント監視の条件」のポリシー配付ができない。

エラーメッセージ

```
MpAosfB: エラー:5016:ポリシーの登録処理でエラーが発生しました。
```

※メッセージは文字化けしている

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager を起動するユーザ環境のLANGが、Systemwalkerのコードと同じですか。

原因

Systemwalker Centric Manager を起動するユーザ環境のLANGが、Systemwalkerのコードと異なるコードのため発生します。

対処方法

Systemwalker Centric Manager を起動するユーザ環境のLANGを、Systemwalkerと同じコードに設定し、Systemwalkerを再起動してください。

15.33 mppolcollectコマンドで移出されないポリシーが存在する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V12.0L10以降
 - Solaris版:12.0以降
 - Linux版:V12.0L10以降

確認ポイント

退避先ディレクトリに、以下のファイルが出力されているか確認してください。

- P_opagt_log.csv ※1
- P_opagt_conn.csv ※1
- P_opagt_opeset.csv ※1
- P_opagt_fmnr.csv ※2

原因

ポリシーの定義/ポリシーの配付が行われていない可能性があります。

対処方法

以下の操作を行い、ポリシーの配付を行ってください。

- 確認ポイントのファイルが※1の場合
Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[イベント監視の動作環境]-[フォルダ]、または[ノード]を選択します。
→表示される「イベント監視の動作環境」画面で定義を行い終了する。
- 確認ポイントのファイルが※2の場合
Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[イベント]-[フォルダ]、または[ノード]を選択し、表示される「イベント監視の条件定義」画面の[環境設定]メニューから[監視ログファイル設定]を選択します。
→表示される「監視ログファイル設定」画面で定義を行い終了する。

15.34 ポリシーの配付を行っても、ポリシーが配付待ちの状態のまま配付されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager にバンドルされているJREが実行可能か次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVfsjvc/jre/(1.4.1または1.4.2)/bin/java -version
```

※java version "1.4.1_xxx" と表示された場合

原因

JREには問題はありません。

対処方法

保守情報収集ツールでフレームワークの資料の採取をして技術員に連絡してください。

対処2

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager にバンドルされているJREが実行可能か次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVfsjvc/jre/(1.4.1または1.4.2)/bin/java -version
```

※アボートした場合

原因

NX機能有効(ON)時はjavaが正常に動作しないため、Systemwalkerを含め富士通のMW製品は動作保証していません。

対処方法

ハードのNX機能を無効(OFF)にしてください。ハードのNX機能を無効にする方法は、OS側に確認してください。

15.35 Pentium4 搭載機種で、ポリシー配付を行ってもポリシー配付画面が起動しない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30

原因

Systemwalker Centric Managerが同梱するJRE(Java Runtime Environment)が、Intel Pentium 4をサポートしていないため、ポリシー配付画面が起動しません。

対処方法

障害番号PG06338を含む修正の適用を行ってください。

この修正により、Systemwalker Centric Managerが使用するJREが、Intel Pentium 4をサポートするJREに置き換わります。



以下のCPUはPentium4プロセッサベースで開発されているため、同様のトラブルが発生します。

- Intel(R) Pentium4 プロセッサ

- Intel(R) Celeron(R) プロセッサ 1.70GHz 以上(*1)
- Intel(R) Mobile Celeron(R) プロセッサ 1.40GHz 以上(*1)
- インテル(R) Xeon(TM) プロセッサ (*2)

*1) これより低いクロックのCeleronプロセッサは、Pentium IIIベースで開発されているため、該当しません。

*2) インテル(R) Pentium(R) III Xeon(TM) プロセッサは、Pentium IIIベースで開発されているため、該当しません。

15.36 ポリシー配付を行うと、ローカルで設定した定義が消えてしまう

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

配付対象となっているポリシーを確認してください。

原因

ポリシーの配付が成功すると、対象ノードのローカル定義は、配付した情報に上書きされます。(V11からは、配付するポリシーを選択することが可能、それ以前は全種類、強制的に配付します)。

対処方法

V11以降の場合は、設定したポリシーを配付対象に選択し、未設定のポリシー定義は、配付対象から外してください。

15.37 監視ポリシーが通常モードから互換モードへ切り替わらない、または互換モードから通常モードへ切り替わらない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.3.0以降
 - Windows for Itanium版:V13.3.0以降
 - Solaris版:V13.3.0以降
 - Linux版:V13.3.0以降
 - Linux for Itanium版:V13.3.0以降

確認ポイント

mpbcmpolmodeコマンド(監視ポリシー管理形式の変更コマンド)を実行していますか？

原因

監視ポリシーの管理モードを変更する場合は、mpbcmpolmodeコマンドの実行が必要となります。

対処方法

mpbcmpolmodeコマンド(監視ポリシー管理形式の変更コマンド)を使用して、監視ポリシーの管理モードを変更してください。

mpbcmpolmodeコマンド(監視ポリシー管理形式の変更コマンド)の詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

第16章 Systemwalkerスクリプト関連

16.1 メッセージ監視アクション型スクリプトの実行時間に関するトラブルシューティング

16.1.1 メッセージ監視アクションスクリプトで実行タイムアウト、または処理時間の規定値超えが発生する

エラーメッセージ

MpScsv: エラー: 1054:実行タイムアウトが発生したため、メッセージ監視アクションスクリプト(プロシジャ名=xxxxx)の処理を中断しました。

MpScsv: 警告: 1061: メッセージ監視アクションスクリプト(プロシジャ名=xxxxx)の処理時間が規定値を超えました。処理は続行されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
 - HP版:10.0以降
 - AIX版:11.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

プロシジャ名が、SystemwalkerテンプレートのUsrFacilityLevelChk1またはUsrFacilityLevelChk2ですか。

原因

システムの一時的な過負荷が原因です。

対処方法

メッセージが出力された時刻にシステムが過負荷となった原因を調べて対処してください。

対処2

確認ポイント

プロシジャ名が、ユーザ作成のプロシジャスクリプトですか。

原因

V10.0L10/10.0以前

システムの一時的な過負荷が原因です。

V10.0L20/10.1以降

ユーザの作成したプロシジャスクリプトの実行時間が長い、または、システムの一時的な過負荷が原因です。

対処方法

- V10.0L10/10.0以前

メッセージが出力された時刻にシステムが過負荷となった原因を調べて対処してください。

- V10.0L20/10.1以降

“Systemwalker Centric Manager スクリプトガイド”または“Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド”を参照し、“メッセージ監視アクション型スクリプト動作テスト”の手順に従って、処理にかかる時間を計測してください。

処理時間が100ミリ秒以下の場合、プロシジャスクリプトの処理時間に問題はありません。メッセージが出力された時刻にシステムが過負荷となった原因を調べて対処してください。

処理時間が100ミリ秒以上1秒未満の場合、プロシジャスクリプトのカスタマイズ部分を見直して処理時間を短縮するよう修正してください。または、メッセージが出力された時刻にシステムが過負荷となった原因を調べて対処してください。

処理時間が1秒以上の場合、プロシジャスクリプトの処理時間が長過ぎます。プロシジャスクリプトのカスタマイズ部分を見直して処理時間が短くなるように修正してください。

16.2 サービス稼働監視に関するトラブルシューティング

16.2.1 HTTPサービスの稼働監視中に、HTTPサービスが起動中でも“HTTPサービスが停止しました”のイベントが通知される

エラーメッセージ

HTTPサービスが停止しました

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.0以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降

原因

HTTPサービスへHTTP要求を送信し、HTTPサービスからの応答がエラーの場合に本現象が発生します。

対処1

確認ポイント

被監視対象のHTTPサービスのルートページ、またはチューニングパラメタで指定したURLで、認証が必要になっていませんか。

対処方法

認証が不要なページを指定し、サービス稼働監視を起動してください。

Systemwalkerスクリプト(サービス稼働監視のサンプルスクリプト)に関しては、“Systemwalker Centric Manager スクリプトガイド”または“Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド”を参照してください。

対処2

確認ポイント

チューニングパラメタで指定したURLに対するアクセスが許可されていますか。

対処方法

アクセスが許可されているページを指定し、サービス稼働監視を起動してください。

対処3

確認ポイント

チューニングパラメタで指定したURLのページが存在していますか。

対処方法

ファイルが存在するページを指定し、サービス稼働監視を起動してください。

対処4

確認ポイント

被監視対象のHTTPサービスで異常が発生していませんか。

対処方法

被監視対象のHTTPサービスで異常が発生していないか確認し、対処後、サービス稼働監視を起動してください。

対処5

確認ポイント

使用されているスクリプトの「チューニングパラメタ」フィールドに設定している文字列において、ホスト名を指定しているかを確認してください。

例)

```
http://host1/page1.html
```

原因

監視対象のWebサーバが、ホスト名を含んでいる要求を発行した場合に、Webサーバから情報を取得できない場合があります。

対処方法

「チューニングパラメタ」フィールドからホスト名の指定を削除してください。

例)

```
page1.html
```

16.2.2 HTTPSサービスの稼働監視中に、HTTPSサービスが起動中でも“HTTPSサービスが停止しました”のイベントが通知される

エラーメッセージ

```
HTTPSサービスが停止しました
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20～V10.0L21
 - Linux版:V10.0L10以降

確認ポイント

HTTPSサービス稼働監視を起動する前に、証明書環境が正しく構築されていますか。

対処方法

証明書環境が正しく構築されていない場合は、再構築してください。

16.2.3 サービス稼働監視を行うと、新ノードフォルダにノードが追加されてしまう

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.0以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降

確認ポイント

サービス稼働監視で指定する監視対象ホスト名が、監視マップ上の被監視対象ホストのノードプロパティに記載されているホスト名と同じですか。

対処方法

被監視対象ホストのノードプロパティで、ホスト名がフルドメイン名の場合はフルドメイン名で、IPアドレスの場合はIPアドレスで設定してください。

16.2.4 サービス稼働監視スクリプトでHTTPSサービスを監視しようとしたが、スクリプトの起動とともにエラーメッセージが出力され、監視できない

対処1

エラーメッセージ

「サービス稼働監視でHTTPSサービスが停止しました。
(監視元:xxxxxxx、監視先:xxxxxxx、エラーコード:18)」

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V11.0L10
 - Solaris版:5.0～11.0
 - Linux版:V11.0L10

原因

証明書環境が正しく構築されていないために発生します。

対処方法

1. Systemwalker PkiMGRで、秘密鍵と証明書を作成します。

[必要な証明書と秘密鍵]

- Systemwalkerが導入されているサーバの証明書および秘密鍵(PKCS#12)
- Systemwalkerが導入されているサーバの証明書のCA局証明書(DER形式)
- HTTPSサービスの証明書(DER形式)

2. 証明書管理環境定義ファイル(mpcertmgr.def)を編集します。

[mpcertmgr.defファイルの設定例]

```
[ENV]
OWN-CERTTYPE=1 -->自分の証明書・秘密鍵がPKCS#12 形式であるという指定
[OWN-CERTFILE] -->Systemwalkerが導入されているサーバの証明書・秘密鍵
NICKNAME=DTM_own@domainname.com
FILENAME=c:\cert\SWcert.pfx
[CA-CERTFILE-0001] -->Systemwalkerが導入されているサーバのCA局証明書
NICKNAME=CA@domainname.com
FILENAME=c:\cert\CAcert.der
[CERTFILE-0001] -->HTTPSサービスの証明書
NICKNAME=HTTPS@domainname.com
FILENAME=c:\cert\HTTPScert.der
```

3. 証明書管理環境定義コマンド(mpcrtsetenv)を実行します。

```
mpcrtsetenv [-s [秘密鍵のパスワード]] [-f 証明書管理環境定義ファイル名]
```

4. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

対処2

エラーメッセージ

```
MpScsv: エラー: 1057:自動起動スクリプトが異常終了しました。
```

原因

チューニングパラメタに指定したURLに特殊記号("&", "|", "(", ")", ">", "<", "^")が含まれている場合に発生します。

確認ポイント

使用されているスクリプトのチューニングパラメタに設定しているURLの中に特殊記号("&", "|", "(", ")", ">", "<", "^")が存在するか確認してください。

対処方法

チューニングパラメタを「¥」で括ってください。

16.2.5 サービスの稼働監視が正しくできない

サービスが停止しているが、イベントが通知されない。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

監視対象ノードが監視マップ上に存在していないために発生します。

対処方法

ノードマップ上に監視対象のノードが存在しているか確認してください。スクリプトに追加した監視対象のホスト名が、ノードマップ上のノードのネットワークタブのホスト名と一致しない場合は、正しく監視が行えません。

対処2

確認ポイント

部門管理サーバまたは業務サーバにてスクリプトを実行している場合は、システム監視設定画面よりスクリプトを実行しているノードに接続し、[通信環境定義]-[接続]-[詳細]を選択、接続詳細画面を起動し、中継機能が有効になっているか確認してください。

原因

システム監視の中継機能が無効になっています。

対処方法

中継機能を有効にしてください。

対処3

確認ポイント

被監視ホストにイベントを通知する上位システム(メッセージを通知するシステム)を指定していませんか。

対処方法

被監視ホストにはイベントを通知する上位システム(メッセージを通知するシステム)を指定することはできません。

16.2.6 FTPサービスのログに"QUIT"のログが出力される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

サービス稼働監視でFTPサービスの監視を行っていませんか。

原因

サービス稼働監視でFTPサービスの監視を行った場合、FTPサービスへの接続を行い、その後セッションを切断するためです。このためFTPサービスのログには"QUIT"のログが出力されます。

対処方法

対処は不要です。

16.2.7 二重化環境の主系において、通知されたイベントを対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V10.0L20以降

原因

二重化環境(連携型)において、サービス稼働監視(単体起動型スクリプト)のメッセージが出力された場合、主系で対処しても従系で同一のメッセージは自動で対処されません。

対処方法

対処の必要はありません。

必要に応じて、従系に出力されている同一のイベントを手動で対処してください。

16.2.8 HTTPSのサービス稼働監視でチューニングパラメタが有効にならない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

HTTPSのサービス稼働監視では、チューニングパラメタの設定は未サポートであるためです。

対処方法

以下の方法で、チューニングパラメタが有効になります。

- サービス稼働監視スクリプトを以下のように修正します。
サンプルスクリプトでは、330行目になります。

[修正前]

```
if { 0 != [ string compare [ string toupper $pmarray($icount, SERVICE) ] "HTTP" ] && ¥  
    0 != [ string compare [ string toupper $pmarray($icount, SERVICE) ] "DNS" ] && ¥  
    0 != [ string compare [ string toupper $pmarray($icount, SERVICE) ] "DOMAIN" ] } then {
```

[修正後]

```
# HTTPの判定処理を行っているステップの直後に、HTTPSの判定を行う処理を追加します。

if { 0 != [ string compare [ string toupper $pmarray($icount, SERVICE) ] "HTTP" ] && ¥
    0 != [ string compare [ string toupper $pmarray($icount, SERVICE) ] "HTTPS" ] && ¥
    0 != [ string compare [ string toupper $pmarray($icount, SERVICE) ] "DNS" ] && ¥
    0 != [ string compare [ string toupper $pmarray($icount, SERVICE) ] "DOMAIN" ] } then {
```

- 説明欄(コメント)は、以下のように修正します。

```
# ・チューニングパラメータ(TuningN)
#   監視対象サービスとしてHTTP、HTTPSまたはDOMAINが選択されたときのみ有効です。
#   HTTP・HTTPS・DOMAINサービス監視時に、この項目を指定することにより、サービスの監視を
#   より効率良く行うことが可能です。
#   * DOMAINサービスの場合
#     DOMAINサーバが管理しているホスト名を指定します。
#     指定されないときは、ルートネームサーバの情報を問い合わせます。
#     この項目を指定すると、ルートネームサーバの情報を問い合わせる処理に比べ、
#     よりDNSクライアントに近い動作を行うため、実運用に即した監視が行えます。
#     注) djbdnsサーバを監視する場合は、必ず監視対象が管理しているホスト名を
#         指定しなければなりません。
#         そのため、djbdnsサーバを監視する際、この項目は必須項目となります。
#   * HTTP・HTTPSサービスの場合
#     HTTP・HTTPSサーバが管理しているURLを指定します。
#     指定されないときは、HTTP・HTTPSサーバが管理しているルートのページが指定されます。
#     監視専用の軽量のページを作成し、そのURLを指定することにより、ネットワークの
#     負荷を減らすことができます。
#     チューニングパラメータの指定を行わない場合やDOMAIN・HTTP・HTTPSサーバ以外を監視する場合は、
#     0を指定してください。

# 記入例
#   lappend Parameters ¥
#   {host1, DOMAIN, 0, 3, 5, subhost, ON } ¥
#   {host2, HTTP, 80, 1, 1, /test.htm, OFF}
```

16.2.9 サービス稼働監視で監視に使用するスクリプト名が表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

サービス稼働監視では、監視に使用するスクリプト名を表示していないためです。

対処方法

以下の方法で、監視に使用するスクリプト名を表示できます。

- サービス稼働監視でHTTPおよびHTTPSサービスの監視に使用するスクリプト(snmsmt.swt)の190行目の以下の記述を修正します。

```
set Message [ format "%s:MpNsagtMain: ERROR: 2001: サービス稼働監視で%sサービスが停止しました。(監視元: %s、監視先: %s、
エラーコード: %d)" $OSType $service $localhost $host $errcode ]
```

formatコマンドに続くダブルクォーテーション(")で囲まれた文字列内に「%s」を追加することで可変のパラメタ文字列を出力することができます。スクリプト名を出力する場合は、ダブルクォーテーション(")で囲まれた文字列のあとにパラメタとして「[info script]」を追加します。

出力する内容は、ダブルクォーテーション(")以降に指定されている順番で、型指定文字(%s, %d)に表示されます。

[修正例] メッセージに「スクリプト名:」を追加する場合

```
set Message [ format "%s:MpNsagtMain: ERROR: 2001: サービス稼働監視で%sサービスが停止しました。(監視元:%s、監視先:%s、エラーコード:%d、スクリプト名:%s)" $OSType $service $localhost $host $errcode [info script]]
```

16.2.10 サービス稼働監視で通信不可状態から通信可能状態に遷移した場合に、イベントが通知されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

サービス稼働監視では通信不可状態から通信可能状態に遷移した場合に、イベント通知を行わない仕様のためです。

対処方法

以下の方法で、通信不可状態から通信可能状態に遷移した場合に、イベント通知を行うことができます。

1. 本機能を有効にするために、イベント対処フラグに「ON」を指定します。
2. サービス稼働監視スクリプトを以下のように修正します。

サンプルスクリプトでは、184行目になります。

[修正前]

```
set rvalue [ $PMCommand -d -n $host -k $domkey -e pmError ]
```

[修正後]

```
set Message [ format "%s:MpNsagtMain: ERROR: サービス稼働監視で%sサービスが起動しました。(監視元:%s、監視先:%s)" $OSType $service $localhost $host ]
set rvalue [ $PMCommand -m $Message -n $host -k $domkey -e pmError ]
```

修正の結果、サービスが停止状態から起動状態に遷移した場合に、以下のイベントが通知されます。

```
AP:MpNsagtMain: ERROR: サービス稼働監視でxxxサービスが起動しました。
(監視元:xxx、監視先:xxx)
```

注意事項

- 監視対象サービスは、HTTPサービスまたはSMTPサービスだけにしてください。
- 対処方法の修正を適用したサービス稼働監視スクリプトを利用して監視を行うと、イベント対処フラグが「ON」の場合に、以下の機能が使用できなくなります。
 - サービスが停止状態から起動状態に遷移したとき、通知済みの未対処のイベントが自動的に対処される機能

16.3 Systemwalkerセルフチェックに関するトラブルシューティング

16.3.1 Systemwalkerセルフチェックが正しくできない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

監視対象ノードが監視マップ上に存在していないために発生します。

対処方法

ノードマップ上に監視対象のノードが存在しているか確認してください。スクリプトに追加した監視対象のホスト名が、ノードマップ上のノードのネットワークタブのホスト名と一致しない場合は、正しく監視を行うことはできません。

対処2

確認ポイント

部門管理サーバまたは業務サーバにてスクリプトを実行している場合は、システム監視設定画面よりスクリプトを実行しているノードに接続し、[通信環境定義]-[接続]-[詳細]を選択、接続詳細画面を起動し、中継機能が有効になっているか確認してください。

原因

システム監視の中継機能が無効になっています。

対処方法

中継機能を有効にしてください。

対処3

確認ポイント

被監視ホストにイベントを通知する上位システム(メッセージを通知するシステム)を指定していませんか。

対処方法

被監視ホストにはイベントを通知する上位システム(メッセージを通知するシステム)を指定することはできません。

対処4

確認ポイント

連携型の運用管理サーバ二重化運用を構成する従系の運用管理サーバから以下のイベントが通知されていませんか。

```
SelfChk: ERROR: 3001: Systemwalker Centric Managerの監視を停止しました。
詳細コード:2 詳細情報:%h [%s]
%h: 監視元ホスト名
%s: 監視スクリプトのファイル名
```

その場合、スクリプトの編集可能部分にある「監視元ホスト」に、従系サーバのホスト名を指定していることを確認してください。

原因

連携型の運用管理サーバ二重化運用を構成する従系の運用管理サーバで監視を行う場合はスクリプトの編集可能部分にある「監視元ホスト」に、従系サーバのホスト名を指定する必要があります。

対処方法

連携型の運用管理サーバ二重化運用を行っている場合は、スクリプトの編集可能部分にある「監視元ホスト」に、主系、従系サーバのホスト名を空白で区切って指定してください。

```
例) set g(PollingHost) {Master-host Slave-host1 Slave-host2 Slave-host3}
```

スクリプトの編集後、運用管理サーバ二重化ガイド(連携型)の手順に従ってポリシーの作成およびポリシーの同期を行ってください。

備考

Systemwalkerセルフチェックでは、Systemwalkerのシステム監視エージェントが使用しているtcpポート(初期値:9294/tcp)を監視しています。

16.3.2 二重化環境の主系において、通知されたイベントを対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V10.0L20以降

原因

二重化環境(連携型)において、Systemwalkerセルフチェック(単体起動型スクリプト)のメッセージが出力された場合、主系で対処しても従系で同一のメッセージは自動で対処されません。

対処方法

対処の必要はありません。

必要に応じて、従系に出力されている同一のイベントを手動で対処してください。

16.3.3 mppolcollect(ポリシー情報移出コマンド)実行中に停止イベントが通知される場合がある

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V10.0L20以降

原因

mppolcollect(ポリシー情報移出コマンド)では、Systemwalker Centric Managerの起動と停止を行うため、停止イベントが通知される場合があります。

対処方法

対処の必要はありません。

必要に応じて、イベントを手動で対処してください。

16.3.4 監視のたびに毎回停止イベントが通知されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

監視の結果に応じて、初回だけ停止イベント通知を行う仕様のためです。

対処方法

以下の方法で、毎回停止イベント通知を行うことができます。

Systemwalkerセルフチェックスクリプトを以下のように修正します。

以下の行番号は、修正前のサンプルスクリプトに基づいています。

- 526行目の以下の行を削除します。

```
if { [string equal $ICMP_Flag($i) "OFF"] } {
```

- 534行目の以下の行を削除します。

```
}
```

- 546行目の以下の行を削除します。

```
if { [string equal $TELNET_Flag($i) "OFF"] } {
```

- 554行目の以下の行を削除します。

```
}
```

上記の行は、コメント行として残さずに必ず削除してください。

16.4 Webサービス稼働監視に関するトラブルシューティング

16.4.1 WEBサービスの稼働監視が正しくできない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

監視対象ノードが監視マップ上に存在していないために発生します。

対処方法

ノードマップ上に監視対象のノードが存在しているか確認してください。スクリプトに追加した監視対象のホスト名が、ノードマップ上のノードのネットワークタブのホスト名と一致しない場合は、正しく監視を行うことはできません。

対処2

確認ポイント

部門管理サーバまたは業務サーバにてスクリプトを実行している場合は、システム監視設定画面よりスクリプトを実行しているノードに接続し、[通信環境定義]-[接続]-[詳細]を選択、接続詳細画面を起動し、中継機能が有効になっているか確認してください。

原因

システム監視の中継機能が無効になっています。

対処方法

中継機能を有効にしてください。

対処3

確認ポイント

被監視ホストにイベントを通知する上位システム(メッセージを通知するシステム)を指定していませんか。

対処方法

被監視ホストにはイベントを通知する上位システム(メッセージを通知するシステム)を指定することはできません。

対処4

確認ポイント

連携型の運用管理サーバ二重化運用を構成する従系の運用管理サーバから以下のイベントが通知されていませんか。

```
MpNmsWS: ERROR: 2004: ユーザーカスタマイズ情報に誤りがあります。
カスタマイズ情報:g(PollingHost)=%h1 監視元:%h2 [%s]
%h1: スクリプトで指定した監視元ホスト名
%h2: 実際に動作するホストの名前
%s: 監視スクリプトのファイル名
```

その場合、スクリプトの編集可能部分にある「監視元ホスト」に、従系サーバのホスト名を指定していることを確認してください。

原因

連携型の運用管理サーバ二重化運用を構成する従系の運用管理サーバで監視を行う場合はスクリプトの編集可能部分にある「監視元ホスト」に、従系サーバのホスト名を指定する必要があります。

対処方法

連携型の運用管理サーバ二重化運用を行っている場合は、スクリプトの編集可能部分にある「監視元ホスト」に、主系、従系サーバのホスト名を空白で区切って指定してください。

```
例) set g(PollingHost) {Master-host Slave-host1 Slave-host2 Slave-host3}
```

スクリプトの編集後、運用管理サーバ二重化ガイド(連携型)の手順に従ってポリシーの作成およびポリシーの同期を行ってください。

16.4.2 二重化環境の主系において、通知されたイベントに対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降

- Solaris版:10.1以降
- Linux版:V10.0L20以降

原因

二重化環境(連携型)において、WEBサービス稼働監視(単体起動型スクリプト)のメッセージが出力された場合、主系で対処しても従系で同一のメッセージは自動で対処されません。

対処方法

対処の必要はありません。

必要に応じて、従系に出力されている同一のイベントを手動で対処してください。

16.5 IPv6インタフェースの稼働監視に関するトラブルシューティング

16.5.1 IPv6インタフェースの稼働監視で正しく監視が行えない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

連携型の運用管理サーバ二重化運用を構成する従系の運用管理サーバから以下のイベントが通知されていないか。

```
MpNmsIP6: ERROR: 2004: ユーザーカスタマイズ情報に誤りがあります。
カスタマイズ情報:g(PollingHost)=%h1 監視元:%h2 [%s]
%h1: スクリプトで指定した監視元ホスト名
%h2: 実際に動作するホストの名前
%s: 監視スクリプトのファイル名
```

その場合、スクリプトの編集可能部分にある「監視元ホスト」に、従系サーバのホスト名を指定していることを確認してください。

原因

連携型の運用管理サーバ二重化運用を構成する従系の運用管理サーバで監視を行う場合はスクリプトの編集可能部分にある「監視元ホスト」に、従系サーバのホスト名を指定する必要があります。

対処方法

連携型の運用管理サーバ二重化運用を行っている場合は、スクリプトの編集可能部分にある「監視元ホスト」に、主系、従系サーバのホスト名を空白で区切って指定してください。

```
例) set g(PollingHost) {Master-host Slave-host1 Slave-host2 Slave-host3}
```

スクリプトの編集後、運用管理サーバ二重化ガイド(連携型)の手順に従ってポリシーの作成およびポリシーの同期を行ってください。

16.5.2 二重化環境の主系において、通知されたイベントに対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V10.0L20以降

原因

二重化環境(連携型)において、IPv6インタフェース稼働監視(単体起動型スクリプト)のメッセージが出力された場合、主系で対処しても従系で同一のメッセージは自動で対処されません。

対処方法

対処の必要はありません。

必要に応じて、従系に出力されている同一のイベントを手動で対処してください。

16.6 MIBしきい値の監視に関するトラブルシューティング

16.6.1 二重化環境の主系において、通知されたイベントを対処しても、従系の同一イベントが自動で対処されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V10.0L20以降

原因

二重化環境(連携型)において、MIBしきい値の監視(単体起動型スクリプト)のメッセージが出力された場合、主系で対処しても従系で同一のメッセージは自動で対処されません。

対処方法

対処の必要はありません。

必要に応じて、従系に出力されている同一のイベントを手動で対処してください。

16.6.2 10個以上のMIBが監視できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

MIBしきい値監視で監視できるMIBは、9個までという仕様のためです。

対処方法

以下の方法で、10個以上のMIBを監視できます。

MIBしきい値監視のスクリプトを以下のように修正します。

以下の行番号は、修正前のサンプルスクリプトに基づいています。

231行目以降を以下のように修正します。(15個の場合の例)

[修正前]

```
elseif { $i == 10 } then { set TempMib $HostMibKind10 }
```

[修正後]

```
elseif { $i == 10 } then { set TempMib $HostMibKind10 } ¥  
elseif { $i == 11 } then { set TempMib $HostMibKind11 } ¥  
elseif { $i == 12 } then { set TempMib $HostMibKind12 } ¥  
elseif { $i == 13 } then { set TempMib $HostMibKind13 } ¥  
elseif { $i == 14 } then { set TempMib $HostMibKind14 } ¥  
elseif { $i == 15 } then { set TempMib $HostMibKind15 } ¥  
elseif { $i == 16 } then { set TempMib $HostMibKind16 }
```

第17章 プロセス監視に関するトラブルシューティング

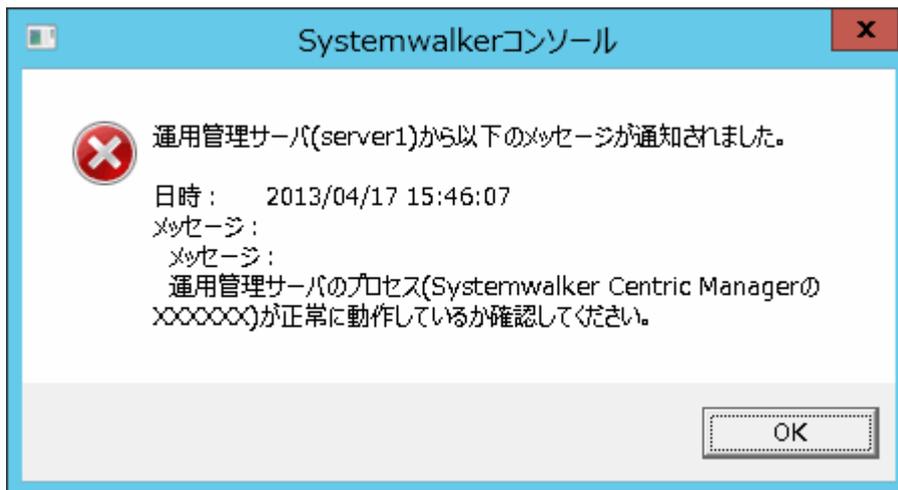
プロセス監視、およびセルフチェックによる異常の検知に対して、それぞれの対処方法を説明します。

17.1 プロセスの異常が表示された

エラーメッセージ

Systemwalker Centric Managerのプロセス監視をしている場合、プロセスに異常が発生したときは、運用管理クライアントに、以下の形式で表示されます。

- 運用管理サーバ上で、プロセス異常が発生した場合



注意

上記のメッセージボックスが表示されている状態で、新しくプロセス異常が検出された場合は、メッセージボックスは表示されません。この場合、検出結果は、イベントログに通知されます。

- 部門管理サーバ、業務サーバ、Systemwalker Operation Manager上でプロセス異常が発生した場合

MpPmonC:ERROR:106:'Systemwalker Centric Manager' のプロセス'XXXXXXXX' が正常に動作しているか確認してください。(トラップ情報)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

Systemwalker Centric Managerのプロセス監視をしている場合、プロセスに異常が発生したときに発生します。

対処方法

以下の手順で、問題が発生しているマシンの復旧を行います。

1. プロセス動作状況の確認

問題が発生しているマシン上で、以下のコマンドを実行し、各機能のプロセスの動作状況を確認します。

－ [Windows版の場合]

```
mppviewc
```

－ [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mppviewc
```

ポイント

プロセスに異常が発生している場合は、機能に対して、以下のように表示されます。

```
>>>>> ERROR:Process NOT Found!! : 監視対象プロセス
```

2. 対処

プロセス動作状況の表示コマンドで、異常プロセスを発見した場合は、Systemwalker Centric Managerを復旧します。それぞれの対処方法は、“プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された”を参照してください。

異常のプロセスが発見できなかった場合は、“[対処2](#)”を参照してください。

対処2

原因

Systemwalker Centric Managerを起動中に、一括起動/停止制御ファイルの編集(起動制御ファイルのカスタマイズ)を行っていませんか
Systemwalker Centric Managerを起動中に、一括起動/停止制御ファイルの編集を行った場合、プロセス監視機能が正常に動作しないことがあります。

対処方法

それぞれ以下の方法で、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

通常環境の場合

1. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを停止します。

－ [Windows版の場合]

```
pcentricmgr
```

－ [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

－ [Windows版の場合]

```
scentricmgr
```

— [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

クラスタ環境の場合

1. クラスタシステムの待機系で、以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを停止します。

— [Windows版の場合]

```
pcentricmgr
```

— [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. クラスタシステムの待機系で、以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

— [Windows版の場合]

```
scentricmgr
```

— [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

3. クラスタシステムの管理画面から Systemwalker Centric Managerのサービスを停止します。

4. クラスタシステムの運用系(1.と別のシステム)で、以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを停止します。

— [Windows版の場合]

```
pcentricmgr
```

— [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

5. クラスタシステムの運用系(1.と別のシステム)で、以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

— [Windows版の場合]

```
scentricmgr
```

— [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

6. クラスタシステムの管理画面から Systemwalker Centric Managerのサービスを起動します。

対処3

原因

監視対象プロセスの定義ファイルのカスタマイズを誤っていないか確認してください。

対処方法

以下のファイルの定義内容と“[機能区分/プロセス名対応一覧](#)”を確認し、定義ファイルの内容に誤りがないか確認してください。

- Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpcmtool¥pmon¥etc¥mppmon usr
```

- UNIX版の場合

```
/etc/opt/FJSSVftlc/pmon/mppmon usr
```

誤りがない場合は、保守情報収集ツールを使用して共通ツールの情報を採取し、技術員に問い合わせてください。

対処4

確認ポイント

システムログに以下のエラーが出力されていないかを確認してください。

```
ソース:Service Control Manager エラー  
分類:なし  
イベントID:7000  
説明:Systemwalker XXXXX サービスは次のエラーのため開始できませんでした: そのサービスは指定  
時間内に開始要求または制御要求に応答しませんでした。  
  
ソース:Service Control Manager エラー  
分類:なし  
イベントID:7009  
説明:Systemwalker XXXXX サービスへの接続中にタイムアウト (30000 ミリ秒) になりました。
```

※ XXXXXには、起動に失敗したコンポーネント名が表示されます。

原因

Windows版で監視対象プロセスが起動に失敗している場合は、確認ポイントの確認を行ってください。

対処方法

メッセージおよび状況より、サーバ起動時に高負荷な状態となった可能性があります。メッセージが頻発する場合は、サービスをスタートアップでバッチ起動にする、タスクスケジューラで起動する等の負荷分散を行ってください。

対処5

原因

システムのシャットダウン時または再起動時に発生する場合があります。この場合は対処不要です。(Windows版のみ)

対処方法

対処不要ですが、以下のいずれかの対処を行うことで、システムのシャットダウン時または再起動時にメッセージが出力される現象を抑止できます。

1. システムのシャットダウン前または再起動前に、サービスを一括停止コマンド(pcentricmgr)を実行する。
サービスを一括停止コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。
2. システムのシャットダウン前または再起動前に、サービスの画面からプロセス監視のサービス(Systemwalker MpPmonC または Systemwalker MpPmonO)を停止する。
3. システムのシャットダウン前または再起動前に、システムのサービスを停止するコマンド(net stop)を使用してプロセス監視のサービス(Systemwalker MpPmonC または Systemwalker MpPmonO)を停止する。
4. プロセス監視の定義ファイル(mppmon.ini)を修正し監視エラーが発生するまでの時間を長くします。定義ファイルの修正方法は以下のマニュアルを参照してください。
 - Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
 - Systemwalker Operation Manager 導入ガイド

17.2 ネットワークで事象が発生しましたと表示された

エラーメッセージ

MpCNappl: ERROR: 106: ネットワークで事象が発生しました。(トラップ情報)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

プロセスの異常通知を受け取る上位サーバ(運用管理サーバ、および部門管理サーバ)が、SystemWalker/CentricMGR V10.0L10、またはSystemWalker/CentricMGR 10.0以前のバージョンであることが原因です。

対処方法

プロセスの異常に対する対処方法を実施します。

対処方法については、“[プロセスの異常が表示された](#)”を参照してください。

対処2

原因

ネットワーク機器に異常がある可能性があります。

対処方法

ネットワーク機器に異常が発生していないか調べてください。

17.3 「上位サーバへの異常通知が正常に行われませんでした」と表示された

エラーメッセージ

MpPmonC: ERROR: 10020:Systemwalker Centric Managerのプロセス監視(*1)において、上位サーバへの異常通知が正常に行われませんでした。通知先サーバが定義されていない可能性があります。

*1):“Cluster”または“Local”が入ります。

ポイント

システム監視が動作していない場合は、送信元のサーバ上のイベントログに、メッセージが出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

以下のプロセス監視のカスタマイズファイル(mppmon.ini)に、通知先サーバが指定されていますか。

- [Windows版の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpcmtool¥pmon¥etc¥mppmon.ini
```

- [Solaris版の場合]

```
/opt/FJSVftlc/pmon/mppmon.ini
```

原因

プロセス監視による異常通知で、通知先サーバの情報取得に失敗した場合に発生します。

対処方法

- V10.0L21/10.1以前

定義されていない場合は、カスタマイズ通知機能で通知先サーバを定義し、プロセス監視機能の再起動をしてください。定義方法については、“Systemwalker CentricMGR 運用管理ガイド ～安定的な運用のために～”を参照してください。

- V11.0L10/11.0以降

定義されていない場合は、カスタマイズ通知機能で通知先サーバを定義し、プロセス監視機能の再起動をしてください。

V11.0L10/11.0の定義方法は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“プロセス監視機能のカスタマイズ手順”を参照してください。

V12.0L10/12.0以降の定義方法は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“プロセス監視の監視機能や動作環境を変更する”を参照してください。

対処2

確認ポイント

システム監視のイベント通知先が定義されていますか。

対処方法

以下の設定を確認します。

1. 運用管理クライアントで、スタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]—[環境設定]—[システム監視設定]、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]—[システム監視設定]を選択します。
→[システム監視設定[接続先設定]]ダイアログボックスが表示されます。
2. 設定を確認するサーバのホスト名、ユーザ名、パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。
→[システム監視設定]ウィンドウが表示されます。
3. [通信環境定義]ボタンをクリックします。
→[通信環境定義]ダイアログボックスが表示されます。
4. [メッセージ送信先システム]タブを選択し、[追加]ボタンをクリックします。
→[メッセージ送信先システム(追加)]ダイアログボックスが表示されます。
5. メッセージ送信先システムに正しく設定されているか確認し、[OK]ボタンをクリックします。(設定に誤りがある場合は、修正してください。)

17.4 プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された

プロセスに異常が発生している場合の対処方法を示します。

ポイント

クラスタ環境での対処方法

クラスタ環境でプロセスに異常が発生している場合は、“[プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示されたークラスタ環境の場合](#)”を参照してください。

エラーメッセージ

```
>>>>> ERROR:Process NOT Found!! : 監視対象プロセス
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1:Windows版のプロセス異常の対処方法

プロセス動作状況に異常が発生したサーバで、以下の対処方法を実施します。

対処方法は、異常が発生している機能(機能区分)ごとに異なります。

プロセス動作状況の表示コマンドを実行し、異常が発生している機能区分を確認します。機能区分については、“[機能区分/プロセス名対応一覧](#)”を参照してください。

それぞれの対処方法を以下に示します。

- ・ 機能区分略称が、BASEの場合
- ・ 機能区分略称が、FS1の場合
- ・ 機能区分略称が、FS2、FS3、FS4、FS5、FS6、FDの場合
- ・ 機能区分略称が、FRの場合

機能区分略称が、BASEの場合

Systemwalker Centric Managerを起動することで、対処できます。

以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

機能区分略称が、FS1の場合

プロセス“odstart.exe”、“RDBsystem”に異常が発生している場合

コンピュータを再起動してください。

そのほかのプロセスに異常が発生している場合

1. サービス停止コマンドを使用し、異常となった機能を停止します。

```
pcentricmgr /FS1
```

2. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

機能区分略称が、FS2、FS3、FS4、FS5、FS6、FDの場合

1. サービス停止コマンドを使用し、異常となった機能を停止します。

```
pcentricmgr /機能区分略称
```

2. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

機能区分略称が、FRの場合

- ・ “LiveHelp Client Service”の場合
コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、“LiveHelp Client Service”のサービスを再度開始します。
- ・ “LiveHelp Remote Access Service”の場合
コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、“LiveHelp Remote Access Service”のサービスを再度開始します。
- ・ “LiveHelp Connection Manager Service”の場合
コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスから、“LiveHelp Connection Manager Service”のサービスを再度開始します。

対処例

プロセス動作状況の表示コマンドの実行結果に、以下のようなエラーが表示された場合の対処方法を示します。

```

:
*****
** FS1: Framework **
*****
** Systemwalker MpFwbs **
MpFwbscl.exe                2656
MpFwems.exe                 2772
>>>> ERROR:Process NOT Found!! : MpFwems.exe
MpFwems.exe                 2796
MpFwems.exe                 2804
:

```

【対処例】

上記の例は、FS1の中にある“MpFwems.exe”に異常が発生しています。

対処は、FS1の機能を停止し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

- 1. 以下のコマンドを実行し、FS1のフレームワーク基盤などを停止します。

```
pcentricmgr /FS1
```

- 2. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

対処2: Solaris版のプロセス異常の対処方法

プロセス動作状況に異常が発生したサーバで、以下の対処方法を実施します。

対処方法は、異常が発生している機能(機能区分)ごとに異なります。

プロセス動作状況の表示コマンドを実行し、異常が発生している機能区分を確認します。機能区分については、“[機能区分/プロセス名 対応一覧](#)”を参照してください。

それぞれの対処方法を以下に示します。

- ・ 機能区分略称が、BASEの場合
- ・ 機能区分略称が、FS1の場合
- ・ 機能区分略称が、FS2、FS3、FS4、FS5、FS6、FD、FHの場合
- ・ 機能区分略称が、FSYの場合

機能区分略称が、BASEの場合

Systemwalker Centric Managerを起動することで、対処できます。

以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

機能区分略称が、FS1の場合

プロセス“OD_start”に異常が発生している場合

- 1. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを強制終了します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -halt
```

- 2. 通信基盤機能を強制終了します。

【Solaris版】

```
/opt/FSUNod/bin/OD_kill
```

【Linux版】

```
/opt/FJSVod/bin/OD_kill
```

注意

コマンド実行時に、以下のメッセージが出力されることがありますが、対処は不要です。手順3.に進んでください。

```
OD:エラー:od15010:ObjectDirector が起動されていません。
```

3. 通信基盤のサブプロセスを強制終了します。

- a. 通信基盤のサブプロセスCosNaming_sのプロセスIDを確認します。

```
ps -ef | grep CosNaming_s
```

(第2カラムに出力される数字が通信基盤サブプロセスのプロセスIDです。)

- b. 通信基盤のサブプロセスを強制終了します。

```
kill プロセスID
```

プロセスIDは、a)で確認したプロセスIDを指定します。

4. 以下のコマンドを実行し、通信基盤の未回収資源を回収します。

【Solaris版】

```
/opt/FSUNod/bin/odrmipc
```

【Linux版】

```
/opt/FJSVod/bin/odrmipc
```

5. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

プロセス“RDBsystem”に異常が発生している場合

1. 以下のコマンドを実行し、監視機能1を停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -FS1
```

2. ヘルプデスクDBを構築している場合は、以下のコマンドを実行し、ヘルプデスク機能も停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -FH
```

3. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

そのほかのプロセスに異常が発生している場合

1. 以下のコマンドを実行し、監視機能1を停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -FS1
```

- 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

機能区分略称が、FS2、FS3、FS4、FS5、FS6、FD、FHの場合

- サービス停止コマンドを使用し、異常となった機能を停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -機能区分略称
```

- 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

機能区分略称が、FSYの場合

- 以下のコマンドを実行し、syslog連携機能を停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/stpopasyslog
```

- 以下の手順で、syslog連携機能を起動します。

- 以下のコマンドを実行します。

```
/opt/systemwalker/bin/stropasyslog
```

- syslogdを再起動します

- 以下のコマンドを実行し、syslogdを停止します。

```
sh /etc/rc2.d/S74syslog stop
```

- 以下のコマンドを実行し、syslogdを起動します。

```
sh /etc/rc2.d/S74syslog start
```

ポイント

syslog連携機能

syslog連携は、Systemwalker Centric Managerの機能と、syslogを連携する機能です。syslog連携機能が停止している場合、syslog監視、opfmtコマンド(メッセージ出力コマンド)で発生させたメッセージは、一切監視できません。

対処例

プロセス動作状況の表示コマンドの実行結果に、以下のエラーが表示された場合の対処方法を示します。

```
*****
** FS4: Network Management & Performance Monitoring **
*****
** FJSVfwnm **
  MpNmsv                9431    0:24
  nwsnmp-trapd          9260    0:00
** FJSVsnm **
  MpNmex                9481    0:01
** FJSVfwntc **
>>>> ERROR:Process NOT Found!! : mprcvtrp.exe
** FJSVspmex **
```

MpTrfExAgt

817

0:05

【対処例】

上記の例は、FS4の中にある“mprcvtrp.exe”に異常が発生しています。

対処は、FS4の機能を停止し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

1. 以下のコマンドを実行し、FS4のネットワーク管理、性能監視機能を停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -FS4
```

2. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

17.5 プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示されたークラスタ環境の場合

クラスタ環境でプロセスに異常が発生している場合の対処方法を示します。

エラーメッセージ

```
>>>>> ERROR:Process NOT Found!! : 監視対象プロセス サービス種別
```

サービス種別には以下の文字列が表示されます。

- LOCAL:
ローカルで動作する機能の場合に表示されます。
クラスタシステムの両方のシステムで動作している機能です。
- CLUSTER:
クラスタサービスに登録されている機能の場合に表示されます。
クラスタシステムの運用系で動作している機能です。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

プロセス動作状況に異常が発生したサーバで以下の対処方法を実施します。

クラスタシステムの待機系でプロセス異常が発生した場合

通常、非クラスタシステム環境時と同じ手順で対処できます。

対処方法は、“[プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された](#)”を参照してください。

クラスタシステムの運用系でプロセス異常が発生した場合

運用系でプロセス異常が発生した場合は、プロセス動作状況の表示コマンドの実行結果で、以下のように対処方法が異なります。

サービス種別が、CLUSTERの場合

クラスタシステムのSystemwalker Centric Managerのサービスをフェールオーバーすることで、対処ができます。

サービス種別が、LOCALの場合

1. クラスタシステムのSystemwalker Centric Managerのサービスをフェールオーバーします。
2. 非クラスタシステム環境時と同じ手順で対処できます。対処方法は、“[プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された](#)”を参照してください。



Windows版“nwttsch.exe”のプロセスに異常が発生した場合

“nwttsch.exe”で、プロセス異常が発生した場合は、以下の手順で対処を行う必要があります。

1. クラスタシステムのSystemwalker Centric Managerのサービスをフェールオーバーし、異常が発生したシステムを待機系に切り替えます。
2. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker MpWksttrのサービスを停止します。

```
pcentricmgr -FS4
```

3. 以下のコマンドを実行し、待機系のSystemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

17.6 「エージェント機能が停止しました」と表示された

エラーメッセージ

```
SelfChk: ERROR: 3000: Systemwalker CentricMGRのエージェント機能が停止しました。監視元:%1 監視先:%2 ポート番号:%3
```

- ・ %1: 監視元サーバのホスト名
セルフチェックをしているサーバ
- ・ %2: 監視先サーバのホスト名
異常が発生したセルフチェックの対象のサーバ(被監視サーバ)
- ・ %3: 監視対象ポート番号
セルフチェックスクリプトで、監視対象としたシステム監視エージェントのポート番号

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降

- AIX版:11.0以降
- Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

被監視サーバ上で、Systemwalker Centric Managerのエージェント機能が停止した場合に、エラーメッセージが表示されます。その場合、監視先ホスト名のコンピュータ上で、以下の障害があると考えられます。

- 被監視サーバで、システムがダウンしています。
- 監視元サーバから被監視サーバまでのネットワーク経路に異常があります。
- 被監視サーバで、Systemwalker Centric Managerの監視機能が停止しています。

対処1

対処方法

被監視サーバで、システムがダウンしているか、監視元サーバと被監視サーバ間のネットワーク経路に異常がないか確認し、それぞれ対処してください。

監視元サーバから被監視サーバまでのネットワーク経路について、以下の方法で確認してください。

- IPパケットが到達可能か
 - 監視元サーバがWindows版の場合
被監視サーバに対し、pingコマンドやtracertコマンドを使用します。
 - 監視元サーバがSolaris版の場合
被監視サーバに対し、pingコマンドを使用します。

対処2

対処方法

システムやネットワーク経路が正常な場合は、Systemwalker Centric Managerのシステム監視機能に問題があります。

1. プロセス動作状況の確認

問題が発生しているコンピュータ上で、以下のコマンドを実行し、各機能のプロセスの動作状況を確認します。

- [Windows版の場合]

```
mppviewc
```

- [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mppviewc
```

ポイント

プロセスに異常が発生している場合は、機能に対して、以下のように表示されます。

```
>>>>> ERROR:Process NOT Found!! : 監視対象プロセス
```

2. システムの復旧

プロセス動作状況の表示コマンドで、異常プロセスを発見した場合は、Systemwalker Centric Managerを復旧します。それぞれの対処方法は、“プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された”を参照してください。

17.7 「監視対象の取得に失敗しました」と出力される

エラーメッセージ

- Windows版: V10L20/V10L21、Solaris版: 10.1の場合

```
MpPmonC: 警告: 1000005: Systemwalker CentricMGR のプロセス監視(*1)において、監視対象の取得に失敗しました。[*2] [*3]
```

- Windows版: V11L10以降、Solaris版: 11.0以降、Linux版: V11.0L10以降、HP-UX版: 11.0以降、AIX版: 11.0以降の場合

```
MpPmonC: 警告: 10005: Systemwalker Centric Manager のプロセス監視(*1)において、監視対象の取得に失敗しました。[*2] [*3]
```

[メッセージの意味]

プロセス監視を行うための情報を取得できませんでした。

[パラメタの意味]

- *1: Local または Cluster
- *2: ファイル名(絶対パス)、またはコマンド名(引数も含む)
- *3: 詳細コード

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V10.0L20以降
 - Solaris版: 10.1以降
 - HP-UX版: 11.0以降
 - AIX版: 11.0以降
 - Linux版: V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降
 - Solaris版: 10.1以降
 - Linux版: V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

メッセージの詳細コードが[64]であり、システムのシャットダウン時に発生しましたか。

原因

Windows のデスクトップヒープ不足等、一時的にシステムリソース不足が発生し、監視情報の取得に失敗した場合に本メッセージが出力されます。

システムのシャットダウン時などシステムの負荷が高い状態で発生します。

対処方法

対処は不要です。このメッセージによるSystemwalker Centric Managerの運用への影響はありません。

対処2

確認ポイント

メッセージの詳細コードが[61][63][64][65]のいずれかであり、メッセージは何回出力されましたか。

原因

- Windowsのシステムリソースが一時的に不足した場合に、監視情報の取得に失敗し本メッセージが出力されます。
 - 詳細コード[61]の場合
プロセスを生成できない等、システムの負荷が高い状態で発生します。
 - 詳細コード[63]の場合
プロセスの実行に時間がかかっている等、システムの負荷が高い状態で発生します。
 - 詳細コード[64]の場合
デスクトップヒープ不足等、システムの負荷が高い状態で発生します。
 - 詳細コード[65]の場合
ディスク容量不足やファイルシステムのinode不足等、システムやI/O負荷が高い状態で発生します。
- ウィルス対策ソフトが動作中にプロセス監視の監視処理が行われた場合に、監視情報の取得に失敗し本メッセージが出力される場合があります。

対処方法

- メッセージ出力が1回の場合
対処は不要です。このメッセージによるSystemwalker Centric Managerの運用への影響はありません。
- 監視間隔ごとにメッセージが出力される場合
保守情報収集ツールを使用して共通ツールの情報を採取し、技術員に問い合わせてください。

対処3

確認ポイント

メッセージの詳細コードが[64]であり、LiveHelpに関するメッセージが出力されていて、かつ、製品版のLiveHelpをインストールしていますか。

原因

製品版のLiveHelpをインストールしている場合は、本メッセージが出力されます。

対処方法

Systemwalker Centric ManagerにバンドルされているLiveHelpを使用するかプロセス監視の監視対象から外してください。
監視対象から外す手順については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

17.8 「システムリソース不足のため監視をスキップします」と出力される

エラーメッセージ

- V10.0L20/V10.0L21 の場合

MpPmonC: 警告: 1000005: Systemwalker CentricMGR のプロセス監視(*1)において、システムリソース不足のため監視をスキップします。

- V11.0L10以降 の場合

MpPmonC: 警告: 10005: Systemwalker Centric Manager のプロセス監視(*1)において、システムリソース不足のため監視をスキップします。

[メッセージの意味]

プロセス監視を行うために内部で利用するシステムリソースを確保できませんでした。

[パラメタの意味]

*1: Local または Cluster

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降

原因

メモリ不足等により、メッセージが出力されたときのプロセス監視で一時的に監視ができない場合があります。

対処方法

- 一回のみメッセージが出力されている場合
対処は不要です。このメッセージによるSystemwalker Centric Managerの運用への影響はありません。
- 監視間隔ごとにメッセージが出力される場合
パフォーマンスモニタ等でリソース使用状況を参照し問題のないことを確認後、保守情報収集ツールを使用してすべての情報を採取し、技術員に問い合わせてください。

17.9 運用管理サーバで「Connection failed or server process is down.」と出力される

エラーメッセージ

- Windows版の場合

種別 MPBCMUNAPI : ERROR : Connection failed or server process is down.

- UNIX版場合

Mp_UnusualNotifierSVR: ERROR: 1: ERROR : Connection failed or server process is down.

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V10.0L20以降
 - Solaris版: 10.1以降
 - Linux版: V11.0L10以降

対処1

原因

運用管理サーバをクラスタ環境の待機系サーバとして運用している場合、プロセス監視機能のコンソール通知は使用できません。

対処方法

対処は不要です。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバを再起動しましたか。

原因

運用管理サーバにおいて、サーバ異常通知機能のサービスが起動される前に、Systemwalkerコンソールを起動しています。このため、サーバ異常通知機能のサービスとの通信の接続が失敗し、運用管理サーバに本エラーメッセージが表示されています。

対処方法

特に対処しなくても、サーバ異常通知機能以外の機能は正常に使用できます。サーバ異常通知機能を使用する場合は、Systemwalkerコンソールを再起動してください。

17.10 プロセス監視のユーザカスタマイズ機能のシェル(mppmonsnd.sh)内で標準出力、標準エラーが使用できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1～12.1
 - Linux版:V11.0L10～V12.0L10
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1～12.1
 - Linux版:V11.0L10～V12.0L10

原因

プロセス監視はデーモンとして動作するため、標準出力、標準エラーをクローズして動作しています。その延長で動作するユーザカスタマイズ機能のシェル(mppmonsnd.sh)も標準出力、標準エラーがクローズされた状態で動作するため、シェル内から実行されるコマンドについても標準出力、標準エラーを使用することはできません。

対処方法

ユーザカスタマイズ機能のシェル内で実行するコマンドにリダイレクトを指定して、明示的に標準出力、標準エラーを指定してください。

備考

ユーザカスタマイズ機能内で標準出力が使用できないため、ユーザカスタマイズ機能のシェルから保守情報収集ツール(swcolinf)を実行しようとする場合、保守情報収集ツールコマンドに標準出力先の指定を行ってください。

例) /opt/FJSVftlc/swcolinf/swcolinf -o /work > /dev/null

17.11 「プロセス監視を開始できませんでした」と表示される

エラーメッセージ

- Windows版: V10L20/V10L21、Solaris版: 10.1の場合

MpPmonC: エラー: 1000003: Systemwalker Centric Manager のプロセス監視(*1)を開始できませんでした。[*2]

- Windows版: V11L10以降、Solaris版: 11.0以降、Linux版: V11.0L10以降、HP-UX版: 11.0以降、AIX版: 11.0以降の場合

MpPmonC: エラー: 10003: Systemwalker Centric Manager のプロセス監視(*1)を開始できませんでした。[*2]

[メッセージの意味]

プロセス監視を開始することができませんでした。プロセス監視機能の定義情報に誤りがある可能性があります。

[パラメタの意味]

*1: Local、または Cluster

*2: 詳細コード

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V10.0L20以降
 - Solaris版: 10.1以降
 - HP-UX版: 11.0以降
 - AIX版: 11.0以降
 - Linux版: V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降
 - Solaris版: 10.1以降
 - Linux版: V11.0L10以降

確認ポイント

- 詳細コードは997、または998ですか。
- 詳細コードが61、62、63、64、65の場合は、定義ファイルの記述内容に誤りがあります。定義ファイルの見直しをお願いします。各コードと定義ファイル内のキー名の対応は以下のとおりです。

61: StartWait

62: CheckWait

63: RetryCount

64: RetryWait

65: StartWait, CheckWait, RetryCount, RetryWaitのどれかが0

原因

詳細コード997は共有メモリの獲得に失敗した場合に、詳細コード998はセマフォの獲得に失敗した場合に表示されます。その場合、IPC資源が不足していると考えられます。

対処方法

システムパラメータのチューニングについて、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照し確認してください。

17.12 監視エラーの上位通知が正しく行われぬ

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

システム監視が停止している場合、監視エラーの上位通知が行われません。システム監視が停止していないかmppviewcコマンドを使用して確認してください。

- Windows版の場合
mppviewc
- UNIX版の場合
/opt/systemwalker/bin/mppviewc

mppviewcコマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

原因

プロセス監視の監視エラーの上位通知先としてシステム監視の通知先が使用されます。そのため、システム監視が停止している場合は、上位通知を行う事ができません。

対処方法

システム監視の監視エラーを上位通知する場合には、プロセス監視の動作環境定義ファイル(mppmon.ini)にプロセス状態の異常の通知先ノードを指定してください。設定方法は“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

17.13 プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された(クラスタ環境の場合)

エラーメッセージ1

MpPmonC: WARNING: 10023: Systemwalker Centric Manager のプロセス監視(Cluster)において、監視対象のプロセス[MpNmsv]が失われたためフェイルオーバーします。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

クラスタのセットアップコマンドを連続して実行していませんか。

原因

クラスタセットアップコマンドはセットアップとアンセットアップを必ず、交互に実行する必要があります。連続してセットアップを実行した場合、共有ディスクの資源が削除されてしまい、正常にクラスタのセットアップができていません。

対処方法

以下の手順で再度 Systemwalker Centric Manager をインストールしてください。

1. クラスタのアンセットアップを行う。
2. Systemwalker Centric Manager のアンインストールを行う。
3. Systemwalker Centric Manager のインストールを行う。
4. クラスタのセットアップを行う。

エラーメッセージ2

Solaris版:10.1の場合

```
MpPmonC: WARNING: 1000023: Systemwalker CentricMGR のプロセス監視(Cluster)において、監視対象のプロセス[XXXXX]が失われたためフェイルオーバーします。
```

Solaris版:11.0以降、Linux版:V11.0L10以降の場合

```
MpPmonC: WARNING: 10023: Systemwalker Centric Manager のプロセス監視(Cluster)において、監視対象のプロセス[XXXXX]が失われたためフェイルオーバーします。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Manager のリソース(CMGRPROC/CMGRPMON)の優先度が設定されていますか。

原因

優先度が設定されていない場合、Systemwalker Centric Manager のリソース(CMGRPROC/CMGRPMON)の呼び出し順序が順不同となります。順不同であった場合、Systemwalker Centric Managerの起動処理が終了する前にプロセス監視機能が監視を開始してしまうため、起動していないプロセスをプロセス異常状態と誤認してしまいます。

対処方法

Systemwalker Centric Manager のリソース(CMGRPROC/CMGRPMON)の優先度を正しく設定しているかどうか確認してください。

設定していない場合、優先度を正しく設定してください。

詳細手順はクラスタ適用ガイドおよびクラスタソフトのマニュアルを参照してください。

正しく設定している場合、保守情報収集ツールを使用して共通ツールの情報を採取し、技術員に問い合わせてください。

17.14 プロセス動作状況の確認で、異なったプロセスIDが表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降

確認ポイント

「java」や「java.exe」のプロセスIDが実際に動作しているプロセスIDと異なりますか。

原因

Javaを使用したアプリケーションが存在する場合、すべて「java」や「java.exe」というプロセス名になるため、他アプリケーションで起動されているJava.exeのプロセスIDが表示される場合があります。

対処方法

- 「java」や「java.exe」のプロセスが存在する場合
対処は不要です。Systemwalker Centric Managerの運用への影響はありません。
- 「java」や「java.exe」のプロセスが存在しない場合
Systemwalker Centric Managerを起動してください。

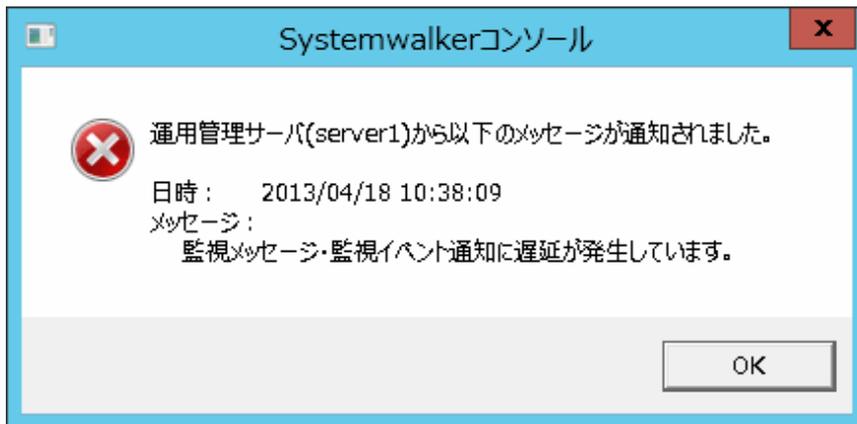
第18章 セルフチェックに関するトラブルシューティング

18.1 セルフチェック監視中に、「監視メッセージ・監視イベント通知に遅延が発生しています」と出力される

セルフチェック監視中に、スローダウンのメッセージが表示された場合の対処方法について説明します。

エラーメッセージ

Systemwalkerコンソールが起動しているサーバ、および運用管理クライアント上に、以下のメッセージボックスが表示されます。



対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

Windows版はAdministrator権限で、Solaris版はスーパーユーザで、対処してください。

確認方法1: 処理待ちのメッセージの確認

運用管理サーバで以下のコマンドを実行し、処理待ちのメッセージ一覧を確認します。

- [Windows版の場合]

```
mpevquelst
```

- [Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpevquelst
```

→機能、発生元ノード、および処理待ち件数が表示されます。

【実行例】

機能	発生元	処理待ち件数
システム監視	nodeA	1
システム監視	nodeB	200
アプリケーション管理	nodeX	3

対処イベント	—	1
計		205

実行結果から、以下の確認作業に進みます。

- ・ 処理待ち件数が、1000未満の場合は、“[確認方法2:プロセス状態の確認](#)”を参照してください。
- ・ 処理待ち件数が、1000以上の場合は、“[確認方法3:出力情報の確認](#)”を参照してください。

確認方法2:プロセス状態の確認

1. プロセス動作状況の確認

問題が発生しているコンピュータ上で、以下のコマンドを実行し、各機能のプロセスの動作状況を確認します。

— [Windows版の場合]

```
mppviewc
```

— [Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mppviewc
```

ポイント

プロセスに異常が発生している場合は、機能に対して、以下のように表示されます。

```
>>>>> ERROR:Process NOT Found!! : 監視対象プロセス
```

2. システムの復旧

- プロセス動作状況の表示コマンドで、異常プロセスを発見した場合は、Systemwalker Centric Managerを復旧します。それぞれの対処方法は、“[プロセス動作状況の確認で、プロセス異常が表示された](#)”を参照してください。
- 正常に動作している場合は、監視イベントに障害がある可能性があります。対処方法については、“[監視イベントが表示されない\(設定を確認する\)](#)”、または“[監視イベントが表示されない\(イベントトレース機能を使用した対処方法\)](#)”を参照してください。

確認方法3:出力情報の確認

1. “確認方法1:処理待ちのメッセージの確認”で表示した出力情報の機能名、発生元ノード、および処理待ち件数を確認します。
2. 処理待ち件数の多い機能に対して、それぞれ以下を参照し、それぞれの方法で、対処してください。
 - システム監視の処理待ち件数が多い場合
→[処理待ち件数が多い\(システム監視\)](#)
 - ネットワーク管理の処理待ち件数が多い場合
→[処理待ち件数が多い\(ネットワーク管理\)](#)
 - アプリケーション管理の処理待ち件数が多い場合
→[処理待ち件数が多い\(アプリケーション管理\)](#)
 - アプリケーション配付の処理待ち件数が多い場合
→[処理待ち件数が多い\(アプリケーション配付\)](#)
 - 対処イベントの処理待ち件数が多い場合
→[処理待ち件数が多い\(対処イベント\)](#)

対処2

原因

原因については、“[Systemwalkerコンソールでの表示、操作に時間がかかる\(遅延している\)](#)、各サーバでCPU使用率が高くなっている”を参照してください。

対処方法

対処方法については、“[Systemwalkerコンソールでの表示、操作に時間がかかる\(遅延している\)](#)、各サーバでCPU使用率が高くなっている”を参照してください

18.2 処理待ち件数が多い(システム監視)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

自システムおよび下位システムで、大量のイベントが発生しています。

対処方法

イベント発生元サーバで、イベントログを参照し、大量にイベントが発生していないか確認してください。

発生している場合は、その原因を突き止めて対処してください。

また、監視する必要のないイベントは、Systemwalker Centric Managerに通知しないように、イベント監視の条件定義などの定義を見直します。

イベント監視の条件定義については、“[Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編](#)”を参照してください。

対処2

原因

運用管理サーバに直接接続している配下のシステムに、同一のホスト名が存在していることが考えられます。

対処方法

1. 運用管理サーバに、直接接続している配下のシステムを見直し、同一ホスト名が存在しないか確認します。

ポイント

.....
処理待ち件数の多いノードのホスト名と、同一のホスト名がないか確認してください。
.....

2. 同じ階層に、同一ホスト名が存在する場合は、どちらかのホスト名、または両方のホスト名を変更してください。
ホスト名の変更方法については、“[Systemwalker Centric Manager 導入手引書](#)”を参照してください。
クラスタ運用している場合は、[Systemwalker技術情報ホームページ](#)の各クラスタ適用ガイドを参照してください。

対処3

原因

メッセージ送信先システムの定義で、お互いのシステムをメッセージ送信先として定義している、または複数のシステムを経由して自システムにイベントが戻ってくる定義(ループ状態)を行っていることが考えられます。

対処方法

システム構成(メッセージ送信先の設定)の見直しを行い、上記のような問題がある場合は、設定を修正してください。

メッセージ送信先の設定については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

18.3 処理待ち件数が多い(ネットワーク管理)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

以下の機能の設定に、原因があると考えられます。

- ネットワーク管理(ノード状態の監視、稼働状態の監視、MIB監視)
- イベント監視
- 性能監視
- SNMPエージェント

確認方法

上記項目に対して、大量発生しているメッセージがSystemwalkerコンソールの監視イベント一覧や、監視メッセージ一覧に表示されている場合は、その原因機能を以下の情報で切り分けます。

監視メッセージ/監視イベントの監視イベント種別やメッセージテキスト内の文字列を参照します。

機能名	監視イベント種別	メッセージテキスト内の“enterprise:”に続く文字列	メッセージテキストに含まれるメッセージ
ネットワーク管理 (ノード状態の監視、稼働状態の監視)	ネットワーク	application.19.3	ノードとの通信が不可、またはノードとの通信が可能
ネットワーク管理 (MIB監視)	ネットワーク	application.19.3	MIB監視事象が発生
イベント監視	ネットワーク	aplAosf	
性能監視	性能監視	aplNetMpTrf	
SNMPエージェント	ネットワーク	上記以外(監視機器のメーカー固有情報)	

原因機能の特定後、メッセージ発生の原因(機器、監視システムの異常事象)に対する以下の対処を行ってください。

対処2: ネットワーク管理(ノード状態の監視、稼働状態の監視、MIB監視)の異常

原因

ネットワーク管理の異常が発生した場合は、以下の原因が考えられます。

- ・ 一斉に被監視ノードがダウン、またはアップ (SNMPエージェントが動作する全ノードの電源投入および電源切断) する場合。
- ・ 監視対象ノードまでのネットワーク経路上のルータやHUBがダウンした場合。
- ・ フォルダ指定で、ノード状態の監視、稼働状態の監視またはMIB監視を行う場合に、各フォルダ配下のノード(ルータなど)で異常が同時に発生した場合。

対処方法

- ・ 特定の時間帯に大量のトラップが発生している場合、イベント監視条件を変更し、フィルタリングにより、イベントを破棄するようにしてください。

詳細については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”の“ネットワーク/システムの障害を監視する”を参照してください。

- ・ 運用管理サーバ、または部門管理サーバから異常となっている被監視ノードに対し、ping、またはtracerouteコマンドを使用し、ネットワーク経路に問題がないか確認し、問題を取り除いてください。
- ・ しきい値の見直しや、監視対象ノードの絞込みを実施してください。

詳細については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“監視するノードを登録する”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”の“ノードを管理するための設定を行う”を参照してください。

対処3: イベント監視の異常

原因

トラップ発生元ノードのイベント監視の条件定義により、SNMPトラップアクションが定義され、イベントが大量に発生している可能性があります。

対処方法

イベント監視の条件定義を見直し、SNMPトラップが大量に発生しないように定義を修正してください。

一時的にSNMPトラップアクションを停止する場合は、mpaosment(自動アクションの実行抑止コマンド)により、トラップアクションが実行されないようにしてください。

対処4: 性能監視の異常

原因

以下に示す2つの条件を満たした場合(ネットワーク性能のポリシーの設定の問題)に、一時的に大量に基準値監視トラップが発生する可能性があります。

- ・ しきい値が妥当でない
たとえば、回線使用率にデフォルトの30%から最小の1%に、設定を変更した場合。
- ・ 監視の必要のないノードも大量に監視対象としている
たとえば、フォルダを指定したポリシー設定で、フォルダ内のすべてのノードを監視対象に設定している場合。

対処方法

- ・ 各しきい値の設定を見直します。
 - a. Systemwalkerコンソールで、[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]—[ネットワークの性能]—[全体]を選択します。
 - b. [詳細設定]ボタンをクリックします。
→[性能監視-全体監視詳細設定(ネットワーク性能)]ダイアログボックスが表示されます。
 - c. [トラフィック]タブを選択し、設定している各しきい値を変更してください。
- ・ 監視したいノードだけに絞ります。
フォルダの設定だけでなく、ノードのポリシー設定も併用して監視したいノードだけをONにしてください。

対処5:SNMPエージェントの異常

確認ポイント

SNMPトラップの送信元のノードを特定し、出力されているイベントのメッセージテキストを参照し、送信しているSNMPトラップの種別を確認してください。

- “Linkdown”、または“Linkup”の場合
システム起動時や、インタフェースの状態が変化した場合に送信されます。
- “AuthenticationFailure”の場合
許可していないSNMPコミュニティ名で、SNMPの要求がきた場合に送信されます。

ポイント

上記の種別以外の場合は、SNMPエージェント自体の問題である可能性が高いため、SNMPエージェントの開発元に問い合わせてください。

対処方法

- “Linkdown”、または“Linkup”の場合
システム管理者に問い合わせ、ネットワークのインタフェースの状態が頻繁に変更される原因を調査してください。
- “AuthenticationFailure”の場合
Systemwalkerを含めた各管理製品で、誤ったコミュニティ名でSNMPの要求を出していないか設定を見直してください。
Systemwalker Centric Managerの場合は、ノードやフォルダのプロパティで、Rコミュニティ名やWコミュニティ名の設定値をSNMPエージェントで許可しているSNMPコミュニティ名と同じにしてください。

18.4 処理待ち件数が多い(アプリケーション管理)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

監視対象となるアプリケーション、ワークユニットで、以下の機能を使用して、障害が発生していると考えられます。

- アプリケーション稼働監視
- アプリケーションしきい値監視
- ワークユニットの稼働監視
- GSアプリケーションの稼働監視

対処方法

- 発生しているイベントの発生元アプリケーション、ワークユニットの異常について調査・対処を行い、メッセージの発生を抑制します。
- しきい値の設定を見直します。

ポイント

原因が特定できない場合

監視メッセージが大量に発生し続け、短期間で異常の原因がわからない場合は、ほかの監視作業を継続できるように、以下の手順で運用管理サーバのアプリケーション管理機能を停止してください。

1. 以下のコマンドを実行し、アプリケーション管理機能を停止します。

- [Windows版の場合]

```
pcentricmgr /FS3
```

- [Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -FS3
```

1. 障害復旧後、以下のコマンドを実行し、再起動します。

- [Windows版の場合]

```
scentricmgr
```

- [Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

18.5 処理待ち件数が多い(アプリケーション配付)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

アプリケーション配付で、配付した資源の配付の異常結果が運用管理サーバへ、大量に通知されていることが考えられます。

対処方法

1. アプリケーション配付機能を部分停止します。

以下のコマンドを実行します。

- [Windows版の場合]

```
pcentricmgr /FS3
```

- [Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -FS3
```

2. [資源配付]ウィンドウから、[対象システム]サブウィンドウで配付異常になっているシステム(赤いアイコンのシステム)を特定します。
3. 配付異常になっているシステムで、送信結果通知および適用結果通知を資源配付のスケジュール情報ファイルで、スケジューリングしている場合は、一時的にスケジュール設定を解除します。

資源配付のスケジュール情報ファイルの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

4. 配付異常の原因を取り除きます。
5. 3.でスケジュール設定を解除した場合は、元に戻します。
6. アプリケーション配付機能を再起動します。

以下のコマンドを実行します。

— [Windows版の場合]

```
scentricmgr
```

— [Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

18.6 処理待ち件数が多い(対処イベント)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

多数の監視イベントの一括対処操作がイベント大量発生 の要因となりえます。監視イベントを1件対処すると、1件の対処イベントが内部的に発生します。監視画面から最大1000件の監視イベントを一括対処できます。

また、`evtutlnt ustatusall` コマンドを実行すると、対処済ではないすべての監視イベントの一括対処が行われます。これらの一括対処だけでは遅延の原因になりませんが、ほかのイベント大量発生を同時に行うと、スローダウンを助長してしまいます。

対処方法

スローダウンが検出されたときに、監視イベントの一括対処を行っている場合は、ほかのスローダウン要因がなくなるまで、一括対処操作を行わないでください。(`evtutlnt ustatusall` コマンド実行中の場合は、`[CTRL]+[C]` キーで、一括対処を中断してください。)

18.7 スクリプト実行時にエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
SelfChk: ERROR: 2101: コマンドの呼び出しでエラーが発生しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

メッセージが出力された際に、システムの負荷が高い状態(OS起動時など)ではありませんでしたか。

原因

システムの負荷に伴う影響により、コマンドの起動に失敗していたために発生します。

対処方法

本メッセージが出力されるとスクリプトが停止します。スクリプトを起動して監視を再開してください。詳細は、“Systemwalker Centric Manager スクリプトガイド”または“Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド”を参照してください。

第19章 ネットワーク性能/サーバ性能監視に関するトラブルシューティング

19.1 ネットワーク性能情報の監視・収集ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

対処1

エラーメッセージ

```
MpTrfAgt: WARNING: 202: (ノード)に対する情報収集処理がタイムアウトしました。  
MpTrfAgt: WARNING: 210: (ノード)に対するMIBオブジェクト獲得に失敗しました。情報収集を停止します。
```

確認ポイント

以下の原因が考えられます。

- 監視対象ノードが起動中、または起動していない。
- 監視対象ノードのSNMPエージェントが起動中、または起動していない。(SNMPサービスを性能監視サービスより先に起動するようにしてください。)
- 監視対象ノードに対して、サーバ性能監視のポリシー配付を行っていた。
(ポリシー配付を行うと、SNMPエージェントが再起動されます)
- 監視対象ノードのSNMPエージェントのReadコミュニティ名と、Systemwalker Centric Managerで設定しているReadコミュニティ名が一致していない。
- 監視対象ノードのSNMPエージェントが、運用管理サーバ/部門管理サーバからの要求を許可していない。
- ネットワーク環境に問題があり、正常に通信ができない。
- 監視対象ノードの負荷が非常に高く、SNMPエージェントが応答を返せない。
- 監視対象ノードがSystemwalkerコンソールから削除された。

原因

「情報収集処理がタイムアウト」メッセージが発生している場合は、ネットワーク性能情報の収集(SNMP MIB-GET)で、監視対象ノードから応答が返ってきません。

「MIBオブジェクト獲得に失敗しました。」メッセージが発生している場合は、ネットワーク性能情報の収集(SNMP MIB-GET)で、監視対象ノードから監視に必要なMIBオブジェクトの獲得に失敗しています。

また、ネットワーク性能監視で監視できるインタフェース数は、1台の運用管理サーバ/部門管理サーバで最大約300(*1)インタフェース(性能情報採取ポーリング間隔が2分の場合)となっています。監視できるインタフェース数を超えた場合は、本現象が発生することがあります。

*1:V5.0L10/V5.0L20/5.0/5.1までは、最大約100インタフェースとなります。

対処方法

上記の確認ポイントに対して、対処してください。なお、再起動中であった場合は、再起動完了後、情報収集が正常に行われていれば問題ありません。

- ポリシーの設定で、性能情報採取ポーリング間隔を拡大する。
- 監視対象のインタフェースを絞り込む。
- 新しい部門管理サーバを設置して負荷分散する。
- ノード削除の情報を反映するため、ネットワーク性能ポリシー(全体設定)の設定を変更せずに更新する。

対処2

エラーメッセージ

```
MpTrfAgt: WARNING: 204: (ノード)にMIBオブジェクトが実装されていません。MIB名=(MIB名)
```

確認ポイント

実装されていなかったMIBオブジェクトによって対処方法が異なります。

主に以下のMIBオブジェクトで発生します。

- if* (ifIndexなど)
- ether* (etherStatesIndexなど)
- mp* (mpCpuIndexなど)

原因

「MIBオブジェクトが実装されていません」メッセージが発生している場合は、ネットワーク性能情報の収集(SNMP MIB-GET)で、監視対象ノードから監視に必要なMIBオブジェクトが存在しない旨の応答(noSuchName)が返ってきています。

対処方法

- MIB名=if*の場合

MIB-IIのMIBオブジェクトが取得できていません。

監視対象ノードのSNMPエージェントが正常に動作していない可能性があります。SNMPエージェントの確認を行ってください。

また、LANカード(NIC)切替え運用のLAN二重化環境のノードを監視対象としている場合に、切替えが発生するとイベントが通知されます。

これにより、切替えが発生するたびに、ノード構成情報を取得し、ポリシーを再作成する必要があります。

以下の手順で、ポリシーを再作成してください。

1. Systemwalkerコンソールの監視マップで、該当のSafeLINK、またはPRIMECLUSTER GLSのノードを選択します。
2. [ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[ネットワークの性能]-[ノード]を選択します。
3. [構成情報再取得]ボタンをクリックし、ノード構成情報を取得します。
4. [OK]ボタンをクリックし、ポリシーを作成します。
5. ポリシーを配付/適用します。

- MIB名=ether*の場合

RMONの監視に必要なMIBオブジェクトが取得できていません。

RMONの監視は、RMONプローブだけを対象にできます。

監視対象ノードがRMONプローブでない場合は、該当ノードに対する性能監視のノード設定でRMONの監視を停止してください。

- MIB名=mp*の場合

サーバ性能監視に必要なMIBオブジェクトが取得できていません。

以下の原因が考えられます。

- 監視対象ノードの性能監視拡張エージェント(MpTrfExA)が停止しています。性能監視拡張エージェントを起動してください。また、“サーバ性能情報の監視・収集ができない”のトラブルの可能性あります。
- 監視対象ノードに対して、サーバ性能監視のポリシー配付を行っていた。(ポリシー配付を行うと、性能監視拡張エージェントが再起動されます)
- ネットワーク機器に対して、サーバ性能の監視を行っています。該当ノードに対して、性能監視のノード設定でサーバ性能の監視を停止してください。
- 監視対象ノードに、性能監視拡張エージェント(MpTrfExA)が存在していません。性能監視拡張エージェントをインストールするか、該当ノードに対して、性能監視のノード設定でサーバ性能の監視を停止してください。
- 監視対象ノードのディスク構成が動的に変更されました。
 - 10.1以降の場合
対処は必要ありません。
 - 10.0以前の場合
性能監視エージェントの再起動を実施してください。

対処3

原因

監視対象ノードのファームアップ等により、監視対象インタフェースの情報が更新された場合、監視ができなくなる場合があります。

対処方法

ノード検出をし、監視対象ノードのインタフェース情報を最新のものに更新した上で当該ノードに対しポリシーの作成・配付を実施してください。

対処4

エラーメッセージ

```
MpTrfAgt: WARNING: 201: %1との接続が行えませんでした。原因コード=%2
```

%1: 接続できなかったサーバ名

%2: 接続できなかった原因コード

原因

以下のような原因により、サーバとの接続に失敗しました。

- 表示されているサーバが起動されていません。
- 表示されているサーバとの回線が接続されていません。
- 表示されているサーバで性能監視サービス(MpTrfMgr、MpTrfAgt)が起動されていません。
- 部門フォルダに設定されている部門管理サーバのIPアドレス(表示されているノードの代表IPアドレス)が誤っています。
- 表示されているサーバ、または表示されているサーバとの通信経路にファイアウォールが設定されており、性能監視が使用する通信ポート(TCP/IP 2750ポート)が許可されていません。
- 表示されているサーバ上でホスト名から解決したIPアドレスに、エラーメッセージが発生したサーバから通信ができません。

対処方法

以下の対処を実施してください。

- ・ 表示されているサーバを起動してください。
- ・ 表示されているサーバとの回線を接続してください。
- ・ Systemwalker Centric Managerを再起動してください。
- ・ 部門フォルダに設定されている部門管理サーバの代表IPアドレスを運用管理サーバと通信できるIPアドレスに変更してください。
- ・ 表示されているサーバがWindows XP等の場合、ファイアウォールの設定を確認し、性能監視機能が使用するポート(TCP/IP 2750ポート)が使用できるようにしてください。
- ・ サーバが高負荷になっている場合は、要因を取り除いてください。一時的な高負荷の場合は本メッセージの対処は不要です。
- ・ 複数のLANカード(NIC)をサーバが実装している場合は、ホスト名で解決できるIPアドレスをサーバ間で通信できるIPアドレスに変更してください。

対処5

エラーメッセージ

```
MpTrfAgt: エラー: 301: %1の起動に失敗しました。原因コード=%2
```

原因

%2の理由により、%1の起動に失敗しています。

対処方法

起動に失敗したMpTrfAgtサービスの再起動を実施してください。

- ・ 原因コード=128の場合

起動処理がタイムアウトで失敗しています。

システム再起動などの、システム負荷が高い状態でサービスを起動しようとする、このようなエラーが発生することがあります。システム負荷を取り除き、サービスの再起動を実施してください。

- ・ %1=No.1 net commandの場合

ポリシー適用時にMpTrfAgtサービスが正常に再起動できなかった場合に発生します。

以下の原因が考えられます。

- ー システム負荷が高いため、サービスの終了処理が一定時間内に完了しなかった。
- ー サービスの[スタートアップの種類]が“無効”に設定されていた。

MpTrfAgtサービスの[スタートアップの種類]が“無効”の場合は、“自動”に変更し、サービスの再起動を実施してください。

19.2 サーバ性能情報の監視・収集ができない

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - ー Windows版:V5.0L10以降
 - ー Solaris版:5.0以降
 - ー HP-UX版:5.1以降
 - ー AIX版:10.0以降
 - ー Linux版:5.2、V10.0L10以降

対処1

エラーメッセージ

```
Snmidx: [daemon.error] Subagent died: MpTrfExAs
```

情報獲得に失敗しました。対象システム上の性能拡張エージェントがインストールされていないか、起動されていない可能性があります。

確認ポイント

SNMPエージェント(snmidx)の管理テーブルからサブエージェントの性能監視拡張エージェントのエントリを削除したため発生します。SNMPエージェントと性能監視拡張エージェントとの間で応答が遅延した場合や、しきい値監視"OFF"のサーバ性能ポリシーを配付した場合にも発生します。

原因

SNMPエージェント(snmidx)の管理テーブルからサブエージェントの性能監視拡張エージェントのエントリを削除したため発生します。SNMPエージェントと性能監視拡張エージェントとの間で応答が遅延した場合にも発生します。

対処方法

- ・ SNMPエージェントが起動抑止されている場合

SNMPエージェントの起動スクリプトをリネームするなどして、SNMPエージェントの起動が抑止されている場合、性能監視拡張エージェントの起動にも失敗するため、本現象が発生します。SNMPエージェントの起動抑止を解除した上で、SNMPエージェントを起動してください。

- ・ 性能監視拡張エージェントが停止している場合

以下の緊急修正を、監視対象のサーバへ適用した上で、性能監視拡張エージェントを通常モードで動作するように設定してください。

バージョン	緊急修正
5.0	TJ00088以降
5.1	T006ES-01以降
5.2	T006FS-01以降
10.0	T006GS-01以降
10.1	T006HS-01以降

通常モードへの変更方法については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“setupsea.sh”の記事を参照してください。

緊急修正を適用すると、プロセス名/数に変更されるため、プロセス監視を行っている場合は、注意が必要です。

また、緊急修正が適用されている場合“コミュニティ名を変更したらサーバ性能情報の監視・収集ができない”を参照してください。

- ・ 性能監視拡張エージェントが動作している場合

1. SNMPエージェント(snmidx)の管理テーブルからSUBエージェントとしてのエントリを削除されているため、拡張エージェントに対しての要求が届きません。

SNMPの再起動および、性能監視拡張エージェントの再起動を行ってください。

```
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/K00swpmexa stop
# /etc/init.d/init.snmidx stop
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa start
```

性能監視拡張エージェントを起動させることでSNMPエージェントも起動されます。

2. しきい値監視を"OFF"にしたサーバ性能ポリシーを配付している場合も性能情報を取得することはできません。

当該ノードは監視"OFF"になっていますので、このメッセージの対処は不要です。

対処2

エラーメッセージ

```
MpTrfExA: WARNING: 333: アラーム通知に失敗しました。収集処理は続行します。
```

原因

性能監視拡張エージェントで使用するテンポラリファイルが作成できなかった場合、または、OSコマンドの一時的な動作異常の場合に発生します。

性能監視拡張エージェントで使用するテンポラリファイルが存在しなかったことが原因としては、以下のことが考えられます。

- 何らかの原因で作成できなかった場合
ハードディスク枯渇によるファイル作成の失敗、メモリ枯渇、プロセステーブル枯渇による性能収集コマンドの起動失敗などが、一時的なエラーの原因として考えられます。
- 何らかの原因で削除されてしまった場合
オペレーションなどのミスが一時的なエラーの原因として考えられます。

対処方法

一時的なエラーの場合は、次のサンプリング間隔より正常に動作します。

対処3

エラーメッセージ

```
MpTrfExA: エラー: 332: 性能情報の収集に失敗しました。収集処理を停止します。Process = プロセス名  
Detail = 原因コード
```

原因

システムのリソース不足によって、一時的に性能情報の収集ができなかったことが原因として考えられます。

- Detail=12の場合: 領域不足 / メモリ不足が発生しています。
- Detail=128の場合: デスクトップヒープの枯渇が発生しています。

対処方法

現象再現時には、性能監視拡張エージェントが動作しているか確認し、動作していない場合は再起動してください。また、動作している場合は、次のサンプリング間隔より正常に動作します。

なお、Detail=12が発生した場合には、領域およびメモリが不足していないかを確認してください。また、Detail=128が頻発する場合は、デスクトップヒープ領域の拡張を実施してください。

また、Process=forkの場合、性能監視拡張エージェントが新規プロセスの作成に失敗したことを示しています。システム負荷が高いことが考えられますので、原因を対処した上で性能監視拡張エージェントを再起動してください。

参考

Windows Server 2003以降の場合、OS起動後、最初のデスクトップヒープ不足発生時点で、イベントログに「警告 243 Win32k デスクトップヒープの割り当てに失敗しました。」が出力されている場合があります。

対処4

エラーメッセージ

```
MpPmonC: ERROR: 3:MpPmonC[2508]:1000002:Systemwalker CentricMGR のプロセス  
(MpTrfExAgt.exe)が正常に動作しているか確認してください。
```

確認ポイント

- 性能監視拡張エージェント(MpTrfExA)のエラーメッセージが出力されていますか。
- SNMPサービスが起動されていますか(Solaris)。

原因

- 性能監視拡張エージェント(MpTrfExA)のエラーメッセージが出力されている場合は、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“MpTrfExAgtで始まるメッセージ”を参照し、原因/対処方法を確認してください。エラーメッセージが出力されていない場合は、デスクトップヒープの枯渇が発生していることが原因として考えられます。
- SNMPエージェントの起動スクリプトをリネームするなどして、SNMPエージェントの起動抑止をしていることが考えられます。

対処方法

- 現象再現時には、MpTrfExAサービスの再起動をするか、頻発するのであればデスクトップヒープ領域の拡張を実施してください。
- SNMPエージェントの起動抑止を解除してください。

対処5

原因

“構成情報とポリシーの同期配信”欄の「同期・配信」を「同期する」に設定していた場合は、構成情報上から監視対象としていたノードが削除されると、性能監視の監視対象からも削除されます。

対処方法

構成情報を再登録した上で、性能監視の監視対象として再登録してください。

対処6

エラーメッセージ

```
MpTrfAgt: WARNING: 202: (ノード)に対する情報収集処理がタイムアウトしました。
MpTrfAgt: WARNING: 210: (ノード)に対するMIBオブジェクト獲得に失敗しました。
情報収集を停止します。
```

原因

SNMPエージェントの起動スクリプトをリネームするなどして、SNMPエージェントの起動抑止をしている場合、性能情報を収集することができません。

対処方法

SNMPエージェントの起動抑止を解除してください。

19.3 クラスタ運用の運用管理サーバでサーバ性能監視が正しくできない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

クラスタ運用されている運用管理サーバでは、運用系から待機系へポリシー配付できません。待機系へポリシー配付した場合は、運用系に配付・適用されます。

対処方法

以下のようにポリシーを設定してください。

- 運用系と待機系で別々のポリシーを作成してください。
- 運用系のポリシーだけ変更、配付してください。待機系のポリシーを変更、配付するには、必ず運用系に切り替えてから実施してください。
- 誤って待機系のポリシーを変更した場合には、いったん配付登録されたポリシーを配付したあと、再度、運用系のポリシーを再配付してください。

19.4 Hub/Switch Hubのネットワーク性能監視ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

ネットワーク性能監視では、Hub/Switching Hub/Switching Routerの監視をサポートしていません。

対処方法

Hub/Switching Hub/Switching Routerのネットワーク性能情報を監視する場合は、以下のどちらかで実施してください。

- 各ポートに接続されているノードを監視対象にしてください。
- MIB取得やMIB監視機能により、MIBを直接指定して収集・監視してください。

ただし、以下の条件を満たすL3スイッチについては監視を行うことが可能です。

- 物理ポートごとにIPアドレスが割り当てられている。
- IPアドレスに対してSNMP MIBIIの情報が収集できる。

なお、ネットワーク性能情報の収集で必要となるMIBは、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

19.5 サーバ性能監視のディスク関連のしきい値監視ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

性能監視拡張エージェントは、perflibによりサーバ性能情報を取得しています。ディスク情報を収集するためには、diskperfコマンドによる操作が必要です。

対処方法

1. 監視対象のサーバで、diskperfコマンドを実行してください。

- Windows NTの場合

```
diskperf -y
```

RAIDシステムの場合には、以下のオペランドを指定してコマンドを入力してください。

```
diskperf -ye
```

- Windows 2000/Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE/Windows XPの場合

```
diskperf -y
```

RAIDシステムの場合には、以下のオペランドを指定してコマンドを入力してください。

```
diskperf -y
```

2. diskperfコマンドを実行後、システムを再起動してください。

詳細については、以下のそれぞれのバージョンレベルより参照してください。

- V13.0.0以降

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編 (互換用)”の“性能の監視条件”を参照してください。

- V5.0L30～V12.0L10

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“サーバ性能情報の情報ソース”を参照してください。

3. システムの再起動後、以下のコマンドを実行し、ドライブ別 (C:、D:など) に情報が取得できることを確認してください。

```
# Systemwalkerインストールディレクトリ¥Mpwalker.DM¥MpTrfExA¥bin¥MpPerfStat.exe  
LogicalDisk ""Free Megabytes"" 1 1  
# Systemwalkerインストールディレクトリ¥Mpwalker.DM¥MpTrfExA¥bin¥MpPerfStat.exe  
PhysicalDisk ""% Disk Time"" 1 1
```

19.6 ネットワーク性能監視/サーバ性能監視のしきい値超えアラームが通知される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

しきい値はデフォルト値が設定されています。その値を超えた場合にアラームが通知されます。

サーバ性能の場合

サーバ性能の収集は、OSインタフェースを使用しています。OSインタフェースについては、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“サーバ性能情報の収集インタフェース”を参照してください。

Windowsのディスク関連の性能情報(ディスクビジー率、ディスク空き容量、ディスク使用率、ディスク待ち要求数)を監視している場合、OSのアプリケーションインタフェースを介してディスクへのアクセスが発生します。よって、ディスクのバックアップ等を行う場合に、OSのエラーメッセージが出力されるため、性能監視のサービス(Systemwalker MpTrfExA)を停止してから実施してください。

サーバ性能監視機能は、性能データを以下のパラメタに従い、サンプリングとしきい値超えを判定します。

表19.1 パラメタと説明

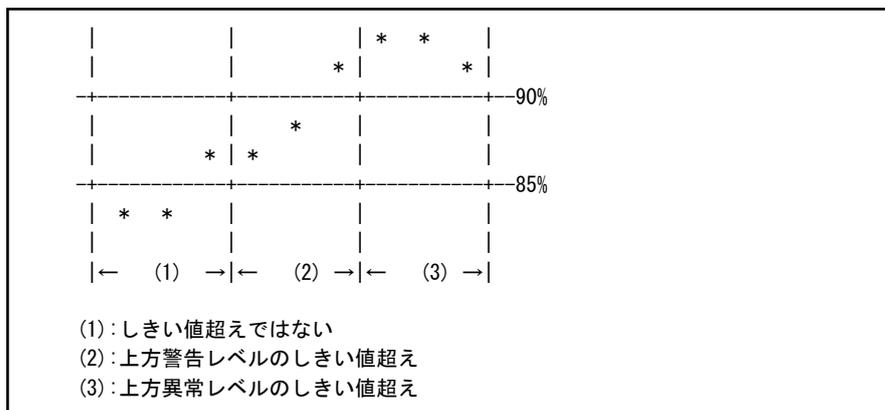
パラメタ	説明
サンプリング回数	データを取得する回数を指定します。
サンプリングの間隔	秒単位でデータを取得する間隔を指定します。
しきい値	しきい値を指定します。
判定基準	しきい値超えを判断するためのデータ数です。

しきい値超えの判定は、サンプリング回数分のデータ取得が完了したときに行われます。サンプリングしたデータ中、しきい値を超えたデータが判定基準以上の場合に、異常および警告のしきい値超えイベントが出力されます。

[表:パラメタと説明]のパラメタの指定により、以下のようなしきい値監視を行うことができます。

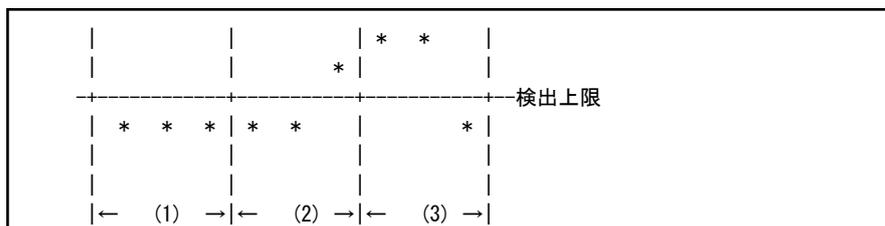
- 例) 連続N回しきい値を超えた場合アラームを上げる

- 異常検出上限:90%
- 警告検出上限:85%
- 異常検出判定基準:3回
- 警告検出判定基準:3回
- サンプリング回数:3回
- サンプリング間隔:60秒



- 例) M回中N回しきい値を超えた場合アラームを上げる

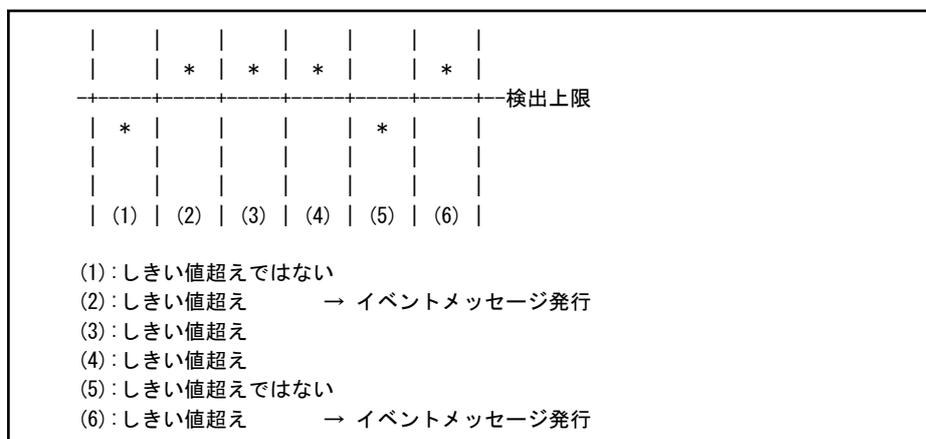
- 異常検出判定基準:2回
- サンプリング回数:3回



- (1): しきい値超えではない
- (2): しきい値超えではない
- (3): しきい値超え

サーバ性能監視機能は、しきい値超えイベントメッセージを一度発行すると、しきい値超え状態が復旧するまで再び発行しません。

- 例) イベントメッセージの出力タイミング



サーバ性能監視機能では、しきい値超えが復旧したときに自動対処を行うことが可能です。

ネットワーク性能の場合

ネットワーク性能の監視では、SNMPのMIB情報をもとに性能情報を収集しています。収集するMIB情報については、以下のマニュアルを参照してください。

- V10.0L10/10.0～V13.3.0
 “Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“付録C 性能監視の監視項目一覧”
- V5.0L10/5.0～V5.0L30/5.2
 “SystemWalker/CentricMGR V5.0L30 解説書”の“評価”

ネットワーク性能のサーバ性能(基本情報)は、性能監視拡張エージェントが収集した拡張MIBの値を収集しています。ネットワーク性能のサーバ性能(基本情報)を監視している場合、サーバ性能監視機能のポリシー設定のポーリング間隔が長いことにより、ネットワーク性能のマップ表示、レポート情報、アラーム通知が、実際のOSで発生していた時間より、遅れて収集されることがあります。

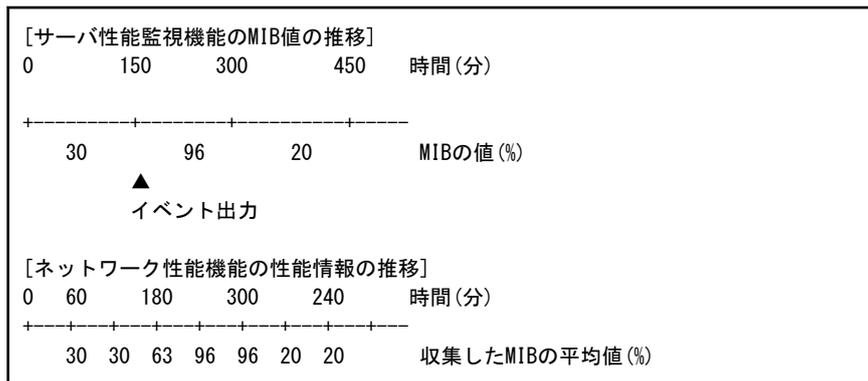
サーバ性能(基本情報)は、以下の3項目です。

CPU使用率 (Percentage of CPU usage)
ディスクビジー率 (Percentage of disk time)
ページフォルト数 (Page faults per second)

- 例)
 1. サーバ性能監視機能のポリシー設定
 - サンプリング間隔: 300秒
 - サンプリング回数: 30回

300秒間隔で30回収集した平均値がMIBに反映されます。本設定の場合、MIBの更新タイミングは9000秒(150分)となります。
 2. ネットワーク性能監視機能の設定
 - 性能監視情報収集間隔: 60分
 - 性能監視情報採取ポーリング間隔: 2分

2分間隔で採取した値の60分間における平均値をログに蓄積する。



上記のとおり、ネットワーク性能監視機能で収集した値は、サーバ性能監視のイベントが出力した時間と比較すると遅延して出力しているように見えます。

対処方法

以下のように、性能値の推移する状況に応じて、運用との関連性がないかを観点に確認します。

- 徐々に増加する傾向がみられる場合
業務アプリケーションなどをシステムに追加した、利用方法が変更となったなど、環境の変化が原因となっていないか確認します。
- 突発的に発生した場合
発生した時間帯で、一時的に業務アプリの処理量が増加したことなどが考えられます。定期的が発生する場合には、バッチジョブなどが動作する時間帯か確認します。

上記を確認後、通常の運用でも発生する場合は、システムとしての性能は、問題ないと判断することができます。この場合は、しきい値のチューニングを実施してください。なお、しきい値超えの項目がページフォルト数の場合、頻繁にしきい値超えが発生していなければ、対処は不要です。

19.7 サーバ性能監視のHD使用率/HD空き容量のしきい値超えアラームが通知される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

原因

Windowsのメンテナンス区画(ドライブ名が「disk-HarddiskVolume1」)や、SolarisのCD-ROMドライブが監視対象となっていたため、HD使用率/HD空き容量のしきい値超えアラームが通知されています。

対処方法

Windowsのメンテナンス区画およびSolarisのCDROMドライブは、監視の必要がありませんので、以下の対処を行ってください。

V10.0L10/10.0以前の場合

イベント監視の条件定義、およびアクション定義で、該当のアラームを抑制してください。

V10.0L20/V10.0L21/10.1の場合

運用管理サーバ上で以下のファイルを修正し、メンテナンス区画およびCD-ROMドライブを監視対象から外してください。

- Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpTrfMgr¥etc¥policy¥TemplateEx
¥Windows¥usr¥V52.cnf
```

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpTrfMgr¥etc¥policy¥TemplateEx
¥Solaris¥usr¥V52.cnf
```

- Solaris版の場合

```
/opt/FJSVspmmg/etc/policy/TemplateEx/Windows/usr/V52.cnf
/opt/FJSVspmmg/etc/policy/TemplateEx/Solaris/usr/V52.cnf
```

修正箇所は以下のとおりです。

- Windowsのテンプレートの変更

```
[Category7]
TargetMeans = 2          ←0を 2に変更
TargetDevice1 = ^disk-HarddiskVolume

[Category8]
TargetMeans = 2          ←0を 2に変更
TargetDevice1 = ^disk-HarddiskVolume
```

- Solaris のテンプレートの変更

```
[Category7]
TargetMeans = 2          ←0を 2に変更
TargetDevice1 = ^disk-/cdrom ←追加
;TargetDevice1 = disk-/proc ←先頭に;を付けてコメント化
;TargetDevice2 = ^disk-/dev/fd ←先頭に;を付けてコメント化
[Category8]
TargetMeans = 2          ←0を 2に変更
TargetDevice1 = ^disk-/cdrom ←追加
;TargetDevice1 = disk-/proc ←先頭に;を付けてコメント化
;TargetDevice2 = ^disk-/dev/fd ←先頭に;を付けてコメント化
```

修正後、サーバ性能ポリシーを再配付することで反映されます。

19.8 性能情報出力/F3crTrfBcsvコマンドを実行するとエラーとなる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

エラーメッセージ

```
Error :(054): Failed to communication process. Destination host=ホスト名
MpTrfAgt: ERROR: 325: システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FtfMain 使用関数名=ftp 原因
  コード=553

MpTrfAgt: エラー: 325:システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FtfFtpMain 使用関数名
  =PutFile 原因コード=12003

MpTrfAgt: エラー: 325: システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FtfMain 使用 関数名=ftp 原因
  コード=other error

MpTrfAgt:ERROR:344: 性能情報ログ蓄積ファイルの転送処理に失敗しました。発生関数名=FtfMain 使
  用関数名=ftp 原因コード=553
```

MpTrfAgt:ERROR:344: 性能情報ログ蓄積ファイルの転送処理に失敗しました。発生関数名=FtfFtpMain
使用関数名=PutFile 原因コード=12003

原因

- ・ エラーコード054:FTPでのエラー(転送先ディレクトリ/ファイルにアクセスできない、運用管理サーバ上でFTPサーバが動作していないなど)となった場合に発生します。
- ・ 原因コード=553:転送先ディレクトリ/ファイルにアクセスできない場合に発生します。
- ・ 原因コード=12003:運用管理サーバのFTPの仮想ディレクトリ設定において、エイリアス名を“MpTrfMgr”として設定していない、または、仮想ディレクトリに設定しているパスのディレクトリが存在しないことが考えられます。
- ・ 原因コード=12029:運用管理サーバにFTP接続できない場合に出力します。
- ・ 原因コード=12014/331:FTPユーザアカウント、パスワードの誤りが考えられます。
- ・ 原因コード=other error:FTPの環境設定に問題がある場合に出力します。

対処方法

- ・ 転送先ディレクトリ/ファイルにアクセスできない。
以下のディレクトリに対して、アクセスするアカウントに応じて読み取り、および、書き込み権を設定します。アクセスするアカウントは、性能情報出力の[FTPユーザアカウント設定]ダイアログボックスで指定します。

ー Windows版の場合

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpTrfMgr

ー Solaris版、Linux版の場合

/opt/FJSVspmmg/tmp/tmp
/opt/FJSVspmmg/tmp/regular

- ・ FTPサービスが停止している。
FTPサービスを起動してください。
- ・ FTPユーザアカウント、パスワードに誤りがある。
FTPサービスに指定したユーザアカウントとパスワードで接続できることを確認してください。
正しいFTPユーザアカウント、パスワードを性能情報出力の[FTPユーザアカウント設定]ダイアログボックスで指定してください。
- ・ FTPの環境設定に問題がある。
FTPサービスを使用できる状態にしてください。

対処2

エラーメッセージ

Error: (047): Failed to communication process.

Warning: (053): There was no target information.

Error: (054): Failed to communication process.

MpTrfAgt: ERROR: 209:送信先機能Unknownが見つかりませんでした。

MpTrfAgt: ERROR: 325:システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FtfCopyFile 使用関数名=CopyFile

原因

エラーコード047は、ログ蓄積ファイルを転送するのに時間がかかりタイムアウトした場合に発生します。エラーコード054は、ログ蓄積ファイル切替え前のファイルに格納された情報を出力しようとした場合に発生します。

または、性能情報出力の対象範囲に指定する日付の指定が誤っている場合に発生します。

対処方法

収集が完了し切り替わったログ蓄積ファイルを出力する運用にしてください。(ログ蓄積ファイル切替え日以降に実施)

また、ログ蓄積ファイル切替え単位が「月」の場合は、大きなファイルを処理することになりますので、「日」切替えへの変更を検討してください。

切り替え日を過ぎている場合は、性能情報出力の対象範囲に指定する日付に、ログ蓄積ファイルの作成された日付(切替え日)を指定して出力してください。なお、性能監視の運用を開始した月は、ポリシー設定・配付した日が作成日となります。

対処3

エラーメッセージ

Error :(055): Faild to Access acmulated log cumulative fail.

原因

1. エラーコード055は、ログ蓄積ファイルの展開先のドライブに一時ファイルを作成するために必要な十分な領域が無かった場合に発生します。圧縮されたログ蓄積ファイルを展開する場合に約12倍以上の空き領域が必要となります。
2. ログ蓄積ファイルの容量が 2GB を超えており、ファイル操作に用いているAPIが 2GB を超えるファイル操作を行えないためです。

対処方法

1. 環境変数「TMP」に設定されているディレクトリを展開先として使用しますので、コマンドを実行する前に一時的に環境変数「TMP」を十分な空き領域があるドライブに変更してください。

以下に例を示します。

```
set TMP=D:¥
```

```
F3crTrfBcsv -t TRF -d 0331 D:¥file.csv
```

ここで設定した環境変数は、コマンドを実行したコマンドプロンプト内でのみ有効となります。ほかの機能では影響ありません。

2. ログ蓄積ファイルの作成方法を変更します。

1. 以下の手順で[性能監視-全体詳細設定(ネットワーク性能)]画面を開きます。

【V13.2.0以前およびV13.3.0(監視ポリシーの管理形式が互換モード)の場合】

- a. Systemwalkerコンソールより以下のメニューを開きます。

[ポリシー] - [ポリシーの定義] - [ネットワークの性能] - [全体]

- b. [性能監視機能]のコンボボックスを「ON」にし、[監視対象]欄から監視対象の種別を選択します。既に設定済みの場合は再設定する必要はありません。

- c. [詳細設定]ボタンをクリックします。

【V13.3.0(監視ポリシーの管理形式が通常モード)の場合】

Systemwalkerコンソールより以下のメニューを開きます。

[ポリシー] - [監視] - [ネットワークの性能(全体)]

2. [動作環境]タブを表示します。
3. ログ蓄積ファイル切替え単位を確認します。
4. 切替え単位が「月」の場合「日」に変更します。
5. [OK]ボタンをクリックします。

6. [更新]ボタンをクリックします。
7. 設定した情報を各サーバへ配付します。

対処4

エラーメッセージ

```
Error :(060): Failed to make csvfile.
```

原因

エラーコード060は、カレントディレクトリに一時ファイルを作成しますが、カレントディレクトリにファイルの書き込み権が無かった場合に発生します。

対処方法

以下のいずれかの方法で対処を実施してください。

- ・ カレントディレクトリに書き込み権を付加する。
- ・ カレントを書き込み権のあるディレクトリに移動し、パスを指定してコマンドを実行する。
- ・ カレントディレクトリに「Log」ディレクトリが存在する場合は、カレントを書き込み権のある別ディレクトリに移動するか、「Log」ディレクトリを移動する。

対処5

エラーメッセージ

```
警告: 通常、大きな並べ替えのリダイレクト入力の使用は並べ替えられる入力ファイルを直接指定するよりも遅くなります。
```

対処方法

出力されたメッセージはOSのものです。F3crTrfBcsvコマンドは正常に終了しており、対処の必要はありません。

対処6

エラーメッセージ

```
Error :(040): Failed to make execution environment. - FfuGetNode
```

原因

運用管理サーバのSystemwalker Centric Managerが停止している、またはオプション「-h」で指定したホストが運用管理サーバ/部門管理サーバでない場合に、上記のメッセージが出力されます。

対処方法

Systemwalker Centric Managerが正しく起動していることを確認してください。

正しく起動している場合は、オプション「-h」には運用管理サーバ、または部門管理サーバを指定してください。

停止している場合は、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

19.9 ネットワーク性能監視の回線使用率のしきい値超えアラームが通知される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

原因

“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”に記載されている計算式が誤っているため、リファレンスマニュアルを参照して回線使用率のしきい値を設定した場合、予期しないタイミングでアラームが通知されます。

対処方法

以下の計算式を参照し、回線使用率のしきい値を設定しなおしてください。

MIB情報の先頭に“Δ”が付いているのは、差分計算を行うことを表しています。

$$\text{回線使用率 (\%)} = \frac{(\Delta \text{ifLnOctets} + \Delta \text{ifOutOctets}) \times 8}{\text{ifSpeed} \times \text{ポーリング間隔} \times 60 \text{ (秒)}} \times 100$$

インタフェース種別がWANの場合は、全二重回線とみなし、回線容量 (ifSpeed) を二倍にして算出します。

また、CSVファイルの値から計算するには、ネットワーク性能監視のポリシーに設定した[性能情報収集間隔]を考慮する必要があります。回線使用率の計算式は、以下のようになります。

MIB名	CSVファイル
ifInOctets	→ No. of inbound octets
ifOutOctets	→ No. of outbound octets
ifSpeed	→ 実際にifSpeed MIBを取得します。

$$\text{回線使用率 (\%)} = \frac{([\text{No. of inbound octets}] + [\text{No. of outbound octets}]) \times 8}{\text{ifSpeed} \times \text{性能情報収集間隔} \times 60 \text{ (秒)}} \times 100$$

インタフェース種別がWANの場合は、全二重回線とみなし、回線容量 (ifSpeed) を二倍にして算出します。

19.10 F3crTrfEpdbコマンドを実行するとエラーとなる

エラーメッセージ

```
Error :(054): Failed to communication process. Destination host=ホスト名
MpTrfAgt: ERROR: 325: システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FtfMain 使用関数名=ftp 原因コード=553
MpTrfAgt: エラー: 325: システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FtfFtpMain 使用関数名=PutFile 原因コード=12003
MpTrfAgt: ERROR: 344: 性能情報ログ蓄積ファイルの転送処理に失敗しました。発生関数名=FtfMain 使用関数名=ftp 原因コード=553
MpTrfAgt: ERROR: 344: 性能情報ログ蓄積ファイルの転送処理に失敗しました。発生関数名=FtfFtpMain 使用関数名=PutFile 原因コード=12003
MpTrfAgt: ERROR: 325: システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FtfMain 使用関数名=ftp 原因コード=other error
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降

原因

FTP環境や設定等に問題があり、FTPで転送先ディレクトリ/ファイルにアクセスできない場合に発生します。また、クラスタ環境では自部門の判定を、Systemwalker Centric Managerに設定された代表IPアドレスとホスト名解決で得られたIPアドレスとの比較で行っていますが、IPアドレスが異なっている場合に発生します。

対処方法

運用管理サーバ上で、以下のディレクトリに対して、アクセスするアカウントに応じて読み取り、書き込み権を設定してください。アクセスするアカウントは、性能情報出力の[FTPユーザアカウント設定]ダイアログボックスで指定してください。

なお、原因コードが other error の場合、FTP環境に問題があると考えられます。FTPが正しく使用できるように環境の見直しをしてください。

- Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpTrfMgr
```

- Solaris版の場合

```
/opt/FJSVspmmg/tmp/tmp
/opt/FJSVspmmg/tmp/regular
```

また、Windowsの場合は、FTPサーバでエイリアス名を“MpTrfMgr”として、[ディレクトリアクセス権の設定]でアクセス権を設定したディレクトリを指定してください。または、性能情報出力の[FTPユーザアカウント設定]ダイアログボックスで、rootユーザを指定してください。

クラスタ環境では、Systemwalker Centric Managerに設定された代表IPアドレスとホスト名解決で得られるIPアドレスを同じにしてください。

19.11 コミュニティ名を変更したらサーバ性能情報の監視・収集ができない

対処1

エラーメッセージ

```
性能拡張エージェントがインストールされていないか、起動されていません。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降(*1)
 - Linux版 : V10.0L10以降
 - Linux for Itanium版:V12.0L10以降

(*1)5.0/5.1/5.2/10.0については、以下の緊急修正が適用されている場合の説明となります。

バージョン	緊急修正
5.0	TJ00088以降
5.1	T006ES-01以降
5.2	T006FS-01以降
10.0	T006GS-01以降

原因

ノードプロパティのコミュニティ名とSNMPエージェント、および性能監視拡張エージェントのコミュニティ名の指定が一致していない場合に発生します。一致していない場合、ノード詳細の表示(サーバ性能)で「情報獲得に失敗しました」メッセージが出力されます。

対処方法

【Solaris 9以前】

SNMPエージェントのコミュニティ名を変更しているサーバで、性能監視のサーバ性能情報を収集する場合、以下のファイルにコミュニティ名を定義する必要があります。

ここでは、SNMPエージェントに設定されているコミュニティ名を、“FUJITSU”と仮定して説明します。

- /opt/FJSVspmex/etc/MpTrfExAgt.acl

変更前

```
acl = {
    {
        communities = public, private
        access = read-write
        managers = *
    }
}
```

変更後

```
acl = {
    {
        communities = public, private
        access = read-write
        managers = *
    }
    {
        communities = FUJITSU
        access = read-only
        managers = *
    }
}
```

設定が完了したら、性能監視拡張エージェントとSNMPエージェントを再起動します。

```
# /etc/init.d/init.snmpdx stop
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/K00swpmexa stop
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa start
```

【Solaris 10】

SNMPエージェントのコミュニティ名を変更しているサーバで、性能監視のサーバ性能情報を収集する場合、以下のファイルにコミュニティ名を定義する必要があります。

- /etc/sma/snmp/snmpd.conf

ここでは、SNMPエージェントに設定されているコミュニティ名を、“FUJITSU”と仮定して説明します。

変更前

```
rocommunity public
```

変更後

```
rocommunity FUJITSU
```

設定が完了したら、性能監視拡張エージェントとSNMPエージェントを再起動します。

```
# /etc/init.d/init.sma stop
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/K00swpmexa stop
```

```
# /etc/init.d/init.sma start
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa start
```

【Linux版(V12.0L10以前)】

“性能監視(システム性能収集)機能”をインストールした場合、以下のとおり編集する必要があります。

ここでは、SNMPパケットの受け付けを許可するホストのIPアドレスを"10.20.30.40"、コミュニティ名を"FUJITSU"と仮定して説明します。

設定ファイル

```
/etc/snmp/snmpd.conf
```

変更前

```
com2sec systemwalker default public
```

変更後

```
com2sec systemwalker localhost FUJITSU
```

※SNMP要求はすべて性能監視拡張エージェントから転送されるため、ローカルホスト内の通信を許可します。

設定ファイル

```
/opt/FJSVspmex/etc/exasnmpr.conf
```

変更後

```
[community]
name1=FUJITSU ...外部からの要求を受け付けるコミュニティ名を指定します。
name2=test ...複数コミュニティを設定する場合は、連番で設定します。

[FUJITSU] ...nameに対応するコミュニティ名を記述し、設定を行いません。
access=read-write ...コミュニティのアクセス権を設定します。(read-write、read-only)
ip1=10.20.30.40 ...上位サーバ(運用管理サーバまたは部門管理サーバ)のIPを設定します。
mask1=255.255.255.0 ...上位サーバのIPのネットマスクを指定します。
ip2=10.20.30.50 ...複数IPを設定する場合は連番で設定します。
mask2=255.255.255.0

[test]
access=read-write
ip1=10.20.30.40
mask1=255.255.255.0
```

設定が完了しましたら、性能監視拡張エージェントとSNMPエージェントを再起動します。

```
# /etc/init.d/snmpd stop
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/K00swpmexa stop
# /etc/init.d/snmpd start
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa start
```

【Linux版(V13.0.0以降)/Linux for Itanium】

“性能監視(システム性能収集)機能”をインストールした場合、以下のファイルを編集する必要があります。

ここでは、SNMPパケットの受け付けを許可するホストのIPアドレスを"10.20.30.40"、コミュニティ名を"FUJITSU"と仮定して説明します。

設定ファイル

```
/etc/snmp/snmpd.conf
```

変更前

```
com2sec systemwalker default public
```

変更後

```
com2sec systemwalker 10.20.30.40 FUJITSU
```

設定が完了しましたら、性能監視拡張エージェントとSNMPエージェントを再起動します。

- Red Hat Enterprise Linux 6以前の場合

```
# /etc/init.d/snmpd stop
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/K00swpmexa stop
# /etc/init.d/snmpd start
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa start
```

- Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合

```
# systemctl stop snmpd
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/K00swpmexa stop
# systemctl start snmpd
# /opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa start
```

対処2

エラーメッセージ

```
community_check();bad community from xxxx
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

SNMPエージェントが、Systemwalker Centric Manager や その他の製品が使用しているコミュニティ名を許可していません。

対処方法

以下のどちらかの対処を行ってください。

- SNMPエージェントのコミュニティ名の設定を変更し、Systemwalker Centric Managerやその他の製品が使用しているコミュニティ名を許可するようにします。
- Systemwalker Centric Managerを含むSNMPエージェントに対して要求を出す製品の設定を変更し、SNMPエージェントに対する要求を、SNMPエージェントが許可しているコミュニティ名で行うようにします。

19.12 性能監視[ノード詳細表示(サーバ性能)]ウィンドウが表示できない

エラーメッセージ

以下のポップアップメッセージが出力されます。

```
“通信処理に失敗しました.運用管理クライアント,運用管理サーバ,部門管理サーバ上の性能監視サービスが起動されていない可能性があります.”
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

運用管理サーバに以下のメッセージが出力されていることを確認します。

```
MpTrfAgt: WARNING: 201: %1との接続が行えませんでした。原因コード=%2
```

%1= 運用管理クライアントのIPアドレス

%2=145 または 10060

運用クライアントがWindows XP以降のOSであり、ファイアウォールが有効になっていることを確認します。

原因

運用管理サーバと運用管理クライアントが通信するために必要なポート2750(TCP/IP)が、ファイアウォールにてフィルタされています。

対処方法

運用管理クライアントのファイアウォールの設定で、2750ポート(TCP/IP)を許可します。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバ、部門管理サーバの性能監視サービスが起動していることを確認します。

原因

運用管理サーバ、または部門管理サーバの性能監視サービスMpTrfAgt が起動していません。

対処方法

性能監視のサービスを再起動します。

- Solaris版、Linux版の場合

```
/opt/FJSVspmag/etc/rc/swpmagt stop  
/opt/FJSVspmag/etc/rc/swpmagt start
```

- Windows版の場合

```
net stop MpTrfAgt  
net start MpTrfAgt
```

対処3

確認ポイント

業務サーバのSNMPサービスから情報が取得できることを確認します。情報を取得できない場合は、以下の対処方法で対処してください。

原因

以下の原因が考えられます。

- ・ 指定した業務サーバのSNMPサービスが停止しています。
- ・ 指定した業務サーバのSNMPサービスに設定したコミュニティ名が誤っています。
- ・ 指定した業務サーバのSNMPサービスからデバイスの連続稼働時間 (sysUpTime) のMIBが取得できません。

対処方法

原因に従い、以下の対処を行います。

- ・ 指定した業務サーバのSNMPサービスを起動します。
- ・ 指定した業務サーバのSNMPサービスに設定したコミュニティ名が誤っている場合は、“[コミュニティ名を変更したらサーバ性能情報の監視・収集ができない](#)”に従って、コミュニティ名を修正します。
- ・ 指定した業務サーバのSNMPサービスからMIB-2で定義されているデバイスの連続稼働時間 (sysUpTime) のMIBが取得できない原因を取り除きます。

例)Linuxにおいてsnmp.confの設定でsystemグループ(1.3.6.1.2.1.1)が無効になっている。

```
# view systemview included .1.3.6.1.2.1.1
```

↑コメントになっている。

sysUpTime (1.3.6.1.2.1.1.3.0)を含むMIBの取得を許可します。

```
view systemview included .1.3.6.1.2.1.1
```

すべて許可する場合は、以下のように設定します。

```
view all included .1 80
```

対処4

確認ポイント

運用管理サーバ、部門管理サーバまたは運用管理クライアントに以下のメッセージが出力されていることを確認します。

```
MpTrfMgr: WARNING: 201: %1との接続が行えませんでした。原因コード=%2  
MpTrfAgt: WARNING: 201: %1との接続が行えませんでした。原因コード=%2
```

%1= 運用管理サーバ、部門管理サーバまたは運用管理クライアントのIPアドレス

%2=145 または 10060

運用管理サーバと運用管理クライアント間、または運用管理サーバと部門管理サーバ間の通信経路に設置されている通信機器の設定でファイアウォールが有効になっていることを確認します。

原因

運用管理サーバと運用管理クライアント間、または運用管理サーバと部門管理サーバ間の通信を行う上で必要なポート2750(TCP/IP)が、ファイアウォールにてフィルタされています。

対処方法

通信機器のファイアウォールの設定で、2750ポート(TCP/IP)を許可してください。

19.13 [性能監視-ポリシー設定(サーバ性能)]ウィンドウが表示できない

エラーメッセージ

以下のポップアップメッセージが出力されます。

```
“通信処理に失敗しました.性能監視サービスが起動されているか確認してください。”
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30以降
 - Solaris版:5.2以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

運用管理サーバに以下のメッセージが出力されていることを確認します。

```
MpTrfAgt: WARNING: 201: %1との接続が行えませんでした。原因コード=%2
```

%1= 運用管理クライアントのIPアドレス

%2=145 または 10060

運用管理クライアント上において、ファイアウォールが有効になっていることを確認します。

(Windows XP以降のOSではファイアウォールが有効になっています。)

原因

運用管理サーバと運用管理クライアントが通信するために必要なポート2750(TCP/IP)が、ファイアウォールにてフィルタされています。

対処方法

運用管理クライアントのファイアウォールの設定で、2750ポート(TCP/IP)を許可します。

対処2

確認ポイント

運用管理サーバの性能監視サービスが起動していますか。

原因

運用管理サーバの性能監視サービスMpTrfAgt が起動していません。

対処方法

性能監視のサービスを再起動します。

【Solaris/Linux】

```
/opt/FJSpmag/etc/rc/swpmagt stop  
/opt/FJSpmag/etc/rc/swpmagt start
```

【Windows】

```
net stop MpTrfAgt  
net start MpTrfAgt
```

対処3

確認ポイント

運用管理サーバ、部門管理サーバまたは運用管理クライアントに以下のメッセージが出力されていることを確認します。

```
MpTrfMgr: WARNING: 201: %1との接続が行えませんでした。原因コード=%2
MpTrfAgt: WARNING: 201: %1との接続が行えませんでした。原因コード=%2
```

%1= 運用管理サーバ、部門管理サーバまたは運用管理クライアントのIPアドレス

%2=145 または 10060

運用管理サーバと運用管理クライアント間、または運用管理サーバと部門管理サーバ間の通信経路に設置されている通信機器の設定でファイアウォールが有効になっていることを確認します。

原因

運用管理サーバと運用管理クライアント間、または運用管理サーバと部門管理サーバ間の通信を行う上で必要なポート2750(TCP/IP)が、ファイアウォールにてフィルタされています。

対処方法

通信機器のファイアウォールの設定で、2750ポート(TCP/IP)を許可してください。

19.14 ネットワーク性能監視のポリシー設定でエラーとなる

エラーメッセージ

```
Systemwalker CentricMGRが起動されていません。運用管理サーバ上でSystemwalker CentricMGRを再起動してください。(詳細コード=2008)
```

```
ネットワーク性能の監視対象数が多い場合にポリシーの作成に時間がかかります。しばらく時間をおいて、ポリシーの配付状況画面でネットワーク性能ポリシーが配付待ちになっていることを確認後、ポリシーの配付を行ってください。(詳細コード=2008)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ネットワーク性能監視のポリシー設定において、監視対象のインタフェース数が多いときに、ポリシー情報の作成処理に時間がかかりタイムアウトした場合に発生します。なお、エラーのダイアログメッセージが表示されますが、ポリシー情報の作成処理は継続して行われます。

対処方法

ポリシー情報の作成処理は正常に行われていますので、しばらく時間をおいて[ポリシーの配付状況]画面でネットワーク性能監視のポリシーが配付待ちになっていることを確認後、ポリシーの配付を行ってください。

19.15 ネットワーク性能監視/サーバ性能監視のしきい値超えアラームが通知されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

原因

取得した性能情報が設定したしきい値を超えている場合、しきい値超えのアラームが通知されます。

ただし、しきい値超え状態が継続している場合、しきい値超えのアラームが通知されるのは、最初にしきい値を超えたときだけです。いったんしきい値超えの状態が復旧するまで、次のアラームは通知されません。

19.16 サーバ性能監視の抑止(性能監視拡張エージェントの起動抑止)ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降
 - AIX版:11.0以降
 - HP-UX版:11.0以降

原因

マニュアル「Systemwalker Centric Manager 導入手引書 -UNIX共通-」の「C.1.1 デーモン起動制御ファイルのカスタマイズ」の性能監視(FJSVspmx)の備考欄に記載されているコマンド「setupsea.sh」が存在しないため、サーバ性能監視が不要な場合などに、性能監視拡張エージェントの起動抑止ができません。

対処方法

以下の手順で性能監視拡張エージェント(FJSVspmx)を起動抑止してください。

[Solaris版の場合]

1. 以下のコマンドを実行して性能監視拡張エージェントを停止します。

```
# /opt/FJSVspmx/etc/rc/K00swpmexa stop
```

2. 以下のコマンドを実行して性能監視拡張エージェントの環境を初期化します。このとき、SNMPエージェントが停止します。

```
# /opt/FJSVspmx/etc/rc/setupsea.sh -u
```

3. 以下のコマンドを実行し、SNMPエージェントを起動します。

```
# /etc/init.d/init.snmpdx start
```

4. 以下のファイルをviなどで編集し、Systemwalker Centric Managerの起動時に性能監視拡張エージェントが起動しないようにします。

- V13.1.0以降の場合

ファイル名	/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc2.ini
-------	---

- 5.2.1以前および10.1からV13.0.0の場合

ファイル名	/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/rc3.ini
-------	---

- 10.0の場合

ファイル名	/etc/opt/FJSVftlc/daemon/custom/start_fw.ini
-------	--

[修正前]

DAEMONXX="/opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa start"
--

[修正後]

#DAEMONXX="/opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa start"

※先頭に "#" を付加し、コメント行にします。

※XXは、ご利用の版またはインストール種別により異なります。

※ほかのDAEMONはコメント行にしないでください。

なお、性能監視拡張エージェントを起動抑止される場合、性能監視拡張エージェントをプロセス監視の監視対象から外してください。

[Linux版の場合]

1. 以下のコマンドを実行してアンセットアップします。

\$ /opt/FJSVspmex/etc/rc/setupRelay.sh -u

2. 以下のファイルを削除します。

/opt/FJSVspmex/etc/rc/swpmexa

3. SNMPエージェント(snmpd)も一緒に停止されるため、以下のコマンドで再起動します。

【Red Hat Enterprise Linux 6以前】

\$ /etc/init.d/snmpd start

【Red Hat Enterprise Linux 7以降】

\$ systemctl start snmpd

[AIX版の場合]

以下のコマンドを実行してアンセットアップします。

\$ /opt/FJSVspmex/etc/rc/setup.sh -u

SNMPエージェント(snmpd)も一緒に停止されるため、以下のコマンドで再起動します。

\$ startsrc -s snmpd

[HP-UX版の場合]

以下のコマンドを実行してアンセットアップします。

\$ /opt/FJSVspmex/etc/rc/setup.sh -u

SNMPエージェント(snmpd)も一緒に停止されるため、以下のコマンドで再起動します。

SNMPエージェントの起動方法は、/sbin/SnmpAgtStart.d 配下に存在するファイルのうち、ファイル名が「S」ではじまり、2文字目以降の数字が小さいものを start パラメタで指定して実行します。

```
$ /sbin/SnmpAgtStart.d/SxxScriptName start
```

→「SxxScriptName」は任意のスクリプト名を意味します。

19.17 ノード/インタフェースがネットワーク性能監視の監視対象にできない

ネットワーク性能ポリシー設定でノード、またはインタフェースが性能監視の監視対象にできない。

エラーメッセージ

選択されたノードはインタフェース構成が不当なため、性能監視の対象にすることができません。
ノード構成情報を確認してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ネットワーク性能監視では、以下のようなノード/インタフェースを監視することができません。

- DHCPを使用している。
- RAS接続している。
- SNMPエージェントが実装されていない。
- ifIndex が "0" のインタフェースが存在する。
- Ethernet であり、かつIPアドレスが "0.0.0.0" である。
- ifType、ifSpeed、ifIndex に値が入っていない。

対処1

確認ポイント

ノードプロパティを確認し、DHCP、RASがチェックされていることを確認してください。

原因

- DHCPを使用している。
- RAS接続している

対処方法

対処不要です。監視対象を見直してください。

対処2

確認ポイント

ノードプロパティを確認し、有効なSNMPエージェントのバージョンがNoneの場合はSNMPエージェントが認識されていません。

- V10.0L21/10.1 以前
監視対象ノード上にSNMPエージェントが実装されているか確認します。

- ・ V11.0L10/11.0以降

ノードプロパティを確認し、有効なSNMPエージェントのバージョンがNoneの場合はSNMPエージェントが認識されていません。

原因

- ・ SNMPエージェントが実装されていない。

対処方法

ネットワーク性能監視を行うためにはSNMPエージェントが実装されている必要があります。監視対象機器にSNMPエージェントが実装されていることを確認後、ノード検出を行ってください。

対処3

確認ポイント

ノードプロパティを確認し、インタフェース情報に必要な情報が入っていることを確認してください。

原因

- ・ ifIndex が "0" のインタフェースが存在する。
- ・ Ethernet であり、かつIPアドレスが "0.0.0.0" である。
- ・ ifType、ifSpeed、ifIndex に値が入っていない。

対処方法

監視対象機器のインタフェース情報に問題がないことを確認後、ノード検出を行ってください。

対処4

確認ポイント

mpsetnodコマンドの実行に失敗した場合、エラーメッセージの中の"code"を確認してください。

対処方法

codeが"01cb5d5c"の場合、フレームワークデータベースのディスク領域が不足しています。フレームワークデータベースの領域を拡張してください。

上記以外のコードが出力された場合、技術員に連絡してください。

19.18 ネットワーク性能の監視対象から外れる

ネットワーク性能の監視対象ノード、監視対象インタフェースが監視対象から外れて、性能情報が取得できなくなる。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

[ポリシー]-[性能監視-全体詳細設定(ネットワーク性能)]の[動作環境]の設定で、[構成情報とポリシーの同期配付]が[同期のみ]、[同期・配付]になっていることを確認してください。

該当ノード、該当インタフェースのノードプロパティを確認してください。

原因

ネットワーク性能監視のポリシーでノード構成情報の変更と同期する設定の場合、ノード検出等により、以下のような変更が発生すると性能監視の対象から外れます。

- DHCPの使用に変更した。
- RAS接続に変更した。
- SNMPエージェントを停止、またはアンインストールし、SNMPエージェントが認識されていない。
- 監視対象インタフェースが削除された。
- 監視対象インタフェースのifIndexが0になった。
- 監視対象インタフェースのifTypeがEthernetであり、かつIPアドレスが“0.0.0.0”になった。

対処方法

計画的な機器の設定変更によるものであり、意図的に監視対象から外れた場合は対処する必要はありません。機器を設定変更する前の状態で監視を継続する場合は、[ポリシー]-[性能監視-全体詳細設定(ネットワーク性能)]の[動作環境]の設定で、[構成情報とポリシーの同期配付]を[なし]に変更します。機器の設定変更を反映する場合は、再度ネットワーク性能監視のポリシー設定を行ってください。

19.19 サーバ性能監視のメモリ使用率のしきい値超えアラームが通知される

エラーメッセージ

MpTrfExA: エラー: 901: 監視項目 (Percentage of main memory usage)の値が上方異常レベルを上回りました。
MpTrfExA: 警告: 903: 監視項目 (Percentage of main memory usage)値が上方警告レベルを上回りました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

監視対象サーバにおいて、メモリ使用率(物理メモリの使用率)が、設定したしきい値を超えました。

対処方法

物理メモリを大量に使用している要因を確認し、対処してください。

19.20 「mprcvtrp.exe」というプロセスのCPU使用率が高くなり、メモリ使用量が増える

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

監視機器から短時間に大量のSNMPトラップが通知されたことにより、トラップ変換機能の処理が滞留し、処理を行うプロセスのCPUの使用率が高くなり、メモリ使用量が増加します。トラップ変換機能の変換性能の目安は以下のとおりです。

- 5.1/V5.0L20版以前:5秒～10秒に1個のトラップ
- 5.2/V5.0L30版以降:0.1秒～0.2秒に1個のトラップ

対処方法

SNMPトラップ送信元の調査を行い、大量にSNMPトラップが発生した原因を取り除いてください。

SNMPトラップが大量に通知されているかは、原因に記載されている目安を超えたトラップが通知されているかを確認してください。送信元については、Systemwalkerコンソールに表示されているメッセージのエージェントアドレスで確認できます。

19.21 「MpTrfAgt:205」のメッセージが出力される

エラーメッセージ

- V10.0L21版以前

```
%1に対する%2の計算処理において、ゼロによる割り算が発生しました。時刻=%3
```

- V11.0L10版以降

```
MpTrfAgt: 警告: 205: %1から取得したMIB情報が不当のため、監視項目%2の監視をスキップしました。時刻=%3
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V3.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ホスト%1に対するネットワーク性能監視機能の監視項目%2の計算処理において、監視対象ノードより取得したMIB情報が不当な値のため、性能情報を算出する際に計算式の分母が不当な値になっています。

%2は監視項目(回線種別)[ifIndex]です。監視項目は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。回線種別は、“備考”を参照してください。

ifIndexは原因となったインタフェースのifIndexです。ホスト%1のノードプロパティで確認します。

対処1

確認ポイント

- %2がPercentage of interface usageである。
- %1の監視インタフェースのifSpeedが0である。

原因

回線使用率を計算するために必要な回線速度を示すMIBオブジェクトの値が0です。

対処方法

このようなノードを監視するために、性能監視では性能情報の算出のために使用する回線速度を設定することができます。

この方法で回線速度を設定した場合、監視対象ノードからどのようなifSpeedの値が返却された場合も、設定した回線速度で性能情報を算出します。回線速度の設定方法は、以下のとおりです。

• V5.0L20/5.1以前の場合

1. 運用管理サーバ上で、以下のファイルを編集します。

- Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpTrfMgr¥etc¥tiInterfacer¥ifSpeed.ini
```

- Solaris版の場合

```
/opt/FJSVspmmg/etc/tiInterfacer/ifSpeed.ini
```

2. 回線速度を設定します。

```
[Configuration]
NodeNumber=2
NodeName1=hostA
NodeName2=hostB
[hostA]
ipAddress=
ifNumber=
ifSpeed.X=
ifSpeed.X=
[hostB]
ipAddress=
ifNumber=
ifSpeed.X=
```

セクション名	キー名	説明
Configuration	NodeNumber	ここで設定するノードの総数を設定。
	NodeName1	設定するノードのホスト名を設定。ノード数により、NodeNameのサフィックスを昇順に設定。
	NodeName2	設定するノードのホスト名を設定。ノード数により、NodeNameのサフィックスを昇順に設定。
hostA	-	NodeName1で設定したホスト名を設定。
	ipAddress	hostAの代表IPアドレスを設定。
	ifNumber	hostAのインタフェースの総数を設定。
	ifSpeed.X	インタフェースの回線速度 (bps) を設定。Xにはインタフェース番号を設定。
hostB	-	NodeName2で設定したホスト名を設定。キー値については、hostAと同様に設定。

3. Systemwalkerコンソールで、[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[性能]-[全体]を選択します。

4. [OK]ボタンをクリックし、ポリシーを再作成します。

5. ポリシーを配付・適用します。

• V5.0L30/5.2以降の場合

1. Systemwalkerコンソールの監視マップで、問題のノードを選択します。

2. [ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[ネットワーク性能]-[ノード]を選択します。

3. [ノード設定]画面で、[詳細]ボタンをクリックします。
4. [インタフェース設定]画面で、問題のインタフェースを選択し、[変更]ボタンをクリックします。
5. [インタフェース情報設定]画面で、[回線速度(bps)]の項目を設定します。
6. ポリシーを作成し、配付・適用します。

対処2

確認ポイント

%2がPercentage of discarded packetsである、またはPercentage of error packetsである。

原因

破棄パケット率またはエラーパケット率の正常な送受信パケット数を表すMIBオブジェクトの値が0です。

対処方法

監視対象ノードの当該インタフェースは正常な送受信パケット数が0です。使用しない場合は、ポリシー定義で該当インタフェースを監視対象から外してください。

備考

ネットワーク性能の監視で取り扱う回線種別の一覧です。

ifTypeの値	名前	性能監視の回線種別
1	other	その他
2	regular1822	その他
3	hdh1822	その他
4	ddnX25	WAN
5	rfc877x25	WAN
6	ethernet	Ethernet
7	iso88023	Ethernet
8	TokenBus	Ethernet
9	TokenRing	FDDI
10	Man	WAN
11	starLan	Ethernet
12	proteon10Mbit	その他
13	proteon80Mbit	その他
14	hyperchannel	その他
15	fddi	FDDI
16	lapb	WAN
17	sdlc	WAN
18	ds1	WAN
19	e1	WAN
20	basisISDN	WAN
21	primaryISDN	WAN
22	propPoint	WAN
23	ppp	WAN

ifTypeの値	名前	性能監視の回線種別
24	softwareLoopback	その他
25	eon	その他
26	ethernet3Mbit	Ethernet
27	nsip	その他
28	slip	その他
29	ultra	その他
30	ds3	WAN
31	sip	WAN
32	frameRelay	WAN
33	rs232	その他
34	parallel-port	その他
35	arcnet	Ethernet
36	arcnetPlus	Ethernet
37	atm	WAN
38	miox25	その他
39	sonet	WAN
40	x25ple	WAN
41	iso88022llc	その他
42	localTalk	その他
43	smDsDmix	WAN
44	frameRelayService	WAN
45	v35	WAN
46	hssi	WAN
47	hippi	WAN
48	modem	その他
49	aal5	WAN
50	sonetPath	WAN
51	sonetVT	WAN
52	smDsIcip	WAN
53	propVirtual	その他
54	propMultiplexor	その他

対処3

エラーメッセージ

MpTrfAgt: WARNING: 205: (ノード)に対する(監視項目)の計算処理で、ゼロによる割り算が発生しました。

MpTrfAgt:WARNING:205:(ノード)から取得したMIB情報が不当のため、監視項目(監視項目)の監視をスキップしました。

確認ポイント

- 監視項目が[Percentage of Interface usage](=回線使用率)で発生した場合
監視対象ノードのSNMPエージェントより回線速度を表すMIBオブジェクト[ifSpeed]が0で返却されています。これは、SNMPエージェントの問題または仕様となります。
- 監視項目が、[Percentage of discarded packets](=破棄パケット率)、または[Percentage of error packets](=エラーパケット率)で発生した場合
監視対象ノードのSNMPエージェントから送受信パケットを表すMIBオブジェクトの値が“0”で返却されます。
- 該当インタフェースが使用されていない場合
Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[ネットワークの性能]-[ノード]で、該当インタフェースを監視対象から外してください。

原因

「ゼロによる割算」または「取得したMIB情報が不当」メッセージが発生している場合は、ネットワーク性能情報の収集(SNMP MIB-GET)で、監視対象ノードから取得した情報が不当だった場合、性能情報を算出する際に計算式の分母の値がゼロになることがあります。

対処方法

このようなノードを監視するために、性能監視では性能情報の算出のために使用する回線速度を設定することができます。

この方法で回線速度を設定した場合、監視対象ノードからどのようなifSpeedの値が返却された場合も、設定した回線速度で性能情報を算出します。回線速度の設定方法は、以下のとおりです。

- V5.0L20/5.1以前の場合

- 運用管理サーバ上で、以下のファイルを編集します。

- Windows版の場合

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpTrfMgr¥etc¥tiInterfacer¥ifSpeed.ini
```

- Solaris版の場合

```
/opt/FJSVspmmg/etc/tiInterfacer/ifSpeed.ini
```

- 回線速度を設定します。

```
[Configuration]
NodeNumber=2
NodeName1=hostA
NodeName2=hostB
[hostA]
ipAddress=
ifNumber=
ifSpeed.X=
ifSpeed.X=
[hostB]
ipAddress=
ifNumber=
ifSpeed.X=
```

セクション名	キー名	説明
Configuration	NodeNumber	ここで設定するノードの総数を設定。
	NodeName1	設定するノードのホスト名を設定。ノード数により、NodeNameのサフィックスを昇順に設定。
	NodeName2	設定するノードのホスト名を設定。ノード数により、NodeNameのサフィックスを昇順に設定。

セクション名	キー名	説明
hostA	-	nodeName1で設定したホスト名を設定。
	ipAddress	hostAの代表IPアドレスを設定。
	ifNumber	hostAのインタフェースの総数を設定。
	ifSpeed.X	インタフェースの回線速度 (bps) を設定。Xにはインタフェース番号を設定。
hostB	-	nodeName2で設定したホスト名を設定。キー値については、hostAと同様に設定。

3. Systemwalkerコンソールで、[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[性能]-[全体]を選択します。
4. [OK]ボタンをクリックし、ポリシーを再作成します。
5. ポリシーを配付・適用します。

・ V5.0L30/5.2以降の場合

1. Systemwalkerコンソールの監視マップで、問題のノードを選択します。
2. [ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[ネットワーク性能]-[ノード]を選択します。
3. [ノード設定]画面で、[詳細]ボタンをクリックします。
4. [インタフェース設定]画面で、問題のインタフェースを選択し、[変更]ボタンをクリックします。
5. [インタフェース情報設定]画面で、[回線速度(bps)]の項目を設定します。
6. ポリシーを作成し、配付・適用します。

19.22 性能情報出力/F3crTrfBcsvコマンドで出力する性能情報ファイルに対象ノードの情報が存在しない

ネットワーク性能の監視対象ノード、監視対象インタフェースが監視対象から外れて、性能情報が取得できなくなる。

対象バージョンレベル

・ Systemwalker Centric Manager

- Windows版:V5.0L10以降
- Solaris版:5.0以降
- Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

ネットワーク性能のポリシーを作成/配付後に、[性能情報収集間隔]以上の時間が経過しましたか。

原因

監視対象より採取した性能情報は、性能情報収集間隔ごとにログ蓄積ファイルに出力されます。ログ蓄積ファイルに出力されるまでは、性能情報ファイルに対象ノードの情報は存在しません。

対処方法

ネットワーク性能のポリシーを作成/配付後、[性能情報収集間隔]以上の時間経過後に性能情報出力/F3crTrfBcsvコマンドを実行します。

対処2

確認ポイント

対象ノードがネットワーク性能の監視対象になっていますか。

原因

対象ノードがネットワーク性能のポリシーで、監視対象になっていないことが考えられます。

対処方法

以下の操作をしてください。

1. Systemwalkerコンソールの監視マップで、対象のノードを選択します。
2. [ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[ネットワーク性能]-[ノード]を選択します。
3. [監視対象]をONに設定し、[OK]ボタンを押下します。
4. ポリシーを配付します。
5. [性能情報収集間隔]以上の時間経過後に、性能情報出力/F3crTrfBcsvコマンドを実行します。

対処3

確認ポイント

対象ノードの以下の情報が変更されていませんか。

- 代表インタフェース
- コミュニティ名
- インタフェース構成

原因

監視対象ノードのポリシー設定後に、対象ノードの構成情報が変更されたため、ネットワーク性能の情報収集ができていません。

対処方法

ノード検出実施後、以下の操作をしてください。

1. Systemwalkerコンソールの監視マップで、対象のノードを選択します。
2. [ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[ネットワーク性能]-[ノード]を選択します。
3. [ノード設定]画面で、[詳細]ボタンを押下します。
4. [インタフェース設定]画面で監視するインタフェースを選択し、[OK]ボタンを押下します。
5. [ノード設定]画面で、[OK]ボタンを押下します。
6. ポリシーを配付します。
7. [性能情報収集間隔]以上の時間経過後に、性能情報出力/F3crTrfBcsvコマンドを実行します。

第20章 ノード情報に関するトラブルシューティング

20.1 ノード情報を登録するときにエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

- [Windows版の場合]

```
MpOpaddRep: エラー: 0008:The system error occurred. (Detailedcode=30109030,0x00000000)
```

```
MpOpaddRep: エラー: 0008:The system error occurred.(Detailedcode=10409702,0x00000000)
```

```
MpOpaddRep: エラー: 0004:Failed in MpFwcm_MpCm_AddNode() (-5)
```

- [UNIX版の場合]

```
MpOpaddRep: ERROR: 0008: The system error occurred. (Detailedcode=30109030, 0x00000000)
```

```
MpOpaddRep: ERROR: 0008: The system error occurred.(Detailedcode=10409702, 0x00000000)
```

```
MpOpaddRep: ERROR: 0004: Failed in MpFwcm_MpCm_AddNode() (-5)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30
 - Solaris版:5.0～5.2.1
 - HP-UX版:5.1
 - Linux版:5.2

原因

構成情報に、ノードの情報を登録するとき、構成情報の排他がかかっていたことが原因です

対処方法

以下のタイミングで、ノード情報の更新時に構成情報の排他がかかり、エラーメッセージが出力されます。

- メッセージ発生時
- Systemwalker Centric Managerの起動時
- 業務サーバ、部門管理サーバのSystemwalker Centric Managerの起動時
- 業務サーバ、部門管理サーバで、以下のコマンドを実行したとき

```
opaconstat -a
```

そのまま使用しても問題はありません。エラーが気になる場合は、イベント監視の条件定義を使用し、本メッセージを監視対象から外してください。詳細は“Systemwalker Centric Manager 運用手引書”の“障害をフィルタリングする”を参照してください。

20.2 ノード情報を登録するときに「ノードがロックされている」と出力される

エラーメッセージ

- [Windows版の場合]-Systemwalker Centric Manager V5.0L30

```
MpOpaddRep: 警告: 0014:ノードがロックされています。(XXX,YYY)
```

- [Windows版の場合]-Systemwalker Centric Manager V10.0L10以降

```
MpOpaddRep: 警告: 0014: The node is locked. (XXX,YYY)
```

- [UNIX版の場合]-Systemwalker Centric Manager 5.2/5.2.1

```
MpOpaddRep: WARNING: 0014: ノードがロックされています。(XXX,YYY)
```

- [UNIX版の場合]-Systemwalker Centric Manager 10.0以降

```
MpOpaddRep: WARNING: 0014: The node is locked. (XXX,YYY)
```

XXX:ホスト名

YYY:IPアドレス

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降
 - Solaris版:10.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降

原因

構成情報に、ノードの情報を登録するとき、構成情報の排他がかかっていたことが原因です。

対処方法

以下のタイミングで、ノード情報の更新時に構成情報の排他がかかり、エラーメッセージが出力されます。

- 運用管理サーバ起動時に、運用管理サーバ自身のノード情報をチェックするとき
- 運用管理サーバ起動時に、発生するメッセージに付加されているノード情報をチェックするとき

そのまま使用しても問題はありません。エラーが気になる場合は、イベント監視の条件定義を使用し、本メッセージを監視対象から外してください。詳細は“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“障害をフィルタリングする”を参照してください。

20.3 運用管理サーバの運用形態名が表示されない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降

対処方法

運用管理サーバは、自身の運用形態名を表示することはできません。

20.4 被監視サーバが意図していないホスト名で監視マップに登録される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Solaris版:5.0以降
- HP-UX版:5.1以降
- AIX版:10.0以降
- Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

問題の被監視サーバで、[通信環境定義]ダイアログボックスの[自ホスト名]タブの定義が意図しないホスト名で設定されているため発生します。

対処方法

各サーバの[通信環境定義]ダイアログボックスの[自ホスト名]タブで定義された内容で使用するホスト名が変わります。該当するサーバの[通信環境定義]ダイアログボックスの[自ホスト名]タブの定義を変更してください。

以下の情報を参考にして意図した名前になるよう設定変更してください。

- Windows版の場合
 - DNS
 - TCP/IPプロトコルのプロパティに定義されているホスト名にドメイン名を付加したものになります。
 - ホスト名
 - TCP/IPプロトコルのプロパティに定義されているホスト名になります。
 - ユーザ定義
 - 定義された名前になります。
- UNIX版の場合
 - DNS
 - uname -n で獲得できる名前にOSで設定されたドメイン名を付加したものになります。
 - [例]
 - uname -n がhostnameであり、/etc/resolv.confのdomainがco.jpのときはhostname.co.jpとなります
 - ホスト名
 - uname -nで獲得できる名前になります。
 - ユーザ定義
 - 定義された名前になります。

また、監視マップへの登録が不要なノードであった場合、以下の手順でノード情報を削除してください。

1. 登録不要なノードの[メッセージ送信先システム]の設定を解除してください。
2. [メッセージ送信先システム]に登録されていた上位サーバで、次のコマンドを実施してください(必要時接続で繋がっていた場合)。

- Windows版の場合
 - V5.0L10またはV5.0L20の場合

```
opaconstat -d 登録不要なノードのホスト名
```

- V5.0L30以降の場合

```
opaconstat -D 登録不要なノードのホスト名
```

- UNIX版の場合

- 5.0または5.1の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D -n 登録不要なノードのホスト名
```

- 5.2以降の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D 登録不要なノードのホスト名
```

3. Systemwalkerコンソールで、“登録不要なノードのホスト名”を削除してください。

注意事項

- ・ 通信環境定義以外に、ユーザ定義を選択したサーバ、部門管理サーバ、および運用管理サーバのhostsに定義した名前を登録する必要があります。
- ・ 運用管理サーバ、部門管理サーバ、および業務サーバのOSの名前解決方法と一致させてください。
- ・ イベント監視の機能にて、ポリシー定義に必要な情報の自動登録が実施され、未登録ノードでは新規にノードが生成され、既登録ノードでは各情報が更新されます。そのため、自動登録される情報と意図している情報(既登録情報)に差異がある場合は本現象が起り得ます。

対処2

確認ポイント

同一ホスト名、または同一IPアドレスを持ったシステムが複数存在していませんか。

原因

同一ホスト名、または同一IPアドレスのシステムが存在する環境では、Systemwalker Centric Managerで管理している内部的な管理情報に矛盾が発生し、正しく監視ができません。

対処方法

ネットワーク全体で、一意のホスト名、IPアドレスとなるようにOS、ネットワークを設定してください。また、ホスト名についてはSystemwalker Centric Managerが意識するホスト名([通信環境定義]ダイアログボックスで設定ができます)を異なるように定義することで対処することもできます。

20.5 被監視サーバが意図していないIPアドレスで監視マップに登録される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降

対処1

原因

被監視サーバに、メッセージ送信先と接続可能なIPアドレスが複数ある場合、その中からランダムなIPアドレスが被監視サーバのIPアドレスとして登録されるため発生します。

対処方法

以下の操作により、メッセージ送信先と通信時に使用するIPアドレスを定義することで、監視マップに登録されるIPアドレスを指定できます。

• Systemwalker Centric Manager 5.2/5.2.1

以下のファイルを作成します。“XXX”には、イベントの送信先となる運用管理サーバのIPアドレス、またはホスト名の文字列を設定します。なお、本設定ファイルはバックアップされないため、システム構築時に再度設定する必要があります。

```
/var/opt/FJSVsgagt/tmp2/XXX.snd
```

大文字小文字も含め、メッセージ送信先システムに定義した文字列と同じ文字列にします。

このファイルに、イベント送信元になる業務サーバの物理IPアドレスを設定します。

※メッセージ送信先の設定値は、[システム監視設定]ウィンドウの[通信環境定義]ダイアログボックスで確認できます。

• Systemwalker Centric Manager 10.0以降

以下のコマンドを実行し、メッセージ送信先と通信時に使用するIPアドレスを定義することで、監視マップに登録されるIPアドレスを指定できます。なお、本設定は異なるIPアドレスの環境へ資源をリストアされる際、本設定はリストアされないため、システム構築時に再度設定する必要があります。

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

```
/opt/systemwalker/bin/opasetip -n nodename -i IpAddr
```

-n nodename:

メッセージ送信先に指定した送信先のホスト名、またはIPアドレスを定義します。

大文字小文字も含め、メッセージ送信先システムに定義した文字列と同じ文字列にします。

-i IpAddr:

イベント送信元になる業務サーバの物理IPアドレスを設定します。物理IPアドレスを指定します。IpAddrに指定されたIPアドレスが登録されます。

注意事項

- イベント監視の機能にて、ポリシー定義に必要な情報の自動登録が実施され、未登録ノードでは新規にノードが生成され、既登録ノードでは各情報が更新されます。そのため、自動登録される情報と意図している情報(既登録情報)に差異がある場合は本現象が起り得ます。

対処2

確認ポイント

同一ホスト名、または同一IPアドレスを持ったシステムが複数存在していませんか。

原因

同一ホスト名、または同一IPアドレスのシステムが存在する環境では、Systemwalker Centric Managerで管理している内部的な管理情報に矛盾が発生し、正しく監視ができません。

対処方法

ネットワーク全体で、一意のホスト名、IPアドレスとなるようにOS、ネットワークを設定してください。また、ホスト名については Systemwalker Centric Manager が意識するホスト名 ([通信環境定義]ダイアログボックスで設定ができます)を異なるように定義することで対処することもできます。

20.6 運用管理サーバが意図していないIPアドレスが監視マップに表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalkerコンソールで、運用管理サーバの自動登録されたノードプロパティ-インタフェースのIPアドレスを変更していませんか。

対処方法

- 運用管理サーバのIPアドレスが複数ある場合
運用管理サーバの[ノードプロパティ]-[インタフェース]にて、すべてのIPアドレスを登録してください。
※具体的な対処方法は“[監視イベント一覧画面に特定ホストのメッセージが表示されない](#)”の“対処5”を参照してください。
- 運用管理サーバのIPアドレスが1つである場合
運用管理サーバの[ノードプロパティ]-[インタフェース]へ、正しいIPアドレスを登録してください。

20.7 被監視システムのホスト名が自動的に変更されてしまう

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

変更後のホスト名を発生元とするイベントが通知されていないか、運用管理サーバ上でopamsgrv(メッセージ検索コマンド)を実行して確認します。

イベントが特定できた場合、そのイベントがどの機能によって出力されたものかを確認します。

その結果、以下のどれかであれば、後述する原因に該当します。

- syslogに出力されたイベントの場合(UNIX版)
- イベントログに出力されたイベントの場合(Windows版)
- 監視対象のログファイルに出力されたイベントの場合
- アプリケーションがopfmtコマンド(または関数)を使用して出力したイベントの場合
- Systemwalker Centric Managerと連携する他製品が出力した、上記に該当しないイベントの場合

原因

監視対象のノードからイベントが通知された場合、そのノードのノードプロパティのホスト名(注)が自動的に更新される場合があります。これは、通知されたイベントに付加されていたホスト名が、既に設定されていたノードプロパティのホスト名と異なっていた場合に起こります。

注)

[ネットワーク]タブのホスト名を指します。

これ以降の説明では、「既に設定されていたノードプロパティのホスト名」をホスト1、「通知されたイベントに付加されていたホスト名」をホスト2と表記します。

ホスト2がホスト1と異なっていた場合、ホスト1はホスト2に自動的に変更されます。

対処方法

ホスト1とホスト2を一致させる対処が必要です。

ここでは、ホスト1を変更せず、ホスト2を変更してホスト1と合わせる方法について説明します。

<運用管理サーバでの作業>

上記の「確認ポイント」に示した方法で、ホスト2が付加されたイベントを特定してください。

<イベントの発生元サーバでの作業>

特定されたイベントの種類に応じて、以下の設定の変更をしてください。

- syslogに出力されたイベントの場合(UNIX版)
- イベントログに出力されたイベントの場合(Windows版)
- 監視対象のログファイルに出力されたイベントの場合
- アプリケーションがopfmtコマンド(または関数)を使用して出力したイベントの場合
 1. Systemwalker Centric Managerの通信環境定義画面を開きます。
 2. [自ホスト名]タブの設定を、ホスト1と一致するように変更します。
[自ホスト名]タブの設定により決まるホスト名については、“[被監視サーバが意図していないホスト名で監視マップに登録される](#)”の対処1を参照してください。
- Systemwalker Centric Managerと連携する他製品が出力した、上記に該当しないイベントの場合、各連携製品のマニュアルを参照し、連携製品が使用するホスト名を変更してください。

対処2

確認ポイント

被監視システムにおいて、Systemwalker Centric Managerの[通信環境定義]-[自ホスト名]を「ユーザ指定」で任意のホスト名で定義している場合、そのホスト名と、各サーバのhosts, DNSなどに定義されているホスト名とで、大文字と小文字の違いを含め、異なる文字列を指定していませんか？

原因

確認ポイントに示したホスト名の不一致がある場合、被監視システムのホスト名が自動的に変更されてしまう原因となります。

対処方法

被監視システムにおいて、Systemwalker Centric Managerの[通信環境定義]-[自ホスト名]を「ユーザ指定」で任意のホスト名で定義する場合、そのホスト名と、各サーバのhosts, DNSなどに定義されているホスト名とで、大文字と小文字の違いも含め、同じ文字列にするように指定してください。

20.8 運用管理サーバのIPアドレスが"127.0.0.1"に自動更新されてしまう

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

確認ポイント

運用管理サーバにおいて、LANアダプタにケーブルが接続されていない、またはLANアダプタに接続されているケーブルが直接繋がっているハブやルータの電源が入っていない状態で、Systemwalker Centric Managerを再起動しませんでしたか。

原因

運用管理サーバ上のSystemwalker Centric Managerは、起動時にWindowsのgethostbyname()関数により自身のIPアドレスを獲得し、ノード情報に反映します。Windows 2000以降のWindowsにはメディア検出機能というLANアダプタが有効かどうかをチェックし、無効な場合(注)、インタフェース情報をループバックに切り換える機能があります。

メディア検出機能によりインタフェース情報がループバックに切り替えられた場合、gethostbyname()関数ではループバックアドレス"127.0.0.1"が返されるため、上記の現象となります。

注)「無効な場合」とは、LANアダプタにケーブルが接続されていない、またはLANアダプタに接続されているケーブルが直接繋がっているハブやルータの電源が入っていない状態を指します。

対処方法

運用管理サーバ上でLANアダプタにケーブルを接続する、またはハブやルータの電源を入れたあと、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

20.9 運用管理サーバが新しいノードとして追加される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

運用管理サーバのIPアドレス/ホスト名の変更時に、変更後の運用管理サーバが新しいノードとして追加される場合があります。

対処方法

[Systemwalkerコンソール[編集]]で、追加された運用管理サーバを以下の手順で削除してください。

- [Systemwalkerコンソール システム監視]の場合
[ノード]メニューから[ノードの削除]を選択します。
- [Systemwalkerコンソール 業務監視](V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)の場合
[オブジェクト]メニューから[削除]を選択します。

20.10 メッセージ“データベーススペースの容量が不足しました。”を含むメッセージが出力される

エラーメッセージ

- Windows

```
MpFwams[3044]:10502002:DBスペースのディスク容量が不足しています。  
JYP5019E スキーマ“XXXXX”の表“YYYYY”内に定義されているDSI“ZZZZZ”に割り付けたデータベーススペースの容量が不足しました。
```

- UNIX

```
MpFwams[(プロセスID=XXXX)]: [ID 109002 daemon.error] HALT: 10502002: No disk space for  
DB space.: RpsObject.c: 455: 72010: JYP5019E スキーマ“XXXXX”の表“YYYYY”内に定義され  
ているDSI“ZZZZZ”に割り付けたデータベーススペースの容量が不足しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ノード情報、アプリケーション情報を格納するDBスペース(リポジトリ(※))が不足しています。

※リポジトリ: Systemwalkerで管理する情報(ノード情報、セグメント情報、アプリケーション情報、各機能のポリシー情報)を格納するデータベースです。

対処方法

データベースの拡張方法は以下のマニュアルを参照してください。

- V5.0L10/V5.0L20/V5.0/V5.1
SystemWalker/CentricMGR 運用手引書
- V5.0L30/5.2以降
Systemwalker Centric Manager 導入手引書

20.11 バージョンアップを行うと、ノード構成情報の自動配付間隔が初期値になる

Windows版V5.0L30または、V10.0L10の運用管理サーバでmpdrpintコマンドによってノード構成情報自動配付間隔の変更を行い、V10.0L20以降へバージョンアップを行うと、ノード構成情報の自動配付間隔が初期値(60分)になってしまう。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30～V10.0L10

対処方法

バージョンアップ後に再度、mpdrpintコマンドにてノード構成情報自動配付間隔の変更を行ってください。

20.12 サブネットマスクの変更を伴う場合、サーバおよびクライアントのIPアドレスが変更できない

サブネットマスクの変更がない場合のIPアドレス変更手順は、以下のマニュアルを参照してください。

- Windows版:V5.0L10～V5.0L30
- Solaris版:5.0～5.2
Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集
- 上記以外
Systemwalker Centric Manager 導入手引書

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降

対処方法

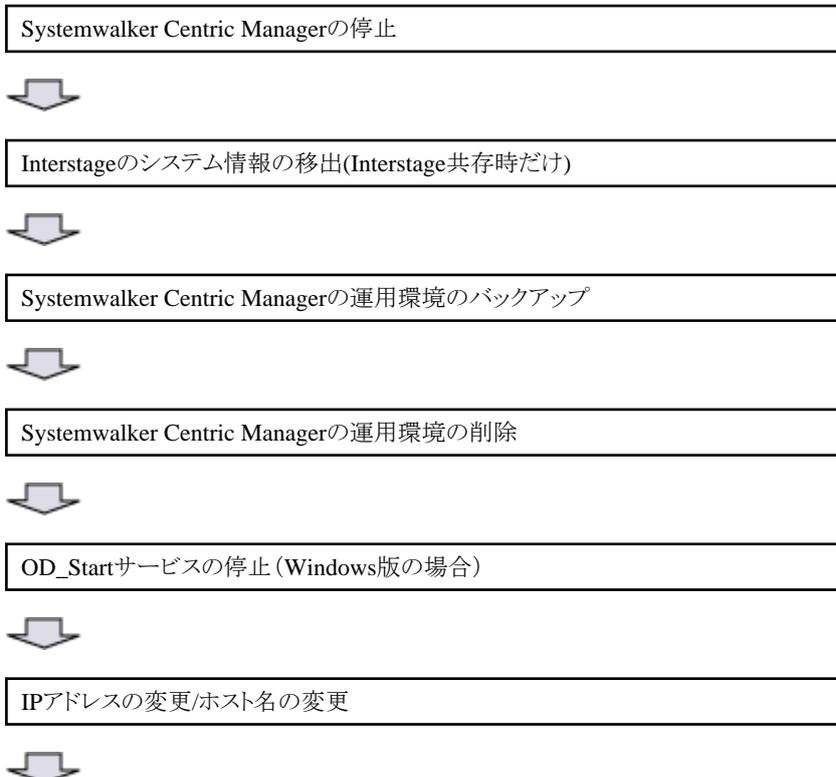
以下の手順でIPアドレスを変更してください。“サブネットフォルダの作成”以外の詳細な操作については、「サブネットマスクの変更がない場合のIPアドレス変更」と同じですので、マニュアルを参照してください。

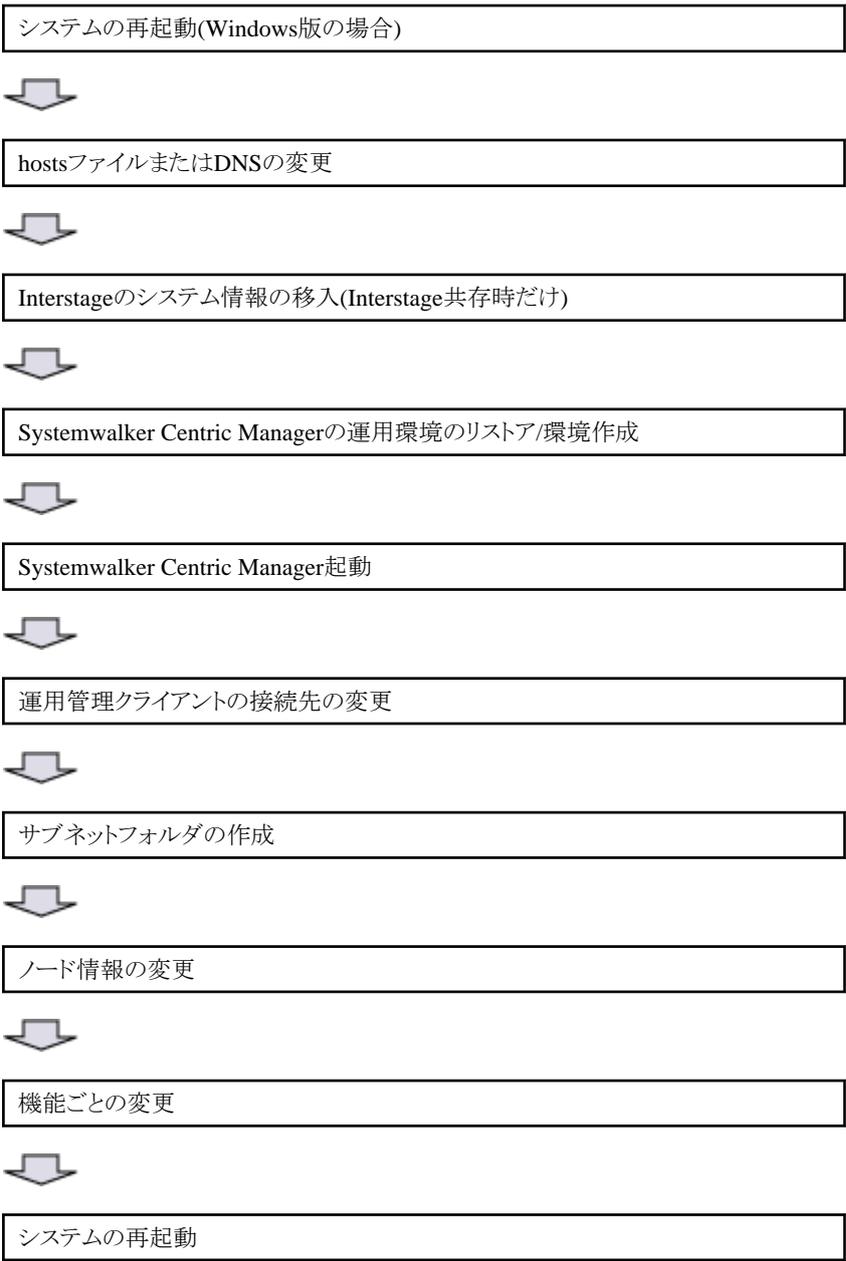


注意

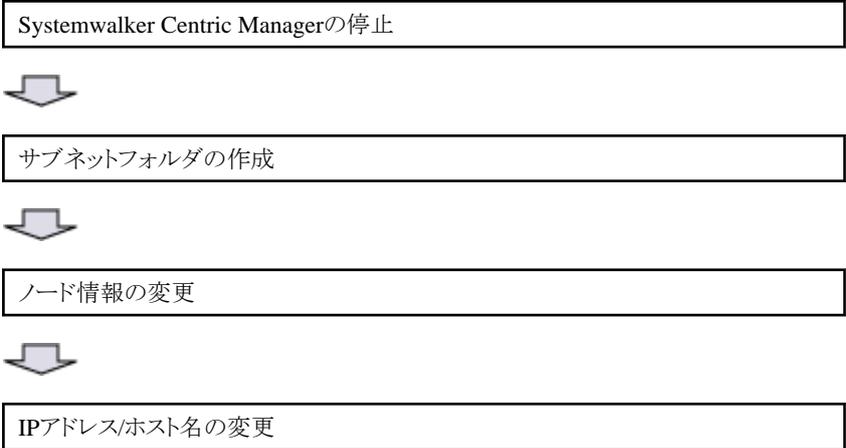
IPアドレス変更手順では、Administrator権限が必要です。

- 運用管理サーバのIPアドレスを変更する場合





- ・ 部門管理サーバ/業務サーバのIPアドレスを変更する場合





hostsファイルまたはDNSの変更



Systemwalker Centric Managerの起動



機能ごとの変更



システムの再起動

- 運用管理クライアントのIPアドレスを変更する場合

Systemwalker Centric Managerの停止



IPアドレス/ホスト名の変更



hostsファイルまたはDNSの変更



Systemwalker Centric Managerの起動



サブネットフォルダの作成



ノード情報の変更



構成情報の一括配付/ネットワーク管理のポリシーの一括配付

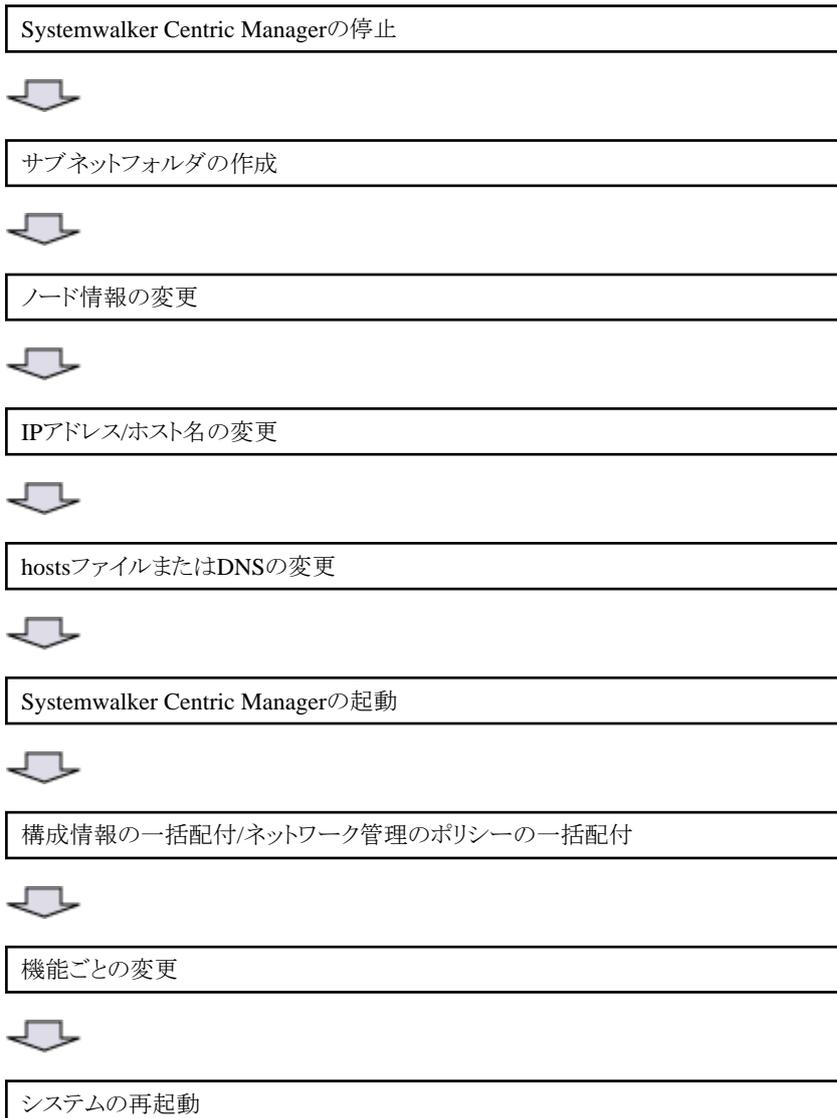


機能ごとの変更



システムの再起動

- ・ クライアントのIPアドレスを変更する場合



サブネットフォルダの作成

ノードのIPアドレス/サブネットマスクを変更後に所属するサブネットフォルダが存在しない場合は、サブネットフォルダを作成します。

- ・ Systemwalkerコンソールで作成する場合
Systemwalkerコンソールの編集機能で新しくサブネットフォルダを作成します。
- ・ 大量のサブネットフォルダを作成する必要がある場合 (V5.0L10/5.0～V5.0L30/5.2は対象外ですので、Systemwalkerコンソールで作成してください。)

運用管理サーバ上で、構成情報入出力コマンド(mpcmcsv)を使用して一括で作成します。

例) サブネットアドレス(10.10.0.0)/サブネットマスク(255.255.0.0)のサブネットフォルダを新規に作成する。

1. フォルダ構成情報を出力します。

```
mpcmcsv -m OUT -o FOLDER -f fol.csv
```

出力例

```
"FOLDER", "¥Tree", "Tree", 1, 1, .....
"FOLDER", "¥Tree¥自部門", "自部門", 2, .....

```

```
"FOLDER","¥Tree¥自部門¥10.10.10.0","10.10.10.0",
3,,,"10.10.10.0","255.255.255.0"
,"public" ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
```

2. フォルダ構成情報CSVファイルを編集します。

上記1.で出力されたフォルダ構成情報CSVファイルのサブネットフォルダ(10.10.10.0)の情報を参考にして、新しいサブネットフォルダ(10.10.0.0)のCSVファイルを作成します。

CSVファイルの編集箇所は以下の項目です。

- 第2カラム(フォルダパス): "¥Tree¥自部門¥10.10.10.0" → "¥Tree¥自部門¥10.10.0.0"
- 第3カラム(表示名): "10.10.10.0" → "10.10.0.0"
- 第4カラム(フォルダ種別): 3を設定
- 第8カラム(サブネットアドレス): "10.10.10.0" → "10.10.0.0"
- 第9カラム(サブネットマスク): "255.255.255.0" → "255.255.0.0"
- 第10カラム(SNMPコミュニティ名): ネットワーク環境に合わせた定義を設定

編集前

```
"FOLDER","¥Tree¥自部門¥10.10.10.0","10.10.10.0",
3,,,"10.10.10.0","255.255.255.0"
,"public" ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
```

編集後

```
"FOLDER","¥Tree¥自部門¥10.10.0.0","10.10.0.0",3,,,"10.10.0.0","255.255.0.0"
,"public" ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
```

3. 以下のコマンドを実行して、サブネットフォルダを登録します。

```
mpcmcsv -m ADD -f fol.csv
```

ー コマンド実行前のノード一覧ツリー



ー コマンド実行後のノード一覧ツリー



 注意

- 登録済みのサブネットフォルダのサブネットアドレス/サブネットマスクは変更しないでください。また、サブネットフォルダのサブネットアドレスは重複して登録することはできません。
- 上記の条件に一致しており新しくサブネットフォルダを作成できない場合は、ホスト名/IPアドレスを変更するノードは新規監視対象として各種設定をしてください。

- ・フォルダ構成情報CSVファイルに設定する文字列は運用管理サーバと異なる文字コードは使用しないでください。
- ・フォルダ構成情報CSVファイルの詳細については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

ノード情報の変更

「サブネットマスクの変更がない場合のIPアドレス変更」の手順と同様ですが、サブネットマスクの変更がある場合は、ノード情報の変更を行った後に、以下の操作を実施してください。

ノード情報の変更によりサブネットフォルダ配下が空となり、今後も使用しない場合はサブネットフォルダを削除します

ただし、運用管理サーバの変更の場合は、ノード情報の変更手順の「構成情報の一括配付/ネットワーク管理のポリシーの一括配付」の実行前に行ってください。

20.13 意図しないノードが監視マップに追加される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V5.0L10以降
 - － Solaris版:5.0以降
 - － HP-UX版:5.1以降
 - － AIX版:10.0以降
 - － Linux版:5.2、V10.0L10以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - － Windows版:V10.0L20以降
 - － Solaris版:10.1以降
 - － Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

監視マップに追加されたノードの[システム監視設定]-[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]に、運用管理サーバまたは運用管理サーバへの中継サーバが指定されていませんか。

原因

[システム監視設定]-[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]に、運用管理サーバまたは運用管理サーバへの中継サーバが指定されている場合、以下のタイミングでノードが監視マップに追加されます。

- ・ 接続方法が「必要時接続」である場合(以下のどれかの場合)
 - － 対象のノードにおいて、[システム監視設定]-[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]の設定を新規追加、または変更後、Systemwalker Centric Managerを起動したタイミング。
 - － 対象のノードにおいて、コマンド「opaconstat -a」を実行したタイミング。
 - － 対象のノードにおいて、監視対象のイベントが発生したタイミング。
- ・ 接続方法が「常時接続」である場合
対象のノードにおいて、Systemwalker Centric Managerを起動したタイミング。

対処方法

以下の手順でノード情報を削除してください。

1. 登録不要なノードの[メッセージ送信先システム]の設定を解除してください。
2. [メッセージ送信先システム]に登録されていた上位サーバで、次のコマンドを実施してください(必要時接続で繋がっていた場合)。

ー Windows版の場合

- V5.0L10またはV5.0L20の場合

```
opaconstat -d 登録不要なノードのホスト名
```

- V5.0L30以降の場合

```
opaconstat -D 登録不要なノードのホスト名
```

ー UNIX版の場合

- 5.0または5.1の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D -n 登録不要なノードのホスト名
```

- 5.2以降の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D 登録不要なノードのホスト名
```

3. Systemwalkerコンソールで、登録不要なノードを削除してください。

対処2

確認ポイント

既に撤去済みのノードが自動的に追加されていますか？

その場合、過去に[通信環境定義]-[メッセージ送信先]に指定していた運用管理サーバあるいは部門管理サーバにおいて、以下のコマンドを実行した場合に、該当のノードのホスト名が表示されますか？

[Windows版の場合]

```
opaconstat -o
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -o
```

原因

[通信環境定義]-[メッセージ送信先]に指定していたサーバとの接続方法が“必要時接続”であった場合、上位のサーバにおいて、下位サーバのノード情報をファイルに管理しています。

この情報は、上位あるいは下位のサーバ上でopaconstatコマンドを削除オプション付きで実行しない限り、残ります。(Systemwalkerコンソール上でノード削除を実行しても削除されません。)この状態で運用を続けた場合、Systemwalkerコンソール上に(ノード削除を実施した)ノードが再び追加されることがあるためです。

対処方法

以下の手順でノード情報を削除してください。

1. 過去に[通信環境定義]-[メッセージ送信先]に指定されていた上位サーバで、以下のコマンドを実施し、削除する対象ノードのホスト名を確認します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -o
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -o
```

2. 1と同じ上位サーバで、次のコマンドを実施してください。

[Windows版の場合]

- V5.0L10またはV5.0L20の場合

```
opaconstat -d ノードのホスト名
```

- V5.0L30以降の場合

```
opaconstat -D ノードのホスト名
```

[UNIX版の場合]

- 5.0または5.1の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D -n ノードのホスト名
```

- 5.2以降の場合

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -D ノードのホスト名
```

3. Systemwalkerコンソール上に対象ノードが表示されている場合は、[編集]モードにしてノード削除操作を行なってください。

20.14 ノードが意図していないサブネットに登録される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

- 該当のノードが、本来所属することを期待しているサブネットフォルダのプロパティ情報を開き、サブネットアドレスとサブネットマスクを確認してください。
- 該当のノードが、現在所属しているサブネットフォルダのプロパティ情報を開き、サブネットアドレスとサブネットマスクを確認してください。
- 上記2つのサブネットアドレスとサブネットマスクの範囲がネットワーク上重複していないか確認してください。

原因

複数のサブネットフォルダでサブネットアドレスとサブネットマスクの範囲がネットワーク上重複している場合、ノードがどちらのサブネットフォルダに所属するかは不定になります。

対処方法

サブネットフォルダのサブネットアドレスとサブネットマスクの範囲がネットワーク上で重複しないように設定してください。

備考

例として、以下のようなサブネットフォルダの場合

- サブネットフォルダ1(サブネットアドレス:192.168.0.0/サブネットマスク:255.255.240.0)

- ・ サブネットフォルダ2(サブネットアドレス:192.168.2.0/サブネットマスク:255.255.255.0)
ノード(IPアドレス:192.168.2.1)が新規に通知されると、このノードがどちらのサブネットフォルダに所属するかは、不定になります。

対処2

確認ポイント

Systemwalker Centric ManagerがV13.1.0以降の場合、以下の手順でサブネットフォルダ自動作成機能の設定を確認してください。

- ・ Windows版の場合
Administrator権限のユーザで以下のコマンドを実行してください。

```
mpcmsubnet
```

- ・ Solaris版/Linux版の場合
システム管理者(スーパーユーザ)権限で以下のコマンドを実行してください。

```
/opt/systemwalker/bin/mpcmsubnet
```

実行結果例)

```
Mpcmsubnet  
Auto :ON  
Subnetmask :255.255.255.0  
SNMP Community :public
```

原因

V13.1.0以降のSystemwalker Centric Managerには、サブネットフォルダを自動作成する機能があり、標準で設定が有効になっています。ノードが登録される際に所属するサブネットフォルダが存在しない場合、サブネット自動作成機能の設定に基づいて、フォルダが自動作成されます。そのため、実際の監視対象マシンの設定とは異なるサブネットに、ノードが登録されることがあります。

対処方法

以下の手順で構成情報を編集してください。

1. Systemwalkerコンソールを編集モードにします。
2. [フォルダの作成]より[フォルダ作成]ダイアログを開き、作成したいネットワーク情報(サブネットアドレス、サブネットマスク)を入力します。
3. 該当のノードのプロパティを開き、[インタフェース]タブのサブネットマスクを修正します。
4. 監視モードに変更し、監視を継続してください。

20.15 構成情報配付コマンドが何もメッセージを出力せずに終了する

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

Systemwalkerが起動していますか。

原因

Systemwalkerが起動していないために発生します。

対処方法

Systemwalkerを起動して再度実行してください。

対処2

確認ポイント

“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”に記載しているオプションを正しく指定していますか。

原因

オプションを正しく指定していないために発生します。

対処方法

“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“mpdrpspm(構成情報配付コマンド)”を参照してオプションを正しく指定して実行してください。

20.16 新ノードフォルダにIPアドレスが“0.0.0.0”であるノードが表示される

対処1

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

該当ノードのホスト名を発生元とする、Systemwalker Centric Managerの連携製品のイベントが通知されていませんか。

Systemwalker Centric Managerの連携製品と、そのイベントの例を以下に示します。

連携製品	イベント
Softek Storage Cruiser	「SSC:」で始まるイベント
System Console Software	「FJSVcsl:」で始まるイベント

運用管理サーバ上でopamsgrev(メッセージ検索コマンド)を実行し、上記のイベントが通知されていないか確認します。

原因

連携製品が獲得するホスト名と、Systemwalker Centric Managerが獲得するホスト名（ノード検出機能で検出されるホスト名および、被監視サーバ側の[通信環境定義]-[自ホスト名]の設定により決まるホスト名）の統一が取れていない場合に発生します。

対処方法

連携製品が獲得するホスト名と、Systemwalker Centric Managerが獲得するホスト名が統一される設定をします。具体的な設定方法は各製品のマニュアルを参照してください。

対処2(クラスタ待機系監視を行っている場合)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降

原因

運用系ノードのクラスタノード定義ファイルの内容(SwHostName)が、待機系ノードの通信環境定義で指定した自ホスト名と異なることが原因です。

対処方法

以下の手順で対処してください。

1. Systemwalkerコンソールより、0.0.0.0として登録されたノードを削除してください。
2. クラスタノード定義ファイルのSwHostNameの定義を、待機系ノードの通信環境定義で指定した自ホスト名と同一にしてください。
3. クラスタサービスを再起動してください。再起動方法は、各クラスタソフトウェアのマニュアルを参照してください。

ポイント

SwHostNameには監視する待機系ノードの[通信環境定義]-[自ホスト名]で指定した自ホスト名を128バイト以内で指定します。

- “DNS”を選択している場合
ドメインに登録してある場合は、ドメイン名も記述します。
- “ホスト名”を選択している場合
ホスト名を記述します。
- “ユーザ指定”を選択している場合
ここに指定してある名前をそのまま記述します。

対処3(クラスタ待機系監視を行っている場合)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降

原因

ノード検出により、待機系のノードが通信環境定義で指定した自ホスト名と異なるホスト名に変更されたことが原因です。

対処方法

通信環境定義で指定した自ホスト名とノード検出時に名前解決されるホスト名を統一してください。

[参考]

“運用管理サーバのノードプロパティのホスト名がフルドメイン名 (FQDN) からホスト名に変更される”

“ホスト名がイベント発生時と、ノード検出時で異なる名前が表示される”

対処4

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

以下のSystemwalkerスクリプトを実行していませんか。

- サービス稼働監視
- Systemwalkerセルフチェック
- Webサービス稼働監視

原因

Systemwalkerコンソールのホスト名とスクリプトに定義するホスト名が一致していない、または、Systemwalkerコンソール上に存在しないノードを指定して、Systemwalkerスクリプトを実行しているからです。

対処方法

1. Systemwalkerスクリプトを停止します。
2. Systemwalkerコンソールより、“0.0.0.0”として登録されたノードを削除してください。
3. Systemwalkerスクリプトを編集しホスト名の定義を一致させます。不要なノードが定義されている場合は削除します。
4. Systemwalkerスクリプトを実行します。

20.17 被監視サーバの運用形態名が意図しない表示内容になる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降

- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

クラスタソフトウェア (SafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合) のコマンド (注) を実行し、クラスタソフトがクラスタサービス (クラスタアプリケーション) の状態を正しく認識できているか、確認してください。

注) クラスタサービス (クラスタアプリケーション) の状態は以下のコマンドで確認できます。コマンドの詳細は各クラスタソフトウェアのマニュアルを参照してください。

- SafeCLUSTERの場合
clgettree -s
- PRIMECLUSTERの場合
hvdisp -a

※特に監視対象のクラスタサービス (クラスタアプリケーション) を、userApplication Configuration Wizard (GUI) からではなく、RMS Wizard (CUI) から実施した場合に該当します。

原因

Systemwalker Centric Manager では、クラスタソフトウェアのインタフェースを使用してクラスタサービス (クラスタアプリケーション) の状態を獲得し、それに基づいて運用形態名を設定します。そのため、クラスタソフトウェア自体がクラスタサービス (クラスタアプリケーション) の状態を正しく認識していない場合、正しい運用形態名が設定されません。

対処方法

クラスタソフトウェアがクラスタサービス (クラスタアプリケーション) の状態を正しく認識していない場合、クラスタソフトウェアにおけるクラスタサービス (クラスタアプリケーション) の設定等を見直してください。詳細は各クラスタソフトウェアのマニュアルを参照してください。

20.18 ホスト名/IPを変更したにもかかわらずノード情報のホスト名/IPが古い内容に自動更新される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

確認ポイント

ホスト名/IP変更時に必要な手順が漏れていませんか。

原因

ホスト名/IP変更時に必要な手順が漏れてしまったため、内部的なノード管理情報に古いデータが残っていることが原因です。

対処方法

以下のマニュアルのホスト名/IP変更時に必要な手順のうち、[イベント監視の変更]の手順を行ってください。

- V5、および10.0/V10.0L10
“Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集”
- 10.1/V10.0L20以降
“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”

20.19 インベントリ管理機能によりノード情報が追加/変更された場合、ネットワーク管理や性能監視の一部の機能による監視ができなくなる場合がある

インベントリ管理機能によりノード情報が追加/変更される際、ノード情報(ノードプロパティ)のインタフェース情報の代表インタフェースが変更される場合があります。このとき、既存ノードが新ノードフォルダなどほかのフォルダへ移動する場合があります。このため、以下のネットワーク管理や性能監視の一部の機能による監視ができなくなる場合があります。

- ノード状態の表示
- ノード状態の監視
- MIB監視
- 性能監視
- 稼働状態の監視

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

原因

インベントリ管理機能により監視ツリーに登録されたノードは、複数のインタフェースが実装されていると、監視サーバと接続していないインタフェースが代表インタフェースに設定されることがあります。この場合、ネットワーク管理や性能監視の監視対象にならず、ネットワーク管理や性能監視の機能による監視ができなくなります。

対処方法

[Windowsの場合]

以下の手順を実施してください。

1. 監視サーバと接続しているインタフェースを代表インタフェースに手動で変更します。
2. インベントリ管理機能によってノードを追加しないように設定します。設定手順は以下のとおりです。
 1. Systemwalkerコンソールの[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[インベントリ]を選択します。
→[デスクトップ管理 サーバ動作環境設定]ダイアログボックスが表示されます。
 2. [インベントリ管理環境]ボタンをクリックします。
→[インベントリ管理環境]ダイアログボックスが表示されます。
 3. [インベントリ情報の登録先]ボタンをクリックします。
→[インベントリ情報の登録先]ダイアログボックスが表示されます。
 4. [フレームワークのデータベース]のチェックをはずします。

5. [OK]ボタンをクリックします。

[Solaris/Linuxの場合]

以下の手順を実施してください。

1. 監視サーバと接続しているインタフェースを代表インタフェースに手動で変更します。
2. インベントリ管理機能によってノードを追加しないように設定します。設定手順は以下のとおりです。
 1. pcentricmgrコマンドにより、Systemwalker Centric Managerを停止します。
 2. "/etc/opt/FJSVsvimg/env/control.conf"ファイルを以下のように編集します。

[変更前]

```
NOREPOSITORYIMPORTATION 0
```

[変更後]

```
NOREPOSITORYIMPORTATION 1
```

3. scentricmgrコマンドにより、Systemwalker Centric Managerを起動します。

対処2

原因

複数のインタフェースを実装しているノードにおいて、各インタフェースのIPアドレスがそれぞれ一意なホスト名で名前解決できるようになっていない場合、収集されたインベントリ情報をフレームワークのデータベースに登録するときに、名前解決されていないIPアドレスを持つインタフェースが代表インタフェースに設定されることがあります。この場合、ネットワーク管理や性能監視の監視対象にならず、ネットワーク管理や性能監視の機能による監視ができなくなります。

対処方法

対処1の対処方法を実施してください。

20.20 ポリシー関連コマンドが指定したノード名を認識できずに失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

エラーメッセージ1

mppolclone

【UNIX】

```
「Failed to get HostName.」
```

【Windows】

```
「ホスト名の取得に失敗しました。」または「Failed to obtain the host name.」
```

mppolcollect

「The specified node does not exist.」

「The policy export command was abnormally ended.」

対処1

確認ポイント

Systemwalkerコンソールで該当ノード名を確認し、登録されているノード名と一致しているか以下の観点で確認してください。

- ・ドメイン名を含むノード名で登録されている場合、ドメイン名を含んだノード名を指定しているか。
- ・大文字/小文字を区別してノード名を指定しているか。

原因

ポリシー関連コマンド(mppolclone/mppolcollect)に指定したノード名が、登録されているノード名と一致していないため。

対処方法

Systemwalkerコンソールで該当ノード名を確認し、登録されているノード名を指定してポリシー関連コマンド(mppolclone/mppolcollect)を再実行してください(ドメイン名、大文字/小文字を同一にして指定してください)。

対処2

確認ポイント

mppviewcコマンドでSystemwalker Centric Managerのデーモンが起動していることを確認してください。

原因

ポリシー関連コマンド(mppolclone/mppolcollect)で指定したノードのノード情報が取得できないため。

対処方法

scentricmgrコマンドでSystemwalker Centric Managerのデーモンを起動したあと、ポリシー関連コマンド(mppolclone/mppolcollect)を再実行してください。

エラーメッセージ2

mppolclone

【UNIX】

Systemwalker Centric Manager is not installed on the target node.

【Windows】

対象ノードにSystemwalker Centric Managerがインストールされていません。

確認ポイント

Systemwalkerコンソールで該当ノード名を確認し、登録されているノードにSystemwalker Centric Managerがインストールされているか確認してください。

原因

ポリシー複製コマンド(mppolclone)またはSystemwalker Resource Coordinator プロビジョニング連携処理を実施時に指定したノードにSystemwalker Centric Managerがインストールされていないためです。

対処方法

指定するノード名を誤っていないか確認してください。誤っていない場合、指定するノードにSystemwalker Centric Managerをインストールしてください。

20.21 部門管理サーバのノードを削除しようとする、エラーメッセージが表示され削除できない

エラーメッセージ

V10.0L21以前/10.1以前

- ・ システム監視画面

選択したフォルダまたはノードの中に削除できないノードがあります。一部のノードは削除できませんでした。

- ・ 業務監視画面

管理サーバのノード、または管理サーバのノードを含むフォルダは削除できません。

V11.0L10以降/11.0以降

管理サーバのノード、または管理サーバのノードを含むフォルダは削除できません。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V10.0L10以降
 - Linux for Itanium版:V12.0L10以降

確認ポイント

削除しようとしているノードが、部門の管理サーバとして登録されていませんか。

部門フォルダのプロパティ画面で、部門管理サーバのホスト名を確認してください。

原因

削除しようとしているノードが、部門を管理するノードとして部門フォルダに登録されているためです。

対処方法

以下のどちらかの手順を実施してください。

- ・ 別の部門管理サーバを用意する場合
 1. 該当する部門フォルダのプロパティ画面で、部門管理サーバの設定を、ほかの部門管理サーバに変更してください。
 2. 部門管理サーバのノードを削除してください。
- ・ 部門管理サーバを統合する場合
 1. 部門フォルダの配下のサブネットを、統合後の部門管理サーバが管理している部門フォルダの配下に移動してください。
 2. 不要な部門フォルダを削除してください。
 3. 部門管理サーバのノードを削除してください。

20.22 削除したはずのノードが自動で作成される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

ノード削除後にポリシー配付を行っているか確認してください。

原因

ノードを削除しましたがポリシー配付を行う前に削除したノードがSNMPトラップを受信したためノードが自動で追加されました。

対処方法

再度ノードを削除し、ポリシー配付を行ってください。ポリシー配付の詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”を参照してください。

20.23 クラスタ構成のサーバのノードアイコンを一旦削除してからノード検出を行なうと、削除前と異なるノードアイコンが表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V10.0L20以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

対象のサーバから、クラスタ構成を示す情報が運用管理サーバに通知されていないことが原因です。この情報はノード検出を行なっても通知されるものではなく、対象のサーバからメッセージ等が通知された場合に通知されます。

対処方法

対象のサーバからメッセージが通知されれば、ノードアイコンは削除前のものに変化します。すぐに変化させたい場合は、対象のサーバで以下のコマンドを実行してください。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -a
```

[UNIX版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

20.24 構成情報配付コマンドがエラー終了する

エラーメッセージ

```
Policy distribution error. Server=xxxxxxxxxx
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalkerコンソールから、サブドメインフォルダのプロパティ画面を起動し、サブドメインに設定している部門管理サーバに部門管理サーバがインストールされているかを確認します。

部門管理サーバがインストールされている場合は、ポリシー配付に関するトラブルシューティングの内容を確認します。

原因

構成情報の配付先である部門管理サーバにSystemwalker Centric Managerがインストールされていない、または、運用管理サーバと部門管理サーバの間のネットワーク経路に問題があることが原因です。

対処方法

- 部門管理サーバがインストールされていない場合
Systemwalker Centric Managerをインストールして、サブドメインフォルダに実在する部門管理サーバを設定してください。その後、構成情報配付コマンドを実行してください。再実行してください。
- 部門管理サーバがインストールされている場合
運用管理サーバと部門管理サーバの間のネットワーク経路やファイアウォールの設定を確認してください。

第21章 ソフトウェア修正管理機能に関するトラブルシューティング

21.1 [ソフトウェア修正管理]画面を起動できない

エラーメッセージ

すでに別のマシンから「ソフトウェア修正管理」画面が使用されています。
IPアドレス : xxx.xxx.xxx.xxx
「ソフトウェア修正管理」機能は同時に使用することはできません。
使用中のマシンにおいて「ソフトウェア修正管理」が終了したことを確認してから再度実行してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.0.0以降
 - Solaris版:V13.0.0以降
 - Linux版:V13.0.0以降
 - Linux for Itanium版:V13.0.0以降

対処1

確認ポイント

同じ運用管理サーバに接続しているほかのコンピュータで、[ソフトウェア修正管理]画面を起動していませんか。

原因

ほかのコンピュータで[ソフトウェア修正管理]画面を起動中の場合は、起動できません。

対処方法

ほかのコンピュータで起動している[ソフトウェア修正管理]画面を終了させたあと、再度実行してください。

対処2

確認ポイント

タスクマネージャで[ソフトウェア修正管理]画面のタスクを強制終了しませんでしたか。

原因

[ソフトウェア修正管理]画面のタスクを強制終了させたあと、ほかのコンピュータから[ソフトウェア修正管理]画面を起動できません。

対処方法

- [ソフトウェア修正管理]画面のタスクを強制終了させたコンピュータで、再度[ソフトウェア修正管理]画面を起動し、終了させてください。

対処3

確認ポイント

[ソフトウェア修正管理]画面(Cmsftrsc.exe)でアプリケーションエラーが発生しましたか。

原因

[ソフトウェア修正管理]画面でアプリケーションエラーが発生したあと、ほかのコンピュータから[ソフトウェア修正管理]画面を起動できません。

対処方法

- ・ [ソフトウェア修正管理]画面でアプリケーションエラーが発生したコンピュータで、再度[ソフトウェア修正管理]画面を起動し、終了させてください。

対処4

確認ポイント

[V13.1.0以降] [ソフトウェア修正管理]画面で処理を実行しているときに、Systemwalkerコンソールを終了しませんでしたか。

原因

[ソフトウェア修正管理]画面が起動中にSystemwalkerコンソールを終了させると、Systemwalkerコンソールの終了に合わせて、Systemwalkerコンソール、または[統合コンソール]から起動した[ソフトウェア修正管理]画面も終了します。しかし、[ソフトウェア修正管理]画面で処理を実行しているときに、Systemwalkerコンソールを終了させると、[ソフトウェア修正管理]画面が強制終了する場合があります。

対処方法

- ・ Systemwalkerコンソールを終了させたコンピュータで、再度[ソフトウェア修正管理]画面を起動し、終了させてください。

なお、この問題を発生させないためには、[ソフトウェア修正管理]画面での処理が完了したあとにSystemwalkerコンソールを終了させてください。

21.2 [ソフトウェア修正管理]画面で管理対象サーバの表示ができない

エラーメッセージ

```
FJSVsivmg: ERROR: 4002: インベントリ管理マネージャの処理中に異常が発生しました[ライブラリ]. ( , sys=execute , errno=無効または不完全なマルチバイトまたはワイド文字です , detail=xxxxxxxx-xxxxxxxx )
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V13.0.0以降
 - Linux for Itanium版:V13.0.0以降

確認ポイント

[資源配付]ウィンドウに表示されているサーバ名やクライアント名の文字列内に、アルファベットや数字、日本語文字以外の文字が含まれていませんか。

対処方法

アルファベットや数字、日本語文字以外の文字を含めないように、[資源配付]ウィンドウに表示されているサーバ名やクライアント名を変更してください。

変更したあと、運用管理サーバにおいて、root権限で以下のコマンドを実行してください。

```
# /opt/systemwalker/bin/pcentricmgr -FD  
# rm -f /var/opt/FJSVsivmg/sivmg/RECV/*  
# drmscsv -a dbimp  
# /opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

21.3 [ソフトウェア修正管理]画面で、アプリケーションエラーが発生する場合がある

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.1.0以降
 - Solaris版:V13.1.0以降
 - Linux版:V13.1.0以降
 - Linux for Itanium版:V13.1.0以降

確認ポイント

[ソフトウェア修正管理]画面で処理を実行しているときに、Systemwalkerコンソールを終了しませんでしたか。

原因

[ソフトウェア修正管理]画面で処理を実行中にSystemwalkerコンソールを終了させると、Systemwalkerコンソールの終了に合わせて、Systemwalkerコンソール、または[統合コンソール]から起動した[ソフトウェア修正管理]画面も終了します。しかし、[ソフトウェア修正管理]画面で処理を実行しているときに、Systemwalkerコンソールを終了させると、[ソフトウェア修正管理]画面でアプリケーションエラーが発生する場合があります。

対処方法

[ソフトウェア修正管理]画面でアプリケーションエラーが発生したコンピュータで、再度[ソフトウェア修正管理]画面を起動し、終了させてください。

なお、この問題を発生させないためには、[ソフトウェア修正管理]画面での処理が完了した後にSystemwalkerコンソールを終了させてください。

21.4 [資源配付]画面で新規にノードを追加してインベントリ収集を行っても、[ソフトウェア修正管理]画面から[修正適用状況の更新]やインベントリ情報の表示を行うことができない場合がある

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.1.0以降
 - Solaris版:V13.1.0以降
 - Linux版:V13.1.0以降
 - Linux for Itanium版:V13.1.0以降

確認ポイント

以下の操作を実施していませんか。

1. [ノード管理]ツリーまたは[業務管理]ツリーを表示しているSystemwalkerコンソールから[ソフトウェア修正管理]画面を起動する。
2. 1の[ソフトウェア修正管理]画面を起動した状態のまま、[資源配付]画面にて、1のSystemwalkerコンソールで表示されているノードを追加し、インベントリ収集を行う。
3. 1の[ソフトウェア修正管理]画面で、メニュー[表示][最新の情報に更新]を実行する。
4. 2で追加したノードに対して、[修正適用状況の更新]やインベントリ情報の表示を実施する。

対処方法

[ソフトウェア修正管理]画面を一旦終了させ、再度起動してから実施してください。

第22章 リモート操作に関するトラブルシューティング

22.1 [Systemwalkerコンソール システム監視]が、リモート操作で表示できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

原因

リモート操作は、以下の表示をサポートしていません。

- DirectDrawを使用しているプログラムの表示
- OpenGLを利用する3Dマップ表示

[Systemwalkerコンソール システム監視]は、監視マップの表示にDirectDrawを使用しているため、リモート操作で正しく表示できない場合があります。

対処方法

[Systemwalkerコンソール システム監視]をリモート操作で表示する場合は、マップ表示ではなく、リスト表示を使用してください。

22.2 Windowsのターミナルサービス経由のリモート操作で、Systemwalker Centric Managerの操作がエラーとなる

Windowsターミナルサービスのクライアント(リモートデスクトップ)から運用管理サーバに対する以下の操作がエラーになります。

- 環境作成
- Systemwalkerコンソール起動
- Systemwalker Centric Managerのコマンド実行
- 資源配付クライアント

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V13.5.0B
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

原因

以下の場合、Windows ターミナルサービスクライアントまたはリモートデスクトップ接続を利用した操作はサポートしていません。

- 資源配付クライアントの操作
 - Systemwalker Centric Manager V12.0L11以前の場合
- 資源配付クライアント以外の操作
 - Systemwalker Centric Manager V13.2.0以前

または、

- Systemwalker Centric Manager V13.3.0～V13.5.0Bの運用管理サーバ、かつV9.1.0以前のSymfoware Serverと共存している場合

対処方法

上記の環境でリモートから操作を行う場合は、Systemwalker Centric Manager リモート操作を使用してください。

22.3 リモート操作エキスパートまたはモニターの画面に「画面転送一時停止中」のダイアログが表示され操作ができなくなる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L10以降

対処1

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerのインストール後に、OSの再起動を行いましたか？

原因

Systemwalker Centric Managerのインストール後に、OSが再起動されていないことが原因です。

対処方法

Systemwalker Centric Managerをインストールした後にOSを再起動してください。

対処2

確認ポイント

リモート操作クライアント端末にWindowsのターミナルサービスで接続していませんか？

原因

ターミナルサービスと[Live Help Client]プログラムの両方に接続可能な環境の場合、リモート操作機能でセッションを開始した際、または実行中に、以下の操作を行うことで本現象が発生します。

- 操作対象マシンがWindows XP、Windows Vista以降の場合
操作対象マシンにリモートデスクトップ接続を行う。
- 操作対象マシンがWindows Server 2003の場合
操作対象マシンにリモートデスクトップのコンソールセッションで接続を行う。
- 操作対象マシンが、Windows Server 2008以降の場合
操作対象マシンのローカルでログオンしているユーザと同じユーザでリモートデスクトップ接続を行う。

また、上記の操作により、操作対象マシンのOSがロックされ、以降のリモート操作機能の接続ができなくなります。

対処方法

この状態から画面転送を再開させるには、以下の対処を行ってください。

- 操作対象マシンがWindows XP、Windows Server 2003の場合
操作対象マシンのローカル上でログオンしてください。この操作で解消しない場合は、操作対象マシンのローカル上ですべてのユーザをログオフした後、ログオンし直してください。

- ・ 操作対象マシンがWindows Vista以降、Windows Server 2008以降の場合

操作対象マシンに接続しているリモートデスクトップをログオフしてください。この操作で解消しない場合は、操作対象マシンのローカル上ですべてのユーザーをログオフしてください。

対処3

確認ポイント

接続先のコンピューターでユーザーの切り替えをえていますか？

原因

接続先のコンピューターでユーザーの切り替えを行ったことが原因です。

対処方法

1. 接続先のローカルマシン上で、最初にログオンしたユーザーでログオンし直してください。(ほとんどの場合、この操作で画面転送が再開されます)
2. 手順1.の対処で画面転送が再開されない場合は、接続先のローカルマシン上ですべてのユーザーをログオフした後、ログオンし直してください。

22.4 Windows Vista以降のOSでリモート操作を接続すると動作が遅くなる場合がある

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V13.2.0以降

確認ポイント

回線速度が低速な環境で以下のOSを使用している場合に、動作が遅くなる場合があります。

- ・ Windows Vista以降
- ・ Windows Server 2008以降

過去の事例では、回線速度が1Mbps以下で、pingの応答時間が10msを超える環境で発生しています。

原因

Windows OSの仕様の違いによりデータの転送で遅延が発生することがあります。

対処方法

Windows XP以前のOSを使用するか、ネットワーク環境を改善してください。

22.5 ログオフするとリモート操作の接続が切断される

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - － Windows版:V13.2.0以降

確認ポイント

リモート操作接続中に、接続先のコンピューターでログオフを実施していませんか？

リモート操作機能でログオフした場合、および接続先のコンソールでログオフした場合のどちらでも発生します。

原因

以下のOSの場合、リモート操作クライアントをサービスとして起動しているとき、リモート操作中にクライアントのコンピュータでログオフを実行すると、リモート操作の接続が切断されます。

- Windows Vista以降
- Windows Server 2008以降

対処方法

ログオフを実施した場合は、ログオフ後にリモート操作を再接続してください。

リモート操作クライアントをサービスとして起動している必要があります。

22.6 Matrox G200e Display Driverを使用している環境でリモート操作機能を起動すると画面の描画が遅くなる場合がある

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.3.0以降

確認ポイント

以下のOSでディスプレイドライバとしてMatrox G200e Display Driverを使用していませんか？

- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2

原因

OSの内部処理により、Matrox G200e Display Driverを使用した場合にVRAMへのアクセスパス(ハード的)が長くなるのが原因です。

対処方法

Windows標準のVGAドライバを使用してください。

22.7 イベントログに以下のメッセージが出力されLive Helpでの接続ができなくなる

LHCTLSVC:エラー:3012:Live Help Control Service failed to complete a process triggered by a Windows Terminal Services (WTS) Session Event. [Function:0x0001001e Error: 0x00000000]

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager V13.2.0以降

確認ポイント

以下のOSを使用していませんか？

- Windows Vista以降
- Windows Server 2008以降

原因

ユーザーのログオフの際に、Live Help Clientのプロセスの起動が失敗しました。
一時的なリソース不足やデスクトップヒープ領域が枯渇した可能性があります。

対処方法

以下の手順に従って、Live Help Clientを再起動してください。

Live Help Clientの再起動でも改善しない場合は、OSを再起動してください。

1. Live Help Expert /Monitorとのセッションを切断してください。
(以降は、Live Help Client側の端末での操作です。)
2. Live Help Clientの待ち受けダイアログで[キャンセル]ボタンをクリックして、Live Help Clientを終了してください。
3. サービスアプレットで“Live Help Control Service”を停止してください。
4. タスクマネージャーで以下のプロセスが終了していることを確認してください。
“全ユーザーのプロセスを表示する”をチェックしてください。

- LHCTLSVC.EXE
- LH092165.EXE
- CLIENT.EXE
- DTC.EXE
- FXCLIENT.EXE

終了していなければ、[プロセスの終了]ボタンをクリックして、強制終了させてください。

5. サービスアプレットで「Live Help Control Service」を開始してください。
6. スタートメニューまたはアプリ画面からリモート操作クライアントを起動してください。
7. タスクマネージャーで以下のプロセスが起動していることを確認してください。
“全ユーザーのプロセスを表示する”をチェックしてください。

- LHCTLSVC.EXE
- LH092165.EXE
- CLIENT.EXE
- DTC.EXE
- FXCLIENT.EXE

22.8 リモート操作機能で接続中にログオフしたあと、リモート操作で接続できなくなる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.2.0以降

確認ポイント

ログオフの際に、編集中のメモ帳などOSのログオフを妨げるアプリケーションが起動していませんか。

原因

編集中のメモ帳などが起動していると、OSのログオフが完了しません。リモート操作機能はOSから停止されてしまうため、以降のリモート操作機能での接続が出来なくなります。

対処方法

ログオフする際に編集中のメモ帳など、OSのログオフを妨げるアプリケーションを停止してからログオフを実施してください。

本事象が発生した場合は、接続先の端末で該当のアプリケーションを終了させてからログオフを実施してください。

22.9 拡張ファイル転送機能の各種操作や録画データの保存に失敗する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V15.3.0以降

確認ポイント

Windows Defender Exploit Guardの設定を有効にしていますか？

原因

拡張ファイル転送機能の各種操作で利用するフォルダや録画データの保存先のフォルダが、Windows Defender機能によって保護されています。

対処方法

拡張ファイル転送の各種操作で利用するフォルダや録画データの保存先のフォルダは、Windows Defender機能によって保護されていないフォルダを指定してください。

第23章 ヘルプデスクに関するトラブルシューティング

23.1 「RDA0002: 入力待ち時間監視の値が7200秒を超えました」または「RDA2030: Connection time out error has occurred」と出力される

ヘルプデスククライアント使用中にエラーメッセージがポップアップされます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V13.2.0
 - Solaris版:5.0～V13.2.0

エラーメッセージ

SymfoWARE RDA: エラー: 1:YYYY/MM/DD hh:mm:ss.xxxrdasv: エラー: RDA0002:入力待ち時間監視の値が7200秒を超えました IP:xxx.xxx.xxx.xxx .
--

RDA-SV: rdasv: ERROR: RDA2030:Connection time out error has occurred
--

確認ポイント

対象OS/バージョンレベルのヘルプデスククライアントを使用している場合、帳票一覧画面等のヘルプデスクの画面を開いたまま2時間経過すると、エラーメッセージに記載されたメッセージがポップアップされます。

原因

帳票一覧画面等のヘルプデスクの画面を開いたまま2時間経過しました。

対処方法

帳票一覧画面等のヘルプデスクの画面を閉じてください。

画面を閉じるときにも本エラーが発生しますが、影響はありません。次回のヘルプデスクの操作は正常に行われます。

23.2 「MPHD0202:帳票:xxxxxを担当者:xxxxxに送付に失敗しました」と出力される

ヘルプデスクの担当者通知機能使用時に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～V13.2.0
 - Linux版:V11.0L10～V13.2.0

エラーメッセージ

MpHlpdmn: ERROR: MPHD0202:帳票: %1を担当者:%2 に送付に失敗しました。理由:xxxx
--

対処1

確認ポイント

理由が「パラメタエラーです。」の場合。

原因

ヘルプデスクのメール通知ライブラリに異常が発生しています。

対処方法

該当する帳票の「通報者」にE-Mailアドレスを設定し、[アクション環境設定]ダイアログボックス[メール]タブにFromアドレスを指定します。また、同じく[メール]タブのSMTPサーバを設定してください。

詳細は以下のマニュアルを参照してください。

- ・ 5.0/5.1
“SystemWalker/CentricMGR 導入手引書”-“各種機能のセットアップ”
- ・ 上記以外
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”-“担当者通知機能/エスカレーション機能を使う”

対処2

確認ポイント

理由がその他の場合。

対処方法

理由を確認し、原因を取り除いてください。対処できない場合は技術員に連絡してください。

23.3 ヘルプデスククライアント設定がクリアされ、初期状態に戻った

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V13.2.0
 - Solaris版:5.0～V13.2.0
 - Linux版:V11.0L10～V13.2.0

確認ポイント

ヘルプデスククライアントの設定を行ったユーザと、現在 Windows にログオンしているユーザはログオン先も含めて同じですか。

原因

ヘルプデスククライアントの設定は、Windowsのログオンユーザごとに設定されています。

対処方法

ヘルプデスククライアント設定を行ったWindowsのログオンユーザで、Windowsにログオンしてください。

なお、Windows版 運用管理サーバでは発生しません。

23.4 ヘルプデスククライアント起動時に、「JYP1021E システムコールにおいてエラーが発生しました. function =“getspnam_r”errno =“2”」と出力される

エラーメッセージ

JYP1021E システムコールにおいてエラーが発生しました. function = "getsnam_r" errno = "2"

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

/etc/shadowファイルが存在しますか。

原因

OSのシャドウパスワードの設定が無効になっているために、Symfoware Clientが接続に失敗しました。

対処方法

OSのシャドウパスワードの設定を有効にしてください。詳細はOSのマニュアルを参照してください。

23.5 帳票・担当者・部署が使用中と表示され、更新できない

エラーメッセージ

xxxxx(xxxxx)が使用中です。参照のみ可能です。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V13.2.0
 - Solaris版:5.0～V13.2.0
 - Linux版:V11.0L10～V13.2.0

対処1

確認ポイント

[帳票]ダイアログボックスを表示するときに上記エラーメッセージが表示された場合、xxxxx(xxxxx)の担当者が使用中でないか確認してください。

原因

- xxxxx(xxxxx)の担当者が該当の帳票を更新中です。
- xxxxx(xxxxx)の担当者が該当の帳票を更新中にシステム異常などが発生しました。
- xxxxx(xxxxx)の担当者がWeb連携機能で該当の帳票の更新画面を開き、[登録]または[戻る]ボタンをクリックせずにブラウザを終了しました、または、ほかの画面を開きました。

対処方法

xxxxx(xxxxx)の担当者が該当の帳票を更新中でない場合は、管理者が、以下の排他リセットの機能で更新可能にしてください。

1. [スタート]メニューから[プログラム]-[Systemwalker Centric Manager]-[ヘルプデスク]を選択します。
→[ヘルプデスク機能]ダイアログボックスが表示されます。

2. [各種定義]ボタンをクリックします。
→[各種定義]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ユーティリティ]ボタンをクリックします。
→[ユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [排他リセットユーティリティ]ボタンをクリックします。
→[排他リセットユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。
5. [帳票]ボタンをクリックします。
→[排他リセットユーティリティ(帳票)]ダイアログボックスが表示されます。
6. “帳票コード”欄に排他リセットする帳票コードを設定します。
7. “使用者コード”欄に使用者コード(XXXXX(XXXXX)の括弧内)を指定します。
8. [OK]ボタンをクリックします。

対処2

確認ポイント

[担当者詳細]ダイアログボックスを表示するときに上記エラーメッセージが表示された場合、XXXXX(XXXXX)の担当者が使用中でないか確認してください。

原因

- XXXXX(XXXXX)の担当者が該当の担当者情報を更新中です。
- XXXXX(XXXXX)の担当者が該当の担当者情報を更新中にシステム異常などが発生しました。
- XXXXX(XXXXX)の担当者がWeb連携機能で該当の担当者の更新画面を開き、[登録]または[戻る]ボタンをクリックせずにブラウザを終了しました、または、ほかの画面を開きました(Windows版の場合)。

対処方法

XXXXX(XXXXX)の担当者が該当の担当者情報を更新中でない場合は、管理者が、以下の排他リセットの機能で更新可能にします。

1. [スタート]メニューから[プログラム]-[Systemwalker Centric Manager]-[ヘルプデスク]を選択します。
→[ヘルプデスク機能]ダイアログボックスが表示されます。
2. [各種定義]ボタンをクリックします。
→[各種定義]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ユーティリティ]ボタンをクリックします。
→[ユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [排他リセットユーティリティ]ボタンをクリックします。
→[排他リセットユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。
5. [担当者]ボタンをクリックします。
→[排他リセットユーティリティ(担当者)]ダイアログボックスが表示されます。
6. “担当者コード”欄に排他リセットする担当者コードを設定します。
7. “使用者コード”欄に使用者コード(XXXXX(XXXXX)の括弧内)を指定します。
8. [OK]ボタンをクリックします。

対処3

確認ポイント

[部署詳細]ダイアログボックスを表示するときに上記エラーメッセージが表示された場合、xxxxx(xxxxx)の担当者が使用中でないか確認してください。

原因

- xxxxx(xxxxx)の担当者が該当の部署情報を更新中です。
- xxxxx(xxxxx)の担当者が該当の部署情報を更新中にシステム異常などが発生しました。
- xxxxx(xxxxx)の担当者がWeb連携機能で該当の部署の更新画面を開き、[登録]または[戻る]ボタンをクリックせずにブラウザを終了しました、または、ほかの画面を開きました (Windows版の場合)。

対処方法

xxxxx(xxxxx)の担当者が該当の部署情報を更新中でない場合は、管理者が、以下の排他リセットの機能で更新可能にします。

1. [スタート]メニューから[プログラム]-[Systemwalker Centric Manager]-[ヘルプデスク]を選択します。
→[ヘルプデスク機能]ダイアログボックスが表示されます。
2. [各種定義]ボタンをクリックします。
→[各種定義]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ユーティリティ]ボタンをクリックします。
→[ユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [排他リセットユーティリティ]ボタンをクリックします。
→[排他リセットユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。
5. [部署]ボタンをクリックします。
→[排他リセットユーティリティ(部署)]ダイアログボックスが表示されます。
6. “部署コード”欄に排他リセットする部署コードを設定します。
7. “使用者コード”欄に使用者コード (xxxxx(xxxxx)の括弧内)を指定します。
8. [OK]ボタンをクリックします。

第24章 IDカードに関するトラブルシューティング

24.1 カードセキュリティウィンドウに「マネージャ未起動」が表示されたままとなる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版(GEE):5.0～V13.1.0
 - Solaris版(EE): 12.0～V13.1.0
 - Linux版(EE): V12.0L10～V13.1.0

確認ポイント

LANの切断等、ネットワーク異常の発生後、LANの再接続等の復旧をしても、IDカードセキュリティのカードセキュリティウィンドウに「マネージャ未起動」が表示されたままですか。

対処方法

本現象が発生し、「マネージャ未起動」が解消されない場合は、運用管理クライアントをリポートしてください。

24.2 IDカードセキュリティを運用している環境で、画面の操作を行う時に“サーバとの通信が切断されました。再起動してください”が表示される

エラーメッセージ

サーバとの通信が切断されました。再起動してください

運用管理クライアントにポップアップメッセージで表示されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版(GEE):5.0～V13.1.0
 - Solaris版(EE): 12.0～V13.1.0
 - Linux版(EE): V12.0L10～V13.1.0

確認ポイント

- 運用管理サーバのhostsを確認し、運用管理クライアントのIPアドレスとホスト名の対応は正しいですか。
- 運用管理クライアントのエージェント起動条件記述ファイルの接続先は正しいですか。

対処方法

[カードセキュリティ]ウィンドウが起動されていないことが考えられます。運用管理クライアントで、Windowsのログアウトをした後、再ログインしてください。

24.3 「MpldCard: 警告: 2」のメッセージがイベントログに出力される

エラーメッセージ

イベントログに、以下のメッセージが表示されます。

ソース: MpIdCard

種類: 警告

イベントID: 2

説明: トレースデータを表示します。(NAME=AgentService KIND=2 RC=-1 S_RC=2
DETAIL=10061 ST=SocketLibrary OB=ConnectToAgnt-connect)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版(GEE):5.0～11.0

確認ポイント

[カードセキュリティ]ウィンドウが起動されていますか。

対処方法

エージェントの環境設定が実施されていない場合は、実施してください。その後、運用管理クライアントで、一度ログアウトした後、再ログインしてください。

詳細については、各バージョンレベルの“Systemwalker Centric Manager GEE説明書”または“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition説明書”の“エージェントの環境設定”を参照してください。

第25章 メータリングに関するトラブルシューティング

25.1 メータリング・サーバが起動できない

エラーメッセージ

MpMTServerサービスを開始できませんでした エラーNo.2140 WindowsNTの内部エラーが発生しました。

メッセージボックスで出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30

原因

Systemwalker Centric Managerが同梱するJRE(Java Runtime Environment)が、Intel Pentium 4をサポートしていないため、ポリシー配付画面が起動しません。

対処方法

障レ番号PG06338を含む修正の適用を行ってください。

この修正により、Systemwalker Centric Managerで使用するJREが、Intel Pentium 4をサポートするJREに置き換わります。

備考

以下のCPUはPentium4プロセッサベースで開発されているため、同様のトラブルが発生します。

- Intel(R) Pentium4 プロセッサ
- Intel(R) Celeron(R) プロセッサ 1.70GHz 以上(注1)
- Intel(R) Mobile Celeron(R) プロセッサ 1.40GHz 以上(注1)
- インテル(R) Xeon(TM) プロセッサ (注2)

注1)これより低いクロックのCeleronプロセッサは、Pentium IIIベースで開発されているため、該当しません。

注2)インテル(R) Pentium(R) III Xeon(TM) プロセッサは、Pentium IIIベースで開発されているため、該当しません。

25.2 メータリング・クライアントが動作しない

エラーメッセージ

[V5.0L30～V10.0L10]

MpMTClient: エラー: 6121:Service:ポリシー受信時で、転送処理で異常が発生しました。

[V10.0L20～V10.0L21]

MpMTClient: エラー: 6136:Service:通信処理において指定したサーバが未起動のため接続できません。
%1

%1: ポリシー受信時、またはデータ転送時を示すコード

イベントログ(アプリケーション)に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30～V10.0L21
 - Solaris版:5.2～10.1
 - HP-UX版:10.0
 - AIX版:10.0
 - Linux版:5.2～V10.0L20

対処1

確認ポイント

接続先サーバのメータリング・サーバのサービス(MpMTServer)は起動されていますか。
[メータリング・クライアント動作環境設定]画面を起動して、接続先サーバを確認してください。

対処方法

接続先サーバのメータリング・サーバのサービスを起動してください。

また、Windows版のV10.0L10/V10.0L20/V10.0L21の場合、コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスで、“Systemwalker MpMTServer”の[スタートアップの種類]を[手動]から[自動]に変更する必要があります。

(接続先サーバが運用管理サーバの場合、インストール直後は、[手動]になっています。)

備考

メータリング機能を使用しない場合は、上記の対処方法を実施後に以下の方法でメータリング・クライアントの起動を抑制してください。
ただし、クライアントがWindows版 V5.0L30、または Solaris版 5.2の場合、“メータリングクライアントサービスが停止中にWindows(クライアント)にログオンすると、イベントログにエラーが出力される”が発生します。

- 運用管理サーバ、または運用管理クライアントでの作業
 - Systemwalkerコンソールからメータリング収集を行わないメータリングポリシーを作成し、メータリングサーバへ配付します。
- クライアントでの作業
 1. [メータリングクライアント動作環境設定]を起動し、接続サーバに稼動しているメータリングサーバのホスト名、またはIPアドレスを指定し、[OK]ボタンを押します。
 2. システムを再起動し、再ログオンを行い、メータリングポリシーを適用します。
 3. コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスで、“Systemwalker MpMtClient”を停止します。
 4. コントロールパネルの[サービス]ダイアログボックスで、“Systemwalker MpMtClient”の[スタートアップの種類]を[手動]に変更します。

対処2

確認ポイント

接続先サーバに、メータリング・サーバがインストールされていますか。
[メータリング・クライアント動作環境設定]画面を起動して、接続先サーバを確認してください。

対処方法

メータリング・サーバをインストールしてください。

接続先サーバとして、メータリング・サーバがインストールされている実運用で使用しているサーバを指定してください。

クライアントの接続先サーバの変更は、[メータリング・クライアント動作環境設定]画面から行ってください。

対処3

確認ポイント

指定した接続先サーバ名に誤りはありませんか。

[メータリング・クライアント動作環境設定]画面を起動して、接続先サーバを確認してください。

対処方法

接続先サーバには、メータリング・サーバがインストールされている、かつメータリング・サーバのサービス(MpMTServer)が起動しているサーバを指定してください。

対処4

確認ポイント

指定した接続先サーバのネットワーク環境に問題はありませんか。

対処方法

指定した接続先サーバと通信できるか確認し、ネットワーク環境を見直してください。

25.3 メータリングクライアントサービスが停止中にWindows(クライアント)に ログオンすると、イベントログにエラーが出力される

エラーメッセージ

6502:EventSet:メータリングクライアントサービスからの応答がありません。
メータリングクライアントサービス(MpMTClient)が起動されているか確認してください。
イベント名=Metering_Client_Event_Logon, エラーコード=(0x2)指定されたファイルが見つかりません。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30
 - Solaris版:5.2

確認ポイント

メータリングクライアントサービス(MpMTClient)が停止していないかを確認してください。

原因

メータリングクライアントサービス(MpMTClient)が停止している場合に発生します。

対処方法

メータリング機能を使用している場合は、メータリングクライアントサービス(MpMTClient)のスタートアップの種類を「自動」に変更してください。
メータリング機能を使用していない場合は、対処の必要はありません。

第26章 運用中にメッセージが出力されるトラブルシューティング

26.1 イベントログに、「電源を中断する要求が取り消されました。」と出力される

イベントログに、“SY:Win32k:警告:240:Mpbcmgui.exeによって電源を中断する要求が取り消されました。”というメッセージが出力される場合があります。

エラーメッセージ

```
SY:Win32k:警告:240:Mpbcmgui.exeによって電源を中断する要求が取り消されました。  
SY:Win32k:警告:240:flg.exeによって電源を中断する要求が取り消されました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降(PCクライアント)
 - Linux版:V11.0L10以降(PCクライアント)

原因

[Systemwalkerコンソール(業務監視画面、システム監視画面)]では、運用中にOSが低電力状態(サスペンド、スリープ、ハイバネーション等の名称で記載されている場合もあります)になると、正常動作ができないため、低電力状態に移行されないように、OSからの電源を中断する要求を拒否する仕様になっています。

電源を中断する要求が拒否された場合、OSは本メッセージをイベントログ(システム)に出力します。

対処方法

特に対処の必要はありません。

26.2 イベントログに「異常(OpenEventLog()-1723)が発生しました」と出力される

エラーメッセージ

```
ソース:MpOpagt  
種類:エラー  
イベントID:122  
説明:異常(OpenEventLog()-1723)が発生しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

確認ポイント

メッセージの出力タイミングは、システムの起動時またはSystemwalker Centric Managerの起動時ですか。

原因

システムがビジー状態となり、OSがSystemwalker Centric Managerからの要求(イベントログのオープン)を受け付けられない状態であったことが原因です。

対処方法

手動操作によりSystemwalker Centric Managerを停止後、起動してください。

以下のコマンドを実行してください。

```
pcentricmgr  
scentricmgr
```

26.3 Systemwalker Centric Managerを構成するプロセス間の通信パスが切断される

エラーメッセージ

- [Windows版の場合]

```
MpOpagt: エラー: 52:Mp_SysAutoTOAol_sendでエラーが発生しました。
```

- [UNIX版の場合]

```
opagtd: エラー: 52: Mp_SysAutoTOAol_sendでエラーが発生しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

- [Windows版の場合]

以下のサービスが起動しているか確認してください。

```
Systemwalker MpAosfB
```

- [UNIX版の場合]

以下のモジュールが起動しているか確認してください。

```
f3crhesv
```

起動していない場合は、Systemwalker Centric Manager の再起動を実施してください。

26.4 自動容量拡張に失敗する

エラーメッセージ

```
rdp: ERROR: qdg02869u:DSI'SYSTEMWALKER_DB.OBJ%1_%2_0000'の'%3'に対する自動容量拡張に失敗しました 割付け量=%4'キロバイト
```

```
rdp: ERROR: qdg12212u:RDBIIディクショナリでデッドロックが発生しました
```

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

可変情報

- %1:1~8000の数値
- %2:DSI名
以下のどれかが入ります。
 - DSI1
 - XDSI1
 - XDSI2
- %3:割付対象
以下のどれかが入ります。
 - BASE
 - INDEX
 - DATA
- %4:数値

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

自動的にリカバリされるため対処は不要です。運用は正常に継続されます。

26.5 「SQL文の実行で重症エラーを検出しました」と出力される

エラーメッセージ

```
[メッセージ] SQL文の実行で重症エラーを検出しました:"JYP5001E スキーマ"MPLSxxxx"の表"DATATBL"内に定義されているDSI"#MPLSxxxx#DATATBL*"の容量が不足しました。"
```

イベントログ(アプリケーション)に出力されます。

xxxx:OBJ0、ALM3、ALM4のどれかが入ります。

*:1~8の数字が入ります

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V10.0L21
 - Solaris版:5.0～10.1

原因

Systemwalker Centric ManagerのイベントログDB領域の切り替え処理時に発生しますが、処理は正常に行われています。

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。

26.6 「qdg02261u」と出力される

エラーメッセージ

```
qdg02261u:共用バッファプール'lsdbalm3ev'は開設されていません
```

イベントログ(アプリケーション)に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。

26.7 IPC資源を回収できない

IPC(Inter Process Communication)資源とは、複数のプロセスや、スレッド間で情報を共有するために使われる、メッセージ、共有メモリ、およびセマフォなどのリソースを指します。

エラーメッセージ

```
mpipcmgr: WARNING: When stopping, Systemwalker could not remove some IPC resources
```

```
mpipcmgr: WARNING: Systemwalker could not remove the following IPC resource. (TYPE=%1, ID=%2, KEY=%3)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

IPC資源が回収できなかった場合に、以下の手順で、どの資源が回収されなかったのか確認します。

1. 以下のコマンドを実行し、IPC資源の状態を表示します。

```
/opt/systemwalker/bin/mpipcsc
```

2. 実行結果を確認します。

回収できなかったIPC資源は、実行結果より、以下のメッセージの箇所に表示されます。

```
Status of undeletion IPC from <stopping Systemwalker Centric Manager>  
T ID KEY DATE TIME PID CMD
```

- T:種別 (m:共用メモリ、q:メッセージキュー、s:セマフォ)
- ID:ID
- KEY:キー
- DATE:獲得日付
- TIME:獲得時刻
- PID:プロセスID
- CMD:プロセス名

3. システムのコマンド(ipcrm)を使用し、未回収のIPC資源を回収します。

※IPC資源の解放漏れイベントが通知されても、そのあとの起動/停止で前回開放漏れとなったIPC資源の回収処理が正常に行われた場合は、mpipcscコマンドを実行しても開放漏れの一覧への表示はされません。

原因

IPC資源の回収ができなかった場合に発生します。

対処方法

Systemwalker Centric Managerを停止した状態で、以下の手順を実施してください。

- 共用メモリの回収

```
ipcrm -m shmid
```

shmid:回収する共用メモリのidを指定します。

- メッセージキューの回収

```
ipcrm -q msqid
```

msqid:回収するメッセージキューのidを指定します。

- セマフォの回収

```
ipcrm -s semid
```

semid:回収するセマフォのidを指定します。

対処例

例1

- メッセージ例

```
q 1 0x0700404a 2002/3/7 08:43:47 24333 MpFwems
```

- 回収方法

```
ipcrm -q 1
```

例2

- メッセージ例

```
m 2 0x0700404b 2002/3/7 08:43:47 24333 MpFwems
```

- 回収方法

```
ipcrm -m 2
```

例3

- メッセージ例

```
s 33 0x07004050 2002/3/7 08:43:48 24335 MpFwls
```

- 回収方法

```
ipcrm -s 33
```

26.8 「DSIの容量が不足しました」と出力される

エラーメッセージ

```
"qdg12825u スキーマ"MPLSxxxx"の表"DATATBL"内に定義されている  
DSI"#MPLSxxxx#DATATBL*"の容量が不足しました。(システム名=CENTRIC)"
```

イベントログ(アプリケーション)に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Managerのイベントログを格納するDSIが切り替えられた場合に発生します。

該当となるログは以下のとおりです。

- オブジェクトログ
- 監視メッセージログ
- 監視イベントログ

ログの詳細は、以下のマニュアルを参照してください。

- V10.0L20/10.1～V10.0L10/10.0
“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“データベース領域のモデル別見積もり”

- V5.0L30/5.2
“Systemwalker/CentricMGR 導入手引書”の“データベース領域のモデル別見積もり”
- V5.0L20/5.1～V5.0L10/5.0
“Systemwalker/CentricMGR 導入手引書”の“データベース用に必要な資源”

対処方法

本メッセージは、特にエラーが発生している訳ではないため、対処は必要ありません。

しかし、以下のどれかの対処で、現象は発生しなくなります。

- 緊急修正を適用します
以下のどれかを適用します。
 - [Windows版の場合]
 - V5.0L30 :TP05205を含む修正
 - V10.0L10:TP05295を含む修正
 - V10.0L20:TP05296を含む修正
 - [Solaris版の場合]
 - V5.2 :T000AS-xx、T000BS-xx、T000CS-xx
 - V10.0:T000DS-xx
 - V10.1:T000ES-xx
- メッセージのフィルタリング定義で、上記のエラーメッセージを抑止します。
[イベント監視の条件定義]ダイアログボックスで、上記エラーメッセージを抑止してください。

26.9 「Invalid character code. Text is deleted」または、「xxx "Cannot encode the rest of the messages. Check their contents on the sender system. <yyy>"」が表示される

エラーメッセージ

Invalid character code. Text is deleted

または、

xxx "Cannot encode the rest of the messages. Check their contents on the sender system. <yyy>"

Systemwalkerコンソールに出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降

- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

Systemwalker Centric Managerが収集したイベントのメッセージ文字列が、監視イベント一覧で表示できる文字コードに変換できなかったために発生します。

具体的には、イベント発生元のメッセージを出力しているアプリケーションで以下のどれかの動作をしていることが原因です。

- 発生元システムの文字コードと異なる文字コードのメッセージを出力している
- 出力しているメッセージが1文字のコードの途中で途切れている(例:2バイトコード文字の1バイト目で切れている)
- 出力しているメッセージにクライアントのコード系では、表現できない文字が含まれている(JIS補助漢字など)

表現できない文字例として、マイクロソフトコード系のNEC特殊文字がメッセージに含まれている場合に、本エラーメッセージが表示されます。

具体的なSJIS、EUC のコードは以下になります。

SJIS:EUC	SJIS:EUC	SJIS:EUC	SJIS:EUC	SJIS:EUC
8740:ADA1	8753:ADB4	8767:ADC8	8783:ADE3	8796:ADF6
8741:ADA2	8754:ADB5	8768:ADC9	8784:ADE4	8797:ADF7
8742:ADA3	8755:ADB6	8769:ADCA	8785:ADE5	8798:ADF8
8743:ADA4	8756:ADB7	876A:ADCB	8786:ADE6	8799:ADF9
8744:ADA5	8757:ADB8	876B:ADCC	8787:ADE7	879A:ADFA
8745:ADA6	8758:ADB9	876C:ADCD	8788:ADE8	879B:ADFB
8746:ADA7	8759:ADBA	876D:ADCE	8789:ADE9	879C:ADFC
8747:ADA8	875A:ADBB	876E:ADCF	878A:ADEA	
8748:ADA9	875B:ADBC	876F:ADDO	878B:ADEB	
8749:ADAA	875C:ADBD	8770:ADD1	878C:ADEC	
874A:ADAB	875D:ADBE	8771:ADD2	878D:ADED	
874B:ADAC	875F:ADCO	8772:ADD3	878E:ADEE	
874C:ADAD	8760:ADC1	8773:ADD4	878F:ADEF	
874D:ADAE	8761:ADC2	8774:ADD5	8790:ADF0	
874E:ADAF	8762:ADC3	8775:ADD6	8791:ADF1	
874F:ADB0	8763:ADC4	877E:ADDF	8792:ADF2	
8750:ADB1	8764:ADC5	8780:ADE0	8793:ADF3	
8751:ADB2	8765:ADC6	8781:ADE1	8794:ADF4	
8752:ADB3	8766:ADC7	8782:ADE2	8795:ADF5	

- 以下の形式で出力された場合、表示メッセージの xxx の個所に変換に失敗した文字まで出力されます。

```
xxx "Cannot encode the rest of the messages. Check their contents on the sender system. <yyy>"
```

また、変換に失敗した文字以降は、16進数に変換されて、表示メッセージの yyy の個所に最大20バイト出力されます。

- 2048バイトを超えた文字列が通知された場合、処理不可能な文字数はカットして処理を継続します。しかし、2048バイト目がマルチバイト文字の2バイト目以降の場合は、文字の途中でカットしてしまい、文字化けとなり代替文字に変換が行われる現象が発生します。

対処方法

メッセージを出力しているアプリケーションが正常なメッセージを出力するようにします。

アプリケーションが出力したメッセージは、運用管理サーバの以下のファイルに蓄積されています。このファイルの内容から原因となっているアプリケーションを特定し、アプリケーションの設定変更や修正を行ってください。

ファイル

- [UNIXの場合]

```
/var/opt/FJSVfwbs/ems/error_text
```

- [Windowsの場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥var¥ems¥error_text
```

ファイルの内容説明

- Sender:

Systemwalker Centric Manager内の監視イベント発信者(調査には関係ありません)

- NodeName:

イベント発生元ノード名

- Timestamp:

イベント発生時間

```
YYYYMMDDhhmmss.nnnnnn+540
```

YYYY:年(西暦)

MM:月

DD:日

hh:時

mm:分

ss:秒

nnnnnn:マイクロ秒

- Eventtext:

メッセージテキスト文字列

ファイルの実例

```
Sender = MpMcsys  
NodeName = node1  
Timestamp = 20001006193227.000000+540  
Eventtext = 間違ったコード系の文字列
```

26.10 運用管理サーバで「od10301」という情報メッセージが出力される

エラーメッセージ

```
OD: INFO: od10301:Process %s1(%s2) has vanished.  
OD: 情報: od10301:プロセス%s1(%s2)が終了しました。
```

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

[可変情報]

%s1:プロセスID

%s2:プロセス名

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処方法

運用には問題ありません。対処不要です。

26.11 「od10937」という情報メッセージが出力される

運用管理サーバとそれが接続されているハブ間のLANケーブルを抜く、またはハブの動作異常(ハブの電源断含む)が発生した場合に、「od10937」という情報メッセージが出力されます。また、このとき運用管理サーバ上でSystemwalkerコンソールを起動していても、監視メッセージが通知されなくなります。

エラーメッセージ

```
OD: ERROR: od10937:Failed to connect to host(%s1),port(%s2). (%s3)
OD: エラー: od10937:ホスト(%s1),ポート(%s2)への接続に失敗しました。( %s3)
```

[可変情報]

%s1: 運用管理サーバのホスト名またはIPアドレス

%s2: 接続先ポート(通常は8002)

%s3: 詳細エラー情報

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L20以降

確認ポイント

運用管理サーバのメディア検出機能が有効になっていませんか。(確認方法は対処方法を参照してください)

原因

Windows 2000 Server以降に追加されたメディア検出機能により、LANケーブルの抜けや接続されているハブの異常が発生すると、対象のローカルエリア接続が自動的に無効状態となり、マシン内部の通信にも異常が発生します。

対処方法

以下の手順でメディア検出機能を無効にしてください。

1. 運用管理サーバにAdministrator権限を持つアカウントでログインしてください。
2. レジストリエディタで以下のレジストリを編集してください。

```
キー: HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters
に以下の値を追加
```

値の名前: DisableDHCPMediaSense

値の種類: DWORD値

値のデータ: 1

(0:メディア検出機能有効、1:メディア検出機能無効)

補足:

標準では上記のレジストリ値は存在しません。存在しない場合はメディア検出機能が有効となります。

3. 運用管理サーバのシステム(Windows)を再起動してください。

再起動後からメディア検出機能が無効となり、LANケーブルやハブの異常時にマシン内部の通信まで異常となることはなくなります。

26.12 「od10918」または「od11112」という情報メッセージが出力される

通信基盤がクライアントアプリケーションから受け付ける接続数の上限設定値(可変情報%s1)を超過し、リクエストを受信した場合に出力されるメッセージです。

エラーメッセージ

```
OD: ERROR: od10918:The number of connections from clients exceeded the maximum limit.
(limit_of_max_IIOp_resp_con = %s1)
OD: エラー: od10918:クライアントから受け付ける接続数が設定値を超えました。
(limit_of_max_IIOp_resp_con = %s1)
OD: 警告: od11112:クライアントから受け付ける接続数が最大数に近づいています。
(limit_of_max_IIOp_resp_con = %s1)
```

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

[可変情報]

%s1: configファイルのlimit_of_max_IIOp_resp_conの値

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

通信基盤がクライアントアプリケーションから受け付ける接続数の上限設定値(可変情報%s1)を超過し、リクエストを受信した場合に本現象が発生します。なお、Systemwalkerの通常運用において、接続数上限に達することは稀であり、正常に終了されなかった接続数が残留した結果、上限に達するケースがほとんどです。

接続数残留の原因として、以下があります。

- Systemwalkerコンソールを起動した状態で運用管理クライアントのOSを終了させた。
- 運用管理サーバ運用管理クライアント間の接続が何らかの理由で切断された。(プロセスの強制停止等)
- ファイアウォールの設定により運用管理クライアントからの接続が切断された。

対処方法

- Windows版

以下手順で復旧してください。

1. 接続数の残留を抑止する場合は、以下のファイルを編集します。

[編集対象ファイル]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mpobjdsv¥etc¥config
```

[編集項目]

```
period_idle_con_timeout = 0
period_client_idle_con_timeout = 0
```

[編集内容]

以下の関係が成立するように、値を設定します。

```
60 < period_client_idle_con_timeout < period_idle_con_timeout < ファイアウォールのコ
ネクション維持時間
```

設定例)

```
period_idle_con_timeout = 180
period_client_idle_con_timeout = 150
```

※コネクション抑止は、以下の環境の場合のみ実施可能です。条件に合致しない場合は、設定不可となります。

- 条件1: Interstageとの共存環境でないこと。
- 条件2: 製品VLがV10.0L20以降であること。

2. 残留コネクションを解放するため、システムを再起動します。

• Solaris版

以下手順で復旧してください。

1. コネクションの残留を抑止する場合は、以下のファイルを編集します。

[編集対象ファイル]

```
/opt/FSUNod/etc/config
```

[編集項目]

```
period_idle_con_timeout = 0
period_client_idle_con_timeout = 0
```

[編集内容]

以下の関係が成立するように、値を設定します。

```
60 < period_client_idle_con_timeout < period_idle_con_timeout < ファイアウォールのコ
ネクション維持時間
```

設定例)

```
period_idle_con_timeout = 180
period_client_idle_con_timeout = 150
```

※コネクション抑止は、以下の環境の場合のみ実施可能です。条件に合致しない場合は、設定不可となります。

- 条件1: Interstageとの共存環境でないこと。
- 条件2: 製品VLがV10.1以降であること。

2. 残留コネクションを解放するため、システムを再起動します。

• Linux版

以下手順で復旧してください。

1. コネクションの残留を抑止する場合は、以下のファイルを編集します。

[編集対象ファイル]

```
/opt/FJSVod/etc/config
```

[編集項目]

```
period_idle_con_timeout = 0
period_client_idle_con_timeout = 0
```

[編集内容]

以下の関係が成立するように、値を設定します。

```
60 < period_client_idle_con_timeout < period_idle_con_timeout < ファイアウォールのコ
ネクション維持時間
```

設定例)

```
period_idle_con_timeout = 180
period_client_idle_con_timeout = 150
```

※コネクション抑止は、以下の環境の場合のみ実施可能です。条件に合致しない場合は、設定不可となります。

- 条件1: Interstageとの共存環境でないこと。
- 条件2: 製品VLがV11.0L10以降であること。

2. 残留コネクションを解放するため、システムを再起動します。

コネクションの残留を抑止する場合の設定値について

- period_idle_con_timeout

サーバにおける、無通信状態(クライアントからのリクエスト送信なし)の監視時間を意味します。この値に5を乗じた値が実際の時間(秒)となります。設定例)の通り設定した場合、15分(180×5秒=900秒)以上無通信のコネクションは、自動回収(リクエスト処理に使用したメモリ資源の解放)が行われます。"0"を設定した場合は、無通信監視機能を使用しない設定となります。

- period_client_idle_con_timeout

クライアントにおける、無通信状態(サーバへのリクエスト送信なし)の監視時間を意味します。この値に5を乗じた値が実際の時間(秒)となります。設定例)の通り設定した場合、12.5分(150×5秒=750秒)を超えてもサーバへのリクエスト送信がない場合、次回のリクエスト送信時には、サーバとのコネクション切断・再接続後にリクエストを送信します。

当設定後、"od10926"や"od10941"という情報メッセージが出力される場合がありますが、対処不要のメッセージとなります。当メッセージは無通信監視機能が動作し、メモリの開放処理が行われたことを示すインフォメーションとなります。

26.13 「MPFWQS(%1):HALT:20104002:CANNOT WRITE TO COMMON TRACE.」とログファイル(/var/adm/messages)に出力される

エラーメッセージ

```
MPFWQS(%1):HALT:20104002:CANNOT WRITE TO COMMON TRACE.
```

%1: プロセスID

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0～5.2

原因

トレースファイルの書き込み時における一時的な排他エラーです。

対処方法

Systemwalker Centric Managerの運用には影響のないメッセージです。対処の必要はありません。

エラーメッセージが頻発するようでしたら、Systemwalker Centric Managerのイベントをフィルタリングする機能で、監視対象から外してください。

26.14 「MpFwEms[xxxx]:50000011:内部エラーが発生しました。(操作名=SetConsumerEventID()理由=50008133)」がログに出力される

エラーメッセージ

[Windows]

```
Ap:MpFwbs:エラー:3:MpFwEms[xxxx]:50000011:内部エラーが発生しました。(操作名=SetConsumerEventID()理由=50008133)
```

[Solaris/Linux]

```
MpFwems[xxxx]: [ID yyyy] エラー: 50000011: 内部エラーが発生しました。(操作名=SetConsumerEventID() 理由=50008133)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

本エラーメッセージの同一時間帯に、Systemwalker Centric Manager のエラーメッセージが発生しているかを確認してください。

原因

Systemwalker Centric Manager の内部処理で、SetConsumerEventID()関数に誤った引数を指定した際に出力されるメッセージです。

本エラー出力前後に誤った引数を指定した処理のエラーメッセージが出力されている場合は、対処が必要です。

対処方法

本エラーと併せて、Systemwalker Centric Manager のエラーメッセージが同時帯に出力されている場合は、SetConsumerEventID()関数の呼び出し側の異常が考えられますので、エラーの発生したコンピュータで保守情報収集ツールを使用して全機能の資料を採取して、技術員に連絡してください。

26.15 「OD: ERROR: od10915:Internal error in ObjectDirector.」が出力される

エラーメッセージ

```
OD: ERROR: od10915:Internal error in ObjectDirector. (OM_con_lib.c, 2299): check server timeout: start_time=0, 134 / Transport endpoint is not connected, pid = 1472, thrid = 6  
OD: エラー: od10915:ObjectDirectorで内部エラーが発生しました。(OM_con_lib.c, 2299): check server timeout: start_time=0, 134 / Transport endpoint is not connected, pid = 1472, thrid = 6
```

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

ODのアプリケーションの起動中(CORBA_ORB_init処理=CORBAの初期化中)にODのプロセスの生死監視が動作した場合に、本メッセージが出力されます。

※OD: Systemwalker Centric Manager の通信基盤を使用する機能

対処方法

当メッセージは、運用に影響はありません。対処の必要はありません。

26.16 「SystemWalker/CentricMGRのセットアップが実行されていないか通信エラーが発生しています。(詳細コード= CORBA::StExcep::COMM_FAILURE,0x464a0101)」と出力される

エラーメッセージ

SystemWalker/CentricMGRのセットアップが実行されていないか通信エラーが発生しています。(詳細コード= CORBA::StExcep::COMM_FAILURE,0x464a0101)

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V5.0L30
 - Solaris版:5.0～5.1

原因

Systemwalkerの通信基盤を使用した機能間の通信で、一定時間(デフォルト設定5分)を超過したことにより、タイムアウトが発生したために本現象が発生しました。

タイムアウト発生原因としては、以下が考えられます。

- ケーブル切断等の物理的な通信切断
- CPUまたは通信負荷による接続の切断
- Systemwalker 通信基盤機能の障害
Systemwalker の通信基盤部分における、通信セッション終了処理の不備により通信初期化処理が正常に行われなかったため。

影響

本現象発生時に、以下の影響があります。

- SystemWalker/CentricMGRのコンソールがエラーとなる
- 監視メッセージが抜ける

- ・ 構成情報の反映処理が遅延する

ただし、システムの運用やほかのアプリケーションに影響を与えることはありません。

対処方法

以下の通信基盤機能の修正を適用してください。修正適用により、通信基盤部分の障害が修正され、通信基盤部分の障害による現象発生がなくなります。

- ・ Windows版
 - V5.0L10 : TP02289 (または、左記累積修正)
 - V5.0L20 : TP12289 (または、左記累積修正)
 - V5.0L30 : TP05204 (または、左記累積修正)
- ・ Solaris版
 - 5.0 : 912260-01 (または、左記累積修正)
 - 5.1 : 912290-01 (または、左記累積修正)

26.17 「異常(FlushViewOfFile()-19)が発生しました」と出力される

エラーメッセージ

MpOpagt: エラー: 122 : 異常(FlushViewOfFile()-19)が発生しました

イベントログに出力されます。

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降

確認ポイント

エラーメッセージが出力されたのは、シャットダウン時ですか。

原因

イベント監視で使用する管理ファイル情報を、メモリからディスクに反映する際にエラーが発生したことを示します。

対処方法

システムシャットダウンの処理中に本エラーが出力された場合は対処の必要はありません。エラーを回避する場合は、Systemwalker Centric Managerを停止してからシステムシャットダウンを行う様にしてください。

システムシャットダウンが行われていないのに本エラーが出力された場合は、ディスク障害が発生していないか調査してください。

26.18 イベントログに続けて「内部動作異常が発生しました (_commit) 」 「メッセージのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません」と表示される

エラーメッセージ

【Windows】

ソース: MpOpagt 種類: エラー イベントID: 57 説明: 内部動作異常が発生しました (_commit)
--

ソース: MpOpagt 種類: 警告 イベントID: 129 説明: メッセージのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降

対処

“[「異常\(FlushViewOfFile\(\)-19\)が発生しました」と出力される](#)”を参照して対処してください。

26.19 「MpTrfMgr: ERROR: 329: システムエラーが発生しました。(詳細コード = 000007d400125369)」と出力される

エラーメッセージ

MpTrfMgr: ERROR: 329: システムエラーが発生しました。(詳細コード = 000007d400125369)

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
 - Solaris版: 5.0以降
 - Linux版: V11.0L10以降

原因

性能監視のポリシーを要求する運用管理クライアント側のプロセスと、ポリシーを受け付ける運用管理サーバ側のプロセス(trfFCman.exe)との通信が不正に切断(シグナルを受信)された場合に、本メッセージを出力します。

対処方法

メッセージを出力後、通信処理の再接続を行っているため対処不要です。本メッセージが頻繁に出力される場合、保守情報収集ツールで性能監視の資料を採取後、技術員に連絡してください。

26.20 「MpTrfAgt: エラー: 325: システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FctSocketServer 使用関数名=recv 原因コード=10054」と出力される

エラーメッセージ

```
MpTrfAgt: エラー: 325: システム関数で異常が発生しました。発生関数名=FctSocketServer 使用関数名=recv 原因コード=10054
```

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

原因コード10054は、ネットワーク接続が相手から切断された場合に出力されます。性能監視の操作中(性能マップ表示、性能情報出力など)に通信処理を行っていた運用管理クライアント、運用管理サーバ、部門管理サーバが再起動された、または、通信ができない状態になったことが考えられます。

対処方法

本メッセージの出力は一時的なものです。再度、同じ操作を実行してください。

26.21 「od10300」を含むメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
OD: ERROR: od10300:Failed to write orb object reference to file '%s1'.  
OD: エラー: od10300:orb object reference のファイルへの書き込みに失敗しました。%s1
```

[可変情報] %s1:ファイル名

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

%1 で示されているドライブに空き容量はありますか。

原因

容量不足のため、orb_orefファイルの書き込みに失敗しました。

対処方法

%1 で示されているドライブに空き容量を確保してください。

なお、本メッセージが出力されても動作上問題はありません。

対処2

確認ポイント

orb_orefファイルに書き込み権限はありますか。

原因

orb_orefファイルに対して書き込み権限がないため、書き込みに失敗しました。

対処方法

%1で示されているorb_orefファイルに書き込み権限を追加してください。

なお、本メッセージが出力されても動作上問題はありません。

備考

orb_orefファイルは、Systemwalker Centric Managerが、他社クライアント(Weblogicなど)からODを使用してCORBA通信を行う際に、使用しています。

本エラーは、他社クライアント(Weblogicなど)からODを使用してCORBA通信を行う際に支障はありますが、Systemwalker Centric Manager自身の動作には問題はありません。

26.22 「od10925」を含むエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
OD: ERROR: od10925:Client timeout.(host=%s1,impl=%s2,intf=%s3,op=%s4) (type=
%s5,receive_timeout = %s6)
OD: エラー: od10925:クライアントでタイムアウトが発生しました。(host=%s1,impl=%s2,intf=%s3,op=%s4)
(type=%s5,receive_timeout = %s6)
```

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

%s1: 相手先サーバホスト名

%s2: インプリメンテーションリポジトリID

%s3: インタフェースリポジトリID

%s4: オペレーション名

%s5: タイムアウトの種別

- system : configファイルのperiod_receive_timeoutで設定されたタイムアウトを検出
- host : CORBA_ORB_set_client_timer関数で設定されたタイムアウトを検出
- thread : CORBA_ORB_set_client_request_timer関数で設定されたタイムアウトを検出

%s6: 返信待機時間の値

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V10.0L10以降
 - Solaris版: 10.0以降
 - Linux版: V11.0L10以降

原因

サーバホスト(%s1)に発行したリクエストが返信待機時間(configファイルのperiod_receive_timeout×5秒)以内に返信されなかったため、リクエストを発行した機能でタイムアウトが発生したことを示すメッセージです。

システムの一時的な高負荷により、リクエストを発行した機能でタイムアウトが発生する場合があります。

対処方法

- 現象発生時刻前後に、リクエストを発行した機能のエラーが出力されていない場合は、内部的なリトライ処理等により処理を完了していますので、対処不要です。
- リクエストを発行した機能側のリクエスト返信待機時間が短い場合は、`period_receive_timeout`の値を増やすなどの対処を実施し、リクエスト返信待機時間を増やしてください。

修正するファイルは、下記になります。

【Windows版の場合】

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mpobjdsv¥etc¥config
```

【Solaris版の場合】

```
/etc/opt/FSUNod/config
```

【Linux版の場合】

```
/etc/opt/FJSVod/config
```

※ ファイルを編集した後、運用管理サーバでシステムを再起動して設定を有効にしてください。

上記対処により問題が解決されない場合は、技術員にお問い合わせください。

26.23 「od10302」を含むエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
OD: ERROR: od10302:Server process(%s1) %s2 time out.  
OD: エラー: od10302:サーバプロセス(%s1)がタイムアウトになりました。 %s2
```

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

%s1: サーバアプリケーションのプロセスID

%s2: サーバアプリケーションのプロセス名

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
 - Solaris版: 5.0以降
 - Linux版: V11.0L10以降

原因

サーバ高負荷等の理由により、サーバアプリケーションでconfigファイルの`period_server_timeout`×5秒以内にCORBA_ORB_initメソッドが完了しなかったため、タイムアウトが発生したことを示すメッセージです。

対処方法

- 可変情報で示されているサーバアプリケーションのプロセスが異常終了していない場合は、対処不要です。
- CORBA_ORB_initメソッド発行までのタイムアウト時間が短い場合は、`period_server_timeout`の値を増やしてください。

上記対処により問題が解決されない場合は、技術員に調査依頼をしてください。

26.24 運用管理サーバにMpFwcmプロセスから「30000001」「30000002」の警告メッセージが出力される

エラーメッセージ

- UNIX版

```
MpFwcm: 警告: 30000001: %1のインタフェース(IPアドレス:%2)は複数のノードに存在します。  
MpFwcm: 警告: 30000002: %1のインタフェース(ホスト名:%3)は複数のノードに存在します。
```

- Windows版

```
MpFwbs: 警告: 2: MpFwCm[%4]: 30000001: 警告: %1のインタフェース(IPアドレス:%2)は複数のノードに存在します。  
MpFwbs: 警告: 2: MpFwCm[%4]: 30000002: 警告: %1のインタフェース(ホスト名:%3)は複数のノードに存在します。
```

シスログ、またはイベントログ(アプリケーション)に出力されます。

%1: ホスト名

%2: IPアドレス

%3: ホスト名

%4: プロセスID

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
 - Solaris版: 5.0以降
 - Linux版: V11.0L10以降

確認ポイント

メッセージに出力されているIPアドレス、またはホスト名を持つノードの構成情報を監視画面上と実環境で重複して定義されていないか比較してください。

原因

リポトリへ登録しようとしたインタフェースのIPアドレス、またはホスト名がほかのインタフェースですでに使用されていた場合に出力されるメッセージです。

対処方法

ホスト名、またはIPアドレスが重ならないようにノードプロパティを変更してください。

実環境でホスト名が同一のシステムがある場合は、ホスト名が重複しないよう環境を見直してください。

監視対象機器のホスト名を変更した場合、ノード検出のタイミングにより同一のホスト名が一時的に登録されることがありますが、通常は次のノード検出のタイミングで重複した状態は解消されます。この場合は、対処の必要はありません。

備考

本警告メッセージは、Systemwalker Centric Manager の運用には悪影響を及ぼさないため、対処は不要です。メッセージが不要な場合はイベント監視の条件定義で監視対象から外してください。

26.25 「OD: INFO: od10924:Information message of ObjectDirector.」が出力される

エラーメッセージ

```
OD: INFO: od10924:Information message of ObjectDirector. (%1, %2): %3,%4/%5, pid = %6, thrid = %7
```

シスログ、またはイベントログ (アプリケーション) に出力されます。

- %1:ファイル名
- %2:行番号
- %3:エラー詳細
- %4:エラー番号
- %5:エラーの種類
- %6:プロセスID
- %7:スレッド番号

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

本メッセージのほかにエラーメッセージが出力されていないか確認してください。

原因

ネットワークの異常等により、[Systemwalkerコンソール(システム監視画面、業務監視画面)]と運用管理サーバ間の通信が、一時的に切断された場合に出力されます。

対処方法

ほかにエラーメッセージが出力されていない場合、本メッセージは運用に影響はありません。対処の必要はありません。出力されている場合は、各メッセージの対処に従ってください。

26.26 「OD: ERROR: od10605:%s1: send_reply failed.」が出力される

エラーメッセージ

```
OD: ERROR: od10605:%s1: send_reply failed. (from = %s2.%s3.%s4.%s5,intf = %s6, op = %s7) errno = %s8.
```

シスログ、またはイベントログ (アプリケーション) に出力されます。

- %1:時刻
- %2.%3.%4.%5:IPアドレス
- %6:インタフェース名
- %7:オペレーション名
- %8:エラー番号

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

LANの異常によりSystemwalkerコンソールと運用管理サーバ間の通信が一時切断された場合、Systemwalkerコンソールを終了した場合、またはSystemwalker Centric Managerのコマンドを強制終了したときに出力されることがあります。

対処方法

本メッセージは運用に影響はありません。対処の必要はありません。

26.27 「recvでエラーが発生しました」、または「readでエラーが発生しました」と出力された直後に「データの受信に失敗しました」と出力される

エラーメッセージ

- Windows版の場合 (イベントログ (アプリケーション) に出力されるメッセージ)

```
ソース: MpOpgui
種類: エラー
イベントID: 8500
説明: recvでエラーが発生しました: 6,recv,109,AR_ReadSock,400
ソース: MpOpgui
種類: エラー
イベントID: 8501
説明: データの受信に失敗しました
```

- Solaris版/Linux版/HP-UX版/AIX版の場合 (システムログに出力されるメッセージ)

```
opadef: エラー: 8500: readでエラーが発生しました: 1,read,131,AR_ReadSock,800
opadef: エラー: 8501: データの受信に失敗しました
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerの設定画面を表示したままの状態、システムのシャットダウンを行っていませんか。

原因

Windowsマシンにて設定対象のサーバに接続し、Systemwalker Centric Managerの設定画面を表示したままの状態、Windowsマシンをシャットダウンした場合、サーバ側で上記のエラーメッセージが表示されます。これは、設定画面が強制終了されたためにサーバ側で通信異常を検知したことが原因です。

以下の設定画面が対象となります。

- サーバ環境定義
- 通信環境定義
- 操作メニュー登録
- 監視ログファイル設定
- メール連携

対処方法

対処の必要はありません。現象発生後に設定を行う上での支障はありません。

26.28 イベントログに「異常(OpenEventLog()-1314)が発生しました」と出力される

エラーメッセージ

イベントログ(アプリケーション)に出力されるメッセージ

ソース: MpOpagt 種類: エラー イベントID: 122 説明: 異常(OpenEventLog()-1314)が発生しました。
ソース: MpOpagt 種類: エラー イベントID: 100 説明: イベントログファイル(Security)のオープンに失敗しました。
ソース: MpOpagt 種類: エラー イベントID: 121 説明: 続行不可能な異常が発生しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降

対処1

確認ポイント

OSのローカルセキュリティポリシー(ユーザ権利の割り当て)において、「監査とセキュリティ ログの管理」の有効な権限が、サービス「Systemwalker MpOpagt」のログオンアカウントに対して適用されていますか。

原因

サービス「Systemwalker MpOpagt」は、サービスのログオンアカウントを使用して、イベントログファイル(Security)のオープンを行います。イベントログファイル(Security)にアクセスするには、上記のローカルセキュリティポリシーの有効な権限を必要とします。そのため、サービスのログオンアカウントにその権限が無い場合、オープンに失敗し、上記のエラーメッセージが出力されます。

対処方法

上記のローカルセキュリティポリシーの有効な権限を、サービス「Systemwalker MpOpagt」のログオンアカウントに与えてください。

対処2(Windows NT以外の場合)

確認ポイント

Systemwalker Centric Managerを手動で再起動した場合は出力されず、システム起動時のみエラーメッセージが出力されていませんか。

原因

Windowsのローカルセキュリティポリシー適用とシャットダウンが重なった場合、エラーが発生し、ユーザの権限が削除された状態になることがあります。再起動後に権限は付加されますが、権限の付加よりもサービス「Systemwalker MpOpagt」の起動が早かった場合、権限がない状態になり、イベントログ(Security)の参照権限がないため、エラーになります。

対処方法

現象発生時には手動でSystemwalker Centric Managerを再起動してください。なお、発生確率を減らす回避方法として、以下が有効です。

回避方法

レジストリ エディタを使用し、次のレジストリ値を設定値よりも大きい値に変更してください。

- ・ レジストリ: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Winlogon¥GPEExtensions¥{827D319E-6EAC-11D2-A4EA-00C04F79F83A}
- ・ 値: MaxNoGPOListChangesInterval

例: 16時間(0x3c0) → 24時間(0x5a0)

MaxNoGPOListChangesInterval の値が小さく設定されている場合、上記の回避策が有効です。ただし、発生する確率を減らす対応策であるため、発生する確率は0ではありません。

ポイント

MaxNoGPOListChangesInterval はWindowsのセキュリティポリシーに変更がない場合において、セキュリティポリシーを自動適用する間隔の設定値です。

この値を大きい値にすることにより、Windowsのセキュリティポリシー適用とシャットダウンが重なる確率を下げるすることができます。

26.29 「AP:F3CVSERV: 警告: 3001」と出力される

エラーメッセージ

AP:F3CVSERV: 警告: 3001:The time-out interval elapsed. (詳細情報)

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

確認ポイント

上記エラーメッセージが、長時間連続して出力されますか。

原因

共通トレースを出力する複数のプロセス/スレッドから同時に、同一の共通トレースファイルをオープンしようとした場合に、上記エラーメッセージが出力されます。

対処方法

- エラーメッセージが時々出力される場合
 - 一時的な現象であり自動回復するため、特に対処の必要はありません。
- エラーメッセージが長時間連続して出力されている場合
 - 以下の対処を実施してください。

1. Systemwalker Centric Manager を再起動してください。
2. Systemwalker Centric Managerを再起動しても現象が回避されない場合、システムを再起動してください。

上記の対処を実施して現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して共通ツールの情報を採取し、技術員に問い合わせてください。

26.30 イベントログに続けて「内部動作異常が発生しました (_open)」「メッセージのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません」と出力される

エラーメッセージ

ソース:MpOpagt 種類:エラー イベントID:57 説明:内部動作異常が発生しました (_open)
ソース:MpOpagt 種類:警告 イベントID:129 説明:メッセージのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降

確認ポイント

[通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリは存在しますか。

原因

[通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリが存在しない場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を行ってください。

- [通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリを作成してください。
- [通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]の指定を、既に存在するほかのディレクトリに変更した後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

26.31 イベントログに続けて「内部動作異常が発生しました (_open)」「コマンドのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません」と出力される

エラーメッセージ

ソース: MpOpagt 種類: エラー イベントID: 57 説明: 内部動作異常が発生しました (_open)
ソース: MpOpagt 種類: 警告 イベントID: 129 説明: コマンドのロギング処理で異常が発生しました。ロギングは行われません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V5.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版: V10.0L20以降

確認ポイント

[通信環境定義]-[ログファイル定義]-[コマンドログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリは存在しますか。

原因

[通信環境定義]-[ログファイル定義]-[コマンドログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリが存在しない場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を行ってください。

- [通信環境定義]-[ログファイル定義]-[コマンドログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリを作成してください。
- [通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]の指定を、既に存在するほかのディレクトリに変更した後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

26.32 messagesに続けて「通信環境定義(ログファイル定義シート:メッセージログ:格納ディレクトリ)の指定が不当です」「openでエラーが発生し

ました:ファイルもディレクトリもありません。(opalogmsg)」と出力される

エラーメッセージ

UX:opagtd: エラー: 15: 通信環境定義(ログファイル定義シート:メッセージログ:格納ディレクトリ)の指定が不当です

UX:opagtd: エラー: 51: openでエラーが発生しました:ファイルもディレクトリもありません。(opalogmsg)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

[通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリは存在しますか。

原因

[通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリが存在しない場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を行ってください。

- [通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリを作成してください。
- [通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]の指定を、既に存在するほかのディレクトリに変更した後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

26.33 messagesに続けて「通信環境定義(ログファイル定義シート:コマンドログ:格納ディレクトリ)の指定が不当です」「openでエラーが発生しました:ファイルもディレクトリもありません。(opalogcmd)」と出力される

エラーメッセージ

UX:opagtd: エラー: 15: 通信環境定義(ログファイル定義シート:コマンドログ:格納ディレクトリ)の指定が不当です

UX:opagtd: エラー: 51: openでエラーが発生しました:ファイルもディレクトリもありません。(opalogcmd)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

[通信環境定義]-[ログファイル定義]-[コマンドログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリは存在しますか。

原因

[通信環境定義]-[ログファイル定義]-[コマンドログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリが存在しない場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を行ってください。

- [通信環境定義]-[ログファイル定義]-[コマンドログ]-[格納ディレクトリ]に指定されたディレクトリを作成してください。
- [通信環境定義]-[ログファイル定義]-[メッセージログ]-[格納ディレクトリ]の指定を、既に存在するほかのディレクトリに変更した後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

26.34 「'Systemwalker Centric Manager'のプロセス('opagtd')が正常に動作しているか確認してください。」と出力される

エラーメッセージ

MpPmonC: エラー: 10002: Systemwalker Centric Manager のプロセス('opagtd')が正常に動作しているか確認してください

UX:MpPmonC: ERROR: 106: 'Systemwalker Centric Manager'のプロセス('opagtd')が正常に動作しているか確認してください。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降
 - HP-UX版:11.0以降
 - AIX:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V11.0L10以降
 - Solaris版:11.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

エラーの通知元サーバにおいて、/varの空き領域不足が発生していませんか。

原因

/varの空き領域不足が発生するとイベント監視機能のデーモン(opagtd)が停止することがあります。

対処方法

/varの空き領域を確保した後、Systemwalker Centric Managerの再起動を行なってください。

26.35 「pipeでエラーが発生しました:オープンされたファイルが多すぎます。(opacmdc)」と「opacmdcの起動に失敗しました (opacmdc)」というメッセージが大量に出力される

エラーメッセージ

```
UX:opagtd: エラー: 51: pipeでエラーが発生しました:オープンされたファイルが多すぎます。(opacmdc)
```

```
UX:opagtd: エラー: 54: opacmdcの起動に失敗しました (opacmdc)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版: 10.0以降
 - AIX版: 10.0以降
 - Linux版: 5.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版: 5.2以降

確認ポイント

[イベント監視の条件定義]で特定したイベントの発生を契機に、リモートコマンドを発行するというアクションを定義していますか？

原因

本エラーメッセージは、リモートコマンド機能で使用するファイルディスクリプタを獲得できなかった場合に出力されます。ファイルディスクリプタは、発行しようとするリモートコマンド単位で獲得され、リモートコマンドの実行完了時に開放されます。そのため、リモートコマンド実行中に新たなイベント(リモートコマンドの発行契機となるイベント)が多発した場合、ファイルディスクリプタが不足して本エラーメッセージが出力されることがあります。

なお、本エラーメッセージが出力された場合、リモートコマンドは実行されません。

対処方法

大量のリモートコマンドが同時に発行されないように、[イベント監視の条件定義]でアクション実行条件の絞込みをしてください。

26.36 「XXXへの接続処理に失敗しました。再接続処理を行います。」というメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
MpOpagt: 警告: 158: %1 への接続処理に失敗しました。再接続処理を行います
opagtd: 警告: 158: %1 への接続処理に失敗しました。再接続処理を行います
opagtd: 警告: 154: %1 への接続処理に失敗しました。再接続処理を行います(通信用IPアドレス:%2)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版: 10.0以降
 - AIX版: 10.0以降
 - Linux版: 5.2以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版: V10.1以降

確認ポイント

当該システムで発生したメッセージを運用管理サーバで監視できた実績がない場合は、以下を参照してください。

- “監視イベント一覧画面に特定ホストのメッセージが表示されない”の対処9
- “クラスタシステムのメッセージが監視できない(メッセージ発生元がSafeCLUSTERまたはPRIMECLUSTERの場合)”の対処1

[通信環境定義]-[メッセージ送信先]に指定されたサーバ上で、以下の作業を行なっていませんか？

- Systemwalker Centric Managerの停止または再起動
- Systemwalker Centric Managerのポリシー適用(すぐに適用)
- [システム監視設定]画面から表示される、各環境設定ダイアログによる設定変更(サービスの自動再起動)

原因

[通信環境定義]-[メッセージ送信先]に指定されたサーバとの通信ができなくなり、接続リトライ処理を開始したときに、このメッセージが出力されています。

対処方法

以下の設定に従って接続リトライ処理が行なわれるため、対処は必要ありません。

[通信環境定義]-[接続・切断の設定]

備考

[通信環境定義]-[接続・切断の設定]を初期設定から変更していない場合、通信が再開するまでに10分程度かかることがあります。

通信が再開したかどうかは、以下の方法で確認することができます。

- V12.0L10/12.0以降の場合
通信が再開した場合は、下記メッセージがイベントログ/syslogへ出力されます。

[Windows版の場合]

```
MpOpagt: 警告: 165: %1への再接続処理が完了しました
```

[Unix版の場合]

```
opagtd: 警告: 165: %1への再接続処理が完了しました
```

%1: 上位システム名

- 上記以外の場合

opfmtコマンド等で発生させたテストメッセージが、通知されることを確認してください。

26.37 「od10965」というエラーメッセージが出力される

エラーメッセージ

```
OD: エラー: od10965: ソケットへの書き込みでタイムアウトが発生しました。(write_interval_timeout = %s1)
```

```
OD: ERROR: od10965: The timeout occurred in the writing to a socket.  
(write_interval_timeout = %s1)
```

[可変情報]

%s1: configファイルのパラメタwrite_interval_timeoutの値

[意味]

非ブロッキングモードにおいて、ソケットへの書き込みでタイムアウトが発生しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V10.0L10以降
 - Solaris版: 10.1以降
 - Linux版: V11.0L10以降

確認ポイント

サーバ・クライアント間でネットワークが切断されていないかを確認してください。

原因

ソケットの読み書きの際にタイムアウトが発生したためです。

対処方法

1. ネットワーク環境を修復して、正常な通信が可能な状態にしてください。
2. ネットワーク環境修復後に、運用管理クライアントを再起動してください。

備考

頻繁に本エラーが発生する場合はネットワーク環境を見直し、信頼性の高いネットワークを構築してください。

26.38 「od10606」という情報メッセージが出力される

エラーメッセージ

```
OD: INFO: od10606:%s1: The reply cannot be processed.(from = %s2, intf = %s3, op = %s4) %s5
```

```
OD: 情報: od10606:%s1: 応答の送信ができませんでした。(from = %s2, intf = %s3, op = %s4) %s5
```

[可変情報]

%s1: 時刻

%s2: IPアドレス

%s3: インタフェース

%s4: オペレーション名

%s5: OSから通知されたエラー番号

[意味]

応答の送信に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V10.0L10以降
 - Solaris版: 10.1以降
 - Linux版: V11.0L10以降

原因

応答の送信に失敗したためです。

対処方法

本メッセージは、一時的な情報メッセージです。運用には影響ありません。

第27章 GEEの監視に関するトラブルシューティング

27.1 ハード監視制御ウィンドウでフレームが正しく表示されない

[ハード監視制御]ウィンドウで、“スケジュール設定フレーム”が表示できません。

[ハード監視制御]ウィンドウで、“セットアップフレーム”の表示される内容が古い、または、変更した内容がSVPMコンソールに反映されません。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版(GEE):V5.0～V12.1

対処1

確認ポイント

ログイン名syscomの登録は行っていますか。

対処方法

運用管理サーバにsyscomユーザでログインできる環境にしてください。

対処2

確認ポイント

/.rhostsの設定を行っていますか。

対処方法

運用管理サーバの/.rhostsファイルに、以下のノード名を登録してください。アクセスを許可するユーザ名は、rootを登録してください。

- 運用管理サーバの/etc/hostsファイルに登録されている運用管理サーバのノード名
SVPMのLANまたは装置を二重化する場合は、接続する2系統のLANについての運用管理サーバのノード名を登録してください。
- 運用管理サーバの/etc/hostsファイルに登録されているSVPMのノード名
SVPMの装置を二重化する場合は、すべてのSVPMのノード名を登録してください。SVPMのLANを二重化する場合は、接続する2系統のLANそれぞれのSVPMのノード名を登録してください。

対処3

確認ポイント

ログイン名syscomホームディレクトリ配下の.rhostsの設定を行っていますか。

対処方法

運用管理サーバのログイン名syscomのホームディレクトリ配下の.rhostsファイルに、以下のノード名を登録してください。アクセスを許可するユーザ名は、syscomを登録してください。

- 運用管理サーバの/etc/hostsファイルに登録されている運用管理サーバのノード名
SVPMのLANまたは装置を二重化する場合は、接続する2系統のLAN それぞれについての運用管理サーバのノード名を登録してください。
- 運用管理サーバの/etc/hostsファイルに登録されているSVPMのノード名
SVPMの装置を二重化する場合は、すべてのSVPMのノード名を登録してください。SVPMのLANを二重化する場合は、接続する2系統のLANそれぞれのSVPMのノード名を登録してください。

対処4

確認ポイント

SVPMのコンソール番号の定義は正しいですか。

対処方法

SVPM導入時に、Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Editionが導入される運用管理サーバに対して割り当てたコンソール番号と、SVPMコンソール番号定義ファイル“/etc/opt/FJSV/sagt/opafcons”に定義したConsno (SVPMのコンソール番号)は同じ番号にしてください。

対処5

確認ポイント

運用管理サーバのsyscomユーザの基本グループは“sys”ですか。

原因

運用管理サーバのsyscomユーザの基本グループが“sys”以外になっていることが原因です。

対処方法

運用管理サーバのsyscomユーザの基本グループを“sys”にしてください。

27.2 ハードウェア情報定義ファイルの作成(hardctlset)ができない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版(GEE):5.0以降

対処1

確認ポイント

Solaris 8 にSystemwalker Centric Managerを導入し、SVPMと通信しますか。

対処方法

Solaris 8 にSystemwalker Centric Managerを導入し、SVPMと通信する場合、以下の作業を実施してください。

1. LANのインタフェース名を調べてください。

```
# netstat -rn <Return>
Interface
-----
hme0
lo0
```

2. 以下のコマンドを入力し、/etc/hostname6.<interface>ファイル(空ファイル)を作成してください。

```
# touch /etc/hostname6.hme0 <Return>
```

3. システムを再起動してください。

対処2

確認ポイント

ネットワーク構成は正しいですか。

対処方法

運用管理サーバからSVPMに対して、pingが通る環境にしてください。

対処3

確認ポイント

以下を確認してください。

- 運用管理サーバ(SystemWalker)から SVPM に対して ping が通りますか。
- 運用管理サーバ(SystemWalker)から SVPM に対して rsh でコマンドが実行できますか。
- コマンドを実行したコンソールに以下のメッセージが出力されていませんか。

```
Permission denied.  
failed remote shell command. return=100
```

原因

SVPMと連携するための定義を正しく行っていないため発生します。

対処方法

“Systemwalker Centric Manager GEE説明書”の“SVPM連携の定義”表“SVPM連携のための作業内容”の『3 システム環境の定義』までの作業が正しく行われているか、環境設定を見直してください。

27.3 「/opt/FJSVshrd/FTOPS2/lm/solaris/initialが異常終了しました」と出力される

エラーメッセージ

```
opagtd: エラー: 4010: /opt/FJSVshrd/FTOPS2/lm/solaris/initialが異常終了しました  
opagtd: エラー: 6: システム監視エージェントサービスが異常終了しました
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版(GEE):5.0以降

確認ポイント

ハードウェア情報定義ファイルの作成(hardctlset)は行いましたか。

原因

“Systemwalker Centric Manager GEE説明書”の“SVPM連携の定義”に記載されている作業が正しく行われてないことが原因です。

対処方法

“Systemwalker Centric Manager GEE説明書”の“SVPM連携の定義”に記載されている作業が正しく行われているか、見直してください。

本現象が発生した場合、FJSVsagtのプロセスは起動されません。

27.4 ハード監視制御ウィンドウで“操作権チェック機能(READ)でエラーが発生しました。ERR=32”が表示される

エラーメッセージ

操作権チェック機能(READ)でエラーが発生しました。ERR=32

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版(GEE):5.0以降

確認ポイント

運用管理サーバの/etc/hostsを確認し、設定が正しいことを確認してください。

対処方法

運用管理サーバの/etc/hostsに、運用管理クライアントのIPアドレスとホスト名を正しく登録してください。

27.5 監視対象のGS側でMC/F SOCKETの通信開始のメッセージ(KKV100I)と通信終了のメッセージ(KKV101I)が交互に連続して出力される

エラーメッセージ

KKV100I FSKT COMMUNICATION IS STARTED, SERVER
KKV101I FSKT COMMUNICATION IS ENDED, SERVER

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版(GEE):5.0以降

確認ポイント

MC/F SOCKETの環境定義体のTHSTNAMEコマンド指定値と、Systemwalker Centric Managerの監視パス定義ファイルのHostNameの指定値が一致していますか。

原因

MC/F SOCKETの環境定義体のTHSTNAMEコマンド指定値と、Systemwalker Centric Managerの監視パス定義ファイル(/etc/opt/FJSVsgt/opapath)のHostNameの指定値は一致させる必要があります。一致しない場合、監視対象のGSとSystemwalker Centric Managerの通信経路が確立できず、GS側ではMC/F SOCKETの通信開始のメッセージ(KKV100I)と通信終了のメッセージ(KKV101I)が交互に連続して出力されます。

対処方法

MC/F SOCKETの環境定義体のTHSTNAMEコマンド指定値と、Systemwalker Centric Managerの監視パス定義ファイル(/etc/opt/FJSVsgt/opapath)のHostNameの指定値を一致させた後、設定変更を有効にしてください。MC/F SOCKETの設定変更を行った場合はMC/F SOCKETの再起動、Systemwalker Centric Managerの設定変更を行った場合は、Systemwalker Centric Managerの再起動を行ってください。

27.6 被監視システム(GS)から通知されたメッセージの日付が"--/--/--"と表示される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降 ※GEEのみ

原因

この現象は仕様です。

被監視システム(GS)とSystemwalker Centric Manager間の主監視パスが接続された契機で、被監視システムにおいて未解決の高輝度メッセージおよび未解決の返答要求メッセージが一括して通知されます。これらのメッセージは発生日付が特定できないため、[監視イベント一覧]などの日付情報をもつウィンドウでは、日付欄に"--/--/--"と表示されます。ただし、XSPの場合は、発生時刻も特定できないため、時刻情報をもつウィンドウでは、時刻欄に"--:--:--"と表示されます。

対処方法

対処は必要ありません。

第28章 他製品に関するトラブルシューティング

28.1 Symfoware製品のパッケージがインストールされているコンピュータで、運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバをインストールすると失敗する

エラーメッセージ

- 5.0/5.1/5.2/5.2.1の場合

swsetup: ERROR: Unable to install the specified installation type of SystemWalker/CentricMGR in this machine. Because SymfoWARE server is already installed in this machine and, because of SymfoWARE server's type or version, SystemWalker/CentricMGR can't exist in the same machine. Install SystemWalker/CentricMGR into another machine.

- 10.0/10.1の場合

組み合わせが不可能なSymfoWARE Parallel Serverがインストールされています。このため、本製品をこのマシンにインストールすることができません。本製品を別のマシンにインストールしてください。

- 11.0/V11.0L10の場合

組み合わせが不可能なSymfoWARE Parallel Serverがインストールされています。このため、本製品をこのマシンにインストールすることができません。本製品を別のマシンにインストールしてください。

または

システムには、Symfoware製品のパッケージがインストールされていますが、必須パッケージ (FSUNrdb2b (Linuxの場合、FJSVrdb2b), FJSVrdbdb, FJSVrdbap, FJSVsymee)のうち、一部のパッケージ(以下のパッケージ)しかインストールされていません。

XXXXXXXXXX

本製品をインストールする場合は、上記のパッケージがすべてインストールされている環境か、上記のパッケージが何もインストールされていない環境でなければなりません。

XXXXXXXXXX: インストールされているパッケージ名

- 12.0/V12.0L10以降の場合

システムには、Symfoware製品のパッケージがインストールされていますが、必須パッケージ (FSUNrdb2b (Linuxの場合、FJSVrdb2b), FJSVrdbdb, FJSVrdbap, FJSVsymee)のうち、一部のパッケージ(以下のパッケージ)しかインストールされていません。

XXXXXXXXXX

本製品をインストールする場合は、上記のパッケージがすべてインストールされている環境か、上記のパッケージが何もインストールされていない環境でなければなりません。

XXXXXXXXXX: インストールされているパッケージ名

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバと共存不可能なSymfoware製品がインストールされているため本現象が発生します。

対処方法

Symfoware製品をアンインストール後、運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバのインストールを実施するか、“Systemwalker Centric Manager Interstage, Symfoware, ObjectDirectorとの共存ガイド”を参照し、インストール可能な環境に運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバをインストールしてください。

ヘルプデスクサーバは、Solaris版12.1までインストール可能です。

備考.

- Symfoware製品のアンインストール方法は、各Symfoware製品のインストールガイドを参照してください。
- Symfoware製品をアンインストールする前に、ほかの製品でSymfoware製品が使用されていないことを確認してください。

28.2 Symfoware製品のパッケージがインストールされているコンピュータで、運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバの環境を構築すると失敗する

エラーメッセージ

5.0/5.1/5.2/5.2.1の場合

```
MpFwSetup:rdbsysconfigファイルの設定に失敗しました。
初期状態への復旧を開始します。
初期状態への復旧が完了しました。
MpFwSetup:SystemWalker/CentricMGR環境作成は異常終了しました。
```

10.0/10.1の場合

```
MpFwSetup:RDB構成パラメタファイルの設定に失敗しました。
初期状態への復旧を開始します。
初期状態への復旧が完了しました。
MpFwSetup:SystemWalker/CentricMGR環境作成は異常終了しました。
```

11.0(V11.0L10)以降の場合

```
MpFwSetup:xxxxxxx(パッケージ名が出力されます)がインストールされていません。
MpFwSetup:Systemwalker Centric Manager環境作成は異常終了しました。
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

Solaris版

【5.0～10.1の場合】

/opt/symfoware/etc/product.infファイルが存在しますか。

[存在する場合]

product.infファイル内のEDITIONセクションを確認してください。

- ・「EDITION:CL」の場合

→共存不可能なSymfoware Server(クライアント機能)またはSymfoware Server Connection Managerがインストールされています。対処方法を実施してください。

- ・「EDITION:EX」、「EDITION:EE」、「EDITION:SE」の場合

→パッケージFJSVrdbdbがインストールされているか確認してください。

- ー 上記パッケージがインストールされている場合

→パッケージFSUNrdasv、FSUNrdb2b、FSUNiconvがインストールされているか確認してください。

- 上記のいずれかのパッケージがインストールされていない場合

→必要なSymfoware Serverのパッケージがインストールされていません。対処方法を実施してください。

- ー 上記パッケージがインストールされていない場合

→共存不可能なSymfoware Server(クライアント機能)がインストールされています。対処方法を実施してください。

[存在しない場合]

パッケージFSUNrdb2b、FJSVapcapがインストールされているか確認してください。

- ・ 上記のパッケージが、両方ともインストールされている場合

→共存不可能なSymfoware Server Connection Managerがインストールされています。対処方法を実施してください。

- ・ 上記パッケージのうち、FSUNrdb2bのみインストールされている場合

→パッケージFSUNrdasv、FSUNiconvがインストールされているか確認してください。

- ー 上記のいずれかのパッケージがインストールされていない場合

→必要なSymfoware Serverのパッケージがインストールされていません。対処方法を実施してください。

【11.0以降の場合】

パッケージFSUNrdb2b、FJSVrdbdb、FJSVrdbap、FJSVsymee、FSUNrdasv、FSUNiconvがインストールされていますか。

- ・ 上記のいずれかのパッケージがインストールされていない場合

→必要なSymfoware Serverのパッケージがインストールされていません。対処方法を実施してください。

Linux版

パッケージFJSVrdb2b、FJSVrdbdb、FJSVrdbap、FJSVsymee、FSUNiconvがインストールされていますか。

- ・ 上記のいずれかのパッケージがインストールされていない場合

→必要なSymfoware Serverのパッケージがインストールされていません。対処方法を実施してください。

原因

運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバと共存不可能なSymfoware製品がインストールされている、または、必要なSymfoware Serverのパッケージがインストールされていないため本現象が発生します。

対処方法

以下の手順を実施するか、“Systemwalker Centric Manager Interstage, Symfoware, ObjectDirectorとの共存ガイド”を参照し、インストール可能な環境に運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバをインストールしてください。

1. 運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバをアンインストールする。
2. Symfoware製品をアンインストールする。
3. 運用管理サーバまたはヘルプデスクサーバをインストールする。
4. 環境を構築する。

ヘルプデスクサーバは、Solaris版12.1までインストール可能です。

備考.

- Symfoware製品のアンインストール方法は、各Symfoware製品のインストールガイドを参照してください。
- Symfoware製品をアンインストールする前に、ほかの製品でSymfoware製品が使用されていないことを確認してください。

28.3 PRIMECLUSTERのアンインストールに失敗する

Linux版運用管理サーバにPRIMECLUSTERがインストールされている場合、PRIMECLUSTERのアンインストールに失敗する場合があります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V11.0L10以降

エラーメッセージ

```
ERROR:Failed dependencies :
libcl.so.1 is need by (installed) FJSVrddb-2501-1
The uninstallation failed
```

確認ポイント

製品版Symfoware Server (Server機能)がインストールされていますか。

ここでは、製品版Symfoware Server がインストールされているかどうかを確認する必要があります。

rpm -qi FJSVrdb2b コマンドで出力される情報から、バンドル版のSymfowareがインストールされていることを確認できます。

```
Version      : 2501
Release      : 2
Source RPM   : FJSVrdb2b-2501-2.src.rpm
```

上記以外の情報が表示された場合は、製品版Symfoware Server がインストールされていると判断できます。

ただし、Systemwalker Centric Manager 以外のSystemwalker製品が同バージョンのSymfowareをバンドルしている場合も表示される情報は同じになります。この場合は、先にインストールしたSystemwalker製品にバンドルするSymfowareがインストールされます。

本トラブルへの対処方法にはSymfowareのアンインストールが含まれるため、Systemwalker製品以外の製品でSymfowareをバンドルしている場合はインストールされているSymfowareをバンドルしている製品への問い合わせが必要となります。

原因

Systemwalker Centric ManagerのパッケージがPRIMECLUSTERのパッケージに依存しているため、Systemwalker Centric Managerがインストールされた状態でPRIMECLUSTERをアンインストールすると、アンインストールが失敗します。

対処方法

- 製品版Symfoware Server (Server機能)がインストールされていない場合
PRIMECLUSTERをアンインストールする前に、Systemwalker Centric Managerをアンインストールし、Systemwalker Centric ManagerによりインストールされたSymfowareのパッケージをアンインストールしてください。
 1. Systemwalker Centric Manager をアンインストールします。
 2. Systemwalker Centric Managerインストール時に一緒にインストールされたSymfowareのパッケージをアンインストールします。
“Systemwalker Centric Manager導入手引書”の“アンインストール後の注意事項”に記載されている手順を参照してください。
 3. PRIMECLUSTERをアンインストールします。
- 製品版Symfoware Server (Server機能)がインストールされている場合
PRIMECLUSTERをアンインストールする前に、Systemwalker Centric Manager をアンインストールし、製品版Symfoware Server (Server機能)をアンインストールしてください。

1. Systemwalker Centric Manager をアンインストールします。
2. 製品版Symfoware Server (Server機能)をアンインストールします。
3. PRIMECLUSTERをアンインストールします。

28.4 NetWorker等との共存環境でSystemwalker Centric Managerのエラーメッセージが表示される

対処1

エラーメッセージ

```
Mpspwr: ERROR: 104: Internal error occurs end of Process. function name=<main> bind() error  
code=125 contents=Address already in use
```

電源制御デーモンの起動時にバインド処理に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:10.1以降

原因

NetWorker等が、電源制御が利用するポート番号(9373/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、電源制御デーモンが使用するポート番号(9373/tcp)を使用しないように対処してください。
NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。
 - 電源制御デーモンが使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 - /etc/servicesファイルを開き、デーモン名「JMPWR」と関連付けられたポート番号「9373/tcp」を変更します。
 - 9373/tcpは、デフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。
- なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。
1. Systemwalker Centric Managerを再起動します。



ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処2

エラーメッセージ

```
FJVSvimg: ERROR: 6001: システム異常が発生しました. ( , detail=0001-01090000 )
```

インベントリ管理のデーモンの起動に失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

NetWorker等が、インベントリ管理機能が利用するポート番号(9396/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、インベントリ管理機能が使用するポート番号(9396/tcp)を使用しないように対処してください。
NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。
- インベントリ管理機能が使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. /etc/servicesファイルを開き、デーモン名「FJSVshivmg」と関連付けられたポート番号「9396/tcp」を変更します。
 - 9396/tcpは、デフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。

なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。
- 2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処3

エラーメッセージ

JYP1006E データ受信中にサーバとの通信が切断されました。

ヘルプデスククライアント起動後、5分程で出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L30～V13.2.0
 - Solaris版:5.2～V13.2.0
 - Linux版:V11.0L10～V13.2.0

原因

NetWorker等が、ヘルプデスク機能が使用するポート番号(2088/tcpまたは2050/tcp)を先に使用した場合に発生します。

ヘルプデスククライアントの接続にSymfoware ODOSドライバを使用している場合、このポート番号を使用します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、ヘルプデスク機能が使用するポート番号(2088/tcp(V10.0L10/10.0以降)または2050/tcp(V5.0L30/5.2))を使用しないように対処してください。

NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。

- ヘルプデスク機能が使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. services(Windows版:Windowsディレクトリ¥system32¥drivers¥etc¥services、UNIX版:/etc/services)ファイルを開き、サービス名「CENTRIC」と関連付けられたポート番号「2088/tcp」を変更します(V10.0L10/10.0以降)。またはサービス名「RDBII」と関連付けられたポート番号「2050/tcp」を変更します(V5.0L30/5.2)。
 - 2088/tcp、または、2050/tcpはデフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。
 2. ヘルプデスククライアントをインストールしている各サーバ、クライアントでODBCデータソースを変更します。詳細は、“Systemwalker Centric Manager導入手引書”を参照してください。
 3. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル”を参照してください。

対処4

エラーメッセージ

08004: 接続要求が拒否された

または、

08S01: コネクションのエラーが発生

ヘルプデスククライアント起動後、5分程で出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V13.2.0
 - Solaris版:5.0～V13.2.0

原因

NetWorker等が、ヘルプデスク機能が使用するポート番号(2039/tcpまたは2002/tcp)を先に使用した場合に発生します。

ヘルプデスククライアントの接続にRDA-SVドライバを使用している場合、このポート番号を使用します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、ヘルプデスク機能が使用するポート番号(2039/tcp(V10.0L10/10.0以降)または2002/tcp(V5.0L30/5.2以前))を使用しないように対処してください。

NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。

- ヘルプデスク機能が使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. services(Windows版:Windowsディレクトリ¥system32¥drivers¥etc¥services、UNIX版:/etc/services)ファイルを開き、サービス名「fj-hdrda」と関連付けられたポート番号「2039/tcp」を変更します(V10.0L10/10.0以降)。またはサービス名「rdb-sv」と関連付けられたポート番号「2002/tcp」を変更します(V5.0L30/5.2以前)。
 - 2039/tcp、または、2002/tcpはデフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937~9936、10001~30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937~9936、10001~30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。

なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。

 2. ヘルプデスククライアントをインストールしている各サーバ、クライアントでODBCデータソースを変更します。詳細は、“Systemwalker Centric Manager導入手引書”を参照してください。
 3. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処5

エラーメッセージ

通信エラーが発生しました。通信デーモンとの接続を切断します。

ヘルプデスクサーバ設定画面起動時に出力されます。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0~V13.2.0
 - Linux版:V11.0L10~V13.2.0

原因

NetWorker等が、ヘルプデスク機能が使用するポート番号(9346/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

NetWorker等が、ヘルプデスク機能が使用するポート番号(9346/tcp)を使用しない様に対処してください。

NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。

対処6

エラーメッセージ

ERROR: IdCardMgr: 33:Socket Error: Error in registering the Manager

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

NetWorker等が、IDカードセキュリティが使用するポート番号(9343/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、IDカードセキュリティが使用するポート番号(9343/tcp)を使用しないように対処してください。
NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。
- IDカードセキュリティが使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. マネージャ起動条件ファイルに指定するポート番号の値の「9343」を変更します。
詳細については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。
 - 9343/tcpはデフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処7

エラーメッセージ

```
MpAosfB: ERROR: 3007: ソケットの初期化に失敗しました。ポート:JMACT1 理由:Address already in use
MpAosfB: ERROR: 3007: ソケットの初期化に失敗しました。ポート:JMACT2 理由:Address already in use
MpAosfB: ERROR: 5017: ソケットの初期化に失敗しました。ポート:9371 理由:Address already in use
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降

原因

NetWorker等が、自動運用支援が使用するポート番号(9371/tcpなど)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、自動運用支援が使用するポート番号(9371/tcpなど)を使用しないように対処してください。
NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。
- 自動運用支援が使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. /etc/servicesファイルを開き、サービス「JMACT1」と関連付けられたポート番号「9369/tcp」、サービス「JMACT2」と関連付けられたポート番号「9370/tcp」、または、サービス「JMEVT1」と関連付けられたポート番号「9371/tcp」を変更します。
 - 9369/tcp、9370/tcp、9371/tcpはデフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。

なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。
 2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“[Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル](#)”を参照してください。

対処8

エラーメッセージ

```
opagtd:エラー:51:bindでエラーが発生しました:アドレスがすでに使われています。(opaacct)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

NetWorker等が、システム監視機能が使用するポート番号(9294/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、システム監視機能が使用するポート番号(9294/tcp)を使用しないように対処してください。
NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。
- システム監視機能が使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. /etc/servicesファイルを開き、サービス「uxpopagt」と関連付けられたポート番号「9294/tcp」を変更します。
 - 9294/tcpはデフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。

なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。
 2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処9

エラーメッセージ

```
opadef: エラー: 51: bindでエラーが発生しました:アドレスがすでに使われています。(mpstartsv)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

NetWorker等が、システム監視機能が使用するポート番号(9345/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、システム監視機能が使用するポート番号(9345/tcp)を使用しないように対処してください。
NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。
 - システム監視機能が使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. /etc/servicesファイルを開き、サービス「opmgrdef」と関連付けられたポート番号「9345/tcp」を変更します。
 - 9345/tcpはデフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。
- なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。

2. syslogと通信するプロセスを再起動します。

```
sh /etc/rc2.d/S73opagt.syslog stop  
sh /etc/rc2.d/S73opagt.syslog start
```

3. syslogにHUPシグナルを通知します。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で求めたプロセスID>
```

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処10

エラーメッセージ

MpOpmln: エラー: 1004: bindでエラーが発生しました (1,bind,125,AR_bind,200)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

NetWorker等が、サーバ間連携機能が使用するポート番号(9344/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、サーバ間連携機能が使用するポート番号(9344/tcp)を使用しないように対処してください。
NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。
- サーバ間連携機能が使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. /etc/servicesファイルを開き、サービス「opmgrln」と関連付けられたポート番号「9344/tcp」を変更します。
 - 9344/tcpはデフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。

なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。

2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処11

エラーメッセージ

opagtd:エラー:51:bindでエラーが発生しました:アドレスがすでに使われています。(opaacct2)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

NetWorker等が、システム監視機能が使用するポート番号(3035/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- NetWorker等が、システム監視機能が使用するポート番号(3035/tcp)を使用しないように対処してください。
NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。

- ・ システム監視機能が使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. /etc/servicesファイルを開き、サービス「FJSVgssagt」と関連付けられたポート番号「3035/tcp」を変更します。
 - 3035/tcpはデフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。
 2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処12

エラーメッセージ

```
MpNmex: ERROR: 125: Port(%s) already in use.
```

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

NetWorker等が、ネットワーク管理の監視機能が使用するポート番号(5971/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

以下のどちらかの対処を実施してください。

- ・ NetWorker等が、ネットワーク管理の監視機能が使用するポート番号(5971/tcp)を使用しないように対処してください。
NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。
- ・ ネットワーク管理の監視機能が使用するポート番号を、以下の手順で変更してください。
 1. /etc/servicesファイルを開き、デーモン名「mpnmex」と関連付けられたポート番号「5971/tcp」を変更します。
 - 9373/tcpは、デフォルトのポート番号です。NetWorkerと共存する場合は、変更後のポート番号がNetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重ならないように変更してください。
 - NetWorkerと共存する場合は、なるべく実際に重複したポート番号だけでなく、NetWorkerの使用するポート番号の範囲(7937～9936、10001～30000)と重なるすべてのSystemwalker Centric Managerのポート番号を変更してください。なお、NetWorkerが利用するポート番号は、今後のエンハンスで変更される可能性があります。NetWorkerが使用するポート番号は、NetWorkerのドキュメントを確認してください。
 2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

注意

ポート番号の変更は、通信相手となる各サーバまたはクライアントでも必要です。ポート番号ごとの通信相手となるサーバ・クライアントの種別については“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

対処13

エラーメッセージ

```
MpPol[XXXXXX]: [ID 702911 daemon.error] ERROR: 10005: Fail to open server port. (プロセス名)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

原因

NetWorker等が、ポリシー基盤が使用するポート番号(5968/tcp)または、(5969/tcp)を先に使用した場合に発生します。

対処方法

NetWorker等が、ポリシー基盤が使用するポート番号(5968/tcp)または、(5969/tcp)を使用しないように対処してください。

NetWorkerの場合の対処方法は“[NetWorkerの場合の対処方法](#)”を参照してください。

NetWorkerの場合の対処方法

画面で変更する場合

NetWorker管理者画面(nwadmin)を起動します。

1. [オプション(Options)]-[ポートの構成(Configure ports)...]を選択します。
→ポート設定(Configure ports)画面が表示されます。
2. ポート設定(Configure ports)画面の「システム(System)」に変更するサーバ名、または、IPアドレスを入力します。
3. [了解(Ok)]をクリックします。
→ポート(Set ports)画面が表示されます。
4. 「サービスポート(Service ports)」の値を「7937-9230」に変更します。(デフォルトは「7937-9936」)
5. [了解(Ok)]をクリックし、ポート(Set ports)画面を閉じます。
6. [取り消し(Cancel)]をクリックし、ポート設定(Configure ports)画面を閉じます。
7. [ファイル(File)]-[終了(Exit)]を選択し、NetWorker管理者画面(nwadmin)を閉じます。
8. NetWorkerを再起動します。

コマンドで変更する場合

1. “nsrports”を入力し、現在のサービスポート(Service ports)を確認します。

```
# nsrports
サービスポート: 7937-9936
接続ポート: 10001-30000
#
```

2. 以下のコマンドを実行し、サービスポートを変更します。

```
# nsrports -S 7937-9230
```

3. “nsrports”を入力し、サービスポート(Service ports)が変更されたことを確認します。

```
# nsrports
サービスポート: 7937-9230 ←確認
```

```
接続ポート: 10001-30000
#
```

4. NetWorkerを再起動します。

28.5 Systemwalker Resource Coordinator のプロビジョニングで、Systemwalker Centric Manager のプロビジョニングが失敗する

エラーメッセージ

```
FJSVrcx:ERROR:61501:the provisioning handler terminated abnormally.
product=SWCMGR(Systemwalker Centric Manager), 詳細情報
```

詳細情報: 実行環境により異なる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版: V12.0L10以降
 - Solaris版: 12.0以降
 - Linux版: V12.0L10以降

対処1

確認ポイント

mppviewcコマンドを実行し、Systemwalker Resource Coordinator のサイト管理サーバ上のSystemwalker Centric Managerが起動しているか確認してください。

原因

Systemwalker Resource Coordinator のサイト管理サーバ上のSystemwalker Centric Managerが停止している可能性があります。

対処方法

Systemwalker Resource Coordinator のサイト管理サーバ上のSystemwalker Centric Managerが起動していない場合、Systemwalker Resource Coordinator のプロビジョニング実施前に、サイト管理サーバ上でscentricmgrコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動してください。

対処2

確認ポイント

Systemwalker Resource Coordinator のコマンド(rcxatevt)で、Systemwalker Centric Manager と Systemwalker Operation Manager (Systemwalker Operation Manager と混在環境の場合) のプロビジョニング動作定義が設定されているか確認してください。

原因

Systemwalker Resource Coordinator のプロビジョニング実施前に、プロビジョニング動作定義が設定されていない可能性があります。

また、Systemwalker Centric Manager と Systemwalker Operation Manager の混在環境を構築する場合、一方の製品のプロビジョニング動作定義のみ設定されている可能性があります。

対処方法

Systemwalker Resource Coordinator のプロビジョニング実施前に、Systemwalker Centric Managerのプロビジョニング動作定義を設定してください。また、Systemwalker Centric Manager と Systemwalker Operation Manager の混在環境を構築する場合、Systemwalker Resource Coordinator のプロビジョニング実施前に、双方の製品のプロビジョニング動作定義を設定してください。

設定方法については、“Systemwalker Centric Manager PRIMERGY/PRIMEQUEST運用管理ガイド”、“Systemwalker Operation Manager Systemwalker Resource Coordinator連携ガイド”のマニュアルを参照してください。

対処3

確認ポイント

Systemwalker Resource Coordinator のイメージ採取元の管理対象サーバ(Systemwalker Centric Manager の業務サーバ)が、Systemwalker Centric Manager の運用管理サーバに登録されていることを確認してください。

確認方法

1. 以下のマニュアルを参照して監視画面を起動します。
 - V12.0L10/12.0～V13.2.0
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“コンソールを使用する”
 - V13.3.0以降
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“Systemwalkerコンソールを使用する”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”の“コンソールを使用する”
2. Systemwalker Resource Coordinator の各サーバグループのイメージ採取元のノードが、監視画面のツリーに登録されていることを確認します。
3. 2.で確認したイメージ採取元ノードのプロパティ画面を表示し、「Systemwalker Centric Manager」タブの「Systemwalker Centric Managerがインストールされている」がチェックされていること、および種別の「業務サーバ」がチェックされていることを確認します。

原因

Systemwalker Resource Coordinatorのイメージ採取前に、イメージ採取元の管理対象サーバが、Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバに正しく登録されていない可能性があります。

対処方法

Systemwalker Resource Coordinatorのイメージ採取前に、Systemwalker Resource Coordinator のイメージ採取元の管理対象サーバ(Systemwalker Centric Manager の業務サーバ)を監視対象にし、ポリシーを設定してください。

設定方法

1. “Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”の“ネットワーク構成を管理する”を参照し、イメージ採取元の管理対象サーバ(Systemwalker Centric Manager の業務サーバ)を監視する設定を行います。
2. 以下のマニュアルを参照してを参照し、ポリシーの設定/配付を行います。
 - V12.0L10/12.0～V13.2.0
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“ポリシーの設定と配付”
 - V13.3.0以降
“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編”の“[監視ポリシー]の設定”、“[監視ポリシー]以外のポリシーの設定”、または“Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)”の“ポリシーの設定と配付”

また、Systemwalker Resource Coordinatorのイメージ採取後に、Systemwalker Resource Coordinator のイメージ採取が成功したかどうか確認してください。

確認方法

以下を確認してください。

1. “Systemwalker Resource Coordinator”のマニュアルを参照し、Systemwalker Resource Coordinator のイメージ採取が成功していること
2. システムログを参照し、メッセージ「INFO: 00300: mppolclone ended.」が出力されていること
3. mppviewcコマンドで、管理対象サーバ(Centric Manager の業務サーバ)のSystemwalker Centric Manager のデーモンが起動していること

1.~3.のすべてを確認できなかった場合は、上記、設定方法の手順を再確認してください。

対処4

確認ポイント

以下を確認してください。

1. “Systemwalker Resource Coordinator”のマニュアルを参照し、Systemwalker Resource Coordinator の操作が成功していること
2. システムログに、以下のメッセージが出力されていること
 - WARNING: 00401: The node(管理対象サーバ) may already have existed. Please make a composition change of resources distribution manually.
 - WARNING: 00402: The node(管理対象サーバ) may not already have existed. Please make a composition change of resources distribution manually.

原因

資源配付の構成変更が失敗した可能性があります。

対処方法

“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 資源配付機能編”を参照し、手動で資源配付の構成変更を行ってください。

28.6 Systemwalker Centric Managerと他製品の混在環境の場合、他製品のSNMPトラップ機能が停止する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

他製品(注)と混在している環境か確認してください。

Systemwalker Centric Managerと他製品(注)が混在環境ではない場合、Systemwalker Centric Managerと他製品(注)のSNMPトラップデーモンはnwsnmp-trapdとなりますが、Systemwalker Centric Managerと他製品(注)が混在環境である場合、SNMPトラップデーモン(nwsnmp-trapd)は、Systemwalker Centric Manager側のプロセスとして起動します。そのため、以下の場合に、Systemwalker Centric ManagerのSNMPトラップデーモン(nwsnmp-trapd)を使用する他製品のSNMPトラップ機能が一時的に停止します。

- Systemwalker Centric Managerの起動コマンドを実行した場合
- Systemwalker Centric Managerのバックアップ/リストアを行った場合
- Systemwalker Centric Manager、またはSystemwalker Operation Manager でデーモンの起動抑止を設定してOSを再起動した場合
- Systemwalker Centric Manager、またはSystemwalker Operation Manager のデーモンの起動抑止を解除した場合
- Systemwalker Centric Manager、またはSystemwalker Operation Manager でSystemwalker Resource Coordinator連携機能を使用している場合

注)以下の製品で同様の現象が発生します。

- Softek Storage Crusier
- Softek SANView 4.x
- Systemwalker StorageMGR

- Systemwalker Network Assist
- Systemwalker Network Topology Manager
- Systemwalker Resource Coordinator

原因

Systemwalker Centric Managerと他製品が混在環境の場合、Systemwalker Centric ManagerのSNMPトラップデーモン(nwsnmp-trapd)が、以下の原因で一時的に停止したため。

- SNMPトラップデーモン(nwsnmp-trapd)の再起動(停止→起動)
- SNMPトラップデーモン(nwsnmp-trapd)の起動を抑制している

対処方法

他製品のSNMPトラップ機能を利用する時間に、以下の操作を行わないようにしてください。

- Systemwalker Centric Managerの起動コマンドの実行
- Systemwalker Centric Managerのバックアップ/リストア
- Systemwalker Centric Manager、またはSystemwalker Operation Manager でデーモンの起動抑制を設定してOSを再起動
- Systemwalker Centric Manager、またはSystemwalker Operation Manager のデーモンの起動抑制を解除

また、Systemwalker Centric Manager、またはSystemwalker Operation Manager でSystemwalker Resource Coordinator連携機能を使用している場合、管理対象サーバの起動が完了するまで、Systemwalker Centric ManagerのSNMPトラップデーモン(nwsnmp-trapd)を使用する他製品のSNMPトラップ機能を使用しないでください。

28.7 Systemwalker Operation Managerがsyslogに出力するジョブネットの正常終了メッセージを、Systemwalker Centric Managerで監視できない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

/etc/syslog.confにおけるSystemwalker Centric Managerのメッセージ監視の定義において、facilityが"user"、levelが"info"であるメッセージが監視対象に設定されていますか。

原因

/etc/syslog.confにおけるSystemwalker Centric Managerのメッセージ監視の定義は、デフォルトではlevelが"info"であるメッセージは監視対象に設定されていません。

そのため、Systemwalker Operation Managerがsyslogに出力するジョブネットの正常終了メッセージを監視する場合は、/etc/syslog.confの設定変更が必要です。

対処方法

“syslogに出力するメッセージが表示されない(または遅れて表示される)”の対処4を参照して、facilityが"user"、levelが"info"であるメッセージがSystemwalker Centric Managerで監視対象となるように、/etc/syslog.confの設定変更を実施してください。

28.8 Systemwalker Resource Coordinator でノード削除すると、Systemwalkerコンソールの業務管理画面からノードが削除される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:12.1以降
 - Linux版:V12.0L10以降
 - Windows版:V13.2.0以降

原因

Systemwalker Resource Coordinatorでノード削除した場合、Systemwalkerコンソールの業務監視画面にユーザーが追加したノードは削除されます。(自動的に追加されません。)

対処方法

必要に応じて業務監視画面を編集してください。

28.9 パスワード変更コマンド(pwchange.exe)実行後、「パスワード情報の変更失敗しました。」のエラーが表示され、Systemwalker Operation Managerのサービスの起動に失敗する

エラーメッセージ

パスワード情報の変更失敗しました。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V13.1.0以降
 - Windows for Itanium版:V13.2.0以降

確認ポイント

エラーが発生した環境は、下記「環境1」「環境2」および「発生条件」に一致するか確認してください。

[環境1]

1. 以下のいずれかの製品が、インストール種別として運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバを指定してインストールされている。かつ、

- Windows for Itanium版 Systemwalker Centric Manager V13.2.0
- Windows for Itanium版 Systemwalker Centric Manager V13.2.0A
- Windows for Itanium版 Systemwalker Centric Manager V13.3.0

2. 以下の製品が、インストール種別としてサーバを指定してインストールされている。

- Windows for Itanium版 Systemwalker Operation Manager V13.2.0

[環境2]

1. 以下の製品が、インストール種別として運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバを指定してインストールされている。かつ、

- Windows版 Systemwalker Centric Manager V13.3.0

2. 以下の製品が、インストール種別としてサーバを指定してインストールされている。

- Windows版 Systemwalker Operation Manager V13.2.0以前

[発生条件]

- [環境1]または[環境2]に記載した環境である。かつ、

- Systemwalker Centric ManagerとSystemwalker Operation Managerで同じスタートアップアカウントを設定している。かつ、

- Systemwalker Centric Managerのスタートアップアカウントのパスワード変更コマンド(pwchange.exe)でパスワード変更を行った場合。

原因

Systemwalker Operation Managerのサービスのパスワード変更が行われなかったため、Systemwalker Operation Managerのサービスの起動に失敗します。

その場合、イベントログ(システム)に以下のエラーが記録されます。

ソース :Service Control Manager

イベントID:7000

説明 :XXXXXX サービスは次のエラーのため開始できませんでした:

ログオンに失敗したため、サービスを開始できませんでした。

XXXXXXには、Systemwalker Operation Managerのサービス名が表示されます。

対処方法

Systemwalker Operation Managerのスタートアップアカウントのパスワード変更コマンド(pwchange.exe)でパスワード変更を行ってください。

第29章 その他

29.1 システム監視APIのMp_ReadMsg()関数(Solaris版)およびMp_GetMsgMap()関数(Windows版)の復帰時に、出力パラメタmsgtext(メッセージテキスト)に空文字列が設定されている場合がある

システム監視APIのMp_ReadMsg()関数(Solaris版)およびMp_GetMsgMap()関数(Windows版)の復帰時に、メッセージテキストが格納される出力パラメタのmsgtext(メッセージテキスト)に空文字列が設定されているか、または監視事象と関係のないメッセージテキストが入っている場合があります。

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

原因

運用管理サーバおよび監視対象のSystemwalker Centric Managerを起動したときに、そのことをSystemwalker Centric Manager内部に通知するために監視メッセージが発生します。そのメッセージテキストに空文字列や監視事象と関係のないメッセージが設定されています。この監視メッセージはメッセージログに残らず、Systemwalkerコンソール(監視画面)にも表示されません。

Mp_ReadMsg()関数(Solaris版)およびMp_GetMsgMap()関数(Windows版)の出力パラメタmsgtype(メッセージ種別)が以下の値である場合、そのメッセージはSystemwalker Centric Managerの内部で使用されるメッセージです。そのため、Mp_ReadMsg()関数(Solaris版)およびMp_GetMsgMap()関数(Windows版)の出力パラメタmsgtext(メッセージテキスト)には、メッセージテキストが無かったりまたは監視事象とは関係のないメッセージテキストが入っている場合があります。

- 発生条件となるmsgtype(メッセージ種別)の値
 - OP_APIMSGTYPESTAT
 - OP_APIMSGTYPESTOP
 - OP_APIMSGTYPECHNG

対処方法

これは仕様で、特に対処をする必要はありません。

29.2 MpWalker/DM V3との連携時に発生するエラーメッセージについて

Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバ環境にMpWalker/DM V3系の部門管理サーバを登録すると、部門管理サーバのWindows NT(R)のイベントログにエラーメッセージが出力されることがあります。

エラーメッセージ

```
MpOpagt: エラー: 8001:MPCMのアクセスに失敗しました (Mp_OpenDomainByName)(ドメインは存在しません)
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V3.0L10～V3.0L20

確認ポイント

イベントログを調査して、上記のエラーメッセージが出力されていないか。

原因

運用管理サーバがV3.0の場合は、基本ツリーの名前は固定で“基本ツリー”でしたが、運用管理サーバを以下のバージョンにした場合、基本ツリーの名前を任意に設定できるようになるため、不一致が生じます。

- Windows: V5.0L10以降
- Solaris: 5.0以降
- Linux: V11.0L10以降

対処方法

SystemWalker/CentricMGR V5系以上の運用管理サーバで以下の操作を行ってください。

1. Systemwalker コンソールの編集モードで、ノード一覧ツリー(基本ツリー)の表示名を“基本ツリー”に変更します。
2. 構成情報の一括配付を実行します。

29.3 ポート番号9294がアクセスされる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

メッセージ監視、リモートコマンド発行を使用していますか。

原因

メッセージ監視、リモートコマンド発行する場合、ポート番号9294を使用するため発生します。

対処方法

Systemwalker Centric Managerはポート番号9294を使用しメッセージ通知、リモートコマンド発行を実現しています。

メッセージの監視、リモートコマンドの発行が不要であれば、通信環境定義のメッセージ送信先定義を削除後、Systemwalker Centric Managerを再起動してください。

※メール連携機能を使用したメッセージ通知では、通信環境定義のメッセージ送信先定義は不要です。ポート番号9294は使用しません。

29.4 「MpFwdrp: ERROR: 20416: mpdrpspm Mp_PolUnset error 18(0)」と表示される

エラーメッセージ

MpFwdrp: ERROR: 20416: mprpspm Mp_PolUnset error 18(0)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10～V11.0L10
 - Solaris版:5.0～11.0

対処1

確認ポイント

部門管理サーバとして認識されていないノードを管理サーバに指定してサブドメインフォルダの作成を行い、そのサブドメインフォルダを削除したのち、ポリシーの配付を行っていませんか。

Systemwalkerコンソールのサブドメインフォルダのプロパティを開き、サブドメインタブにて、部門管理サーバとして、正しく部門管理サーバと認識されているノードが指定されているかどうか確認してください。

対処方法

特に対処を行う必要はありませんが、サブドメインフォルダを作成する際は、部門管理サーバとして、正しく部門管理サーバと認識されているノードを指定してください。

対処2

確認ポイント

サブドメインフォルダを作成し、ポリシーを一度も配付せずに、そのサブドメインフォルダを削除し、ポリシーの配付を行っていませんか。

対処方法

特に対処を行う必要はありません。

29.5 「0x464a0015」含むメッセージが出力される

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

以下のディレクトリのアクセス権限が“0755”になっていますか。

- 固定定義ファイルのSystemwalkerインストールディレクトリ(デフォルト設定では“/etc/opt”に相当します)
- 可変定義ファイルのSystemwalkerインストールディレクトリ(デフォルト設定では“/var/opt”に相当します)

原因

一般ユーザが、該当ディレクトリのotherのアクセス権限がない状態で、サーバアプリケーションを動作させようとした場合に、本メッセージが出力されます。

対処方法

以下のディレクトリのアクセス権限を“0755”に設定してください。

- 固定定義ファイルのSystemwalkerインストールディレクトリ(デフォルト設定では“/etc/opt”に相当します)

- ・ 可変定義ファイルのSystemwalkerインストールディレクトリ(デフォルト設定では“/var/opt”に相当します)

29.6 Systemwalker Centric Managerのプロセスが多くのメモリを使用している

対象バージョンレベル

- ・ Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- ・ Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント(Solaris版/HP-UX版/AIX版/Linux版の場合)

多くのメモリを使用しているプロセスは「opasyslog」ですか。

原因

監視対象のsyslogのメッセージが大量に(Systemwalker Centric Managerの処理性能を超えて)発生し続けた場合、プロセス「opasyslog」が使用するメモリが増加し続けます。

- ・ Systemwalker Centric Managerが監視対象とするsyslogのメッセージについては、“[syslogに出力するメッセージが表示されない\(または遅れて表示される\)](#)”の対処4を参照してください。
- ・ Systemwalker Centric Managerのメッセージの処理性能については、“[Systemwalker CentricMGR 性能ガイド](#)”に参考値を記載していますので参照してください。

対処方法

メッセージの発生頻度が、Systemwalker Centric Managerの処理性能に収まるように調整してください。

対処2

確認ポイント(Windows版の場合)

多くのメモリを使用しているプロセスは「flegopl.exe」、または「flegopm2.exe」ですか。

原因

監視対象のOS標準のイベントログ、またはアプリケーションのログファイルに、メッセージが大量に(Systemwalker Centric Managerの処理性能を超えて)発生し続けた場合、プロセス「flegopl.exe」、または「flegopm2.exe」が使用するメモリが増加し続けます。また、下位のサーバの[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]に現象が発生しているサーバを設定している場合、下位のサーバでのメッセージ発生頻度も影響します。

- ・ 「アプリケーションのログファイル」とは、[監視ログファイル設定]画面、または共有ディスクファイル監視定義ファイル(V10.0L10以降)で定義したログファイルを指しています。

- Systemwalker Centric Managerのメッセージの処理性能については、“Systemwalker CentricMGR 性能ガイド”に参考値を記載していますので参照してください。

対処方法

メッセージの発生頻度が、Systemwalker Centric Managerの処理性能に収まるように調整してください。

29.7 保守情報収集ツール実行時にシステムログ(messagesファイル、アプリケーションログ)に"qdg13315u"と出力される

エラーメッセージ

qdg13315u:RDB構成パラメタファイルの定義種別'RDBLOGMANAGE'に指定したパスが正しくないかまたは入出力障害が発生しました(システム名=CENTRIC)

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

以下の条件に該当するか確認してください。

1. クラスタシステムで運用している。かつ
2. "qdg13315u"が出力された日時に保守情報収集ツールで資料採取を行っている。かつ
3. 保守情報収集ツール実行時、共有ディスクへのアクセスを取得していなかった。

原因

クラスタシステムで運用している場合は、保守情報収集ツール実行時、共有ディスクへのアクセスを取得する必要があります。
共有ディスクへアクセスできない状態で保守情報収集ツールを実行した場合に"qdg13315u"が発生します。

対処方法

該当する場合、運用に影響はないため特に対処は必要ありません。

"qdg13315u"が出力され上記条件に該当しない場合は、保守情報収集ツールでフレームワーク機能の情報を収集し、技術員に調査依頼をしてください。

29.8 運用環境保守ウィザードを起動した場合、運用環境保守ウィザードの起動に3分の待ち時間が発生します

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V10.0L20～V13.0.0
 - Windows for Itanium版:V12.0L11～V13.0.0

確認ポイント

以下の条件に当てはまる場合、対処方法を実施してください。

- Microsoft(R) Cluster Server、またはMicrosoft(R) Cluster Service (以下、MSCSと略します。)をインストールしている、かつ、
- MSCSの環境を構築している、かつ、
- MSCSのサービス(Cluster Service)を停止している、かつ
- 以下のどれかのOSを使用している。
 - Windows NT Server Enterprise Edition Version 4.0
 - Windows 2000 Advanced Server
 - Windows Server 2003 Enterprise Edition

原因

MSCSのサービスが起動していない場合は、起動するまで3分待ち合わせする処理が存在しているためです。

対処方法

MSCSのサービス起動後に、サービス起動停止コマンド(scentricmgr/pcentricmgr)を実行してください。

MSCSのサービス起動方法は以下のとおりです。

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003 EEの場合
 1. [コントロールパネル]で[管理ツール]を起動します。
 2. [管理ツール]で[サービス]を起動します。
 3. [サービス]画面で、以下のサービスを起動します。
 - Cluster Service
- Windows NT Version 4.0の場合
 1. [コントロールパネル]で[サービス]を起動します。
 2. [サービス]画面で、以下のサービスを起動します。
 - Cluster Service

備考

本現象が発生しても、ユーザ資産に影響がないため、復旧作業は必要ありません。

29.9 Systemwalker Centric ManagerのプロセスのCPU使用率が上昇する

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降

— Linux版:V11.0L10以降

対処1

確認ポイント

サーバ間連携機能(イベントの対処連携機能)を有効にしている運用管理サーバ上で、以下のプロセスのCPU使用率が上昇していますか。

[Windows版]

- flégoplím.exe
- MpFwls.exe

[UNIX版]

- flégoplím.exe
- MpFwls

原因

サーバ間連携機能を有効にしている環境では、ある運用管理サーバで大量のイベントを一度に対処した場合、その連携先の運用管理サーバ上で、上記のプロセスのCPU使用率が一時的に上昇することがあります。

これは、対処連携させる個々のイベントを監視イベントログから検索する処理が集中するためです。

対処方法

一時的な現象であるため、対処の必要はありません。

対処2

確認ポイント

対象のプロセスが“Systemwalkerコンソールでの表示、操作に時間がかかる(遅延している)、各サーバでCPU使用率が高くなっている”の注意事項に記載されたプロセスである場合、ここに記載された各確認ポイントについて確認してください。

29.10 ジョブスケジューラから保守情報収集ツールを起動した場合、MsInfo32のアプリケーションエラーが発生しジョブがエラーになる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降

原因

MSInfo32コマンドをジョブ実行から実行した場合にアプリケーションエラーとなる場合があります。保守情報収集ツールではOSの情報を採取する為にMSInfo32コマンドを使用している為、保守情報収集ツールをジョブ実行から実行した場合に、アプリケーションエラーが発生する場合があります。MSInfo32.exeコマンドを、Systemwalker Operation Managerのジョブとして実行した場合、動作が異常となります。

対処方法

ありません。

備考

MSInfo32.exeコマンド以外の資料採取には問題ありません。

29.11 Systemwalker Centric Managerのプロセスのメモリ使用量が増加し続ける

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降
 - HP-UX版:5.1以降
 - AIX版:10.0以降
 - Linux版:5.2、V10.0L10以降
- Systemwalker Event Agent
 - Windows版:V10.0L20以降
 - Solaris版:10.1以降
 - Linux版:V11.0L10以降

確認ポイント

メモリ使用量が増加し続けるプロセスは、以下のプロセスですか？

[Windows版]

- flgoppt.exe
- flgopup.exe

[UNIX版]

- opasend

原因

仕様です。

Systemwalker Centric Managerが[通信環境定義]-[メッセージ送信先システム]に指定されたシステムと通信ができない状態で監視対象メッセージを受信した場合、保存データ数(※)に達するまでメッセージを溜めるため、上記に示したプロセスのメモリ使用量が徐々に増加します。

しかし保存データ数を超えてメッセージを溜めることはないため、無限に増加し続けることはありません。

メッセージ送信先システムに指定したシステムと通信できない原因については、“[上位ノードへのメッセージが破棄される](#)”を確認してください。

なお、溜められたメッセージ数が保存データ数を超えた場合は、古いメッセージから順に破棄されます。

※)[通信環境定義]-[動作設定]-[保存データ数]に指定された数値となります。

対処方法

対処は必要ありません。

29.12 ノードに対して電源切断の操作をしても、切断までに時間がかかる

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Windows版:V5.0L10以降
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

以下を確認してください。

1. 操作対象となるサーバにおいて、Systemwalker Operation Managerがインストールされている。
2. 1)のSystemwalker Operation Managerにおいて終了監視機能で電源切断の条件を設定している

原因

Systemwalker Operation Managerの電源制御機能である終了監視の定義に従い、条件を満たすまで切断時間が延期されています。この際、延期される時間は最大2時間となります。

対処方法

Systemwalker Operation Managerの業務に影響がないことを確認したうえで、終了監視機能で定義した条件を満たしてください。

29.13 保守情報収集ツールが終了しない

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降

確認ポイント

SWAP領域不足の状態になっていませんか。

SWAP領域不足の場合は以下のようなOSからの通知メッセージが出力されることがあります。

```
unix: WARNING: /tmp: File system full, swap space limit exceeded
```

原因

保守情報収集ツールの内部で実行されるシステム関数がSWAP不足のため、無応答状態になっています。

対処方法

以下の手順に従って対処してください。

1. "df -k"コマンドでSWAP領域の空き容量を確認してください。

例)

```
# df -k
ファイルシステム      kbytes 使用済み 使用可能 capacity マウント先
swap                  641448   22992  618456     4%    /tmp
```

2. SWAP領域の空き容量が少ない場合は、SWAP領域を増加するなどの対処をしてください。SWAP領域の空き容量が十分にある場合は、発生時に一時的なSWAP領域を使用したことが考えられます。その場合は、以下の資料を採取して技術員に連絡してください。

- df -k コマンド結果
- Symfowareのエラーログ
 - V5.0～V13.6.0の場合

/opt/FSUNrdb2b/etc/CENTRIC.cfg のRDBREPORTのパスを確認し、RDBREPORTのパス配下の"CENTRIC.log"を採取してください。

- V15.0.0以降の場合

/opt/FJSVftlc/mpsymfo/FSUNrdb2b/etc/CENTRIC.cfg のRDBREPORTのパスを確認し、RDBREPORTのパス配下の"CENTRIC.log"を採取してください。

例)

RDBREPORT=/var/opt/systemwalker/SWFWDB/core

- /var/adm/messages*
- swcolinf(保守情報収集コマンド) -oオプションで指定した 格納先ディレクトリ配下

29.14 Solaris 10でnon-global zoneを作成しようとする、non-global zoneの作成が中断される場合がある

エラーメッセージ

ゾーン <[任意ゾーン名]> 上での <[任意パッケージ名]> のインストールが一部失敗しました。

[任意ゾーン名] : 作成しようとしたゾーン名

[任意パッケージ名]: システムにインストールされているいずれかのパッケージ名

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:12.1以降

確認ポイント

global zoneにSystemwalker Centric Managerをインストールした状態で、non-global zoneを作成しようとしませんでしたか？

対処方法

global zone上で、以下のディレクトリの権限およびユーザ名/グループ名を適切に変更してから、再度non-global zoneの作成を行ってください。

```
/usr/lib/locale/ja_JP.PCK
/usr/lib/locale/ja_JP.PCK/LC_MESSAGES
/usr/lib/locale/ja_JP.UTF-8
/usr/lib/locale/ja_JP.UTF-8/LC_MESSAGES
```

権限およびユーザ名/グループ名の変更は、以下のコマンドで実施できます。

```
# chmod 755 [ディレクトリ名]
# chown root [ディレクトリ名]
# chgrp bin [ディレクトリ名]
```

29.15 「InterfaceRep_s_Obf」および「InterfaceRep_Cash_s_Obf」プロセスが存在しない場合がある

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Solaris版:5.0以降
 - Linux版:V11.0L10以降

原因

「InterfaceRep_s_Obf」および「InterfaceRep_Cash_s_Obf」プロセスは、フレームワークのデータベース構築時に内部的に起動される、通信基盤機能のプロセスです。以降、通信基盤機能が停止されるまでは常駐しますが、通信基盤機能が停止された後は常駐する必要がないため起動されません。

対処方法

対処は不要です。

「InterfaceRep_s_Obf」および「InterfaceRep_Cash_s_Obf」プロセスは、フレームワークのデータベース構築時にのみ起動されるものであり、ユーザが意識するプロセスではありません。

29.16 「error while loading shared libraries: libstdc++.so.6: cannot open shared object file: No such file or directory」と表示される

エラーメッセージ

```
/opt/FJSVftlc/pmon/bin/mppmon: error while loading shared libraries: libstdc++.so.6: cannot open shared object file: No such file or directory
```

対象バージョンレベル

- Systemwalker Centric Manager
 - Linux版:V13.0.0以降
- Systemwalker Event Agent
 - Linux版:V13.0.0以降

確認ポイント

OSのライブラリ「libstdc++.so.6」が存在していますか。

OSのパッケージ「libstdc++」が存在していますか。

原因

/usr/lib/libstdc++.so.6 が存在しないため、発生しています。

対処方法

OSのパッケージ「libstdc++」をインストールしてください。

付録A 調査資料の採取方法

調査資料の採取は、保守情報収集ツールで行います。保守情報収集ツールとは、Systemwalker Centric Managerのトラブルに対して、トラブル対処となる必要な情報を集める機能です。Systemwalker Centric Managerのトラブルに対し、原因がわからない場合に、本機能を利用して集めた情報を、技術員に送付してください。

ここでの記載内容は、V10.0L20/10.0L21/10.1以降を対象としています。また、Systemwalker Event Agentの使用方法は、Systemwalker Centric Managerと同じです。

調査資料の採取については、FJQSS(資料採取ツール)を利用することもできます。FJQSS(資料採取ツール)で採取できる資料は、保守情報収集ツールで採取した資料と同じです。

ポイント

FJQSS(資料採取ツール)について

FJQSS(資料採取ツール)は、Systemwalker Centric Managerに組み込まれているトラブル発生時の調査資料採取ツールです。トラブル調査に必要な資料を簡単な操作で採取できます。

- ・【Windows版の場合】

“FJQSS(資料採取ツール)”の詳細については、[スタート]メニュー-[FJQSS(資料採取ツール)]-[FJQSS ユーザーズガイド]で表示されるマニュアルを参照してください。

- ・【UNIX版の場合】

“FJQSS(資料採取ツール)”の詳細については、DVDに格納されている以下のフォルダ配下のマニュアルを参照してください。

- Fjqss_Manual

A.1 使用方法

保守情報収集ツールの使用方法を説明します。

A.1.1 Windows版 V10.0L20/V10.0L21の場合

ここでの記載内容は、Windows版 V10.0L20/V10.0L21を対象にしています。

- ・ [世代管理の設定](#)
- ・ [保守情報の収集方法](#)
- ・ [保守情報の収集状況の確認](#)
- ・ [自動収集について](#)
- ・ [注意事項](#)

世代管理の設定

保守情報の世代管理を行う場合は、保守情報収集ツールを使用する前に、以下のコマンドを実行してください。コマンドの詳細は、“Systemwalker CentricMGR リファレンスマニュアル”を参照してください。

- ・ Windows NT系

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpcmtool¥swcolinf¥swcolinf /w OverWriteCount
```

- ・ Windows 9X系

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpcmtool¥swcolinf /w OverWriteCount
```

[OverWriteCount]: 世代数を設定します。設定範囲は、1～10です。

ポイント

世代管理を設定した場合、収集した情報は、以下のように世代別で管理されます。(OverWriteCountの設定を10にした場合)

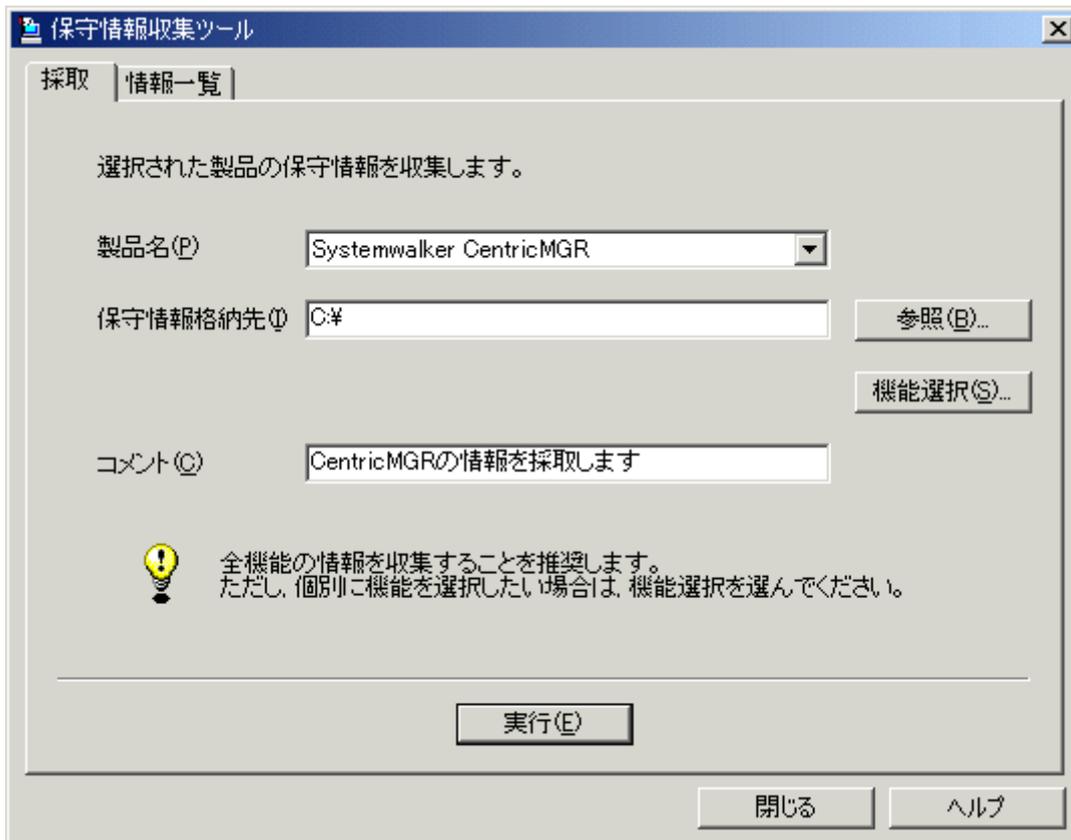
情報格納先ディレクトリ¥CentricMGR¥0001
情報格納先ディレクトリ¥CentricMGR¥0002
：
情報格納先ディレクトリ¥CentricMGR¥0010

世代管理の設定を変更する場合も、世代管理の変更コマンドを実行します。

保守情報の収集方法

以下に保守情報収集ツールの操作手順を説明します。

1. スタートメニューから[Systemwalker_CentricMGR]—[保守情報収集ツール]を選択します。(Systemwalker Event Agentの場合は、[Systemwalker Event Agent])
→[保守情報収集ツール]ダイアログボックスが表示されます。



2. 以下の項目を指定し、[実行]ボタンをクリックします。
 - [製品名]: “Systemwalker CentricMGR”を選択します。
 - [保守情報格納先]: 収集した情報を格納する場所を指定します。
 - [コメント]: 収集した情報にコメントを記述することができます。→実行を確認するダイアログボックスが表示されます。

ポイント

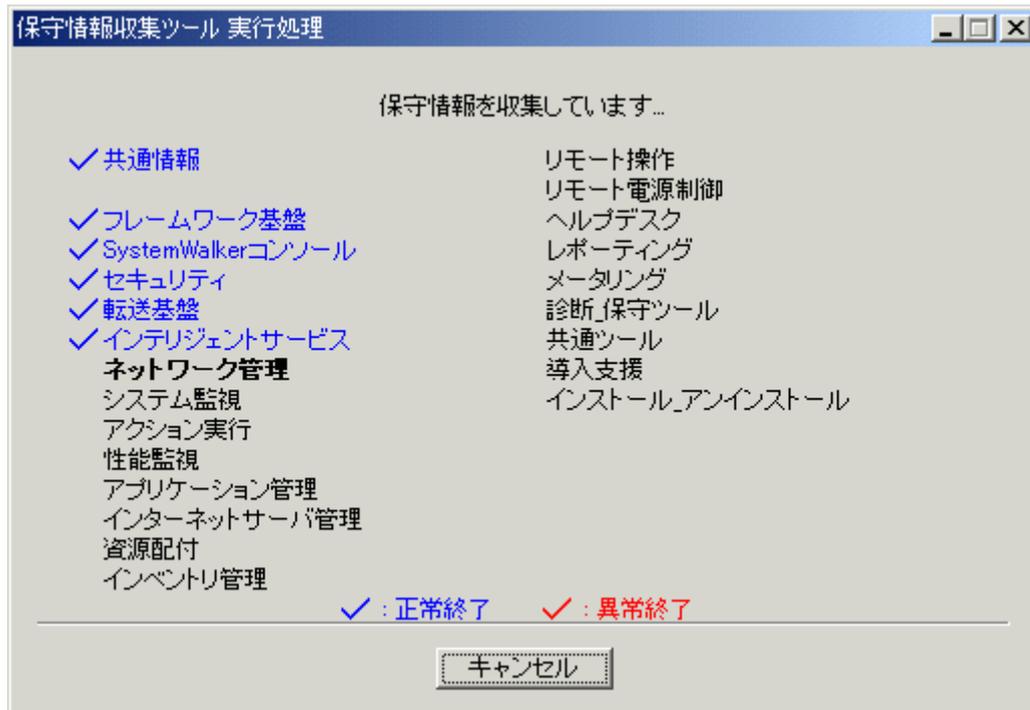
収集する機能を選択する場合

収集する機能を選択する場合は、[保守情報収集ツール]ダイアログボックスで、[機能選択]ボタンをクリックし、[保守情報収集ツール機能選択]ダイアログボックスから、収集する機能を選択します。

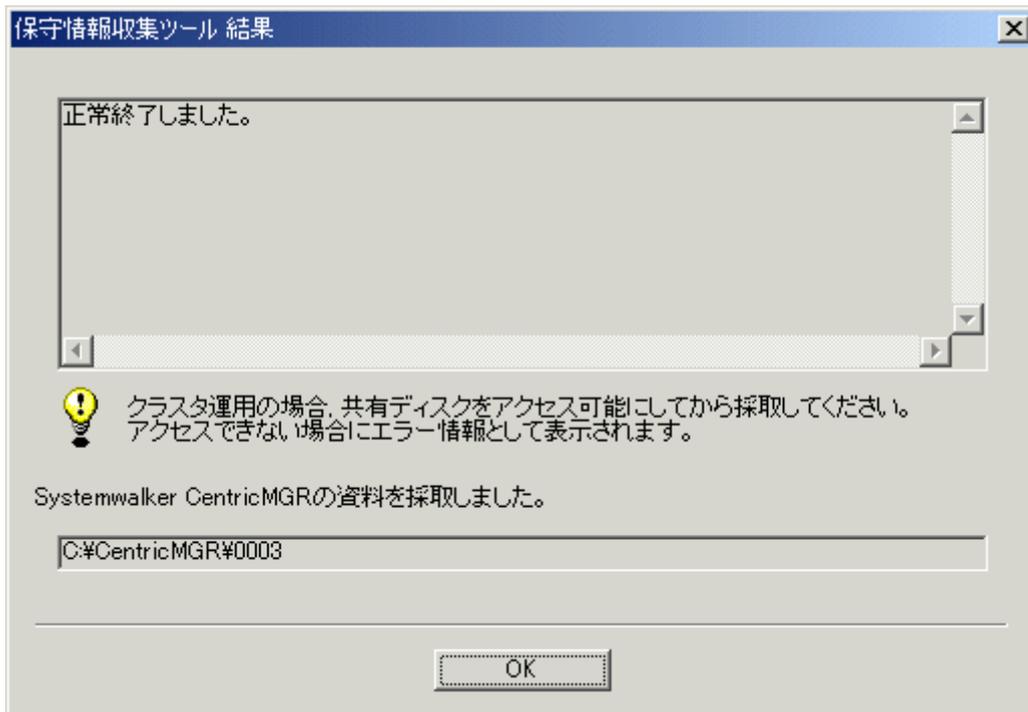
ただし、原因究明のため、機能はすべて収集することを推奨します。

3. [OK]ボタンをクリックします。

→[保守情報収集ツール 実行処理]メッセージボックスが表示されます。



4. [保守情報収集ツール 結果]メッセージボックスが表示されます。
内容を確認し、[OK]ボタンをクリックしてください。



注意

資料が収集されなかった場合

収集できなかった資料と格納先が機能別に表示されます。その場合は、再度保守情報の収集を行ってください。

再度実行しても採取できない資料があった場合は、収集できなかった資料を格納先へコピーしてください。詳細は、「[保守情報を収集できなかった場合](#)」を参照してください。

ポイント

- 保守情報収集(全項目)にかかる時間の目安は、以下のとおりです。
 - CPU: Inter(R) Pentium(R) IIIプロセッサ600MHz
 - メモリ: 512MB
 - 収集時間: 6分15秒
- 保守情報の収集をサイレントコマンドで実行する場合は、「Systemwalker CentricMGR リファレンスマニュアル」を参照してください。

保守情報の収集状況の確認

保守情報の収集状況の確認は、以下の手順で行います。

- スタートメニューから、[Systemwalker_CentricMGR]-[保守情報収集ツール]を選択します。(Systemwalker Event Agentの場合は、[Systemwalker Event Agent])
 - [保守情報収集ツール]ダイアログボックスが表示されます。

自動収集について

イベント監視やプロセス監視で、コマンドを発行する機能と連携して、以下に示す保守情報収集ツールのコマンドを設定し、トラブル発生時に自動的に調査資料が採取できるようになります。

詳細は、“Systemwalker CentricMGR 導入手引書”を参照してください。

- Windows NT系

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpcmtool¥swcolinf¥swcolinf
```

- Windows 9X系

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpcmtool¥swcolinf¥swcolinf
```

注意事項

- Terminal Serverの場合

Windows Server 2003 STD /Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE、Windows(R) 2000 Server、Windows(R) 2000 Advanced Server、またはWindows NT(R) Terminal Serverで、ターミナルサービスを使用している場合は、システムモードを“インストールモード”に切り替えてから、収集してください。

ただし、ターミナルサーバモードが“リモート管理モード”の場合は、システムモードの切替えは必要ありません。

- クラスタシステムの場合

クラスタシステムで運用している場合は、運用系、待機系の両方のノードで収集してください。また、収集時には、共有ディスクへのアクセスを取得してから、収集してください。

- 運用管理サーバ二重化の場合

主系サーバ、従系サーバの両方で収集してください。

A.1.2 Solaris版 10.1の場合

ここでの記載内容は、Solaris版 10.1を対象にしています。

クライアントの場合は、“[Windows版 V10.0L20/V10.0L21の場合](#)”を参照してください。

- [世代管理の設定](#)
- [保守情報の収集方法](#)
- [保守情報の収集状況の確認](#)
- [自動収集について](#)
- [注意事項](#)

世代管理の設定

保守情報の世代管理を行う場合は、保守情報収集ツールを使用する前に、以下のコマンドを実行してください。コマンドの詳細は、“Systemwalker CentricMGR リファレンスマニュアル”を参照してください。

```
/opt/FJSVftlc/swcolinf/swcolinf -w OverWriteCount
```

[OverWriteCount]: 世代数を設定します。設定範囲は、1～10です。

ポイント

世代管理を設定した場合、収集した情報は、以下のように世代別で管理されます。(OverWriteCountの設定を10にした場合)

```
情報格納先ディレクトリ/CentricMGR/0001  
情報格納先ディレクトリ/CentricMGR/0002
```

:
情報格納先ディレクトリ/CentricMGR/0010

世代管理の設定を変更する場合も、世代管理の設定コマンドを実行します。

保守情報の収集方法

以下のコマンドを実行し、保守情報を収集します。

コマンドの詳細は、“Systemwalker CentricMGR リファレンスマニュアル”を参照してください。

```
/opt/FJSVftlc/swcolinf/swcolinf [-i Name] -o OutPath [-c Comment]
```

→採取状況および格納先が表示されます。

```
# ./swcolinf -i framework -o /export/home  
Collecting TRACE information...  
Collecting FJSVfwbs information...  
Collecting FJSVfwgui information...  
Collecting FJSVfwsec information...  
Collecting FJSVfwert information...  
Collecting FJSVfwtrs information...  
Collecting FJSVssc information...  
Collecting COMMON information...  
  
Systemwalker CentricMGR information has collected successfully.  
Storage location: /export/home/CentricMGR/0002  
#
```

注意

資料が収集されなかった場合

収集できなかった資料と格納先が機能別に表示されます。その場合は、再度保守情報の収集を行ってください。

再度実行しても採取できない資料があった場合は、収集できなかった資料を格納先へコピーしてください。詳細は、“[保守情報を収集できなかった場合](#)”を参照してください。

ポイント

- 保守情報収集(全項目)にかかる時間の目安は、以下のとおりです。
 - CPU:SPARC64(TM) GP 400MHz × 2
 - メモリ:2048MB
 - 収集時間:6分15秒

保守情報の収集状況の確認

以下のコマンドを実行し、保守情報の収集状況を確認します。

コマンドの詳細は、“Systemwalker CentricMGR リファレンスマニュアル”を参照してください。

```
/opt/FJSVftlc/swcolinf/swcolinf -l Outpath
```

[Outpath]

採取した資料の情報を表示する格納先ディレクトリを指定します。

→指定した格納先配下の世代情報を表示します。

【実行例】

保守情報の収集状況の実行例を示します。

```
*** Systemwalker CentricMGR Information ***
OUTPATH : /temp
FOLDER      DATE           FUNCTION    COMMENT
/temp/CentricMGR/0001  2002/05/05 10:10:10  all        all
/temp/CentricMGR/0002  2002/05/06 10:10:10  event, tool tool:error
```

自動収集について

イベント監視やプロセス監視で、コマンドを発行する機能と連携して保守情報収集ツールのコマンドを設定し、トラブル発生時に自動的に調査資料が採取できるようになります。

詳細は、“Systemwalker CentricMGR 導入手引書”を参照してください。

注意事項

- ・ クラスタシステムの場合
クラスタシステムで運用している場合は、運用系、待機系の両方のノードで収集してください。また、収集時には、共有ディスクへのアクセスを取得してから収集してください。
- ・ 運用管理サーバ二重化の場合
主系サーバ、従系サーバの両方で収集してください。

A.1.3 Windows版 V11.0L10以降からV13.5.0まで/Windows for Itanium版 V12.0L11以降からV13.4.0までの場合

ここでの記載内容は、Windows版V11.0L10以降/Windows for Itanium版 V12.0L11以降を対象にしています。

- ・ [世代管理の設定](#)
- ・ [保守情報の収集方法](#)
- ・ [保守情報の収集状況の確認](#)
- ・ [保守情報の再圧縮と解凍方法](#)
- ・ [自動収集について](#)
- ・ [注意事項](#)

世代管理の設定

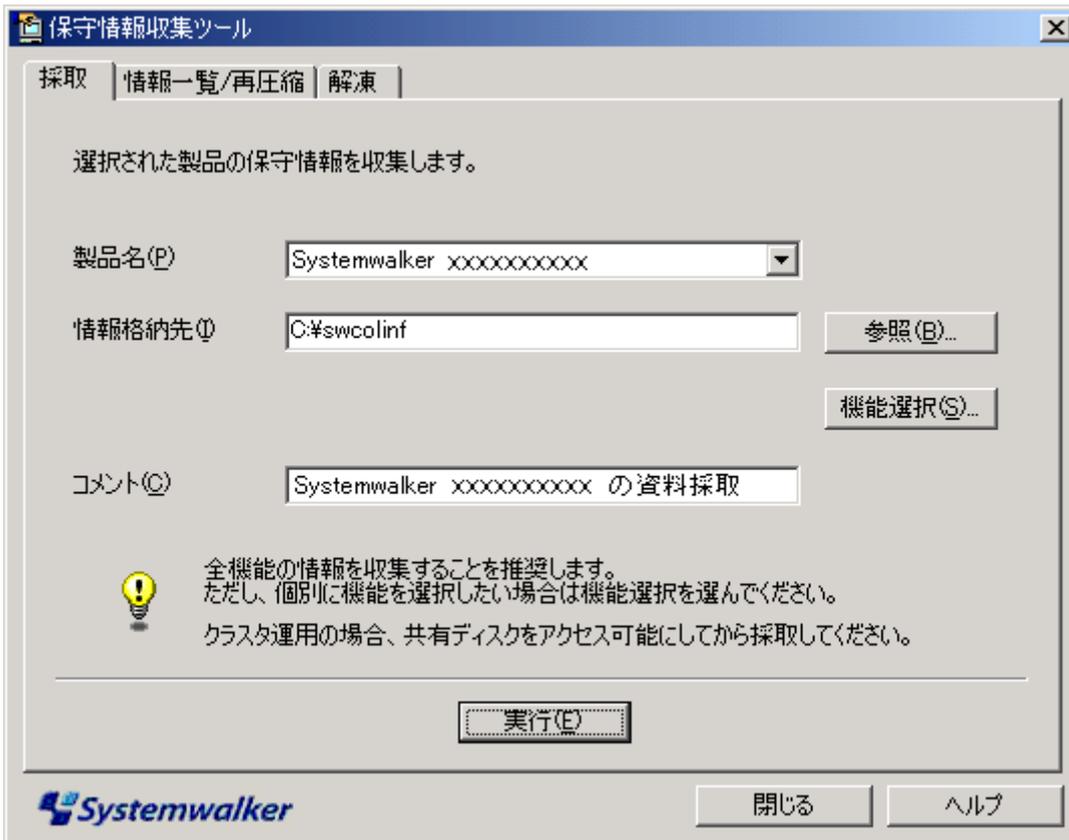
保守情報の世代管理を行うことができます。初期値は3世代が設定されています。世代を変更する場合は、世代管理のコマンドを実行してください。

設定方法については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

保守情報の収集方法

以下に保守情報の収集ツールの操作手順を記述します。

1. スタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[保守情報の収集]を選択します。(Systemwalker Event Agentの場合は、[Systemwalker Event Agent])
→[保守情報収集ツール]ダイアログボックスが表示されます。



2. 以下の項目を指定し、[実行]ボタンをクリックします。
 - － [製品名]: “Systemwalker Centric Manager”を選択します。
 - － [保守情報格納先]: 収集した情報を格納する場所を指定します。
 - － [コメント]: 収集した情報にコメントを記述することができます。→実行を確認するダイアログボックスが表示されます。

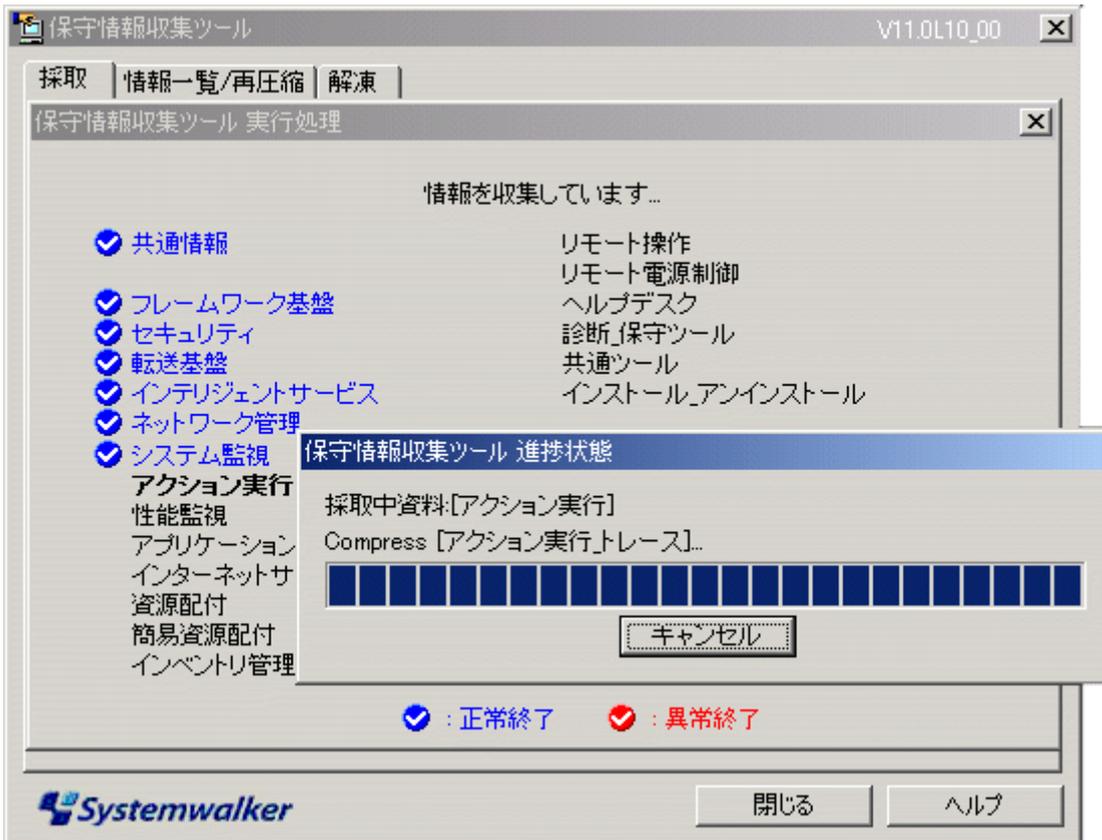
ポイント

収集する機能を選択する場合

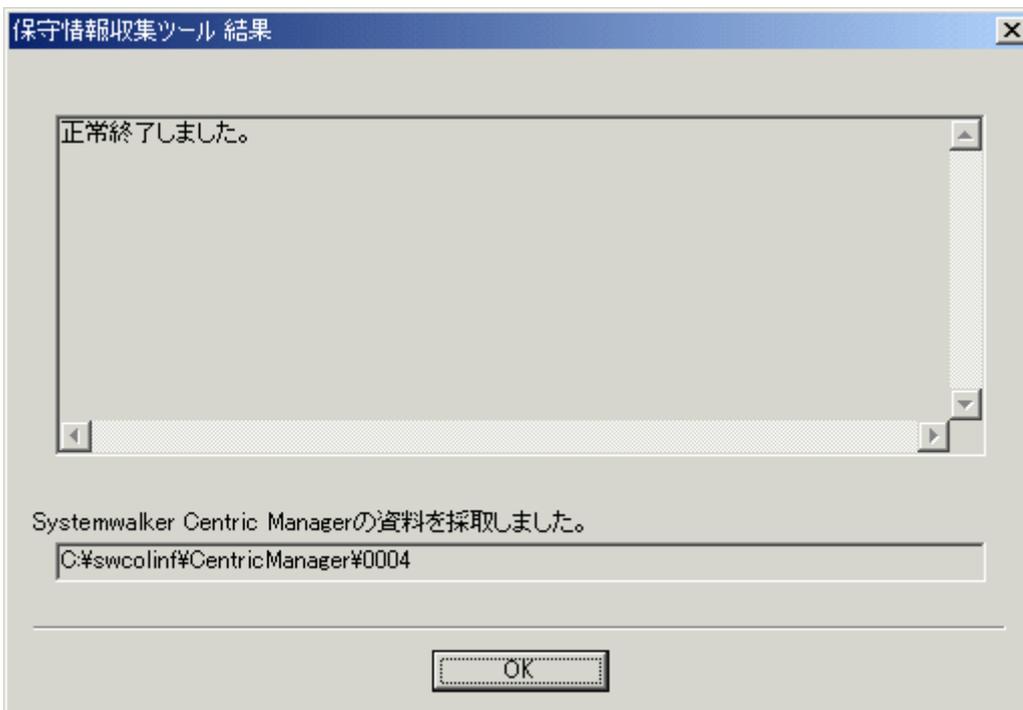
収集する機能を選択する場合は、[保守情報収集ツール]ダイアログボックスで、[機能選択]ボタンをクリックし、[保守情報収集ツール 機能選択]ダイアログボックスから、収集する機能を選択します。

ただし、原因究明のため、機能はすべて収集することを推奨します。

3. [OK]ボタンをクリックします。
 - [保守情報収集ツール 実行処理]メッセージボックスが表示されます。



4. [保守情報収集ツール 結果]メッセージボックスが表示されます。
内容を確認し、[OK]ボタンをクリックしてください。



注意

資料が収集されなかった場合

収集できなかった資料と格納先が機能別に表示されます。その場合は、再度保守情報の収集を行ってください。

再度実行しても採取できない資料があった場合は、収集できなかった資料を格納先へコピーしてください。詳細は、“[保守情報を収集できなかった場合](#)”を参照してください。

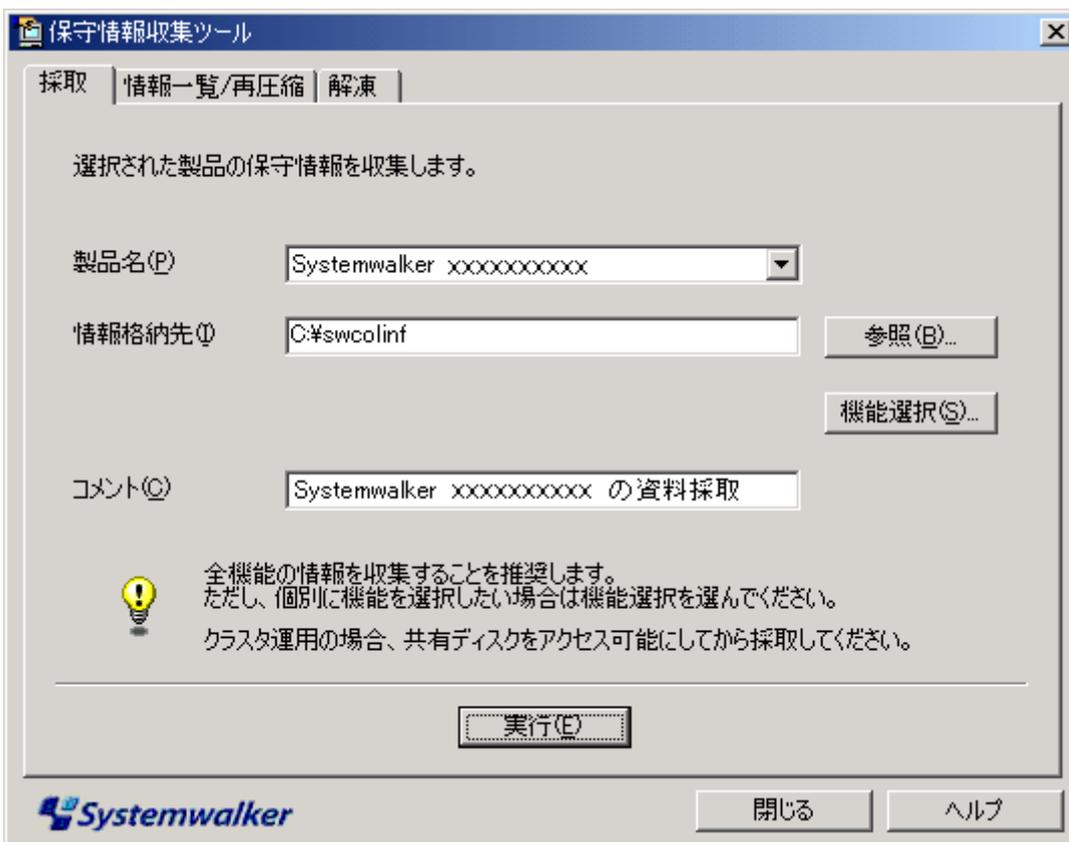
ポイント

- ・ 保守情報収集(全項目)にかかる時間の目安は、以下のとおりです。
 - ー CPU:Inter(R) Pentium(R)IIIプロセッサ600MHz
 - ー メモリ:512MB
 - ー 収集時間:6分15秒
- ・ 保守情報の収集をサイレントコマンドで実行する場合は、“[Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル](#)”を参照してください。

保守情報の収集状況の確認

保守情報の収集状況の確認は、以下の手順で行います。

1. スタートメニューから、[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[保守情報の収集]を選択します。(Systemwalker Event Agentの場合は、[Systemwalker Event Agent])
→[保守情報収集ツール]ダイアログボックスが表示されます。



2. [情報一覧/再圧縮]タブを選択します。
→保守情報の収集状況が確認できます。



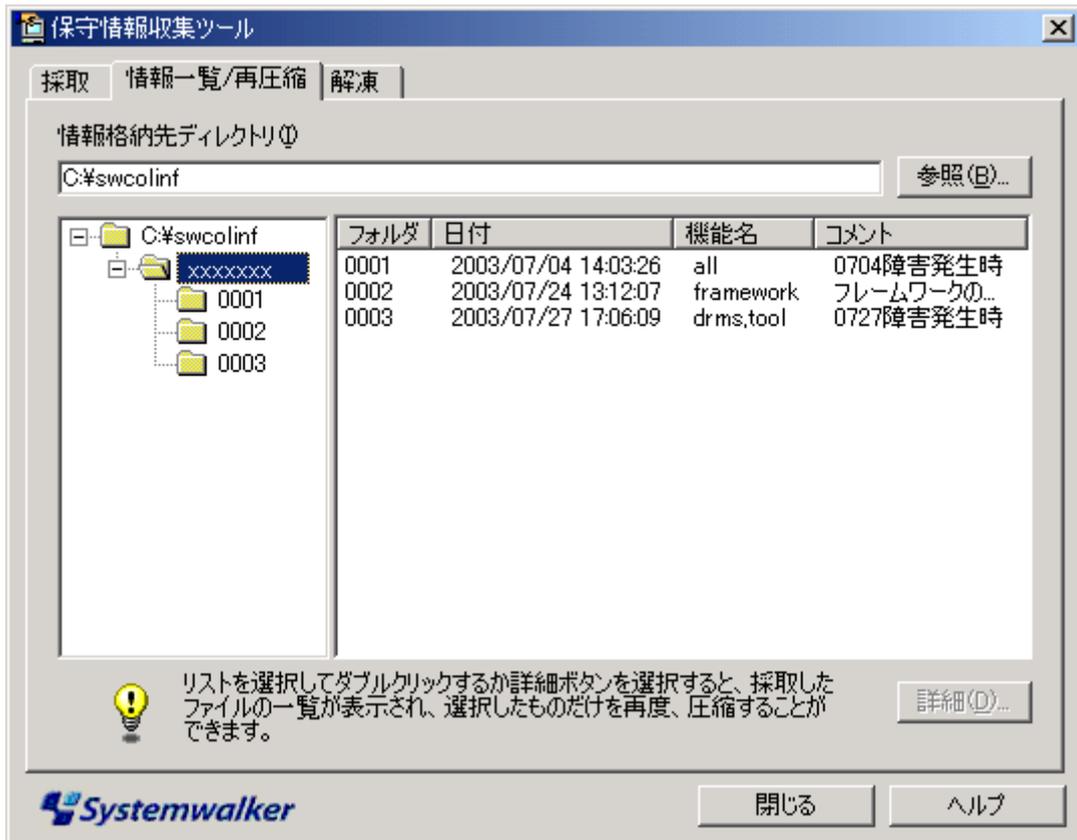
保守情報の再圧縮と解凍方法

保守情報収集ツールを使用して収集した情報のファイルサイズが大きくて、送付できない場合などに、採取した情報から必要な情報を選択し、再圧縮します。

再圧縮方法と、再圧縮したファイルを解凍する方法を以下に示します。

再圧縮方法

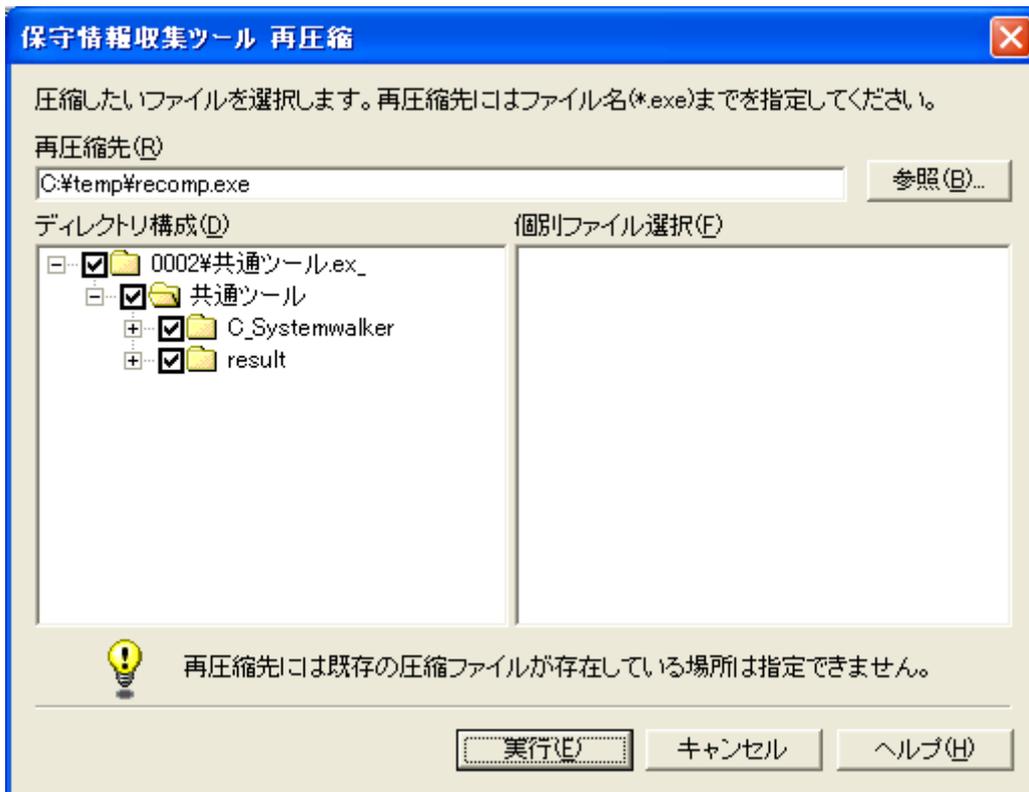
1. スタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[保守情報の収集]を選択します。
→[保守情報収集ツール]ダイアログボックスが表示されます。
2. [情報一覧/再圧縮]タブを選択します。
→収集した保守情報の一覧が表示されます。
— 製品名を選択した場合
各世代の情報が表示されます。



- 世代番号を選択した場合
採取した圧縮ファイルの一覧が表示されます。



- 再圧縮する情報を一覧から選択し、[詳細]ボタンをクリックします。
→[保守情報収集ツール 再圧縮]ダイアログボックスが表示されます。

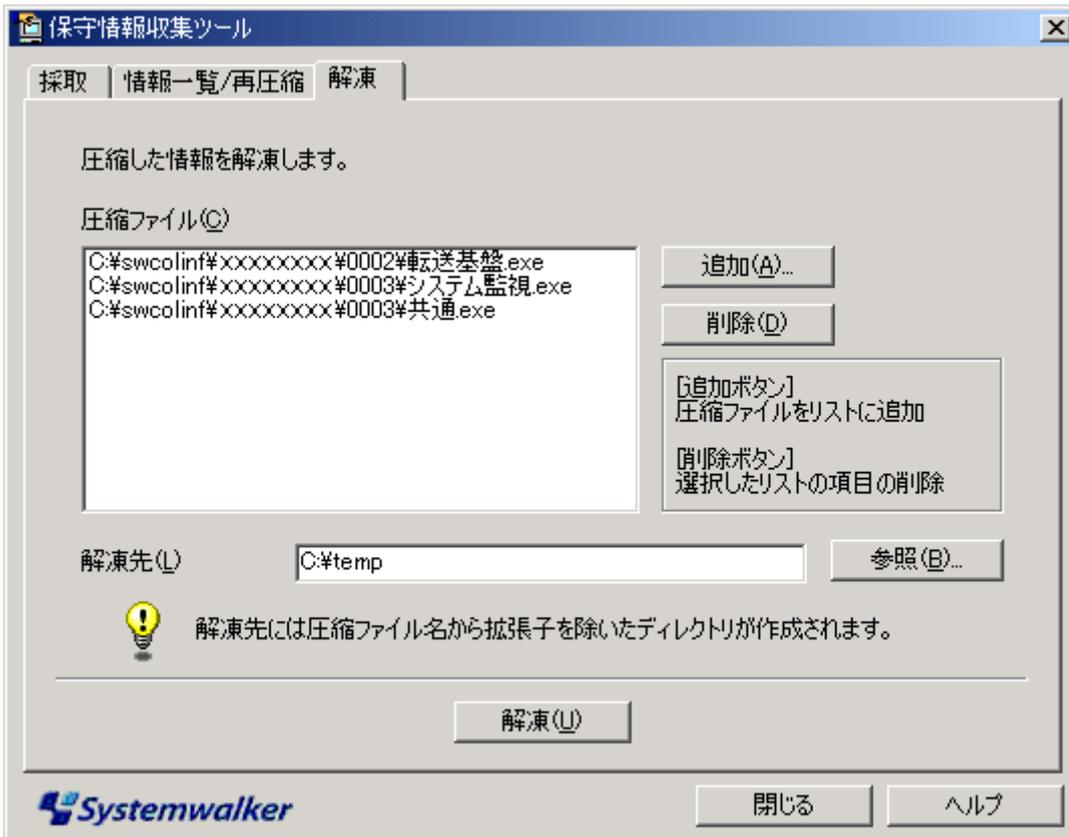


- 以下の項目を指定し、[実行]ボタンをクリックします。
 - [再圧縮先]**
再圧縮したファイルを格納するフォルダを指定します。
 - [ディレクトリ構成]**
再圧縮するフォルダを選択します。
 - [個別ファイル選択]**
再圧縮するファイル(調査に必要なファイル)を選択します。

解凍方法

- スタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[保守情報の収集]を選択します。
→[保守情報収集ツール]ダイアログボックスが表示されます。

2. [解凍]タブを選択します。



3. 解凍する圧縮ファイルを追加します。

[追加]

[追加]ボタンをクリックし、追加するファイルを選択します。

[削除]

削除するファイルを選択し、[削除]ボタンをクリックします。

4. [解凍先]に、解凍したファイルを格納するフォルダを指定します。

5. [解凍]ボタンをクリックします。

→ファイルが解凍されます。

6. [閉じる]ボタンをクリックします。

自動収集について

イベント監視やプロセス監視で、コマンドを発行する機能と連携して、以下に示す保守情報収集ツールのコマンドを設定し、トラブル発生時に自動的に調査資料が採取できるようになります。

詳細は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。

- Windows NT系

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpcmtool¥swcolinf¥swcolinf
```

- Windows 9X系

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpcmtool¥swcolinf¥swcolinf
```

注意事項

- Terminal Serverの場合

以下の場合、Windowsターミナルサービス経由でのリモート操作はサポートしていません。

- Systemwalker Centric Manager V13.2.0以前の場合

または、

- Systemwalker Centric Manager V13.3.0～V13.5.0Bの運用管理サーバ、かつV9.1.0以前のSymfoware Serverと共存している場合

上記条件で、ターミナルサービス(リモートデスクトップ)を使用している場合は、システムモードを“インストールモード”に切り替えてから、収集してください。

ただし、ターミナルサーバモードが“リモート管理モード”の場合は、システムモードの切替えは必要ありません。

- クラスタシステムの場合

クラスタシステムで運用している場合は、運用系、待機系の両方のノードで収集してください。また、収集時には、共有ディスクへのアクセスを取得してから、収集してください。

- 運用管理サーバ二重化の場合

主系サーバ、従系サーバの両方で収集してください。

- 保守情報の収集状況の確認、再圧縮について

保守情報の収集状況の確認、再圧縮を行う場合は、必ず資料を採取したツールと同じVLのツールを使用してください。

A.1.4 Solaris版 11.0以降/Linux版 V11.0L10以降/HP-UX版 11.0以降/AIX版 11.0以降の場合

ここでの記載内容は、Solaris版 11.0以降/Linux版 V11.0L10以降/HP-UX版 11.0以降/AIX版 11.0以降を対象にしています。

クライアントの場合は、“Windows版 V11.0L10以降からV13.5.0まで/Windows for Itanium版 V12.0L11以降からV13.4.0までの場合”を参照してください。

- [世代管理の設定](#)
- [保守情報の収集方法](#)
- [保守情報の収集状況の確認](#)
- [自動収集について](#)
- [注意事項](#)

世代管理の設定

保守情報の世代管理を行うことができます。初期値は3世代が設定されています。世代を変更する場合は、世代管理のコマンドを実行してください。

設定方法については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。

保守情報の収集方法

以下のコマンドを実行し、保守情報を収集します。

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

```
/opt/FJSVftlc/swcolinf/swcolinf [-i Name] -o OutPath [-c Comment]
```

→採取状況および格納先が表示されます。

```
# ./swcolinf -i framework -o /export/home  
Collecting TRACE information...  
Collecting FJSVfwbs information...
```

```
Collecting FJSVfwgui information...
Collecting FJSVfwsec information...
Collecting FJSVfwcrt information...
Collecting FJSVfwtrs information...
Collecting FJSVssc information...
Collecting COMMON information...
```

```
Systemwalker Centric Manager information has collected successfully.
Storage location: /export/home/CentricManager/0002
#
```



注意

資料が収集されなかった場合

収集できなかった資料と格納先が機能別に表示されます。その場合は、再度保守情報の収集を行ってください。

再度実行しても採取できない資料があった場合は、収集できなかった資料を格納先へコピーしてください。詳細は、“[保守情報を収集できなかった場合](#)”を参照してください。



ポイント

- ・ 保守情報収集(全項目)にかかる時間の目安は、以下のとおりです。
 - CPU: SPARC64(TM) GP 400MHz × 2
 - メモリ: 2048MB
 - 収集時間: 6分15秒

保守情報の収集状況の確認

以下のコマンドを実行し、保守情報の収集状況を確認します。

コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

```
/opt/FJSVftlc/swcolinf/swcolinf -l Outpath
```

[Outpath]

採取した資料の情報を表示する格納先ディレクトリを指定します。

【実行例】

保守情報の収集状況の実行例を示します。

```
*** Systemwalker Centric Manager Information ***
OUTPATH : /temp
FOLDER          DATE          FUNCTION  COMMENT
/temp/CentricManager/0001 2002/05/05 10:10:10 all      all
/temp/CentricManager/0002 2002/05/06 10:10:10 event, tool tool:error
```

自動収集について

イベント監視やプロセス監視で、コマンドを発行する機能と連携して保守情報収集ツールのコマンドを設定し、トラブル発生時に自動的に調査資料が採取できるようになります。

詳細は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。

注意事項

- ・ クラスタシステムの場合
クラスタシステムで運用している場合は、運用系、待機系の両方のノードで収集してください。また、収集時には、共有ディスクへのアクセスを取得してから収集してください。
- ・ 運用管理サーバ二重化の場合
主系サーバ、従系サーバの両方で収集してください。

A.1.5 Windows版V13.6.0以降の場合

ここでの記載内容は、Windows版V13.6.0以降を対象にしています。

- ・ [世代管理の設定](#)
- ・ [保守情報の収集方法](#)
- ・ [保守情報の解凍方法](#)
- ・ [自動収集について](#)
- ・ [注意事項](#)

世代管理の設定

保守情報の世代管理を行うことができます。初期値は3世代が設定されています。世代を変更する場合は、世代管理のコマンドを実行してください。

設定方法については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。コマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

保守情報の収集方法

以下に保守情報の収集ツールの操作手順を記述します。

1. [スタート]メニューから[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[保守情報の収集]、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[保守情報の収集 (Systemwalker Centric Manager)]を選択します。

→[保守情報収集ツール]ダイアログボックスが表示されます。



2. 以下の項目を指定し、[実行]ボタンをクリックします。

- [製品名]: “Systemwalker Centric Manager”を選択します。
- [保守情報格納先]: 収集した情報を格納する場所を指定します。

→実行を確認するダイアログボックスが表示されます。

ポイント

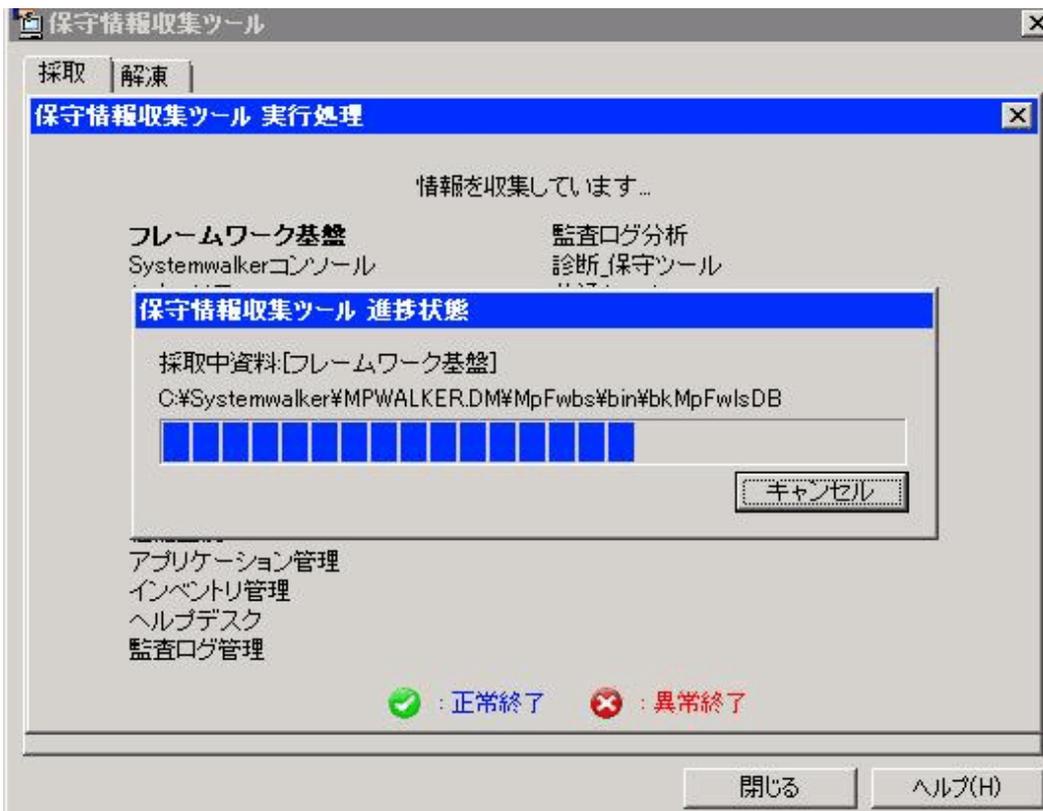
収集する機能を選択する場合

収集する機能を選択する場合は、[保守情報収集ツール]ダイアログボックスで、[機能選択]ボタンをクリックし、[保守情報収集ツール 機能選択]ダイアログボックスから、収集する機能を選択します。

ただし、原因究明のため、機能はすべて収集することを推奨します。

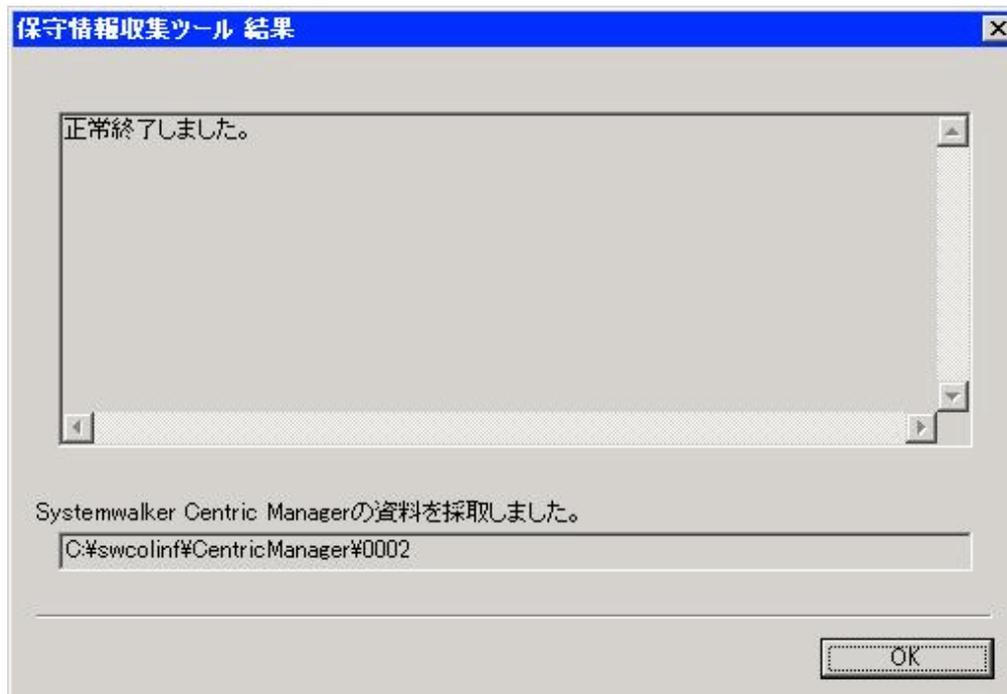
3. [OK]ボタンをクリックします。

→[保守情報収集ツール実行処理]メッセージボックスが表示されます。



4. [保守情報収集ツール結果]メッセージボックスが表示されます。

内容を確認し、[OK]ボタンをクリックしてください。



注意

資料が収集されなかった場合

収集できなかった資料と格納先が機能別に表示されます。その場合は、再度保守情報の収集を行ってください。

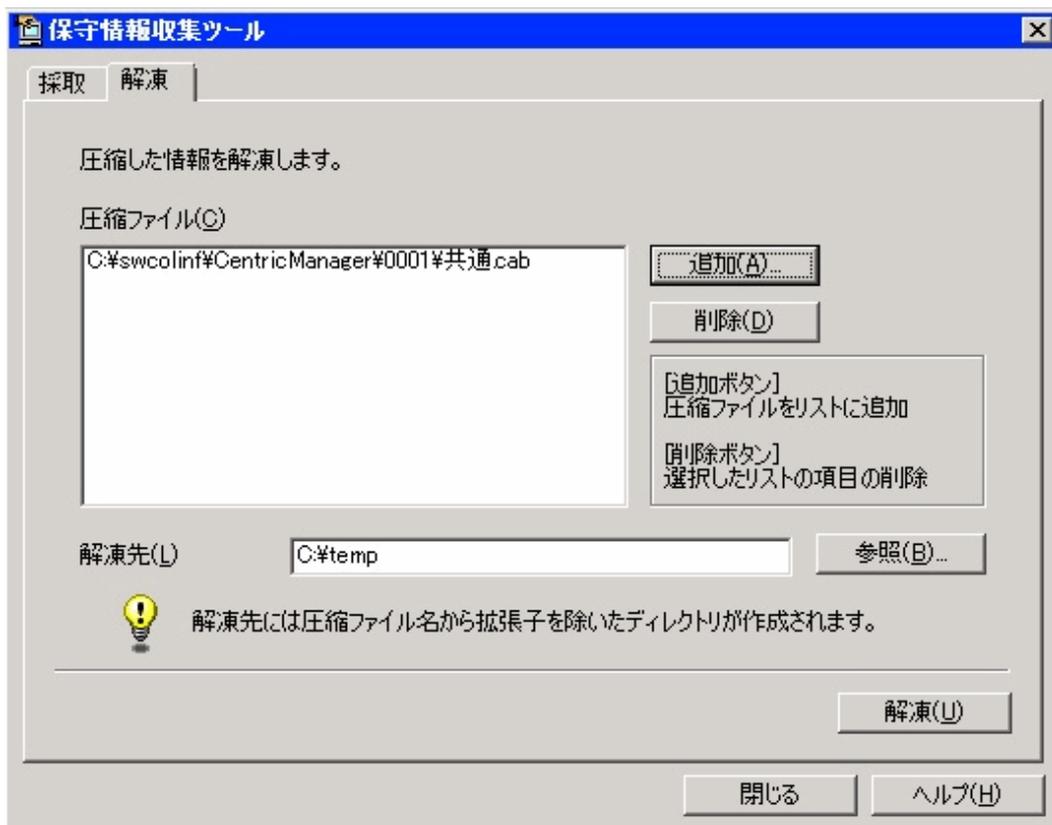
再度実行しても採取できない資料があった場合は、収集できなかった資料を格納先へコピーしてください。詳細は、“[保守情報を収集できなかった場合](#)”を参照してください。

ポイント

- 保守情報収集(全項目)にかかる時間の目安は、以下のとおりです。
 - CPU: Intel(R) Core(TM) i3 CPU 550 @ 3.20GHz 3.19GHz(2 プロセッサ)
 - メモリ: 1GB
 - 収集時間: 4分19秒
- 保守情報の収集をサイレントコマンドで実行する場合は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

保守情報の解凍方法

1. スタートメニューから[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[保守情報の収集]、または[アプリ]画面から[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[保守情報の収集 (Systemwalker Centric Manager)]を選択します。
→[保守情報収集ツール]ダイアログボックスが表示されます。



2. [解凍]タブを選択します。

3. 解凍する圧縮ファイルを追加します。

[追加]

[追加]ボタンをクリックし、追加するファイルを選択します。

[削除]

削除するファイルを選択し、[削除]ボタンをクリックします。

4. [解凍先]に、解凍したファイルを格納するフォルダを指定します。
5. [解凍]ボタンをクリックします。
→ファイルが解凍されます。
6. [閉じる]ボタンをクリックします。

自動収集について

イベント監視やプロセス監視で、コマンドを発行する機能と連携して、以下に示す保守情報収集ツールのコマンドを設定し、トラブル発生時に自動的に調査資料が採取できるようになります。

詳細は、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥mpcmtool¥swcolinf¥swcolinf
```

注意事項

- クラスタシステムの場合
クラスタシステムで運用している場合は、運用系、待機系の両方のノードで収集してください。また、収集時には、共有ディスクへのアクセスを取得してから、収集してください。
- 運用管理サーバ二重化の場合
主系サーバ、従系サーバの両方で収集してください。
- 保守情報の収集状況の確認、再圧縮について
保守情報の収集状況の確認、再圧縮を行う場合は、必ず資料を採取したツールと同じVLのツールを使用してください。

A.2 保守情報を収集できなかった場合

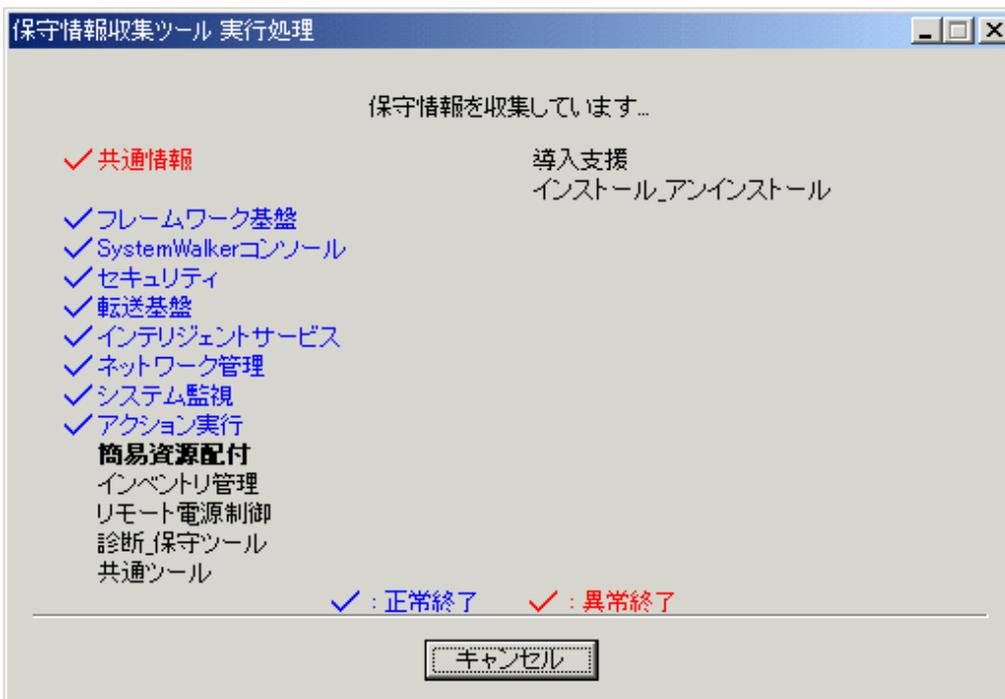
保守情報の収集に失敗した場合の結果表示と、その場合の対処方法を説明します。

A.2.1 Windows版 V10.0L20/V10.0L21の場合

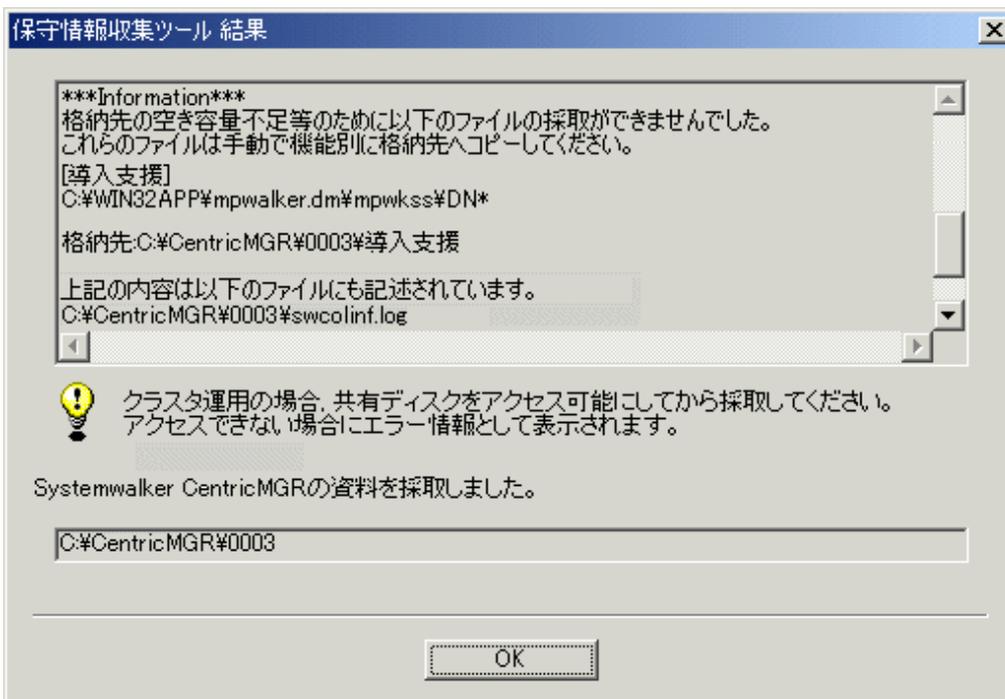
ここでの記載内容は、Windows版 V10.0L20/V10.0L21を対象にしています。

収集できなかった場合の結果

1. 収集に失敗した場合は、[保守情報収集ツール 実行処理]メッセージボックスで、異常終了を示す赤色のチェックが表示されます。



2. [保守情報収集ツール 結果]メッセージボックスで、異常終了した機能ごとに、テキストエリアに表示されます。



ポイント

保守情報収集の結果は、以下のログファイルにも同じ内容を記述しています。

情報格納先ディレクトリ¥CentricMGR¥世代番号¥swcolinf.log

対処方法

[保守情報収集ツール 結果]メッセージボックスに表示された各機能のファイルを、機能別の格納先へ、手動でコピーしてください。コピー後、格納先をまとめて圧縮してください。

ポイント

コピーするには、サービスを停止する必要はありません。

A.2.2 Solaris版 10.1の場合

ここでの記載内容は、Solaris版 10.1を対象としています。

クライアントの場合は、“[Windows版 V10.0L20/V10.0L21の場合](#)”を参照してください。

収集できなかった場合の結果

保守情報の収集に失敗した場合は、以下のように表示されます。

```
# ./swcolinf -i tool -o /export/home
Collecting TRACE information...
Collecting FJSVftlc information...
Collecting installer information...
Collecting COMMON information...

*** INFORMATION ***
Could not collect the following files due to errors such as out of space
Copy these files manually to an appropriate location for each function.

[FJSVftlc]
/etc/opt/FJSVftlc/trc/etc/f3cvgtad.ini

Storage location: /export/home/CentricMGR/0005/FJSVftlc

*The following file also has the above information.
/export/home/CentricMGR/0005/swcolinf.log

Systemwalker CentricMGR information has collected successfully
Storage location: /export/home/CentricMGR/0005
#
```

ポイント

画面に表示された結果は、以下のログファイルにも同じ内容を記述しています。

```
情報格納先ディレクトリ/CentricMGR/世代番号/swcolinf.log
```

対処方法

出力結果に表示された各機能のファイルを、機能別の格納先へ、手動でコピーしてください。コピー後、格納先をまとめて圧縮してください。

- 採取できなかった機能名は、[]で囲まれます。ファイルは、その下に表示されます。

[例]

```
[FJSVftlc]
/etc/opt/FJSVftlc/trc/etc/f3cvgtad.ini
```

- 格納先は、“Storage location: ”のあとに表示されます。

[例]

```
Storage location: /export/home/CentricMGR/0005/FJSVftlc
```

ポイント

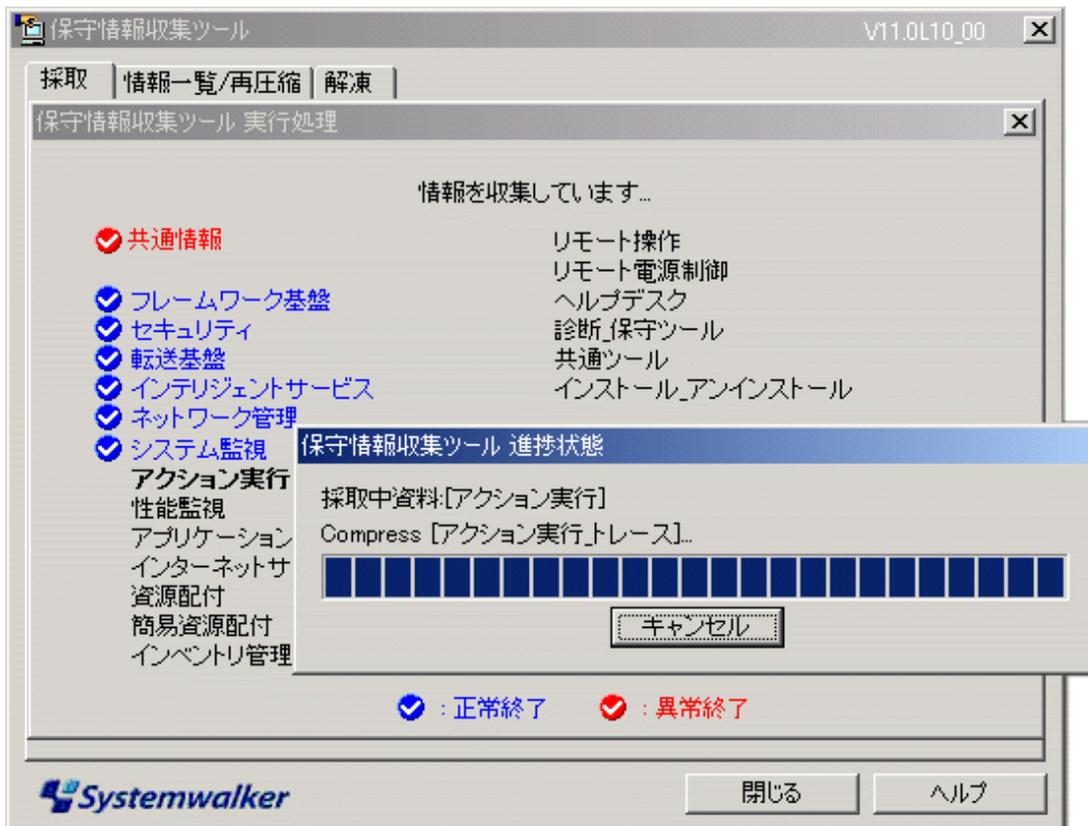
コピーするには、デーモンを停止する必要はありません。

A.2.3 Windows版 V11.0L10以降からV13.5.0まで/Windows for Itanium版 V12.0L11以降からV13.4.0までの場合

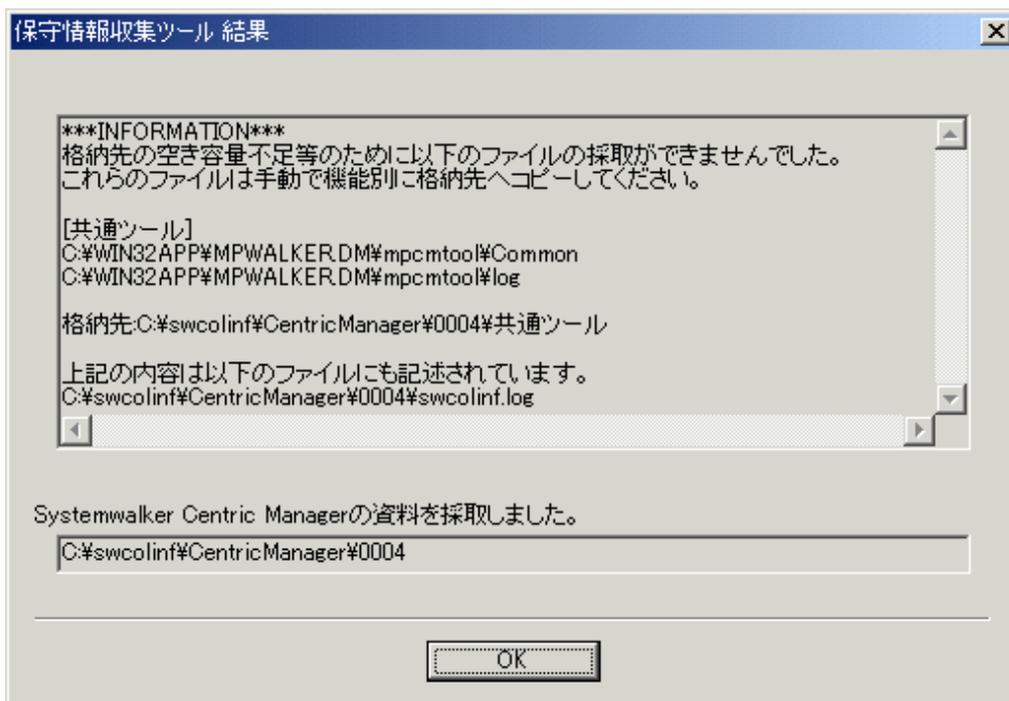
ここでの記載内容は、Windows版 V11.0L10以降/Windows for Itanium版 V12.0L11以降を対象にしています。

収集できなかった場合の結果

- 収集に失敗した場合は、[保守情報収集ツール 実行処理]メッセージボックスで、異常終了を示す赤色のチェックが表示されます。



2. [保守情報収集ツール 結果]メッセージボックスで、異常終了した機能ごとに、テキストエリアに表示されます。



ポイント

保守情報収集の結果は、以下のログファイルにも同じ内容を記述しています。

```
情報格納先ディレクトリ¥CentricManager¥世代番号¥swcolinf.log
```

対処方法

[保守情報収集ツール 結果]メッセージボックスに表示された各機能のファイルを、機能別の格納先へ、手動でコピーしてください。コピー後、格納先をまとめて圧縮してください。

ポイント

コピーする際には、サービスを停止する必要はありません。

A.2.4 Solaris版 11.0以降/Linux版 V11.0L10以降/HP-UX版 11.0以降/AIX版 11.0以降の場合

ここでの記載内容は、Solaris版 11.0以降/Linux版 V11.0L10以降/HP-UX版 11.0以降/AIX版 11.0以降を対象にしています。

クライアントの場合は、“Windows版 V11.0L10以降からV13.5.0まで/Windows for Itanium版 V12.0L11以降からV13.4.0までの場合”を参照してください。

収集できなかった場合の結果

Solaris版で、保守情報の収集に失敗した場合は、以下のように表示されます。

```
# ./swcolinf -i tool -o /export/home
Collecting TRACE information...
Collecting FJISVftlc information...
Collecting installer information...
```

Collecting COMMON information...

*** INFORMATION ***

Could not collect the following files due to errors such as out of space
Copy these files manually to an appropriate location for each function.

[FJSVftlc]

/etc/opt/FJSVftlc/trc/etc/f3cvgtad.ini

Storage location: /export/home/CentricManager/0005/FJSVftlc

*The following file also has the above information.

/export/home/CentricManager/0005/swcolinf.log

Systemwalker Centric Manager information has collected successfully

Storage location: /export/home/CentricManager/0005

#

ポイント

画面に表示された結果は、以下のログファイルにも同じ内容を記述しています。

情報格納先ディレクトリ/CentricManager/世代番号/swcolinf.log

対処方法

出力結果に表示された各機能のファイルを、機能別の格納先へ、手でコピーしてください。コピー後、格納先をまとめて圧縮してください。

- 採取できなかった機能名は、[]で囲まれます。ファイルは、その下に表示されます。

[例]

[FJSVftlc]
/etc/opt/FJSVftlc/trc/etc/f3cvgtad.ini

- 格納先は、“Storage location: ”のあとに表示されます。

[例]

Storage location: /export/home/CentricManager/0005/FJSVftlc

ポイント

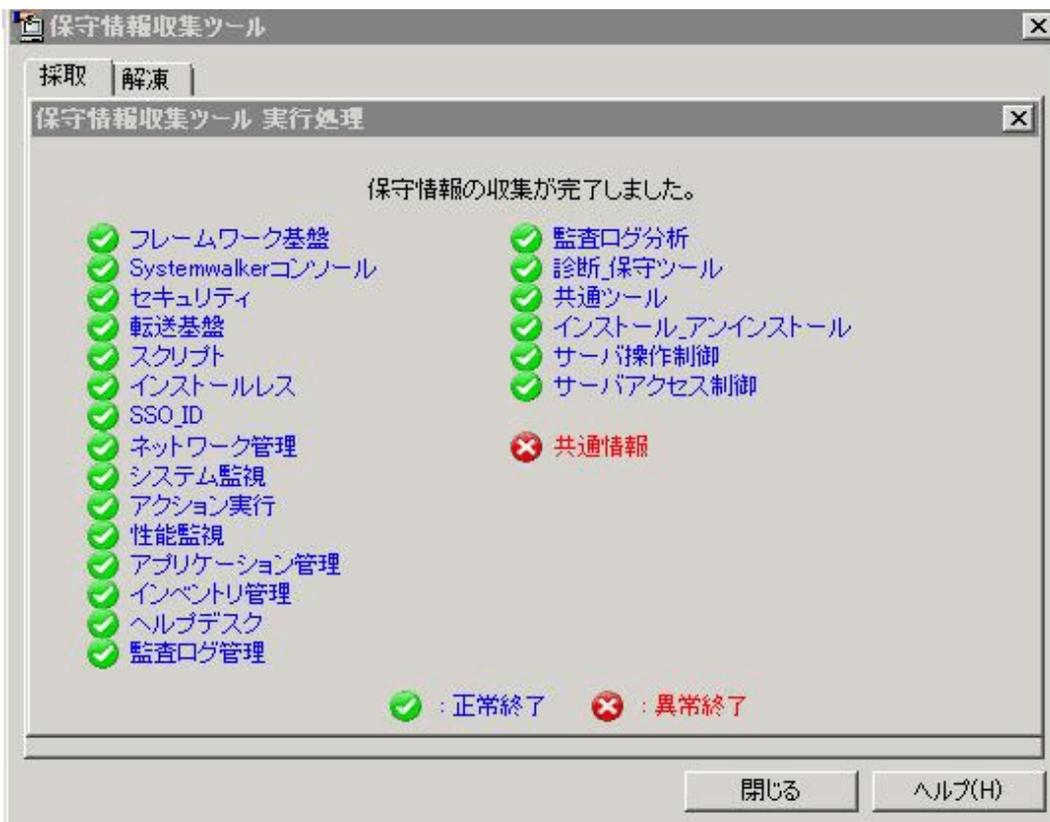
コピーする際には、デーモンを停止する必要はありません。

A.2.5 Windows版 V13.6.0以降の場合

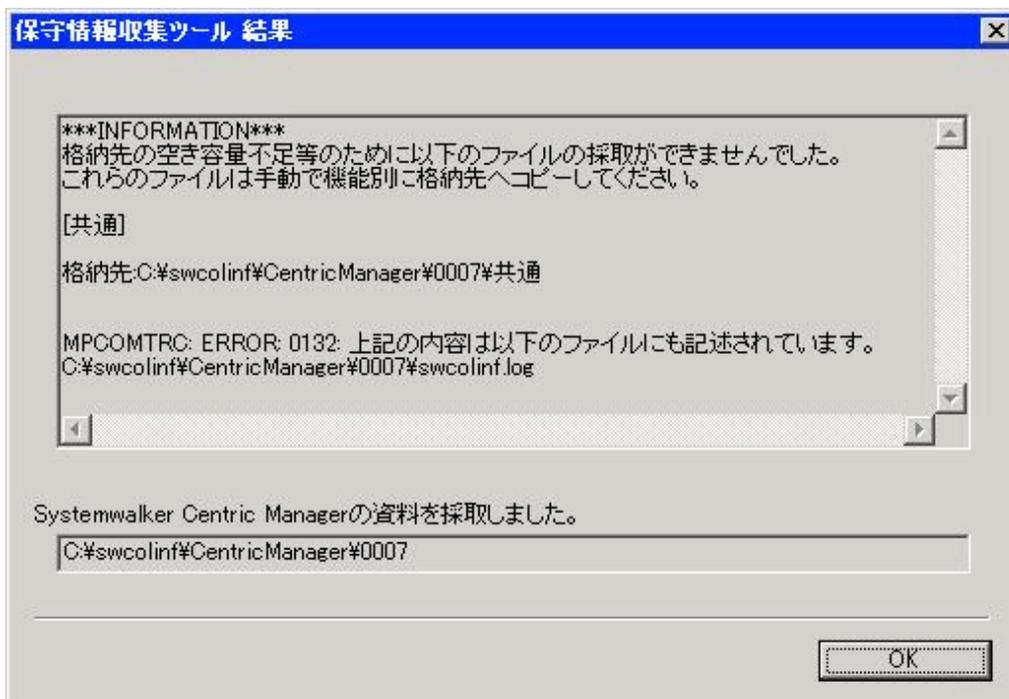
ここでの記載内容は、Windows版 V13.6.0以降を対象にしています。

収集できなかった場合の結果

1. 収集に失敗した場合は、[保守情報収集ツール実行処理]メッセージボックスで、異常終了を示す赤色のチェックが表示されます。



2. [保守情報収集ツール結果]メッセージボックスで、異常終了した機能ごとに、テキストエリアに表示されます。



ポイント

保守情報収集の結果は、以下のログファイルにも同じ内容を記述しています。

情報格納先ディレクトリ¥CentricManager¥世代番号¥swcolinf.log

対処方法

[保守情報収集ツール結果]メッセージボックスに表示された各機能のファイルを、機能別の格納先へ、手動でコピーしてください。コピー後、格納先をまとめて圧縮してください。

ポイント

コピーする際には、サービスを停止する必要はありません。

付録B ネットワーク関連のトラブル対処

ネットワーク関連のイベントが表示されない場合に使用するコマンド、および機能の使用方法について説明します。

ここでの記載内容は、V10.0L20/10.0L21/10.1以降を対象としています。

B.1 トラップログ参照コマンドの使用方法(イベント変換履歴出力)

トラップログ参照コマンドを使用し、イベント変換履歴を出力して、トラップをイベントに変換できているか確認します。

イベント変換履歴は、以下の3種類のトラップ別に表示し、それぞれを確認します。ここでは、それぞれのイベント変換履歴を参照し、確認する方法について説明します。

- トラップイベントトレースコマンドの場合
- 通常のトラップ(Coldstart)の場合
- 破棄されたトラップ(Coldstart)の場合

イベント変換履歴の出力方法

以下のコマンドを実行し、イベント変換履歴を出力します。

- [Windows版の場合]

```
mpttrapref -n -a IPアドレス [-s 開始時刻 -e 終了時刻]
```

- [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpttrapref -n -a IPアドレス [-s 開始時刻 -e 終了時刻]
```

[-a IPアドレス]

監視対象ノードのIPアドレスを指定します。省略すると、すべての受信トラップが出力されます。

[-s 開始時刻 -e 終了時刻]

受信した時刻の範囲を指定すると、表示する受信ログを絞込むことができます。

時刻は、YYYYMMDDHHMMSSの形式で指定します。(例:2002/04/05 19:00:00の場合、20020405190000)

→以下のように実行結果が表示されます。

```
-----
<変換前のトラップ>
Receive Time   : <SNMP-TRAP受信時刻>
Version        : <SNMP-TRAPバージョン>
Community      : <SNMPコミュニティ>
Enterprise     : <enterpriseSpecific>
AgentAddr      : <送信元アドレス> (<数値形式>)
Generic-Trap   : SNMP-TRAP種別
Specific-Trap  : <specificTrap>
Time-Stamp     : <タイムスタンプ>
Varbind (*1)   : <通番>
                NAME : <variable-bindings name>
                TYPE  : <variable-bindings type>
                VALUE : <variable-bindings value> [valueの16進ダンプ]
*1:複数 variable-bindings が設定されている場合、繰り返し表示される
-----
<変換後のイベント>
a) 監視対象のノードであり、出力できた場合

イベント変換時刻       : FWイベント形式
監視イベント種別       : ネットワーク|性能監視|アプリ連携
エージェントアドレス   : トラップ内の送信元IPアドレス
```

```
ホスト名          : 送信元ノードのホスト名
送信元IPアドレス  : トラップを実際に送信したノードのIPアドレス
変換メッセージ    : テキストメッセージ
```

b) 監視対象外のノードで破棄した場合

```
イベント変換時刻    : FWイベント形式
**** NOT Managed ****
エージェントアドレス : トラップ内の送信元IPアドレス
送信元IPアドレス   : トラップを実際に送信したノードのIPアドレス
-----
```

上部は、変換前のトラップを表示し、下部は、変換されたあとのイベントを表示しています。

トラップイベントトレースコマンドの場合

以下のトラップイベントトレースコマンドを使用した場合の、イベント変換履歴の確認方法を示します。

・ [Windows版の場合]

```
mptrptrc -a 監視対象のIPアドレス
```

・ [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptrptrc -a 監視対象のIPアドレス
```

【出力例】

トラップログ参照コマンドを使用した、トラップイベントトレースコマンドのイベント変換履歴の出力例を以下に示します。以下の例では、10.10.10.10から送信されたイベント変換履歴だけを表示しています。

・ [Windows版の場合]

```
mptrpref -n -a 10.10.10.10
```

・ [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptrpref -n -a 10.10.10.10
```

→以下のように結果が出力されます。

(例は、Solaris版です。Windows版は、変換メッセージの先頭の文字列が“UX:”から“AP:”に変わります)

```
-----
Receive Time : Fri Apr  5 19:35:26 JST 2002
Version      : 0
Community    : public
Enterprise   : aplNetMpCNTrapTrc
AgentAddr    : 10.10.10.10 (168430090)
Generic-Trap : 6
Specific-Trap : 0
Time-Stamp   : 0
Varbind      : 1
              NAME : cnappl.5.1.1
              TYPE  : OCTET_STRING(2)
              VALUE : TRAP-EVENT-TRACE [54 52 41 50 2d 45 56 45 4e 54 2d 54 52 41 43 45 ]
-----
```

```
イベント変換時刻    : 20020405193527.047599+540
監視イベント種別    : ネットワーク
エージェントアドレス : 10.10.10.10
ホスト名            : kikuna
送信元IPアドレス    : 10.10.10.10
変換メッセージ      : UX:MpCNappl: ERROR: 106: ネットワークで事象が発生しました.
                    (TRAP agent: 10.10.10.10 community:public generic:6 enterprise: aplNetMpCNTrapTrc
```

```
specific:0 timestamp:0 varbind: (cnappl.5.1.1 [2 16 0] TRAP-EVENT-TRACE)
```

- イベント変換時刻
イベントに変換した時刻。
- 変換メッセージ
トラップの内容別に用意しているメッセージテキストに変換します。
また、メッセージテキストの、“TRAP”以降は、受信したトラップの各値をテキストに変換して出力します。
Windows版は、先頭の文字列が“UX:”から“AP:”に変わります。
- 監視イベント種別
トラップの内容に応じて監視イベント種別、ネットワーク、性能監視、およびアプリケーション連携などがあります。
- エージェントアドレス
トラップ上の送信元ノードのIPアドレス。
- ホスト名
Systemwalker Centric Managerの構成情報で定義している、トラップの送信元ノードのホスト名。
- 送信元IPアドレス
実際にトラップを送信したノードのIPアドレス。

【確認ポイント】

- “Enterprise”の値が、“aplNetMpCNTrapTrc”のとき、トラップイベントトレースコマンドのトラップであり、変換メッセージ内の“enterprise:”に同じ値が表示されているか確認します。
- “AgentAddr”がトラップを送信したノードのIPアドレスとなり、変換後のIPアドレスと同じ値が表示されているか確認します。

通常のトラップ(Coldstart)の場合

SNMPエージェントの再起動で表示する通常のトラップ(Coldstart)のイベント変換履歴の出力例を以下に示します。

通常のトラップ(Coldstart)の送信については、“[SNMPエージェントからトラップを送信する](#)”を参照してください。

以下の例では、2002/04/05の19:00:00から20:00:00までの間に、10.10.10.10から受信したイベント変換履歴を表示します。

- [Windows版の場合]

```
mptpref -n -a 10.10.10.10 -s 20020405190000 -e 20020405200000
```

- [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptpref -n -a 10.10.10.10 -s 20020405190000 -e 20020405200000
```

→以下のように結果が出力されます。

(例は、Solaris版です。Windows版は、変換メッセージの先頭の文字列が“UX:”から“AP:”に変わります)

```
-----  
Receive Time : Fri Apr 5 19:35:26 JST 2002  
Version      : 0  
Community    : public  
Enterprise   : enterprises  
AgentAddr    : 10.10.10.10 (168430090)  
Generic-Trap : 0  
Specific-Trap : 0  
Time-Stamp   : 0  
-----  
イベント変換時刻      : 20020405193527.047599+540  
変換メッセージ      : UX:MpCNappl: ERROR: 100: ネットワークで“ColdStart”が発生しました。  
                    (TRAP agent:10.10.10.10 community:public generic:0 enterprise:enterprises specific:0  
timestamp:0 varbind:-)  
監視イベント種別    : ネットワーク  
エージェントアドレス : 10.10.10.10
```

```
ホスト名          : kikuna
送信元IPアドレス : 10.10.10.10
```

【確認ポイント】

Coldstartのトラップの場合は、Generic-Trapが0となり、メッセージテキストで、“Coldstart”の発生を示すものに変換されていることを確認する。

破棄されたトラップ(Coldstart)の場合

破棄されたトラップ(Coldstart)のイベント変換履歴の出力例を以下に示します。

以下の例では、10.10.10.10から送信されたイベント変換履歴を表示しています。

- **[Windows版の場合]**

```
mptpref -n -a 10.10.10.10
```

- **[Solaris版の場合]**

```
/opt/systemwalker/bin/mptpref -n -a 10.10.10.10
```

→以下のように結果が出力されます。

```
-----
Receive Time  : Fri Apr  5 19:35:26 JST 2002
Version       : 0
Community     : public
Enterprise    : enterprises
AgentAddr     : 10.10.10.10 (168430090)
Generic-Trap  : 0
Specific-Trap: 0
Time-Stamp    : 0
-----

イベント変換時刻      : 20020405193527.047599+540
**** NOT Managed ****
エージェントアドレス  : 10.10.10.10
送信元IPアドレス     : 10.10.10.10
-----
```

【確認ポイント】

変換されたイベントが“NOT Managed”と表示された場合は、被監視ノードが管理サーバの対象外となっています。“[監視対象外として破棄した場合の確認手順](#)”を参照し、問題点を確認してください。

B.2 トラップログ参照コマンドの使用法(トラップ受信ログ)

トラップログ参照コマンドは、管理サーバで、トラップが受信できているかを調べるための受信ログを表示します。

トラップログ参照コマンドの使用法を説明します。

使用方法

以下のコマンドを実行します。

- **[Windows版の場合]**

```
mptpref -r [-a IPアドレス] [-s 開始時刻 -e 終了時刻]
```

- **[Solaris版の場合]**

```
/opt/systemwalker/bin/mptpref -r [-a IPアドレス] [-s 開始時刻 -e 終了時刻]
```

[-a IPアドレス]

監視対象ノードのIPアドレスを指定します。省略すると、すべての受信トラップが出力されます。

[-s 開始時刻 -e 終了時刻]

受信した時刻の範囲を指定すると、表示する受信ログを絞り込むことができます。

時刻は、YYYYMMDDHHMMSSの形式で指定します。(例:2002/04/05 19:00:00の場合、20020405190000)

→以下の実行結果のフォーマットが表示されます。

Receive Time	: <SNMP-TRAP受信時刻>
Version	: <SNMP-TRAPバージョン>
Community	: <SNMPコミュニティ>
Enterprise	: <enterpriseSpecific>
AgentAddr	: <送信元アドレス> (<数値形式>)
Generic-Trap	: SNMP-TRAP種別
Specific-Trap	: <specificTrap>
Time-Stamp	: <タイムスタンプ>
Varbind (*1)	: <通番>
NAME	: <variable-bindings name>
TYPE	: <variable-bindings type>
VALUE	: <variable-bindings value> [valueの16進ダンプ]

*1:複数 variable-bindings が設定されている場合、繰り返し表示される

ポイント

トラップ種別 (Generic-Trap) について

Generic-Trapに表示される値を、以下に示します。

- 0 : coldStart
- 1 : warmStart
- 2 : linkDown
- 3 : linkup
- 4 : authenticationFailure
- 5 : egpNeighborLoss
- 6 : enterpriseSpecific

【実行例】

実行結果の表示例を以下に示します。

以下の例では、10.10.10.10から送信されたトラップの変換履歴だけを表示しています。

- **[Windows版の場合]**

```
mptmpref -r -a 10.10.10.10
```

- **[Solaris版の場合]**

```
/opt/systemwalker/bin/mptmpref -n -a 10.10.10.10
```

→以下のように結果が出力されます。

```
Receive Time : Fri Apr 5 15:12:54 JST 2002
Version      : 0
Community    : public
```

```
Enterprise : apINetMpcNTrapTrc
AgentAddr  : 10.10.10.10 (168430090)
Generic-Trap : 6
Specific-Trap : 0
Time-Stamp : 0
Varbind    : 1
            NAME : cnappl.5.5.1
            TYPE : OCTET_STRING(2)
            VALUE : TRAP-EVENT-TRACE [54 52 41 50 2d 45 56 45 4e 54 2d 54 52 41 43 45 ]
```

【確認ポイント】

テスト用トラップ通知コマンドを実行したノード(AgentAddr)のトラップを受信した時刻(Receive Time)でテスト用トラップデータを受信しているか、具体的には、VarbindのVALUEに“TRAP-EVENT-TRACE”の文字列があるかどうかで判断します。

通常のトラップ(Linkdown)の場合

以下の例では、2002/04/05 15:00:00から16:00:00までの間に、10.10.10.10から送信されたトラップの受信履歴を表示しています。

- [Windows版の場合]

```
mptpref -n -a 10.10.10.10
```

- [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mptpref -n -a 10.10.10.10
```

→以下のように結果が出力されます。

```
Receive Time : Fri Apr 5 15:12:54 JST 2002
Version      : 0
Community    : public
Enterprise   : enterprises.211.4.19.3
AgentAddr    : 10.10.10.10 (168430090)
Generic-Trap : 2
Specific-Trap : 0
Time-Stamp   : 0
Varbind      : 1
            NAME : enterprises.211.4.25.4.1.0
            TYPE : INTEGER(1)
            VALUE : 2
```

【確認ポイント】

- トラップ通知する被監視ノード(AgentAddr)のIPアドレスが正しいか確認します
- トラップ種別(Generic-Trap)が正しいか確認します。
上記の例では、2であり、“LinkDown”を示している。
- トラップを発行させた、時刻を参照し、トラップを受信した時刻(Receive Time)から、トラップデータを受信しているかを確認します。なお、トラップを受信した時刻と、トラップを発行させた時刻の誤差は数秒以内です。

B.3 監視対象外として破棄した場合の確認手順

B.3.1 被監視ノードは監視マップ上に存在しているか

[Systemwalkerコンソール システム監視]の場合

1. [ノード]メニューから[ノードの検索]を選択します。
→[ノード検索]ダイアログボックスが表示されます。

2. イベントが発生する予定のノードを検索し、監視ツリー内に所属しているか確認します。

注意

ノードの場合、ドメイン名付きのホスト名と、ドメイン名なしのホスト名は、別のノードと認識されます。

3. ノードが見つからない場合、監視ツリーに、[ノード]メニューから[ノードの作成]でノードを追加し、再度トラップイベントトレースコマンドを実行して確認します。

[Systemwalkerコンソール 業務監視] (V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール(V11.0L10/11.0以降)の場合

1. [オブジェクト]メニューから[検索]を選択します。
→[オブジェクト検索]ダイアログボックスが表示されます。
2. イベントが発生する予定のオブジェクトを検索し、監視ツリー内に所属しているか確認します。

注意

ノードの場合、ドメイン名付きのホスト名と、ドメイン名なしのホスト名は、別のノードと認識されます。

3. ノードが見つからない場合、監視ツリーに、[オブジェクト]メニューから[ノードの作成]でノードを追加し、再度トラップイベントトレースコマンドを実行して確認します。

B.3.2 被監視ノードは、トラップの送信先を所属する管理サーバとしているか

[Systemwalkerコンソール システム監視/業務監視] (V10.0L21/10.1以前)またはSystemwalkerコンソール (V11.0L10/11.0以降)

1. ノード一覧ツリーで、ノードが所属しているサブネットの部門フォルダを選択し、[オブジェクト]メニューから[プロパティ](システム監視の場合は、[フォルダ]メニューから[フォルダのプロパティ])を選択します。
→[フォルダプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [サブドメイン]タブを選択し、表示される部門管理サーバが、トラップイベントトレースコマンドを実行したときに指定した管理サーバであるかを確認します。
3. 異なる部門管理サーバであれば、SNMPエージェントのトラップ送信先を変更してください。

B.3.3 監視マップの編集後、構成情報の同期がとれているか

Systemwalker Centric Managerでは、内部的にすべての管理サーバ(運用管理サーバ、部門管理サーバ)間で、監視マップの構成情報更新を一定間隔(デフォルトは1時間)で同期しています。監視マップの編集で、ノードの追加やIPアドレス、ホスト名などの変更、削除を実施した場合に、すぐに反映するには、運用管理サーバ上で以下のコマンドを実行してください。

- [Windows版V10.0L21以前の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpFwbs¥bin¥mpdrpspm -a
```

- [Windows版V11.0L10以降の場合]

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥MpNetmgr¥bin¥mpdrpspm -a
```

- [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

- [Linux版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mpdrpspa.sh all
```

B.4 被監視ノードからSNMPトラップを送信する

各被監視ノード上で、動作するSNMPエージェントを再起動（機器のリセット、または電源再投入）し、Coldstartのトラップを送信します。

確認方法

Systemwalkerコンソールのイベント一覧に、以下のイベントが出力されることを確認してください。

```
MpCNappl: ERROR: 100: ネットワークで“ColdStart”が発生しました。
```

なお、イベント監視においてSystemwalkerテンプレートを適用している場合、ColdStartのSNMPトラップはSystemwalkerコンソールのイベント一覧には表示されません(V15.0.0以降)。

以下の手順でメッセージを検索し、ColdStartのSNMPトラップを受信していることを確認してください。

1. Systemwalkerコンソールの、[検索]-[メッセージの検索]メニューから[全ノード]を選択します。
SNMPトラップ発行元のノードが明確な場合は、事前にSystemwalkerコンソール上でノードを指定し、メニューの[指定ノード]を選択することもできます。
2. [条件指定(メッセージ検索)]画面で、SNMPトラップを受信した時刻が範囲に入るよう検索日時を指定します。
その他の項目はデフォルトで構いません。
3. [実行]ボタンをクリックします。

B.4.1 SNMPエージェントを再起動するときの注意事項

各被監視ノード上で、動作するSNMPエージェントを再起動（機器のリセット、または電源再投入）し、Coldstartのトラップを送信する場合、Systemwalker Centric Managerの運用上、SNMPエージェントが起動されるまで、以下の影響があります。

SNMPエージェントの再起動

- ・ ノード状態の表示、稼働状態の監視で、水色（SNMPエージェント未起動）になる場合があります。（SNMPエージェントが起動するとアイコン表示色が変わります。）
- ・ MIB取得に失敗する場合があります。SNMPエージェント起動後、MIB取得を実施してください。
- ・ 性能監視のネットワーク性能で、収集タイムアウトのイベントが発生し、ポーリング1回分のデータが収集不可になります。（次のポーリングで復旧します）

機器のリセットまたは電源再投入

- ・ ノード状態の監視、稼働状態の監視で、“ノードとの通信が不可となる”イベントが出力される場合があります。
- ・ ノード状態の表示、稼働状態の監視で、黄色（未起動）、または水色（SNMPエージェント未起動）になる場合があります。
- ・ MIB取得に失敗する可能性があります。
- ・ 性能監視のネットワーク性能で、収集タイムアウトのイベントが発生し、ポーリング1回分のデータが収集不可になります。（次のポーリングで復旧します）

B.4.2 SNMPエージェントからトラップを送信する

SNMPエージェントを再起動することで、SNMPエージェントが起動したことを示すトラップ（Coldstart）が送信されます。



トラップの送信先は、SNMPエージェントで設定しているため、宛先のIPアドレスに誤りがないか、事前に確認してください。

SNMPエージェントの停止

以下のコマンドを実行します。

【Windows版】

```
net stop snmp
```

【Solaris版】

```
# sh /etc/rc3.d/S76snmpdx stop
```

【Linux版】

- Red Hat Enterprise Linux 6以前の場合

```
# /etc/init.d/snmpd stop
```

- Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合

```
# systemctl stop snmpd
```

SNMPエージェントの起動

以下のコマンドを実行します。

【Windows版】

```
net start snmp
```

【Solaris版】

```
# sh /etc/rc3.d/S76snmpdx start
```

【Linux版】

- Red Hat Enterprise Linux 6以前の場合

```
# /etc/init.d/snmpd start
```

- Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合

```
# systemctl start snmpd
```

B.4.3 ネットワーク機器からトラップを送信する

ネットワーク機器自体を再起動することで、SNMPエージェントが起動したことを示すトラップ (Coldstart) が送信されます。



トラップの送信先は、SNMPエージェントで設定しています。宛先のIPアドレスは、事前に確認してください。

B.5 各運用形態の場合

運用管理サーバ/部門管理サーバクラスシステム、運用管理サーバ二重化、全体監視サーバ、DMZなどの構成を利用している場合のトラップイベントトレースコマンドの実行場所を、以下の表に示します。そのほかの構成では、各サーバ上でコマンドを実行してください。

運用形態	トラップイベントトレースコマンド実行対象	コマンドの実行場所	備考
運用管理サーバ クラスシステム	運用管理サーバ	運用系	管理サーバ以外から mptprtcコマンドを実行

運用形態	トラップイベントトレースコマンド実行対象	コマンドの実行場所	備考
			する場合、-dには、CentricMGRの論理IPアドレスを追加してください。
部門管理サーバ クラスタシステム	部門管理サーバ	運用系	管理サーバ以外からmptprtrcコマンドを実行する場合、-dには、Systemwalker Centric Managerの論理IPアドレスを追加してください。
業務サーバ クラスタシステム	業務サーバ	運用系、待機系の両方	
運用管理サーバ 二重化 連携型	運用管理サーバ	各運用管理サーバ	
運用管理サーバ 二重化 独立型	運用管理サーバ	各運用管理サーバ	
全体監視サーバ 専用線型	全体監視サーバ	全体監視サーバ	
全体監視サーバ インターネット型	全体監視サーバ	×	トラップの通知はサポート外
DMZ	業務サーバ	×	通常SNMPはフィルタリングしているためトラップ通知は不可

付録C プロセス動作状況の確認方法

ここでは、プロセス動作状況の確認方法の詳細について説明します。
ここでの記載内容は、V10.0L20/10.0L21/10.1以降を対象としています。

C.1 プロセス動作状況の確認

プロセス動作状況を確認する場合は、プロセス動作状況を確認するサーバ上で、以下のコマンドを実行します。
正常にSystemwalker Centric Managerのプロセスが起動していない場合、以下のように表示されます。

```
** パッケージ名 **  
>>>>> ERROR:Process NOT Found!! : 監視対象プロセス名
```

- [Windows版の場合]

```
mppviewc
```

- [Solaris版の場合]

```
/opt/systemwalker/bin/mppviewc
```

→以下のような実行結果が表示されます。

```
##### PROCESS INFORMATION BEGIN #####  
  
*****  
**機能区分略称:   機能名                               **  
*****  
** パッケージ名 **  
監視対象プロセス名                                PID    RUNNING-TIME  
  
##### PROCESS INFORMATION END #####
```

機能区分略称などは、“[機能区分/プロセス名対応一覧](#)”を参照してください。

PID、RUNNING-TIMEの説明は、それぞれ以下に示します。

[PID]

プロセスのプロセスID

[RUNNING-TIME]

プロセスの累積実行時間 (Solaris版の場合)

Windows版の実行例

運用管理サーバで、プロセス動作状況の表示コマンドを実行した実行例を以下に示します。

```
##### PROCESS INFORMATION BEGIN #####  
** Systemwalker Centric Manager **  
PROCESS-NAME                                PID  
  
*****  
** BASE: Security                               **  
*****  
** Systemwalker ACL Manager **  
f3crssvr.exe                                516  
** FUJITSU PCMI (isje6-STFDMJAVAEE) **  
Java EE 6                                    0
```

```

** Systemwalker MpShrsv **
  mpsrsv.exe                1292
*****
** FS1: Framework          **
*****
** Systemwalker MpFwbs **
  MpFwbscl.exe              2656
  MpFwems.exe                2772
  MpFwems.exe                2780
  MpFwems.exe                2796
  MpFwems.exe                2804
  :
  ~~中略~~
  :
** Systemwalker MpDTPServer **
  CMPSEV.EXE                 1044
  CMPDEMON.EXE               1076
** Systemwalker MpDTPReceiver **
  CMPRSERV.EXE               1008
  CMPRDMN.EXE                1052
*****
** FR: LiveHelp            **
*****
** LiveHelp Remote Access Service **
  LH092165.EXE               4544
** LiveHelp Connection Manager Service **
  lhprocessmonitor.exe       744
##### PROCESS INFORMATION END #####

```

Solaris版の実行例

運用管理サーバで、プロセス動作状況の表示コマンドを実行した実行例を以下に示します。

```

##### PROCESS INFORMATION BEGIN #####
** Package Name **
PROCESS-NAME                PID      RUNNING-TIME

*****
** BASE: Security          **
*****
** FJSVfwsec **
  MpFwsec                    8056    0:00
** FJSVftlc **
  >>>> ERROR:Process NOT Found!! : mpsrsv.exe
*****
** FS1: Framework          **
*****
** FJSVfwbs **
  MpFwams                    8398    0:02
  MpFwcm                      8513    0:02
  MpFwemsd                    8359    9:26
  MpFwems                      8342    0:00
  MpFwems                      8345    0:01
  :
  ~~中略~~
  :
** FJSVsagt **
  opasyslog                   182     0:00
  mpstartsv                   183     0:00
*****
** FD: SoftDelivery        **
*****

```

```

** FJSVmpsdI **
drmsdemon                9866    0:02
** FJSVsivmg **
cmprdmn                  9986    0:00
cmpdaemon                 9985    0:00
** FJSVsmtmg **
strserv                   10043   0:00
java                     10047   1:06
##### PROCESS INFORMATION END #####

```

C.2 機能区分/プロセス名対応一覧

Systemwalker Centric Managerの機能区分/プロセス名対応一覧を記述します。

C.2.1 Windows版 V10.0L20/V10.0L21の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V10.0L20/V10.0L21での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管 理サーバ	業務 サーバ	ヘルプデス クサーバ	Event Agent
B A SE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○	○	○
	共通振分け サーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○	○
FS 1	フレームワーク 基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-	-	-
			EMSMc_Start.exe	○*1	-	-	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-	-	-
			odstart.exe	○	-	-	-	-
			RDBsystem	○	-	-	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-	-	-
	インテリジェント サービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○	-	○
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-	-	-
			MpPolSendMgr.exe	○	-	-	-	-

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管 理サー バ	業務 サー バ	ヘルプデス クサーバ	Event Agent
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○	-	○
			java.exe	○*4	○	○	-	○
			MpPolRecv3.exe		○	○	-	-
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○	-	○
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	○*5	○
			f3crhds.exe	○	○	○	○*5	○
			f3crhxs.exe	○	○	○	○*5	○
		Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○	○*5	○
		Systemwalker MpAosfX	f3crhxs2.exe	○	○	○	○*6	○
	FS 2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○	-
システム監視 GUI Webコンソ ール 業務監視GUI	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	-	-	
		F1EVW3IS.exe	○	-	-	-	-	
		MpBcmsv.exe	○	-	-	-	-	
		mpbcmunsvr.exe	○	-	-	-	-	
		F1EVW3IS.exe	○	-	-	-	-	
		f1evserv.exe	○	-	-	-	-	
		F1EVSVC.exe	○	-	-	-	-	
flegopcd.exe	○	-	-	-	-			
FS 3	アプリケーション 管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe APA_ISSV.exe	○ ○	○ -	○ -	- -	- -
	アプリケーション 配付	Systemwalker MpDpmc	MpDpmc.exe	○	-	-	-	-
		Systemwalker MpDpsv	MpDpsv.exe	○	-	-	-	-
	インターネット サーバ管理	Systemwalker MpNsMgr	mpismgrs.exe	○	-	-	-	-
			mpismgr.exe	○	-	-	-	-
		Systemwalker MpNsAgt	MpNsAgtMain.exe	○	○	○	-	-
Systemwalker MpNsAgtFw	MpNsAgtFw.exe	○	○	-	-	-		
FS 4	ネットワーク管 理	Systemwalker MpWksttr	nwtdsch.exe	○	○	-	-	-
		Systemwalker MpNsmgr	MpNmsv.exe	○	-	-	-	-
			MpNmex.exe	○	-	-	-	-
			MpNmdisc.exe	○	○	-	-	-

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管 理サー バ	業務 サー バ	ヘルプデス クサーバ	Event Agent		
			MpNmnode.exe	○	○	-	-	-		
			MpNmhost.exe	○	○	-	-	-		
			MpNmmib.exe	○	○	-	-	-		
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-	-	-		
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	MpTrfMgr	mptfrmgr.exe	○*7	-	-	-	-	
				Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○	-	-	-	-
					Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○	○	-	-
				trfCTman.exe		○	○	-	-	-
				Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○	-	-
					mptrfexa.exe	○	○	○	-	-
FS 5	リカバリフロー	Systemwalker MpRmi	rmregistry.exe	○	-	-	-	-		
			Systemwalker MpRfm	rfmmanager.exe	○	-	-	-	-	
				rfmagent.exe	○	-	-	-	-	
FS 6	導入支援	Systemwalker MpWkss	fjsssock.exe	○	-	-	-	-		
F D	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○	-	-		
			Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○	-	-	
				drmsfcln.exe	-	-	-	○	-	
	インベントリ管 理	Systemwalker MpDTPServer	MpDTPServer	CMPSErv.EXE	○	-	-	-	-	
				CMPEMON.EXE	○	-	-	-	-	
				Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-	-	-
					CMPRDMN.EXE	○	-	-	-	-
	メータリング	Systemwalker MpMTServer	MpMTServer	mtserv.exe	○	○	○	-	-	
				javaw.exe	○	○	○	-	-	
		Systemwalker MpMTClient	mtstarts.exe	○	○	○	-	-		
F R	リモート操作	LiveHelp Client Service	LH081550.exe	○*8	○*8	○ *8	○*8	-		
		LiveHelp Remote Access Service	LH092165.EXE	○*9	○*9	○ *9	○*9	-		

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent
		LiveHelp Connection Manager Service	lhprocessmonitor.exe	○*10	-	-	-	-

○:存在する機能、
-:存在しない機能

- *1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時
- *2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどちらかが有効な時
- *3:EE版で起動
- *4:全体監視の場合起動
- *5:NT系でイベント監視がインストールされた場合
- *6:アクション実行がインストールされた場合
- *7:Web連携使用時に自動起動に変更したとき
- *8:リモート操作Clientインストール時に起動
- *9:リモート操作Client/Expertインストール時に起動
- *10:リモート操作CMインストール時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- ・ BASE: 認証、通信基盤
- ・ FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- ・ FS2: 監視機能2(システム監視/業務監視)
- ・ FS3: 監視機能3(アプリケーション管理/インターネットサーバ管理)
- ・ FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- ・ FS5: 監視機能5(リカバリフロー)
- ・ FS6: 監視機能6(導入支援)
- ・ FD: 資源配付機能
- ・ FR: リモート操作機能

C.2.2 Solaris版 10.1/Linux版 V10.0L20の機能区分プロセス名対応一覧

Solaris版 10.1/Linux版 V10.0L20での機能区分プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent	業務サーバ
					Solaris					
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○	-	○	○
	共振振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○	○	-

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent	業務サーバ
					Solaris					
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-	-	-	-
				MpFwqs	○	-	-	-	-	-
				MpFwcm	○	-	-	-	-	-
				MpFwemsd	○	-	-	-	-	-
				MpFwems	○	-	-	-	-	-
				MpFwlsd	○	-	-	-	-	-
				MpFwls	○	-	-	-	-	-
				MpFwars	○	-	-	-	-	-
				EMSmc_Start	○*1	-	-	-	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-	-	-	-
				OD_start	○	-	-	-	-	-
				RDBsystem	○	-	-	-	-	-
				fl egopl m.exe	○*3	-	-	-	-	-
インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○	-	○	○	
ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSendMgr	○	-	-	-	-	-	
			java	○*4	○	○	-	○	○	
			MpPolRecv3	-	○	○	-	-	-	
システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○	-	-	○	
			message	GEE*5	-	-	-	-	-	
			diagnose	GEE*5	-	-	-	-	-	
			hlcmd	GEE*5	-	-	-	-	-	
			maintenance	GEE*5	-	-	-	-	-	
			sysstatus	GEE*5	-	-	-	-	-	
			syscomm	GEE*5	-	-	-	-	-	
			cmsproc	GEE*5	-	-	-	-	-	
			timefrm	GEE*5	-	-	-	-	-	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent	業務サーバ
					Solaris					
				initial	GEE*5	-	-	-	-	-
	自動運用支援	FJSVfwao s	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○	-	○	○
f3crhdsv				○	○	○	-	○	○	
f3crhxsv				○	○	○	-	○	○	
FS2	システム監視GUI	FJSVfwgui	fwguiPStart	servmain	○	-	-	-	-	-
				f1legopcd.exe	○	-	-	-	-	-
	業務監視GUI	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-	-	-	-
				MpBcmsv	○	-	-	-	-	-
				mpbcmunsvr	○	-	-	-	-	-
	FS3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO APA_ISSV	○ ○	○ -	○ -	- -	- -
アプリケーション配付		FJSVsdpmc	sdpmc	MpDpmc	○	-	-	-	-	-
				MpDpmcA	○	-	-	-	-	-
		FJSVsdpsv	sdpsv	MpDpService	○	-	-	-	-	-
インターネットサーバ管理		FJSVsismsg	mpismstart	mpismgr	○	-	-	-	-	-
		FJSVsisag	mpisastart	mpisagt	○	○	○	-	-	○
FS4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmsv	○	-	-	-	-	-
			mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○	-	-	-	-
		FJSVsnm	mpnm	MpNmex	○	-	-	-	-	-
				MpNmdisc	○*6	○*6	-	-	-	-
				MpNmnode	○*6	○*6	-	-	-	-
				MpNmhost	○*6	○*6	-	-	-	-
		MpNmmib	○*6	○*6	-	-	-	-		
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-	-	-	-
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	○	○	○	-	-	○
		FJSVspmag	swpmagt	mptrfagt.exe	○	○	-	-	-	-
				trfCTman.exe	○	○	-	-	-	-
		FJSVspmng	swpmmgr	mptrfmg.exe	○	-	-	-	-	-
	mptrfjbr.exe			○	-	-	-	-	-	
	FNA/OSIネットワーク管理	FJSVsfons	strfjsvfon	MpFonS	GEE*5	-	-	-	-	-

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent	業務サーバ
					Solaris					
FS5	リカバリフロー	FJSVsrfm	mprmi	rmiregistry	○	-	-	-	-	-
			strmprfm	java	○	-	-	-	-	-
FS6	導入支援	FJSVfist	MpFistStart	fjsssock	○	-	-	-	-	-
	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○	○	○	-	-	○
	IDカードセキュリティ	FJSVsidcd	S99FJSVsidcd	idcardmng	GEE*5	-	-	-	-	-
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalker/bin/stropasyslog	opasyslog	○	○	○	-	○	○
				mpstartsv	○	○	○	-	○	○
FD	資源配付	FJSVmpsd1	drmsd	drmsdemon	○	○	○	-	-	○
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○	-	-	-	-	-
				cmpdaemon	○	-	-	-	-	-
	メータリング	FJSVsmtmg	FJSVsmtmg	strserv	○	○	○	-	-	○
java				○	○	○	-	-	○	
FH	ヘルプデスク	FJSVshlp	strhdntf	f3crbpop	○*7	-	-	-	-	-

○:存在する機能

-:存在しない機能

※GEE:GEEだけに存在

*1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時

*2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時

*3:EE/GEE版で起動

*4:全体監視の場合起動

*5:GEE版で起動

*6:ポリシー配付されたら起動

*7:ヘルプデスク環境構築時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE:認証、通信基盤
- FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2:監視機能2(システム監視/業務監視)
- FS3:監視機能3(アプリケーション管理/インターネットサーバ管理)
- FS4:監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS5:監視機能5(リカバリフロー)
- FS6:監視機能6(導入支援)
- FSY:監視機能(syslog連携)

- ・ FD:資源配付機能
- ・ FH:ヘルプデスク機能

C.2.3 Windows版 V11.0L10の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V11.0L10での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent
B A SE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○	○	○
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○	○
FS 1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-	-	-
			EMSmc_Start.exe	○*1	-	-	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-	-	-
			odstart.exe	○	-	-	-	-
			RDBsystem	○	-	-	-	-
			flgopl.exe	○*3	-	-	-	-
			Mpopaddm.exe	○	-	-	-	-
ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-	-	-	
		MpNmFw.exe	○	-	-	-	-	
インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○	-	○	
ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-	-	-	
		MpPolSendMgr.exe	○	-	-	-	-	
	Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○	-	○	
		java.exe	○*4	○	○	-	○	
システム監視	Systemwalker MpOpagt	flgopag.exe	○	○	○	○	○	
自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	○	○	

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent	
			f3crhdsw.exe	○	○	○	○	○	
			f3crhxsw.exe	○	○	○	○	○	
			Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○	○	○
			Systemwalker MpAosfX	f3crhxs2.exe	○	○	○	○	○
FS 2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○	○	○	
	Systemwalker コンソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	-	-	
			F1EVW3IS.exe	○	-	-	-	-	
			MpBcmsv.exe	○	-	-	-	-	
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-	-	-	
F1EVSVC.exe	○	-	-	-	-				
FS 3	アプリケーション管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○	-	-	
			APA_ISSV.exe	○	-	-	-	-	
	IS監視	Systemwalker MpNsMgr	mpismgrs.exe	○	-	-	-	-	
			mpismgr.exe	○	-	-	-	-	
		Systemwalker MpNsAgt	MpNsAgtMain.exe	○	○	○	-	-	
FS 4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWksttr	nwt dsch.exe	○	○	-	-	-	
			Systemwalker MpNmmsggr	MpNmmsggr.exe	○	○	-	-	-
				MpNmmsgv.exe	○	-	-	-	-
				MpNmmsgex.exe	○	-	-	-	-
				MpNmmsgdisc.exe	○*5	○*5	-	-	-
				MpNmmsgnode.exe	○*5	○*5	-	-	-
				MpNmmsghost.exe	○*5	○*5	-	-	-
	MpNmmsgmib.exe	○*5	○*5	-	-	-			
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-	-	-	
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrfmggr.exe	○	-	-	-	-	
			Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○*6	-	-	-	-
			Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*7	○	-	-	-
				trfCTman.exe	○*7	○	-	-	-
			Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○	-	-
mptrfexa.exe	○	○	○	-	-				

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent
FS5	リカバリフロー	Systemwalker MpRmi	rmiregistry.exe	○	-	-	-	-
		Systemwalker MpRfm	rfmmanager.exe	○	-	-	-	-
			rfmagent.exe	○	-	-	-	-
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○	-	-
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○	-	-
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-	○*8	-
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSEVER.EXE	○	-	-	-	-
			CMPDEMON.EXE	○	-	-	-	-
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-	-	-
			CMPRDMN.EXE	○*9	-	-	-	-
FR	リモート操作	LiveHelp Client Service	lh081550.exe	○*10	○*10	○*10	○*10	-
		LiveHelp Remote Access Service	LH092165.EXE	○*11	○*11	○*11	○*11	-
		LiveHelp Connection Manager Service	lhprocessmonitor.exe	○*12	-	-	-	-

○:存在する機能、
-:存在しない機能

- *1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時
- *2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時
- *3:EE版で起動
- *4:全体監視の場合起動
- *5:ポリシー配付されたら起動
- *6:Web連携使用時に自動起動に変更したとき
- *7:全体監視サーバでは監視しない
- *8:NT系の場合に起動するプロセス
- *9:インベントリDBおよびフレームワークDBの両方に登録しない場合は起動しない。
- *10:リモート操作Clientインストール時に起動
- *11:リモート操作Client/Expertインストール時に起動
- *12:リモート操作CMインストール時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- ・ BASE:認証、通信基盤
- ・ FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)

- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS5: 監視機能5(リカバリフロー)
- FD: 資源配付機能
- FR: リモート操作機能

C.2.4 Solaris版 11.0/Linux版 V11.0L10の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版 11.0/Linux版 V11.0L10での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent	業務サーバ
					Solaris /Linux			Solaris	Solaris /Linux	HP-UX AIX
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○	-	○	○
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○	○	-
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-	-	-	-
				MpFwqs	○	-	-	-	-	-
				MpFwcm	○	-	-	-	-	-
				MpFwemsd	○	-	-	-	-	-
				MpFwems	○	-	-	-	-	-
				MpFwlsd	○	-	-	-	-	-
				MpFwls	○	-	-	-	-	-
				MpFwars	○	-	-	-	-	-
				flegopl.exe	○*3	-	-	-	-	-
				EMSMc_Start	○*1	-	-	-	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-	-	-	-
				OD_start	○	-	-	-	-	-
				RDBsystem	○	-	-	-	-	-
				mpopaddm	○	-	-	-	-	-
ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-	-	-	-	
インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○	-	○	○	
ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSendMgr	○	-	-	-	-	-	
			java	○	○	○	-	○	○	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent	業務サーバ
					Solaris /Linux			Solaris	Solaris / Linux	HP-UX AIX
	システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○	-	-	○
				message	GEE*4	-	-	-	-	-
				diagnose	GEE*4	-	-	-	-	-
				hlcmd	GEE*4	-	-	-	-	-
				maintenance	GEE*4	-	-	-	-	-
				sysstatus	GEE*4	-	-	-	-	-
				syscomm	GEE*4	-	-	-	-	-
				cmsproc	GEE*4	-	-	-	-	-
				timefrm	GEE*4	-	-	-	-	-
				initial	GEE*4	-	-	-	-	-
				summfrm	GEE*4	-	-	-	-	-
	自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○	-	○	○
				f3crhdsv	○	○	○	-	○	○
				f3crhxs	○	○	○	-	○	○
FS2	Systemwalkerコンソール	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-	-	-	-
				MpBcmstv	○	-	-	-	-	-
				mpbcmunsvr	○	-	-	-	-	-
FS3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO	○	○	○	-	-	○
				APA_ISSV	○	-	-	-	-	-
	セキュリティ監視	FJSVsismg	mpismstart	mpismgr	○	-	-	-	-	-
				FJSVsisag	mpisastart	mpisagt	○	○	○	-
FS4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmex	○	-	-	-	-	-
				mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○	-	-	-
		FJSVsnm	mpnm	MpNmex	○	-	-	-	-	-
				MpNmdisc	○*5	○*5	-	-	-	-
				MpNmnode	○*5	○*5	-	-	-	-

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent	業務サーバ
					Solaris /Linux			Solaris	Solaris /Linux	HP-UX AIX
				MpNmhost	○*5	○*5	-	-	-	-
				MpNmhib	○*5	○*5	-	-	-	-
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-	-	-	-
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	○	○	○	-	-	○
					○*6	○	-	-	-	-
		FJSVspmag	swpmagt	mprtrfagt.exe	○*6	○	-	-	-	-
					○*6	○	-	-	-	-
	FJSVspmmg	swpmmgr	mprtrfmg.exe	○	-	-	-	-	-	
				○	-	-	-	-	-	
	FNA/OSIネットワーク管理	FJSVsfons	strfjsvfon	MpFonS	GEE*4	-	-	-	-	-
FS5	リカバリフロー	FJSVsrfrm	mprmi	rmiregistry	○	-	-	-	-	-
			strmprfrm	java	○	-	-	-	-	-
FS6	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○	○	○	-	-	-
	IDカードセキュリティ	FJSVsidcd	S99FJSVsidcd	idcardmgr	GEE*4	-	-	-	-	-
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalke r/bin/stropasyslog	opasyslog	○	○	○	-	○	○
				mpstartsv	○	○	○	-	○	○
FD	資源配付	FJSVmpsdl	drmsd	drmsdemon	○	○	○	-	-	○
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○	-	-	-	-	-
				cmpdaemon	○	-	-	-	-	-
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strhdntf	f3crbpop	○*7	-	-	-	-	-

○:存在する機能

-:存在しない機能

※GEE:GEEだけに存在

*1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時

*2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時

*3:EE/GEE版で起動

*4:GEE版で起動

*5:ポリシー配付されたら起動

*6:全体監視サーバでは監視しない

*7:ヘルプデスク環境構築時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE:認証、通信基盤

- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS5: 監視機能5(リカバリフロー)
- FS6: 監視機能6(電源制御/IDカードセキュリティ)
- FSY: 監視機能(syslog連携)
- FD: 資源配付機能
- FH: ヘルプデスク機能

C.2.5 Windows版 V12.0L10の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V12.0L10での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent
B A S E	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○	○	○
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○	○
F S 1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-	-	-
			EMSMc_Start.exe	○*1	-	-	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-	-	-
			odstart.exe	○	-	-	-	-
			RDBsystem	○	-	-	-	-
			f1legopl.exe	○*3	-	-	-	-
			Mpopaddm.exe	○	-	-	-	-
MpFwdetect.exe	○	-	-	-	-			
ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-	-	-	
		MpNmFw.exe	○	-	-	-	-	
インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○	-	○	

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-	-	-
			MpPolSendMgr.exe	○	-	-	-	-
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○	-	○
			java.exe	○*4	○	○	-	○
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	f1egopag.exe	○	○	○	○	○
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	○	○
			f3crhdsw.exe	○	○	○	○	○
			f3crhxsw.exe	○	○	○	○	○
		Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○	○	○
		Systemwalker MpAosfX	f3crhxs2.exe	○	○	○	○	○
FS 2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○	○	○
	Systemwalker コンソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	-	-
			F1EVW3IS.exe	○	-	-	-	-
			MpBcmstv.exe	○	-	-	-	-
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-	-	-
F1EVSVC.exe	○	-	-	-	-			
FS 3	アプリケーション管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○	-	-
			APA_ISSV.exe	○	-	-	-	-
	IS監視	Systemwalker MpNsMgr	mpismgrs.exe	○	-	-	-	-
			mpismgr.exe	○	-	-	-	-
		Systemwalker MpNsAgt	MpNsAgtMain.exe	○	○	○	-	-
FS 4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWksttr	nwtdsch.exe	○	○	-	-	-
		Systemwalker MpNmMgr	MpNmMgr.exe	○	○	-	-	-
			MpNmSv.exe	○	-	-	-	-
			MpNmex.exe	○	-	-	-	-
			MpNmDisc.exe	○*5	○*5	-	-	-
			MpNmNode.exe	○*5	○*5	-	-	-
			MpNmHost.exe	○*5	○*5	-	-	-
MpNmMib.exe	○*5	○*5	-	-	-			

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-	-	-
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrfmgr.exe	○	-	-	-	-
		Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○*6	-	-	-	-
		Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*7	○	-	-	-
			trfCTman.exe	○*7	○	-	-	-
		Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○	-	-
			mptrfexa.exe	○	○	○	-	-
FS 5	リカバリフロー	Systemwalker MpRmi	rmiregistry.exe	○	-	-	-	-
		Systemwalker MpRfm	rfmmanager.exe	○	-	-	-	-
			rfmagent.exe	○	-	-	-	-
F D	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○	-	-
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○	-	-
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-	○*8	-
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSEVER.EXE	○	-	-	-	-
			CMPDEMON.EXE	○	-	-	-	-
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-	-	-
			CMPRDMN.EXE	○*9	-	-	-	-
F R	リモート操作	LiveHelp Client Service	lh081550.exe	○*10	○*10	○*10	○*10	-
		LiveHelp Remote Access Service	LH092165.EXE	○*11	○*11	○*11	○*11	-
		LiveHelp Connection Manager Service	lhprocessmonitor.exe	○*12	-	-	-	-

○:存在する機能、
-:存在しない機能

- *1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時
- *2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時
- *3:EE版で起動
- *4:全体監視の場合起動
- *5:ポリシー配付されたら起動
- *6:Web連携使用時に自動起動に変更したとき

- *7:全体監視サーバでは監視しない
- *8:NT系の場合に起動するプロセス
- *9:インベントリDBおよびフレームワークDBの両方に登録しない場合は起動しない。
- *10:リモート操作Clientインストール時に起動
- *11:リモート操作Client/Expertインストール時に起動
- *12:リモート操作CMインストール時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE:認証、通信基盤
- FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2:監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3:監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)
- FS4:監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS5:監視機能5(リカバリフロー)
- FD:資源配付機能
- FR:リモート操作機能

C.2.6 Solaris版 12.0/12.1、Linux版 V12.0L10の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版 12.0/12.1、Linux版 V12.0L10での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent
					Solaris /Linux	Solaris /Linux	Solaris /Linux	Solaris /Linux	
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○	-	○
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-	-	-
				MpFwqs	○	-	-	-	-
				MpFwcm	○	-	-	-	-
				MpFwemsd	○	-	-	-	-
				MpFwems	○	-	-	-	-
				MpFwlsd	○	-	-	-	-
				MpFwls	○	-	-	-	-
				MpFwars	○	-	-	-	-
				flegopl.exe	○*3	-	-	-	-
				EMSMc_Star	○*1	-	-	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-	-	-
				OD_start	○	-	-	-	-

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象 プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent
					Solaris /Linux			Solaris	Solaris / Linux
				RDBsystem	○	-	-	-	-
				mpopaddm	○	-	-	-	-
				MpFwdetect	○	-	-	-	-
	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-	-	-
	インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○	-	○
	ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSend Mgr	○	-	-	-	-
				java	○	○	○	-	○
	システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○	-	-
				message	GEE* 4	-	-	-	-
				diagnose	GEE* 4	-	-	-	-
				hlcmd	GEE* 4	-	-	-	-
				maintenance	GEE* 4	-	-	-	-
				sysstatus	GEE* 4	-	-	-	-
				syscomm	GEE* 4	-	-	-	-
				cmsproc	GEE* 4	-	-	-	-
timefrm				GEE* 4	-	-	-	-	
initial				GEE* 4	-	-	-	-	
自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○	-	○	
			f3crhdsv	○	○	○	-	○	
			f3crhxsv	○	○	○	-	○	
FS 2	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-	-	-	
			MpBcmstv	○	-	-	-	-	
			mpbcmunsvr	○	-	-	-	-	
FS 3	FJSVsapag	FJSVsapag.s h	APA_CO	○	○	○	-	-	
			APA_ISSV	○	-	-	-	-	
	セキュリティ監視	FJSVsismg	mpismstart	mpismgr	○	-	-	-	-

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	ヘルプデスクサーバ	Event Agent
					Solaris /Linux			Solaris	Solaris /Linux
		FJSVsisag	mpisastart	mpisagt	○	○	○	-	-
FS4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmSv	○	-	-	-	-
			mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○	-	-	-
		FJSVsnm	mpnm	MpNmex	○	-	-	-	-
				MpNmDisc	○*5	○*5	-	-	-
				MpNmnode	○*5	○*5	-	-	-
				MpNmhost	○*5	○*5	-	-	-
	MpNmMib	○*5	○*5	-	-	-			
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-	-	-
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	○	○	○	-	-
		FJSVspmag	swpmagt	mptrfagt.exe	○*6	○	-	-	-
trfCTman.exe				○*6	○	-	-	-	
FJSVspmmg	swpmmgr	mptrfmg.exe	○	-	-	-	-		
		mptrfjbr	○	-	-	-	-		
FNA/OSIネットワーク管理	FJSVsfons	strfjvfon	MpFonS	GEE*4	-	-	-	-	
FS5	リカバリフロー	FJSVsrfm	mprmi	rmiregistry	○	-	-	-	-
			strmprfm	java	○	-	-	-	-
FS6	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○	○	○	-	-
	IDカードセキュリティ	FJSVsidcd	S99FJSVsidcd	idcardmgr	○*3	-	-	-	-
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalker/bin/stropasyslog	opasyslog	○	○	○	-	○
	mpstartsv			○	○	○	-	○	
	返答メッセージ	FJSVsorm	/opt/FJSVsorm/mpsorm.sh	f3crgsvr	○	○	○	-	-
FD	資源配付	FJSVmpsd	drmsd	drmsdemon	○	○	○	-	-
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○	-	-	-	-
				cmpdaemon	○	-	-	-	-
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strhdntf	f3crbpop	○*7	-	-	-	-

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

※GEE: GEEだけに存在

- *1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時
- *2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時
- *3:EE/GEE版で起動
- *4:GEE版で起動
- *5:ポリシー配付されたら起動
- *6:全体監視サーバでは監視しない
- *7:ヘルプデスク環境構築時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE: 認証、通信基盤
- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS5: 監視機能5(リカバリフロー)
- FS6: 監視機能6(電源制御/IDカードセキュリティ)
- FSY: 監視機能(syslog連携/返答メッセージ)
- FD: 資源配付機能
- FH: ヘルプデスク機能

C.2.7 Windows版 V13.0.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V13.0.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○	○
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-	-
			EMSMc_Start.exe	○*1	-	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-	-
			odstart.exe	○	-	-	-
RDBsystem	○	-	-	-			

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent	
			flegopl.exe	○*3	-	-	-	
			Mpopaddm.exe	○	-	-	-	
			MpFwdetect.exe	○	-	-	-	
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-	-	
			MpNmFw.exe	○	-	-	-	
	インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpsc.exe	○	○	○	○	
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-	-	
			MpPolSendMgr.exe	○	-	-	-	
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○	○	
			java.exe	○*4	○	○	○	
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○	○	
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	○	
			f3crhdsw.exe	○	○	○	○	
			f3crhsw.exe	○	○	○	○	
Systemwalker MpAosfP		f3crhsv2.exe	○	○	○	○		
Systemwalker MpAosfX		f3crhxs2.exe	○	○	○	○		
FS 2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○	○	
	Systemwalker コンソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	-	
			F1EVW3IS.exe	○	-	-	-	
			MpBcmsv.exe	○	-	-	-	
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-	-	
		F1EVSVC.exe	○	-	-	-		
FS 3	アプリケーション管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○	-	
			APA_ISSV.exe	○	-	-	-	
	IS監視	Systemwalker MpNsMgr	mpismgrs.exe	○	-	-	-	
			mpismgr.exe	○	-	-	-	
	Systemwalker MpNsAgt	MpNsAgtMain.exe	○	○	○	-		
FS 4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWkstr	nwtdsch.exe	○	○	-	-	
			Systemwalker MpNmMgr	MpNmMgr.exe	○	○	-	-
				MpNmSv.exe	○	-	-	-
				MpNmex.exe	○	-	-	-
	MpNmDisc.exe	○*5		○*5	-	-		

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent	
			MpNmnode.exe	○*5	○*5	-	-	
			MpNmhost.exe	○*5	○*5	-	-	
			MpNmmib.exe	○*5	○*5	-	-	
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-	-	
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrfingr.exe	○	-	-	-	
			mptrfjbr.exe	○*6	-	-	-	
			mptrfagt.exe	○*7	○	-	-	
				trfCTman.exe	○*7	○	-	-
			MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○	-
				mptrfexa.exe	○	○	○	-
FS 6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	-	-	-	
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○	-	
			drmsfsdb.exe	-	○	○	-	
			drmsfcln.exe	-	-	-	-	
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSERV.EXE	○	-	-	-	
			CMPDEMON.EXE	○	-	-	-	
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-	-	
CMPRDMN.EXE	○*8		-	-	-			
FR	リモート操作	LiveHelp Client Service	lh081550.exe	○*9	○*9	○*9	-	
		LiveHelp Remote Access Service	LH092165.EXE	○*10	○*10	○*10	-	
		LiveHelp Connection Manager Service	lhprocessmonitor.exe	○*11	-	-	-	

○:存在する機能、

-:存在しない機能

*1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時

*2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時

*3:EE版で起動

*4:全体監視の場合起動

*5:ポリシー配付されたら起動

*6:Web連携使用時に自動起動に変更したとき

*7:全体監視サーバでは監視しない

*8:インベントリDBおよびフレームワークDBの両方に登録しない場合は起動しない。

*9:リモート操作Clientインストール時に起動

*10:リモート操作Client/Expertインストール時に起動

*11:リモート操作CMインストール時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE:認証、通信基盤
- FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2:監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3:監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)
- FS4:監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6:監視機能6(ファイル転送)
- FD:資源配付機能
- FR:リモート操作機能

C.2.8 Solaris版 V13.0.0、Linux版 V13.0.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版 V13.0.0、Linux版 V13.0.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○	○
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-	-
				MpFwqs	○	-	-	-
				MpFwcm	○	-	-	-
				MpFwemsd	○	-	-	-
				MpFwems	○	-	-	-
				MpFwlsd	○	-	-	-
				MpFwls	○	-	-	-
				MpFwars	○	-	-	-
				flegopl.exe	○*3	-	-	-
				EMSmc_Star	○*1	-	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-	-
				OD_start	○	-	-	-
				RDBsystem	○	-	-	-
				mpopaddm	○	-	-	-
MpFwdetect	○	-	-	-				
ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-	-	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
	インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○	○
	ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSendMgr	○	-	-	-
				java	○	○	○	○
	システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○	-
				message	GEE*4	-	-	-
				diagnose	GEE*4	-	-	-
				hlcmd	GEE*4	-	-	-
				maintenance	GEE*4	-	-	-
				sysstatus	GEE*4	-	-	-
				syscomm	GEE*4	-	-	-
				cmsproc	GEE*4	-	-	-
				timefrm	GEE*4	-	-	-
				initial	GEE*4	-	-	-
	summfrm	GEE*4	-	-	-			
	自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○	○
f3crhdsv				○	○	○	○	
f3crhxs				○	○	○	○	
FS 2	Systemwalkerコンソール	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-	-
				MpBemsv	○	-	-	-
				mpbcmunsvr	○	-	-	-
FS 3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO	○	○	○	-
				APA_ISSV	○	-	-	-
	セキュリティ監視	FJSVsismg	mpismstart	mpismgr	○	-	-	-
		FJSVsisag	mpisastart	mpisagt	○	○	○	-
FS 4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmsv	○	-	-	-
			mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○	-	-
	FJSVsnm	mpnm	MpNmex	○	-	-	-	
			MpNmdisc	○*5	○*5	-	-	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent	
				MpNmnode	○*5	○*5	-	-	
				MpNmhost	○*5	○*5	-	-	
				MpNmmib	○*5	○*5	-	-	
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-	-	
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	MpTrfExAgt	○	○	○	-
					mptrfagt.exe	○*6	○	-	-
		FJSVspmag	swpmagt	mptrfman.exe	trfCTman.exe	○*6	○	-	-
FJSVspmmg					swpmmgr	mptrfmgr.exe	○	-	-
			mptrfjbr	○	-	-	-		
FS6	ファイル転送	FJSVftsv	strftran	ftrandemon	○	-	-	-	
	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○	○	○	-	
	IDカードセキュリティ	FJSVsidcd	S99FJSVsidcd	idcardmgr	○*3	-	-	-	
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalker/bin/stropasyslog	opasyslog	○	○	○	○	
				mpstartsv	○	○	○	○	
	返答メッセージ	FJSVsorm	/opt/FJSVsorm/mpsorm.sh	f3crgsvr	○	○	○	-	
FD	資源配付	FJSVmpsdl	drmsd	drmsdemon	○	○	○	-	
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○	-	-	-	
				cmpdaemon	○	-	-	-	
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strhdntf	f3crbpop	○*7	-	-	-	

○:存在する機能

-:存在しない機能

※GEE:GEEだけに存在

*1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時

*2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時

*3:EE/GEE版で起動

*4:GEE版で起動

*5:ポリシー配付されたら起動

*6:全体監視サーバでは監視しない

*7:ヘルプデスク環境構築時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE:認証、通信基盤
- FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2:監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3:監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)

- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FSY: 監視機能 (syslog連携/返答メッセージ)
- FD: 資源配付機能
- FH: ヘルプデスク機能

C.2.9 Windows版 V13.1.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V13.1.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○	○
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-	-
			EMSmc_Start.exe	○*1	-	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-	-
			odstart.exe	○	-	-	-
			RDBsystem	○	-	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-	-
			Mpopaddm.exe	○	-	-	-
			MpFwdetect.exe	○	-	-	-
			ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-
MpNmFw.exe	○	-			-	-	
インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○	○	
ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-	-	
		MpPolSendMgr.exe	○	-	-	-	
	Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○	○	
		java.exe	○*4	○	○	○	

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○	○
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	○
			f3crhds.exe	○	○	○	○
			f3crhxs.exe	○	○	○	○
		Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○	○
Systemwalker MpAosfX	f3crhxs2.exe	○	○	○	○		
FS 2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○	○
	Systemwalker コンソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	-
			F1EVW3IS.exe	○	-	-	-
			MpBcmsv.exe	○	-	-	-
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-	-
F1EVSVC.exe	○	-	-	-			
FS 3	アプリケーション管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○	-
			APA_ISSV.exe	○	-	-	-
	IS監視	Systemwalker MpNsMgr	mpismgrs.exe	○	-	-	-
			mpismgr.exe	○	-	-	-
		Systemwalker MpNsAgt	MpNsAgtMain.exe	○	○	○	-
FS 4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWkstr	nwtdsch.exe	○	○	-	-
		Systemwalker MpNmMgr	MpNmMgr.exe	○	○	-	-
			MpNmMsv.exe	○	-	-	-
			MpNmMx.exe	○	-	-	-
			MpNmMdisc.exe	○*5	○*5	-	-
			MpNmMnode.exe	○*5	○*5	-	-
			MpNmMhost.exe	○*5	○*5	-	-
	MpNmMmib.exe	○*5	○*5	-	-		
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-	-
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrfmgr.exe	○	-	-	-
		Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○*6	-	-	-
		Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*7	○	-	-
			trfCTman.exe	○*7	○	-	-
		Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○	-
mptrfexa.exe	○	○	○	-			

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
FS6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	○	○	○
	コンソール操作制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crpmgr.exe	○*3	-	-	-
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○	-
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○	-
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-	-
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSERV.EXE	○	-	-	-
			CMPEMON.EXE	○	-	-	-
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE CMPRDMN.EXE	○ ○*8	- -	- -	- -
FR	リモート操作	LiveHelp Client Service	lh081550.exe	○*9	○*9	○*9	-
		LiveHelp Remote Access Service	LH092165.EXE	○*10	○*10	○*10	-
		LiveHelp Connection Manager Service	lhprocessmonitor.exe	○*11	-	-	-

○:存在する機能、
-:存在しない機能

- *1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時
- *2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時
- *3:EE版で起動
- *4:全体監視の場合起動
- *5:ポリシー配付されたら起動
- *6:Web連携使用時に自動起動に変更したとき
- *7:全体監視サーバでは監視しない
- *8:インベントリDBおよびフレームワークDBの両方に登録しない場合は起動しない。
- *9:リモート操作Clientインストール時に起動
- *10:リモート操作Client/Expertインストール時に起動
- *11:リモート操作CMインストール時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- ・ BASE:認証、通信基盤
- ・ FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)
- ・ FS2:監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- ・ FS3:監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)
- ・ FS4:監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- ・ FS6:監視機能6(ファイル転送)

- FD:資源配付機能
- FR:リモート操作機能

C.2.10 Solaris版 V13.1.0、Linux版 V13.1.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版 V13.1.0、Linux版 V13.1.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○	○
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-	-
				MpFwqs	○	-	-	-
				MpFwcm	○	-	-	-
				MpFwemsd	○	-	-	-
				MpFwems	○	-	-	-
				MpFwlsd	○	-	-	-
				MpFwls	○	-	-	-
				MpFwars	○	-	-	-
				flegopl.exe	○*3	-	-	-
				EMSmc_Start	○*1	-	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-	-
				OD_start	○	-	-	-
				RDBsystem	○	-	-	-
				mpopaddm	○	-	-	-
				MpFwdetect	○	-	-	-
ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-	-	
インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○	○	
ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSendMgr	○	-	-	-	
			java	○	○	○	○	
システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○	-	
			message	GEE*4	-	-	-	
			diagnose	GEE*4	-	-	-	
			hlcmd	GEE*4	-	-	-	
			maintenance	GEE*4	-	-	-	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
				sysstatus	GEE*4	-	-	-
				syscomm	GEE*4	-	-	-
				cmsproc	GEE*4	-	-	-
				timefrm	GEE*4	-	-	-
				initial	GEE*4	-	-	-
				summfrm	GEE*4	-	-	-
	自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○	○
				f3crhdsv	○	○	○	○
				f3crhxs	○	○	○	○
FS 2	Systemwalkerコンソール	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-	-
				MpBcmsv	○	-	-	-
				mpbcmunsvr	○	-	-	-
FS 3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO	○	○	○	-
				APA_ISSV	○	-	-	-
	セキュリティ監視	FJSVsismg	mpismstart	mpismgr	○	-	-	-
		FJSVsisag	mpisastart	mpisagt	○	○	○	-
FS 4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmsv	○	-	-	-
			mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○	-	-
		FJSVsnm	mpnm	MpNmex	○	-	-	-
				MpNmdisc	○*5	○*5	-	-
				MpNmnode	○*5	○*5	-	-
				MpNmhost	○*5	○*5	-	-
			MpNmmib	○*5	○*5	-	-	
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-	-
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	○	○	○	-
					FJSVspmag	swpmagt	mptrfagt.exe	○*6
			trfCTman.exe	○*6	○		-	-
FJSVspmmg		swpmmgr		mptrfmgr.exe	○	-	-	-
	mptrfjbr			○	-	-	-	
FS 6	ファイル転送	FJSVftsv	strftran	ftrandemon	○	○	○	○
	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○	○	○	-

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
	IDカードセキュリティ	FJSVsidcd	S99FJSVsidcd	idcardmng	○*3	-	-	-
	コンソール操作制御	FJSVsopct	idorcmngstr	f3crpmgr	○*3	-	-	-
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalker/bin/stropasyslog	opasyslog	○	○	○	○
				mpstartsv	○	○	○	○
	返答メッセージ	FJSVsorm	/opt/FJSVsorm/mpsorm.sh	f3crgsvr	○	○	○	-
FD	資源配付	FJSVmpsdl	drmsd	drmsdemon	○	○	○	-
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○	-	-	-
				cmpdaemon	○	-	-	-
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strhdntf	f3crbpop	○*7	-	-	-

○:存在する機能

-:存在しない機能

※GEE:GEEだけに存在

*1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時

*2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時

*3:EE/GEE版で起動

*4:GEE版で起動

*5:ポリシー配付されたら起動

*6:全体監視サーバでは監視しない

*7:ヘルプデスク環境構築時に起動

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE:認証、通信基盤
- FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2:監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3:監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)
- FS4:監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6:監視機能6(ファイル転送)
- FSY:監視機能(syslog連携/返答メッセージ)
- FD:資源配付機能
- FH:ヘルプデスク機能

C.2.11 Windows版 V13.2.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V13.2.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○	○
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-	-
			EMSmc_Start.exe	○*1	-	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-	-
			odstart.exe	○	-	-	-
			RDBsystem	○	-	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-	-
			Mpopaddm.exe	○	-	-	-
	MpFwdetect.exe	○	-	-	-		
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-	-
			MpNmFw.exe	○	-	-	-
	インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○	○
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-	-
			MpPolSendMgr.exe	○	-	-	-
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○	○
			java.exe	○*4	○	○	○
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○	○
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	○
			f3crhds.exe	○	○	○	○
			f3crhxs.exe*12	○	○	○	○
Systemwalker MpAosfP		f3crhsv2.exe	○	○	○	○	
Systemwalker MpAosfX		f3crhxs2.exe*13	○	○	○	○	
FS2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○	○

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent	
	Systemwalker コンソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	-	
			F1EVW3IS.exe	○	-	-	-	
			MpBcmsv.exe	○	-	-	-	
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-	-	
			F1EVSVC.exe	○	-	-	-	
FS 3	アプリケーション管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○	-	
			APA_ISSV.exe	○	-	-	-	
	IS監視	Systemwalker MpNsMgr	mpismgrs.exe	○	-	-	-	
			mpismgr.exe	○	-	-	-	
		Systemwalker MpNsAgt	MpNsAgtMain.exe	○	○	○	-	
FS 4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWkstr	nwtdsch.exe	○	○	-	-	
			Systemwalker MpNmsmgr	MpNmsgr.exe	○	○	-	-
				MpNmsv.exe	○	-	-	-
				MpNmex.exe	○	-	-	-
				MpNmdisc.exe	○*5	○*5	-	-
				MpNmnode.exe	○*5	○*5	-	-
				MpNmhost.exe	○*5	○*5	-	-
	MpNmhib.exe	○*5	○*5	-	-			
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-	-	
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrfmggr.exe	○	-	-	-	
			Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○*6	-	-	-
			Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*7	○	-	-
				trfCTman.exe	○*7	○	-	-
			Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○	-
mptrfexa.exe	○	○	○	-				
FS 6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	○	○	○	
	コンソール操作制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crpmgr.exe	○*3	-	-	-	
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○	-	
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○	-	
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-	-	

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSERV.EXE	○	-	-	-
			CMPDEMON.EXE	○	-	-	-
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPRSERV.EXE	○	-	-	-
			CMPRDMN.EXE	○*8	-	-	-
FR	リモート操作	LiveHelp Client Service	lh081550.exe	○*9	○*9	○*9	-
		LiveHelp Remote Access Service	LH092165.EXE	○*10	○*10	○*10	-
		Live Help Control Service	LHCTLSVC.EXE	○*14	○*14	○*14	-
		LiveHelp Connection Manager Service	lhprocessmonitor.exe	○*11	-	-	-

○:存在する機能、
-:存在しない機能

- *1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時
- *2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時
- *3:EE版で起動
- *4:全体監視の場合起動
- *5:ポリシー配付されたら起動
- *6:Web連携使用時に自動起動に変更したとき
- *7:全体監視サーバでは監視しない
- *8:インベントリDBおよびフレームワークDBの両方に登録しない場合は起動しない。
- *9:リモート操作Clientインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008より前の場合)
- *10:リモート操作Client/Expertインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008より前の場合)
- *11:リモート操作CMインストール時に起動
- *12:64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe
- *13:64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe
- *14:リモート操作Client/Expertインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008以降の場合)

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- ・ BASE:認証、通信基盤
- ・ FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)
- ・ FS2:監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- ・ FS3:監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)
- ・ FS4:監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- ・ FS6:監視機能6(ファイル転送)
- ・ FD:資源配付機能
- ・ FR:リモート操作機能

C.2.12 Solaris版/Linux版/HP-UX版/AIX版 V13.2.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版/Linux版/HP-UX版/AIX版 V13.2.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○ *8	○
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-	-
				MpFwqs	○	-	-	-
				MpFwcm	○	-	-	-
				MpFwemsd	○	-	-	-
				MpFwems	○	-	-	-
				MpFwltd	○	-	-	-
				MpFwls	○	-	-	-
				MpFwars	○	-	-	-
				flegopl.exe	○*3	-	-	-
				EMSmc_Star	○*1	-	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-	-
				OD_start	○	-	-	-
				RDBsystem	○	-	-	-
				mpopaddm	○	-	-	-
MpFwdetect	○	-	-	-				
ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-	-	
インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○	○	
ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSendMgr	○	-	-	-	
			java	○	○	○	○	
システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○	-	
			message	GEE *4	-	-	-	
			diagnose	GEE *4	-	-	-	
			hlcmd	GEE *4	-	-	-	
			maintenance	GEE *4	-	-	-	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
				sysstatus	GEE*4	-	-	-
				syscomm	GEE*4	-	-	-
				cmsproc	GEE*4	-	-	-
				timefrm	GEE*4	-	-	-
				initial	GEE*4	-	-	-
				summfrm	GEE*4	-	-	-
	自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○	○
				f3crhdsv	○	○	○	○
				f3crhxs	○	○	○	○
FS 2	Systemwalkerコンソール	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-	-
				MpBcmsv	○	-	-	-
				mpbcmunsvr	○	-	-	-
FS 3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO	○	○	○	-
				APA_ISSV	○	-	-	-
	セキュリティ監視	FJSVsismg	mpismstart	mpismgr	○	-	-	-
		FJSVsisag	mpisastart	mpisagt	○	○	○	-
FS 4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmsv	○	-	-	-
			mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○	-	-
		FJSVsnm	mpnm	MpNmex	○	-	-	-
				MpNmdisc	○*5	○*5	-	-
				MpNmnode	○*5	○*5	-	-
				MpNmhost	○*5	○*5	-	-
			MpNmmib	○*5	○*5	-	-	
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-	-
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	○	○	○	-
					FJSVspmag	swpmagt	mptrfagt.exe	○*6
			trfCTman.exe	○*6	○		-	-
FJSVspmmg		swpmmgr		mptrfmgr.exe	○	-	-	-
	mptrfjbr			○	-	-	-	
FS 6	ファイル転送	FJSVftsv	strftran	ftrandemon	○	○	○	○
	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○	○	○*8	-

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	Event Agent
	コンソール操作制御	FJSVsopct	idorcmngstr	f3crpmgr	○*3	-	-	-
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalker/bin/stropasyslog	opasyslog	○	○	○*9	○
				opasyslg	-	-	○*10	-
				mpstartsv	○	○	○	○
	返答メッセージ	FJSVsorm	/opt/FJSVsorm/mpsorm.sh	f3crgsvr	○	○	○*8	-
FD	資源配付	FJSVmpsdl	drmsd	drmsdemon	○	○	○	-
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○	-	-	-
cmpdaemon				○	-	-	-	
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strhdntf	f3crbpop	○*7	-	-	-

○:存在する機能

-:存在しない機能

※GEE:GEEだけに存在

*1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時

*2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時

*3:EE/GEE版で起動

*4:GEE版で起動

*5:ポリシー配付されたら起動

*6:全体監視サーバでは監視しない

*7:ヘルプデスク環境構築時に起動

*8:Solaris版/Linux版だけ

*9:Solaris版/Linux版/HP-UX版だけ

*10:AIX版だけ

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE:認証、通信基盤
- FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2:監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3:監視機能3(アプリケーション管理/セキュリティ監視)
- FS4:監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6:監視機能6(ファイル転送)
- FSY:監視機能(syslog連携/返答メッセージ)
- FD:資源配付機能
- FH:ヘルプデスク機能

C.2.13 Windows版 V13.3.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V13.3.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
B A SE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○
FS 1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-
			EMSmc_Start.exe	○*1	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-
			odstart.exe	○	-	-
			RDBsystem	○	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-
	Mpopaddm.exe	○	-	-		
	MpFwdetect.exe	○	-	-		
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-
			MpNmFw.exe	○	-	-
	インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-
MpPolSendMgr.exe			○	-	-	
Systemwalker MpPolRecv		MpPolSch.exe	○*4	○	○	
		java.exe	○*4	○	○	
システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○	
インストールレス型エージェント	Systemwalker MpOpals	mpalssysct.exe	○	○	-	
自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	
		f3crhdsw.exe	○	○	○	
		f3crhxsw.exe*12	○	○	○	

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
		Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○
		Systemwalker MpAosfX	f3crhxs2.exe*13	○	○	○
FS 2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○
	Systemwalker コンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-
	Webコンソール		F1E VW3IS.exe	○	-	-
			MpBcmsv.exe	○	-	-
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-
			F1EVSVC.exe	○	-	-
FS 3	アプリケーション管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○
			APA_ISSV.exe	○	-	-
FS 4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWksttr	nwt dsch.exe	○	○	-
		Systemwalker MpNmsmgr	MpNmsgr.exe	○	○	-
			MpNm sv.exe	○	-	-
			MpNmex.exe	○	-	-
			MpNm disc.exe	○*5	○*5	-
			MpNm node.exe	○*5	○*5	-
			MpNm host.exe	○*5	○*5	-
			MpNm mib.exe	○*5	○*5	-
	NTC	Systemwalker MpCNapl	mprcvtrp.exe	○	○	-
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrf mgr.exe	○	-	-
		Systemwalker MpTrfJbr	mptrf jbr.exe	○*6	-	-
		Systemwalker MpTrfAgt	mptrf agt.exe	○*7	○	-
			trfCTman.exe	○*7	○	-
		Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○
		mptrf exa.exe	○	○	○	
FS 6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	○	○
	コンソール操作制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crp mgr.exe	○*3	-	-
F D	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSEV.EXE	○	-	-
			CMPDEMON.EXE	○	-	-
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-
			CMPRDMN.EXE	○*8	-	-
Systemwalker MpDTPAgent	CMAGLDMN.EXE	○	○	○		
FR	リモート操作	LiveHelp Client Service	lh081550.exe	○*9	○*9	○*9
		LiveHelp Remote Access Service	LH092165.EXE	○*10	○*10	○*10
		Live Help Control Service	LHCTLSVC.EXE	○*14	○*14	○*14
		LiveHelp Connection Manager Service	lhprocessmonitor.exe	○*11	-	-

○:存在する機能、
-:存在しない機能

- *1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時
- *2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時
- *3:EE版で起動
- *4:全体監視の場合起動
- *5:ポリシー配付されたら起動
- *6:Web連携使用時に自動起動に変更したとき
- *7:全体監視サーバでは監視しない
- *8:インベントリDBおよびフレームワークDBの両方に登録しない場合は起動しない。
- *9:リモート操作Clientインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008より前の場合)
- *10:リモート操作Client/Expertインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008より前の場合)
- *11:リモート操作CMインストール時に起動
- *12:64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhsw_64.exe
- *13:64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe
- *14:リモート操作Client/Expertインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008以降の場合)

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- ・ BASE:認証、通信基盤
- ・ FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)
- ・ FS2:監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- ・ FS3:監視機能3(アプリケーション管理)

- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FD: 資源配付機能
- FR: リモート操作機能

C.2.14 Solaris版/Linux版 V13.3.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版/Linux版 V13.3.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
B A S E	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○
	サーバアクセス制御	FJSVsvac	swsvaccontrol	/opt/ FJSVsvac/bin/ swsvacauditd	○*3 *9	○*3 *9	○*3 *9
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○*8	○*8	○*8
F S 1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-
				MpFwqs	○	-	-
				MpFwcm	○	-	-
				MpFwemsd	○	-	-
				MpFwems	○	-	-
				MpFwlsd	○	-	-
				MpFwls	○	-	-
				MpFwars	○	-	-
				flegopl.exe	○*3	-	-
				EMSmc_Star t	○*1	-	-
				Mpsas_ser v e r	○*2	-	-
				OD_start	○	-	-
				RDBsystem	○	-	-
				mpopaddm	○	-	-
MpFwdetect	○	-	-				
ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-	
インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○	
ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSend Mgr	○	-	-	
			java	○	○	○	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
	システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○
				message	GEE* 4	-	-
				diagnose	GEE* 4	-	-
				hlcmd	GEE* 4	-	-
				maintenance	GEE* 4	-	-
				sysstatus	GEE* 4	-	-
				syscomm	GEE* 4	-	-
				cmsproc	GEE* 4	-	-
				timefrm	GEE* 4	-	-
				initial	GEE* 4	-	-
				summfrm	GEE* 4	-	-
	インストールレス型エージェント	FJSVsals	stropals	mpalssysd	○	○	-
	自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○
f3crhdsv				○	○	○	
f3crhsv				○	○	○	
FS 2	Systemwalkerコンソール	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-
				MpBcmstv	○	-	-
				mpbcmunsvr	○	-	-
FS 3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO	○	○	○
				APA_ISSV	○	-	-
FS 4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmsh	○	-	-
				mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○
		FJSVsnm	mpnm	MpNmex	○	-	-
				MpNmsh	○*5	○*5	-
				MpNmnode	○*5	○*5	-
				MpNmhost	○*5	○*5	-
MpNmsh	○*5	○*5	-				

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	○	○	○
				mptrfagt.exe	○*6	○	-
		FJSVspmag	swpmagt	trfCTman.exe	○*6	○	-
				mptrfingr.exe	○	-	-
				mptrfjbr	○	-	-
FS6	ファイル転送	FJSVftsv	strftran	ftrandemon	○	○	○
	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○*8	○*8	○*8
	コンソール操作制御	FJSVsopct	idorcmngstr	f3crpmgr	○*3	-	-
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalke r/bin/ stropasyslog	opasyslog	○*8	○*8	○*8
				mpstartsv	○	○	○
	返答メッセージ	FJSVsorm	/opt/FJSVsorm/ mpsorm.sh	f3crgsvr	○*8	○*8	○*8
FD	資源配付	FJSVmpsdl	drmsd	drmsdemon	○	○	○
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○*8	-	-
				cmpdaemon	○*8	-	-
		FJSVsivag	FJSVsivag	cmagldmn	○*8	○*8	○*8
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strhdntf	f3crbpop	○*7	-	-

○:存在する機能

-:存在しない機能

GEE:GEEだけに存在

*1:全体監視、冗長二重化のどちらかが有効な時

*2:全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効な時

*3:EE/GEE版で起動

*4:GEE版で起動

*5:ポリシー配付されたら起動

*6:全体監視サーバでは監視しない

*7:ヘルプデスク環境構築時に起動

*8:Solaris版/Linux版だけ

*9:Linux版だけ

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE:認証、通信基盤
- FS1:監視機能1(フレームワーク基盤)

- FS2: 監視機能2 (Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3 (アプリケーション管理)
- FS4: 監視機能4 (ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6 (ファイル転送)
- FSY: 監視機能 (syslog連携/返答メッセージ)
- FD: 資源配付機能
- FH: ヘルプデスク機能

C.2.15 Windows版 V13.4.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V13.4.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○
	サーバアクセス制御	Systemwalker MpSvac Service	MpSvac.exe	○*13	○*13	○*13
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-
			EMSMc_Start.exe	○*1	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-
			odstart.exe	○	-	-
			RDBsystem	○	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-
			Mpopaddm.exe	○	-	-
	MpFwdetect.exe	○	-	-		
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-
MpNmFw.exe			○	-	-	
インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○	
ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-	
		MpPolSendMgr.exe	○	-	-	

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○	
			java.exe	○*4	○	○	
	システム管理	Systemwalker MpOpagt	f1egopag.exe	○	○	○	
	インストールレス 型エージェント	Systemwalker MpOpals	mpalssysct.exe	○	○	-	
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	
			f3crhdsw.exe	○	○	○	
			f3crhsw.exe *11	○	○	○	
Systemwalker MpAosfP		f3crhsv2.exe	○	○	○		
Systemwalker MpAosfX	f3crhxs2.exe *12	○	○	○			
FS2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○	
	Systemwalker コンソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	
			F1E VW3IS.exe	○	-	-	
			MpBcmsv.exe	○	-	-	
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-	
		F1EVSVC.exe	○	-	-		
FS3	アプリケーション 管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○	
			APA_ISSV.exe	○	-	-	
FS4	ネットワーク管 理	Systemwalker MpWksttr	nwtdsch.exe	○	○	-	
			Systemwalker MpNmsmgr	MpNmsgr.exe	○	○	-
				MpNmsv.exe	○	-	-
				MpNmex.exe	○	-	-
				MpNmndisc.exe	○*5	○*5	-
				MpNmnode.exe	○*5	○*5	-
				MpNmnost.exe	○*5	○*5	-
				MpNmhost.exe	○*5	○*5	-
	MpNmmib.exe	○*5	○*5	-			
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-	
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrfmgrr.exe	○	-	-	
			Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○*6	-	-
			Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*7	○	-
trfCTman.exe				○*7	○	-	

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
		Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○
			mptrfexa.exe	○	○	○
FS6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	○	○
	コンソール操作 制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crpmgr.exe	○*3	-	-
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSEV.EXE	○	-	-
			CMPDEMON.EXE	○	-	-
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-
			CMPRDMN.EXE	○	-	-
Systemwalker MpDTPAgent	CMAGLDMN.EXE	○	○	-		
FR	リモート操作	LiveHelp Client Service	lh081550.exe	○*8	○*8	○*8
		LiveHelp Remote Access Service	LH092165.EXE	○*9	○*9	○*9
		LiveHelp Control Service	LHCTLSVC.EXE	○*14	○*14	○ *14
		LiveHelp Connection Manager Service	lhprocessmonitor.exe	○*10	-	-
PMO N	プロセス監視	Systemwalker MpPmonC	mppmonservice.exe	○	○	○
			mppmon.exe	○	○	○

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE版で起動

*4: 全体監視の場合に起動

*5: ポリシー配付されたら起動

*6: Web連携使用時に自動起動に変更したとき

*7: 全体監視サーバでは監視しない

*8: リモート操作Clientインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008より前の場合)

*9: リモート操作Client/Expertインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008より前の場合)

*10: リモート操作CMインストール時に起動

*11: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe

*12: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe

*13: 64ビット環境に32ビット版をインストールした場合は存在しない。Windows(R) 2000環境には存在しない。

*14: リモート操作Client/Expertインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008以降の場合)

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE: 認証、通信基盤
- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FD: 資源配付機能
- FR: リモート操作機能
- PMON: プロセス監視機能

C.2.16 Solaris/Linux版 V13.4.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版/Linux版 V13.4.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○
	サーバアクセス制御	FJSVsvac	swsvaccontrol	/opt/FJSVsvac/bin/swsvacauditd	○*9	○*9	○*9
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○*8	○*8	○*8
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-
				MpFwqs	○	-	-
				MpFwcm	○	-	-
				MpFwemsd	○	-	-
				MpFwems	○	-	-
				MpFwlsd	○	-	-
				MpFwls	○	-	-
				MpFwars	○	-	-
				EMSmc_Start	○*1	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-
				OD_start	○	-	-
				RDBsystem	○	-	-
flegopl.exe	○*3	-	-				

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
				mpopaddm	○	-	-
				MpFwdetect	○	-	-
	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-
	インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○
	ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSendMgr	○	-	-
				java	○	○	○
	システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○
				message	GEE*4	-	-
				diagnose	GEE*4	-	-
				hlcmd	GEE*4	-	-
				maintenance	GEE*4	-	-
				sysstatus	GEE*4	-	-
				syscomm	GEE*4	-	-
				cmsproc	GEE*4	-	-
				timefrm	GEE*4	-	-
				initial	GEE*4	-	-
	summfrm	GEE*4	-	-			
	インストールレス型エージェント	FJSVsals	stropals	mpalssysd	○	○	-
	自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○
				f3crhdsv	○	○	○
				f3crhxsv	○	○	○
アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_ISSV	○	-	-	
FS2	Systemwalker コンソール	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-
				MpBcmstv	○	-	-
				mpbcmunsvr	○	-	-
FS3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO	○	○	○
FS4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmsv	○	-	-
				mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○
		FJSVsnm	mpnm	MpNmex	○	○	-
				MpNmdisc	○*5	○*5	-
				MpNmnode	○*5	○*5	-
MpNmhost	○*5	○*5	-				
MpNmmost	○*5	○*5	-				

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
				MpNmmib	○*5	○*5	-
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	○	○	○
FJSVspmag				swpmagt	mptrfagt.exe	○*6	○
FJSVspmmg		swpmmgr	mptrfmgr.exe	○	-	-	
			mptrfjbr	○	-	-	
FS6	ファイル転送	FJSVftsv	strftran	ftrandemon	○	○	○
	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○*8	○*8	○*8
	コンソール操作制御	FJSVsopct	idorcmngstr	f3crpmgr	○*3	-	-
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/ systemwalk er/bin/ stropasyslo g	opasyslog	○*8	○*8	○*8
				mpstartsv	○	○	○
	返答メッセージ	FJSVsorm	/opt/ FJSVsorm/ mpsorm.sh	f3crgsvr	○*8	○*8	○*8
FD	資源配付	FJSVmpsdl	drmsd	drmsdemon	○	○	○
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○*8	-	-
				cmpdaemon	○*8	-	-
FJSVsivag	FJSVsivag	cmagldmn	○*8	○*8	-		
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strdntf	f3crbpop	○*7	-	-
PMON	プロセス監視	FJSVftlc	pmon	mppmon	○	○	○

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

GEE: GEEだけに存在

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE/GEE版で起動

*4: GEE版で起動

*5: ポリシー配付されたら起動

*6: 全体監視サーバでは監視しない

*7: ヘルプデスク環境構築時に起動

*8: Solaris版/Linux版だけ

*9: Linux版だけ

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE: 認証、通信基盤
- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FSY: 監視機能(syslog連携/返答メッセージ)
- FD: 資源配付機能
- FH: ヘルプデスク機能
- PMON: プロセス監視機能

C.2.17 Windows版 V13.5.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V13.5.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○
	サーバアクセス制御	Systemwalker MpSvac Service	MpSvac.exe	○*13	○*13	○*13
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-
			EMSMc_Start.exe	○*1	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-
			odstart.exe	○	-	-
			RDBsystem	○	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-
			Mpopaddm.exe	○	-	-
MpFwdetect.exe	○	-	-			

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-	
			MpNmFw.exe	○	-	-	
	インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○	
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-	
			MpPolSendMgr.exe	○	-	-	
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○	
			java.exe	○*4	○	○	
	システム管理	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○	
	インストールレス型エージェント	Systemwalker MpOpals	mpalssysct.exe	○	○	-	
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	
			f3crhdsw.exe	○	○	○	
			f3crhxs.exe *11	○	○	○	
		Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○	
Systemwalker MpAosfX		f3crhxs2.exe *12	○	○	○		
FS2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○	
	Systemwalker コンソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	
			F1EVW3IS.exe	○	-	-	
			MpBcmsv.exe	○	-	-	
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-	
			F1EVSVC.exe	○	-	-	
FS3	アプリケーション管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○	
			APA_ISSV.exe	○	-	-	
FS4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWksttr	nwtdsch.exe	○	○	-	
			Systemwalker MpNmmsgtr	MpNmmsgtr.exe	○	○	-
				MpNmmsgtr.exe	○	-	-
				MpNmex.exe	○	-	-
				MpNmndisc.exe	○*5	○*5	-
				MpNmnode.exe	○*5	○*5	-
				MpNmhost.exe	○*5	○*5	-
				MpNmmost.exe	○*5	○*5	-
	MpNmmb.exe	○*5	○*5	-			
NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-		

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrfmgr.exe	○	-	-
		Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○*6	-	-
		Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*7	○	-
			trfCTman.exe	○*7	○	-
		Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○
			mptrfexa.exe	○	○	○
FS6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	○	○
	コンソール操作 制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crpmgr.exe	○*3	-	-
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSErv.EXE	○	-	-
			CMPDEMON.EXE	○	-	-
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-
			CMPRDMN.EXE	○	-	-
		Systemwalker MpDTPAgent	CMAGLDMN.EXE	○	○	-
FR	リモート操作	LiveHelp Client Service	lh081550.exe	○*8	○*8	○*8
		LiveHelp Remote Access Service	LH092165.EXE	○*9	○*9	○*9
		LiveHelp Control Service	LHCTLSVC.EXE	○*14	○*14	○ *14
		LiveHelp Connection Manager Service	lhprocessmonitor.exe	○*10	-	-
PMO N	プロセス監視	Systemwalker MpPmonC	mppmonservice.exe	○	○	○
			mppmon.exe	○	○	○

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE版で起動

*4: 全体監視の場合に起動

- *5: ポリシー配付されたら起動
- *6: Web連携使用時に自動起動に変更したとき
- *7: 全体監視サーバでは監視しない
- *8: リモート操作Clientインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008より前の場合)
- *9: リモート操作Client/Expertインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008より前の場合)
- *10: リモート操作CMインストール時に起動
- *11: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe
- *12: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe
- *13: 64ビット環境に32ビット版をインストールした場合は存在しない。Windows(R) 2000環境には存在しない。
- *14: リモート操作Client/Expertインストール時に起動(Windows Vista / Windows Server 2008以降の場合)

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- ・ BASE: 認証、通信基盤
- ・ FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- ・ FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- ・ FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- ・ FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- ・ FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- ・ FD: 資源配付機能
- ・ FR: リモート操作機能
- ・ PMON: プロセス監視機能

C.2.18 Solaris/Linux版 V13.5.0/Solaris版 V13.5.1の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版/Linux版 V13.5.0/Solaris版 V13.5.1での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○
	サーバアクセス制御	FJSVsvac	swsvaccont rol	/opt/FJSVsvac/bin/ swsvacauditd	○*9	○*9	○*9
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○*8	○*8	○*8
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-
				MpFwqs	○	-	-
				MpFwcm	○	-	-
				MpFwemsd	○	-	-
				MpFwems	○	-	-
				MpFwlstd	○	-	-
				MpFwls	○	-	-

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
				MpFwars	○	-	-
				EMSmc_Start	○*1	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-
				OD_start	○	-	-
				RDBsystem	○	-	-
				f1egopl.exe	○*3	-	-
				mpopaddm	○	-	-
				MpFwdetect	○	-	-
	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-
	インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○
	ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSendMgr	○	-	-
				java	○	○	○
	システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○
				message	GEE*4	-	-
				diagnose	GEE*4	-	-
				hlcmd	GEE*4	-	-
				maintenance	GEE*4	-	-
				sysstatus	GEE*4	-	-
				syscomm	GEE*4	-	-
				cmsproc	GEE*4	-	-
				timefrm	GEE*4	-	-
				initial	GEE*4	-	-
	summfrm	GEE*4	-	-			
	インストールレス型エージェント	FJSVsals	stropals	mpalssysd	○	○	-
	自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○
				f3crhdsv	○	○	○
				f3crhxsv	○	○	○
	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_ISSV	○	-	-
	FS2	Systemwalker コンソール	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-
MpBcmstv					○	-	-
mpbcmunsvr					○	-	-
FS3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO	○	○	○
FS4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmsv	○	-	-

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ		
		FJSVsnm	mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○	-		
			mpnm	MpNmex	○	○	-		
			MpNmdisc	○*5	○*5	-			
			MpNmnode	○*5	○*5	-			
			MpNmhost	○*5	○*5	-			
			MpNmnost	○*5	○*5	-			
	MpNmhib	○*5	○*5	-					
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-		
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	○	○	○		
				FJSVspmag	swpmagt	mptrfagt.exe	○*6	○	-
						trfCTman.exe	○*6	○	-
FJSVspmmg				swpmmgr	mptrfmgr.exe	○	-	-	
	mptrfjbr	○	-		-				
FS6	ファイル転送	FJSVftsv	strftran	ftrandemon	○	○	○		
	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○*8	○*8	○*8		
	コンソール操作制御	FJSVsopct	idorcmngstr	f3crpMgr	○*3	-	-		
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalker/bin/stropasyslog	opasyslog	○*8	○*8	○*8		
				mpstartsv	○	○	○		
	返答メッセージ	FJSVsorm	/opt/FJSVsorm/mpsorm.sh	f3crgsvr	○*8	○*8	○*8		
FD	資源配付	FJSVmpsd	drmsd	drmsdemon	○	○	○		
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○*8	-	-		
				cmpdaemon	○*8	-	-		
FJSVsivag	FJSVsivag	cmagldmn	○*8	○*8	-				
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strdntf	f3crbpop	○*7	-	-		
PMON	プロセス監視	FJSVftlc	pmon	mppmon	○	○	○		

○: 存在する機能、

-: 存在しない機能

GEE: GEEだけに存在

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE/GEE版で起動

- *4: GEE版で起動
- *5: ポリシー配付されたら起動
- *6: 全体監視サーバでは監視しない
- *7: ヘルプデスク環境構築時に起動
- *8: Solaris版/Linux版だけ
- *9: Linux版だけ

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE: 認証、通信基盤
- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FSY: 監視機能(syslog連携/返答メッセージ)
- FD: 資源配付機能
- FH: ヘルプデスク機能
- PMON: プロセス監視機能

C.2.19 Windows版 V13.6.0/V13.6.1の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V13.6.0/ V13.6.1での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○
	サーバアクセス制御	Systemwalker MpSvac Service	MpSvac.exe	○*11	○*11	○*11
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-
			MpFwlstd.exe	○	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-
			EMSMc_Start.exe	○*1	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
			MpFwcm.exe	○	-	-
			odstart.exe	○	-	-
			RDBsystem	○	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-
			Mpopaddm.exe	○	-	-
			MpFwdetect.exe	○	-	-
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-
			MpNmFw.exe	○	-	-
	インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-
			MpPolSendMgr.exe	○	-	-
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○
			java.exe	○*4	○	○
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○
	インストールレス型エージェント	Systemwalker MpOpals	mpalssysct.exe	○	○	-
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○
			f3crhdsw.exe	○	○	○
			f3crhsw.exe *11	○	○	○
		Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○
		Systemwalker MpAosfX	f3crhxs2.exe *12	○	○	○
FS2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○
	Systemwalker コンソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-
			F1EVW3IS.exe	○	-	-
			MpBcmsv.exe	○	-	-
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-
			F1EVSVC.exe	○	-	-
FS3	アプリケーション管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○
			APA_ISSV.exe	○	-	-
FS4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWksttr	nwtdsch.exe	○	○	-
		Systemwalker MpNmmsgmgr	MpNmmsgmgr.exe	○	○	-
			MpNmmsgmgr.exe	○	-	-
			MpNmmsgmgr.exe	○	-	-
			MpNmmsgmgr.exe	○*5	○*5	-

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ		
			MpNmnode.exe	○*5	○*5	-		
			MpNmhost.exe	○*5	○*5	-		
			MpNmnost.exe	○*5	○*5	-		
			MpNmhib.exe	○*5	○*5	-		
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-		
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	Systemwalker MpTrfMgr	mptfrmgr.exe	○	-	-	
				Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○*6	-	-
				Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*7	○	-
					trfCTman.exe	○*7	○	-
				Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○
mptrfexa.exe					○	○	○	
FS6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	○	○		
	コンソール操作 制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crpmgr.exe	○*3	-	-		
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○		
			Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○	
			Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-	
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	Systemwalker MpDTPServer	CMPSErv.EXE	○	-	-	
				CMPDEMON.EXE	○	-	-	
		Systemwalker MpDTPReceiver	Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-	
				CMPRDMN.EXE	○	-	-	
		Systemwalker MpDTPAgent	Systemwalker MpDTPAgent	CMAGLDMN.EXE	○	○	-	
	FR	リモート操作	LiveHelp Control Service	LHCTLSVC.EXE	○*8	○*8	○*8	
	PMO N	プロセス監視	Systemwalker MpPmonC	mppmonservice.exe	○	○	○	
mppmon.exe				○	○	○		

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE版で起動

*4: 全体監視の場合の起動

- *5: ポリシー配付されたら起動
- *6: Web連携使用時に自動起動に変更したとき
- *7: 全体監視サーバでは監視しない
- *8: リモート操作Client/Expertインストール時に起動
- *9: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxsw_64.exe
- *10: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe
- *11: 64ビット環境に32ビット版をインストールした場合は存在しない

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE: 認証、通信基盤
- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FD: 資源配付機能
- FR: リモート操作機能
- PMON: プロセス監視機能

C.2.20 Solaris/Linux版 V13.6.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版/Linux版 V13.6.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○
	サーバアクセス制御	FJSVsvac	swsvaccontrol	/opt/FJSVsvac/bin/swsvacauditd	○*9	○*9	○*9
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○*8	○*8	○*8
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-
				MpFwqs	○	-	-
				MpFwcm	○	-	-
				MpFwemsd	○	-	-
				MpFwems	○	-	-
				MpFwlsd	○	-	-
				MpFwls	○	-	-
				MpFwars	○	-	-
				EMSmc_Start	○*1	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-
OD_start	○	-	-				

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
				RDBsystem	○	-	-
				fllegopl.exe	○*3	-	-
				mpopaddm	○	-	-
				MpFwdetect	○	-	-
	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-
	インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○
	ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSendMgr	○	-	-
				java	○	○	○
	システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○
				message	GEE*4	-	-
				diagnose	GEE*4	-	-
				hlcmd	GEE*4	-	-
				maintenance	GEE*4	-	-
				sysstatus	GEE*4	-	-
				syscomm	GEE*4	-	-
				cmsproc	GEE*4	-	-
				timefrm	GEE*4	-	-
				initial	GEE*4	-	-
	summfrm	GEE*4	-	-			
	インストールレス型エージェント	FJSVsals	stropals	mpalssysd	○	○	-
	自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○
f3crhdsv				○	○	○	
f3crhxsv				○	○	○	
アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_ISSV	○	-	-	
FS2	Systemwalker コンソール	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-
				MpBcmstv	○	-	-
				mpbcmunsvr	○	-	-
FS3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO	○	○	○
FS4	ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpnmsv	MpNmsv	○	-	-
			mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○	-
		FJSVsnm	mpnm	MpNmex	○	○	-
				MpNmdisc	○*5	○*5	-
			MpNmnode	○*5	○*5	-	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ			
				MpNmhost	○*5	○*5	-			
				MpNmmost	○*5	○*5	-			
				MpNmhib	○*5	○*5	-			
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-			
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	MpTrfExAgt	○	○	○		
					FJSVspmag	swpmagt	mptrfagt.exe	○*6	○	-
							trfCTman.exe	○*6	○	-
					FJSVspmmg	swpmmgr	mptrfmgr.exe	○	-	-
				mptrfjbr	○	-	-			
FS6	ファイル転送	FJSVftsv	strftran	ftrandemon	○	○	○			
	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○*8	○*8	○*8			
	コンソール操作制御	FJSVsopct	idorcmngstr	f3crpmgr	○*3	-	-			
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalker/bin/stropasyslog	opasyslog	○*8	○*8	○*8			
				mpstartsv	○	○	○			
	返答メッセージ	FJSVsorm	/opt/FJSVsorm/mpsorm.sh	f3crgsvr	○*8	○*8	○*8			
FD	資源配付	FJSVmpsdl	drmsd	drmsdemon	○	○	○			
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○*8	-	-			
				cmpdaemon	○*8	-	-			
	FJSVsivag	FJSVsivag	cmagldmn	○*8	○*8	-				
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strdntf	f3crbpop	○*7	-	-			
PMON	プロセス監視	FJSVftlc	pmon	mppmon	○	○	○			

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

GEE: GEEだけに存在

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE/GEE版で起動

*4: GEE版で起動

*5: ポリシー配付されたら起動

*6: 全体監視サーバでは監視しない

*7: ヘルプデスク環境構築時に起動

*8: Solaris版/Linux版だけ

*9: Linux版だけ

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE: 認証、通信基盤
- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FSY: 監視機能(syslog連携/返答メッセージ)
- FD: 資源配付機能
- FH: ヘルプデスク機能
- PMON: プロセス監視機能

C.2.21 Windows版 V15.0.0/V15.0.1の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V15.0.0/V15.0.1での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○
	サーバアクセス制御	Systemwalker MpSvac Service	MpSvac.exe	○*11	○*11	○*11
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○
java.exe			○	-	-	
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-
			EMSMc_Start.exe	○*1	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-
			odstart.exe	○	-	-
			RDBsystem	○	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-
Mpopaddm.exe	○	-	-			

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サーバ	
			MpFwdetect.exe	○	-	-	
			MpFwwas.exe	○	-	-	
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-	
			MpNmFw.exe	○	-	-	
	インテリジェント サービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○	
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-	
			MpPolSendMgr.exe	○	-	-	
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○	
			java.exe	○*4	○	○	
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○	
	インストールレス型 エージェント	Systemwalker MpOpals	mpalssysct.exe	○	○	-	
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	
			f3crhdsw.exe	○	○	○	
			f3crhxs.exe *11	○	○	○	
		Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○	
Systemwalker MpAosfX		f3crhxs2.exe *10	○	○	○		
FS2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○	
	Systemwalkerコン ソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	
			F1EVW3IS.exe	○	-	-	
			MpBcmstv.exe	○	-	-	
			mpbcmunsvr.exe	○	-	-	
Systemwalker Webコンソール	Systemwalker MpAHSC	httpd.exe	○	-	-		
FS3	アプリケーション管 理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○	
			APA_ISSV.exe	○	-	-	
FS4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWksttr	nwtdsch.exe	○	○	-	
			Systemwalker MpNmMgr	MpNmMgr.exe	○	○	-
				MpNmSv.exe	○	-	-
				MpNmex.exe	○	-	-
				MpNmDisc.exe	○*5	○*5	-
				MpNmNode.exe	○*5	○*5	-
				MpNmHost.exe	○*5	○*5	-
	MpNmNost.exe	○*5	○*5	-			
MpNmMib.exe	○*5	○*5	-				
NTC	Systemwalker MpCNapl	mprcvtrp.exe	○	○	-		

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サーバ
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrfmgr.exe	○	-	-
		Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○*6	-	-
		Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*7	○	-
			trfCTman.exe	○*7	○	-
		Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○
			mptrfexa.exe	○	○	○
FS6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	○	○
	コンソール操作制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crpmgr.exe	○*3	-	-
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSERV.EXE	○	-	-
			CMPDEMON.EXE	○	-	-
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-
			CMPRDMN.EXE	○	-	-
	Systemwalker MpDTPAgent	CMAGLDMN.EXE	○	○	-	
資産管理	AssetManagement	RDBsystem(SWDTP)	○	-	-	
FR	リモート操作	LiveHelp Control Service	LHCTLSVC.EXE	○*8	○*8	○*8
PMON	プロセス監視	Systemwalker MpPmonC	mppmons-service.exe	○	○	○
			mppmon.exe	○	○	○

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE版で起動

*4: 全体監視の場合の起動

*5: ポリシー配付されたら起動

*6: Web連携使用時に自動起動に変更したとき

*7: 全体監視サーバでは監視しない

*8: リモート操作Client/Expertインストール時に起動

*9: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe

*10: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe

*11: 64ビット環境に32ビット版をインストールした場合は存在しない

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE: 認証、通信基盤
- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FD: 資源配付機能
- FR: リモート操作機能
- PMON: プロセス監視機能

C.2.22 Solaris/Linux版 V15.0.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版/Linux版 V15.0.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバ

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	FJSVfwsec	rc.mpfwsec	MpFwsec	○	○	○
	サーバアクセス制御	FJSVsvac	swsvaccontrol	/opt/FJSVsvac/bin/swsvacauditd	○*9	○*9	○*9
	共通振分けサーバ	FJSVftlc	MpShrsv	mpshrsv.exe	○*8	○*8	○*8
Mpshrsv			java	○	-	-	
FS1	フレームワーク基盤	FJSVfwbs	MpFwBase	MpFwams	○	-	-
				MpFwqs	○	-	-
				MpFwcm	○	-	-
				MpFwemsd	○	-	-
				MpFwems	○	-	-
				MpFwlstd	○	-	-
				MpFwls	○	-	-
				MpFwars	○	-	-
				EMSmc_Start	○*1	-	-
				Mpsas_server	○*2	-	-
				OD_start	○	-	-
				RDBsystem	○	-	-
				flgopl.exe	○*3	-	-
				mpopaddm	○	-	-
	MpFwdetect	○	-	-			
MpFwwas	○	-	-				
ネットワーク管理	FJSVfwnm	mpdrpctrl	mpdrpdfs	○	-	-	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ	
	インテリジェントサービス	FJSVssc	mpscsv	mpscds	○	○	○	
	ポリシー基盤	FJSVfwtrs	MpPolStart	MpPolSendMgr	○	-	-	
				java	○	○	○	
	システム監視	FJSVsagt	stropagt	opagtd	○	○	○	
				message	GEE*4	-	-	
				diagnose	GEE*4	-	-	
				hlcmd	GEE*4	-	-	
				maintenance	GEE*4	-	-	
				sysstatus	GEE*4	-	-	
				syscomm	GEE*4	-	-	
				cmsproc	GEE*4	-	-	
				timefrm	GEE*4	-	-	
				initial	GEE*4	-	-	
	sumfrm	GEE*4	-	-				
	インストールレス型エージェント	FJSVsals	stropals	mpalssysd	○	○	-	
	自動運用支援	FJSVfwaos	strAOSFB	f3crhesv	○	○	○	
				f3crhdsv	○	○	○	
				f3crhxsv	○	○	○	
	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_ISSV	○	-	-	
FS2	Systemwalker コンソール	FJSVfwgui	fwguiBStart	MpGuicb	○	-	-	
				MpBcmsv	○	-	-	
				mpbcmunsvr	○	-	-	
	Systemwalker Webコンソール	FJSVftlc	mpahsctl	httpd	○	-	-	
FS3	アプリケーション管理	FJSVsapag	FJSVsapag.sh	APA_CO	○	○	○	
FS4	ネットワーク管理	FJSVfwnm		mpnmsv	MpNmsv	○	-	-
				mpnm-trapd	nwsnmp-trapd	○	○	-
		FJSVsnm	mpnm		MpNmex	○	○	-
				MpNmdisc	○*5	○*5	-	
				MpNmnode	○*5	○*5	-	
				MpNmhost	○*5	○*5	-	
				MpNmnost	○*5	○*5	-	
		MpNmhib	○*5	○*5	-			
	NTC	FJSVfwntc	startntc	mprcvtrp.exe	○	○	-	
	性能監視	FJSVspmex	swpmexa	MpTrfExAgt	○	○	○	

機能区分略称	機能名	パッケージ名	機能	監視対象プロセス	運用管理サーバ	部門管理サーバ	業務サーバ
		FJSVspmag	swpmagt	mptrfagt.exe	○*6	○	-
				trfCTman.exe	○*6	○	-
		FJSVspmmg	swpmmgr	mptrfmgr.exe	○	-	-
				mptrfjbr	○	-	-
FS6	ファイル転送	FJSVftsv	strftran	ftrandemon	○	○	○
	電源制御	FJSVspwrc	S99spwrc	f3crhsv3	○*8	○*8	○*8
	コンソール操作制御	FJSVsopct	idorcmngstr	f3crpmgr	○*3	-	-
FSY	システム監視	FJSVsagt	/opt/systemwalker/bin/stropasyslog	opasyslog	○*8	○*8	○*8
				mpstartsv	○	○	○
	返答メッセージ	FJSVsorm	/opt/FJSVsorm/mpsorm.sh	f3crgsvr	○*8	○*8	○*8
FD	資源配付	FJSVmpsdl	drmsd	drmsdemon	○	○	○
	インベントリ管理	FJSVsivmg	FJSVsivmg	cmprdmn	○*8	-	-
				cmpdaemon	○*8	-	-
		FJSVsivag	FJSVsivag	cmagldmn	○*8	○*8	-
FH	ヘルプデスク	FJSVshlpm	strdntf	f3crbpop	○*7	-	-
PMON	プロセス監視	FJSVftlc	pmon	mppmon	○	○	○

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

GEE: GEEだけに存在

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE/GEE版で起動

*4: GEE版で起動

*5: ポリシー配付されたら起動

*6: 全体監視サーバでは監視しない

*7: ヘルプデスク環境構築時に起動

*8: Solaris版/Linux版だけ

*9: Linux版だけ

資産管理サーバ

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	資産管理サーバ
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	資産管理 サーバ
	サーバアクセス制御	Systemwalker MpSvac Service	MpSvac.exe	○*3
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○
java.exe			-	
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	-
			MpFwems.exe	-
			MpFwemsd.exe	-
			MpFwls.exe	-
			MpFwlsd.exe	-
			MpFwams.exe	-
			MpFwqs.exe	-
			MpFwars.exe	-
			EMSmc_Start.exe	-
			Mpsas_server.exe	-
			MpFwcm.exe	-
			odstart.exe	-
			RDBsystem	-
			flegopl.exe	-
			Mpopaddm.exe	-
	MpFwdetect.exe	-		
	MpFwwas.exe	-		
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	-
			MpNmFw.exe	-
	インテリジェントサービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	-
			MpPolSendMgr.exe	-
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○
			java.exe	○
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○
	インストールレス型エージェント	Systemwalker MpOpals	mpalssysct.exe	-
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○
f3crhdsw.exe			○	
f3crhxs.exe *3			○	
Systemwalker MpAosfP		f3crhsv2.exe	○	
Systemwalker MpAosfX		f3crhxs2.exe *2	○	
FS2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○
	Systemwalkerコンソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	-
			F1EVW3IS.exe	-
		MpBcmsv.exe	-	

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	資産管理 サーバ	
			mpbcmunsvr.exe	-	
			FIEVSVC.exe	-	
	Systemwalker Webコンソール	Systemwalker MpAHSC	httpd.exe	-	
FS3	アプリケーション管理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	
			APA_ISSV.exe	-	
FS4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWksttr	nwtdsch.exe	-	
			Systemwalker MpNmsmgr	MpNmsgr.exe	-
				MpNmshv.exe	-
				MpNmex.exe	-
				MpNmdisc.exe	-
				MpNmnode.exe	-
				MpNmhost.exe	-
				MpNmmost.exe	-
	MpNmhib.exe	-			
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	-	
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptfmggr.exe	-	
			Systemwalker MpTrfJbr	mptfjbr.exe	-
			Systemwalker MpTrfAgt	mptfagt.exe	-
				trfCTman.exe	-
			Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○
	mptfexa.exe	○			
FS6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	
	コンソール操作制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crpmgr.exe	-	
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	○	
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSESV.EXE	-	
			CMPDEMON.EXE	-	
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	-	
			CMPRDMN.EXE	-	
	Systemwalker MpDTPAgent	CMAGLDMN.EXE	-		
資産管理	AssetManagement	RDBsystem(SWDTP)	○		
FR	リモート操作	LiveHelp Control Service	LHCTLSVC.EXE	○*1	
PMO N	プロセス監視	Systemwalker MpPmonC	mppmonservice.exe	○	
			mppmon.exe	○	

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

- *1: リモート操作Client/Expertインストール時に起動
- *2: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe
- *3: 64ビット環境に32ビット版をインストールした場合は存在しない

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- ・ BASE: 認証、通信基盤
- ・ FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- ・ FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- ・ FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- ・ FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- ・ FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- ・ FSY: 監視機能(syslog連携/返答メッセージ)
- ・ FD: 資源配付機能
- ・ FH: ヘルプデスク機能
- ・ FR: リモート操作機能
- ・ PMON: プロセス監視機能

C.2.23 Windows版 V15.1.0/V15.2.1の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V15.1.0/V15.2.1での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○
	サーバアクセス制御	Systemwalker MpSvac Service	MpSvac.exe	○*11	○*11	○*11
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○
			java.exe	○	-	-
サービス監視	Systemwalker Mpscmc	Mpscmc.exe	○	-	-	
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-
			MpFwams.exe	○	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-
			EMSMc_Start.exe	○*1	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サーバ
			MpFwcm.exe	○	-	-
			odstart.exe	○	-	-
			RDBsystem	○	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-
			Mpopaddm.exe	○	-	-
			MpFwdetect.exe	○	-	-
			MpFwwas.exe	○	-	-
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-
			MpNmFw.exe	○	-	-
	インテリジェント サービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-
			MpPolSendMgr.exe	○	-	-
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○
			java.exe	○*4	○	○
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○
	インストールレス型 エージェント	Systemwalker MpOpals	mpalssysct.exe	○	○	-
	自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○
			f3crhdsw.exe	○	○	○
			f3crxsw.exe *11	○	○	○
		Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○
		Systemwalker MpAosfX	f3crhxs2.exe *10	○	○	○
FS2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○
Systemwalkerコン ソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	
		F1EVW3IS.exe	○	-	-	
		MpBcmv.exe	○	-	-	
		mpbcmunsvr.exe	○	-	-	
		F1EVSVC.exe	○	-	-	
Systemwalker Webコンソール	Systemwalker MpAHSC	httpd.exe	○	-	-	
FS3	アプリケーション管 理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○
			APA_ISSV.exe	○	-	-
FS4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWksttr	nwt dsch.exe	○	○	-
		Systemwalker MpNmMgr	MpNmMgr.exe	○	○	-
			MpNmSv.exe	○	-	-
			MpNmex.exe	○	-	-
			MpNmDisc.exe	○*5	○*5	-
			MpNmNode.exe	○*5	○*5	-

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サーバ	
			MpNmhost.exe	○*5	○*5	-	
			MpNmnost.exe	○*5	○*5	-	
			MpNmhib.exe	○*5	○*5	-	
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-	
	性能監視		Systemwalker MpTrfMgr	mptrfmgr.exe	○	-	-
			Systemwalker MpTrfJbr	mptrfjbr.exe	○*6	-	-
			Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*7	○	-
				trfCTman.exe	○*7	○	-
			Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○
				mptrfexa.exe	○	○	○
FS6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	○	○	
	コンソール操作制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crpmgr.exe	○*3	-	-	
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○	
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○	
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-	
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSEV.EXE	○	-	-	
			CMPDEMON.EXE	○	-	-	
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-	
			CMPRDMN.EXE	○	-	-	
		Systemwalker MpDTPAgent	CMAGLDMN.EXE	○	○	-	
	資産管理	AssetManagement	RDBsystem(SWDTP)	○	-	-	
	FR	リモート操作	LiveHelp Control Service	LHCTLSVC.EXE	○*8	○*8	○*8
PMO N	プロセス監視	Systemwalker MpPmonC	mppmonservice.exe	○	○	○	
			mppmon.exe	○	○	○	

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE版で起動

*4: 全体監視の場合の起動

*5: ポリシー配付されたら起動

*6: Web連携使用時に自動起動に変更したとき

*7: 全体監視サーバでは監視しない

- *8: リモート操作Client/Expertインストール時に起動
- *9: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxsw_64.exe
- *10: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe
- *11: 64ビット環境に32ビット版をインストールした場合は存在しない

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE: 認証、通信基盤
- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FD: 資源配付機能
- FR: リモート操作機能
- PMON: プロセス監視機能

C.2.24 Solaris版 V15.1.0/V15.1.1、Linux版 V15.1.0/V15.2.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Solaris版 V15.1.0/V15.1.1、Linux版 V15.1.0/V15.2.0での機能区分/プロセス名は、Solaris版/Linux版 V15.0.0と同じです。

Solaris版 V15.1.0/V15.1.1、Linux版 V15.1.0/V15.2.0の機能区分/プロセス名対応一覧については、“[Solaris/Linux版 V15.0.0の機能区分/プロセス名対応一覧](#)”を参照してください。

C.2.25 Windows版 V15.3.0の機能区分/プロセス名対応一覧

Windows版 V15.3.0での機能区分/プロセス名対応一覧を以下に示します。

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サーバ
BASE	セキュリティ	Systemwalker ACL Manager	f3crssvr.exe	○	○	○
	サーバアクセス制御	Systemwalker MpSvac Service	MpSvac.exe	○*9	○*9	○*9
	共通振分けサーバ	Systemwalker MpShrsv	mpshrsv.exe	○	○	○
	Systemwalker Webコンソール 実行基盤制御	FUJITSU PCMI(isje6-STFDMJAVAEE)	Java EE 6	○	-	-
	サービス監視	Systemwalker Mpscmc	Mpscmc.exe	○	-	-
FS1	フレームワーク基盤	Systemwalker MpFwbs	MpFwbscl.exe	○	-	-
			MpFwems.exe	○	-	-
			MpFwemsd.exe	○	-	-
			MpFwls.exe	○	-	-
			MpFwlsd.exe	○	-	-

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サーバ
			MpFwams.exe	○	-	-
			MpFwqs.exe	○	-	-
			MpFwars.exe	○	-	-
			EMSMc_Start.exe	○*1	-	-
			Mpsas_server.exe	○*2	-	-
			MpFwcm.exe	○	-	-
			odstart.exe	○	-	-
			RDBsystem	○	-	-
			flegopl.exe	○*3	-	-
			Mpopaddm.exe	○	-	-
			MpFwdetect.exe	○	-	-
			MpFwwas.exe	○	-	-
	ネットワーク管理	Systemwalker MpFwDrp	mpdrpdfs.exe	○	-	-
			MpNmFw.exe	○	-	-
	インテリジェント サービス	Systemwalker MpScsv	mpscds.exe	○	○	○
	ポリシー基盤	Systemwalker MpPolSendMgr	MpPolMgrService.exe	○	-	-
			MpPolSendMgr.exe	○	-	-
		Systemwalker MpPolRecv	MpPolSch.exe	○*4	○	○
			java.exe	○*4	○	○
	システム監視	Systemwalker MpOpagt	flegopag.exe	○	○	○
インストールレス型 エージェント	Systemwalker MpOpals	mpalssysct.exe	○	○	-	
自動運用支援	Systemwalker MpAosfB	f3crhesw.exe	○	○	○	
		f3crhds.exe	○	○	○	
		f3crhxs.exe *9	○	○	○	
	Systemwalker MpAosfP	f3crhsv2.exe	○	○	○	
	Systemwalker MpAosfX	f3crhxs2.exe *8	○	○	○	
FS2	システム監視	Systemwalker MpOpgui	mpstartsv.exe	○	○	○
Systemwalkerコン ソール Webコンソール	Systemwalker MpPcgui	MpGuicb.exe	○	-	-	
		F1EVW3IS.exe	○	-	-	
		MpBcmstv.exe	○	-	-	
		mpbcmunsvr.exe	○	-	-	
		F1EVSVC.exe	○	-	-	
Systemwalker Webコンソール	Systemwalker MpAHSC	httpd.exe	○	-	-	
FS3	アプリケーション管 理	Systemwalker Mpapagt	APA_CO.exe	○	○	○
			APA_ISSV.exe	○	-	-
FS4	ネットワーク管理	Systemwalker MpWksttr	nwtdsch.exe	○	○	-

機能区分略称	機能名	機能 (サービス名)	監視対象プロセス	運用管理 サーバ	部門管理 サーバ	業務サーバ	
		Systemwalker MpNmsmgr	MpNmsgr.exe	○	○	-	
			MpNmsv.exe	○	-	-	
			MpNmex.exe	○	-	-	
			MpNmdisc.exe	○*5	○*5	-	
			MpNmnode.exe	○*5	○*5	-	
			MpNmhost.exe	○*5	○*5	-	
			MpNmnost.exe	○*5	○*5	-	
			MpNmmib.exe	○*5	○*5	-	
	NTC	Systemwalker MpCNappl	mprcvtrp.exe	○	○	-	
	性能監視	Systemwalker MpTrfMgr	mptrfmgr.exe	○	-	-	
			Systemwalker MpTrfAgt	mptrfagt.exe	○*6	○	-
				trfCTman.exe	○*6	○	-
			Systemwalker MpTrfExA	MpTrfExAgt.exe	○	○	○
mptrfexa.exe	○	○		○			
FS6	ファイル転送	Systemwalker MpTrans	ftrand.exe	○	○	○	
	コンソール操作制御	Systemwalker MpOrCtrl	f3crpmgr.exe	○*3	-	-	
FD	資源配付	Systemwalker MpDrms	drmsd.exe	○	○	○	
		Systemwalker MpDrmsFsd	drmsfsdb.exe	-	○	○	
		Systemwalker MpdrmsclFsd	drmsfcln.exe	-	-	-	
	インベントリ管理	Systemwalker MpDTPServer	CMPSErv.EXE	○	-	-	
			CMPDEMON.EXE	○	-	-	
		Systemwalker MpDTPReceiver	CMPSERV.EXE	○	-	-	
			CMPRDMN.EXE	○	-	-	
		Systemwalker MpDTPAgent	CMAGLDMN.EXE	○	○	-	
	FR	リモート操作	LiveHelp Control Service	LHCTLSVC.EXE	○*7	○*7	○*7
	PMO N	プロセス監視	Systemwalker MpPmonC	mppmonservice.exe	○	○	○
mppmon.exe				○	○	○	

○: 存在する機能

-: 存在しない機能

*1: 全体監視、冗長二重化のどちらかが有効なとき

*2: 全体監視、冗長二重化、システム監視APIのどれかが有効なとき

*3: EE版で起動

*4: 全体監視の場合の起動

- *5: ポリシー配付されたら起動
- *6: 全体監視サーバでは監視しない
- *7: リモート操作Client/Expertインストール時に起動
- *8: 64ビット環境では監視対象プロセスがf3crhxs2_64.exe
- *9: 64ビット環境に32ビット版をインストールした場合は存在しない

機能区分

各機能は、以下の区分で分けられています。

- BASE: 認証、通信基盤
- FS1: 監視機能1(フレームワーク基盤)
- FS2: 監視機能2(Systemwalkerコンソール)
- FS3: 監視機能3(アプリケーション管理)
- FS4: 監視機能4(ネットワーク管理/性能監視)
- FS6: 監視機能6(ファイル転送)
- FD: 資源配付機能
- FR: リモート操作機能
- PMON: プロセス監視機能

付録D ノードプロパティ項目

ノードプロパティ項目名	イベント通知	ノード検出	インベントリ収集	備考
基本情報タブ				
表示名	○*	○*	○*	*新規追加時のみ(ホスト名)
説明	×	×	×	
クラスタ名	○	×	×	
ベンダー名	×	△	×	
マシン種別一覧	○	△	○	
ネットワークタブ				
ホスト名	○	○	○	
コンピュータ名	×	×	○	
Rコミュニティ名	×	○	×	
Wコミュニティ名	×	○	×	
DHCP	○	○	○	
RAS	○	×	×	
INTERNET	×	×	×	
仮想ノード	×	△	×	V15.2.1以前
MIB SysDesc	×	△	×	
有効なSNMPエージェントのバージョン	×	○	×	
インタフェースタブ				
代表	○	○	○	
ホスト名	○	○	○	
IPアドレス	○	○	○	
サブネットマスク	×	○	○	
インタフェース名	×	△	○	
MACアドレス	×	△	○	
IfType	×	△	×	
IfSpeed	×	△	×	
IfIndex	×	△	×	
OSタブ				
OS種別	○	△	○	
OS詳細情報	×	△	○	
監視ポリシータブ				
ポリシー種別	×	×	×	V13.3.0以降
ポリシー名	×	×	×	V13.3.0以降
配付状況	×	×	×	V13.3.0以降
Systemwalker Centric Managerタブ				

ノードプロパティ項目名		イベント 通知	ノード検出	インベン トリ収集	備考
	Systemwalker Centric Manager がインストールされ ている	○	×	○	
	種別	○	×	○	
	サーバオプション	○	×	○	
Systemwalker Operation Managerタブ					
	Systemwalker Operation Manager がインストールされ ている	○	×	○	
	Systemwalker Operation Manager 運用種別	○	×	○	
電源制御タブ					
	電源制御装置あり	×	×	×	
	電源制御オプション	×	×	×	
	オプション	×	×	×	
詳細情報タブ					
	ノード詳細情報	○	△	○	
ビデオタブ					
	ビデオ詳細情報	×	×	○	
アイコンタブ					
	イメージファイル	×	×	×	
	サイズ	×	×	×	

○:登録する

×:登録なし

△:非監視ノードでSNMPエージェントが動作している場合だけ登録する

付録E 本書の表記、登録商標について

E.1 本書の表記について

固有記事の表記について

エディションによる固有記事

Systemwalker Centric Managerのマニュアルでは、標準仕様である“Systemwalker Centric Manager Standard Edition”の記事と区別するため、エディションによる固有記事に対して以下の記号をタイトル、または本文に付けています。

EE:

“Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition”の固有記事

GEE:

“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition”の固有記事

EE/GEE:

“Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition”、および“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition”の固有記事
固有記事の範囲は、タイトル、または本文に付いた場合で以下のように異なります。

タイトルに付いている場合

章/節/項などのタイトルに付いている場合、タイトルの説明部分全体が、固有記事であることを示します。この場合、タイトルに対して、オンラインマニュアルの場合は色付けされます。

本文に付いている場合

固有記事全体に対して、オンラインマニュアルの場合は色付けされます。

Windows版とUNIX版の固有記事

本書は、Windows版、UNIX版共通に記事を掲載しています。Windows版のみの記事、UNIX版のみの記事は、以下のように記号を付けて共通の記事と区別しています。

本文中でWindows版とUNIX版の記載が分かれる場合は、“Windows版の場合は～”、“UNIX版の場合は～”のように場合分けして説明しています。

タイトル【Windows版】

タイトル、小見出しの説明部分全体が、Windows版固有の記事です。

タイトル【UNIX版】

タイトル、小見出しの説明部分全体が、UNIX版固有の記事です。

記号について

画面項目名、およびコマンドで使用する記号について説明します。

[]記号

Systemwalker Centric Managerで提供している画面名、メニュー名、および画面項目名をこの記号で囲んでいます。

コマンドで使用する記号

コマンドで使用している記号について以下に説明します。

— 記述例

[PARA={ a | b | c | … }]

— 記号の意味

記号	意味
[]	この記号で囲まれた項目を省略できることを示します。
{ }	この記号で囲まれた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
_	省略可能記号“[]”内の項目をすべて省略したときの省略値が、下線で示された項目であることを示します。
	この記号を区切りとして並べられた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
…	この記号の直前の項目を繰り返して指定できることを示します。

略語表記について

本書では、以下の略称を使用しています。

オペレーティングシステム

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter	Windows Server 2019
Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard	Windows Server(R) 2019
	Windows Server® 2019
Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter	Windows Server 2016
Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard	Windows Server(R) 2016
	Windows Server® 2016
Nano ServerインストールしたWindows Server 2016	Nano Server
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation (x64)	Windows Server 2012
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard (x64)	Windows Server(R) 2012
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter (x64)	Windows Server® 2012
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation (x64)	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard (x64)	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter (x64)	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation (x64)	Windows Server 2012 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard (x64)	Windows Server(R) 2012 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter (x64)	Windows Server® 2012 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter	Windows Server 2008 DTC
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)	Windows Server(R) 2008 DTC
	Windows Server® 2008 DTC
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2 DTC
	Windows Server(R) 2008 R2 DTC
	Windows Server® 2008 R2 DTC
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise	Windows Server 2008 EE
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)	Windows Server(R) 2008 EE
	Windows Server® 2008 EE
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2008 R2 EE
	Windows Server(R) 2008 R2 EE
	Windows Server® 2008 R2 EE

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008 STD Windows Server(R) 2008 STD Windows Server® 2008 STD
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard	Windows Server 2008 R2 STD Windows Server(R) 2008 R2 STD Windows Server® 2008 R2 STD
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation	Windows Server 2008 Foundation Windows Server(R) 2008 Foundation Windows Server® 2008 Foundation
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation	Windows Server 2008 R2 Foundation Windows Server(R) 2008 R2 Foundation Windows Server® 2008 R2 Foundation
Server Coreインストールした以下のOS Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008 Server Core Windows Server(R) 2008 Server Core Windows Server® 2008 Server Core
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2 Windows Server(R) 2008 R2 Windows Server® 2008 R2
Microsoft® Windows Server® 2008 for Itanium-Based Systems	Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems
Microsoft® Windows Server® 2008 Foundation Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V(TM) Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 Windows Server(R) 2008 Windows Server® 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition	Windows Server 2003 DTC Windows Server(R) 2003 DTC Windows Server® 2003 DTC

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition	Windows Server 2003 DTC (x64) Windows Server(R) 2003 DTC (x64) Windows Server® 2003 DTC (x64)
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003 EE Windows Server(R) 2003 EE Windows Server® 2003 EE
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 EE (x64) Windows Server(R) 2003 EE (x64) Windows Server® 2003 EE (x64)
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition	Windows Server 2003 STD Windows Server(R) 2003 STD Windows Server® 2003 STD
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition	Windows Server 2003 STD (x64) Windows Server(R) 2003 STD (x64) Windows Server® 2003 STD (x64)
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems	Windows Server 2003 Windows Server(R) 2003 Windows Server® 2003
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition	Windows Server 2003 x64 Editions Windows Server(R) 2003 x64 Editions Windows Server® 2003 x64 Editions

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition	
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Microsoft(R) Windows(R) 2000 Datacenter Server	Windows 2000 Windows(R) 2000 Windows® 2000
Windows(R) 10 Home Windows(R) 10 Pro Windows(R) 10 Enterprise Windows(R) 10 Education	Windows 10 Windows(R) 10 Windows® 10
Windows(R) 8.1 (x86) Windows(R) 8.1 Pro (x86) Windows(R) 8.1 Enterprise (x86) Windows(R) 8.1 (x64) Windows(R) 8.1 Pro (x64) Windows(R) 8.1 Enterprise (x64) Windows(R) 8 (x86) Windows(R) 8 Pro (x86) Windows(R) 8 Enterprise (x86) Windows(R) 8 (x64) Windows(R) 8 Pro (x64) Windows(R) 8 Enterprise (x64)	Windows 8 Windows(R) 8 Windows® 8
Windows(R) 8.1 (x86) Windows(R) 8.1 Pro (x86) Windows(R) 8.1 Enterprise (x86) Windows(R) 8.1 (x64) Windows(R) 8.1 Pro (x64) Windows(R) 8.1 Enterprise (x64)	Windows 8.1 Windows(R) 8.1 Windows® 8.1
Windows(R) 7 Home Premium Windows(R) 7 Professional Windows(R) 7 Enterprise Windows(R) 7 Ultimate	Windows 7 Windows(R) 7 Windows® 7
Windows Vista(R) Home Basic Windows Vista(R) Home Premium Windows Vista(R) Business Windows Vista(R) Enterprise Windows Vista(R) Ultimate	Windows Vista Windows Vista(R) Windows Vista®
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition	Windows XP

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional	Windows(R) XP
Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition	Windows® XP
Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0	Windows NT
Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0	Windows NT(R)
Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 3.51	Windows NT®
Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 3.51	
Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0	Windows NT(R) Server
Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 3.51	
Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0	Windows NT(R) Workstation
Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 3.51	
Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0	Windows NT 4.0
Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0	Windows NT(R) 4.0
	Windows NT® 4.0
Microsoft(R) Windows(R) 95 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 95 Second Edition	Windows 95
	Windows(R) 95
	Windows® 95
Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 98 Second Edition	Windows 98
	Windows(R) 98
	Windows® 98
Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition	Windows Me
	Windows(R) Me
	Windows® Me
上記のオペレーティングシステムすべて	Windows
	Windows(R)
	Windows®
Microsoft(R) Azure(R)	Windows Azure
	Windows Azure(R)
	Windows Azure®
Solaris 11	Solaris(注)
Solaris 10	
Solaris 9	
Red Hat Enterprise Linux 7	Linux
Red Hat Enterprise Linux 6	
Red Hat Enterprise Linux 5	
Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)	Linux for Intel64
Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86)	Linux for x86
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)	

正式名称	略称
Itaniumに対応したWindows	Windows for Itanium
Itaniumに対応したLinux	Linux for Itanium

注)

Oracle SolarisはSolaris、Solaris Operating System、Solaris OSと記載することがあります。

その他の製品

製品名称	略称
Microsoft(R) SQL Server(TM)	SQL Server
Microsoft(R) Visual C++	Visual C++
Microsoft(R) Internet Explorer	Internet Explorer

Systemwalker Centric Managerの表記

Systemwalker Centric Manager	略称
Windows上で動作するSystemwalker Centric Manager	Windows版
32bit版のWindows上で動作するSystemwalker Centric Manager	Windows(32bit)版
64bit版のWindows上で動作するSystemwalker Centric Manager	Windows(64bit)版
Solaris上で動作するSystemwalker Centric Manager	Solaris版
Linux上で動作するSystemwalker Centric Manager	Linux版
以下のLinux上で動作するSystemwalker Centric Manager <ul style="list-style-type: none"> Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64) Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64) Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64) 	Linux for Intel64版
以下のLinux上で動作するSystemwalker Centric Manager <ul style="list-style-type: none"> Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86) Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86) 	Linux for x86版
HP-UXで動作するSystemwalker Centric Manager V13.2.0	HP-UX版
AIXで動作するSystemwalker Centric Manager V13.2.0	AIX版
Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Manager	Linux for Itanium版
Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Manager	Windows for Itanium版

E.2 登録商標について

Apache、Tomcatは、The Apache Software Foundationの登録商標または商標です。

APC、PowerChuteは、American Power Conversion Corp.の登録商標です。

ARCserveは、米国CA Technologiesの登録商標です。

Citrix、MetaFrameは、Citrix Systems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

HP-UXは、米国Hewlett-Packard社の登録商標です。

IBM、IBMロゴ、AIX、AIX 5L、HACMP、Power、PowerHAは、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における商標です。

Intel、Itaniumは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

JP1は、株式会社日立製作所の日本における商標または登録商標です。

LANDeskは、米国およびその他の国におけるAvocent Corporationとその子会社の商標または登録商標です。

Laplinkは、米国Laplink Software, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

MC/ServiceGuardは、Hewlett-Packard Companyの製品であり、著作権で保護されています。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows Server、Azureまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Mozilla、Firefoxは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

NEC、SmartVoice、WinShareは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

Netscape、NetscapeのNおよび操舵輪のロゴは、米国およびその他の国におけるNetscape Communications Corporationの登録商標です。

OpenLinuxは、The SCO Group, Inc.の米国ならびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Oracleは、米国Oracle Corporationの登録商標です。

Palm、Palm OSは、Palm Trademark Holding Company LLCの商標または登録商標です。

R/3およびSAPは、SAP AGの登録商標です。

Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

OracleとJavaとGlassFishは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Symantec、Symantecロゴ、LiveUpdate、Norton AntiVirusは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Symantec pcAnywhere、Symantec Packager、ColorScale、SpeedSendは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における商標です。

Tcl/Tkは、カリフォルニア大学、Sun Microsystems, Inc.、Scriptics Corporation他が作成したフリーソフトです。

TRENDMICRO、Trend Micro Control Manager、Trend Virus Control System、TVCS、InterScan、ウイルスバスター、INTERSCAN VIRUSWALL、eManagerは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

UNIXは、米国およびその他の国におけるThe Open Groupの登録商標です。

UXP、Systemwalker、Interstage、Symfowareは、富士通株式会社の登録商標です。

Veritasは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

VirusScanおよびNetShieldは、米国McAfee, Inc.および関連会社の商標または登録商標です。

VMware、VMwareロゴ、Virtual SMP、VMotionはVMware, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Zabbixはラトビア共和国にあるZabbix SIAの商標です。

ショートメール、iモード、mova、シティフォンは、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ(以下NTTドコモ)の登録商標です。

その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。